茨城県教育財団文化財調査報告第66集

一般県道土浦岩井線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書

神谷森遺跡

平成3年3月

財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第66集

一般県道土浦岩井線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書

神谷森（かみやもり）遺跡

平成3年3月

財団法人 茨城県教育財団

神谷森遺跡全景

第39号住居跡出土遺物

序

茨城県は，産業・経済の発展と地域の活性化を図るため，県内の道路網の整備を進めております。つくば市においては，筑波研究学園都市の建設が進められ，国際的な研究開発センターとして飛躍的な成長を遂げ，交通量も著しく増大しており，道路の建設も着々と進められております。一般県道土浦岩井線道路改良工事もその一環として計画されたものです。

この度，財団法人茨城県教育財団は，茨城県と埋蔵文化財発掘調査について委託契約を結び，平成元年４月から同年12月まで，一般県道土浦岩井線道路改良工事地内に所在する神谷森遺跡の埋蔵文化財発掘調査を実施いたしました。

本書は，神谷森遺跡の調査成果を収録したものです。本書が，学術的な研究資料として，また，教育・文化の向上の一助として広く活用されますことを希望いたします。

なお，発掘調査及び整理に当たり，委託者である茨城県の御協力に対して，深く感謝申し上げます。また，茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位より賜りました御指導・御協力に対し，衷心より感謝の意を表します。

平成３年３月

財団法人　茨城県教育財団

理事長　**犠　田　　勇**

例　言

1　本書は，平成元年度に茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団が発掘調査を実施した，茨城県つくば市上郷字大境5,865番地－1号外に所在する神谷森遺跡の発掘調査報告書である。

2　神谷森遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は，次のとおりである。

平成2年度初めの組織替えにより，従来の調査課（企画管理班，調査第一・二・三班，整理班）は埋蔵文化財部となり，その下に企画管理課，調査課，整理課をおき，調査課には，調査第一・二・三の三つの班をおくこととなった。

理事長		礒田　勇	昭和63年6月～
副理事長		小林　元	昭和63年4月～
常務理事		小林　洋	平成元年4月～
事務局長		一木邦彦	平成元年4月～
埋蔵文化財部長		石井　毅	平成2年4月～
企画管理課	課長	北沢勝行	平成2年4月～
	課長代理	水飼敏夫	平成2年4月～（昭和62年4月～平成2年3月企画管理班長）
	主任調査員	小河邦男	（平成元年4月～平成2年3月　企画管理班）
	主任調査員	小山映一	平成2年4月～
	係長	園部昌俊	昭和63年4月～
	主事	大部　章	（昭和61年4月～平成2年3月　企画管理班）
	主事	吉井正明	平成元年4月～
	主事	大貫吉成	平成2年4月～
調査課	課長（部長兼務）	石井　毅	平成元年4月～
	調査第二班長	中村幸雄	平成元年度
	主任調査員	人見暁朗	平成元年度調査
	主任調査員	小泉光正	平成元年度調査
整理課	課長	沼田文夫	平成2年4月～
	主任調査員	小泉光正	平成2年整理・執筆・編集

3　本書に使用した記号については，第4章第1節の遺構・遺物の記載方法の項を参照されたい。

4　発掘調査において，埼玉県教育局文化財保護課埋蔵文化財係長増田逸朗氏から，御指導をいただき，整理に際しては，茨城県立下妻第一高等学校校長蜂須紀夫氏に，当遺跡出土遺物の岩石鑑定をいただいた。

目　　次

序

例　言

第１章　調査経緯 …… 1

　第１節　調査に至る経過 …… 1

　第２節　調査経過 …… 1

第２章　位置と環境 …… 3

　第１節　地理的環境 …… 3

　第２節　歴史的環境 …… 4

第３章　調査方法 …… 8

　第１節　地区設定 …… 8

　第２節　遺跡の基本層序 …… 8

　第３節　遺構確認 …… 9

　第４節　遺構調査 …… 9

第４章　遺構と遺物 …… 11

　第１節　遺跡の概要と遺構・遺物の記載方法 …… 11

　　１　遺跡の概要 …… 11

　　２　遺構・遺物の記載方法 …… 11

　第２節　縄文時代の遺構と遺物 …… 17

　　１　竪穴住居跡 …… 17

　　２　土坑 …… 66

　　３　屋外炉 …… 80

　　４　把手 …… 81

　　５　遺構外出土土器 …… 85

　第３節　古墳時代の遺構と遺物 …… 89

　　１　竪穴住居跡 …… 89

　　２　土坑 …… 173

　第４節　その他の遺構と遺物 …… 175

　　１　竪穴遺構 …… 175

　　２　土坑 …… 179

3　溝 ……196
4　土製品・石器 ……204
第5章　考察 ……210
第1節　縄文時代について ……210
1　竪穴住居跡 ……210
2　縄文式土器 ……211
第2節　古墳時代について ……212
1　竪穴住居跡 ……212
2　土師器 ……215
結　語 ……229
写真図版

挿図目次

第 1 図　神谷森遺跡周辺遺跡分布図 …… 6
第 2 図　調査区呼称図 …… 8
第 3 図　土層柱状図 …… 9
第 4 図　第20号住居跡実測図 ……17
第 5 図　第25号住居跡実測図 ……18
第 6 図　第25号住居跡出土遺物拓影図 ……19
第 7 図　第26号住居跡実測図 ……21
第 8 図　第26号住居跡出土遺物実測・
　拓影図(Ⅰ) ……22
第 9 図　第26号住居跡出土遺物拓影図(Ⅱ) …23
第10図　第26号住居跡出土遺物実測図(Ⅲ) …24
第11図　第27号住居跡実測図 ……25
第12図　第27号住居跡出土遺物実測・
　拓影図 ……26
第13図　第28号住居跡実測図 ……27
第14図　第28号住居跡出土遺物拓影図 ……28
第15図　第29号住居跡実測図 ……28
第16図　第29号住居跡出土遺物拓影図 ……29
第17図　第30号住居跡・炉実測図 ……30
第18図　第30号住居跡出土遺物実測図(Ⅰ) …32
第19図　第30号住居跡出土遺物実測・
　拓影図(Ⅱ) ……33
第20図　第30号住居跡出土遺物実測図(Ⅲ) …34
第21図　第31号住居跡実測図 ……35
第22図　第31号住居跡出土遺物実測・
　拓影図 ……36
第23図　第32号住居跡実測図 ……38
第24図　第32号住居跡出土遺物実測・
　拓影図(Ⅰ) ……39
第25図　第32号住居跡出土遺物実測・
　拓影図(Ⅱ) ……40
第26図　第33号住居跡実測図 ……42
第27図　第33号住居跡出土遺物実測・
　拓影図(Ⅰ) ……43
第28図　第33号住居跡出土遺物実測・
　拓影図(Ⅱ) ……44
第29図　第34号住居跡実測図 ……46
第30図　第34号住居跡出土遺物実測・
　拓影図 ……47
第31図　第35号住居跡実測図 ……48
第32図　第35号住居跡出土遺物実測・
　拓影図(Ⅰ) ……49
第33図　第35号住居跡出土遺物実測図(Ⅱ) …50
第34図　第36号住居跡実測図 ……52
第35図　第36号住居跡出土遺物実測・
　拓影図 ……53
第36図　第38号住居跡実測図 ……54
第37図　第38号住居跡出土遺物実測・
　拓影図 ……55
第38図　第47号住居跡実測図 ……56
第39図　第47号住居跡出土遺物実測・
　拓影図(Ⅰ) ……58
第40図　第47号住居跡出土遺物
　実測図 (Ⅱ) ……59
第41図　第50号住居跡実測図 ……60
第42図　第50号住居跡出土遺物実測・
　拓影図 ……61
第43図　第51号住居跡実測図 ……62
第44図　第51号住居跡出土遺物実測・
　拓影図 ……63
第45図　第52号住居跡実測図 ……64
第46図　第52号住居跡出土遺物実測・
　拓影図 ……65
第47図　第26・47・59号土坑実測図
　(縄文Ⅰ) ……69
第48図　第74・120・121号土坑実測図
　(縄文Ⅱ) ……70
第49図　第26号土坑出土遺物実測・
　拓影図(Ⅰ) ……71
第50図　第26号土坑出土遺物実測・
　拓影図(Ⅱ) ……72
第51図　第47号土坑出土遺物実測・拓影図 …72
第52図　第59号土坑出土遺物実測・拓影図 …73
第53図　第74号土坑出土遺物実測・拓影図 …74
第54図　第120号土坑出土遺物実測・
　拓影図 ……75
第55図　第121号土坑出土遺物実測・
　拓影図 ……76
第56図　土坑出土遺物拓影図(Ⅰ) ……78
第57図　土坑出土遺物拓影図(Ⅱ) ……79

第58図　第1号屋外炉実測図……80
第59図　第1号屋外炉出土遺物実測・
拓影図……80
第60図　把手実測図(Ⅰ)……83
第61図　把手実測図(Ⅱ)……84
第62図　遺構外出土遺物実測図……85
第63図　遺構外出土遺物拓影図(Ⅰ)……86
第64図　遺構外出土遺物拓影図(Ⅱ)……87
第65図　遺構外出土遺物拓影図(Ⅲ)……88
第66図　第1号住居跡実測・
遺物出土状況図……90
第67図　第1号住居跡出土遺物
実測図(Ⅰ)……91
第68図　第1号住居跡出土遺物
実測図(Ⅱ)……92
第69図　第3号住居跡実測図……94
第70図　第3号住居跡出土遺物実測図……94
第71図　第5号住居跡実測図……95
第72図　第6号住居跡実測図……96
第73図　第6号住居跡出土遺物
実測図(Ⅰ)……98
第74図　第6号住居跡出土遺物
実測図(Ⅱ)……99
第75図　第7号住居跡実測図……100
第76図　第7号住居跡出土遺物
実測図……101
第77図　第8号住居跡実測図……102
第78図　第8号住居跡出土遺物実測図……103
第79図　第9号住居跡実測図……104
第80図　第9号住居跡遺物出土状況図……105
第81図　第9号住居跡出土遺物
実測図(Ⅰ)……107
第82図　第9号住居跡出土遺物
実測図(Ⅱ)……108
第83図　第10号住居跡実測図……110
第84図　第10号住居跡出土遺物
実測図……111
第85図　第11号住居跡実測図……112
第86図　第11号住居跡出土遺物
実測図……113
第87図　第12号住居跡実測図……115
第88図　第12号住居跡出土遺物
実測図……116
第89図　第13号住居跡実測図……118
第90図　第13号住居跡出土遺物
実測図……119
第91図　第14号住居跡実測図……120
第92図　第14号住居跡出土遺物実測図……121
第93図　第15号住居跡実測図……122
第94図　第15号住居跡出土遺物実測図……122
第95図　第16号住居跡実測・
遺物出土状況図……123
第96図　第16号住居跡出土遺物
実測図(Ⅰ)……125
第97図　第16号住居跡出土遺物
実測図(Ⅱ)……126
第98図　第17号住居跡実測図……128
第99図　第17号住居跡出土遺物
実測図(Ⅰ)……130
第100図　第17号住居跡出土遺物
実測図(Ⅱ)……131
第101図　第18号住居跡実測図……133
第102図　第18号住居跡出土遺物
実測図(Ⅰ)……134
第103図　第18号住居跡出土遺物
実測図(Ⅱ)……135
第104図　第19号住居跡実測図……137
第105図　第19号住居跡出土遺物実測図……138
第106図　第21号住居跡実測図……139
第107図　第21号住居跡出土遺物実測図……139
第108図　第23号住居跡実測図……140
第109図　第23号住居跡出土遺物実測図……140
第110図　第37号住居跡実測図……141
第111図　第37号住居跡出土遺物実測図……142
第112図　第39号住居跡実測図……144
第113図　第39号住居跡出土遺物
実測図(Ⅰ)……145
第114図　第39号住居跡出土遺物
実測図(Ⅱ)……146
第115図　第39号住居跡出土遺物
実測図(Ⅲ)……147
第116図　第39号住居跡出土遺物
実測図(Ⅳ)……148
第117図　第39号住居跡出土遺物

実測図(Ⅴ)……149
第118図　第39号住居跡出土遺物
実測図(Ⅵ)……150
第119図　第40号住居跡実測図……155
第120図　第40号住居跡出土遺物
実測図……156
第121図　第41号住居跡実測図……157
第122図　第41号住居跡出土遺物
実測図……158
第123図　第42号住居跡実測図……161
第124図　第42号住居跡出土遺物
実測図……162
第125図　第43号住居跡実測図……164
第126図　第43号住居跡出土遺物
実測図……165
第127図　第44号住居跡実測図……167
第128図　第44号住居跡出土遺物
実測図……167
第129図　第45号住居跡実測図……168
第130図　第46号住居跡実測図……169
第131図　第46号住居跡出土遺物
実測図……171
第132図　第93・97号土坑実測図
(古墳)……173
第133図　第93・97号土坑出土遺物
実測図……174
第134図　第1号竪穴遺構実測図……176
第135図　第2号竪穴遺構実測図……177
第136図　第2号竪穴遺構出土遺物
拓影図……177
第137図　第3号竪穴遺構実測図……178
第138図　第4号竪穴遺構実測図……178
第139図　土坑実測図(Ⅰ)……183
第140図　土坑実測図(Ⅱ)……184
第141図　土坑実測図(Ⅲ)……185
第142図　土坑実測図(Ⅳ)……186
第143図　土坑実測図(Ⅴ)……187
第144図　土坑実測図(Ⅵ)……188
第145図　土坑実測図(Ⅶ)……189
第146図　土坑実測図(Ⅷ)……190
第147図　土坑実測図(Ⅸ)……191
第148図　土坑実測図(Ⅹ)……192
第149図　土坑実測図(Ⅵ)……193
第150図　土坑実測図(Ⅶ)……194
第151図　土坑実測図(Ⅷ)……195
第152図　第1・2号溝実測図……197～198
第153図　第3・4号溝実測図……199～200
第154図　第5・6号溝実測図……201
第155図　第7号溝実測図……202
第156図　第8・9・10号溝実測図……203
第157図　土製品実測図……204
第158図　石器実測図(Ⅰ)……205
第159図　石器実測図(Ⅱ)……206
第160図　石器実測図(Ⅲ)……207
第161図　古墳時代住居跡分布図……213
第162図　甕の分類……215
第163図　台付甕の分類……216
第164図　壺の分類……218
第165図　坩の分類……220
第166図　鉢の分類……220
第167図　甑の分類……221
第168図　高坏の分類……222
第169図　器台の分類……223
第170図　ミニチュア土器の分類……224

※附図　神谷森遺跡全体図

表 目 次

表 1　神谷森遺跡周辺遺跡一覧表 ……7
表 2　土坑一覧表……179～182
表 3　溝一覧表 ……196
表 4　土製品一覧表 ……204
表 5　石器一覧表……208～209
表 6　住居跡別出土土師器分類 ……225
表 7　縄文時代住居跡一覧表 ……227
表 8　古墳時代住居跡一覧表 ……228

写真図版目次

ＰＬ１　調査前全景，遺構確認状況
ＰＬ２　第26・27号住居跡，第26号住居跡遺物出土状況
ＰＬ３　第29・30号住居跡，第30号住居跡土器片囲い炉
ＰＬ４　第31・32号住居跡，第31号住居跡遺物出土状況
ＰＬ５　第33・34号住居跡，第34号住居跡土器埋設炉
ＰＬ６　第35・38号住居跡，第38号住居跡土器埋設炉
ＰＬ７　第47号住居跡，第47号住居跡遺物出土状況
ＰＬ８　第50・52号住居跡，第50号住居跡土器埋設炉
ＰＬ９　第１・６号住居跡，第１号住居跡遺物出土状況
ＰＬ10　第７号住居跡，第６・７号住居跡遺物出土状況
ＰＬ11　第８・９・10・11号住居跡，第10・11号住居跡遺物出土状況，第10・11号住居跡炭化材出土状況
ＰＬ12　第９号住居跡遺物出土状況，第12・13号住居跡
ＰＬ13　第16号住居跡，第16号住居跡遺物出土状況，第16号住居跡壷・甑出土状況
ＰＬ14　第17号住居跡遺物出土状況
ＰＬ15　第18・19号住居跡遺物出土状況，第37号住居跡
ＰＬ16　第39号住居跡，第39号住居跡遺物出土状況，第39号住居跡北コーナー部遺物出土状況
ＰＬ17　第46号住居跡，第41・46号住居跡遺物出土状況
ＰＬ18　第１・３・28・35・44・59号土坑，第26・47号土坑遺物出土状況
ＰＬ19　第62・66・97・102・106・109・111号土坑，屋外炉遺物出土状況
ＰＬ20　第１・２・３・４・５・６・７・８・９・10号溝
ＰＬ21　調査後全景
ＰＬ22　第25・26・27・30・31・32号住居跡出土土器
ＰＬ23　第32・33・34・35号住居跡出土土器
ＰＬ24　第38・47・50・52号住居跡出土土器，土坑・屋外炉出土土器
ＰＬ25　第１号住居跡出土土器
ＰＬ26　第３・６・８・10号住居跡出土土器
ＰＬ27　第７・９（Ⅰ）号住居跡出土土器
ＰＬ28　第９（Ⅱ）・11・12号住居跡出土土器
ＰＬ29　第13・14・18号住居跡出土土器
ＰＬ30　第16号住居跡出土土器
ＰＬ31　第17号住居跡出土土器
ＰＬ32　第39号住居跡出土土器（Ⅰ）
ＰＬ33　第39号住居跡出土土器（Ⅱ）
ＰＬ34　第39号住居跡出土土器（Ⅲ）
ＰＬ35　第37・40・41・42（Ⅰ）号住居跡出土土器
ＰＬ36　第42（Ⅱ）・43・46号住居跡出土土器，第97号土坑出土土器
ＰＬ37　土製品
ＰＬ38　把手，石器（Ⅰ）
ＰＬ39　石器（Ⅱ）
ＰＬ40　石器（Ⅲ）

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経過

一般県道土浦岩井線は，土浦市を起点とし，つくば市の中央部を東から西へ横断し岩井市に至る幹線道路である。本道路はつくば市内で，交通量の多い一般県道土浦筑波線(学園東大通り)，国道408号(学園西大通り)を横断し，筑波研究学園都市と土浦市，岩井市を結ぶ道路として，近年著しく交通量が増大している。このため，茨城県は，交通網の整備を図るため，一般県道土浦岩井線道路改良工事を計画した。

茨城県(土木部道路建設課)は，昭和62年9月工事着工に先立ち，道路整備予定地内における埋蔵文化財の有無について茨城県教育委員会に照会した。県教育委員会では，つくば市教育委員会の協力を得て，道路整備予定地内に所在する遺跡の分布調査を実施した。その結果，県教育委員会は，昭和62年9月，周知の神谷森遺跡だけであることを茨城県に回答した。県教育委員会は，文化財保護の立場から神谷森遺跡の取り扱いについて，昭和63年9月，茨城県と協議を重ねたが，当遺跡については現状保存が困難なため，記録保存の措置を講ずることになった。そして，県教育委員会は，調査機関として茨城県教育財団を紹介した。それを受けて，県教育委員会と茨城県教育財団は，調査面積，調査範囲，現状等を把握するための現地踏査を行ない，平成元年4月1日から同年12月31日までの期間で発掘調査を実施することとなった。当教育財団は，平成元年4月茨城県と埋蔵文化財に関する業務の委託契約を結び，平成元年4月1日から，神谷森遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節　調査経過

神谷森遺跡の調査は，平成元年4月1日から同年12月31日までの9か月間で実施した。以下，発掘調査の経過を記述する。

4　月　発掘調査を開始するための諸準備を行った。18日から作業を開始し，事務所用地の整地や調査区域内の清掃・除草・整地等の作業を実施しながら，発掘調査の円滑な推進と作業の安全を祈って，24日に関係者列席のもとに「鍬入れ式」を挙行した。

25日から，遺構確認作業を開始した。調査区域を便宜的に東から1・2・3・4区に分け，4区(グリッドによる試掘)から始めた。

5　月　4区の表土除去を進めると共に，3区の雑木，竹林の伐開を始めた。また，2・3区

の試掘は中心杭の線上に1.5m×10.0mトレンチを設定し，東部から西部に向って進めた。縄文式土器片(加曽利E式等)を中心に，土師器片も出土した。3区の西半分は，25%の試掘の結果，遺構は確認されなかった。

6　月　4区で確認された土坑5基，溝2条の調査を進めた。12日から，重機による表土除去を開始し，併せて，遺構確認作業を行った。周囲が陸田であった1区は，秋の水抜けを待って表土除去を行うことにした。29日には，一期の表土除去作業と遺構確認作業を終了し，発掘調査前の全景写真撮影を行った。30日には，第6・10号住居跡より堀り込み作業を開始した。

7　月　6日，第6・8・10・13・15・16・17・18号住居跡(各れも，古墳時代前期)の堀り込みを進めた。

8　月　3日，住居跡の調査と合わせて，土坑(SK6～24)の堀り込み，実測調査を始めた。10日に，縄文時代(加曽利E式期)の住居跡(SI24・25・26)の堀り込みを開始した。17日には，業務打合せをもち，第2期表土除去の計画を立てた。

9　月　7日，重機による第2期表土除去を始め，遺構確認作業を進めた。その結果，縄文時代の住居跡5軒，古墳時代の住居跡10軒，土坑26基，溝5条が確認された。その遺構の掘り込みを開始した。

10　月　中旬に入り，2・3区の遺構調査はほぼ終了し，19日に，1区の堀り込みを開始した。第39号住居跡(古墳時代前期)からは，多くの遺物が出土した。

11　月　調査区東端部の，遺構調査を進めた。上旬は，天候が不順で悩まされたが，末日までには，ほとんどの遺構の堀り込み実測を終了した。

12　月　遺構の実測調査を進め，5日には，航空写真撮影を行った。補足調査も終了し，15日に，現地説明会を開催し，250名を上回る参加者のもと，神谷森遺跡発掘調査の成果を広く一般に公開した。18日から撤収作業を開始し，26日には，安全対策をも含めた一切の現地調査を完了した。

第2章　位置と環境

第1節　地理的環境

神谷森遺跡は，茨城県つくば市上郷字大境5,865－1番地外に所在する。

つくば市は，昭和62年11月，筑波郡大穂町・豊里町・谷田部町・新治郡桜村が合併し誕生した。さらに，翌年1月，筑波郡筑波町が加わった。当市は，茨城県の南西部に位置し，県庁所在地の水戸市から南西に約50km，都心から北東に約50kmに有り，南北25.4km，東西14.9km，面積257.7km^{2}の県内第2位の面積を有している。人口は，143,408人(平成2年10月1日現在)と，県内では水戸市，日立市に次いでいる。この地域は，昭和38年9月に首都機能の地方分散を図る目的で閣議了解され，「筑波研究学園都市」の建設が進められた。また，昭和60年の「国際科学技術博覧会」を契機として，大きく変貌してきた。現在は，47の国の機関が機能しており，周辺には7つの工業団地[(1)]も建設され498.2haの敷地に，136社が営業している。また，都市機能が活性化する中で，交通網・公共施設等，社会資本の充実も進んでいる。

当市は，筑波山麓南部一帯に広がる洪積台地の筑波・稲敷台地(標高20～30m)に立地し，北東側を桜川が，西側を鬼怒川・小貝川が南流している。この河川流域には，沖積低地が開けている。北部からは，筑波山塊が迫っている。筑波・稲敷台地には，東谷田川，西谷田川や，その支流によって開析されたいくつもの侵食谷が樹枝状に入り込んでいる。台地は比較的平坦で広く，集落や畑地のほか平地林となっている。

地質的には[(2)]，筑波・稲敷台地の主体をなす成田層の上位に，常総粘土層・関東ローム層が堆積している。一部には，龍ケ崎砂礫層もみられる。成田層は，主に中砂・細砂からなり，16m程の堆積をみる。常総粘土層は，乳褐灰色の粘土層で，厚さ1m程である。関東ローム層は，3m程の厚さで，武蔵野ローム層，立川ローム層に対比されるものとみられる。

神谷森遺跡は，つくば市の西端中央部に位置し，小貝川と西谷田川に挟まれた，南北に長い幅1km程の標高20～24mの台地上に立地している。当遺跡の位置する台地は，西から東にかけて緩やかに高さを増し，調査前の現況は，一部に竹林が有ったものの，ほとんどが畑(芝・小麦・野菜)や陸田として利用されている。西寄りには，浅い谷(標高15m程)が入り水田に利用されており，谷底部との比高は8m程である。当遺跡の西から南にかけては，鬼怒川と小貝川の氾濫原が開け，水田に利用されている。

第2節　歴史的環境

つくば市の所在する筑波山麓南部の筑波・稲敷台地は，北側に古代の人々が霊峰と崇め，また，「万葉集」にも詠われた筑波山(海抜876m)が聳え，長い間人間の営みの場となってきた地域である。

神谷森遺跡中心に，「茨城県遺跡地図」[3]で半径4km程の範囲内を概観すると，谷田部地区や小貝川・鬼怒川沿岸の水海道市に多くの遺跡が存在している(第1図)。

まず，先土器時代の遺跡は，近接する大穂町の桜川と小貝川に挟まれた台地上にある山木地前野遺跡，山木地大砂遺跡[4]があり，尖頭器が出土している。つくば市手子生の大境遺跡[5]からも，終末期に比定される尖頭器を初めとする石器が，数点出土している。

縄文時代の遺跡は，谷田部地区や当遺跡対岸の水海道市に多く分布しているが，大境遺跡から早期の夏島式，茅山式土器等と竪穴式住居跡1軒が確認され，当遺跡と同地区の大山遺跡[6]でも茅山式土器が出土している。水海道市の花島貝塚[7]，築地貝塚[8]からも，茅山式土器が確認されている。前期の遺跡は，関山式土器を出土する大境遺跡，諸磯式土器を出土する花島遺跡[9]がある。中期の遺跡は，比較的多く，小貝川左岸に吉沼大天遺跡，田倉遺跡，上郷北遺跡，赤ぼっけ遺跡，院内山遺跡，山田遺跡[10]，神谷森遺跡，そして，小貝川対岸には築地遺跡があり，これらは，そのほとんどが未調査で詳細は不明であるが，阿玉台式，加曽利E式土器を出土している。その中でも，田倉遺跡と吉沼大六天遺跡は，古くから知られている遺跡である。田倉遺跡は，中期から晩期にかけての遺跡であり，貝塚からは土器と共に，ニホンシジミを主体としカクタニシ，ハマグリ，オオタニシなどの貝類がみられる[11]。吉沼大六天遺跡は，縄文時代後期を主体とした土器と，貝塚からは，オオタニシ，ヤマトシジミを中心に，サルボウ，マツカサガイ等がみられる。また，この貝塚は，小貝川流域において現存する上限の貝塚である。後期の遺跡は，前述した中期の遺跡から継続するもので，小貝川対岸で鬼怒川右岸に位置する大生郷上口A・B遺跡[12]，内久根遺跡[13]，満蔵A遺跡[14]がある。晩期については，田倉遺跡，吉沼大六天遺跡，そして，古くから知られている山田遺跡がある。

弥生時代の遺跡については，当遺跡の南1.0km程にある熊の山遺跡[15]から弥生式土器が出土したと言われているが，詳細は明らかでない。

古墳時代の遺跡は，東谷田川沿いと鬼怒川右岸に多く分布し，当遺跡を含め，近接する高須賀地区にも，真瀬熊の山古墳群，中台・中台東遺跡がある。古墳については，旧谷田部町地内に，6世紀後半以降に築造されたものを中心に約300基が確認されており，市町村単位でみると県下一である[16]。

奈良・平安時代のこの地方は，「延喜式」及び「和名抄」を手掛かりにしてみると，筑波郡には，大

貫・筑波・水守・三村・栗原・緒蒲・清水・佐野・方穂の9郷が記されており，上郷は，方穂郷に入っている。その筑波郡の周囲には，北に茨城郡，南に河内郡，北西に真壁郡，西に下総国豊田郡が境を接している[17]。「筑波郡案内記」によると，上郷の地は霊亀年間(715～716)には豊田郷と称しており，延喜四年には下総の国の領域に属していたことになる。また，鎌倉時代に書かれた，宗任神社にある幸島十三郷，豊田三十三郷の水帳によると，上郷の地は，当時豊田三十三郷のうちに入っていたことが記されている。そして，この地は，台豊田上郷とか，上豊田郷と称し平氏一族の豊田氏が戦国時代末期に滅亡するまで支配していた。古代の行政区画からみると，上郷は，常陸国の範囲にあるが，行政的，軍事的には，豊田三十三郷の中に組み入れられていたのである[18]。

奈良・平安時代の遺跡は，数が少なく，上郷地内の上郷横町遺跡，野手遺跡，それに，平安時代の住居跡が2軒検出されている大境遺跡，大生郷上口C遺跡にみることができる。

以上のように，当遺跡の立地する地域は，古くから自然の地の利を得て人間の生活が続けられてきたところである。しかし，これまでに調査された遺跡が少なく不明な点も多く，今後の調査，研究に期待するところが大きい。

注

(1) 上大島工業団地・東光台研究団地・筑波北部工業団地・つくばテクノパーク大穂・つくばリサーチパーク羽成・筑波西部工業団地・つくばテクノパーク豊里の7地域。他に，つくばテクノパーク桜が造成中。

(2) (6) (18) 豊里町史編纂委員会「豊里の歴史」豊里町　1985年

(3) 茨城県教育委員会「茨城県遺跡地図」 1987年

(4) 茨城県史編さん委員会「茨城県史-考古資料編-」 茨城県　1979年

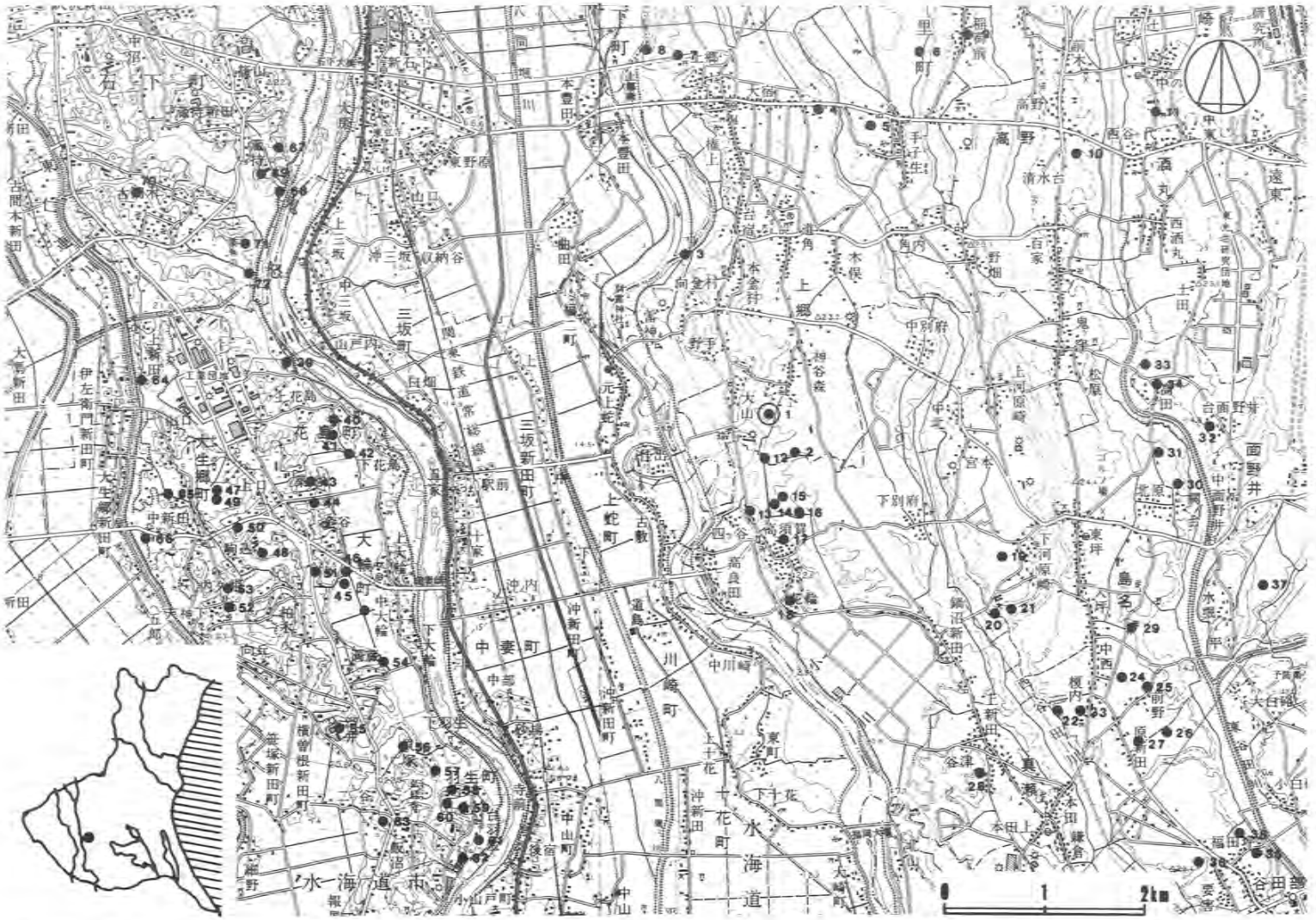
(5) 茨城県教育財団「大境遺跡」(茨城県教育財団文化財調査報告第34集)　1986年

(7) (8) (9) (12) (13) (14) 水海道史編さん委員会「水海道市史・上巻」水海道市　1983年

(10) (15) (16) 谷田部町の歴史編さん委員会「谷田部の歴史」谷田部町教育委員会　1975年

(11) 斉藤弘道「学術調査概報1県内における動物遺存体の研究(1)」　茨城県歴史館　1978年
中村盛吉・藤田清「常総古文化研究」1972年

(17) 中山信名・栗田寛 補修「復刊新編常陸国誌－筑波郡九郷図－」崙書房　1979年



第１図　神谷森遺跡周辺遺跡分布図

表1　神谷森遺跡周辺遺跡一覧表

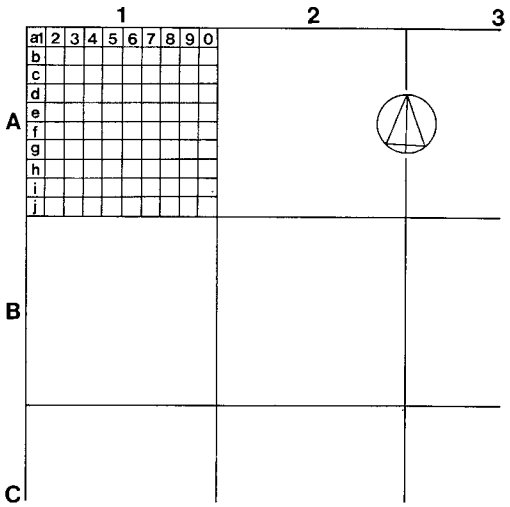
番号	遺跡名	所在地	種類	遺跡の時代				
				縄文	弥生	古墳	奈良平安	鎌倉室町
1	神谷森遺跡	つくば市神谷森	集落跡	○		○		
2	院内山遺跡	神谷森	包蔵地	○				
3	赤ぼっけ遺跡	金村	包蔵地	○				
4	大塚古墳	上郷	古墳			○		
5	手子生城跡	手子生	城館跡					○
6	大境遺跡	手子生	包蔵地	○				
7	上郷北遺跡	上郷	包蔵地	○				
8	長峰城跡	上郷	城館跡					○
9	稲荷前遺跡	今鹿島	包蔵地	○				
10	高野古墳群	高野	古墳群			○		
11	酒丸遺跡	酒丸	包蔵地	○				
12	中台東遺跡	四谷	貝塚			○		
13	中台遺跡	四谷	包蔵地			○		
14	熊の山遺跡	高須賀	包蔵地		○			
15	真瀬熊の山古墳群	高須賀	古墳群			○		
16	熊の山城跡	高須賀	城館跡					○
17	高須賀城跡	高須賀	城館跡					○
18	ハナ遺跡	真瀬	包蔵地	○				
19	下河原崎古墳群	下河原崎	古墳群			○		
20	高山遺跡	下河原崎	窯跡			○		
21	高山古墳群	下河原崎	古墳群			○		
22	ツバタ遺跡	島名	包蔵地			○		
23	榎内遺跡	島名	包蔵地			○		
24	榎内古墳群	島名	古墳群			○		
25	前野遺跡	島名	包蔵地	○				
26	タカドロ遺跡	原新田	包蔵地	○				
27	一町田遺跡	原新田	包蔵地	○				
28	真瀬新田谷津遺跡	真瀬	包蔵地	○				
29	薬師遺跡	島名	包蔵地			○		
30	関の台古墳群	島名	古墳群			○		
31	関の台遺跡	島名	包蔵地			○		
32	面の井古墳群	面の井	古墳群			○		
33	和田台遺跡	高田	包蔵地			○		
34	高田遺跡	高田	包蔵地			○		
35	福田前遺跡	福田坪	貝塚	○				
36	福田坪の池遺跡	福田坪	貝塚	○				
37	水堀遺跡	水堀	古墳			○		
38	福田遺跡	谷田部	包蔵地	○				
小貝川・鬼怒川対岸								
39	花島遺跡	水海道市	包蔵地	○				
40	花島貝塚	水海道市	貝塚	○				
41	花島古墳群	水海道市	古墳群		○			
42	権現塚古墳	水海道市	古墳			○		
43	築地遺跡	水海道市	包蔵地	○				
44	築地貝塚	水海道市	貝塚	○				
45	大日山遺跡	水海道市	包蔵地	○				
46	大日山貝塚	水海道市	貝塚	○				
47	四ツ谷遺跡	水海道市	包蔵地	○				
48	上口遺跡	水海道市	包蔵地	○		○	○	
49	大生郷上口B遺跡	水海道市	包蔵地	○				
50	大生郷上口C遺跡	水海道市	包蔵地	○	○		○	
51	大塚山古墳	水海道市	古墳			○		
52	内久根遺跡	水海道市	包蔵地	○				
53	内久根B遺跡	水海道市	包蔵地	○				
54	満蔵A遺跡	水海道市	包蔵地	○				
55	満蔵B遺跡	水海道市	包蔵地			○		
56	横曽根貝塚	水海道市	貝塚	○				
57	貝塚古墳	水海道市	古墳			○		
58	西坪貝塚	水海道市	貝塚	○				
59	中坪遺跡	水海道市	包蔵地	○		○		
60	中坪古墳	水海道市	古墳			○		
61	権現塚古墳	水海道市	古墳			○		
62	七ツ塚古墳群	水海道市	古墳群		○			
63	飯沼古墳群	水海道市	古墳			○		
64	上新田遺跡	水海道市	包蔵地	○		○		
65	六方遺跡	水海道市	包蔵地	○				
66	金戸B遺跡	水海道市	包蔵地	○				
67	神子埋遺跡	結城郡石下町	包蔵地	○				
68	稲荷山遺跡	結城郡石下町	包蔵地	○				
69	神子埋古墳群	結城郡石下町	古墳群			○		
70	古間木城跡	結城郡石下町	城館跡				○	
71	宮内遺跡	結城郡石下町	包蔵地	○				
72	古間木遺跡	結城郡石下町	包蔵地	○				

第3章　調　査　方　法

第1節　地区設定

神谷森遺跡の発掘調査を実施するにあたり，遺跡及び遺構の位置を明確にするため調査区を設定した。

地区設定は，日本平面直角座標第IX系，X軸（南北）+8,528m・（東西）+17,000mの交点を通る軸線を基準に，東西・南北各々40mずつ平行移動して大調査区（大グリッド）を設定した。さらに，大調査区を東西・南北方向に各々10等分して，4m四方の小調査区（小グリッド）を設定した。大調査区は，北から南へ「A」・「B」・「C」‥，西から東へ「1」・「2」・「3」・・と，大文字を付して，「A1区」・「B2区」のように呼称した。さらに大調査区を4m四方の小調査区に100等分し，各々同様に北から南へ「a」・「b」・「c」‥「j」，西から東へ「$_1$」・「$_2$」・「$_3$」‥「$_0$」と小文字を付した。各小調査区の名称は，大調査区の名称と合わせた四文字「A2b$_3$」区，「B2c$_5$」区のように呼称した。（第2図）



第2図　調査区呼称図

なお，当調査区は，対象面積が12,159m²で，大調査区で南北「A」～「E」，東西「2」～「22」の範囲に位置している。

第2節　遺跡の基本層序

当調査区の地形は，一部に谷津が入り込み分断されているが，標高23m前後でほぼ平坦である。

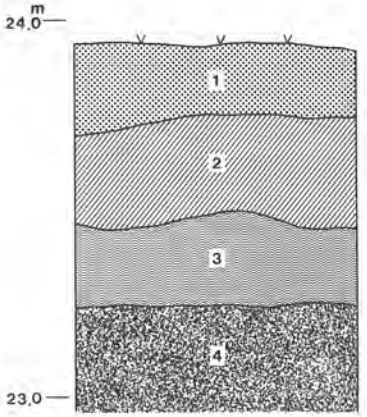
土層については，当遺跡中央よりやや西寄りのB15d$_9$区で調査した土層を，当調査区の基本層序としてみると，次のようになる。

1層は，灰褐色の表土層（耕作土）で，20～30cm程の厚さを有し，陸田や畑に利用されていた。

2層は，ローム粒子を中量含む暗褐色土層で，遺物包含層である。

3層は，締まりの有る明褐色のローム層で，当調査区の遺構はこの層を掘り込んで構築されている。

4層は，締まりの有る橙色のローム層である。



第3図　土層柱状図

第3節　遺構確認

当調査区は，谷を挟み東西約700mに及ぶ長い区域であったので，便宜上，東端から1・2・3・4区に分けて調査を進めた。

東端の1区は，周囲に陸田が多いため調査を後半に行う計画で，表土除去も2期に分けて実施した。調査は，西端の4区から始め，4分の1のグリッドによる試掘を行い，その後，人力で表土を除去し，土坑5基，溝2条を確認した。

1～3区東側は，トレンチによる試掘を行い，中央部から東部にかけて遺構が多く存在する確証を得た。3区西側のトレンチ試掘で遺構が確認できなかった区域は，トレンチを4分の1まで拡張し，遺構確認調査を進めた。その結果，遺構は確認されなかった。

試掘の結果，1～3区東側(表土下40～50cm)には遺構が多く存在することが認められた。そこで，重機による表土除去を実施し，その後，遺構検出作業を進めた。表土除去は，前述した通り2期に分けて行い，1期は2区全域と3区の東半分の区域で，住居跡35軒，土坑89基，溝3条が確認された。2期は，1区全域で住居跡15軒，土坑26基，溝5条が確認された。

第4節　遺構調査

当調査区における遺構の調査方法は，次のように実施した。

竪穴住居の調査は，長軸方向とそれに直交する方向に土層観察ベルトを設け，四分割して堀り込む「四分割法」で実施し，地区の名称は，北から時計回りに1～4区とした。土坑の調査は，長径方向で二分割して堀り込む「二分割法」で実施した。溝は，適宜な位置に土層観察用のベルトを残し，底面まで堀り込んだ。

土層観察は，色相，含有物の種類と量，粘性等を観察した。色相の判定は，「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著，日本色研事業株式会社)を使用した。

遺構や遺物の平面実測は，水糸方眼地張り測量で行った。土層断面や遺構断面の実測は，遺跡内の基準点を基として，水平にセットした水糸を基準に計測した。遺物は原位置を保ち，各区名・遺

物番号・出土位置・レベル等を遺物台帳や図面に記録して収納した。

遺構調査の記録方法は，土層断面写真撮影→土層断面図作成→遺物出土状況写真撮影→遺物出土状況図作成→遺構平面写真撮影→遺構断面図作成→遺構平面図作成の順で行うことを基本とした。図面や写真に記録できない事項は，そのつど野帳に記録し，これを調査記録カードや遺構カードに整理した。

遺構確認作業

第4章　遺構と遺物

第1節　遺跡の概要と遺構・遺物の記載方法

1　遺跡の概要

神谷森遺跡は，つくば市の西端に位置し，小貝川と西谷田川に挟まれた，南北に長い幅1km程の標高20～24mの台地上に立地している。今回の調査区域は，幅17～25mで，西部に約200mの谷津(調査区域外)を挟んだ，東西に総延長約660mの範囲で，面積にして，12,159㎡である。現況は，畑・陸田であり，周辺には縄文式土器片を中心に遺物が散在していた。

今回の調査によって検出された遺構は，縄文時代中期から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡が46軒・竪穴遺構4軒・土坑119基・屋外炉1基・時期不明の溝10条である。

縄文時代の遺構は，中期の加曽利EⅢ式期の竪穴住居跡が17軒・竪穴遺構が1軒・土坑6基・加曽利EⅣ式期の竪穴住居跡が1軒，調査区の中央部から東部にかけて検出されている。中期の竪穴住居跡の中には，土器片囲い炉をもつものが1軒，土器埋設炉をもつものが3軒ある。

古墳時代の遺構は，前期の五領期の竪穴住居跡が28軒・竪穴遺構1軒・土坑2基が調査区中央部から東部にかけて検出されている。それらの中には焼失家屋が，12軒含まれている。

遺物は，遺物収納箱(60×40×20)cmで73箱ほど出土している。縄文式土器は，縄文時代中期の加曽利E式期の深鉢形土器や土器片が多く出土している。その他には，前期の黒浜式，中期の大木9a式，後期の称名寺式・堀之内式・加曽利B式・安行式の土器片が出土している。土師器は，古墳時代前期の五領期の甕・台付甕・壺・坩・鉢・甑・高坏・器台・ミニチュア土器が住居跡を中心に出土している。甕の数が少ないことと，壺の数が多いこと，そして，赤彩された土器が多いことが特筆される。

土製品は，土器片錘1点・土製円板10点・有孔円板1点・土偶片1点・球状土錘7点・管状土錘1点が，住居跡を中心に出土している。土偶片は，安行3B式期に比定されるミミズク土偶の肩から胴部にかけての破片である。

石器は，石鏃5点・石斧6点・石匙3点・尖頭器1点・削器1点・石皿2点・凹石2点・磨石14点・石棒6点等が，住居跡・土坑・トレンチから出土している。

2　遺構・遺物の記載方法

本書における遺構・遺物の記載方法は，以下のとおりである。

(1) 使用記号

遺構

名称	住居跡	竪穴遺構	土坑	掘・溝
記号	SI	ST	SK	SD

(2) 遺構・遺物の実測図中の表示

＝焼土　＝炉　＝粘土　＝赤彩　＝篦目

● 土器　□ 石器　★ 土製品

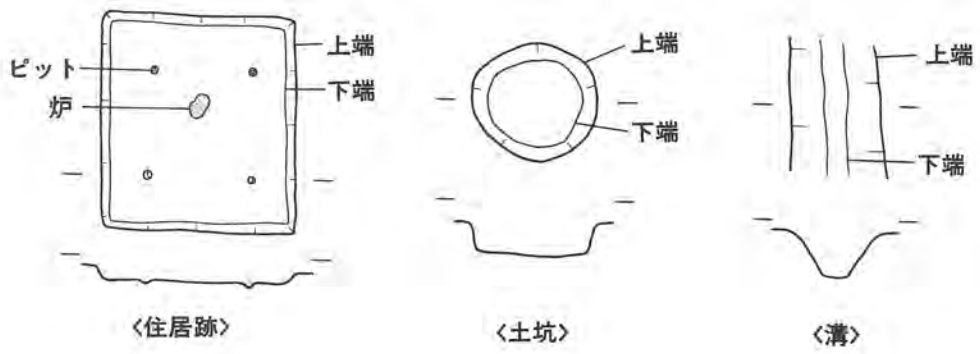
(3) 遺構番号

遺構番号については，調査の過程において遺構の種別毎・調査順に付したが，整理の段階で遺構でないと判断したものは欠番とした。

(4) 土層の分類

土層観察における色相の判定は，「新版標準土色帳」（小山正忠・竹原秀雄編著・日本色研事業株式会社）を使用し，図版実測図中に記載した。尚，撹乱層については「K」と表記した。

(5) 遺構実測図の作成方法と掲載方法



① 各遺構の実測図は，縮尺20分の1の原図を浄書して版組し，縮尺3分の1で掲載することを

基本とした。

② 溝は，縮尺20分の１の原図を２分の１に縮小し，浄書して版組し，縮尺３分の１で掲載した。

③ 実測図中のレベルは標高であり，m単位で表示した。また同一図中で同一標高の場合に限り，一つの記載で表し，標高が異なる場合は各々表示した。

④ 本文の住居跡の記載について

○「位置」は，遺構が占める面積の割合が最も大きいグリッド名をもって表示した。

○「重複関係」は，住居跡の切り合い関係を記した。

○「平面形」は，壁の上端部で判断し，方形・長方形の場合は下記の分類基準を設け，そのいずれかを明記した。なお，［ ］を付したものは，推定を表わす。

方形（短軸：長軸＝１：1.1未満のもの），長方形（短軸：長軸＝１：1.1以上のもの）

○「規模」は，壁の上端部の計測値であり，長軸×短軸の順にm単位で表記した。壁高は，残存壁高の計測値である。なお，（ ）を付したものは現存値を示す。

○「長軸方向」は，長辺で炉を通る線を長軸として，その長軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ傾いているかを角度で表示した。なお，［ ］を付したものは，推定を表わす。

○「壁」は，床面からの立ち上がり角度が81°～90°を垂直，65°～80°を外傾，65°未満を緩斜，さらに90°以上を内傾とした。

○「壁溝」は，その形状や規模を記述した。

○「ピット」は，その住居跡に伴うと考えられるピットをＰで表示し，P_1・P_2はピット番号を表し，さらに，ピットの直径と深さを記述した。

○「貯蔵穴」は，その形状を記述し，数字は長径・短径・深さを示した。

○「覆土」は，堆積の状態が自然堆積の場合は「自然」，人為堆積の場合は「人為」，撹乱を受けている場合は「撹乱」と記した。

○「遺物」は，遺物の種類と数，さらに出土位置や状態を記述した。また遺構の平面図中に(2)で示した記号を用い，出土位置をドットで表示し，接合できたものは実線で結んだ。なお出土遺物に付した数字は，遺物実測図及び拓影図の番号と符号する。

○「所見」は，当該住居跡についての時期やその他特記すべき事項を記述した。

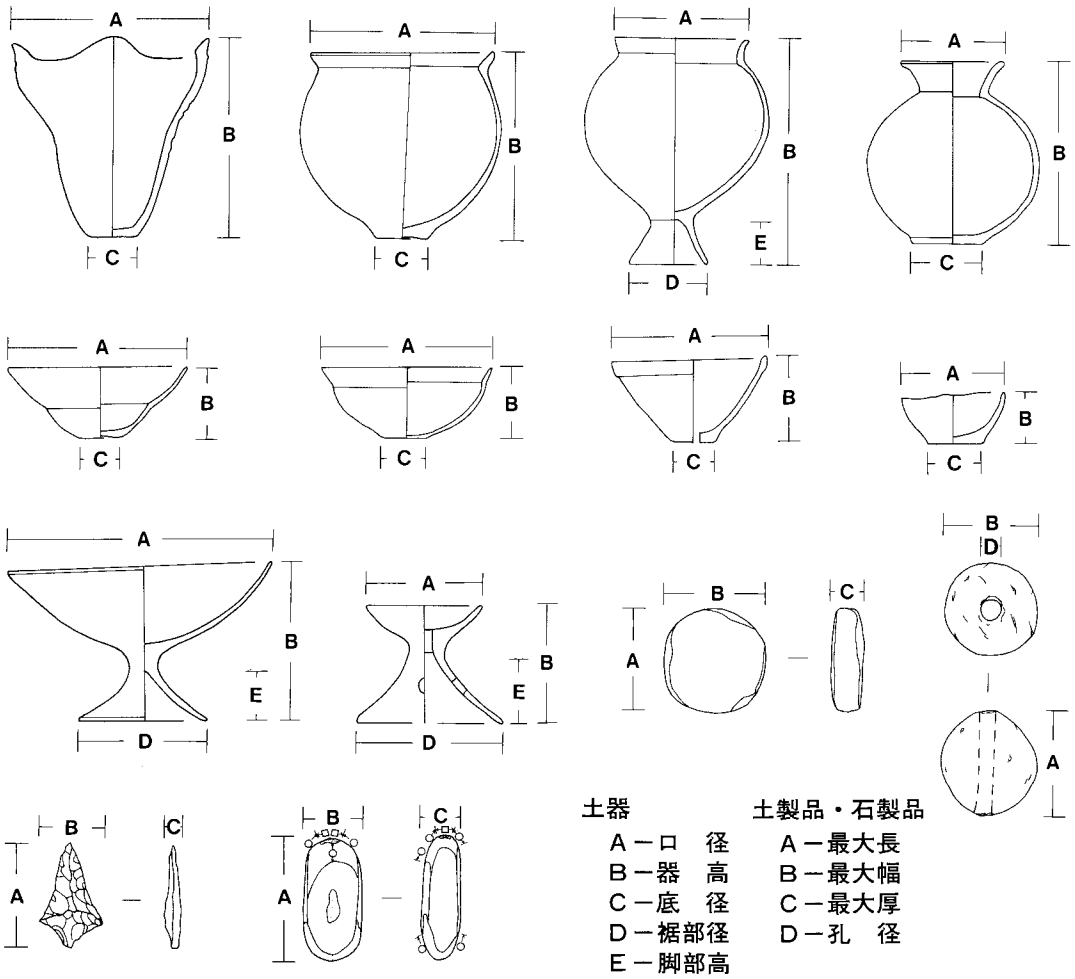
(6) 遺物実測図の作成方法と掲載方法

① 土器の実測は，原則として中心線の左側に外面，右側に内面と断面を図示した。

② 土器拓影図は，右側に断面を図示した。

③ 遺物は，原則として実測図を浄書したものを３分の１に縮小して掲載した。しかし，種類や大きさにより異なる場合もある。

④　各部位の名称と法量表現



土器
A－口　径
B－器　高
C－底　径
D－裾部径
E－脚部高

土製品・石製品
A－最大長
B－最大幅
C－最大厚
D－孔　径

(7)　表の見方

＜住居跡一覧表＞

住居跡番号	位置	長軸方向	平面形	規模		床面	ピット数	炉	貯蔵穴	出土遺物	備考
				長軸(m)×短軸(m)	壁高(cm)						

○住居跡番号は，発掘調査の過程で付した番号をそのまま付した。整理の過程で，住居跡と判断しにくいものについては竪穴遺構として新しい番号を付した。

○位置は，小調査区(小グリッド)名で表示した。他の調査区にまたがる場合は，遺構の占める面積の割合が最も大きい小調査区をもって表示した。

○方向は，長軸が座標北から見てどの方向にどれだけ傾いているかを，角度で表示した。

（例 N－10°－E，N－10°－W）。なお，［ ］を付したものは推定である。

○平面形は，現存している形状の上端面で判断し，方形・長方形・円形・楕円形の場合は下記の分類基準を設け，そのいずれかを明記した。

方形・円形……長軸（径）：短軸（径）＝1.1未満：1

長方形・楕円形……長軸（径）：短軸（径）＝1.1以上：1

○規模の欄の長軸・短軸は，平面形の上端面の計測値であり，壁高は残存壁高の計測値である。

○床面は凹凸・平坦・皿状等の様子を示し，締まり等は解説の項で述べた。

○ピット数は，住居跡に伴うものと考えられる総数を表示した。

○炉は，全ての住居跡が地床炉であるのでその数を記し，炉をもたない場合は空欄とした。

○貯蔵穴は，有る場合はその数を記し，無いものは空欄とした。

○出土遺物は，遺物の種類と実測固体数(点)，その他の出土土器片(片)の数を記した。

○備考は，重複関係や特徴等を記した。

＜土坑一覧表＞

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)			壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
				長径	短径	深さ						

○土坑番号は，発掘調査の過程で付した番号をそのまま使用した。また，整理の過程で土坑でないと判断したものは欠番とした。

○平面形は，円形・楕円形の場合に下記の分類基準を設けて表示した。

円形（短径：長径＝1：1.2未満のもの），楕円形（短径：長径＝1：1.2以上のもの）

○規模の欄の長径・短径は，上端部の計測値(m)で表した。

○規模の欄の深さは，遺構確認面から坑底の最も深い部分までの計測値(m)で表した。

○壁面は，坑底からの立ち上がりの状態を下記の基準で分類し表示した。

81°～90°の傾き　垂直

65°～80°の傾き　外傾

65°未満の傾き　緩斜

段状

○底面は，下記の基準で分類し表示した。

1　平坦　　2　皿状　　3　凹凸

＜溝一覧表＞

溝番号	位置	主軸方向	断面	規模（m）				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長さ	上幅	下幅	深さ					

○溝番号は，発掘調査の過程で付した番号をそのまま付した。

○位置は，遺構の占める大調査区（大グリッド）名で表示した。

○主軸方向は，直線部の長い部分が座標北からみてどの方向にどれだけ傾いているかを住居跡一覧表の項に順じて表示した。

○断面形は，主としてどのような形をしているかを表示した。

○規模は，全長をメートル(m)単位で，その他もメートル(m)単位で最小～最大を表示した。

（例　上幅0.34～1.74）

○壁面・底面・覆土・出土遺物については，住居跡一覧表・土坑一覧表の項に順じた。

○備考欄は，重複遺構・図版番号を記載した。新旧関係が明らかなものについては記した。

＜土器観察表＞

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考

○図版番号は，実測図中の番号である。写真図版の番号にも用いた。

○法量は，A－口径，B－器高，C－底径，D－裾部径，E－脚部高を示し，現存値は（ ），復元推定値は［ ］を付して示した。

○備考の欄は，土器の残存率，遺物番号，写真ページ，出土位置，特徴を表示した。

＜石器一覧表＞

図版番号	器種	法量				石質	出土地点	台帳番号	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)				

＜土製品一覧表＞

図版番号	器種	法量					出土地点	台帳番号	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			

○図版番号は，実測図中の番号である。写真図版の番号にも用いた。

○器形の特徴は，底部・体部等の各部位について土器観察の結果を記した。

○手法の特徴は，土器の成形・整形について記した。

○胎土・色調・焼成の順で述べ，色調は「新版標準土色帳」を使用した。焼成については，「良好」,「普通」,「不良」に分類し，硬く焼き締まっているものは良好，焼きがあまく器面が剥離しやすいものは不良とし，その中間のものを普通とした。

○備考は，特徴・完存率・写真ページ等を記した。

第2節　縄文時代の遺構と遺物

1　竪穴住居跡

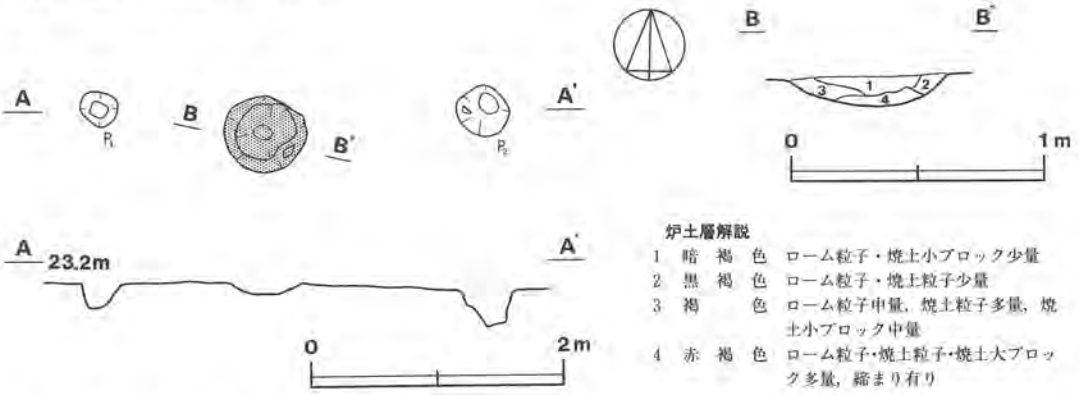
当調査区から検出された縄文時代の住居跡は，18軒である。

住居跡は，調査区の中央部に多く，東端部からも3軒検出されている。遺物は，加曽利EⅢ式期の深鉢形土器の破片が中心で，第31号住居跡からは，安行Ⅰ式期の深鉢形土器が出土しているが，時期としては他の出土遺物から前記と同時期の遺構である。加曽利EⅣ式期の住居跡も，1軒検出されている。当調査区の住居跡は，遺構・遺物の特徴から縄文時代中期に比定される。

第20号住居跡（第4図）

位置　調査区の中央部。A13i6区を中心に確認された。**規模と平面形**　確認できない。**長径方向**　確認できない。**壁**　確認できない。**壁溝**　確認できない。**床**　炉周辺に硬い床が確認できた。**ピット**　2か所。炉を中心に対称の位置にある。P1, P2の規模は，径31～43cm，深さ22～26cm測る。**炉**　径68cmの円形を呈した地床炉である。炉床は，床を12cm掘り窪めて構築され，ロームが赤変硬化している。

遺物　遺物は出土していない。

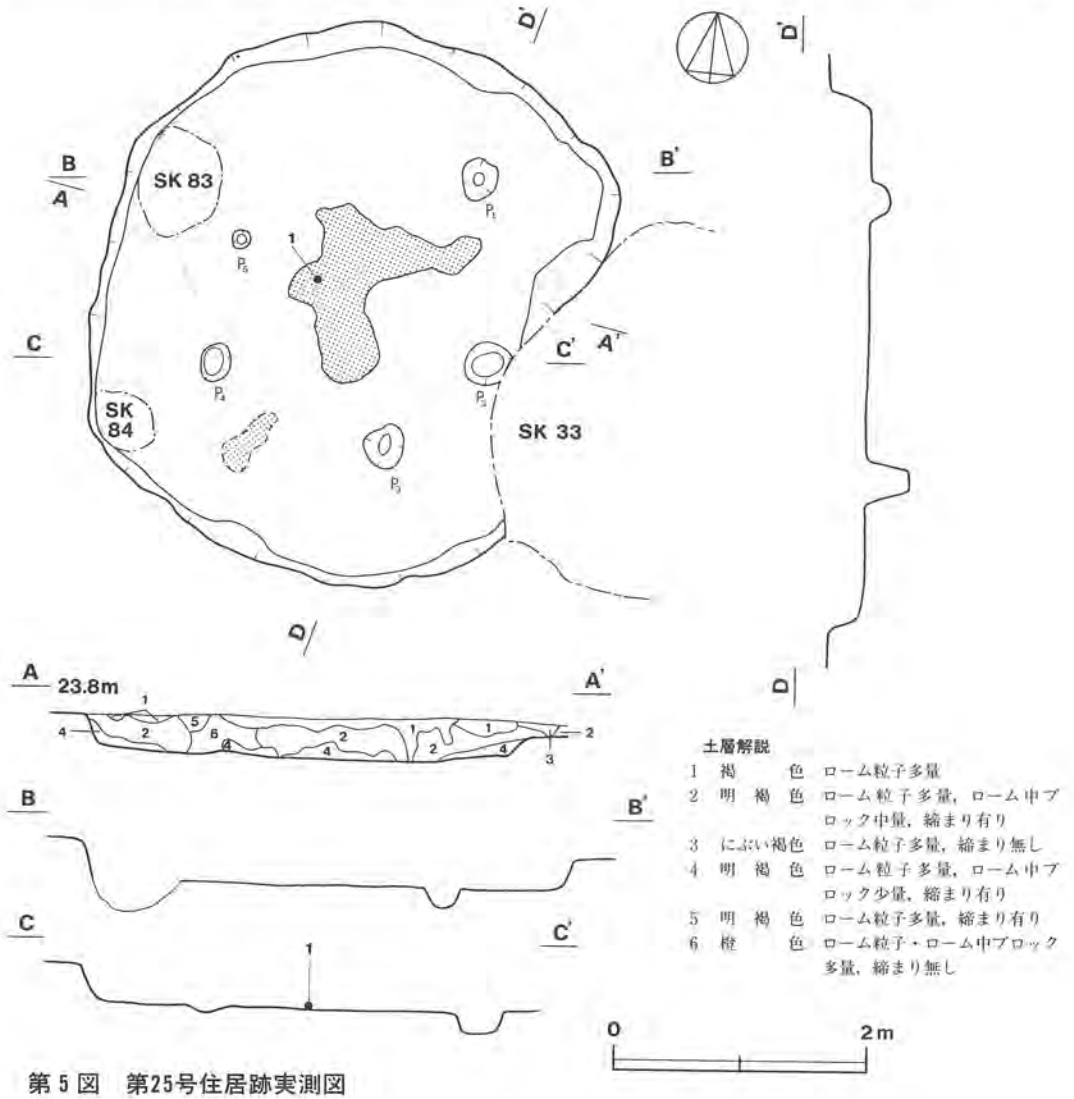


第4図　第20号住居跡実測図

所見　本跡は，床面だけが残存していたが，住居跡の形態や炉と柱穴の関係等から縄文時代中期の住居跡と考えられる。

第25号住居跡（第５図）

位置　調査区の中央部。B14a8区を中心に確認された。**重複関係**　第33・83・84号土坑と重複しているが，本跡の方が古い。**規模と平面形**　4.35×3.47mで，楕円形を呈する。**長径方向**　N－9°－E。　**壁**　壁高24～32cmである。遺存状態は良好で，外傾して立ち上がる。**床**　硬く平坦である。特に，南部が堅緻である。**ピット**　５か所。P_1・P_2・P_3・P_5は，径16～39cm，深さ16～28cmを測り，主柱穴で，炉を囲むように検出されている。P_4は，径31cm，深さ6cmで性格不明である。**炉**　床面中央部に検出され，長径153cm，短径141cmで，平面形は不定形を呈する。

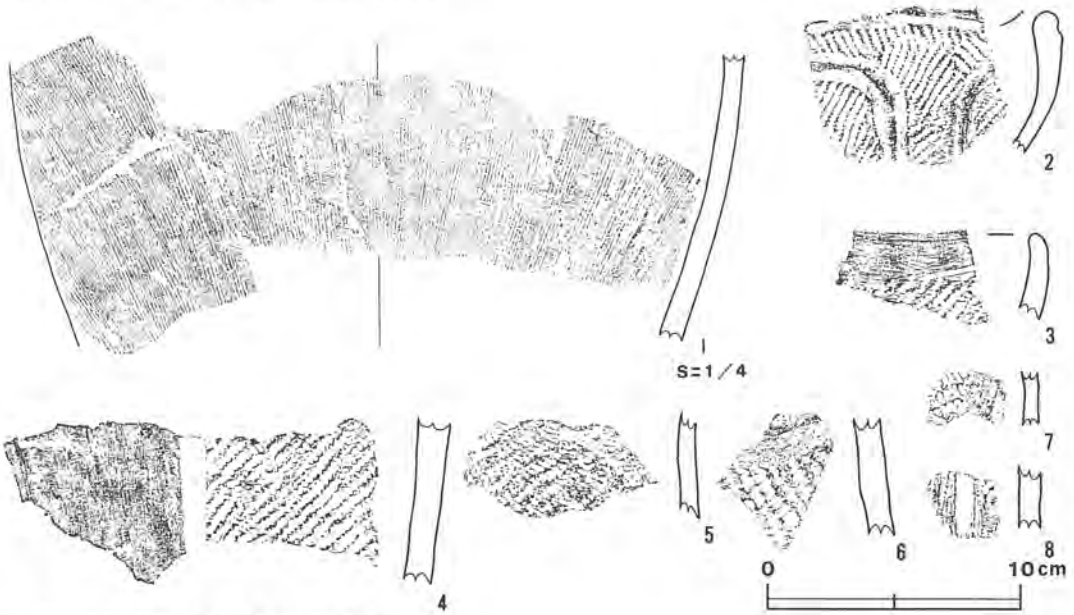


第５図　第25号住居跡実測図

炉床は掘り込まれておらず，床面に焼土が遺存している。炉の中心部から，深鉢形土器が正位に置かれた状態で出土している。土器内部の，上層からは焼土の中ブロックが中量，下層からは，焼土粒子中量が検出されている。**覆土**　自然堆積。

遺物　出土遺物の量は少ない。炉付近の床面からは，第6図1の加曽利EIII式の深鉢形土器が出土している。他には，覆土から同時期の縄文式土器片が18片出土している。

所見　炉中央部から出土した深鉢形土器は，内部の覆土の様子から判断して，煮炊き用として使用されていたものではないと思われる。



第6図　第25号住居跡出土遺物拓影図

第25号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第6図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (15.2)	大形の深鉢形土器の胴部片。胴部は外傾して開く。外面は，櫛歯状工具による条線文が施されている。内面は，ヘラ状工具による縦位の丁寧なナデが施されている。器厚が厚い。	砂粒 橙色 良好	5% P187 PL22 中央部床面

第6図は，第25号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。2は，キャリパー形土器の波状口縁部片である。ナゾリを加えた偏平な隆線により，曲線的区画が構成されている。区画内には，単節RLを縦位回転し，地文上位には同原体を方向を変えて施文している。3は，口縁部片で，浅い沈線による区画がみられ，区画内に単節LRを横位回転した縄文が充填されている。4～8は，胴部片である。4は，幅広の磨消帯をもつ。内面には縦位の丁寧なナデが施されている。5は，単節RLを縦位回転している。6は，隆線による区画をもち縄文が施されている。7は，ナゾリを加えた沈線による曲線的区画がなされ，区画内に単節LRの横位回転で縄文が充填されている。8

は，縦位の磨消帯をもつ。

第26号住居跡（第７図）

位置　調査区の中央部。A15j$_5$区を中心に確認された。**規模と平面形**　4.56×4.10mで，楕円形を呈する。**長径方向**　N－13°－W。**壁**　壁高33～42cmで，良好な壁が外傾して立ち上がる。**床**　北部が若干低めで，僅かに起伏しているが硬く良好な床である。**ピット**　6か所。P$_1$・P$_2$・P$_3$・P$_5$・P$_6$は，径25～48cm，深さ24～41cmを測り，対応関係からも主柱穴と思われる。P$_4$は，P$_3$・P$_5$に近接しており，補助柱穴と思われる。**炉**　床面中央部に設けられ，長径112cm，短径88cmの不整円形を呈する地床炉である。炉床は，床面を20cm程鉢状に掘り窪めて構築され，橙色の焼土がブロック化して検出土されている。**覆土**　自然堆積。

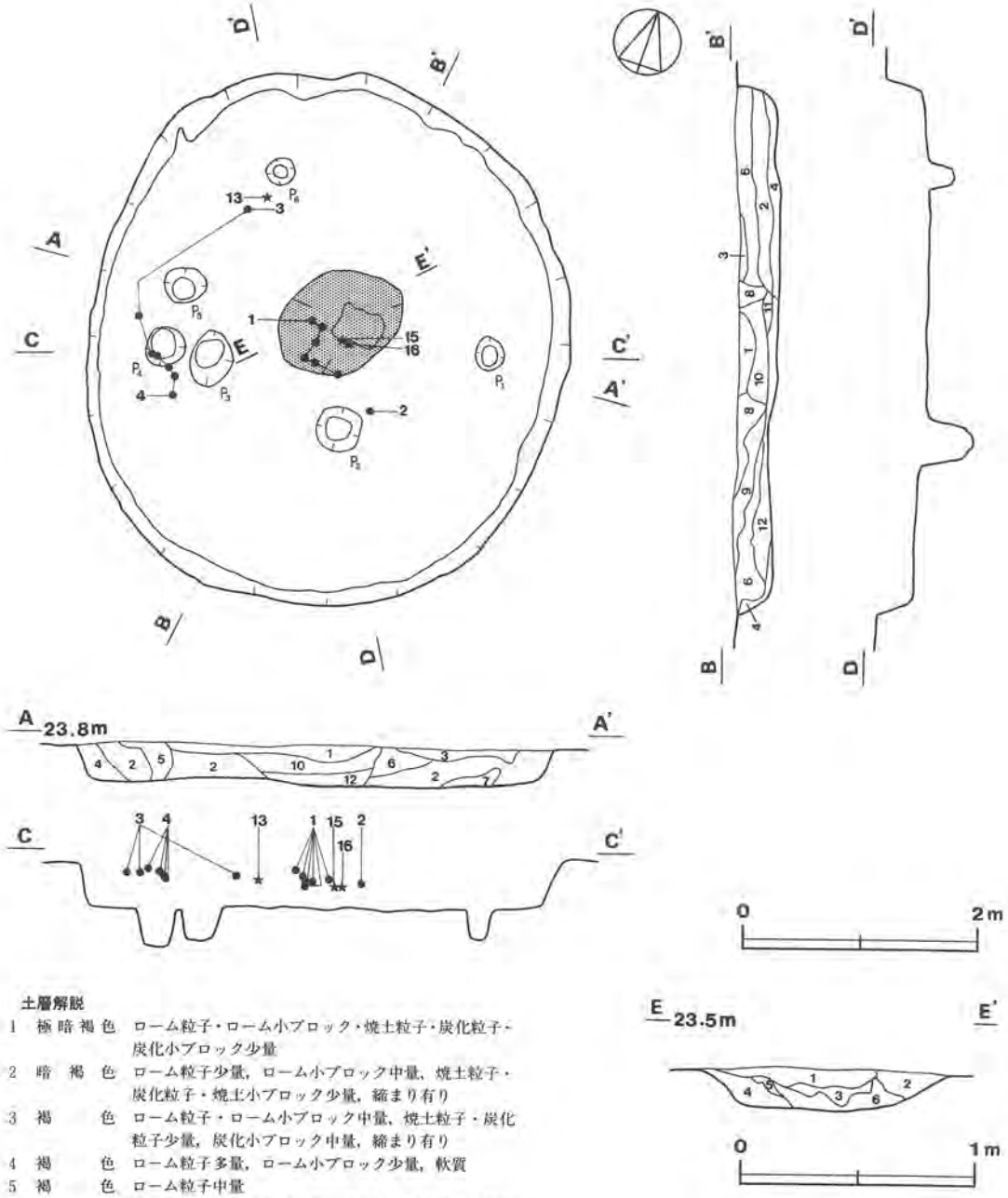
遺物　遺物は，炉を中心とした南北・東西ライン上の覆土上層～下層にかけて縄文式土器片が864片出土している。南西部の覆土上層から第８図１の加曽利ＥⅢ式に比定される大形の深鉢形土器が出土し，同じく４の器台も近くから出土している。その他に覆土から第10図14～18の土製円板５点，13の有孔円板１点も出土している。

所見　遺物の出土状況から考えて，本跡の廃絶後に投棄されたものと考えることができる。その出土状況が，東西を結ぶラインと南北を結ぶライン上に集中していることが特徴的である。

第26号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第８図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B（16.8） C　6.7	底部から胴部にかけての破片。底面は丸底気味で，不安定である。胴部下位は，底部から若干内彎しながら立ち上がる。地文に単節LRが縦位回転され，垂下する二条の沈線間を磨消している。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	30% P189 PL22 中央部覆土中層
2	深鉢形土器 縄文式土器	B（6.3） C　6.4	底部から胴部にかけての破片。底面は僅かな膨らみをもつ。胴部下位は，底部から外傾して立ち上がる。地文に単節LRが縦位に回転され，垂下する二条の沈線間は磨消されている。	砂粒 浅黄橙色 普通	5% P190 PL22 南東部覆土中層
3	深鉢形土器 縄文式土器	B（8.5） L［6.3］	底部から胴部にかけての破片。底面は平坦である。胴部下位は，底部から内彎気味に外傾して立ち上がる。地文に無節Lが縦位に回転されている。胴部下位に無文帯をもつ。	砂粒，パミス 橙色 普通	5% P191 PL22 南西部覆土上層
4	器台形土器 縄文式土器	A（14.0） B　12.1 D（23.4）	器受部から脚柱部にかけての破片。全体にヘラ状工具による丁寧なナデが施され，孔周囲，裾部等も面取りされている。器受部は，ほぼ水平で，上面の中心はレンズ状に僅かに凹む。脚柱部はラッパ状に開き，中位から膨らみをもって裾部へ至る。脚柱部中位に円形，楕円形の孔が４個確認できる。	砂粒，スコリア にぶい橙色 普通	40% P188 PL22 南西部覆土上層

第８・９図は，第26号住居跡から出土した縄文土器片の拓影図である。５は，口縁端部に無文帯を有し，以下に沈線による楕円形の区画を配し，区画内に単節RLの縦位回転で縄文が充填されている。胴部は，磨消帯を垂下させ，区画内に単節RLの縦位回転で縄文が施されている。内面に



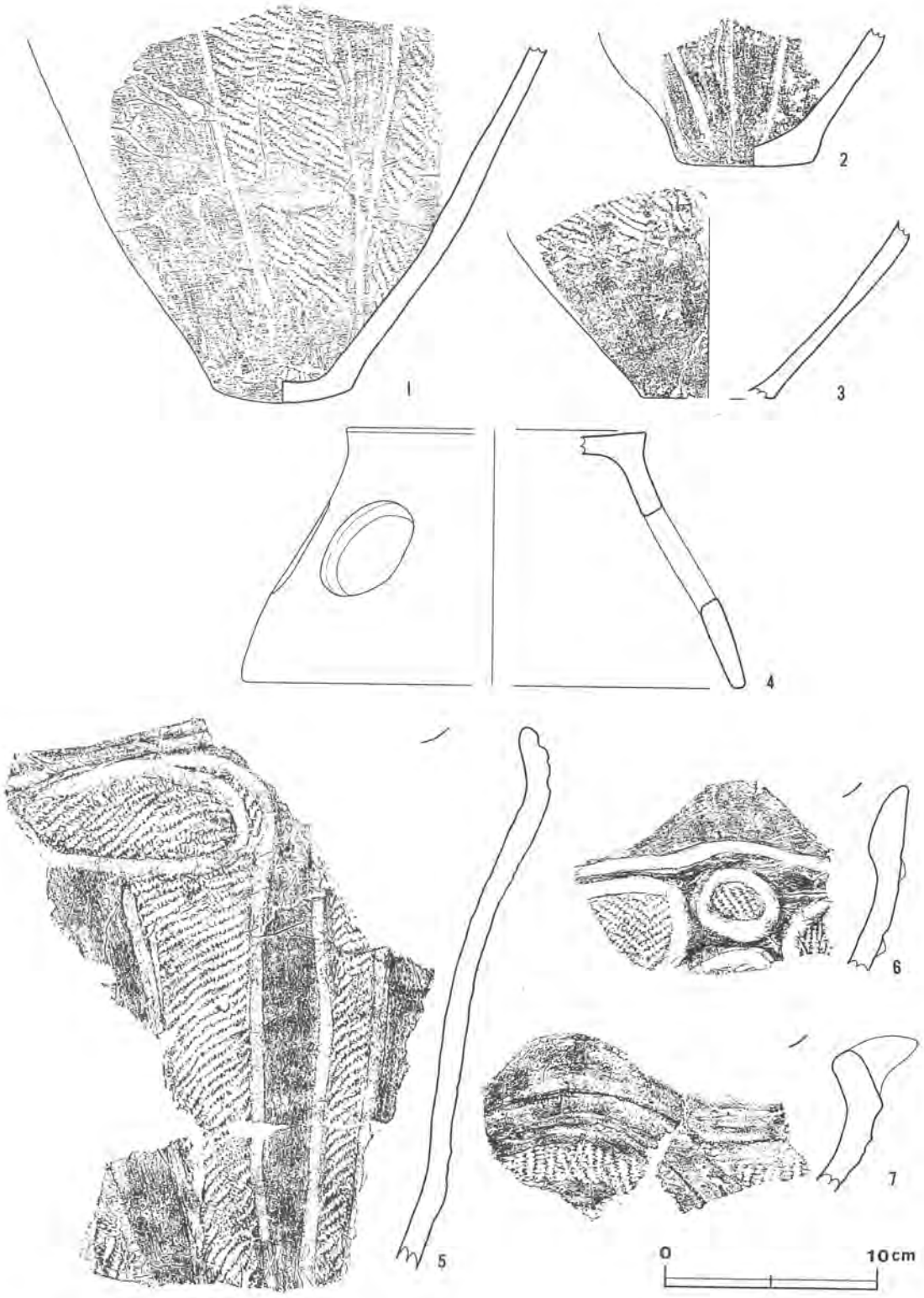
土層解説

1	極暗褐	色	ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化小ブロック少量
2	暗褐	色	ローム粒子少量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・焼土小ブロック少量，締まり有り
3	褐	色	ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量，炭化小ブロック中量，締まり有り
4	褐	色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，軟質
5	褐	色	ローム粒子中量
6	褐	色	ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化小ブロック中量
7	暗褐	色	ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量
8	黒	色	炭化粒子・炭化小ブロック少量
9	褐	色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
10	黒褐	色	ローム粒子・炭化粒子少量，炭化小ブロック中量
11	暗褐	色	ローム粒子中量，炭化粒子・炭化小ブロック少量，締まり有り
12	黒褐	色	ローム粒子多量

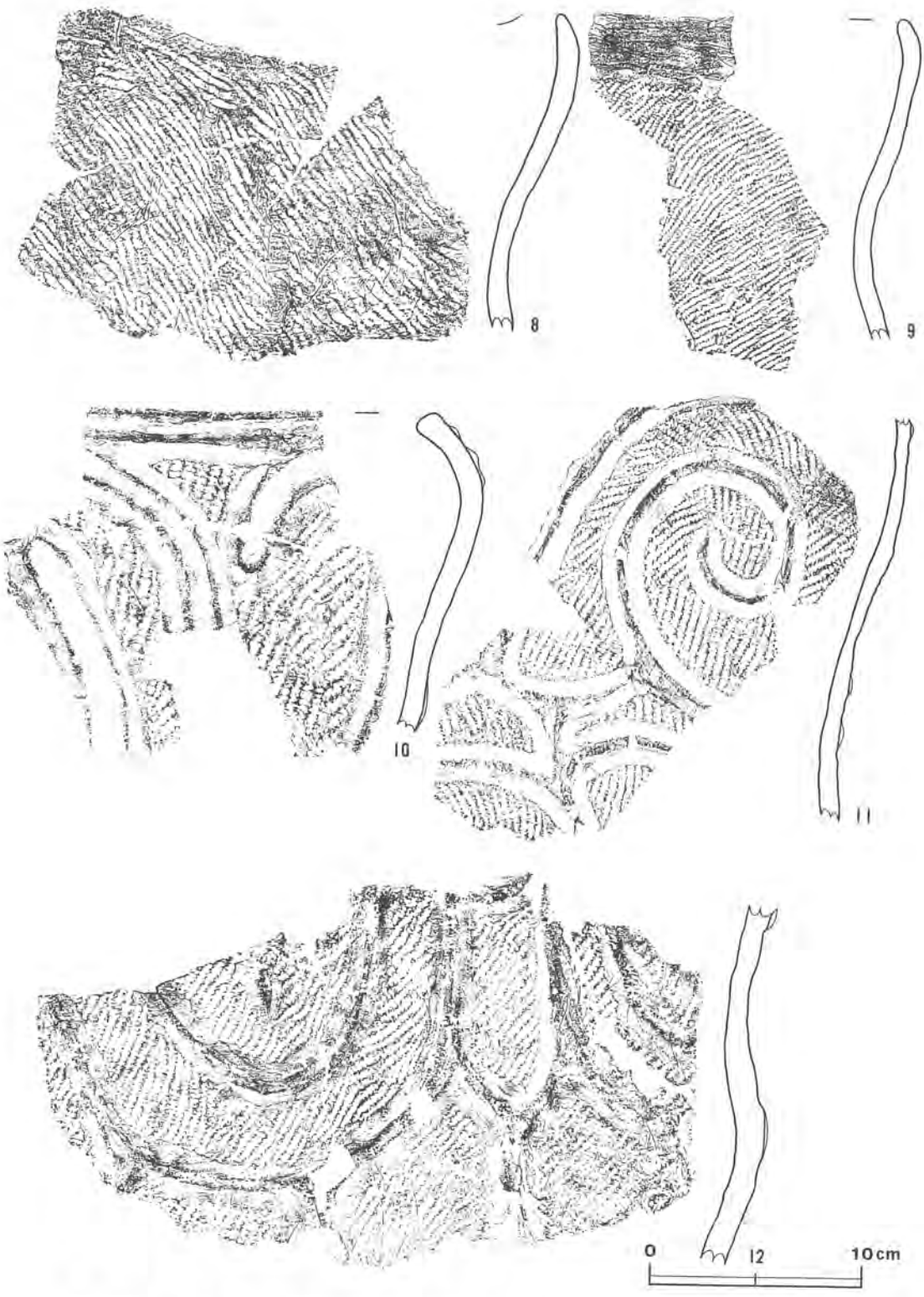
炉土層解説

1	赤褐	色	ローム粒子・ローム中ブロック少量，焼土粒子中量，焼土小・中ブロック少量
2	極暗赤褐	色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，軟質
3	明赤褐	色	ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック中量
4	明赤褐	色	焼土大ブロック，硬質
5	赤褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，軟質
6	橙	色	ローム粒子少量，焼土粒子多量，焼土大ブロック中量

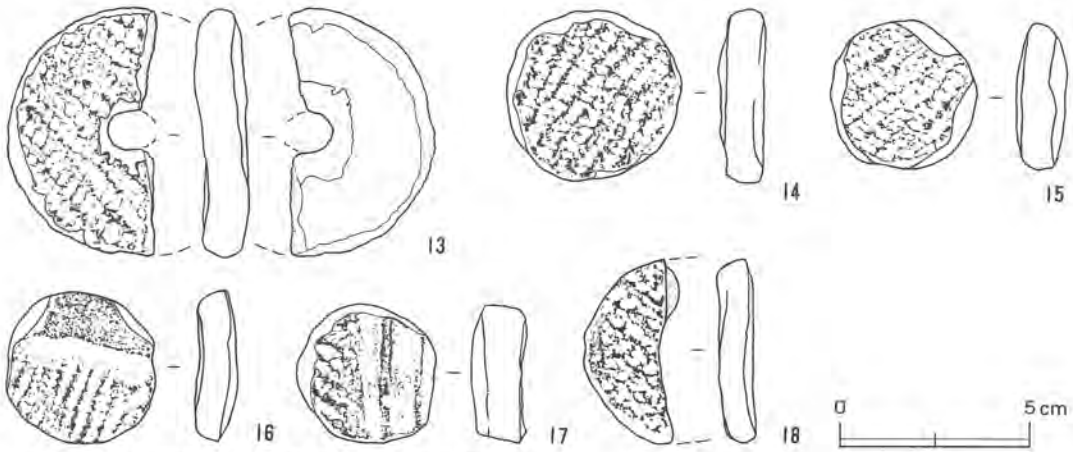
第7図　第26号住居跡実測図



第８図　第26号住居跡出土遺物実測・拓影図(Ⅰ)



第 9 図　第26号住居跡出土遺物拓影図(II)

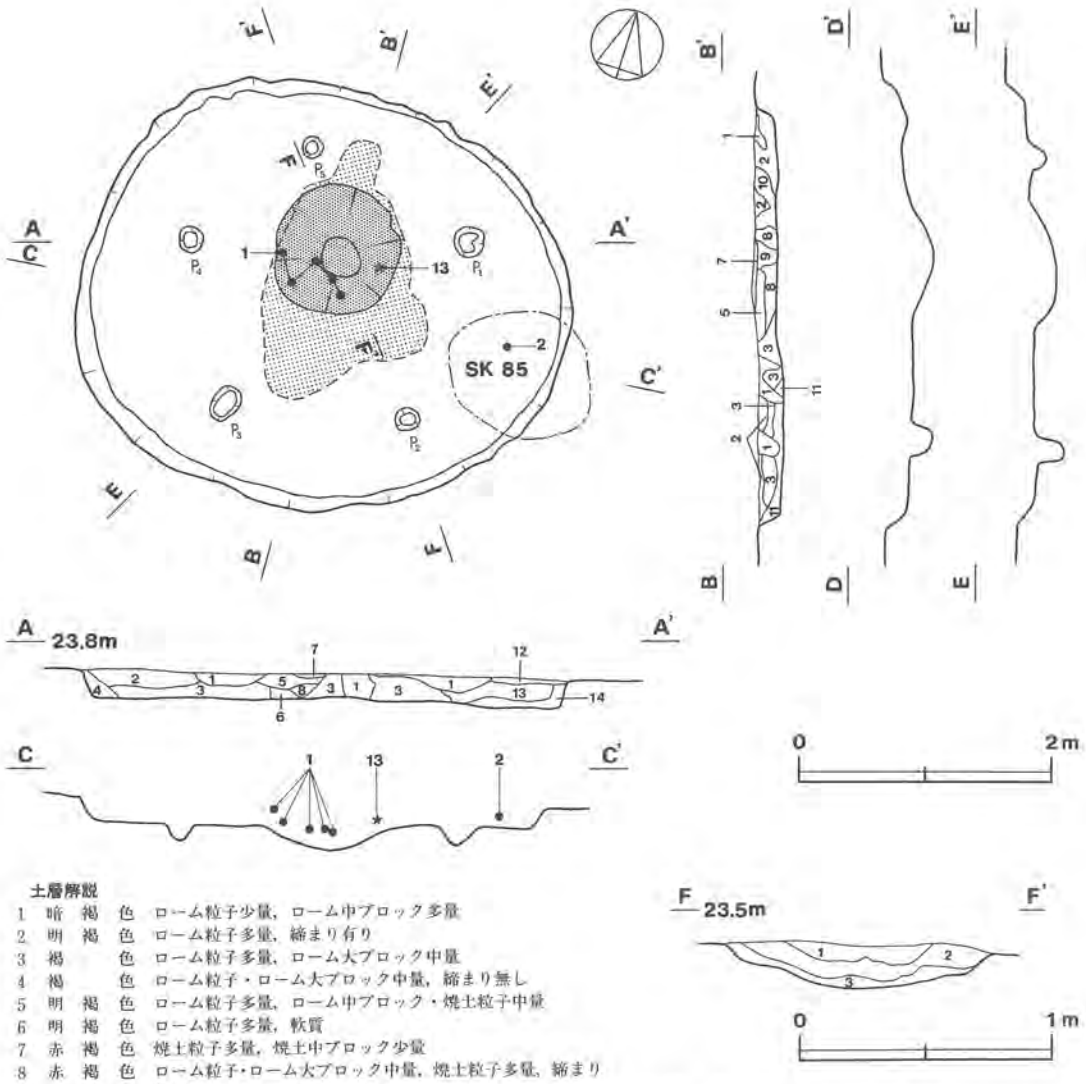


第10図　第26号住居跡出土遺物実測図(Ⅲ)

は，横位の丁寧なナデ整形が施されている。6～8は，波状口縁部の破片である。6は，口縁部に隆線を貼り付け，両側からナゾリを加えている。円文と横位の楕円文と思われる区画を配し，区画内に単節RLの縦位・横位回転で縄文が充填されている。焼成は良好である。内面は横位の丁寧なナデが施されている。7は，波頂部が外反して開き，口縁部に微隆線による渦巻文と思われるモチーフを配している。区画内には，単節RLの斜位回転で縄文が充填されている。8は，上端部に狭い無文帯を有するが，器面全体に無節Lの縦位・斜位回転で縄文が施されている。内面には，横位のナデが施されている。9は，口縁部に幅広の無文帯を巡らし，胴部には，単節RLの縦位回転で縄文が施されている。内面は，口縁部から胴上半部は横位のナデ整形が，下半部は縦位のナデが施されている。10は，キャリパー形土器の口縁から胴部にかけての破片である。口縁部を両側にナゾリを加えた隆線により区画している。その直下から胴部にかけて，隆線による曲線的モチーフが描かれている。11は，ナゾリを両側に加えた貼付の隆線で渦巻文をモチーフとした胴部片である。地文には，単節RLの縦位・斜位回転で縄文が施されている。12は，深鉢形土器の胴下半部の破片である。器面は，両側にナゾリを加えた貼付の隆線により縦位の楕円文等の区画がなされている。区画内は，単節RLの縦位回転で縄文が充填されている。内面は，ヘラ状工具による縦位のナデ整形が施されている。

第27号住居跡（第11図）

位置　調査区の中央部。B15c$_9$区を中心に確認された。**重複関係**　第85号土坑と重複しているが，本跡の方が新しい。**規模と平面形**　3.84×3.34mで，円形を呈する。**壁**　壁高14～18cmで，緩やかに傾斜して立ち上がる。**床**　北～北東部が，僅かに高く硬い床である。**ピット**　5か所。小規模であるが，径17～28cm，深さ12～22cmを測り，位置関係から考え，P$_1$～P$_5$は主柱穴と思われる。**炉**　床面中央部の北寄りに設けられた，径105cmの円形を呈する地床炉である。炉



土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子少量，ローム中ブロック多量
2	明	褐	色	ローム粒子多量，締まり有り
3	褐		色	ローム粒子多量，ローム大ブロック中量
4	褐		色	ローム粒子・ローム大ブロック中量，締まり無し
5	明	褐	色	ローム粒子多量，ローム中ブロック・焼土粒子中量
6	明	褐	色	ローム粒子多量，軟質
7	赤	褐	色	焼土粒子多量，焼土中ブロック少量
8	赤	褐	色	ローム粒子・ローム大ブロック中量，焼土粒子多量，締まり無し
9	にぶい赤褐色			ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量，締まり無し
10	褐		色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック少量
11	橙		色	ローム粒子多量，軟質
12	褐		色	ローム粒子・ローム小ブロック少量
13	暗	褐	色	ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量，締まり有り
14	暗	褐	色	ローム粒子・ローム中ブロック少量

炉土層解説

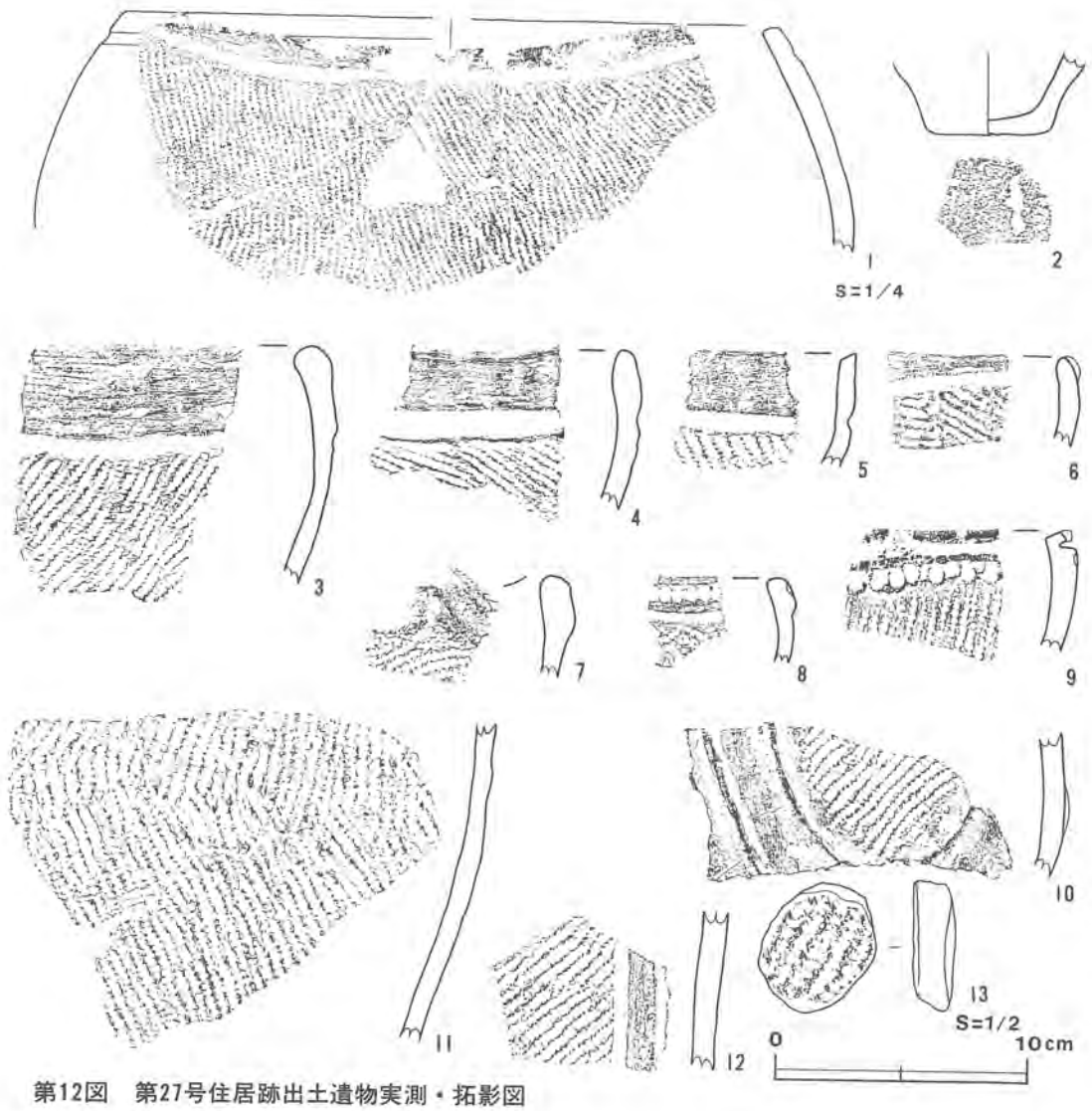
1	赤	褐	色	ローム粒子多量，ローム小・中ブロック少量
2	赤	褐	色	ローム粒子多量，ローム小・中ブロック少量
3	明	褐	色	ローム粒子多量，ローム小・中ブロック中量，締まり有り

第11図　第27号住居跡実測図

床は，床面を18cm鉢状に掘り窪めて構築されている。**覆土**　土層中に，ロームブロックを多く含むことや，締まりのないこと等から人為堆積と思われる。

遺物　炉周辺や東壁近くを中心に，縄文式土器片が196片出土している。第12図１の深鉢形土器の口縁部片は，炉内覆土から出土し，２の底部は，東部の床面直上から出土している。13の土製円板１点が，覆土から出土している。

所見　本跡は，遺構・遺物の特徴から判断して，縄文時代中期に比定される住居跡と考えられる。



第12図　第27号住居跡出土遺物実測・拓影図

第27号住居跡出土土器観察表

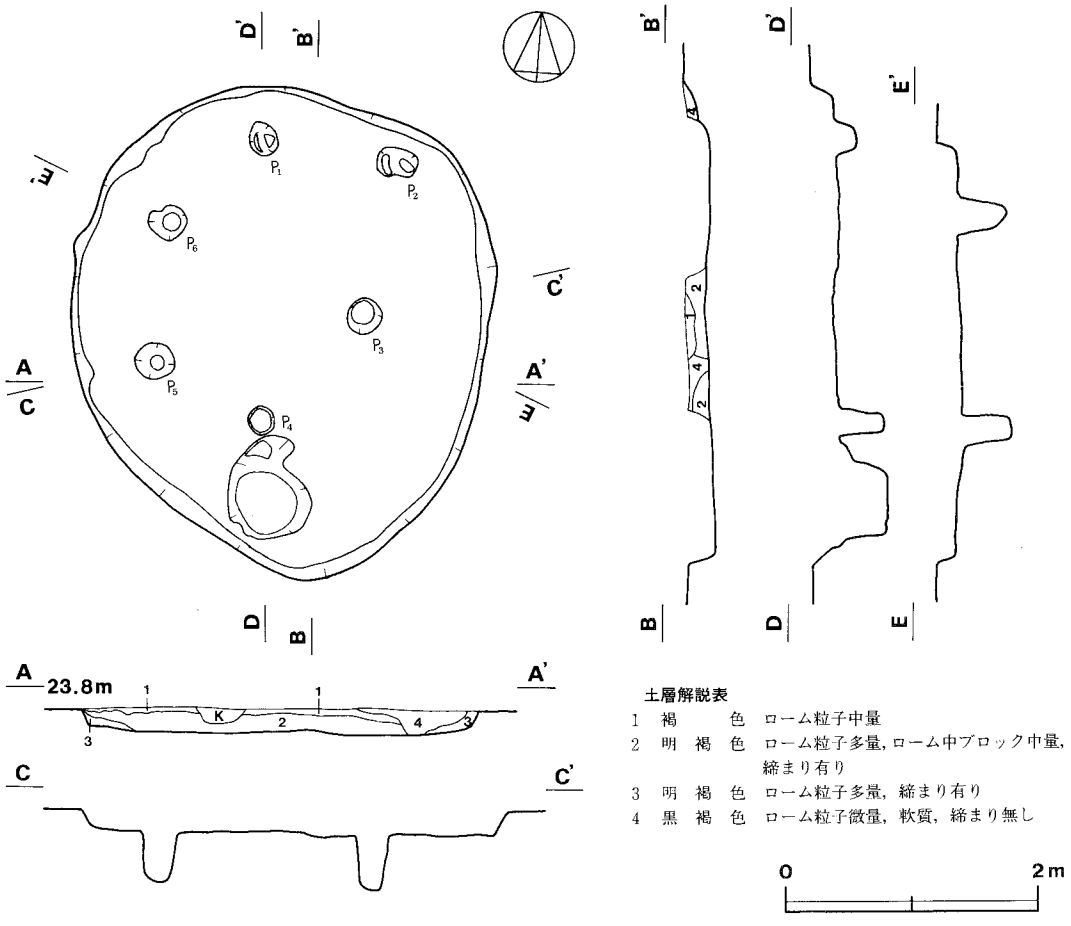
図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第12図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [34.6] B (11.8)	口縁部の破片。キャリパー形を呈し，一条の沈線が巡らされ口唇下部に無文帯を有している。沈線下には，単節RLが横位回転されている。	砂粒，長石，石英 橙色 普通	5% P193　PL22 炉内覆土
2	深鉢形土器 縄文式土器	B (3.3) C (4.3)	底部の破片。底部は平底で，底面に棒状の窪みを有す。胴部下位は，底部から外反気味に立ち上がる。器面はナデられている。	砂粒 橙色 普通	5% P194 東部床面直上

第12図は，第27号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。3～9は，口縁部の破片である。3は，口縁部を微隆線で区画し，幅広の無文帯としている。4～6は，沈線により口縁部を区画している。いずれも胴部には，縦位回転で縄文を施し，内面はヘラ状工具による丁寧なナデが施されている。7は，波状口縁の突起部の破片で，孔が認められる。8・9の口縁部には，連続の

刺突文が施されている。10は，口縁部直下の破片で，ナゾリをもつ断面が三角形の隆線で区画された磨消文により，曲線的モチーフが配されている。区画外には，単節LRの横位回転で縄文が充填されている。11は，胴部片で，輪積み部から欠失し単節LRの縦位・斜位回転で縄文が施されている。12は，胴部片で，二条の沈線で区画された磨消帯を垂下させ，区画外に，単節RLの縦位回転で縄文が充填されている。

第28号住居跡（第13図）

位置　調査区の中央部。B15c$_5$区を中心に確認された。**重複関係**　覆土中に第36・37号土坑が存在する。本跡との重複関係はない。**規模と平面形**　3.96×3.41mで，楕円形を呈する。**長径方向**　N－7°－W。　**壁**　壁高15～20cm，外傾して立ち上がる。**床**　起伏があり，北東側に硬い床面が確認されている。**ピット**　6か所。径23～34cm，深さ14～44cmを測る。これらは，壁寄りに配置され，主柱穴と思われる。**貯蔵穴**　南壁際に設けられ，長径83cm，短径67cmの不整楕円形を呈し，断面

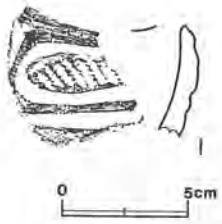


第13図　第28号住居跡実測図

形は，逆台形である。**覆土**　自然堆積。

遺物　出土遺物は，極めて少なく西壁際の床面直上から，加曽利ＥⅢ式に比定される深鉢形土器の口縁部片が１片出土しているだけである。

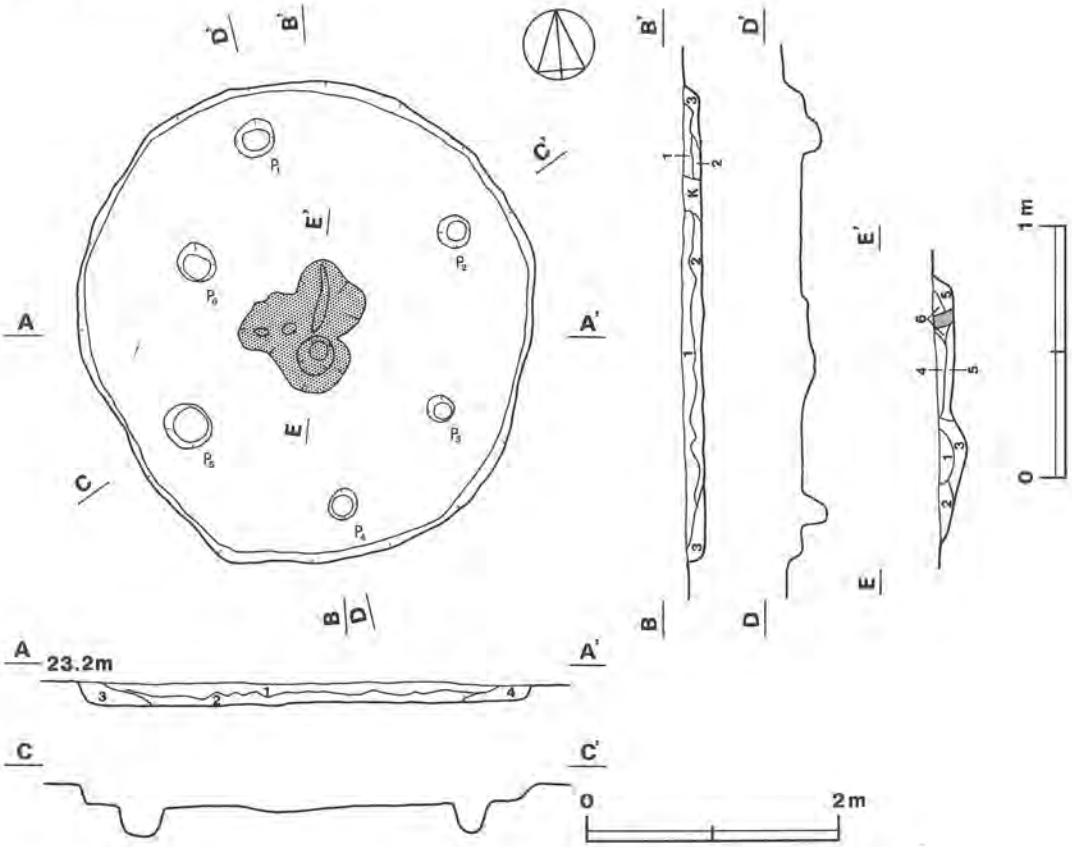
所見　本跡は，出土遺物が極めて少ない事が特筆される。長期間使用されなかったものか，廃絶に際しきれいに持ち出されたものか疑問が残る。



第14図は，第28号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。１は，波状口縁の破片である。両側にナゾリを加えた偏平な隆線による横位の楕円文が描かれている。区画内には，単節RLの横位回転で縄文が充填されている。内面は，ヘラ状工具による縦位の丁寧なナデが施されている。胎土に砂粒を多く含み，焼成は普通である。

第14図　第28号住居跡
出土遺物拓影図

第29号住居跡（第15図）



第15図　第29号住居跡実測図

土層解説

1 褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，締まり有り
2 褐　　色　ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，硬質，締まり有り
3 暗 褐 色　ローム小ブロック・焼土粒子微量，硬質，締まり有り
4 黒 褐 色　ローム大ブロック中量，軟質

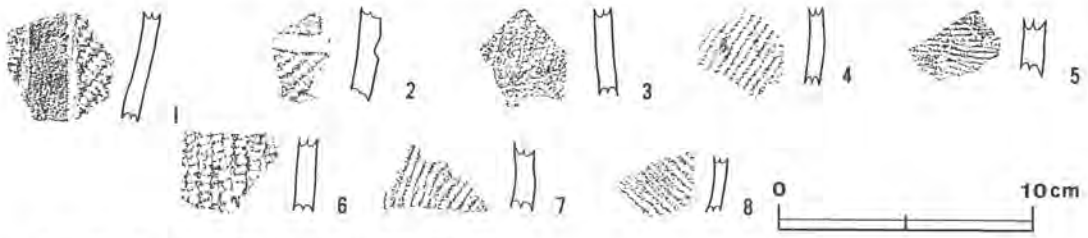
炉土層解説

1 にぶい赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
2 明 褐 色　ローム粒子多量
3 褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，締まり有り
4 明 褐 色　ローム粒子多量，ローム中ブロック・焼土粒子少量
5 明 褐 色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，締まり有り
6 褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量

位置　調査区の中央部。B16e5区を中心に確認された。**規模と平面形**　3.82×3.70mで，円形を呈する。**壁**　壁高12～16cmで，外傾して立ち上がる。**床**　平坦で，若干硬い。**ピット**　6か所。径23～39cm，深さ14～27cmを測り，壁の内側に配置されている。規模的には小さいものの，配置の様子から主柱穴と思われる。**炉**　床面中央部に設けられた，長径107cm，短径70cmの不定形を呈する地床炉である。炉床は，床面を11cm程皿状に掘り窪めて構築し，ロームが赤変硬化している。**覆土**　自然堆積。各層とも，全体的に締まっている。

遺物　遺物は少なく，覆土上層から第16図1の加曽利EIII式に比定される縄文式土器の深鉢形土器の胴縁部片を始めとして，32片出土している。

所見　本跡の炉床北側には，灰の掻き出しによると思われる南北55cm程の窪みがみられる。



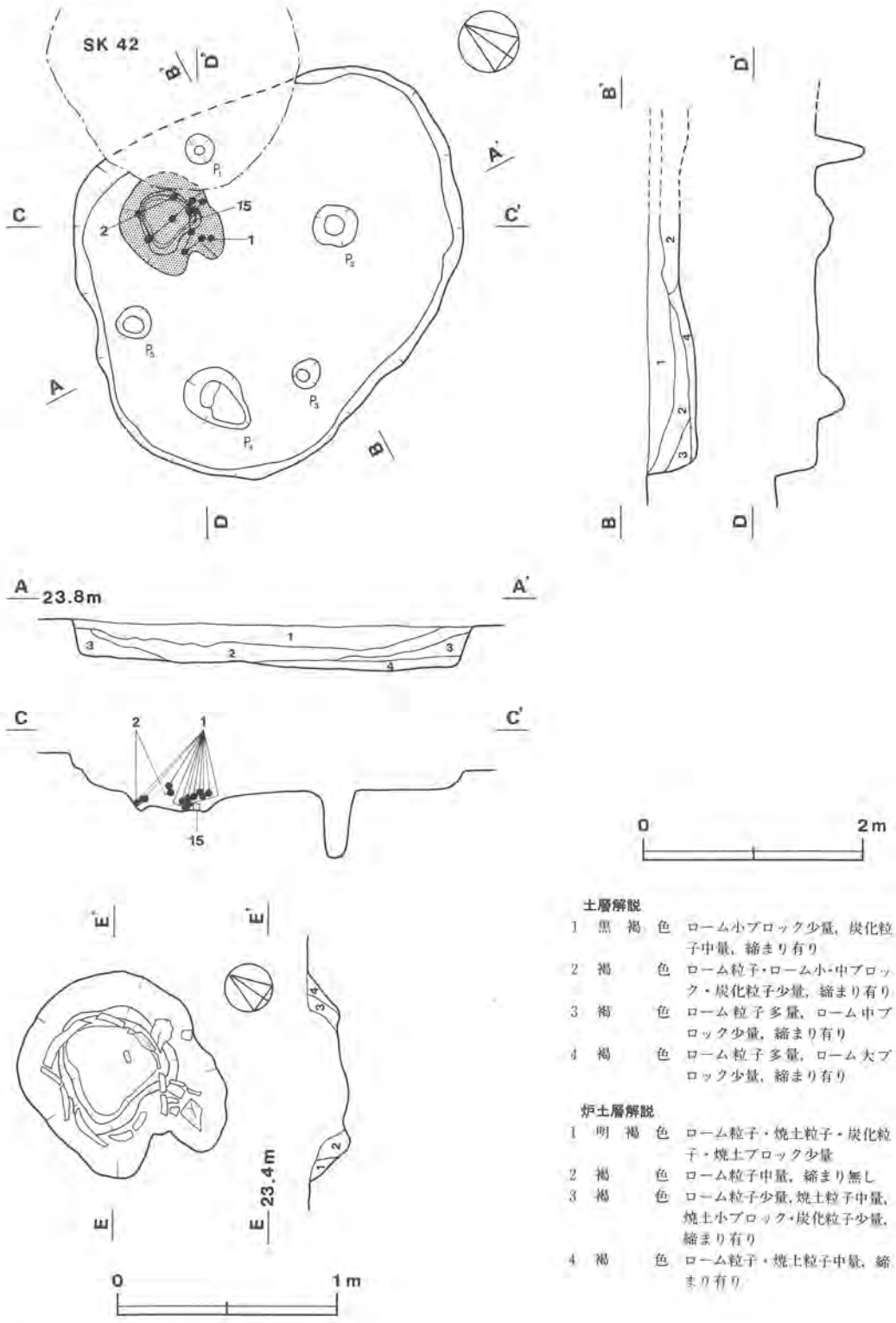
第16図　第29号住居跡出土遺物拓影図

第16図は，第29号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。1～8は，全て胴部片である。1は，二条の沈線で区画された磨消帯を垂下させている。2は，沈線下に単節RLの縦位回転で縄文が施されている。内面は，横位の丁寧なナデ整形が施され黒色を呈する。3は，単節RLの縦位回転で縄文が施され，胎土には石英粒を多く含む。4・5は単節LR，6・7は，単節RL，8は，無節Lの縦位回転で縄文が施されている。

第30号住居跡（第17図）

位置　調査区の中央部。B15b8区を中心に確認された。**重複関係**　第42号土坑と重複しているが，本跡の方が古い。**規模と平面形**　4.10×3.38mで，不整楕円形を呈する。**長径方向**　N－84°－E。**壁**　壁高18～33cmで，外傾して立ち上がる。**床**　平坦で，炉周辺が硬く踏み固められている。**ピット**　5か所。径29～68cm，深さ12～63cmを測る。P1～P5とも，主柱穴と思われる。

炉　床面の北側に設けられ，長径100cm，短径85cmの楕円形を呈している。本跡は，掘り方の内側に，径55cmの円形に土器片，石を用いた土器片囲い炉で，炉床は，床面を18cm程掘り窪めて構



土層解説

1	黒 褐	色	ローム小ブロック少量，炭化粒子中量，締まり有り
2	褐	色	ローム粒子・ローム小・中ブロック・炭化粒子少量，締まり有り
3	褐	色	ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，締まり有り
4	褐	色	ローム粒子多量，ローム大ブロック少量，締まり有り

炉土層解説

1	明 褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・焼土ブロック少量
2	褐	色	ローム粒子中量，締まり無し
3	褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，締まり有り
4	褐	色	ローム粒子・焼土粒子中量，締まり有り

第17図　第30号住居跡・炉実測図

築され，ロームがレンガ状に赤変硬化している。**覆土**　自然堆積。

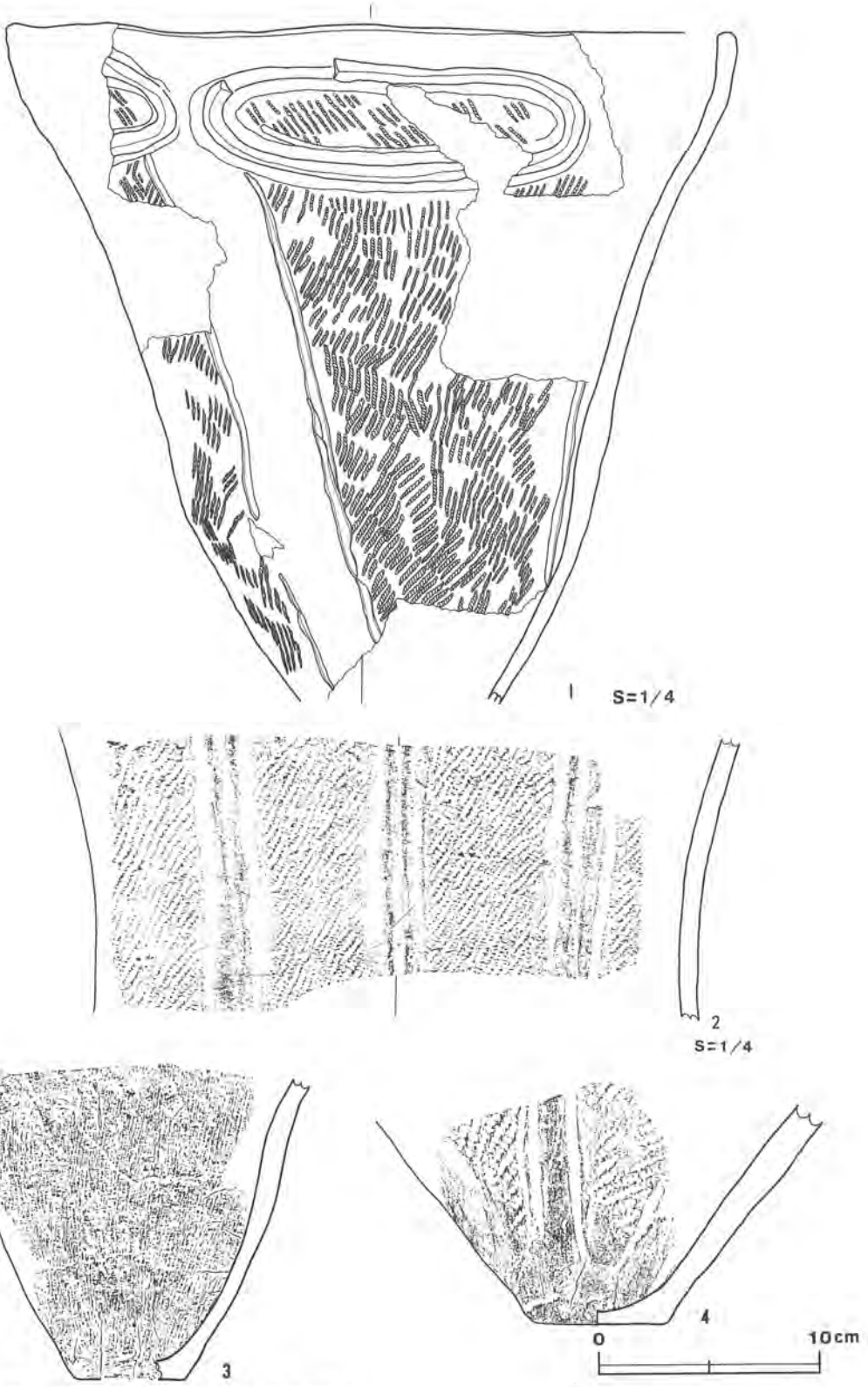
遺物　覆土上層から，縄文式土器の破片が179片出土している。第18図1・2は，北部床面に設けられた土器片囲い炉に使用されていた深鉢形土器で，1は，北側に，2は，東側から南側にかけて立位で出土している。東側からは，第20図15の凹石が出土している。3～6は，北部覆土下層から出土した加曽利EIII式期に比定される深鉢形土器である。

所見　本跡は，当調査区内で唯一の土器片囲い炉をもつ住居跡である。炉に使用されている土器片と，覆土中から出土の破片が接合されている。

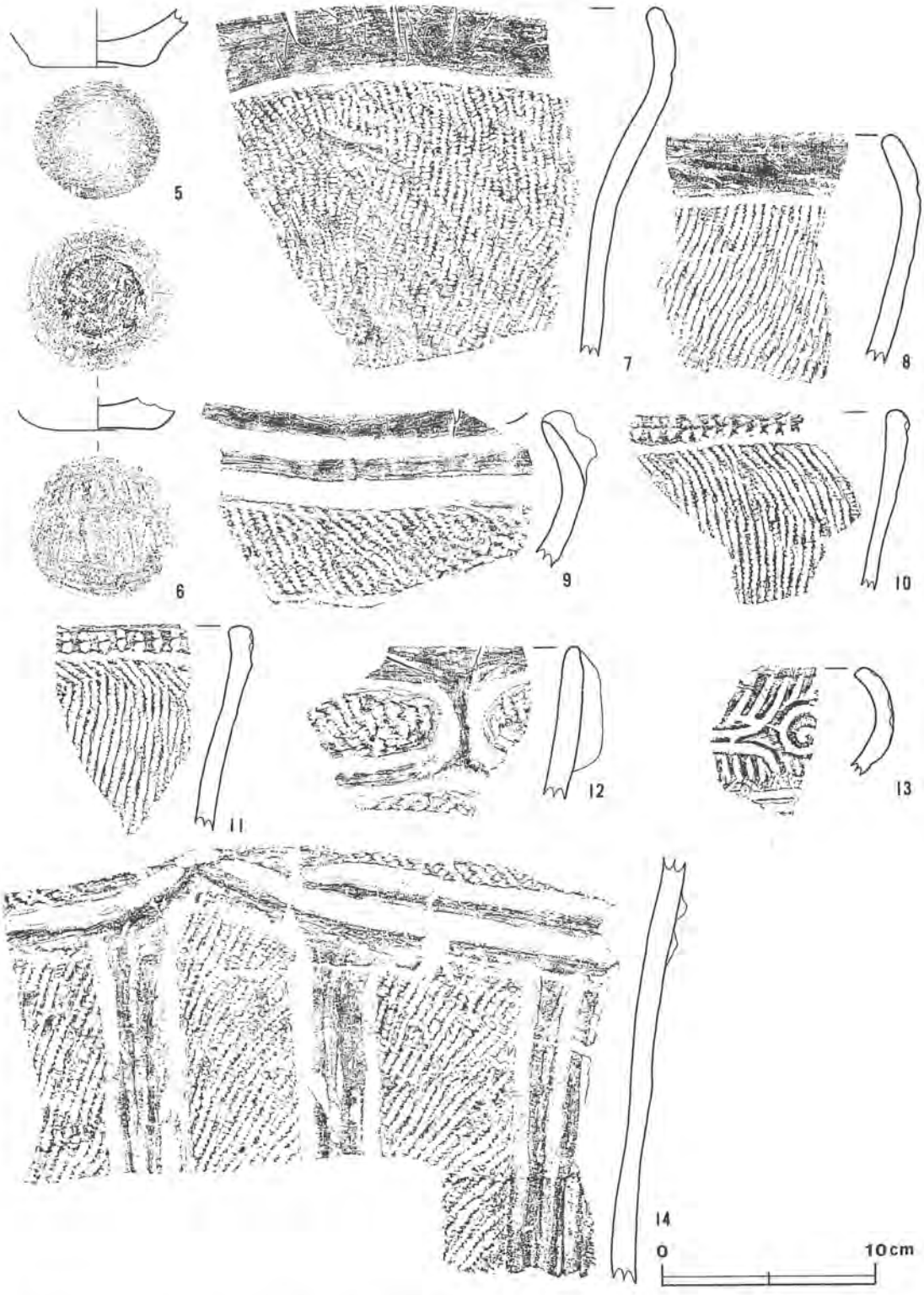
第30号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第18図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A［44.5］ B（41.6）	口縁部から胴部下位に至る破片。波状口縁で，口縁部には，両側にナゾリを加えた隆線による楕円文が施されて，区画内は，単節RLの横位回転で充填されている。胴部は推定で4単位の二条の沈線で区画された幅広の磨消帯を垂下させている。区画外は，単節RLの縦位・斜位回転で充填されている。内面の口縁部は横位胴部は縦位に，丁寧なナデが施されている。	砂粒，パミス にぶい褐色 普通	40% P196 PL22 北部床面，土器片囲い炉の東・南側
2	深鉢形土器 縄文式土器	B（17.0）	口縁部直下の胴部片。上位は，輪積みの部分で水平に破損している。二条の沈線で区画し，その間に，もう一条の浅い沈線を施した磨消文を，推定で10単位垂下させている。区画外は，単節RLの縦位回転で充填されている。内面の口縁部直下は横位に，以下は縦位の丁寧なナデが施されている。	砂粒，パミス 橙色 普通	20% P197 PL22 北部床面，土器片囲い炉の北側
3	深鉢形土器 縄文式土器	B（13.4） C［5.0］	底部から胴部に至る破片。上位は，輪積み部の剝離による破損である。胴部は，櫛歯状工具による細沈線文が施されている。内面は，ヘラ状工具により上位は横位に，下位は縦位のナデが施されている。	砂粒，スコリア にぶい橙色 普通	20% P199 PL22 北部覆土下層
4	深鉢形土器 縄文式土器	B（10.5） C　6.0	底部から胴部下位に至る破片。平底で，胴部は底部から外傾して立ち上がる。胴部は，二条の沈線で区画された磨消帯を，8単位垂下させている。区画外は，単節RLの縦位回転で充填されている。胴部下位に，無文帯を有す。内面は，剝離が著しい。器厚が厚い。	砂粒，パミス，雲母 黄橙色 普通	10% P198 PL22 北部覆土下層
第19図 5	深鉢形土器 縄文式土器	B（2.7） C　4.8	底部。底面の中央部に，円形の僅かな窪みをもつ。胴部下位は，外反気味に立ち上がり，無文帯と思われる横位のナデが確認できる。内面は縦位・横位の丁寧なナデが施されている。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	5% P200 北部覆土下層
6	深鉢形土器 縄文式土器	B（1.5） C　5.2	底部。平底で，貼り付けた胴部が剝離して欠損している。底面には，ヘラ状工具での粗いナデが施され，底面の内側の部分にも，ナデが施されている。	砂粒，パミス 橙色 普通	5% P201 北部覆土下層

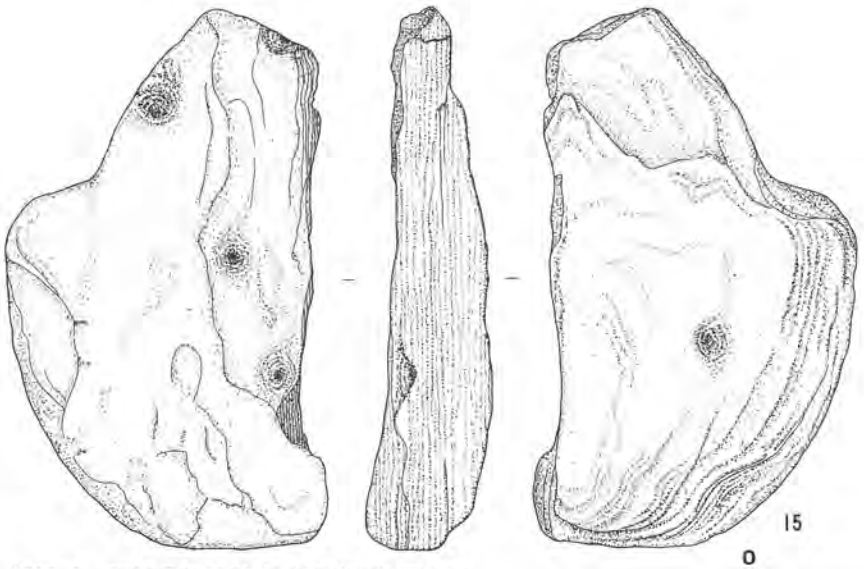
第19図は，第30号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。7・8は，口縁部と胴部を一条の横位沈線で区画し，口縁部を無文帯としているキャリパー形の土器片である。2片とも内面に横位の丁寧なナデが施されているが，8の方が密である。また，8は内外面とも黒色である。9は，両側にナゾリを加えた貼り付けの太い隆線を口縁部に巡らす波状口縁部である。10・11は，



第18図　第30号住居跡出土遺物実測図(Ⅰ)



第19図　第30号住居跡出土遺物実測・拓影図(II)



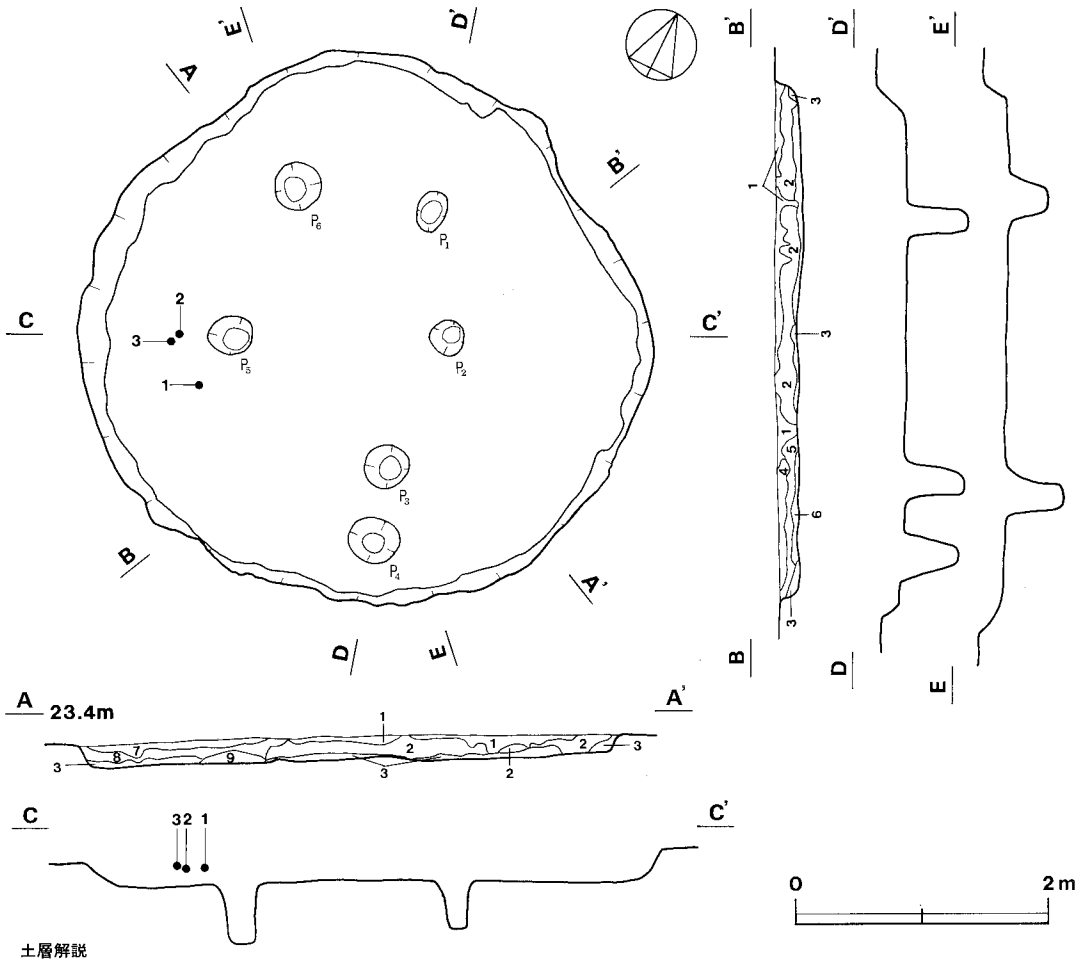
第20図　第30号住居跡出土遺物実測図(Ⅲ)

一条の沈線で口縁部を区画し，区画内に竹管状工具による連続刺突が施されている。胴部には，口縁部直下は単節RLの横位回転で，以下は縦位回転で縄文が施されている。２片とも薄手で，同一個体のものと思われる。12は，口縁部に貼り付けの隆線による横位の楕円文を配し，区画内を単節RLの横位回転で縄文が充填されている口縁部片である。13は，キャリパー形の口縁部片である。胴部との区画に一条の沈線が引かれ，口縁部には，断面がU字状の沈線による渦巻文のモチーフが配されている。内面は，横位の丁寧なナデが施され，焼成も良好である。14は，二条の沈線により区画された磨消帯を垂下させ，区画内に単節RLの縦位回転で縄文が充填された胴下半部片である。内面には，ヘラ状工具による横位のナデ整形が施されている。

第31号住居跡（第21図）

位置　調査区の中央部。B16e$_9$区を中心に確認された。**規模と平面形**　4.56×4.31mで，円形を呈する。**壁**　北東側が，僅かに高い。壁高16～26cmで，緩やかに傾斜して立ち上がる。**床**　平坦で，全体的にやや軟らかである。**ピット**　６か所。P_1～P_6は径29～41cm，深さ33～49cmを測り，いずれも良好なピットで主柱穴と思われる。**覆土**　自然堆積。各土層中に焼土粒子が微量含まれている。**遺物**　覆土上層から，縄文式土器片が468片出土している。南西部の床面直上からは，安行Ⅰ式期に比定できる第22図１・２・３の深鉢形土器の底部が斜位で出土している。中央部付近の覆土からは，第60図２の把手が出土している。

所見　覆土から，多量の加曽利EⅢ式に比定される縄文式土器片が出土しているが，ほとんど接合できないことから，廃絶後に投棄されたものと考えられる。本跡は，安行Ⅰ式期の遺物を伴うが，一部であることから縄文時代中期に比定できる住居跡と思われる。



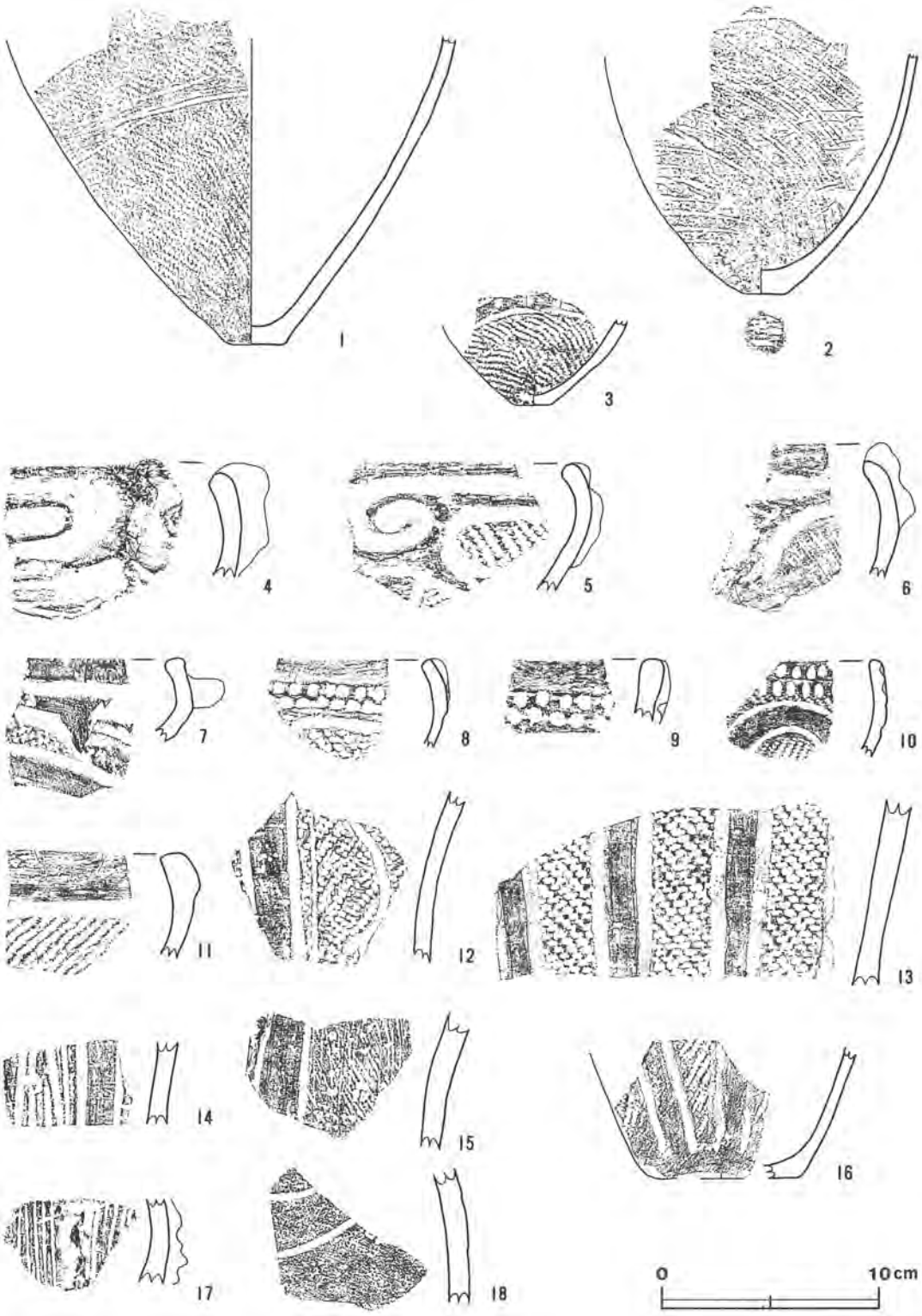
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・炭化粒子少量，締まり有り
2 褐色 ローム粒子多量，ローム小・中ブロック少量，締まり有り
3 明褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
4 極暗褐色 ローム小ブロック少量，締まり有り
5 褐色 ローム小・中ブロック少量
6 褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，締まり有り
7 褐色 ローム粒子少量，締まり有り
8 褐色 ローム粒子中量
9 明褐色 ローム粒子・ローム中ブロック多量，締まり有り

第21図　第31号住居跡実測図

第31号住居跡出土土器観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第22図 1.	深鉢形土器 縄文式土器	B (14.3) C 2.3	胴下半部の破片。底部は，無文の小さな平底で不安定である。胴部は，底部から内彎気味に立ち上がる。地文に単節RLが横位回転されている。胴部中位には磨消帯を，下位には無文帯を有する内面は，丁寧な横位のナデが施され，黒色で光沢をもつ。	砂粒 にぶい褐色 普通	40% P202 PL22 南西部床面直上
2	深鉢形土器 縄文式土器	B (11.1) C 2.0	胴下半部の破片。底部は，小さな平底で不安定である。底部に網代痕を残す。胴部は，底部から内彎気味に立ち上がる。地文に半截竹管による条線文が斜位に施されている。内面は，ヘラ状工具による横位・斜位のナデが施されている。炭化物の付着有り。	砂粒 橙色 普通	30% P203 PL22 南西部床面直上



第22図　第31号住居跡出土遺物実測・拓影図

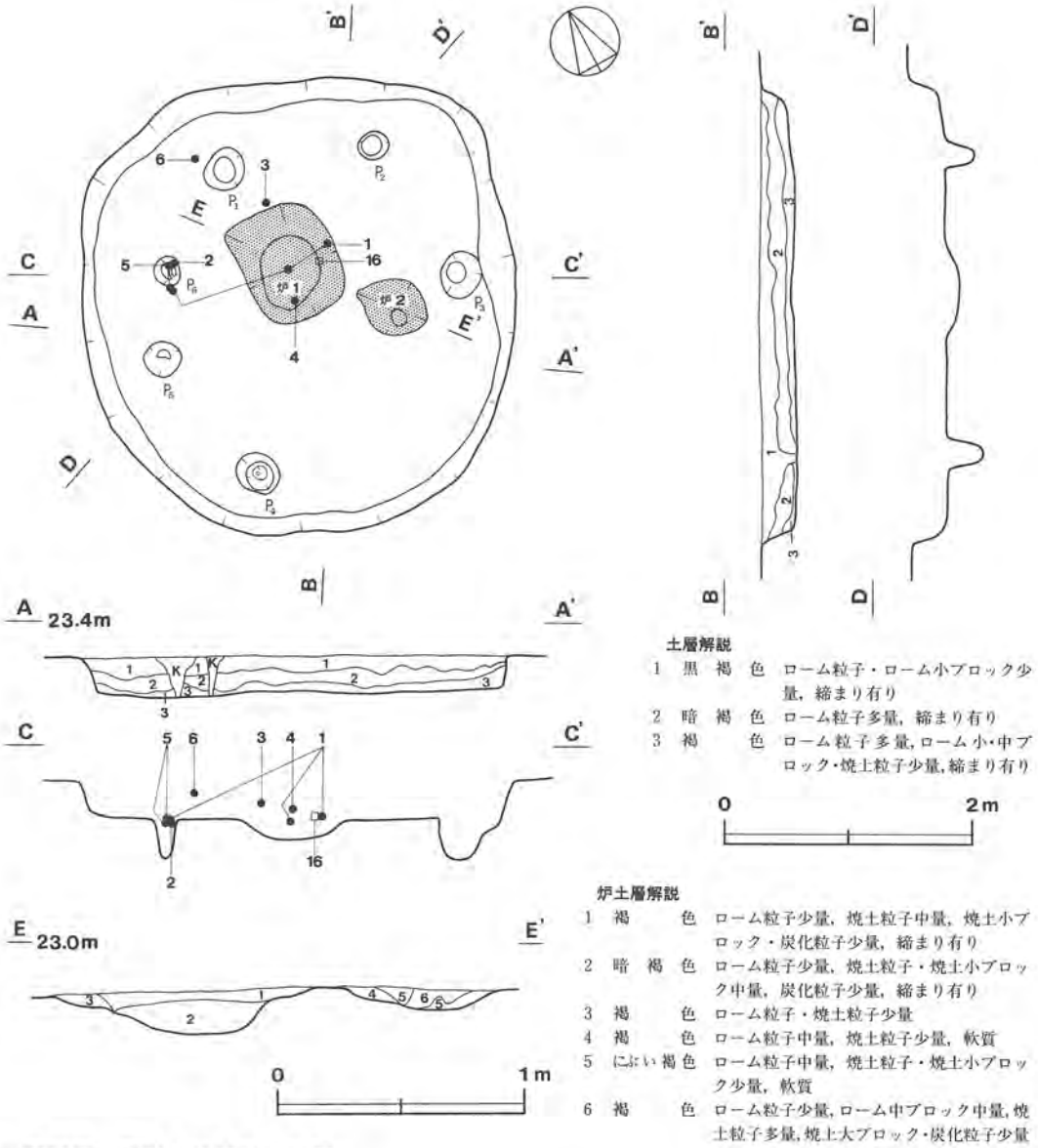
図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第22図 3	深鉢形土器 縄文式土器	B(3.9) C 1.7	底部から胴部下位の破片。底部は，無文の小さな平底で不安定である。胴部は，底部から内彎気味に立ち上がる。地文に単節ＲＬが，横位回転されている。胴部下位に，二条の沈線で区画した横位の磨消帯を有する。内面は，ヘラ状工具による縦・横位の丁寧なナデが施され，黒色で光沢をもつ。	砂粒，パミス 黒色 普通	5% P204 南西部床面直上

第22図は，第31号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。４～７は，両側にナゾリを加えた隆線で，横位の楕円文や渦巻文のモチーフを口縁部に配した土器の破片である。５は，区画内に単節RLが横位回転で充填され，６は，地文に斜位の条線文が施されている。内面は，いずれも横位の丁寧なナデが施されている。７は，単節LRが横位回転で充填されている。８～10は，２列の列点文をもつ口縁部の破片である。10は，胴部に磨消帯による曲線的モチーフが見られる。11は，一条の沈線により口縁部が区画された破片である。胴部上位に，単節LRが横位回転で施されている。内面は，横位の丁寧なナデ整形が施されている。12～16は，縦位の磨消帯が施された胴部と底部の破片である。12は，単節RLが縦位回転された中に蛇行沈線を垂下させている。13は，単節LRが縦位回転で充填されている。14・15は胴部片である。14は，磨消帯を垂下させ，区画内は縦位の太い条線で充填されている。15は，ナデが施された器面に沈線で区画した磨消帯を垂下させている。胎土にスコリアを多く含む。16は，区画内に単節RLが縦位回転で充填されている。17は，小形深鉢形土器の胴部片と思われ，蛇行する隆帯が貼付され，縦位の条線文が施されている。18は，有孔鍔付土器の胴部片である。沈線による曲線的モチーフが描かれている。

第32号住居跡（第23図）

位置　調査区の中央部。B16g_0区を中心に確認された。**規模と平面形**　3.84×3.69mで，不整円形を呈する。**長径方向**　N－12°－W。**壁**　壁高22～27cmで，外傾して立ち上がる。**床**　炉付近が幾分小高く，僅かに起伏をもつ硬い床である。**ピット**　６か所。径24～38cm，深さ22～34cmを測る。P_1～P_6が，壁近くに検出されており，いずれも主柱穴と思われる。**炉**　２か所。床面中央部に設けられ炉１は，長径107cm，短径92cmの隅丸長方形状を呈し，炉床は，床面を16cm程掘り窪めている。炉１の南東側に設けられた炉２は，長径61cm，短径47cmの不整円形を呈する地床炉であり，炉床は，床面を８cm程掘り窪めて構築されている。炉１の炉床には，ロームがレンガ状に赤変硬化している。**覆土**　自然堆積。各層とも締まりが有り，炭化粒子・焼土粒子を含んでいる。下層には，焼土粒子が少量含まれる。

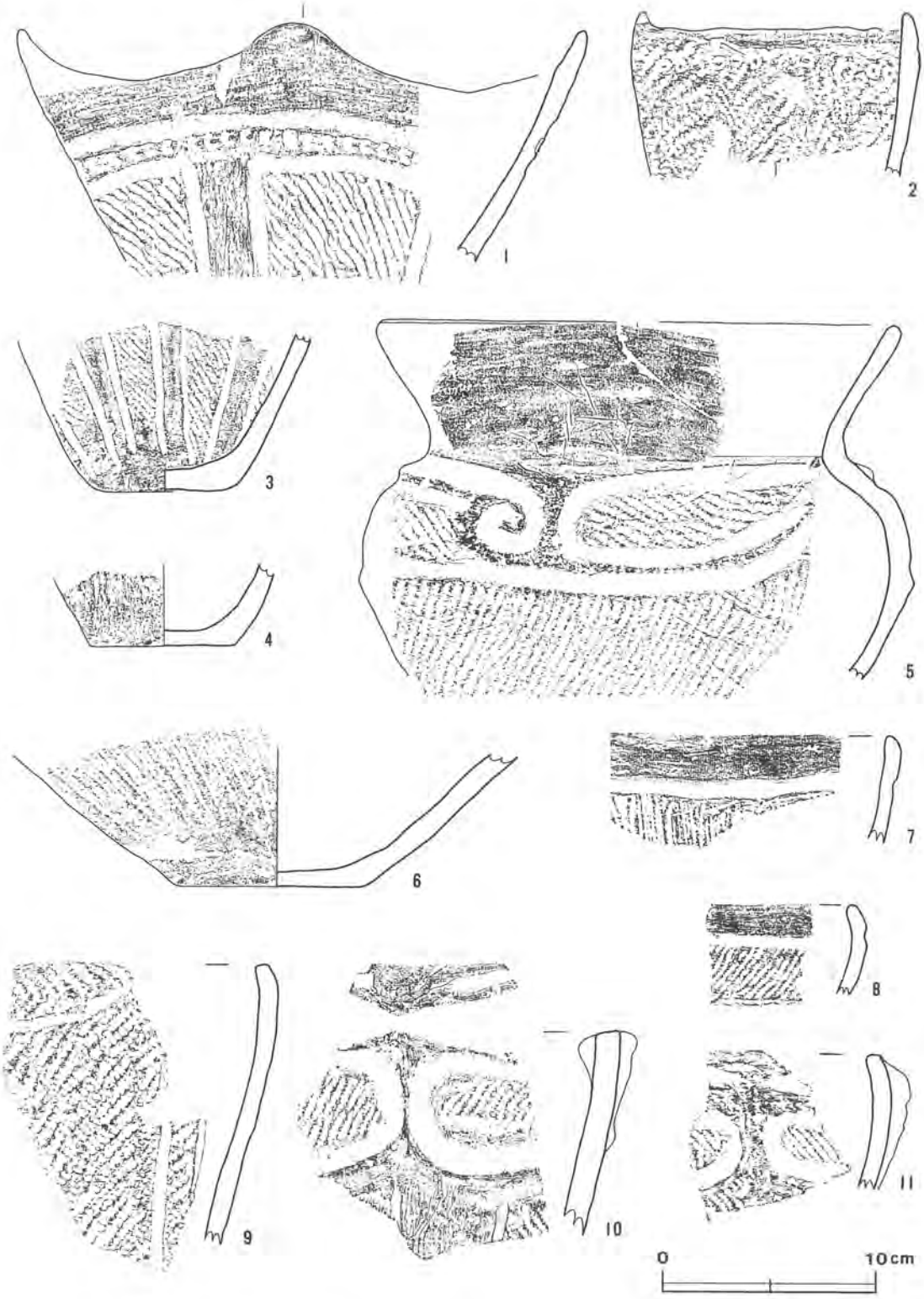
遺物　中央部やや北寄りの覆土から，縄文式土器の破片が集中して総数503片出土している。第24図１の深鉢形土器の口縁部が，中央部床面から出土している。覆土からは，３・４の底部が正



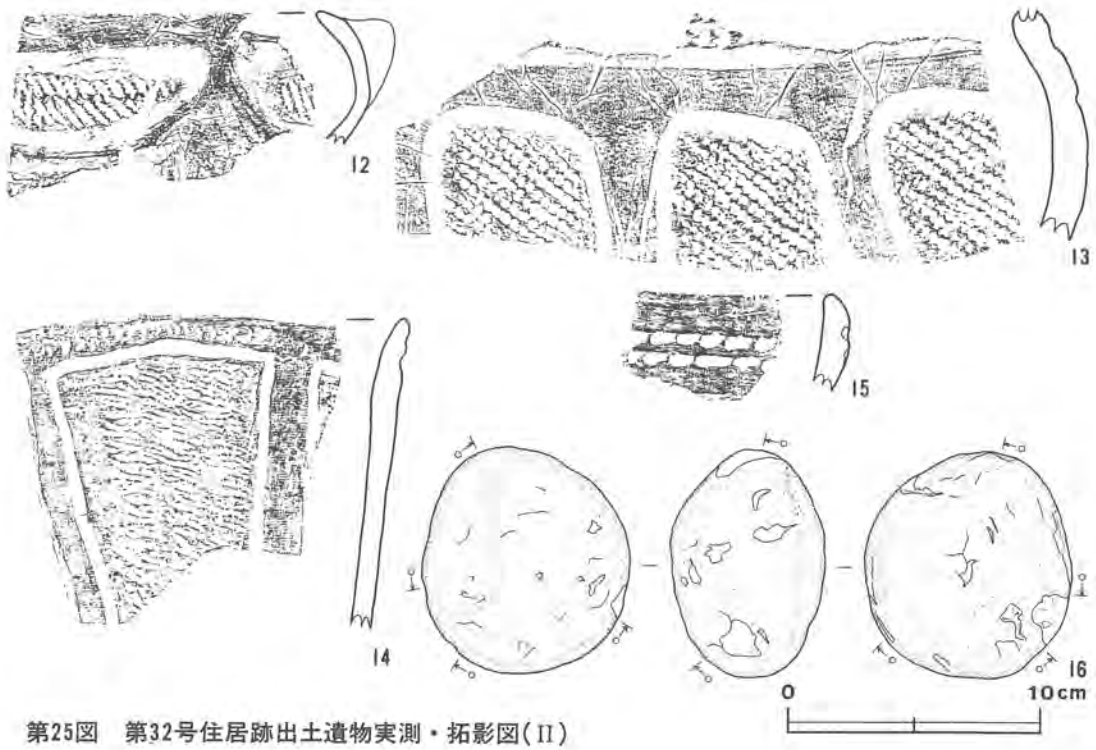
第23図　第32号住居跡実測図

位で出土している。北部の床面からは，2の深鉢形土器と5の鉢形土器の口縁部が出土している。北壁際の覆土上層からは，6の深鉢形土器の底部が逆位で出土している。16の磨石は，中央部炉内から出土したものである。

所見　覆土からは，多量の土器片が出土しているが，ほとんど接合できないことから，本跡の廃絶後に投棄されたものと考えられる。



第24図　第32号住居跡出土遺物実測・拓影図(Ⅰ)



第25図　第32号住居跡出土遺物実測・拓影図(II)

第32号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第24図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [26.8] B (11.3)	口縁部から胴部に至る破片。口縁部は，波状口縁で，沈線により区画された上位に無文帯を有す。胴部上位は，二条の沈線を巡らせた区画内に，半截竹管による連続刺突文が充填されている。胴部には，二条の沈線で区画された磨消帯を垂下させている。磨消帯間は無節Lが縦位回転されている。口縁部内面は横位，胴部は縦位のナデが施されている。	砂粒，スコリア にぶい黄橙色 普通	10% P208 PL23 中央部床面
2	深鉢形土器 縄文式土器	A [12.4] B (7.7)	口縁部から胴部に至る小形深鉢形土器の破片。口縁部無文帯は，一条の沈線で区画されている。沈線下に沿うように，半截竹管による連続の刺突文が巡らされている。胴部は，粗い単節RLが縦位回転で施されている。内面は，ヘラ状工具による丁寧な縦位のナデが施されている。	砂粒，パミス 褐灰色 普通	10% P209 PL22 北部床面
3	深鉢形土器 縄文式土器	B (7.4) C 6.0	底部から胴部にかけての破片。ナデの加えられた無文の平底。胴部下位は，外傾して立ち上がる。胴部は，二条の沈線で区画された磨消帯を11単位垂下させ，区画外に無節Lが縦位回転で充填されている。内面は，縦位のヘラ状工具によるナデが施されている。	砂粒，スコリア にぶい赤褐色 普通	10% P211 PL22 中央部覆土中層
4	深鉢形土器 縄文式土器	B (3.9) C 6.7	底部。欠損は，輪積み部からの剥離である。ナデの加えられた無文の平底。胴部下位は外傾して立ち上がり，無文帯となっている。内面は，縦位のヘラ状工具によるナデが施されている。	砂粒，パミス 浅黄橙色 普通	5% P212 中央部覆土下層
5	鉢形土器 縄文式土器	A [24.2] B (16.8)	口縁部から胴部に至る破片。胴部は，上位に膨らみを持ち，口縁部は，外傾して開く。口縁部に，幅広の横位のナデによる無文帯を有する。胴部上位には，両側にナゾリをもつ隆線により区画された横位の楕円文，渦巻文を有する。区画内は，単節RLが横位・斜位回転で充填されている。地文は，単節RLが縦位回転で施されている。内面は，横位の丁寧なナデが施され黒色で光沢をもつ。	砂粒，パミス 橙色 普通	20% P207 PL23 北部床面

第24図 6	鉢形土器 縄文式土器	B (6.2) C 8.0	底部から胴部にかけての破片。無文の平底。胴部下位は，緩やかに外傾して立ち上がる。胴部は，櫛歯状工具による縦位の条線文が施されている。下位に無文帯が巡る。内面は，横位のナデが施されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	10% P210 PL23 北部覆土上層

第25図は，第32号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。7・8は，口縁直下に一条の沈線が巡らされ，口縁部に無文帯が配されている。沈線下には，7は縦位条線文，8は単節RLの縦位回転で縄文が施されている。9は，上端部がやや内彎する深鉢形土器の口縁部片である。口縁部では横位に，胴部では縦位に，単節RLが地文とされている。その上に，口縁部では弧状の沈線が施され，胴部には二条の沈線が平行に垂下されている。10～12は，ナゾリを加えた隆線による横位の楕円文が区画された口縁部片である。10は単節RLの縦位回転で，11・12は，区画内に単節RLが横位回転で充填されている。13はキャリパー形土器の口縁部である。上位に引かれた沈線直上には，横位の爪形文が認められる。沈線下は方形状に区画され，区画内に複節RLRの横位回転で縄文が充填されている。内面は，ヘラ状工具による横位の丁寧なナデ整形が施されている。14は，口縁部に爪形文を巡らせ，胴部には，沈線による逆台形を区画し，無節Lの縦位回転で縄文が充填されている。15は，口縁部に二条の列点文が施されている。

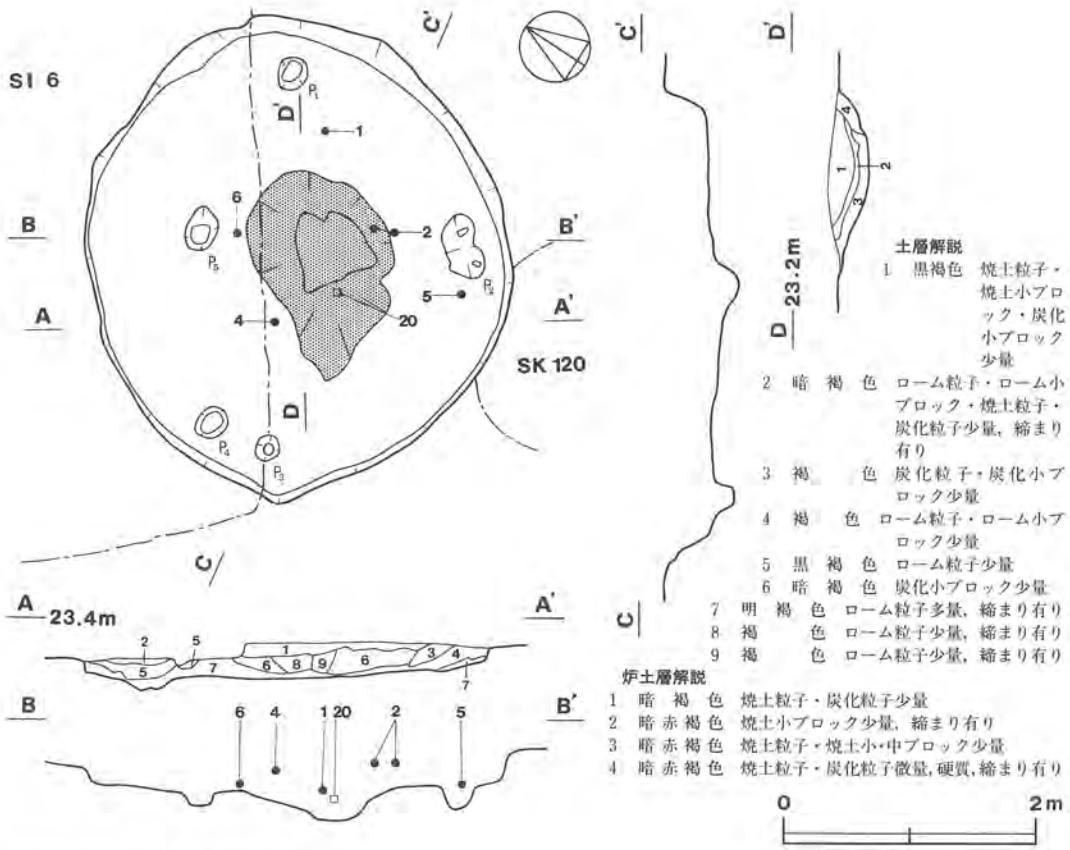
第33号住居跡（第26図）

位置　調査区の中央部。C19g$_3$区を中心に確認された。**重複関係**　第6号住居跡・第120号土坑と重複しているが，本跡の方が古い。**規模と平面形**　3.77×3.34mで，不整円形を呈する。

長径方向　N－47°－E。**壁**　壁高26～32cmで，外傾して立ち上がる。**床**　僅かな起伏はあるものの，ほぼ平坦で硬い床面である。**ピット**　5か所。P$_1$は，径29cm，深さ34cmで良好である。P$_2$は，長径53cm，短径23cm，深さは，19cm，28cmと底面が2つに分かれている。P$_3$～P$_5$は，径28～35cm，深さ11～17cmと浅い。これらのピットの位置関係から，P$_1$・P$_2$・P$_3$・P$_5$が主柱穴で，P$_4$は補助柱穴と思われる。**炉**　床面中央部に設けられ，長径168cm，短径111cmの不整楕円形を呈する大形の地床炉である。炉床は，床面を25cm程掘り窪めて構築され，ロームがレンガ状に赤変硬化している。**覆土**　自然堆積。下層は，締まりが有る。

遺物　中央部の覆土上層から下層，そして炉内の覆土から，加曽利EIII式の縄文式土器片883片が出土している。炉上位の中央部に集中して出土している。第27図1の深鉢形土器は，北東部床面に潰れて出土した。2・3・5は，南東部覆土上層から出土しており，4・6の底部は，中央部床面・床面直上から出土している。他に，18の石鏃が覆土，19の石匙が炉内覆土，20の石皿が中央部覆土上層から出土している。

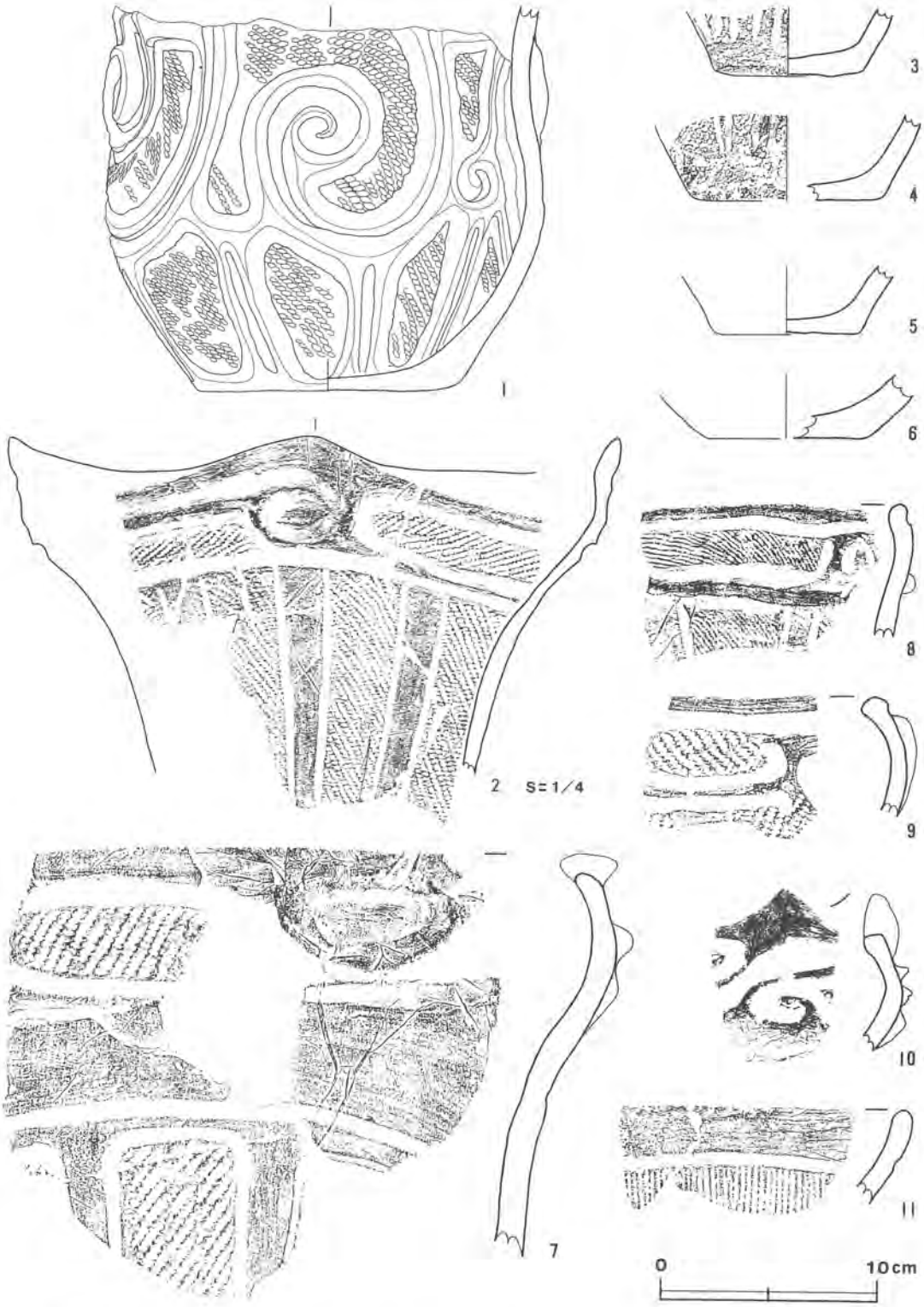
所見　覆土から，多量の土器片が出土しているが，ほとんど接合できないことから，本跡の廃絶後に投棄されたものと考えられる。



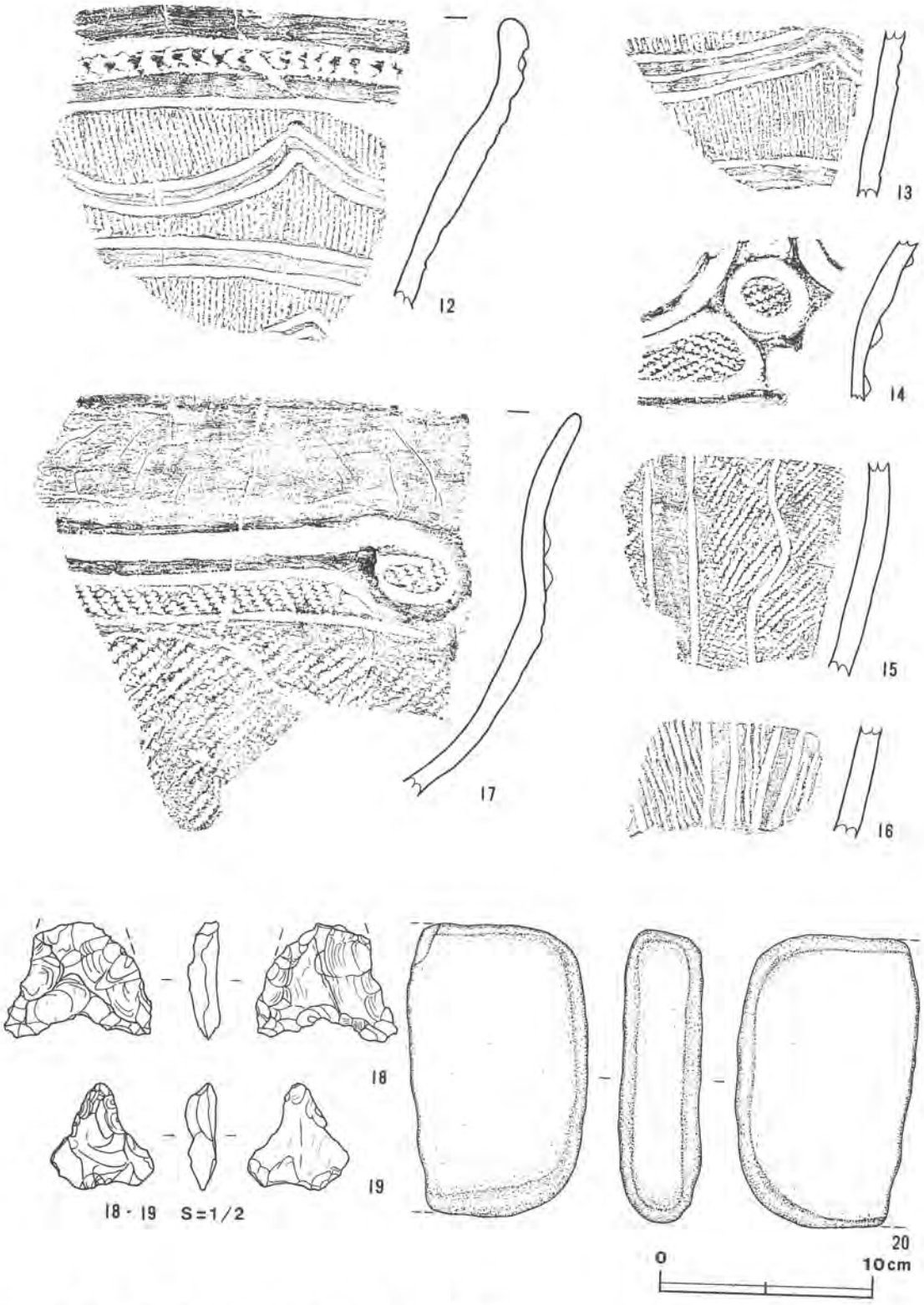
第26図　第33号住居跡実測図

第33号住居跡出土土器観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第27図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (17.9) C 16.0	底部から胴下半部の破片。広い底部で，中央に窪みをもち，底部を内側から貼付した痕跡を残す。胴部は，底部から外傾して立ち上がり中位でほぼ垂直に立つ。器面は，ナゾリを両側に加えた隆線による胴部隆帯文と渦巻文で区画され，下位は不整方形状に区画されている。区画内は，単節LRが縦位・斜位回転で充填されている。内面は，横位のヘラ状工具による丁寧なナデが施されている。胴上端部は意図的に欠かれている。	砂粒，石英 橙色 普通	40% P213 PL23 北東部床面
2	深鉢形土器 縄文式土器	A [37.0] B (20.8)	口縁部から胴部へ至る破片。口縁は，波状口縁を有する。胴部上位に巡る一条の沈線により，口縁部と胴部が区画されている。口縁部は，ナゾリが加えられた隆線による横位の楕円文，渦巻文で区画され，区画内は単節LRが横位回転で充填されている。胴部は二条の沈線により区画された磨消帯を垂下させている。区画外は単節LRの縦位回転で充填されている。口縁部内面は，横位のナデが施され，胴部は磨耗のため不明である。	砂粒，スコリア 橙色 普通	10% P214 PL23 南東部覆土上層
3	深鉢形土器 縄文式土器	B (3.2) C 6.8	底部。底部は，中央に僅かな窪みをもち，ナデが加えられている。胴下端部は，横位のナデが施され，二条の沈線により区画された磨消帯が確認できる。内面の整形は，磨耗のため不明である。	砂粒，パミス にぶい褐色 普通	5% P215 南東部覆土上層



第27図　第33号住居跡出土遺物実測・拓影図(Ⅰ)



第28図　第33号住居跡出土遺物実測・拓影図(II)

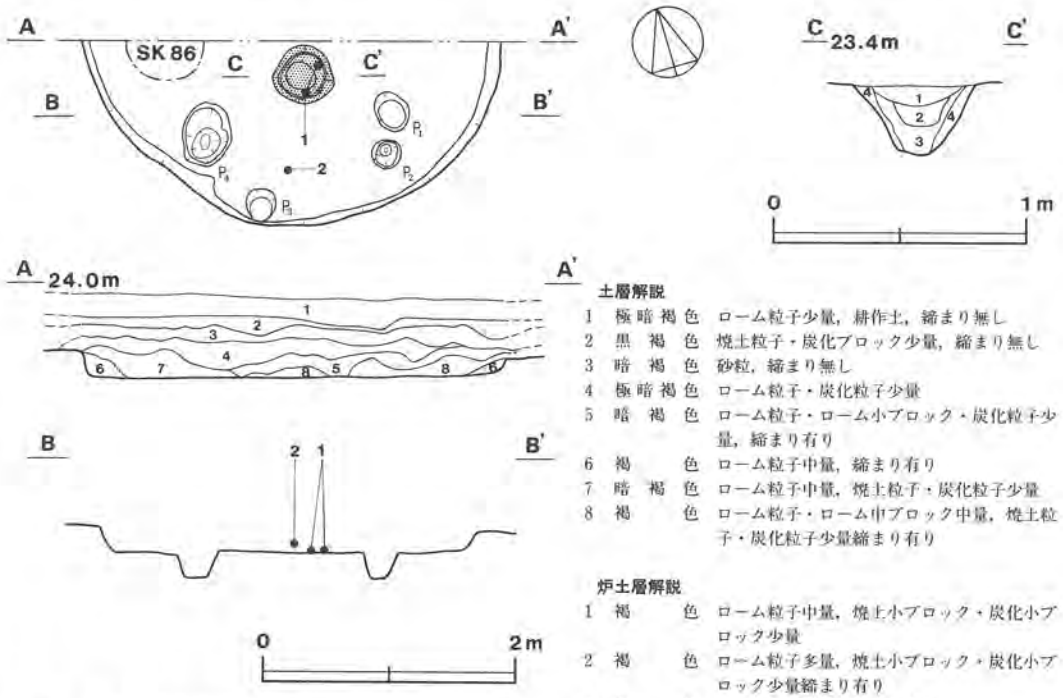
図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第27図 4	深鉢形土器 縄文式土器	B（4.0） C［8.2］	底部の破片。ナデが加えられた無文の平底。胴部下位は，外傾して立ち上がる。胴部は，二条の沈線で区画された磨消帯が垂下されている。区画外は，単節RLが縦位回転で充填されている。内面は，黒色でヘラ状工具によるナデが施されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	3% P216 中央部床面直上
5	深鉢形土器 縄文式土器	B（3.2） C［6.8］	底部の破片。無文の平底。胴部下位は，外傾して立ち上がる。胴部下端は，縦位のナデによる無文帯である。内面は，磨耗が著しく整形は不明である。	砂粒 橙色 普通	3% P217 南東部床面
6	鉢形土器 縄文式土器	B（3.0） C［7.2］	底部の破片。ナデが加えられた無文の平底。胴部下位は，緩やかに外傾して立ち上がる。胴下端は，横位のナデによる無文帯である。内面は，横位・縦位のナデが施されている。	砂粒 褐灰色 普通	3% P218 中央部床面

第27・28図は，第33号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。7～10は，キャリパー形を呈する深鉢形土器の口縁部片で，隆線・沈線による楕円文・渦巻文が配されている。7は，口縁部下位に幅広の無文帯をもち，胴部には磨消帯を垂下させている。8・9は，横位の楕円文の区画内を，8は無節R，9は単節RLを横位回転で充填させている。10は，波状口縁の突起部である。11・12は，沈線を巡らし口縁部を区画している。口縁部に，11は無文帯が巡らされ，12は半截竹管の連続刺突による爪形文が充填されている。12の胴部には，単節RLが斜位回転された縄文の上に，波状・横位の磨消帯が施されている。13～16は胴部片である。13は，縦位の条線文が施されている。14は上位のものと思われ，隆線による円文・楕円文が区画されている。15には，縦位の磨消帯と蛇行沈線が施されている。16は下半部で，地文に無節Lの縦位の絡条体回転圧痕文が施されている。17は，鉢形土器の口縁部から胴上半部の破片である。ナゾリを加えた貼付の隆線により区画された口縁部は，幅広の無文帯である。胴上端部には，沈線で区画された中に単節RLが横位回転された縄文帯を配している。胎土に砂粒を多く含む。

第34号住居跡（第29図）

位置　調査区の中央部。B16b$_3$区を中心に確認された。**重複関係**　第86号土坑と重複しているが，本跡の方が古い。**規模と平面形**　3.35×(1.48)mで，楕円形を呈するものと推定される。**長径方向**　N－67°－W。**壁**　壁高11～21cmで，外傾して立ち上がる。**床**　ほぼ平坦であるが，炉南側が僅かに小高く，全体に踏み固められている。**ピット**　4か所。P$_1$・P$_4$が径32～51cm，深さ20～37cmと良好なピットで主柱穴と思われる。P$_2$・P$_3$は，径23～27cm，深さ13～24cmで，規模や位置から補助柱穴と思われる。**炉**　床面中央部に設けられた，土器埋設炉である。径47cm，深さ30cmの擂鉢状を呈する掘り方の中に，深鉢形土器を埋設している。覆土中には，焼土粒子を多量に含むものの，硬化した焼土はほとんど検出されない。**覆土**　自然堆積。

遺物　主に，炉と南壁の間の覆土から，縄文式土器片73片が出土している。第30図1の加曽利EIII式のキャリパー形の深鉢形土器が，床面のほぼ中央部に埋設された状態で出土している。2の



土層解説

1 極暗褐色 ローム粒子少量，耕作土，締まり無し
2 黒 褐 色 焼土粒子・炭化ブロック少量，締まり無し
3 暗 褐 色 砂粒，締まり無し
4 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
5 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量，締まり有り
6 褐 色 ローム粒子中量，締まり有り
7 暗 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
8 褐 色 ローム粒子・ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量締まり有り

炉土層解説

1 褐 色 ローム粒子中量，焼土小ブロック・炭化小ブロック少量
2 褐 色 ローム粒子多量，焼土小ブロック・炭化小ブロック少量締まり有り
3 褐 色 ローム粒子多量，締まり有り
4 褐 色 ローム粒子・ローム中ブロック中量

第29図　第34号住居跡実測図

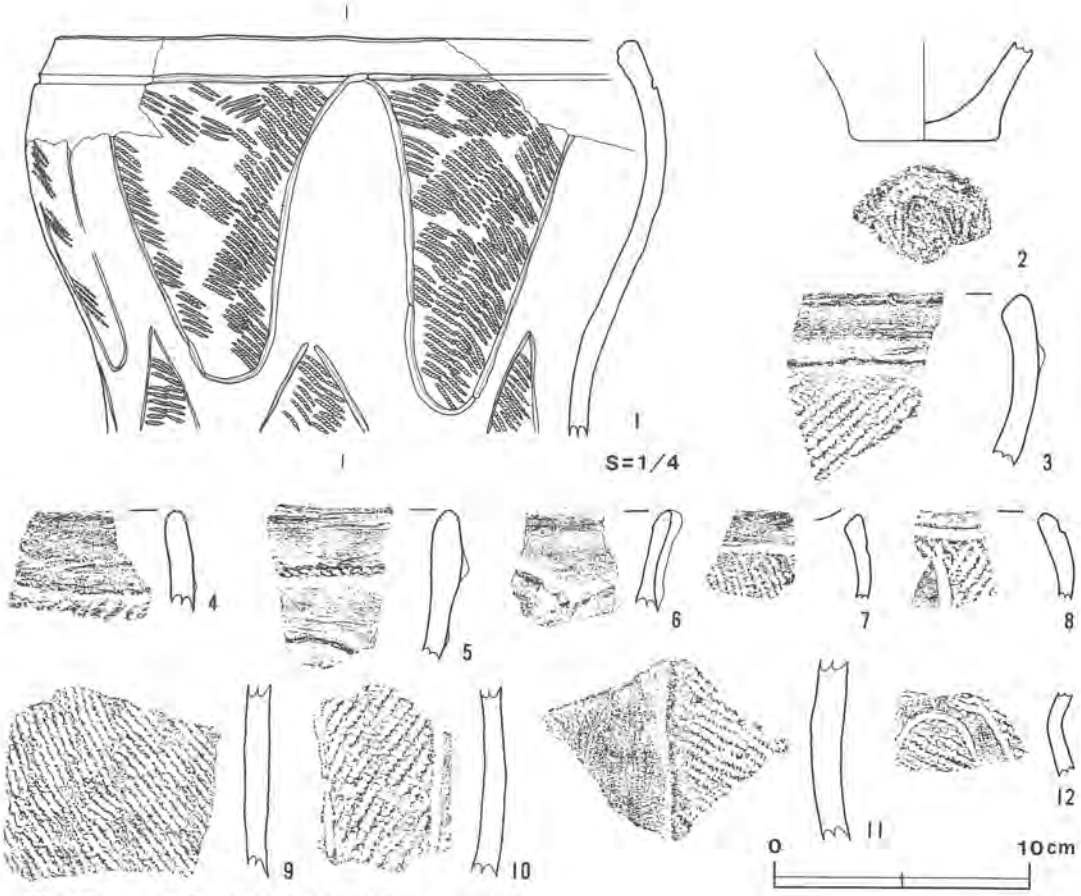
底部片は，南部の覆土下層から出土している。

所見　本跡は，北側の約2分の1は調査区域外であるため全体の調査ができなかった。

第34号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第30図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A［36.0］ B (21.2)	口縁部から胴上半部に至る破片。キャリパー形を呈す。土器埋設炉に二次利用されていた。口縁部の一部は残るが，胴部中位で意図的に水平に打ち欠かれている。上端部に，断面形がV字状の沈線が巡らされ口縁部と胴部が区画され，口縁部に無文帯が設けられている。胴部上位に，断面形がV字状の沈線で連続するU字状文が7単位区画され，単節LRが縦位回転で充填されている。胴部下位は，同沈線で逆V字状文を7単位区画し，区画内に単節LRが縦位回転で充填されている。内面は，磨耗が著しく不明であるが，口縁部近くは丁寧な横位のナデが認められる。	砂粒，石英 橙色 普通	40% P219 PL23 中央部床面
2	深鉢形土器 縄文式土器	B (4.0) C［ 5.4］	底部の破片。ヘラ状工具によるナデが施された無文の平底。胴部下位は，外反気味に立ち上がり無文である。内面の整形は不明。	砂粒 にぶい橙色 普通	5% P220 南部覆土下層

第30図は，第34号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。3・4は，口縁部片である。ナゾリを加えた断面が三角形の貼付の隆線により，口縁部が区画されている。胴部上位には単節RLが横位回転した縄文が施されている。焼成は良好である。5は，キザミ目をもつ隆線により口縁部が区画されている。また，隆線による曲線的モチーフが描かれている。6は，隆線による曲線的区画をもち，口縁部を僅かに外反させている。胎土に石英粒を多く含む。7は，深鉢

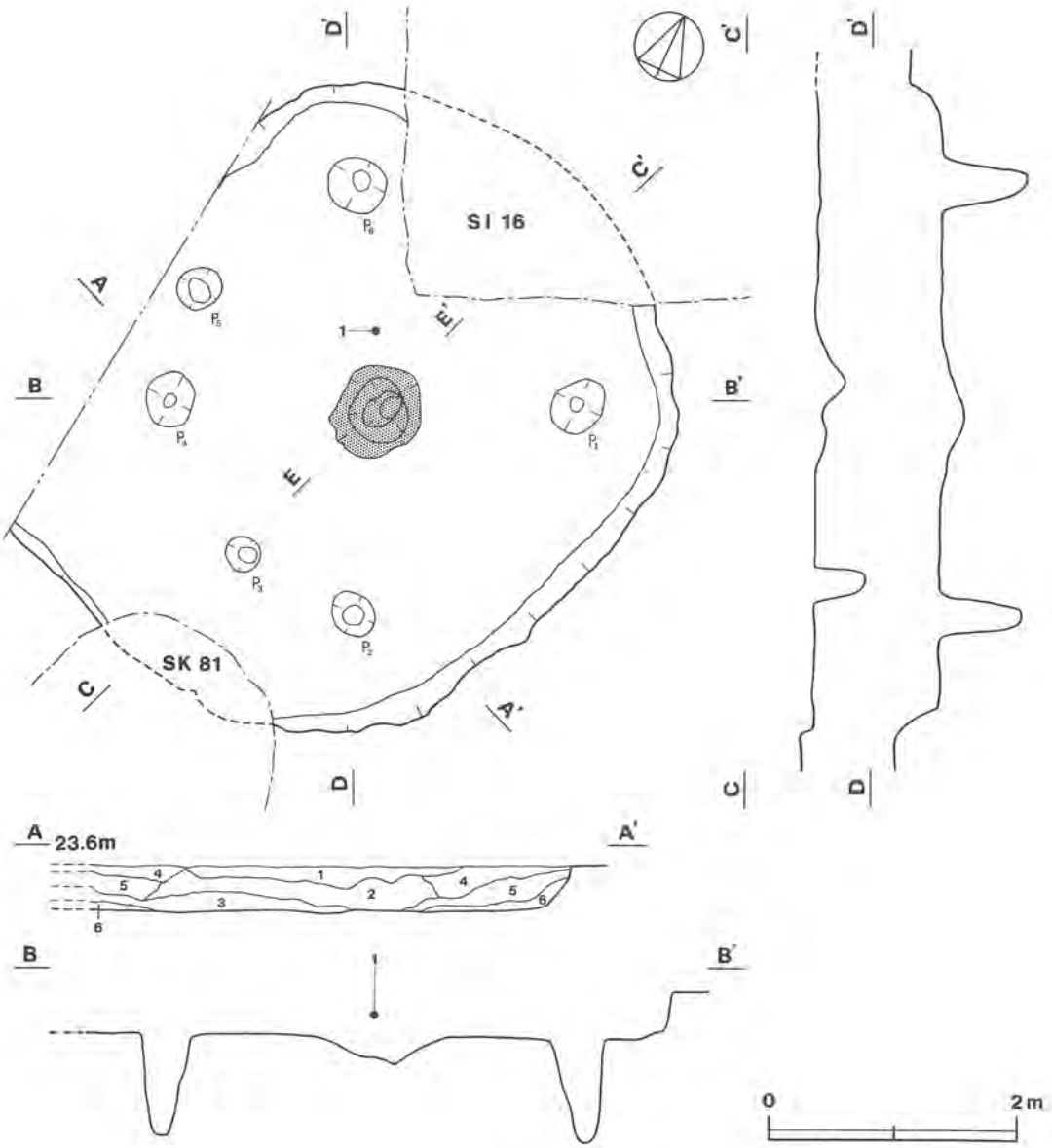


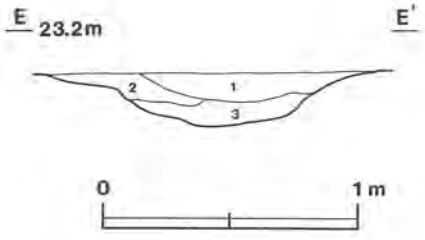
第30図　第34号住居跡出土遺物実測・拓影図

形土器の波状口縁部片である。沈線により口縁部が区画され，無節Rの縦位回転で縄文が施されている。8は沈線による区画をもち，単節LRの横位回転で縄文が施されている。9～12は胴部片である。9は，無節Rの縄文が施されている。10・11は磨消帯が垂下され，その区画内には縄文が充填されている。10の内面は，横位の丁寧なナデ整形が施され光沢をもつ。12は，沈線による区画された磨消帯により，曲線的区画がなされ，無節Lが縦位回転で充填されている。内面は横位の丁寧なナデ整形が施され黒色を呈する。

第35号住居跡（第31図）

位置　調査区の中央部。B17i8区を中心に確認された。**重複関係**　第16号住居跡・第81号土坑と重複しているが，本跡の方が両遺構より古い。**規模と平面形**　[5.28]×(4.28)mで，不整楕円形を呈するものと推定される。**長径方向**　N－16°－E。**壁**　東側の壁が幾分高めである。壁高25～40cmで，外傾して立ち上がる。**床**　ほぼ平坦で，全体的に硬い。**ピット**　6か所。P_1～P_6は壁に沿って，炉を囲むように検出され，規模は径29～50cm，深さ42～85cmと良好で，主柱穴と思われる。**炉**　床面中央部に検出され，長径82cm，短径60cmの不整楕円形を呈する地床炉であ





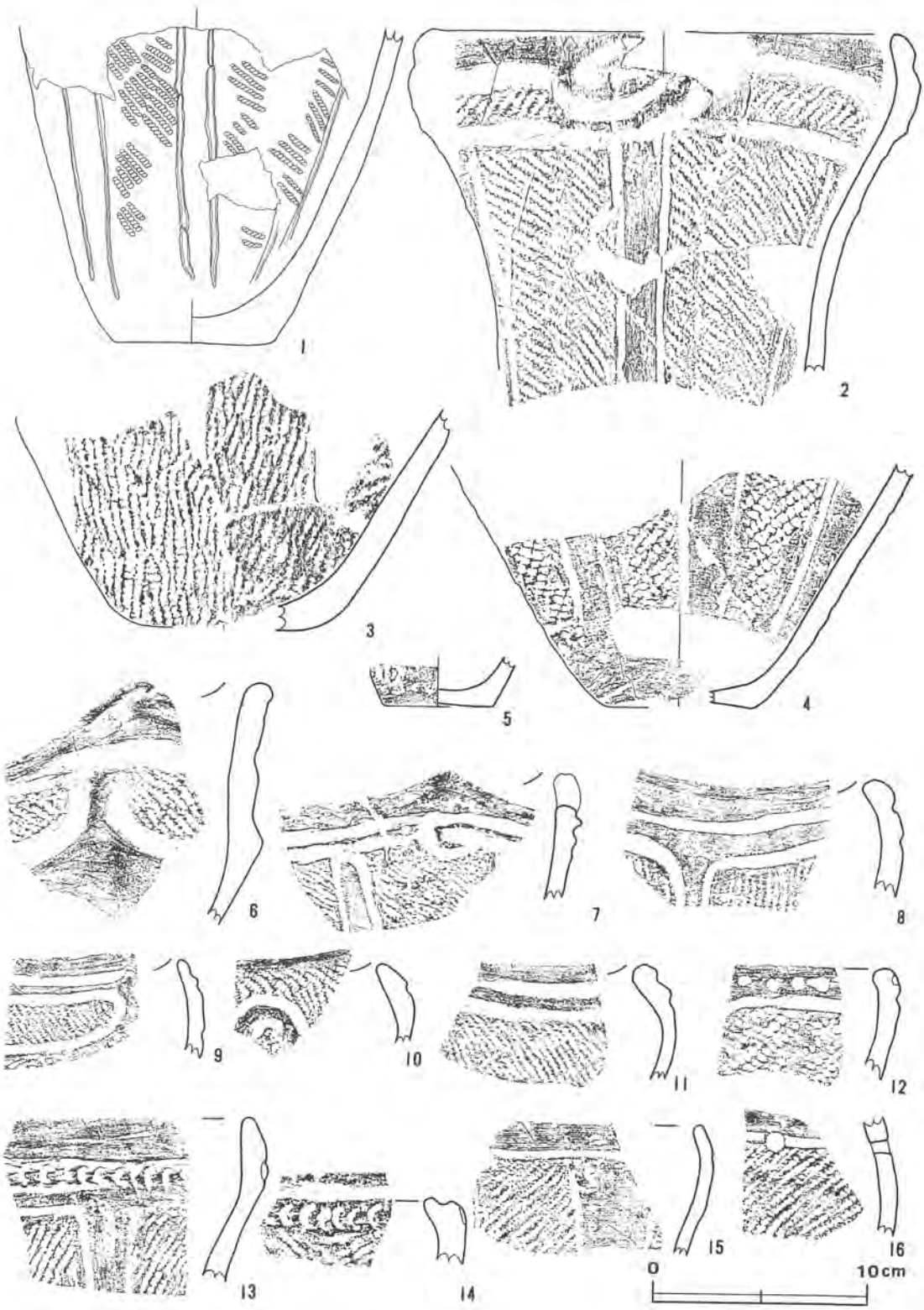
土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，締まり有り
2 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，締まり有り
3 褐 色 ローム粒子中量，締まり有り
4 褐 色 ローム粒子中量
5 褐 色 ローム粒子中量
6 褐 色 ローム粒子中量，締まり有り

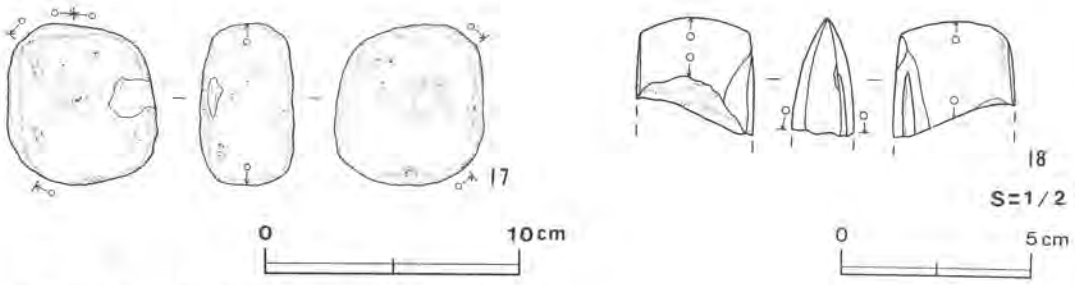
炉土層解説

1 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量，締まり有り
2 にぶい赤褐色 焼土粒子少量，炭化粒子中量，締まり有り
3 暗 赤 褐 色 焼土粒子多量，締まり有り

第31図　第35号住居跡実測図



第32図　第35号住居跡出土遺物実測・拓影図(Ⅰ)



第33図　第35号住居跡出土遺物実測図(II)

る。炉床は,床面を20cm程二段に掘り窪められており,暗赤褐色の焼土が硬化して遺存している。

覆土　自然堆積。上層より下層に至るまで，硬く締まった覆土である。

遺物　覆土から，縄文式土器の破片が758片出土している。第32図1は，中央部の覆土から出土した加曽利EIII式の深鉢形土器で，炉内覆土から出土した破片と，覆土中出土の土器片を接合したものである。2は，北東部下層から出土した深鉢形土器の破片である。北東部覆土上層からは17の磨石，18の磨製石斧片が出土している。

所見　本跡は，覆土から多量の土器片が出土しているが，ほとんど接合できないことから本跡廃絶後に投棄されたものと考えられる。

第35号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第32図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (14.9) C　7.2	底部から胴下半部に至る破片。丁寧なナデが施された，無文の平底。胴部下位は，底部からほぼ垂直に近い角度で立ち上がる。胴部は，二条の沈線により区画された磨消帯を8単位垂下させ，区画外に，単節LRが縦位回転で充填されている。胴下端部は，無文帯となっている。内面の整形は，磨耗のため不明である。	砂粒 橙色 普通	30% P221 PL23 中央部覆土下層 内面に，炭化物付着
2	深鉢形土器 縄文式土器	A [22.0] B (15.9)	口縁部から胴部に至る破片。口縁部に膨らみをもつ。平縁である。口縁部は，沈線と両側にナゾリを加えた隆線による楕円文で区画され，区画内に単節LRが横位回転で充填されている。胴部は，二条の沈線により区画された磨消帯を垂下させ，磨消文間に単節LRが縦位回転で充填されている。内面の口縁部は，横位，胴部は縦位の丁寧なナデが施され光沢をもつ。	砂粒，スコリア にぶい橙色 普通	20% P222 PL23 北東部覆土下層
3	深鉢形土器 縄文式土器	B (10.7) C [7.2]	底部から胴下半部に至る破片。無文の平底で，胴部下位は，外傾して立ち上がる。胴部は，地文に単節RLが縦位・斜位回転で施されている。内面は磨耗が著しいが，縦位・斜位のナデが認められる。	砂粒，小礫 浅黄橙色 普通	10% P223 PL23 北東部覆土下層
4	深鉢形土器 縄文式土器	B (11.7) C [6.8]	底部から胴下半部に至る破片。底部は，ナデが加えられた無文で，中央部に僅かな窪みをもつ。胴部下位は，外傾して立ち上がる。胴部は，二条の沈線で区画された磨消帯を垂下させ，磨消帯間に単節RLが縦位回転で充填されている。胴下端部は，無文帯となっている。内面は，黒色で縦位のヘラ状工具によるナデが施されている。	砂粒，スコリア にぶい橙色 普通	10% P224 PL23 北東部覆土上層
5	深鉢形土器 縄文式土器	B (2.4) C　5.2	底部。底面は，ヘラ状工具によるナデが加えられた無文で，中央部に僅かな窪みをもつ。胴下端部は無文帯である。内面は，縦位のナデが施されている。	砂粒 淡橙色 普通	5% P225 北東部覆土上層

第32図は，第35号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。6～11は深鉢形土器の波状口縁部片である。6の口縁部には，突出する隆線による楕円文が配されている。7は，微隆線による横位の蕨手文がモチーフとして描かれ，口縁部が区画されている。胴部は，逆U字状の磨消文が垂下され，区画内に無節Rが縦位回転で充填されている。8～10は，曲線的・横位楕円・渦巻状のモチーフが描かれている。9は薄手で，焼成も良好である。区画内には，単節RLが横位回転で充填されている。10は上端部に至るまで，単節RLが横位回転で施されている。11はキャリパー形を呈し，口縁部は断面がカマボコ形の隆線により区画されている。12は口縁部に沈線による区画が配され，丸棒状工具による列点文が施されている。13・14は，口縁直下に連続の爪形文が施文され，口縁部が区画されている。13の胴部には磨消帯が垂下され，区画内に単節RLが縦位回転で充填されている。15は，キャリパー形の口縁部片で，一条の沈線が巡らされ口縁部が区画され，胴部には幅広の磨消帯を垂下し，区画外の単節RLが縦位回転で充填されている。16は，口縁部を区画する一条の沈線内に穿孔が施されている。胴部には，単節RLが縦位回転で施されている。

第36号住居跡（第34図）

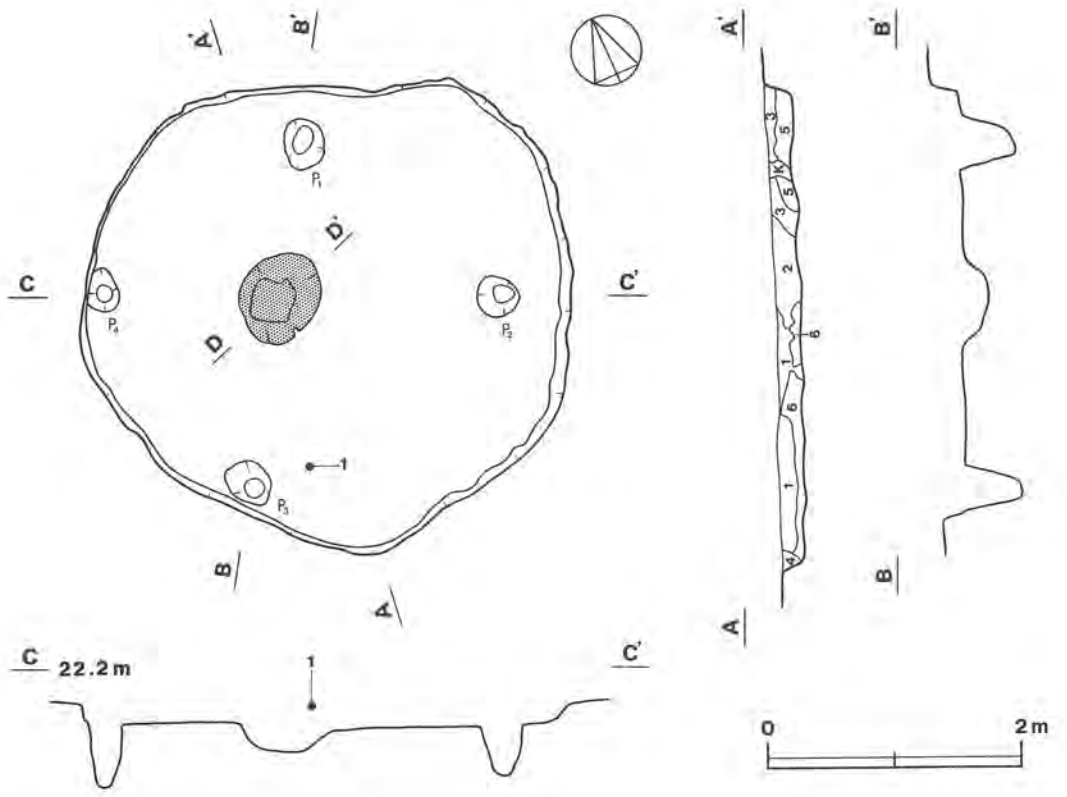
位置　調査区の中央部東端。A12e$_9$区を中心に確認された。**規模と平面形**　3.87×3.82mで，不整円形を呈する。**長径方向**　N－53°－W。**壁**　壁高16～21cmで，外傾して立ち上がる。**床**　北側が幾分高く，南側へ傾斜している。炉の南側に，硬い床が検出されている。**ピット**　炉を囲むように，4か所が検出されている。P$_1$～P$_4$は，径28～42cm，深さ41～50cmを測る良好なピットで，主柱穴と思われる。**炉**　床面中央部の西寄りに設けられ，長径77cm，短径59cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は，床面を27cm掘り窪めて構築している。断面形は，西側を垂直に近く掘り込んだ逆台形状である。炉内の覆土中には，焼土粒子が中量含まれているが，ブロック化した焼土の遺存は少ない。**覆土**　自然堆積。

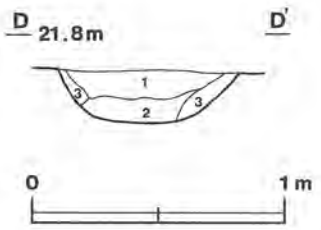
遺物　炉の覆土上層を中心に，縄文式土器片が123片出土している。第35図1の加曽利EIII式の深鉢形土器の破片は，南部の覆土上層から出土している。床面からは，1と同じ形式の破片が3片出土している。

所見　床面出土の土器片と覆土出土の土器片は，時期も一致することから本跡の時期に伴うものと考えられる。

第36号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第35図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (2.0) C [4.6]	底部の破片。底部は，ナデの加えられた無文の平底。胴部下位は外傾して立ち上がる。胴下端部は無文帯となっている。内面の整形は，磨耗のため不明である。器厚が薄い。	砂粒 橙色 普通	5% P226 南西部床面直上





土層解説

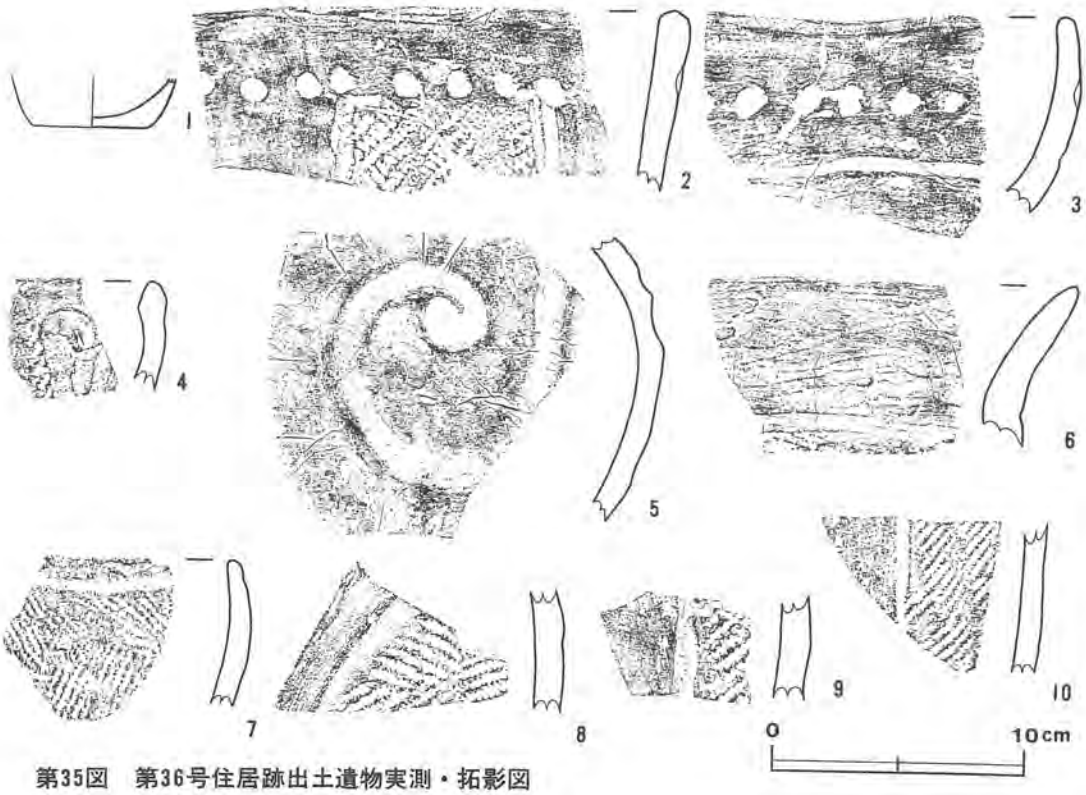
1	褐	色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，硬質
2	褐	色	ローム粒子多量，締まり有り
3	明褐	色	ローム粒子多量
4	暗褐	色	ローム粒子少量，ローム小ブロック中量
5	明褐	色	ローム粒子多量
6	褐	色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量

炉土層解説

1	褐	色	ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
2	にぶい赤褐	色	ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
3	明褐	色	ローム粒子多量

第34図　第36号住居跡実測図

第35図は，第36号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。2・3は，丸棒状工具による列点文により口縁部が区画されている。2は，胴部に幅広の磨消帯が垂下され，区画外に単節RLが縦位回転で充填されている。3は，キャリパー形土器の口縁部片である。4は，口縁部直下まで沈線による蕨手文が配されている。5は，沈線による渦巻文のモチーフが配されたキャリパー形土器の胴部片である。内面は，ヘラ状工具による横位の丁寧なナデが施され黒色を呈する。6は，外反する幅広の口縁部片である。胴部とは輪積み部から剥離している。7は，沈線により口縁部が区画されている。胴部上位には，単節RLが横位回転で施され，その下位には，同原体の縦位回転で縄文が施されている。8～10は胴部片である。8は，ナゾリを加えた隆線により曲線的区画が配されている。9・10は，磨消帯が垂下され，区画外に単節RLが縦位回転で充填されている。



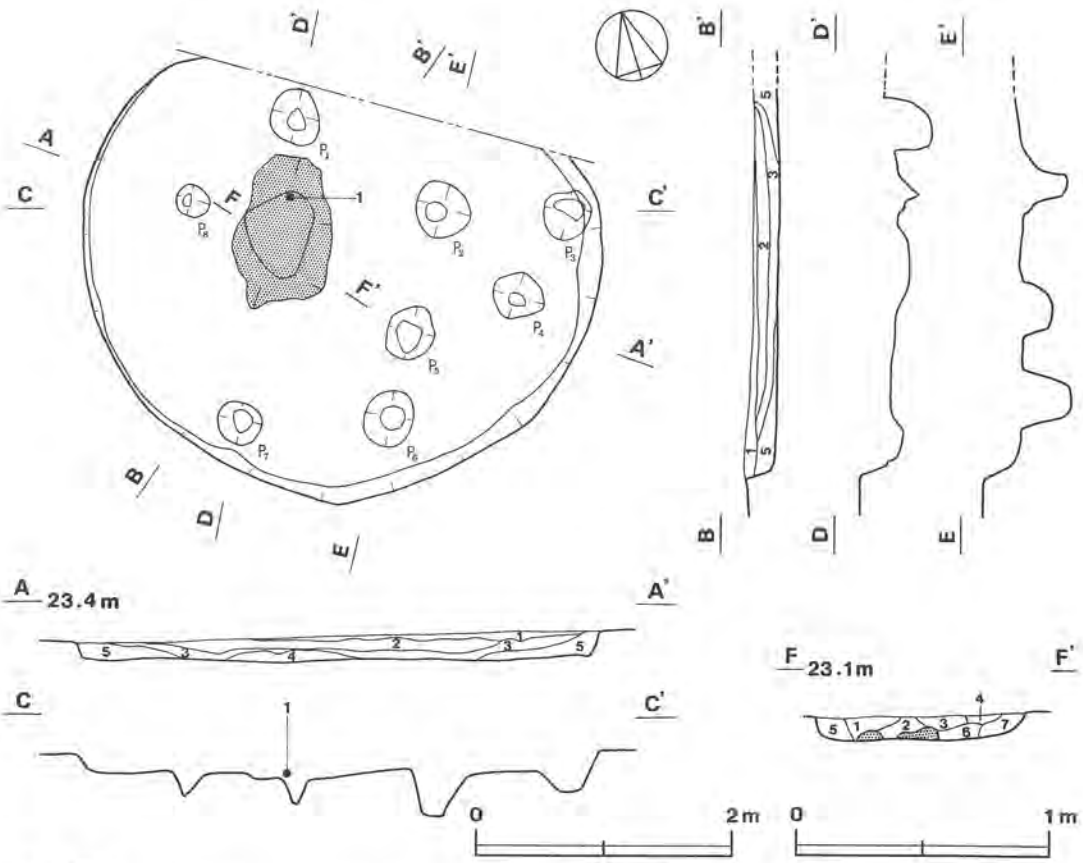
第35図　第36号住居跡出土遺物実測・拓影図

第38号住居跡（第36図）

位置　調査区の東部。C19i₀区を中心に確認された。**規模と平面形**　4.06×(3.13)mで，楕円形を呈するものと推定される。**長径方向**　N－57°－W。**壁**　南から南東側が高く，壁高12～26cmで，緩やかに傾斜して立ち上がる。**床**　僅かに，東側が高く，炉周辺を中心に硬い。**ピット**　8か所。P_1・P_2・P_4・P_6は，径43～49cm，深さ33～60cmと良好なピットであり主柱穴と思われる。P_3・P_5・P_7・P_8は，径27～45cm，深さ11～22cmと浅く，柱穴とは考えにくい。**炉**　床面中央部の西寄りに検出され，長径124cm，短径74cmの不整楕円形を呈する地床炉である。炉内の北側に加曽利ＥⅢ式の細身の深鉢形土器が埋設されている。炉床は，床面を17cm程掘り窪めて構築され，レンガ状に硬化した焼土が厚く遺存している。**覆土**　自然堆積。

遺物　覆土からは，縄文式土器の破片が139片出土している。床面からは，第37図１の埋設された深鉢形土器の他，同式の胴部片が１片出土している。埋設されていた深鉢形土器は，口縁部と底部が欠損している。

所見　炉の北端の埋設土器は，形状が細身で煮炊きの為に使用されたものとは考えにくく，火種保存等の用途が想定できる。



土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・炭化粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子少量
3 褐色 ローム粒子中量
4 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，締まり有り
5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，締まり有り

炉土層解説

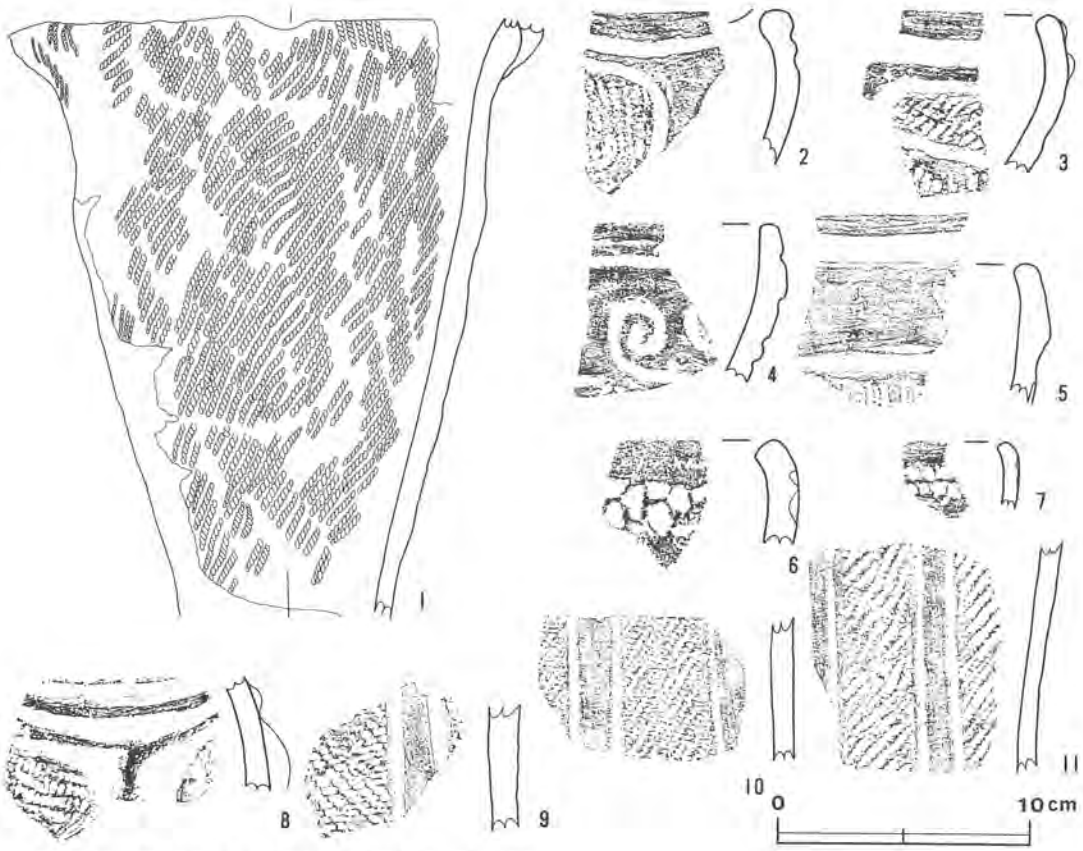
1 赤褐色 ローム粒子中量，焼土粒子多量，焼土小ブロック少量
2 にぶい赤褐色 ローム粒子中量，焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，炭化中ブロック中量
3 褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，軟質
4 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
5 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
6 赤褐色 ローム粒子・ローム中ブロック中量
7 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量

第36図　第38号住居跡実測図

第38号住居跡出土土器観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第37図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (23.8)	底部と口縁部が欠損。口縁部は，水平に欠損しており意図的に打ち欠かれた可能性が大きい。胴部は，ほぼ垂直に近く立ち上がり中位上部に僅かな膨らみをもつ。口縁部に，二対の把手の痕跡が認められる。胴部には，単節RLが縦位回転されている。内面は，胴上半部は横位の，下半部は縦位の丁寧なナデが施されている。	砂粒，スコリア にぶい橙色 普通	70% P236 PL24 中央部床面

第37図は，第38号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。2～4は，口縁部に曲線的モチーフが配された破片である。2は波状口縁で，区画内に単節RLが横位回転で充填されている。胎土に金雲母を多く含む。3はキャリパー形を呈し，区画内に単節LRが横位回転で充填されている。4には渦巻文が配されている。胎土に石英粒を多く含む。2～4とも，内面は横位

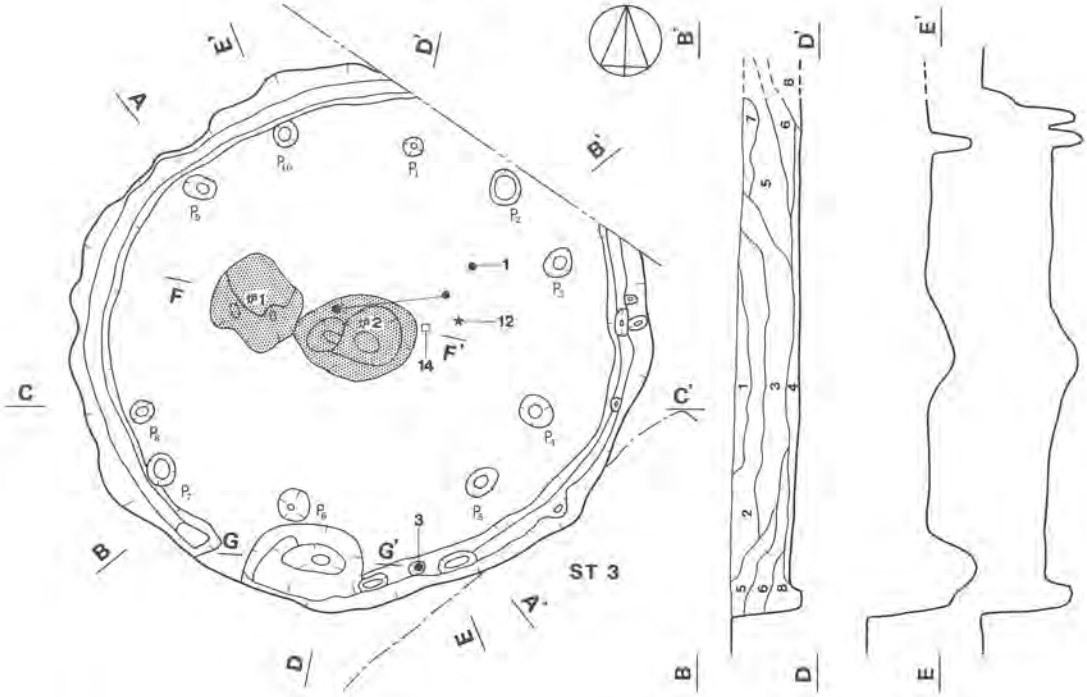


第37図　第38号住居跡出土遺物実測・拓影図

の丁寧なナデ整形が施されている。5は，口縁部を幅広の無文帯とし，胴部には櫛歯状工具による縦位の条線文が施されている。6は，二条の列点文が巡らされ，列点間の隆線を波状のモチーフとしている。7は，二条の列点文で口縁部が区画されている口縁部片である。内面は，横位の丁寧なナデ整形が施され黒色を呈する。8は口縁部直下の破片で，貼付隆線による曲線的モチーフが描かれている。9は磨消帯が垂下され，区画外に単節LRが縦位回転で充填されている。内面は，縦位の丁寧なナデ整形が施され光沢をもつ。10・11は，磨消帯間に単節RLが縦位回転で充填されている。11の胎土には石英粒を多く含む。

第47号住居跡（第38図）

位置　調査区の東部。D21i$_9$区を中心に確認された。**規模と平面形**　4.56×(4.23)mで，円形を呈する。**壁**　壁高46～50cmで，壁は，垂直に立ち上がり良好である。**壁溝**　幅15～36cm，深さ8～22cmを測り，断面形がU字状を呈している。貯蔵穴西側の一部を除いて，周回している。また，底部には壁柱穴痕が確認されている。**床**　北東部が僅かに高く，全体が硬い床である。**ピット**　10か所。壁に沿って10か所が並んでおり，小規模で径18～28cm，深さ22～34cmのほぼ同規



土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子中量，締まり有り
2 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，締まり有り
3 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子中量，締まり有り
4 灰 褐 色 ローム粒子多量，締まり有り
5 黒 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック微量，締まり有り
6 灰 褐 色 ローム粒子多量
7 黒 褐 色 ローム粒子多量，締まり有り
8 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量

貯蔵穴土層解説

1 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量，軟質
2 明 褐 色 ローム粒子中量，締まり有り
3 暗 褐 色 ローム小ブロック少量
4 褐 色 ローム粒子少量

炉土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化小ブロック少量
2 暗 褐 色 焼土粒子少量，締まり有り
3 褐 色 ローム粒子少量
4 にぶい赤褐色 ローム粒子少量，焼土粒子多量，焼土小・中ブロック少量
5 明 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子中量，焼土小・中ブロック少量，締まり無し
6 明 褐 色 焼土ブロック少量

第38図　第47号住居跡実測図

格の主柱穴である。**貯蔵穴**　南壁際に付設され，平面形は不整楕円形を呈し，掘り方は，長径97cm，短径60cmで床面を42cm程二段に掘っている。**炉**　2か所。炉1は，中央部やや西寄りに，長径72cm，短径58cmの不定形を呈する地床炉で，炉床は，4cm程掘り窪められ，明褐色の焼土が遺存している。炉2は，床面中央部に長径96cm，短径68cmの不整楕円形を呈する地床炉である。炉床は，床面を皿状に25cm程掘り窪めて構築され，にぶい赤褐色の焼土が遺存している。

覆土　自然堆積。各層とも，黒褐色土を中心とした締まりの有る覆土である。

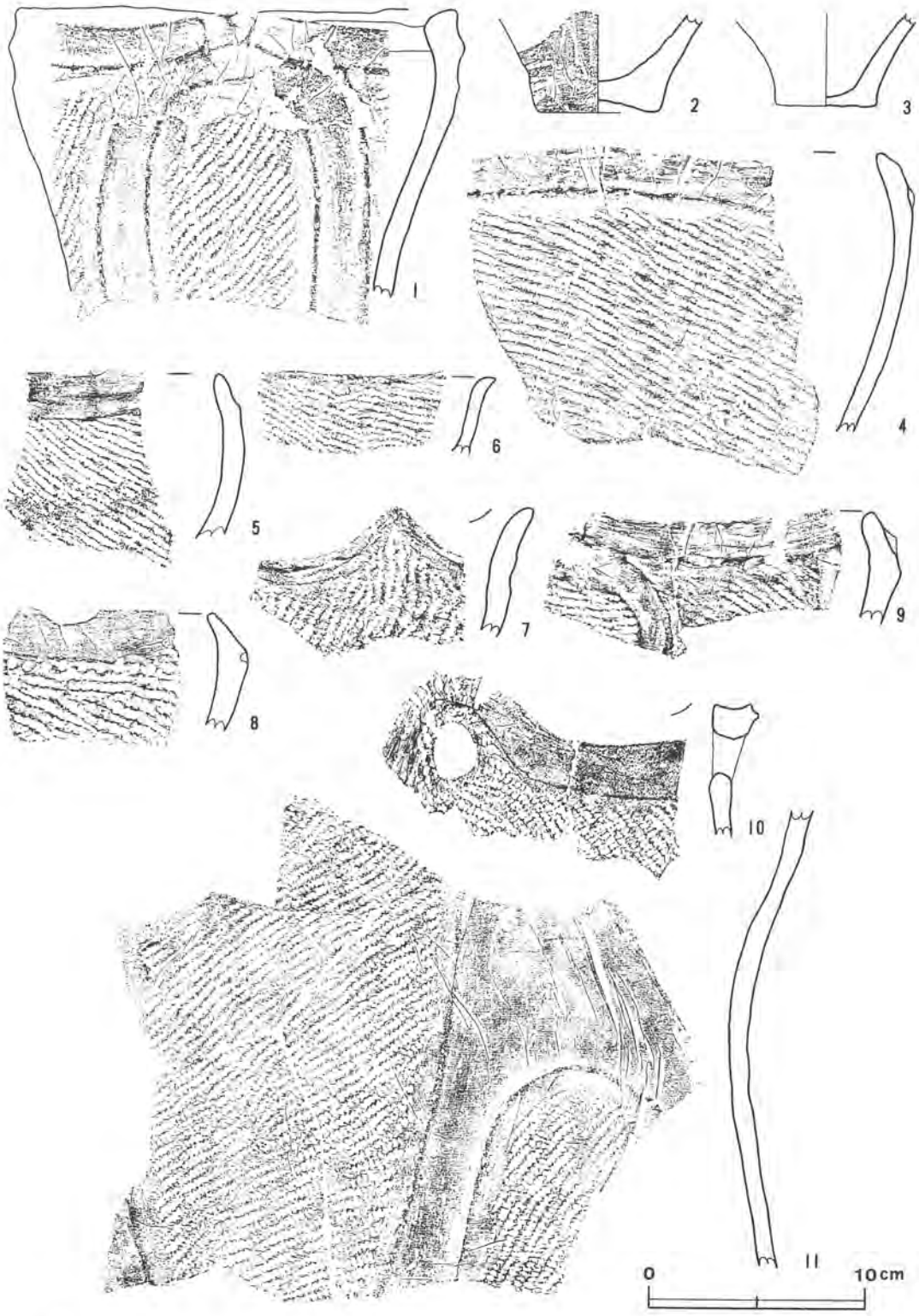
遺物　中央部の覆土から，集中して縄文式土器片1,266片が出土している。北東部の床面からは，第39図1の加曽利EⅣ期に比定される深鉢形土器の口縁部が出土している。また，南東部の壁際から底部が逆位で出土している。他に，第40図12の土製円板と14の磨石が中央部覆土下層から出土している。13の剝片は，南東部覆土上層から出土している。

所見　本跡は，多量の縄文式土器片を覆土中から出土している。それらの土器片は，ほとんど接合が不可能であることから，本跡が廃絶後，投棄されたものと考えられる。

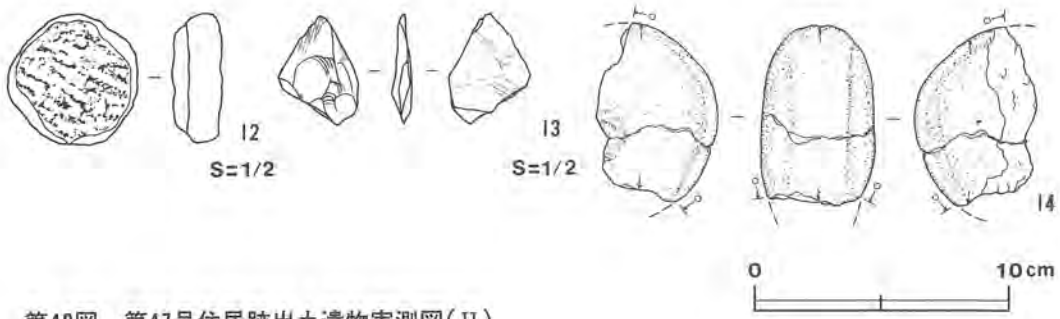
第47号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第39図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [19.0] B (13.2)	口縁部から胴上半部に至る破片。口縁部は，推定で二対の波状突起を有する。また，両側にナゾリを加えた微隆線が巡らされ，口縁部に無文帯が設けられている。胴部は，ナゾリを加えた二条の微隆線で区画された磨消帯を逆U字形に垂下させている。区画内及び地文に，単節RLが縦位回転で施されている。内面は，横位のナデが施されている。	砂粒 赤色 普通	30% P359 PL24 中央部床面 内面に炭化物付着
2	深鉢形土器 縄文式土器	B (4.5) C 5.4	底部。底部は突出しており，中央部に窪みをもつ。胴部下位は，外傾して立ち上がる。胴下端部は，横位のナデが施されている。内面は黒色で，ヘラ状工具による縦位のナデが施されている。	砂粒 浅黄橙色 普通	10% P360 南西部覆土下層
3	深鉢形土器 縄文式土器	B (4.3) C 4.8	底部から胴部下位に至る破片。小さな平底で，胴部下位は，外反気味に立ち上がる。胴下端部は縦位のナデが施されている。内面は，ヘラ状工具による縦位のナデが施されている。	砂粒，雲母，石英 にぶい褐色 普通	10% P361 南東部床面

第39図は，第47号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。4・5は，キャリパー形土器の口縁部片である。4は，微隆線により口縁部が区画され，無文帯とされている。5は，沈線が巡らされ区画されている。6は，小形の深鉢形土器の口縁部片で，上端部まで単節LRが縦位・斜位回転で施されている。端部は僅かに外反する。7は尖った波頂部をもつ波状口縁部の破片である。端部にはナゾリが加えられ，口縁部は単節RLが縦位回転で施されている。8・9は，器厚を減じながら内傾する無文の口縁部をもつ。8は稜をもち，稜下には刺突による列点文が施され，胴部は単節LRが縦位・斜位回転で施されている。9は，ナゾリを加えた隆線により区画されている。10は，波状口縁部であり，波状部に縦位楕円形の孔が空けられている。口縁部は微隆線で区画された無文帯である。11は胴部片で，微隆線で区画された磨消帯を垂下させている。磨消帯間は，単節RLが縦位回転されている。胎土に，砂粒・石英粒を多く含む。



第39図　第47号住居跡出土遺物実測・拓影図(Ⅰ)



第40図　第47号住居跡出土遺物実測図(II)

第50号住居跡（第41図）

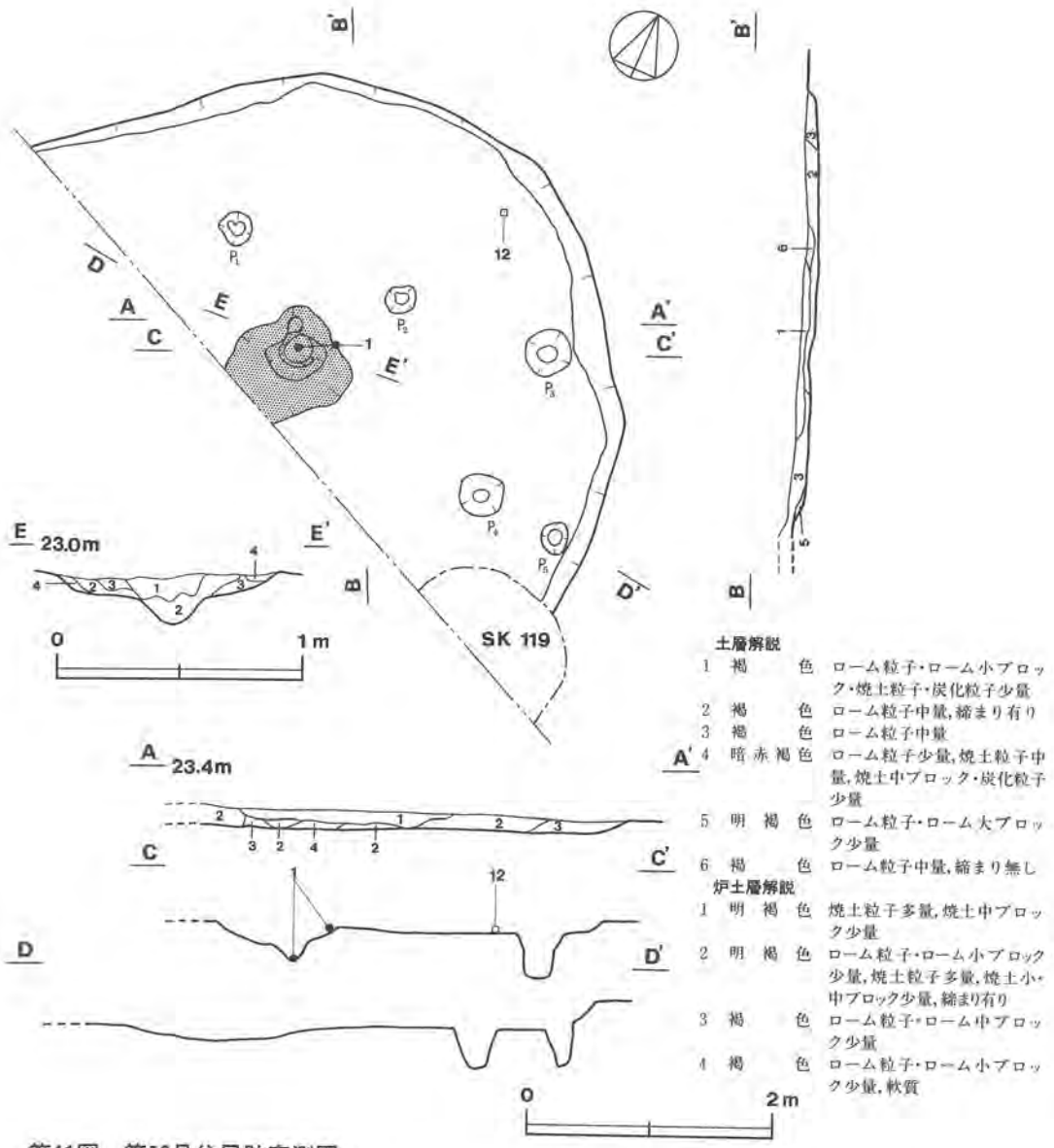
位置　調査区の東部。E21b$_8$区を中心に確認された。**重複関係**　第119号土坑と重複しているが，本跡が古い。**規模と平面形**　5.70×(3.04)mで，不整円形を呈するものと推定される。**長径方向**　N－64°－W。　**壁**　壁高6～21cmで，緩やかな傾斜で立ち上がる。**床**　ほぼ平坦であるが，炉周辺と壁際が僅かに高く硬い。**ピット**　5か所。P$_3$・P$_4$は，径38～40cm，深さ33～38cmで主柱穴と思われる。P$_1$・P$_2$は，径28～29cm，深さ15～16cmで，補助柱穴と思われる。P$_5$は，径26cm，深さ35cmで，その位置から考え，屋内施設に伴うものであると思われる。**炉**　床面中央部に設けられ，長径83cm，短径78cmの不整楕円形を呈した土器埋設炉である。掘り方の中にはキャリパー形の深鉢形土器が埋設されており，炉の北東寄りは27cm程掘り窪められている。炉床や土器内覆土中には，明褐色の焼土が多量遺存している。**覆土**　自然堆積。

遺物　遺物は，炉上層の覆土から加曽利EIII式の深鉢形土器の胴部片等が64片出土している。土器埋設炉に使用されている第42図1の深鉢形土器は，加曽利EIII式に比定される。底部は，欠かれているが口縁部等は，良好な状態で残っている。北部の壁近くの床面からは，12の磨製石斧が横位で1点が出土している。

所見　本跡は，南側の約2分の1が調査区域外であり，全体の様子を把握することはできなかった。

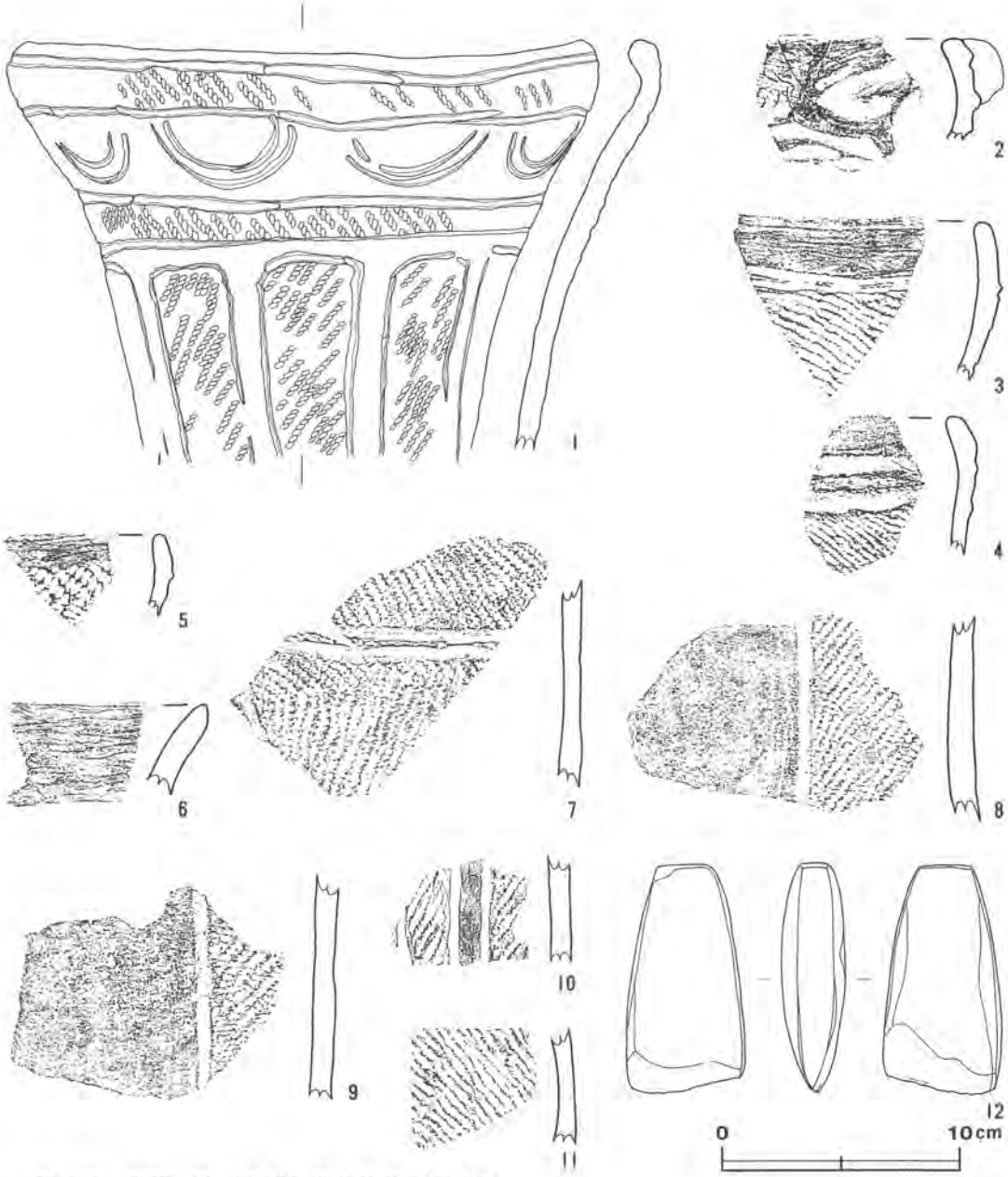
第50号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第42図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A　26.2 B　(17.5)	キャリパー形を呈する。胴下端部は，意図的に打ち欠かれている。口縁部は，二条の沈線間に単節RLを横位回転で充填させた二条の文様帯で区画し，幅広の区画内に二条の沈線による連弧文のモチーフが9単位巡らされている。胴部は，二条の沈線で区画した連続の逆U字状磨消帯を垂下させ，10単位の区画外に単節RLが縦位回転で充填されている。内面は，丁寧な横位のナデが施されている。	砂粒，スコリア 橙色 普通	90% P363 PL24 中央部床面 土器埋設炉に使用



第41図　第50号住居跡実測図

第42図は，第50号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。2は，突出した隆線による曲線的区画をもつ口縁部片である。3は，沈線により口縁部が区画され，胴部は無節Rが横位回転で施されている。4は，二条の沈線で区画された無文帯で口縁部が区画されている。5は，口縁部を無文帯とし，胴部に単節RLが横位回転で施されている。6は，幅広の無文帯をもつ口縁部片である。7～11は胴部片である。7は，磨消帯を横位に配し，上位に単節RLが横位回転で施され，下位は同原体による縦位回転で施文されている。8・9は，幅広の磨消帯を垂下させている。7～9の胎土には，金雲母が多く含まれている。10は磨消帯を垂下させ，区画内に無節Rが縦位回転で充填されている。11は，無節Lが横位回転で施されている。



第42図　第50号住居跡出土遺物実測・拓影図

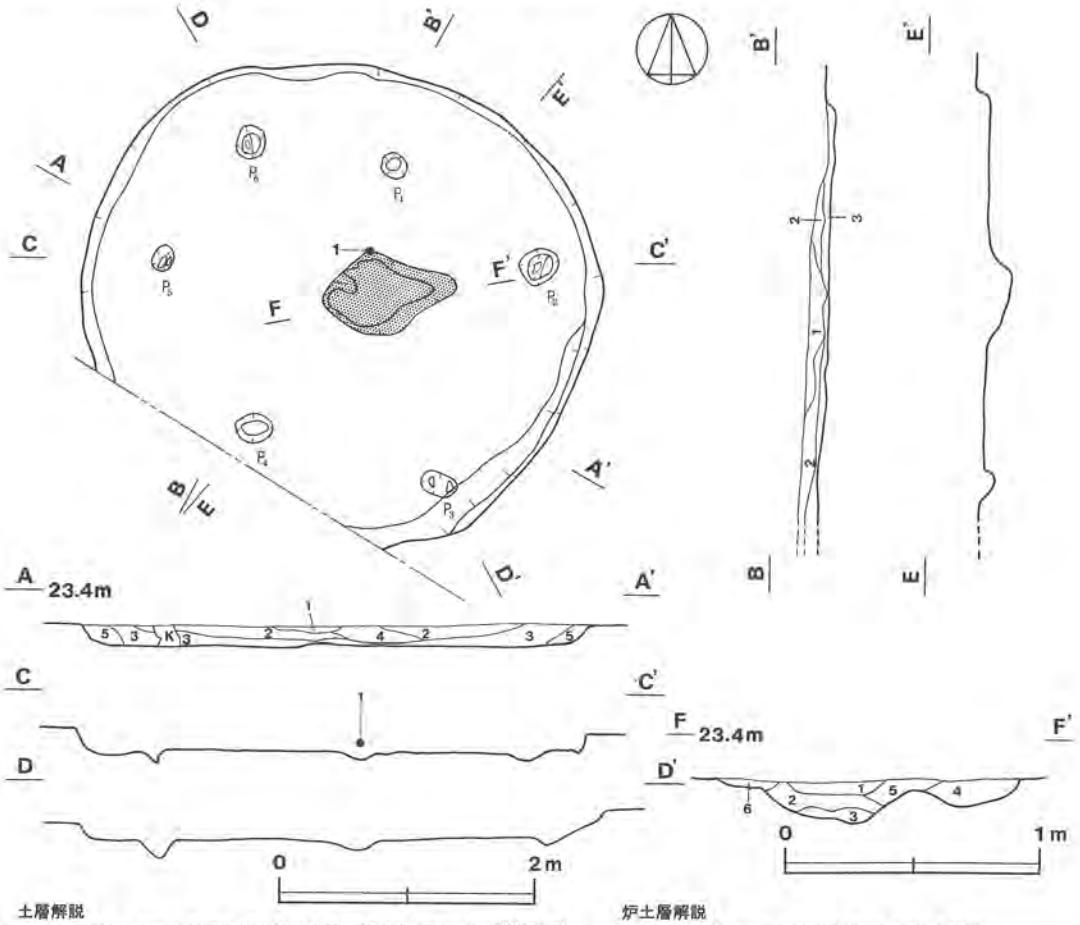
第51号住居跡（第43図）

位置　調査区の東部。E22d₁区を中心に確認された。**規模と平面形**　4.06×(3.44)mで，円形を呈するものと推定される。**壁**　壁高11～23cmで外傾して立ち上がる。**床**　東部が僅かに高く硬いが，西部の一部に軟らかい床が認められる。**ピット**　6か所。径21～32cm，深さ5～17cmを測る。P_1～P_6は壁の内側に配置され，各ピットとも細く浅いが主柱穴と思われる。**炉**　床面中央部の東寄りに設けられ，長径106cm，短径66cmを測る不整楕円形を呈する。炉床は南西側が深く，

20cm程掘り窪められており焼土粒子が多量に遺存している。**覆土**　自然堆積。締まりが有る。

遺物　遺物は，炉内に集中しており，縄文式土器片が89片出土している。第44図１の深鉢形土器の底部は，中央部床面直上から出土した。

所見　本跡は，南側が調査区域外の為，全体の調査はできなかった。



土層解説

1　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土大ブロック・炭化粒子少量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量，締まり有り
3　明　褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，締まり有り
4　明　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子少量，締まり有り
5　褐　　色　ローム粒子多量，締まり有り

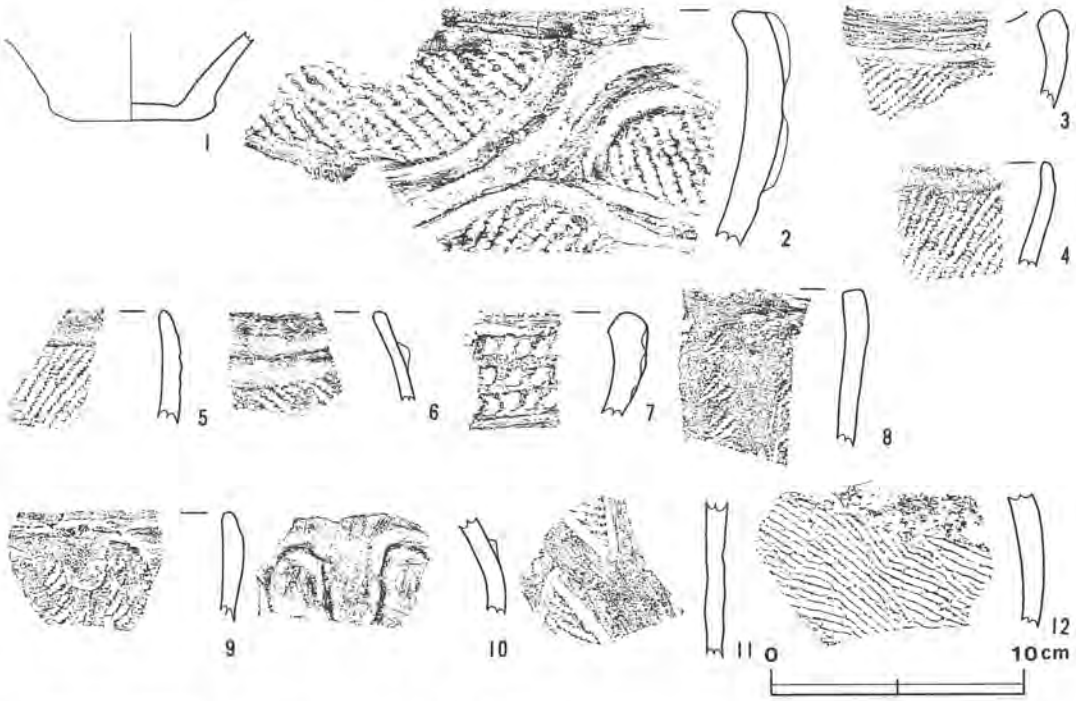
炉土層解説

1　明　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
2　明赤褐色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
3　明　褐　色　ローム粒子・焼土粒子多量，焼土中ブロック中量
4　明　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック少量
5　明　褐　色　ローム粒子多量
6　明　褐　色　ローム粒子多量，締まり無し

第43図　第51号住居跡実測図

第51号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第44図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B（3.5） C　6.7	底部から胴部下位に至る破片。ナデの加えられた無文の平底で，胴部下位は外反気味に立ち上がる。胴下端部は縦位のナデが施されている。内面の整形は，磨耗のため不明である。	砂粒，スコリア にぶい橙色 普通	10% P364 中央部炉内覆土

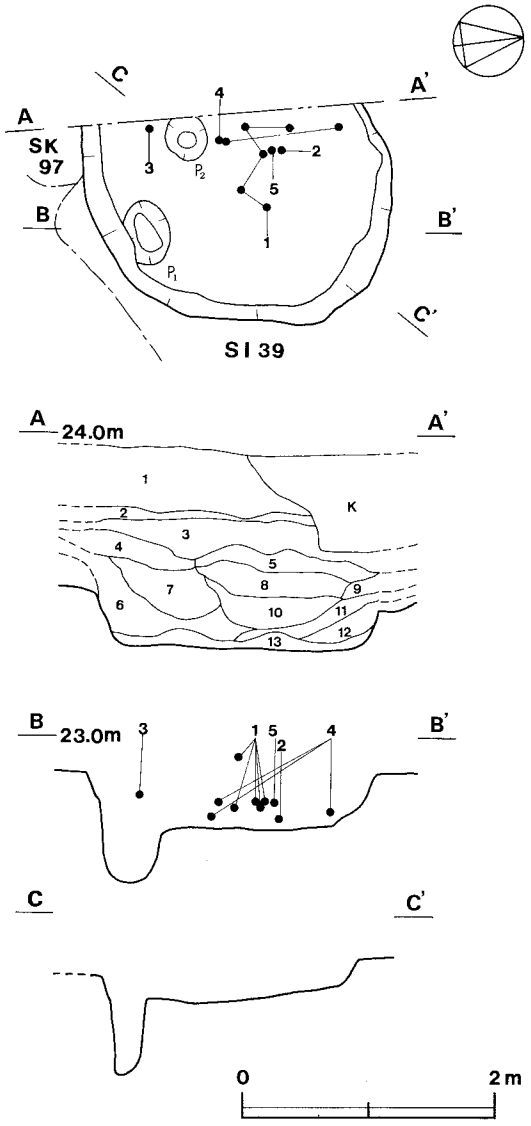


第44図　第51号住居跡出土遺物実測・拓影図

第44図は，第51号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。2～8は，口縁部片である。2は，両側にナゾリを加えた貼付の隆線で曲線的モチーフが描かれ，区画内に単節RLが横位回転で充填されている。粗い作りである。3は，沈線で口縁が区画された波状口縁部である。4・5は口縁部にナゾリが加えられ，胴部と区画されている。端部は，器厚を減じながら内傾する。6は，断面が三角形の貼付の隆線により口縁部が区画されている。7は，三条の列点文が巡らされている。8は，単節RLを縦位回転した縄文帯が配されている。口縁部に粘土を貼り付け僅かに膨らませている。9は，剝離痕を残す口縁部片である。地文には，単節RLが縦位回転で施されている。10は壺形土器の胴部片である。無文で，断面が三角形の貼付隆線で曲線的モチーフが描かれている。赤彩されていた痕跡が認められる。11は胴部片で，磨消帯と曲線的モチーフが認められる。12は，無節Lが縦位回転で施された胴部片である。

第52号住居跡（第45図）

位置　調査区の東部。C19j$_8$区を中心に確認された。**重複関係**　第39号住居跡・第97号土坑と重複しているが，本跡の方が古い。**規模と平面形**　[2.45]×(1.65)mで，楕円形を呈するものと推定される。**長径方向**　確認できない。**壁**　壁高22～31cmで，壁はしっかりしており，外傾して立ち上がる。**床**　平坦で硬い床である。**ピット**　2か所。P$_1$・P$_2$は，径32～52cm，深さ60～65cmを測る。2か所とも，しっかりした掘り方で主柱穴と思われる。**貯蔵穴**　確認できない。**炉**



土層解説

1	黒　褐	色	ローム粒子・ローム中・大ブロック・炭化粒子少量，石灰粒子中量，締まり無し
2	黒　褐	色	ローム小ブロック・炭化粒子少量，締まり有り
3	黒	色	炭化粒子微量，締まり無し
4	黒　褐	色	炭化粒子少量，締まり無し
5	黒　褐	色	ローム小ブロック少量，締まり無し
6	褐	色	ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量，締まり有り
7	黒　褐	色	焼土粒子・炭化粒子少量，締まり有り
8	極暗赤褐	色	焼土粒子多量，焼土中ブロック中量，炭化粒子少量
9	黒　褐	色	焼土粒子・炭化粒子微量
10	灰　褐	色	焼土粒子・炭化粒子微量
11	暗　褐	色	ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量
12	褐	色	ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，締まり有り
13	褐	色	ローム粒子多量，ローム大ブロック少量，締まり有り

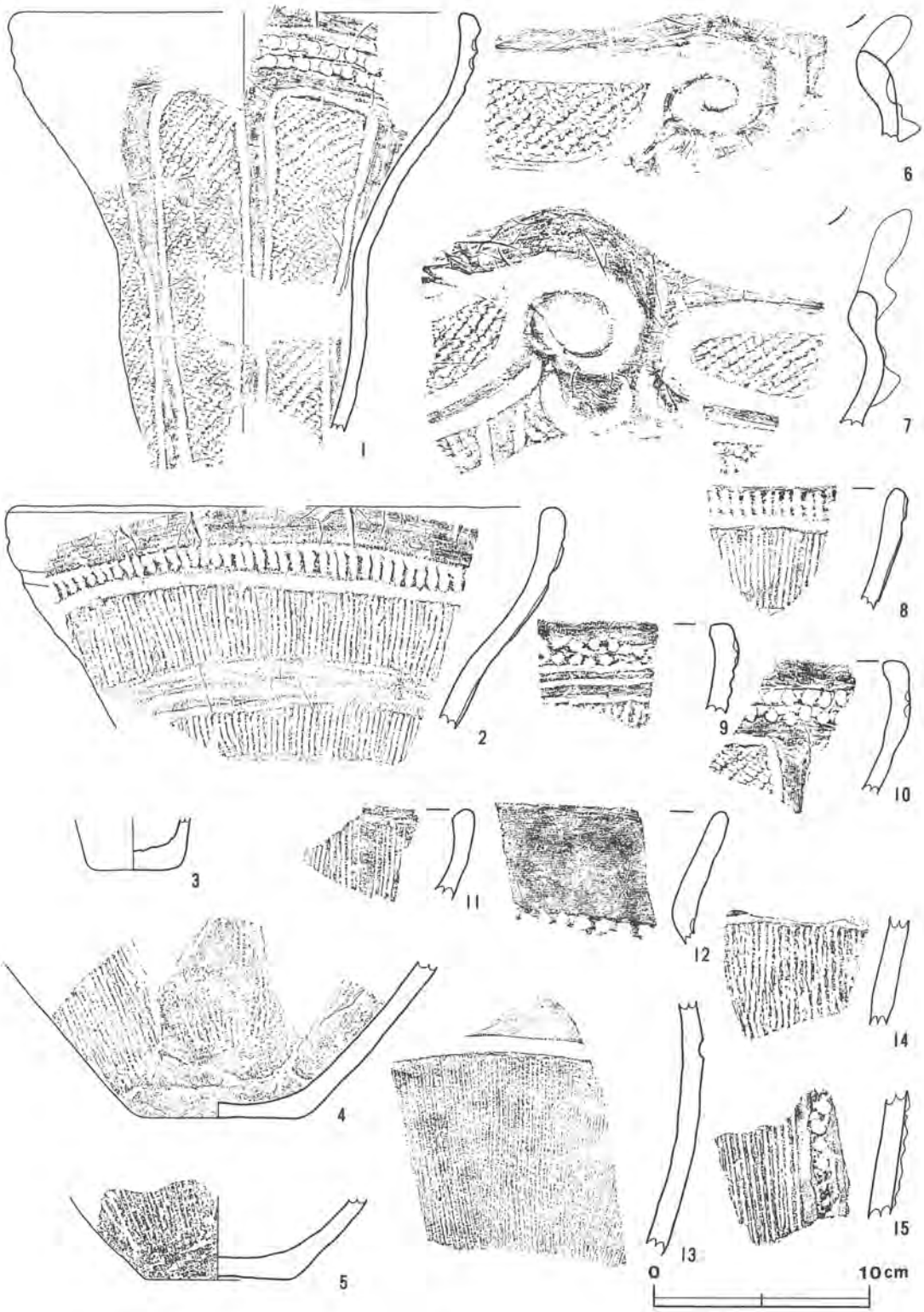
第45図　第52号住居跡実測図

確認できない。**覆土**　自然堆積。各層とも締まりが有り，褐色～暗褐色土で炭化粒子・焼土粒子を含んでいる。

遺物　覆土から，縄文式土器片が379片出土している。特に，北部の床面直上や，床面から出土している。第46図１～５の深鉢形土器の口縁部や底部は，中央部の床面・床面直上から出土している。

所見　本跡は，西側が調査区域外のため，全体の調査ができなかった。多量の縄文式土器片が出土しているが，接合できたものは少なく，本跡廃絶後投棄されたものと考えられる。

第46図は，第52号住居跡から出土した縄文式土器片の拓影図である。6・7は，波状口縁部で，口縁部文様帯に突出した隆線を貼付し，横位の楕円文・渦巻文をモチーフとして描き，楕円区画内に複節LRLの横位回転で縄文が充填されている。8～10は，沈線を巡らし口縁部を区画している。8は，区画された口縁部に，ヘラ状工具による連続の短沈線が施され，胴部は，櫛歯状工具による縦位の条線文が施されている。9は，三条の沈線直上に２列の列点文を配している。10は，二条の沈線内に列点文が配されている。11は，口縁直下まで櫛歯状工具による縦位の条線文が施されており，内面は横位の丁寧なナデ整形が施され黒色で光沢をもつ。12は，口縁部片で，幅広の無文帯をもつ鉢形土器である。胴部との区画に，列点文が配されている。13～15は，胴部片



第46図　第52号住居跡出土遺物実測・拓影図

である。13は，沈線で区画された胴部に，櫛歯状工具による縦位の条線が密に施されている。内面は，縦位の丁寧なナデ整形が施され光沢をもつ。14は，胴部に密な縦位の撚糸文が施されている。15は，縦位に円形の刺突が加えられた隆帯が貼付されている。地文には，櫛歯状工具による縦位の条線文が施されている。

第52号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第46図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [20.8] B (21.5)	キャリパー形の口縁部から胴部へ至る破片。口縁部は，口唇部直下に二条の沈線を巡らし区画されている。沈線内には，丸棒状工具による刺突文が連続して施されている。胴部は，二条の沈線で区画された逆U字状の磨消帯が連続に巡らされ，磨消帯間に単節ＲＬが縦位回転で充填されている。内面の口唇部直下は横位の，他は縦位のヘラ状工具による丁寧なナデが施され光沢をもつ。	砂粒，スコリア，パミス 橙色 良好	20% P365 PL24 中央部床面直上
2	深鉢形土器 縄文式土器	A [25.0] B (10.3)	キャリパー形土器の口縁部から胴部へ至る破片。口縁部は，太い沈線により区画され，上端部に無文帯を有し，その直下に連続の縦位キザミ目を有する。胴部は，櫛歯状工具による縦位の条線文が施され，幅広の横位磨消帯で区画されている。内面は，横位の丁寧なナデが施されている。	砂粒，スコリア 赤橙色 普通	5% P366 PL24 中央部覆土下層
3	深鉢形土器 縄文式土器	B (2.4) C　4.4	底部の破片。ナデの加えられた無文の平底。胴部下位は，垂直に近く立ち上がる。ヘラ状工具による粗いナデが施されている。内面も，縦位の粗いナデが施されている。	砂粒，スコリア 灰褐色 普通	5% P369 南部覆土中層
4	鉢形土器 縄文式土器	B (7.4) C　7.6	底部から胴下半部へ至る破片。ナデが加えられた無文の平底。胴部下位は，外傾して立ち上がり，櫛歯状工具による縦位の条線文が施され，下端部に無文帯を設けている。内面は，ヘラ状工具による，丁寧な縦位のナデが施され黒色で光沢をもつ。	砂粒，パミス にぶい橙色 普通	15% P367 中央部床面直上
5	鉢形土器 縄文式土器	B (3.9) C　7.6	底部から胴下半部へ至る破片。ナデが加えられた無文の平底。胴部下位は，外傾して立ち上がり，櫛歯状工具による縦位の条線文が施されている。内面は，ヘラ状工具による縦位のナデである。	砂粒 にぶい橙色 普通	10% P368 中央部床面直上

2　土坑

当調査区からは，総数119基の土坑が検出されている。その中で，縄文時代中期に比定される6基の土坑について解説をする。

第26号土坑（第47図）

位置　調査区の中央部。A13h8区を中心に確認された。**重複関係**　第4号溝と重複しているが，本跡の方が古い。**規模と形状**　長径1.32m，短径1.20mを測り，平面形は，不整円形を呈する。断面形は逆台形状を呈し，深さは0.82mを測る。**長径方向**　N－76°－E。**壁**　締まっており，外傾して立ち上がる。**底面**　平坦で硬い。**覆土**　褐色・暗褐色・黒褐色土で，各層ともローム小ブロック，炭化小ブロックを含み軟質である。土層断面からみても人為堆積と思われる。

遺物　底面から覆土上層にかけて，縄文式土器片が126片出土している。第49図１は，西壁際の覆土下層から出土した大形の深鉢形土器の破片である。２は同形式の口縁部片で，西壁際の覆土下層から出土している。また，南壁近くの覆土上層からは８の打製石斧が，下層からは９の石棒が１点ずつ出土している。

所見　本跡からは，多量の縄文式土器片や石器が出土している。出土遺物の特徴から考えて，縄文時代中期に比定される土坑と考えられる。

第47号土坑（第47図）

位置　調査区の中央部。B15d_9区を中心に確認された。**規模と形状**　長径(2.71)m，短径(1.06)mを測り，平面形は，楕円形を呈するものと推定される。断面形は，中位に段をもつU字状を呈し，深さは0.91mを測る。**長径方向**　N－67°－W。**壁**　硬く締まっており，外傾して立ち上がる。**底面**　皿状で，一段目も二段目も硬い。**覆土**　中層から下層にかけ多くの焼土粒子とローム小・中ブロックを少量含む。土層の堆積の様子から考えて，人為堆積と考えられる。

遺物　底面から覆土上層にかけて，239片の縄文式土器片が出土している。第51図１の深鉢形土器の底部は，中央部北寄りの覆土下層から出土し，第60図３の深鉢形土器の把手は，同位置の底面直上から出土している。その他，第51図６の磨石１点が覆土下層から出土している。

所見　本跡は，各土層の中に多くの焼土粒子を含んでいる。特に，４・６層には，小・中ブロックを含む焼土が多く混在しているが，層位の状態からみて投棄されたものと考えられ，土器片についても投棄されたものと思われる。出土遺物の特徴から，縄文時代中期に比定される土坑と考えられる。南側が，調査区域外のため全体の調査ができなかった。

第59号土坑（第47図）

位置　調査区の中央部。B17f_2区を中心に確認された。**規模と形状**　長径1.04m，短径1.00mを測り，平面形は不整円形を呈する。断面形は逆台形状を呈し，深さは1.13mである。**長径方向**　N－58°－E。**壁**　ほぼ垂直に立ち上がる。**底面**　平坦。**覆土**　褐色・暗褐色土のローム小ブロックを含む土層で，自然堆積と思われる。

遺物　縄文式土器片が67片出土している。第52図１の深鉢形土器の底部は，南壁際の覆土下層から出土し，８の土製円板は北壁際の床面から出土している。

所見　本跡は，出土遺物の特徴から縄文時代中期に比定されるものと考えられる。

第74号土坑（第48図）

位置　調査区の中央部。B17e_2区を中心に確認された。**重複関係**　第18号住居跡と重複している

が，本跡の方が古い。**規模と形状**　長径1.17m，短径1.04mを測り，平面形は楕円形を呈する。断面形はU字状を呈し，深さは0.72mを測る。**長径方向**　N－73°－W。**壁**　垂直に立ち上がる。**底面**　平坦で硬い。**覆土**　自然堆積。

遺物　縄文式土器片が壁際を中心に40片出土している。第53図1の深鉢形土器の胴部片は，南壁際の覆土下層から出土し，2の底部は同位置の床面直上から出土している。

所見　本跡は，出土遺物の特徴から縄文時代中期に比定されるものと考えられる。

第120号土坑（第48図）

位置　調査区の中央部。C19g_3区を中心に確認された。**重複関係**　第33号住居跡と重複するが，本跡の方が新しい。第5号溝とも重複するが本跡の方が古い。**規模と形状**　長径1.91m，短径1.50mを測り，平面形は楕円形を呈する。断面形は箱形状を呈し，深さは0.74mを測る。**長径方向**　N－43°－E。**壁**　締まりが有り垂直に立ち上がる。**底面**　平坦で硬い。**覆土**　自然堆積で，各層とも締まりが有り，上層は褐色土・暗褐色土で，下層はにぶい橙色・浅黄橙色である。

遺物　縄文式土器片が覆土から226片出土している。第54図1の深鉢形土器の底部も覆土上層から出土したものである。9の磨石も覆土から出土している。

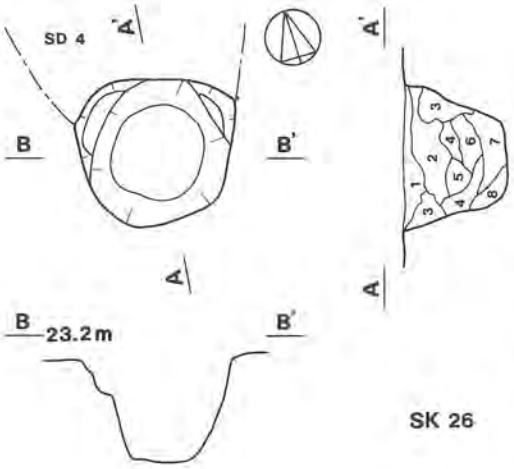
所見　本跡は，出土遺物の特徴から縄文時代中期に比定されるものと考えられる。

第121号土坑（第48図）

位置　調査区の中央部。C19e_4区を中心に確認された。**重複関係**　第93号土坑と重複するが，本跡の方が古い。**規模と形状**　長径(1.16)m，短径(0.78)mを測り，平面形は不整楕円形を呈するものと推定される。断面形は，箱形状を呈していたと思われる。**長径方向**　N－61°－W。**壁**　外傾して立ち上がる。**底面**　僅かに起伏をもつ硬い底面である。**覆土**　黒色・黒褐色を中心とする軟質の自然堆積である。下層に焼土粒子・焼土ブロックを多く含む。

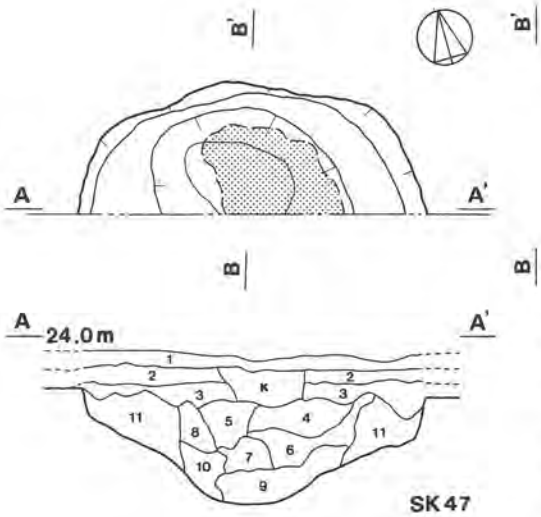
遺物　縄文式土器片が底面から覆土中層にかけて123片重なって出土している。第55図1の深鉢形土器は，中央部に散在して出土していたものである。

所見　本跡は，北側が調査区域外で，東側が第93号土坑と重複しているため全体の調査ができなかった。調査した範囲からは，多くの縄文式土器が出土している。これらの土器片は，一部しか接合できないことから投棄されたものと考えられる。出土遺物の特徴から，縄文時代中期に比定される土坑と考えられる。



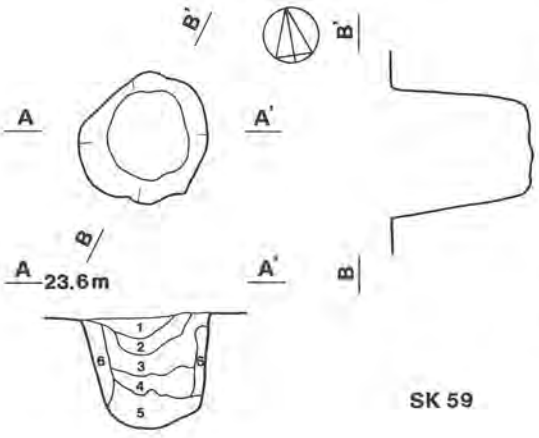
土層解説（SK26）

1 黒 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化小ブロック少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量，炭化小ブロック多量，焼土小ブロック微量，軟質
3 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック多量，炭化小ブロック中量，軟質
4 暗 褐 色 ローム粒子微量，ローム小ブロック多量，炭化小ブロック少量，軟質
5 黒 褐 色 ローム粒子微量，ローム小ブロック少量，炭化小ブロック中量，軟質
6 黒 褐 色 ローム粒子微量，ローム小・中ブロック・炭化小ブロック少量，軟質
7 暗 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化小ブロック少量，軟質
8 極暗褐色 ローム粒子・炭化小ブロック少量，軟質



土層解説（SK47）

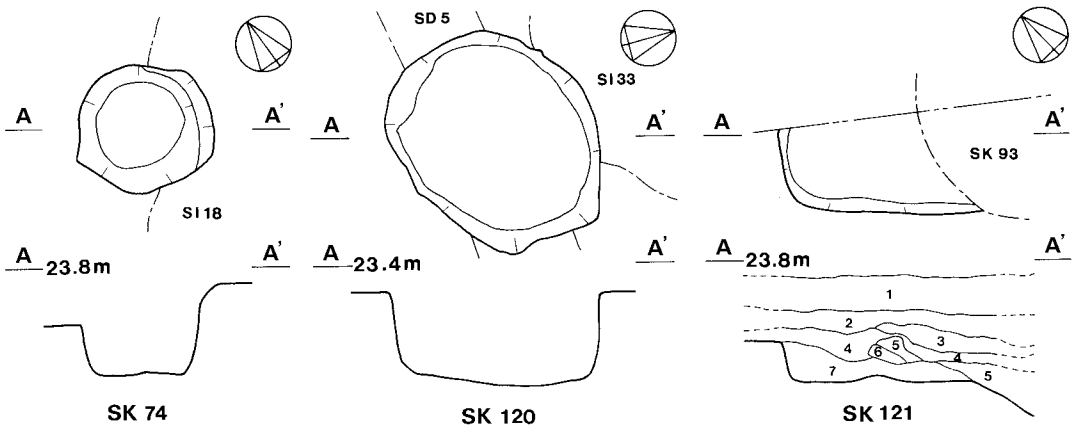
1 灰 褐 色 ローム粒子少量，耕作土
2 黒 褐 色 ローム小ブロック・焼土粒子少量，締まり無し
3 黒 色 ローム粒子微量，ローム小ブロック少量，焼土粒子中量，締まり無し
4 赤 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
5 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
6 明 赤 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子中量
7 暗 赤 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
8 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，軟質
9 暗 赤 褐 色 ローム粒子・ローム中ブロック少量，焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，締まり無し
10 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，軟質
11 明 褐 色 ローム粒子多量，ローム中・大ブロック少量，軟質



土層解説（SK59）

1 暗 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量締まり有り
2 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，締まり有り
3 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，締まり有り
4 暗 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，締まり有り
5 暗 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック中量，締まり有り
6 明 褐 色 ローム粒子多量，ローム中ブロック微量

第47図　第26・47・59号土坑実測図（縄文Ⅰ）



土層解説（SK121）

1 灰 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量，軟質
3 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子微量，軟質
4 黒 褐 色 ローム粒子微量，焼土粒子少量・炭化粒子微量，軟質
5 黒 褐 色 ローム粒子微量，焼土粒子中量
6 極暗赤褐色 ローム粒子微量，焼土粒子多量
7 黒 褐 色 焼土粒子微量，焼土大ブロック少量，軟質

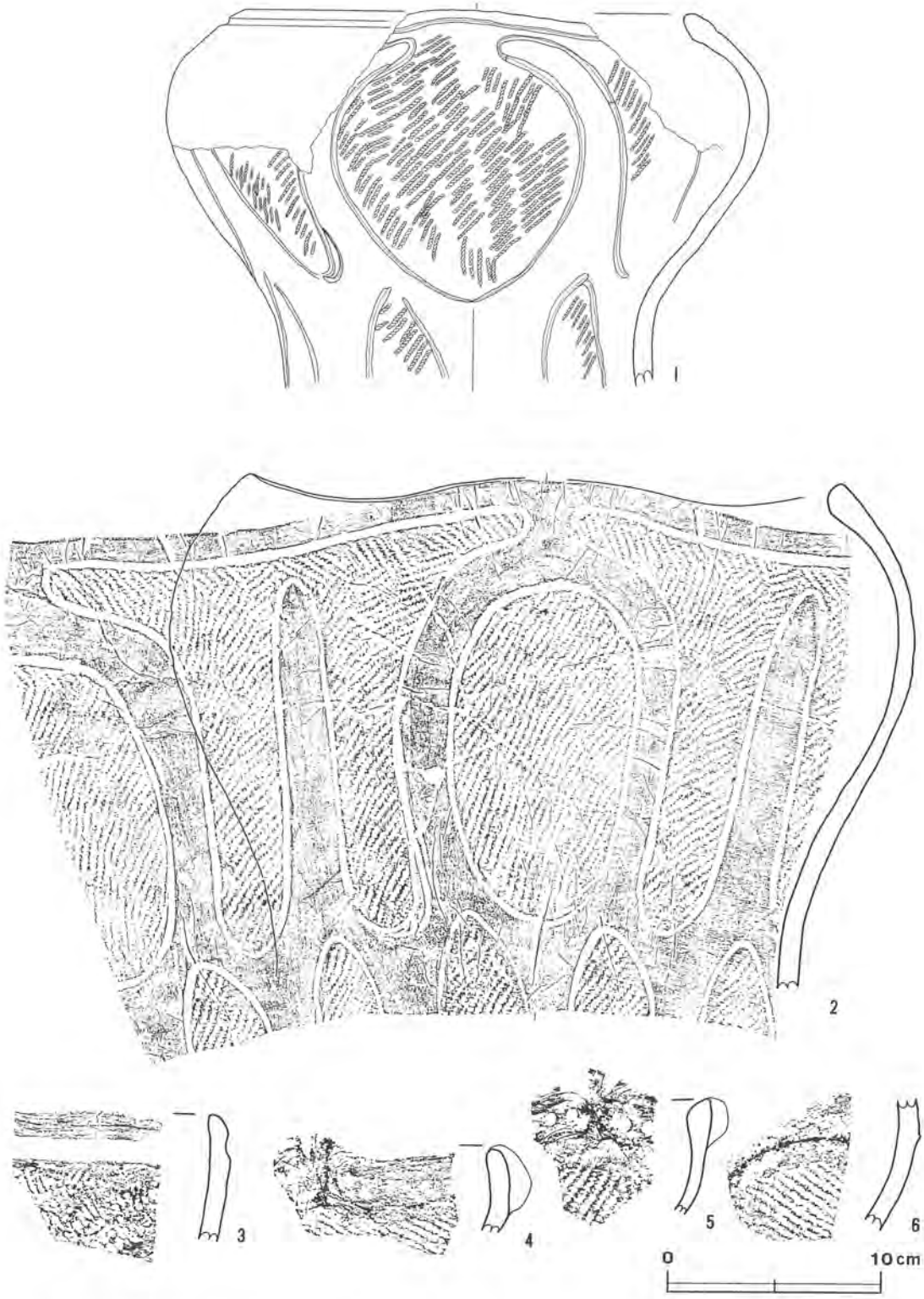
0 2m

第48図 第74・120・121号土坑実測図（縄文II）

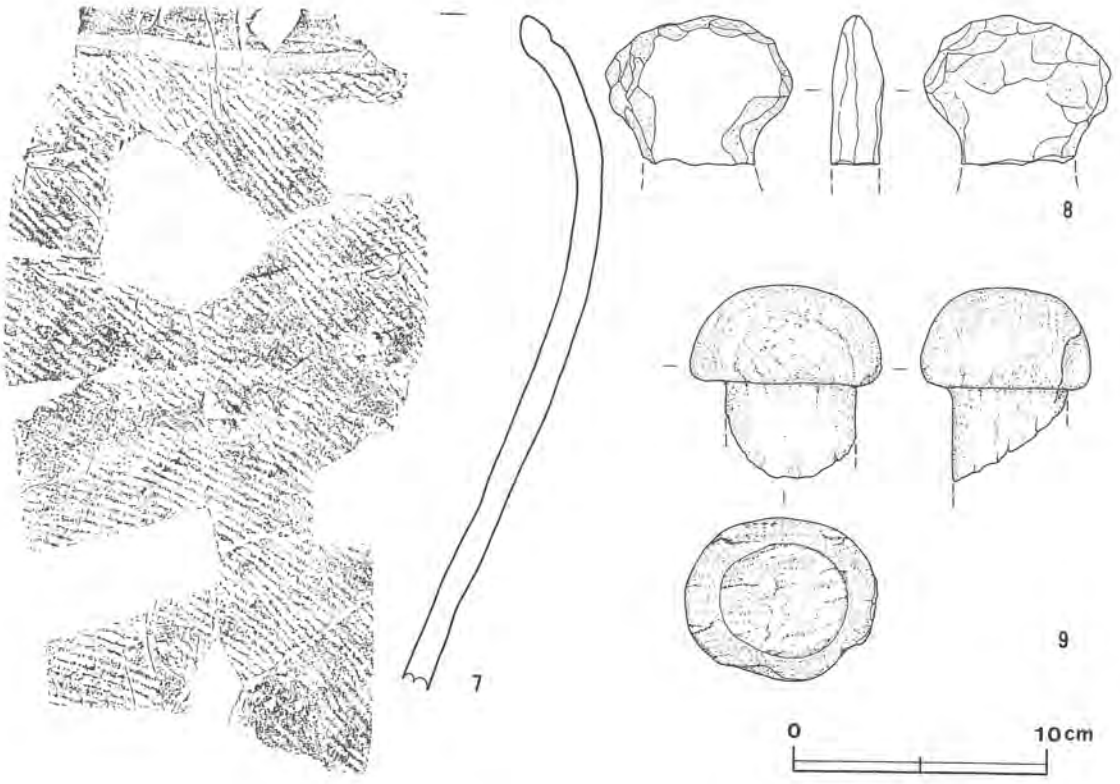
第26号土坑出土土器観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備考
第49図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [21.3] B (17.5)	口縁部から胴上半部に至る破片。キャリパー形を呈し，胴部中位で水平に打ち欠かれている。口縁部無文帯が，一条の沈線で区画されている。胴部は，二条の沈線で区画した波状の磨消文を施し上位には，縦位の楕円文とV字状文が交互に4単位ずつ巡らされている。区画内には，単節RLが縦位回転で充填されている。胴下半部は，逆V字状文が7単位巡らされ，区画内に単節RLが縦位回転で充填されている。内面は，横位の丁寧なヘラ状工具によるナデが施されている。	砂粒，スコリア，石英 にぶい橙色 普通	50% P370 PL24 西部覆土下層
2	深鉢形土器 縄文式土器	A [27.6] B (23.8)	口縁部から胴部へ至る破片。キャリパー形を呈し，胴部中位で意図的に水平に打ち欠かれている。口縁部無文帯が，一条の沈線で区画されている。胴部は，二条の沈線で区画した波状の磨消文を施し，上半部は縦位の楕円文とU字状文が巡らされている。区画内には，単節RLが横位（上位）・縦位回転で充填されている。下半部は，逆V字状文で区画し，区画内に単節RLが縦位回転で充填されている。内面は，ヘラ状工具による横位の丁寧なナデが施されている。	砂粒，スコリア にぶい橙色 普通	30% P371 PL24 西部覆土下層

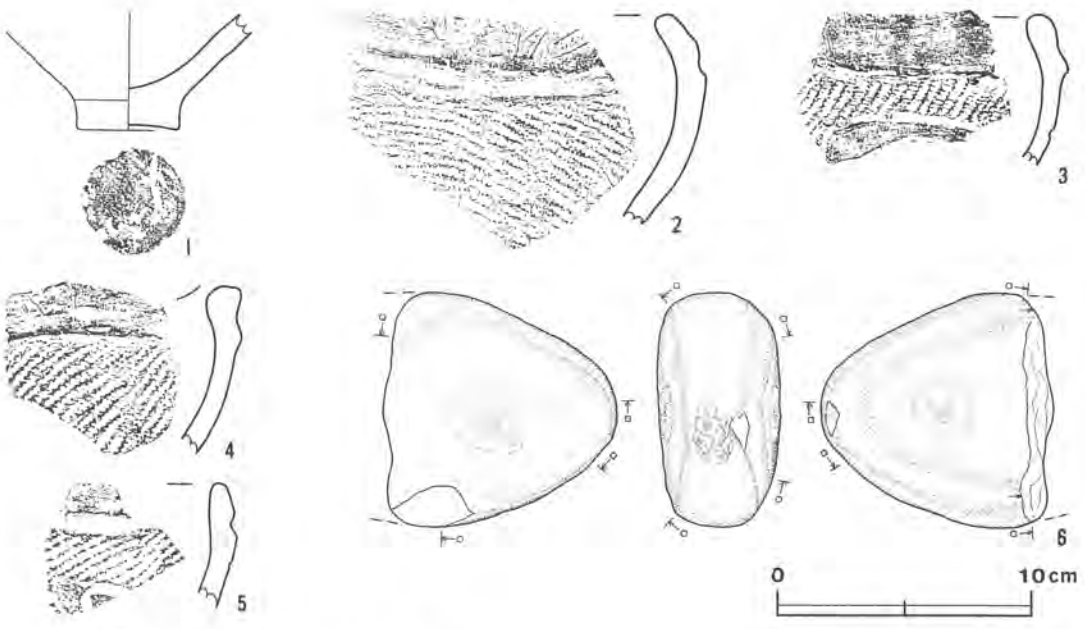
第49・50図は，第26号土坑から出土した縄文式土器片の拓影図である。3～5は，口縁部から胴部にかけての破片である。3は，幅広の沈線により口縁部が区画され，胴部に単節RLが縦位・斜位回転で施されている。4は，口縁部に突起を有し，胴部には単節RLが斜位回転で施されている。5は，突起を有し，二条の隆線で区画された中に列点文が充填されている。胴部には，単節RLが縦位回転で施されている。6は胴部片で，断面が三角形の隆線により曲線的区画がなされ，区画内に単節LRが縦位回転で充填されている。7は，平縁のキャリパー形土器の口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部には，凹線が巡らされている。以下，胴下半部まで単節Lが縦位回転で施されている。内面は，丁寧なナデが施されている。



第49図　第26号土坑出土遺物実測・拓影図(Ⅰ)



第50図　第26号土坑出土遺物実測・拓影図(Ⅱ)

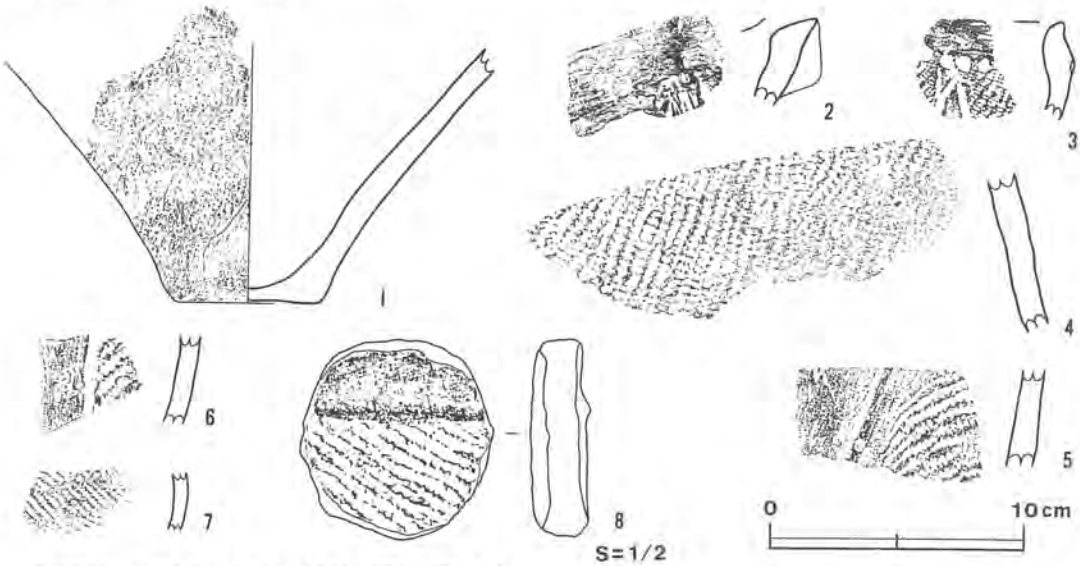


第51図　第47号土坑出土遺物実測・拓影図

第47号土坑出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 51 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (4.7) C　4.0	底部から胴部下位へ至る破片。底部は，中央に僅かな窪みをもつ突出した平底である。胴部下位は，外傾して立ち上がる。胴下端部は，ヘラ状工具による縦位のナデが施されている。内面も，ヘラ状工具による縦位のナデが施されている。	砂粒 橙色 普通	10% P373 中央部覆土下層

第51図は，第47号土坑から出土した縄文式土器片の拓影図である。２～５は，口縁部から胴部にかけての破片である。２は，太い沈線を巡らして口縁部を区画している。口縁部は無文帯である。胴部は，単節LRが縦位・横位回転で施されている。内面には，横位の丁寧なナデが施されている。３は，断面が三角形の微隆線により口縁部が区画されている。口縁部は，無文帯で丁寧なナデ整形が施されている。胴部は曲線的モチーフが描かれ，地文には単節RLが縦位回転で施されている。内面は，ヘラ状工具による横位の丁寧なナデ整形が施されている。焼成が良好である。４は，波状口縁部が微隆線で区画され無文帯とされている。胴部は，単節RLが縦位回転で施されている。内面は横位のナデである。胎土に砂粒を多く含む。５は，深い沈線により，口縁部を区画している。胴部は，単節LRの横位回転で縄文が施されている。内面は，ヘラ状工具による横位のナデ整形が施されている。

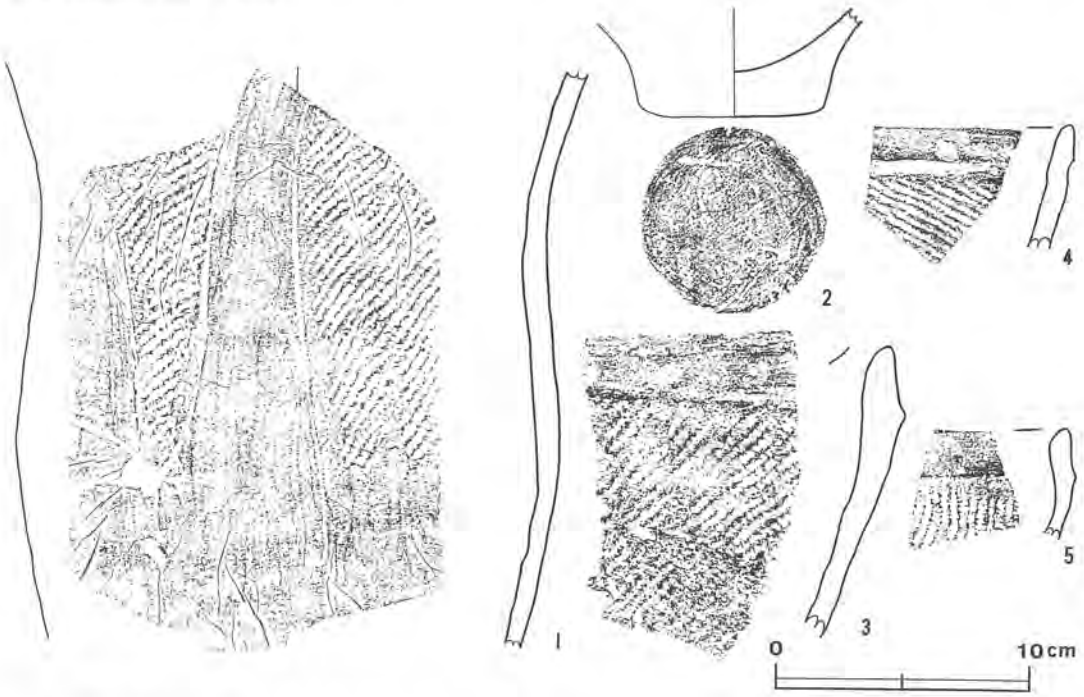


第52図　第59号土坑出土遺物実測・拓影図

第59号土坑出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 52 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (10.2) C [5.8]	底部から胴部下位へ至る破片。無文の平底。胴部下位は外反気味に立ち上がる。胴下端部に横位のナデが認められるものの，施文の状況は磨耗が著しく不明である。内面は，ヘラ状工具による縦位のナデが施されている。	砂粒，石英 赤色 普通	10% P375 南部覆土下層

第52図は，第59号土坑から出土した縄文式土器片の拓影図である。2・3は口縁部片である。2は波状口縁で低い突起を有し，3は口縁部にナゾリが加えられ，直下に列点文を有する。4～7は胴部片である。4は，単節RLが縦位回転で施され，胎土に砂粒を多く含み赤褐色である。5は微隆線による区画を有し，区画内には単節RLが縦位回転で施されている。胎土に砂粒が多く含まれる。6は，単節LRが横位回転で施されている。7は，単節RLが横位回転で施されている。内面に炭化物が付着している。

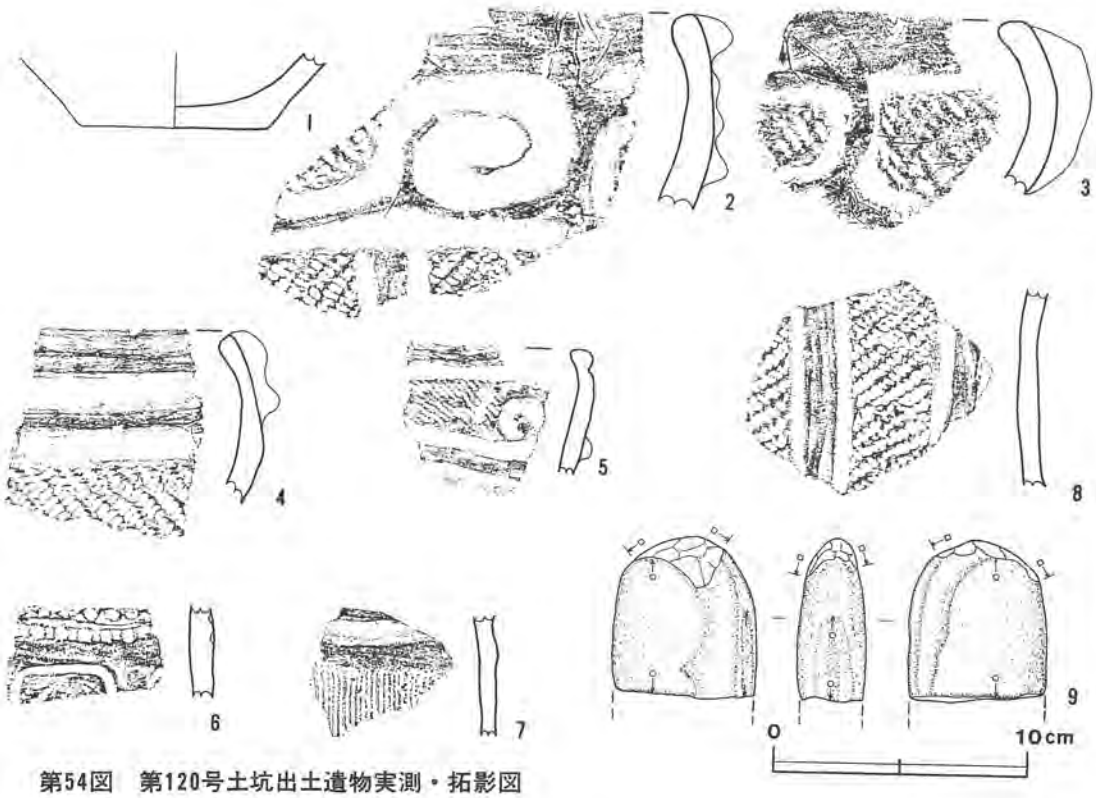


第53図　第74号土坑出土遺物実測・拓影図

第74号土坑出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第53図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (23.0)	キャリパー形土器の胴部中位の破片。器面は，二条の沈線で区画された磨消帯でV字状文・逆V字状文が巡らされ，区画内に単節RLが縦位回転で充填されている。下半部には，磨消帯が認められる。内面は，ヘラ状工具による縦位のナデが施されている。	砂粒 橙色 普通	20% P376 PL24 南部覆土下層
2	深鉢形土器 縄文式土器	B (4.3) C　6.8	底部。ナデが加えられた無文の平底。胴部下位は，外反気味に立ち上がる。胴下端部は，丁寧な横位のナデが施されている。内面は，ヘラ状工具による縦位のナデが施されている。器厚が厚い。	砂粒，スコリア 褐灰色 普通	10% P377 南部床面直上

第53図は，第74号土坑から出土した縄文式土器片の拓影図である。3～5は口縁部片である。3は波状口縁で，微隆線により口縁部が区画されている。胎土に砂粒を多く含み，赤褐色を呈する。4は，口縁部に無文帯が配され，以下に縄文が施されている。口縁端部は尖る。5は，微隆線により口縁部が区画され，口縁部は僅かに内傾する。

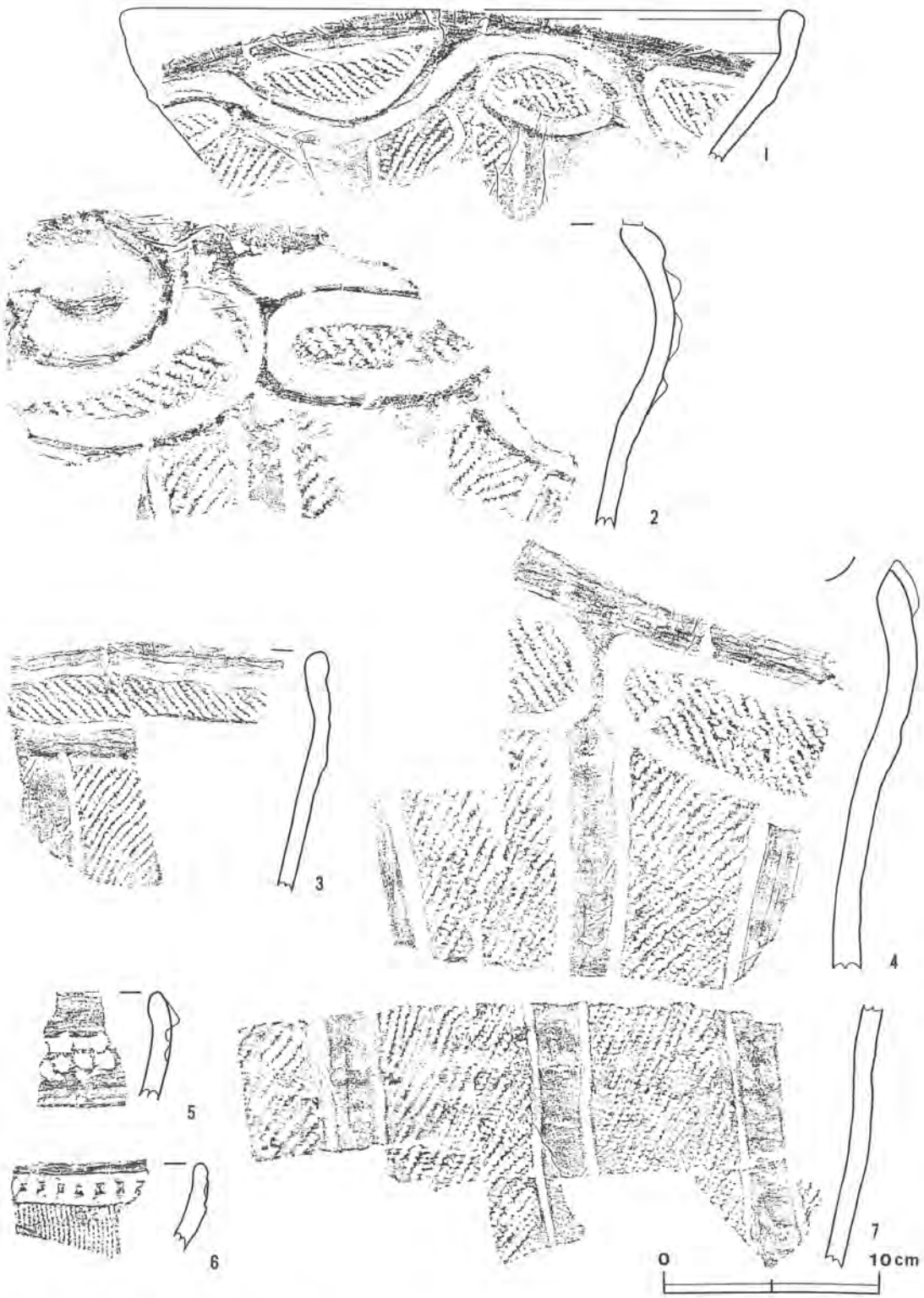


第54図　第120号土坑出土遺物実測・拓影図

第120号土坑出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 54 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	B (3.0) C　7.3	底部の破片。丁寧なナデの加えられた無文の平底。胴部下位は，外傾して立ち上がる。胴下端部に，横位のナデが施されている。内面は，磨耗が著しく整形は不明である。	砂粒 明赤褐色 普通	5% P390 覆土上層

第54図は，第120号土坑から出土した縄文式土器片の拓影図である。２～５は口縁部の破片でキャリパー形を呈する。２・３は突出した隆線による渦巻文・楕円文が配され，区画内に単節RLが横位回転で充填されている。内面は，ヘラ状工具による横位の丁寧なナデが施されている。４・５は，断面がカマボコ状の隆線により区画している。５は小形で，区画内に単節RLが横位回転で充填され，隆線により渦巻文のモチーフが描かれている。６・７は口縁部直下の破片で，６には二条の列点文が施されている。７は，沈線下に櫛歯状工具による縦位の条線文が施されている。８は胴部片で，磨消帯を垂下させ区画内に単節RLが縦位回転で充填されている。



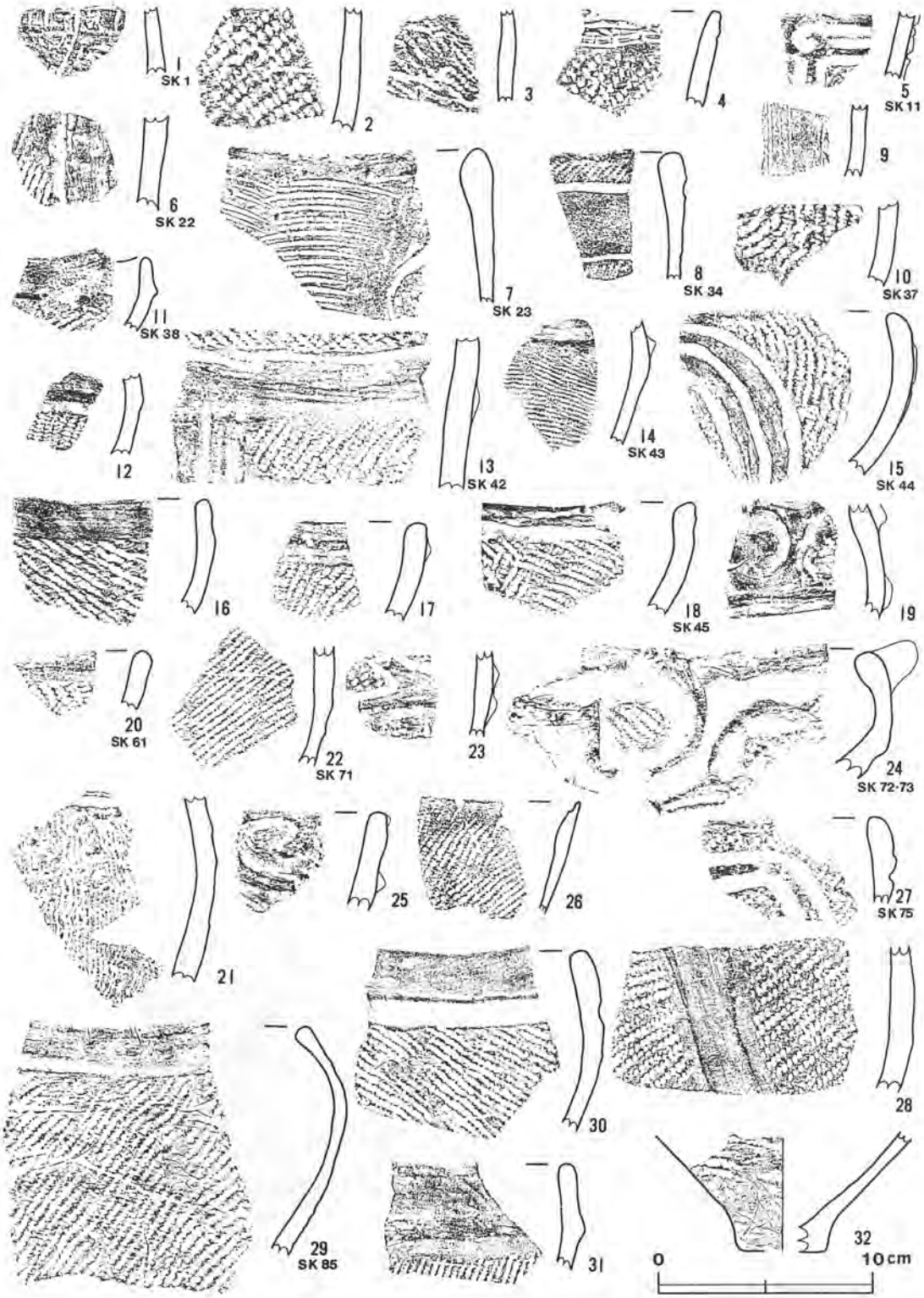
第55図　第121号土坑出土遺物実測・拓影図

第121号土坑出土土器観察表

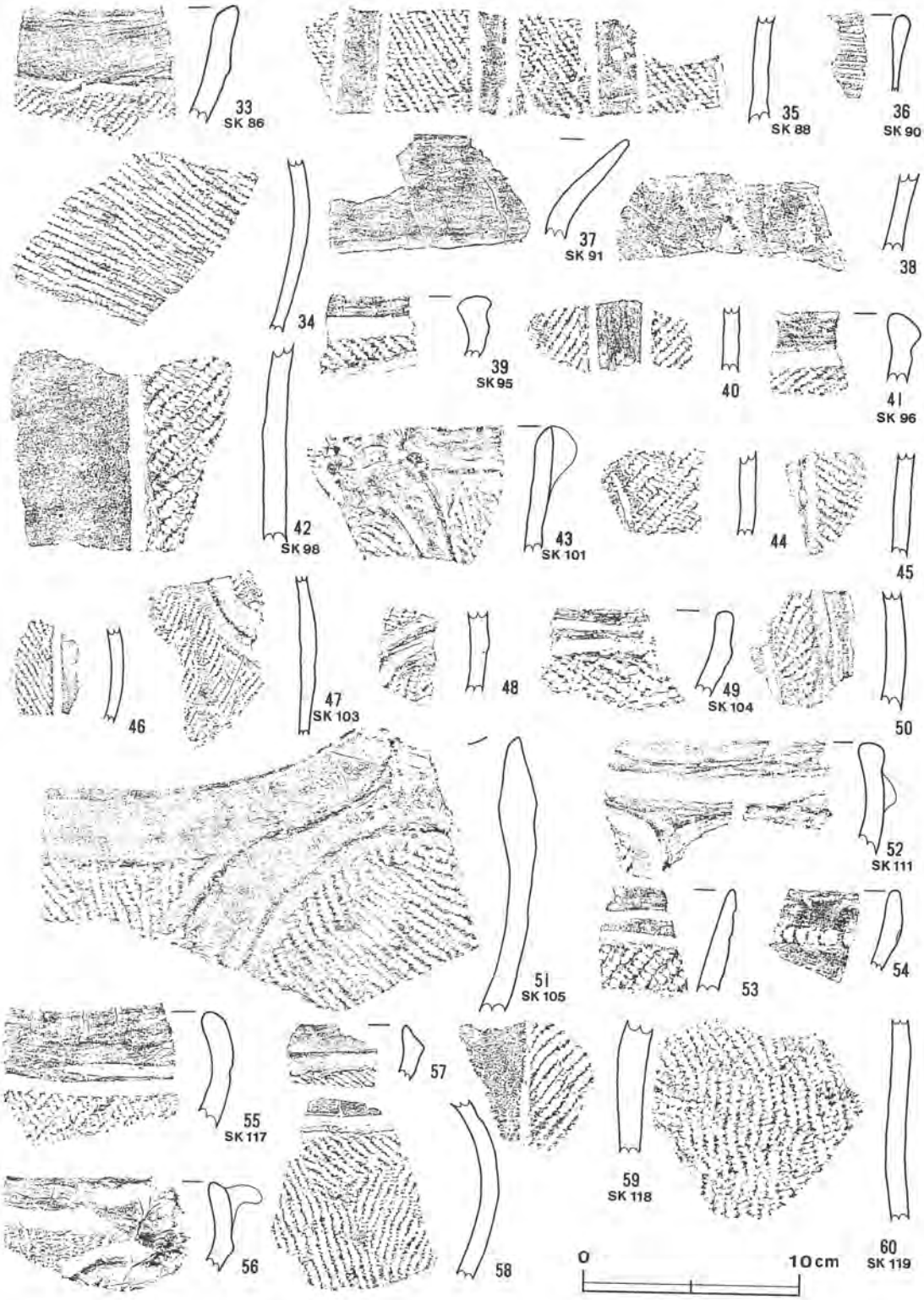
図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 55 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A［32.0］ B（ 7.1）	口縁部の破片。口縁部は，ナゾリを加えた隆線による横位の楕円文が巡らされている。区画内は，単節ＲＬが横位回転で充填されている。胴部は，二条の沈線で区画した磨消帯を垂下させ，区画内に単節ＲＬが縦位回転で充填されている。内面は，横位のナデが施されている。	砂粒，スコリア にぶい橙色 普通	10% P16 PL24 中央部覆土中層

第55図は，第121号土坑から出土した縄文式土器片の拓影図である。2は，キャリパー形を呈する深鉢形土器の口縁部から胴部にかけての破片で，口縁部には突出した隆線による渦巻文や横位の楕円文が描かれ，区画内には単節RLが横位回転で充填されている。胴部は，磨消帯を垂下させ，区画外に単節RLが縦位回転で充填されている。胎土に砂粒を多く含む。3は，横長の楕円文が口縁部に配され，単節RLが横位回転で充填されている。胴部は，磨消帯を垂下させ単節RLが縦位回転で充填されている。4は，口縁部から胴部にかけての破片で，口縁部には沈線による横位の楕円文が描かれている。区画内は，単節RLが横位回転で充填されている。胴部は，磨消帯を垂下させ，区画外に単節RLが縦位回転で充填されている。内面は，横位の丁寧なナデ整形が施されている。5・6は，口縁部から胴部にかけての破片で，刺突文により口縁部を区画している。5は，口縁端部が内傾し二条の列点文を有する。6は，胴部に絡条体回転圧痕文が施されている。7は胴部片で，磨消帯が垂下され，区画内に単節RLが縦位回転で施されている。内面は，横位の丁寧なナデ整形が施されている。

調査後全景（中央部西端から東を望む）



第56図　土坑出土遺物拓影図(Ⅰ)



第57図　土坑出土遺物拓影図(II)

3　屋外炉

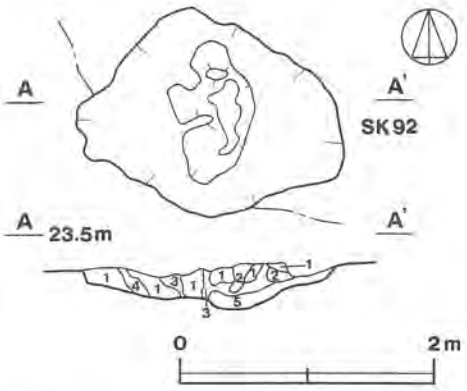
当調査区では，中央部のC19f5区に屋外炉が１基検出されている。この遺構について，以下に解説する。

第１号屋外炉（第58図）

位置　調査区の中央部東端。C19f5区に確認された。**重複関係**　第92号土坑より新しい。

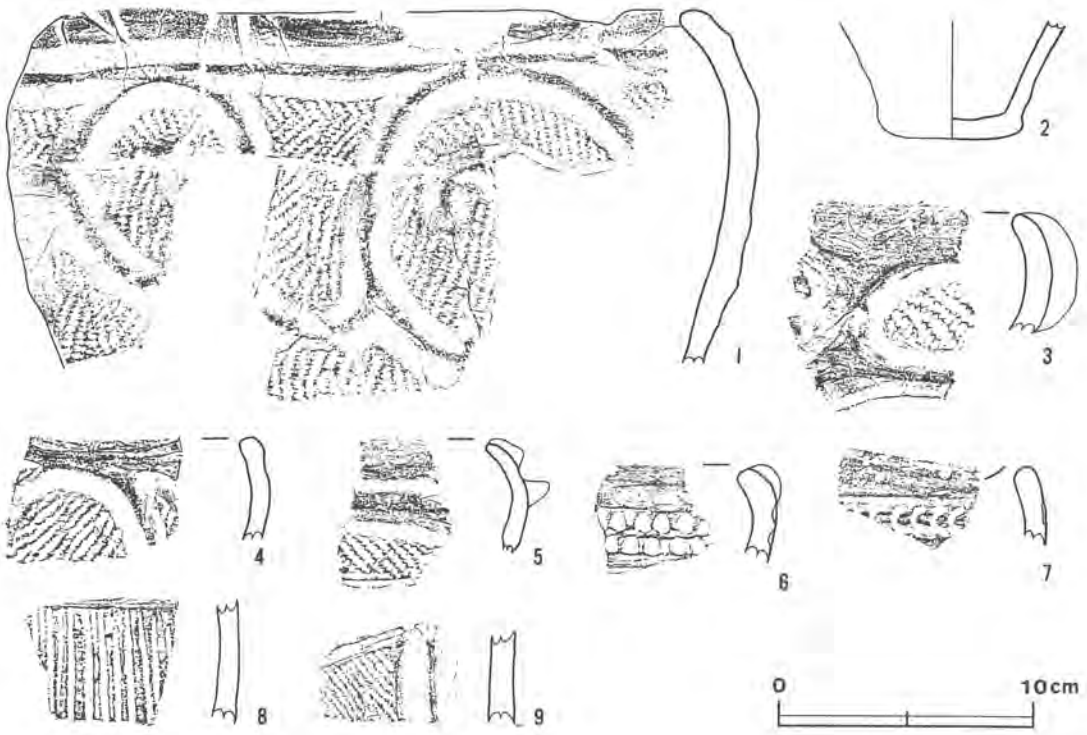
規模と形状　長径2.13m，短径1.54mを測り，平面形は不整楕円形を呈する。炉床は，地面を0.33m程皿状に掘り窪めて構築している。**長径方向**　N－68°-W。**覆土**　炉床に，ロームが赤変硬化して，20cm程の厚さで遺存している。

遺物　炉全面から，焼土に混在して縄文式土器片が67片出土している。



土層解説
1　赤　褐　色　焼土ブロック
2　赤　褐　色　焼土粒子・焼土小・中ブロック中量
3　赤　褐　色　焼土粒子中量，軟質
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，締まり有り
5　暗　褐　色　焼土粒子微量，締まり有り

第58図　第１号屋外炉実測図



第59図　第１号屋外炉出土遺物実測・拓影図

所見　炉全面から，散在した状態で破片だけが出土していることから，炉として使用した後に，土器片を投棄したものと推定される。遺物の特徴から縄文時代中期に比定されるものと考えられる。

第１号屋外炉出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 59 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A [25.2] B (14.0)	キャリパー形土器の口縁部片。口縁部は，両側にナゾリを加えた隆線により区画され，上位に無文帯を有する。また，隆線による渦巻文を配し，区画内に単節RLが縦位・斜位回転で充填されている。内面は，ヘラ状工具による横位のナデが施されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	10% P382 PL24 覆土上層
2	深鉢形土器 縄文式土器	B (4.7) C　4.8	底部から胴下半部へ至る破片。無文の平底で，胴部下位は，外傾して立ち上がる。胴部下位に，縦位のナデが認められる。内面は，ヘラ状工具による縦位のナデが施されている。	砂粒 にぶい橙色 普通	10% P383 覆土上層

第59図は，第１号屋外炉から出土した縄文式土器片の拓影図である。３～６は，キャリパー形を呈する深鉢形土器の口縁部片である。３は，突出した隆線による横位の楕円文がみられ，単節RLが横位回転で充填されている。４は，ナゾリを加えた隆線による曲線的モチーフが描かれている。内面は，ヘラ状工具による横位のナデが施され黒色である。５は，断面がU字形の深い沈線により口縁部が区画され，直下に突出した隆帯が貼付されている。６は，二条の沈線中に列点文が施されている。７は，口縁直下に半截竹管による爪形文を有する波状口縁である。８・９は胴部片で，８には櫛歯状工具による縦位の条線文が施されている。９は，断面が三角形をした隆線下に，沈線による区画がなされ，区画内に単節LRが横位回転で充填されている。

４　把手（第60～61図，ＰＬ38）

当調査区から出土したものの内で，装飾性の強い把手について解説を加える。

１は，第22号住居跡の北部覆土上層から出土した破片である。口縁部に巡らした沈線の延長を渦巻文とし，突起部に配している。側面には，１単位の橋状把手を付し，その背に前述の沈線の他方の流れを配し，端部を把手裾に押圧した刺突に結んでいる。突起部内面裾中央にも，丸棒状刺突を加えている。胎土に，砂粒・スコリア粒を含み，焼成は良好である。

２は，第31号住居跡の中央部覆土中層から出土した有孔突起をもつ把手である。突起部には，上部とその下位に十字方向に貫かれた孔が有る。孔の口部は，吸盤状にやや外反する。器面はヘラ状工具による丁寧なナデ整形が施され，側面には橋状把手の剝がれた痕が残る。その下にはナゾリにより区画された縦位の楕円文と思われる区画内に，単節RLが縦位回転で充填されている。胎土に，砂粒・パミス粒を含み，焼成は普通である。

3は，第47号土坑の西部覆土下層から出土した有孔突起をもつ把手である。突起部には，十字方向に貫かれた孔が有り，上部は両側にナゾリを加えた隆線が貼付されている。外面の角にはキザミ目が施されている。側面には，橋状把手が付されている。胎土に，砂粒・スコリアを含み，焼成は良好である。

4は，第77号土坑の覆土上層から出土した橋状把手の変形である。粘土を折り返し，芯部を空洞にして斜位に貼付されていたものと思われる。内面は，ナデ整形が加えられ平坦である。外面は曲面で，単節LRが縦位回転で施されている。胎土は，砂粒を含み，焼成は普通である。

5は，第47号住居跡の中央部覆土中層から出土した橋状把手である。口唇部を折り返す形で貼付され，口縁部無文帯に空洞を残し覆っている。内面中央に単孔が穿たれ，外面にも盲孔が一孔設けられている。器面は微隆線でU字形に区画し，単節Lが縦位回転で充塡されている。胎土は，砂粒・石英粒を含み，焼成は普通である。

6は，第47号住居跡の西部覆土中層から出土した橋状把手である。口唇部を折り返す形で貼付され，口縁部無文帯に空洞を残し覆っている。胴部上位には，口縁部を区画した微隆線に沿って小さな刺突による列点文が施されている。胴部には，単節RLが縦位回転で施されている。胎土は，砂粒を含み，焼成は普通である。

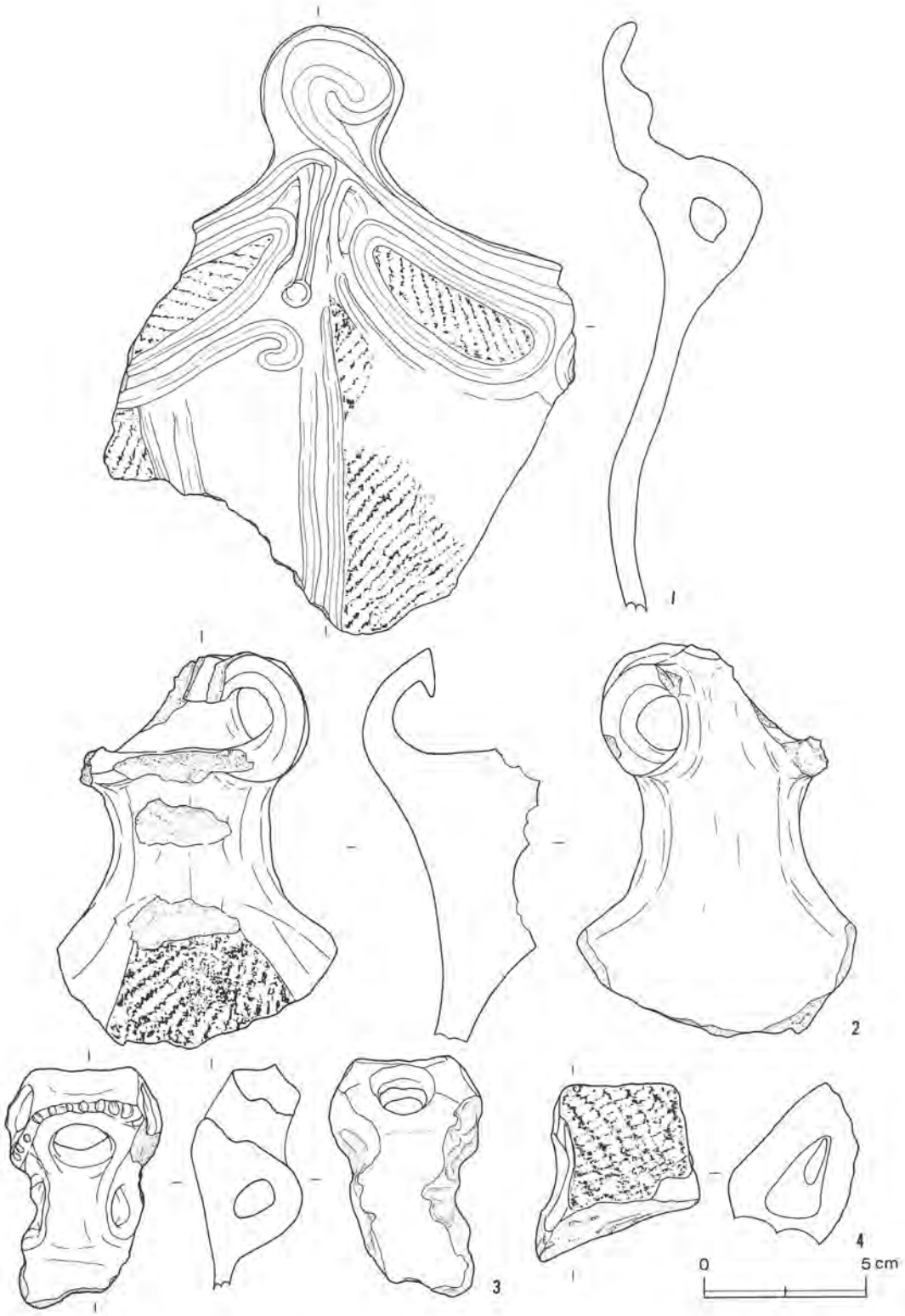
7は，表採の橋状把手である。口唇部を折り返す形で貼付され，口縁部無文帯に空洞を残し覆っている。外面には，単節LRが縦位回転で施されている。胴部上位は，単節LRが斜位回転で施されている。胎土は，砂粒・石英粒を含み，焼成は普通である。

8は，第43号住居跡の北部覆土下層から出土した突起状の把手である。三角形状の突起部に，中央に沈線を加えた鉢巻状の隆帯が貼付されている。上位の口唇部の内外面には，二条の縦位短沈線が施されている。外面の口縁端部には，単節RLが横位回転され，豚鼻状突起が2単位縦列に貼付されている。胎土は，砂粒・石英粒を含み，焼成は普通である。

9は，第75号土坑の覆土上層から出土した円筒状把手の破片である。器面は，縦位のナデ整形が施され，外面に縦位4点と3点の2列の盲孔を穿っている。上面は，皿状に窪んでいる。口縁部に直立して付けられたものと思われる。胎土に砂粒を含み，焼成は良好である。

10は，第47号住居跡の覆土上層から出土した円筒状把手の破片である。突起部上位は欠失しており不明であるが，上端部が外反していた痕跡が認められる。外面下位には，一条の隆帯が貼付されている。内面には，縦位の孔が設けられている。胎土は，砂粒を含み，焼成は普通である。

11は，表採の把手である。口縁部は，微隆線で区画した無文帯である。口唇部を突出させ，上位は欠損しているが単孔が空けられていた痕跡を残す。胴部は，単節LRが縦位回転されている。胎土は，砂粒・石英粒を含み，焼成は普通である。

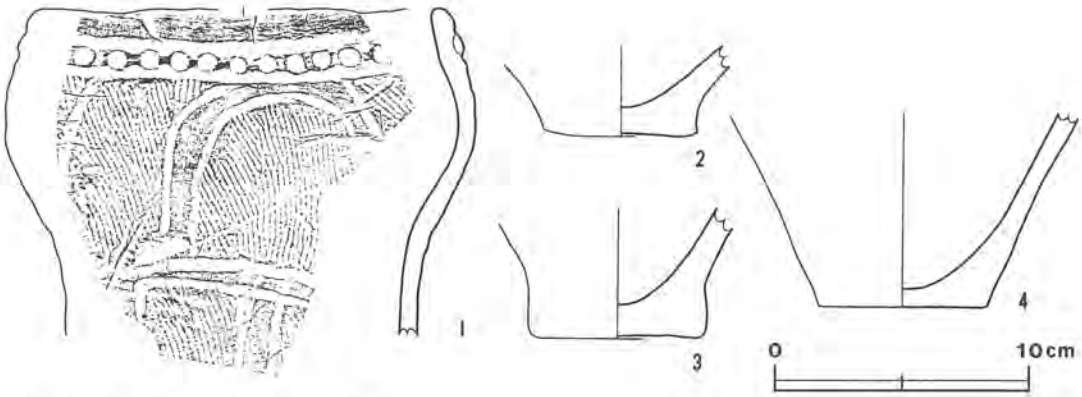


第60図　把手実測図(Ⅰ)

第61図　把手実測図(II)

5　遺構外出土土器（第62～65図）

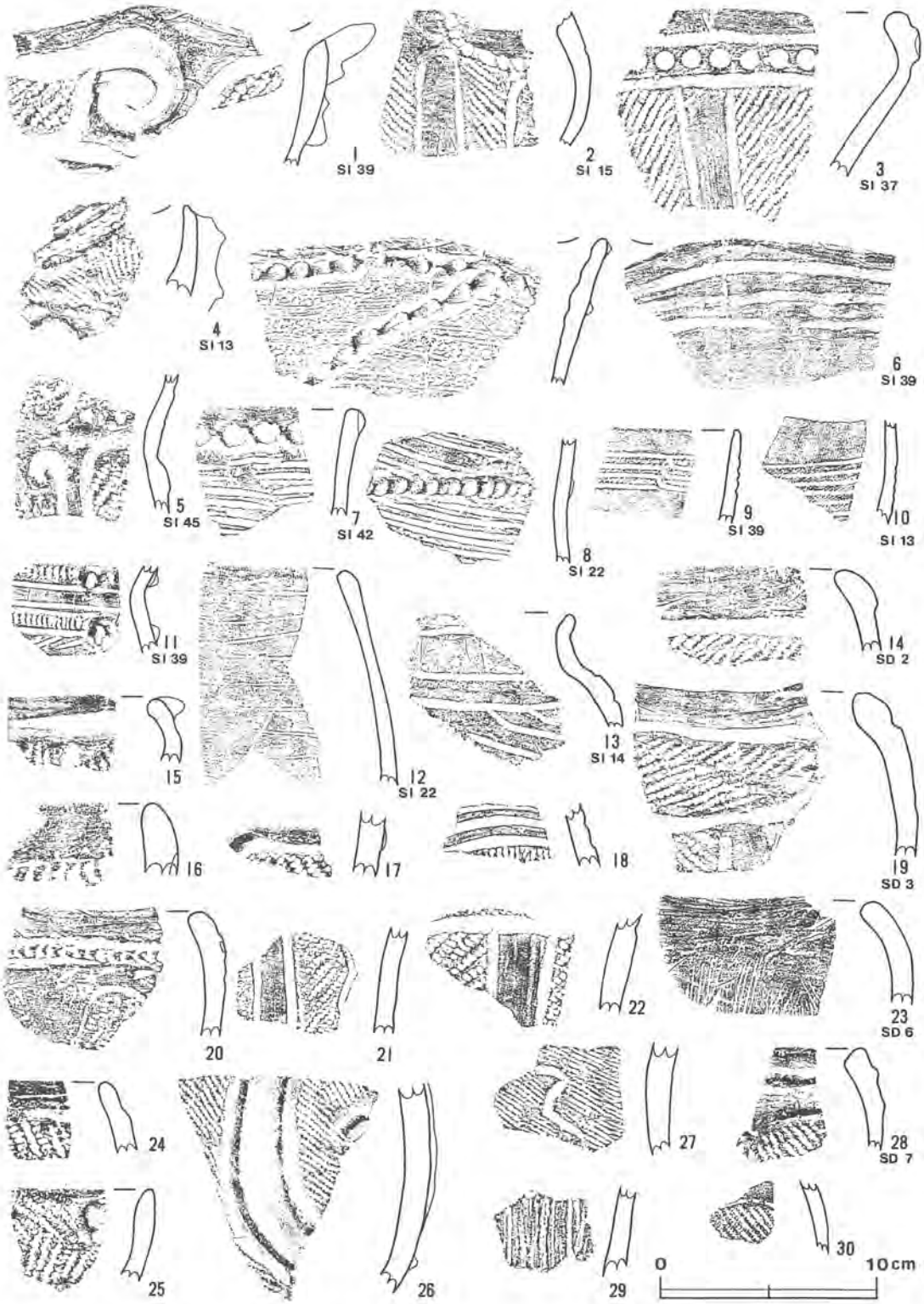
当調査区では，遺構外からも多くの縄文式土器片が出土している。これらも，いずれかの遺構に伴うものと思われるが，安易な推測を避け，観察表・実測図・拓影図でその一部を紹介する。ここで，遺構外としたものは，古墳時代の住居跡・溝覆土出土，トレンチ出土，表採のものである。土坑覆土出土土器片については，前述（第３節２）の通りである。



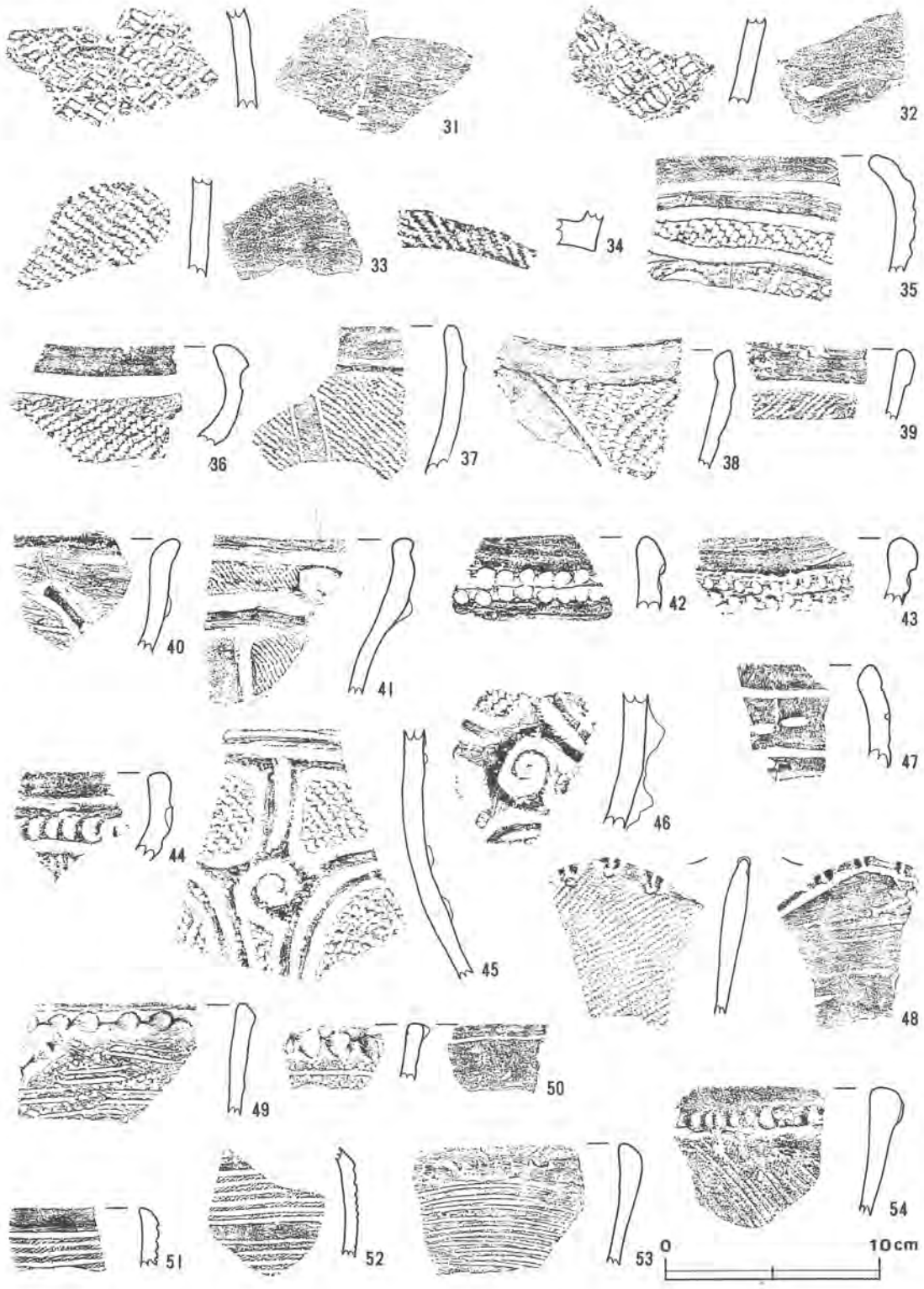
第62図　遺構外出土遺物実測図

遺構外出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴及び文様	胎土・色調・焼成	備　考
第 62 図 1	深鉢形土器 縄文式土器	A［15.8］ B（13.0）	キャリパー形土器の口縁部から胴部へ至る破片。口縁部は，二条の沈線で区画された中に，丸棒状工具による刺突文を横位に配した文様帯で区画されている。上位に無文帯を有する。胴部は，中位に磨消帯が配され上下が区画されている。上半部は，二条の沈線で区画された逆Ｕ字形の磨消文を配し，無節Ｌが縦位回転で充填されている。下半部は，二条の沈線で区画された磨消帯を垂下させ，区画内に無節Ｌが縦位回転で充填されている。内面は，ヘラ状工具による横位の丁寧なナデが施されている。	砂粒，スコリア 橙色 普通	20% P182 STI 北部覆土下層
2	深鉢形土器 縄文式土器	B（ 3.6） C　6.2	底部。ナデを加えた無文の平底。胴部下位は，外反気味に立ち上がり，ヘラ状工具による縦位のナデが施されている。内面もヘラ状工具による縦位のナデである。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	10% P372 表採
3	深鉢形土器 縄文式土器	B（ 5.2） C［7.0］	底部から胴下半部へ至る破片。底部は，ナデを加えた無文の突出した平底。胴部下位は外傾して立ち上がり，ヘラ状工具による横位のナデが施されている。内面の整形は磨耗のため不明である。	砂粒 にぶい橙色 普通	10% P378 表採
4	深鉢形土器 縄文式土器	B（7.8） C［6.6］	底部から胴下半部へ至る破片。ナデの加えられた無文の平底。胴部下位は外傾して立ち上がり，ヘラ状工具による縦位のナデが施されている。内面は，ヘラ状工具による斜位のナデが施されている。	砂粒，スコリア，石英 明赤褐色 普通	10% P398 中央部トレンチ



第63図　遺構外出土遺物拓影図(Ⅰ)



第64図　遺構外出土遺物拓影図(Ⅱ)

第65図　遺構外出土遺物拓影図(Ⅲ)

第3節　古墳時代の遺構と遺物

1　竪穴住居跡

当調査区から検出された古墳時代の住居跡は，28軒である。

各住居跡から出土した土器は，全て五領期に比定される土師器であり，住居跡の特徴から推察しても，当調査区の住居跡の年代は古墳時代前期に比定される。

第1号住居跡（第66図）

位置　調査区の中央部。C19i$_5$区を中心に確認された。**規模と平面形**　3.85×3.79mで，隅丸方形を呈する。**長軸方向**　N－54°－E。**壁**　壁高32～45cmで，外傾して立ち上がる。

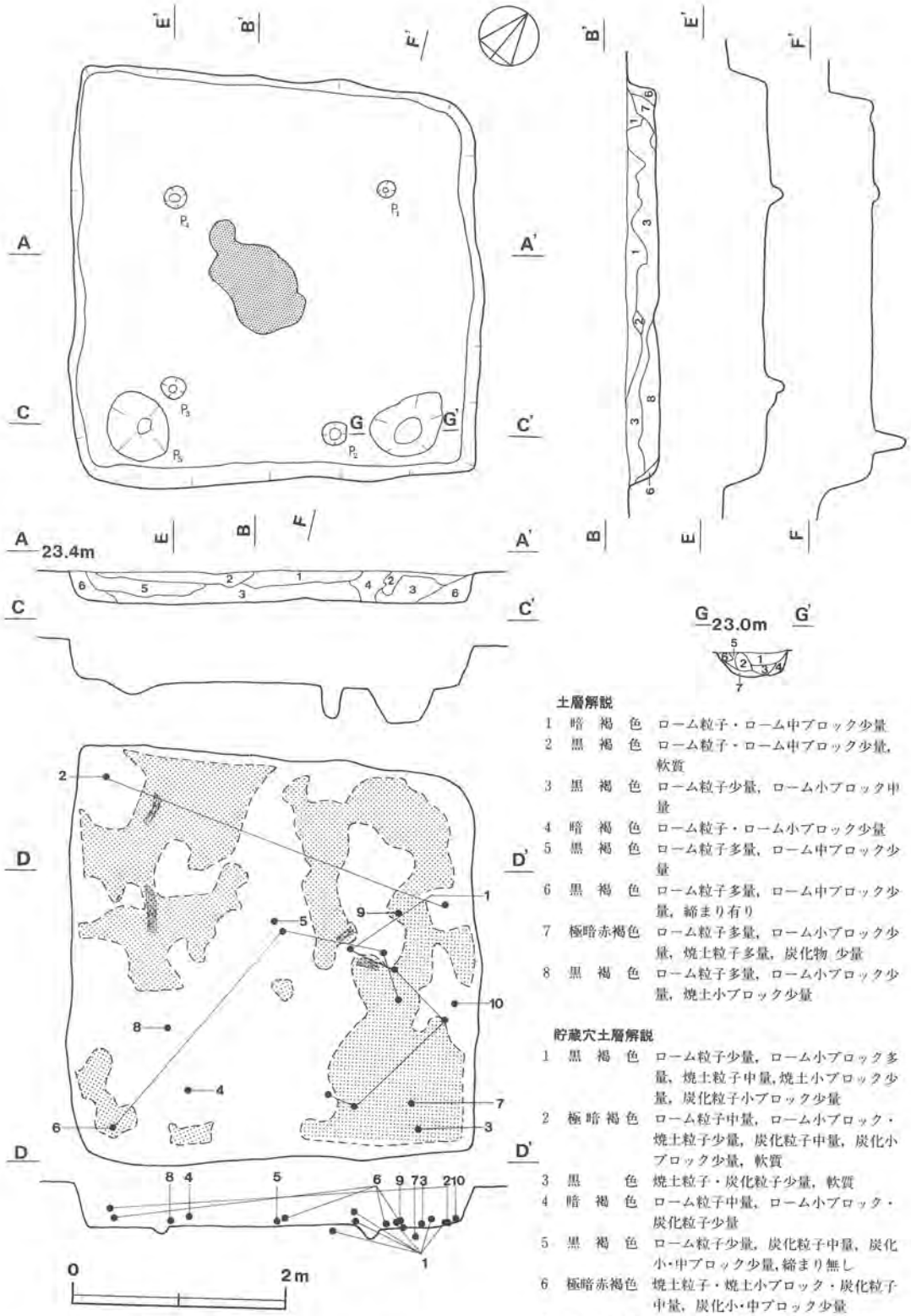
床　平坦で硬い。焼土が，ほぼ全面に被覆し，西・北・東部には焼土が10～20cmの厚さで遺存している。**ピット**　5か所。P$_1$～P$_4$は径16～24cm，深さ6～28cmで，配置から主柱穴と思われる。P$_5$は補助柱穴と思われる。**貯蔵穴**　東コーナー部に設けられ，長径74cm，短径52cmの楕円形を呈し，深さは34cm程掘られている。断面形は逆台形状を呈する。**覆土**　自然堆積。

遺物　全体的に壁付近の床面から甕・台付甕・壺・甑・器台片が出土している。土師器片は，59片（内，赤彩3片）出土している。東部床面からは，第67図3の台付甕と5の壺が正位で出土し，北部床面からは，第68図9の器台が横位で，10の器台が逆位で出土している。第68図7の壺は，貯蔵穴内の覆土から出土している。南部床面からは，4の大形の壺が潰れた状態で，また，8の甑が逆位で出土している。中央部床面には，6の壺が逆位で出土している。北西から北東部の床面の約2分の1を覆っている焼土上面からは，炭化材が出土している。

所見　本跡は，焼土が床面に広く遺存していることや炭化材の出土等から，焼失家屋と考えられる。焼失時期は，遺物の出土状況から住居使用中に火災に遭遇したものと考えられる。

第1号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第67図 1	甕 土師器	A 16.1 B 18.5 C 6.1	突出した平底。胴部は外傾して立ち上がり，最大径を中位にもつ。頸部から口縁部にかけて，「く」の字状に外反して開く。	外面－全面に斜位のハケ目整形。口縁部は，横ナデ。 内面－胴下半部に，横位のヘラナデがみられるが，整形が粗い。 磨耗が著しい。	砂粒 灰白色 普通	70% P3 PL25 東部床面
2	台付甕 土師器	B（12.7） D 9.7	胴部から台部にかけての破片。台部は「ハ」の字状に開き，裾部へ至る。胴部は外傾して立ち上がる。	外面－台部は斜位の太いハケ目整形。胴部は，ハケ目整形後，ナデを加えている。 内面－台部は明瞭な横位のハケ目整形。胴下半部に，斜位のヘラ磨き。	砂粒，パミスにぶい褐色 普通	20% P7 PL25 炭化物付着（底部） 西部床面



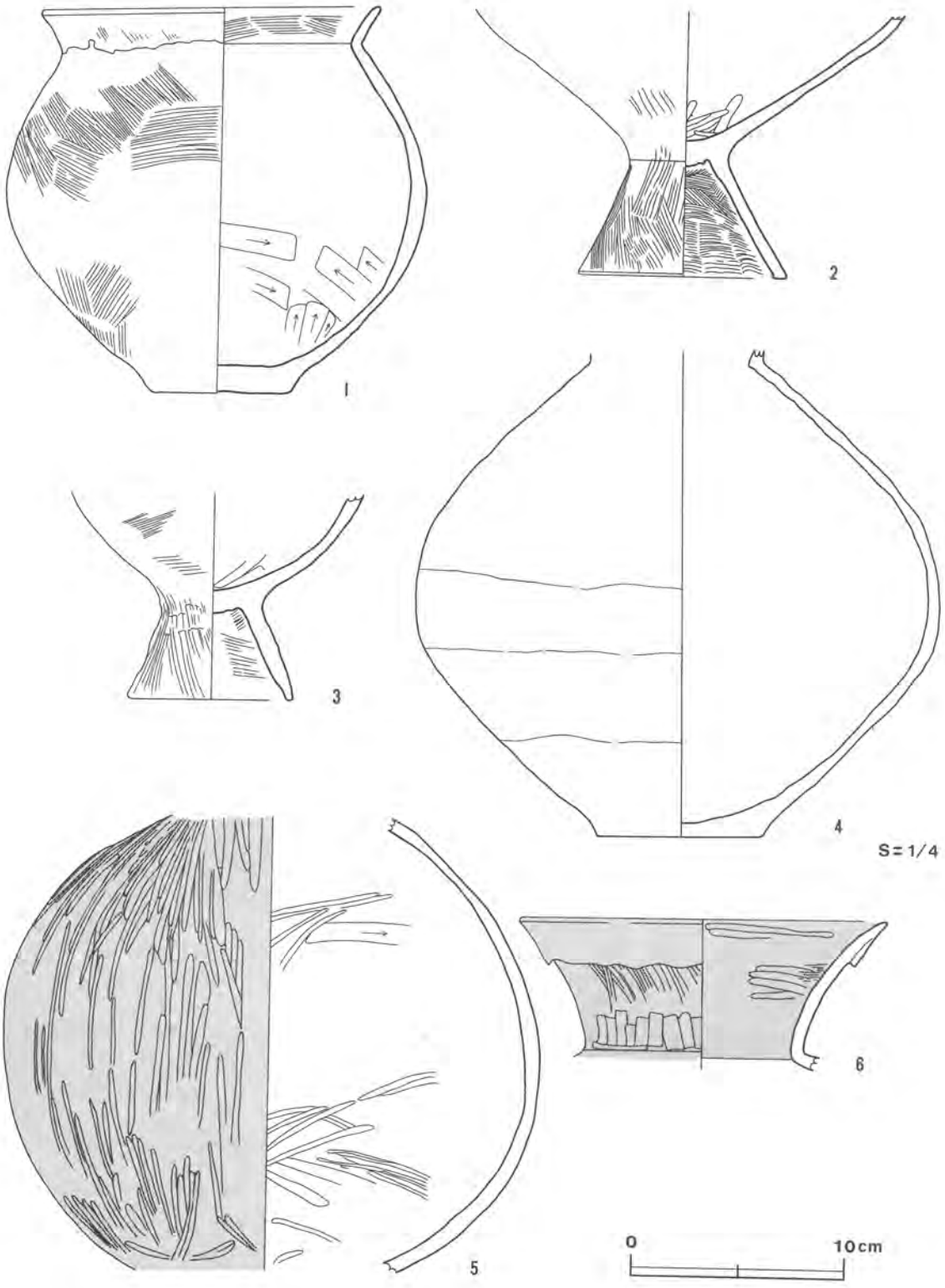
土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・ローム中ブロック少量
2 黒 褐 色 ローム粒子・ローム中ブロック少量，軟質
3 黒 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック中量
4 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
5 黒 褐 色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
6 黒 褐 色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，締まり有り
7 極暗赤褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子多量，炭化物 少量
8 黒 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック少量

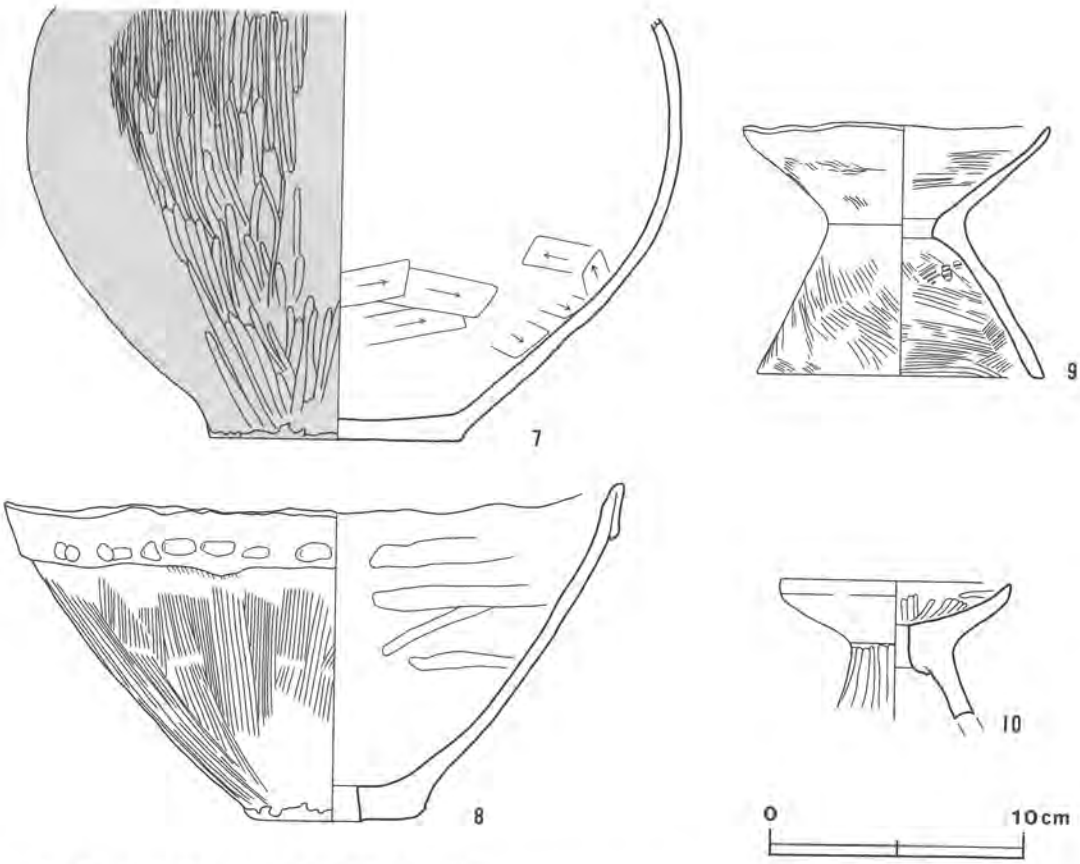
貯蔵穴土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子小ブロック少量
2 極暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子中量，炭化小ブロック少量，軟質
3 黒 色 焼土粒子・炭化粒子少量，軟質
4 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
5 黒 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子中量，炭化小・中ブロック少量，締まり無し
6 極暗赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子中量，炭化小・中ブロック少量
7 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量，軟質

第66図　第１号住居跡実測・遺物出土状況図



第67図　第１号住居跡出土遺物実測図（Ⅰ）



第68図　第１号住居跡出土遺物実測図(Ⅱ)

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第67図 3	台付甕 土師器	B(9.8) D 7.9	胴部から台部にかけての破片。台部は接合部から「ハ」の字状に開く。胴部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	外面－台部は斜位のハケ目整形。胴部は横位のハケ目整形後，ナデを加えているが全体に粗雑である。 内面－底部にヘラナデ。全体を横ナデ。	砂粒 浅黄橙色 普通	20% P 8 PL25 東部床面
4	壺 土師器	B(31.0) C 10.2	突出した平底をもつ大形の壺。胴部は外傾して立ち上がり，最大径を中位にもち，すぼまるように頸部へ至る。	内外面とも剥離が著しく，整形技法は確認できない。 輪積痕が認められる。	砂粒，パミス 赤橙色 不良	90% P 1 PL25 南部床面
5	壺 土師器	B(21.6)	底部と口縁部が欠損。胴部は薄手で球形を呈する。	外面－丁寧な縦位のヘラ磨き後，赤彩された痕跡が僅かに残る。 内面－縦横の粗いヘラ磨き。	砂粒，パミス 浅黄橙色 普通	80% P 2 PL25 東部床面
6	壺 土師器	A 17.5 B(7.2)	有段口縁壺の口縁部の破片。頸部から外傾して開き，口縁部で外反気味に開く。口縁部は折り返しの複合口縁。口唇部は押えられ薄い。口径部は正確な円形を呈する。	外面－縦位のハケ目。頸部は縦位のヘラナデ。口縁部は横ナデ。 内面－横位のハケ目整形後，ヘラ磨き。 内外面とも，赤彩。	砂粒 灰白色 普通	15% P 6 PL25 中央部床面

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第68図 7	壺 土師器	B(16.9) C 9.9	上半部を欠損。 突出した平底。胴部は外傾して立ち上がり,最大径を中位にもつ。	外面－丁寧な縦位のヘラ磨き後，赤彩されている。底部は粗いヘラナデ。 内面－横位のヘラナデ整形後，丁寧な横ナデ。	砂粒,雲母,スコリア 浅黄橙色 良好	50% P5 PL25 東部床面
8	甑 土師器	A 24.6 B 13.6 C 6.5	平底で，中央に単孔を有す。胴部は外傾して立ち上がり,最大径を口径にもつ。口縁部は折り返しの複合口縁。	外面－胴部は縦位のハケ目整形。口縁部は指頭圧痕が認められナデ整形。 内面－上位はヘラナデ。下位は横ナデ。丁寧な整形が施されている。	砂粒，礫,スコリア 浅黄橙色 普通	98% P4 PL25 南部床面
9	器台 土師器	A 12.2 B 10.0 D 11.4 E 5.5	脚部は，頸部から「ハ」の字状に開く。器受部は緩やかに外傾して開き，中央部には単孔がある。	外面－脚・器受部とも，ハケ目整形後指頭によるナデ。 内面－脚部は横位の明瞭なハケ目整形。器受部は横位のハケ目・ヘラナデ整形後，指頭によるナデ。	砂粒,雲母,スコリア にぶい橙色 普通	95% P9 PL25 北部床面
10	器台 土師器	A 9.2 B(5.5) E(2.1)	脚下半部は欠損。脚部は小さな角度で下向する。器受部は皿状に開き端部で垂直に立ち上がり，つままれ尖る。中央に単孔がある。	外面－脚部は縦位のヘラ磨き。器受部はハケ目整形後，横ナデ。 内面－縦位のヘラ磨き。上部は横ナデ。	砂粒，雲母 にぶい橙色 普通	60% P10 PL25 東部床面

第3号住居跡（第69図）

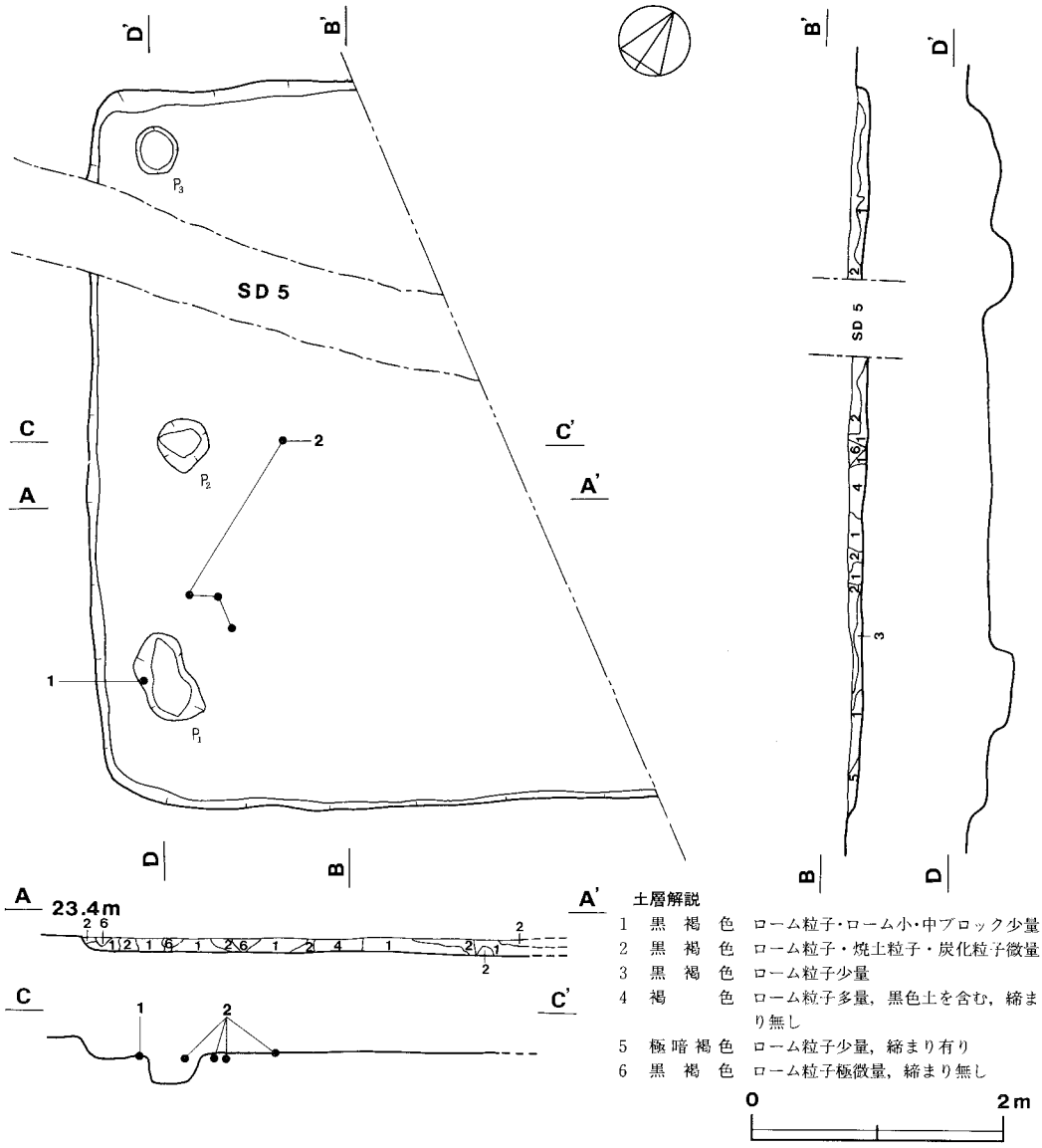
位置　調査区の中央部。C19g6区を中心に確認された。**重複関係**　第5号溝と重複しているが，本跡の方が古い。**規模と平面形**　5.33×(4.24)mで，隅丸方形を呈するものと推定される。**長軸方向**[N－35°－W]。**壁**　壁高16～19cmで，緩やかに傾斜して立ち上がる。**床**　平坦で，中央部が硬く踏みら固めらている。**ピット**　3か所。径38～71cm，深さ7～21cmを測る。P_1～P_3は，主柱穴と思われる。**炉**　確認できない。**覆土**　人為的に埋め戻されている。覆土が薄く(12cm程度)，各層とも微量であるが焼土粒子を含んでいる。

遺物　出土遺物の量は少なく，土師器片が23片(内，赤彩3片)出土している。第70図1の壺の破片が，南部のコーナー付近の床面から出土している。2の壺の破片も南部の床面に散在して出土している。

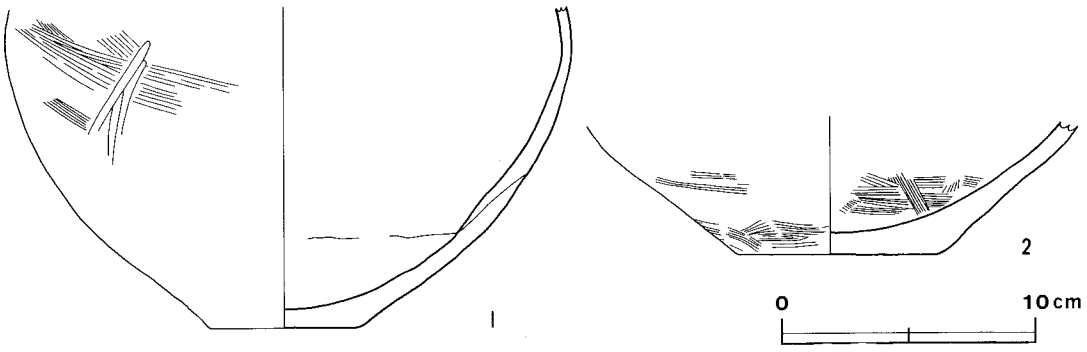
所見　本跡は，北部が調査区域外のため住居跡全体は確認ができなかった。

第3号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第70図 1	壺 土師器	B(12.8) C 6.0	胴部から底部にかけての破片。 突出した平底。胴部は球形を呈する。	外面－胴部中位に斜位のハケ目整形。下位は磨耗。 内面－横位のハケ目整形後，ナデ。 下半部に輪積痕がみられる。	砂粒,雲母,長石,スコリア にぶい橙色 普通	20% P13 PL26 南部床面
2	壺 土師器	B(5.4) C 8.0	底部の破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。	外面－横位のハケ目整形後，ナデ。 内面－ハケ目整形後，ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	10% P14 南部床面



第69図　第３号住居跡実測図



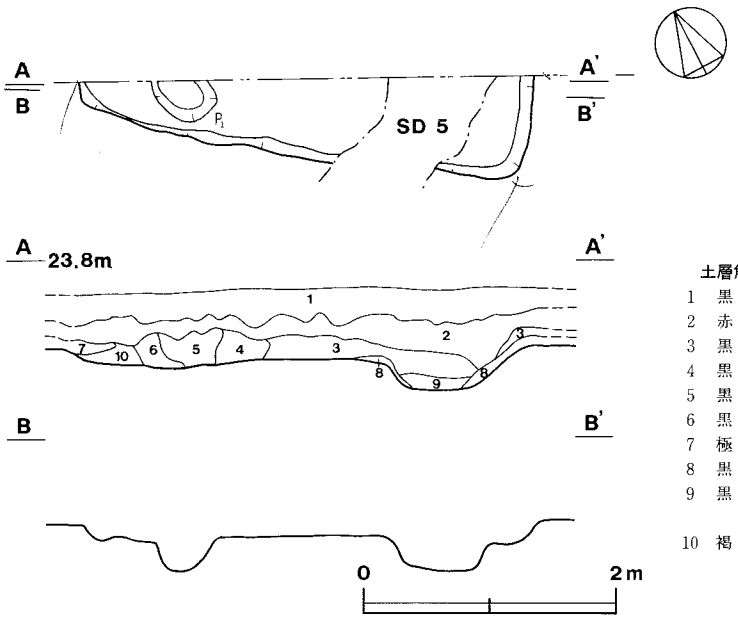
第70図　第３号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡（第71図）

位置　調査区の中央部。C19g1区を中心に確認された。**重複関係**　第5号溝と重複しているが，本跡の方が古い。**規模と平面形**　3.63×(0.82)mであるが，隅丸方形を呈するものと推定される。**長軸方向**　［N—53°—W］。**壁**　壁高11～18cmで，緩やかに傾斜して立ち上がる。**床**　全体的にほぼ平坦で，硬く踏み固められている。**ピット**　1か所。径47cm，深さ24cmを測り，P1は主柱穴と思われる。**炉**　確認できない。**覆土**　自然堆積。

遺物　遺物は極く少なく，土師器片が18片出土しているだけである。

所見　本跡は，北部のほとんどが調査区域外であるため，全体の調査はできなかった。



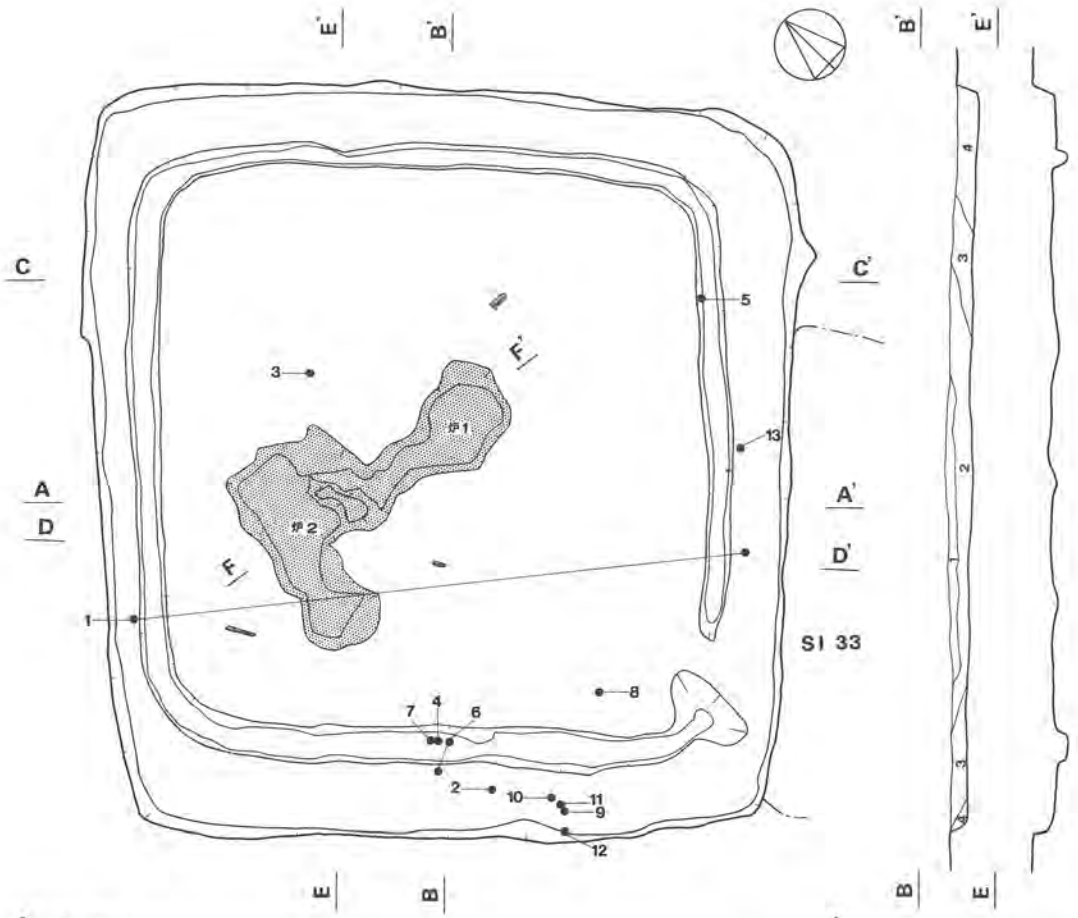
土層解説

1	黒	褐	色	耕作土
2	赤	黒	色	ローム粒子中量
3	黒	褐	色	炭化粒子微量，軟質
4	黒	褐	色	ローム粒子少量，軟質
5	黒	褐	色	ローム粒子少量
6	黒	褐	色	焼土粒子少量，締まり有り
7	極暗褐		色	ローム粒子微量，軟質
8	黒	褐	色	ローム粒子中量，極めて軟質
9	黒	褐	色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
10	褐		色	ローム大ブロック中量，ローム中ブロック少量，軟質

第71図　第5号住居跡実測図

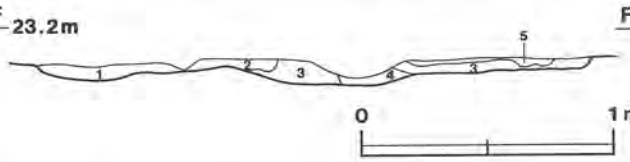
第6号住居跡（第72図）

位置　調査区の中央部。C19f2区を中心に確認された。**重複関係**　第33号住居跡と重複しているが，本跡の方が新しい。**規模と平面形**　5.94×5.51mで，隅丸方形を呈する。**長軸方向**　N－44°－E。**壁**　壁高11～17cmで，緩やかに傾斜して立ち上がる。**壁溝**　幅19～33cm，深さ7～12cmを測り，堀り込み断面形はU字状を呈し，壁際より18～56cmの内側をほぼ全周している。**床**　炉周辺が僅かに小高く，起伏があるものの全面が硬く踏み固められ堅緻な床である。**炉**　2か所。床面中央部とその西側に設けられている。炉1は，長径143cm，短径52cmの平面形が不整楕円形で，深さ10cmの地床炉で，炉2は，長径167cm，短径62cmで，深さ6cmの地床炉である。両炉床には，ロームがレンガ状に赤変硬化して遺存している。**覆土**　自然堆積。覆土が薄く，10～22cmの厚さで堆積している。



土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック微量，軟質
2 黒 褐 色 ローム粒子・ローム大ブロック少量，軟質
3 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量，軟質
4 極暗褐色 ローム粒子少量，締まり有り
5 暗赤褐色 焼土粒子・焼土小・中ブロック中量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量，ローム大ブロック中量，軟質



炉土層解説

1 明 褐 色 ローム粒子多量，焼土小ブロック中量，軟質
2 黒 褐 色 焼土粒子多量，焼土大ブロック少量
3 明 褐 色 ローム粒子多量，締まり有り
4 暗赤褐色 ローム粒子少量，焼土粒子中量，焼土中・小ブロック少量
5 黒 褐 色 焼土粒子少量、軟質

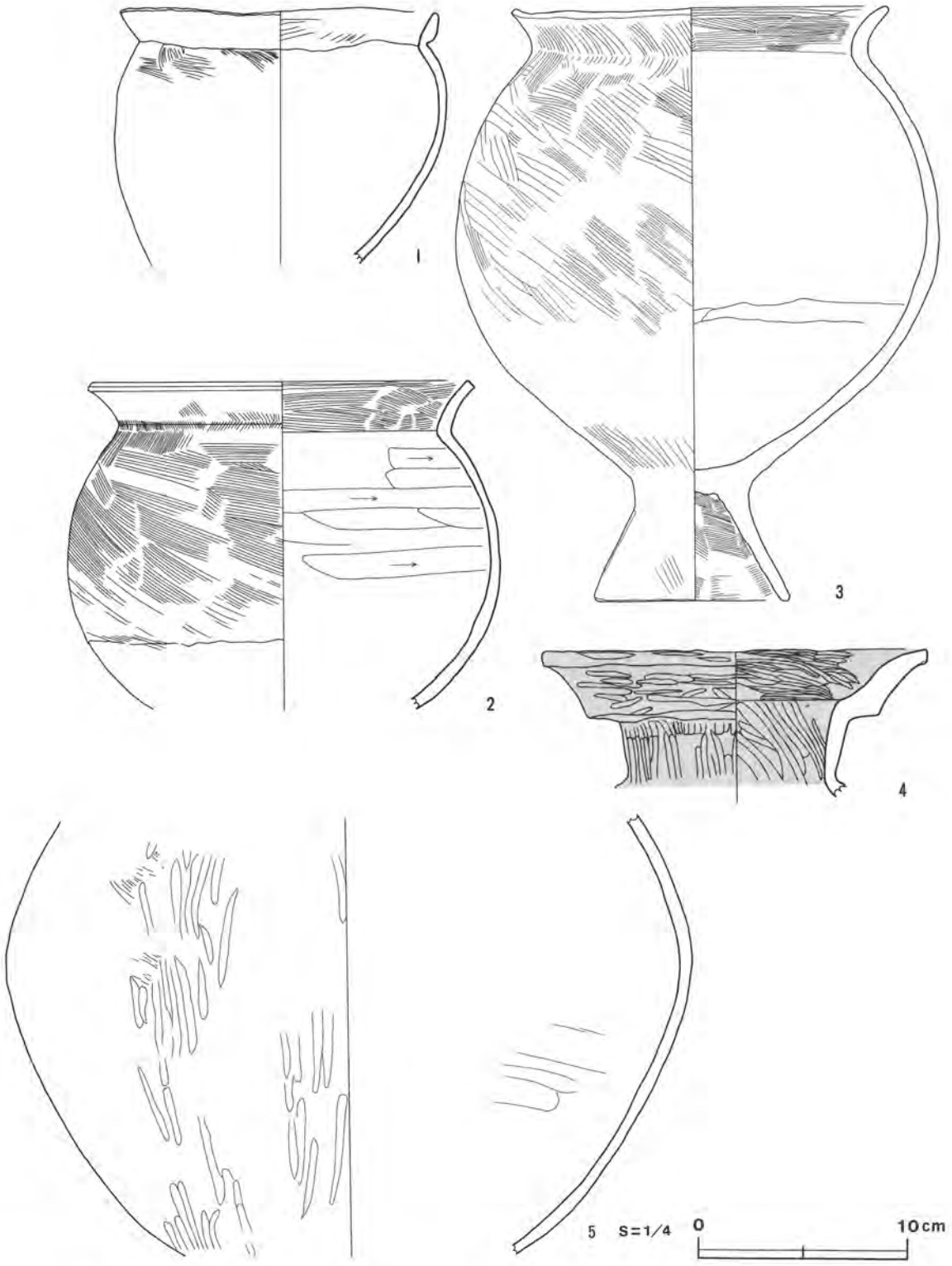
第72図 第6号住居跡実測図

遺物　遺物は，炉周辺や東部から南西部の壁付近の覆土から土師器片350片(内，赤彩39片)が出土している。炉の北側床面から第73図3の台付甕が，潰れた状態で一括して出土し，東コーナー付近には，5の壺が床面から砕けた状態で出土している。南西壁付近の覆土上～下層からは，第74図9・10・11・12のミニチュア土器が4点出土している。13のミニチュア土器は，東部覆土下層から出土している。その近くの床面直上には，第73図4の有段口縁の壺の口縁部が逆位で出土し，その東側の床面から第74図8の器台が横位で出土している。

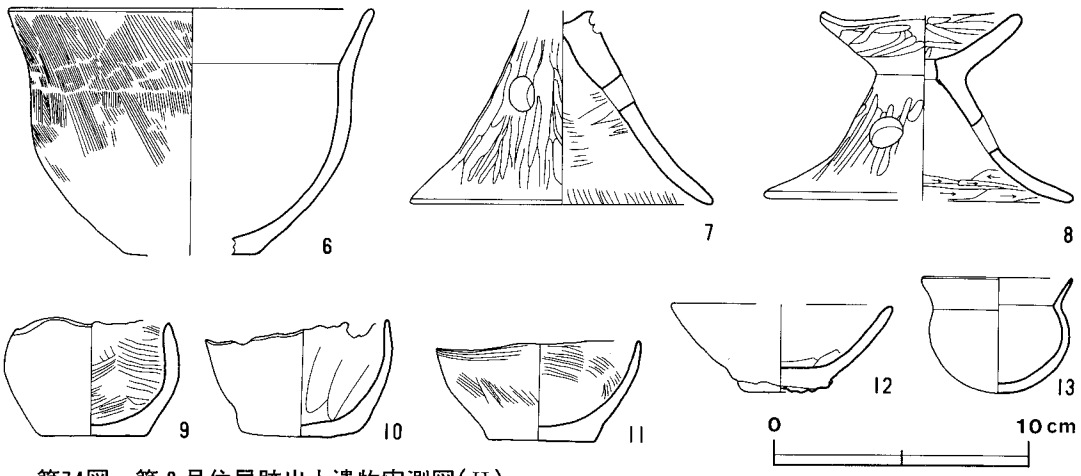
所見　本跡は，量は少ないが焼土ブロックや焼土粒子が床面に遺存しており，焼失家屋と考えられる。焼失時期については，遺物の出土状況からみて使用期間中に火災に遭遇したものと考えられる。

第6号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第73図 1	甕 土師器	A 15.4 B(12.3)	小形の甕の口縁部から胴部にかけての破片。口縁部は頸部から「く」の字状に開く。胴部は球形状を呈し最大径を中位より頸部近くにもつ。	磨耗が著しい。ハケ目整形の痕跡が認められる。 口縁部は横ナデ。	砂粒，礫 浅黄橙色 普通	50% P25 PL26 西部床面
2	甕 土師器	A 18.7 B(15.7)	口縁部から胴中央部にかけての破片。胴部は球形状を呈し最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から「く」の字状に外反して開く。	外面－胴部は横位のハケ目。口縁部は縦位のハケ目整形後，横ナデ。 内面－胴部は丁寧なヘラナデ。口縁部は横位のハケ目整形。 下半部に輪積痕がみられる。	砂粒，雲母 灰褐色 普通	50% P22 PL26 南部床面
3	台付甕 土師器	A 18.1 B 28.5 D 9.2	台部は「ハ」の字状に開き，裾部へ至る。胴部は外傾して立ち上がり，球形を呈し，最大径を中位にもつ口縁部は，外反して開く。	外面－台部は斜位のハケ目整形後，ヘラナデ。上端部は横ナデ。 内面－台部全面横位のハケ目整形。胴部は横位のヘラ削りとヘラナデ。口縁部は横位のハケ目整形。	砂粒，パミス 橙色 普通	80% P21 PL26 北部床面
4	壺 土師器	A 18.6 B(7.1)	有段口縁壺の口頸部から口縁部にかけての破片。頸部は垂直に立ち上がり，口縁部は皿状に開き外反する。内面に稜をもつ。	内外面とも頸部は縦位のヘラ磨き。口縁部は横位のヘラ磨きを丁寧に加え，その後，赤彩している。	砂粒，雲母 長石 赤色 普通	20% P28 PL26 南部床面直上
第74図 5	壺 土師器	B(28.2)	胴部の破片。大形であるため歪みがある。 最大径を上位にもつ球形を呈していたと思われる。	外面－斜位のハケ目整形後，縦位のヘラ磨きとナデが加えられている。 内面－ヘラナデ。	砂粒，パミス，スコリア にぶい褐色 普通	30% P23 PL26 東部床面
6	鉢 土師器	A[14.4] B 9.7	口縁部，体部，底部にかけての破片。平底。体部は底部より内彎気味に立ち上がり，中位より垂直に頸部に至る。口縁部は頸部より外傾して開く。	外面－細いハケ目整形，胴下半部はハケ目整形が磨耗。 内面－横ナデ。	砂粒 橙色 普通	50% P26 PL26 南部覆土下層
7	高　坏 土師器	B(7.7) D 12.0 E 6.6	脚部はラッパ状に下方に開き，裾部でやや傾斜を緩やかにして開く。3孔が空けられている。	外面－縦位の丁寧なヘラ磨き。 内面－ハケ目整形後，ナデ。	砂粒 浅黄橙色 普通	50% P31　PL26 南部覆土下層



第73図　第６号住居跡出土遺物実測図（Ⅰ）

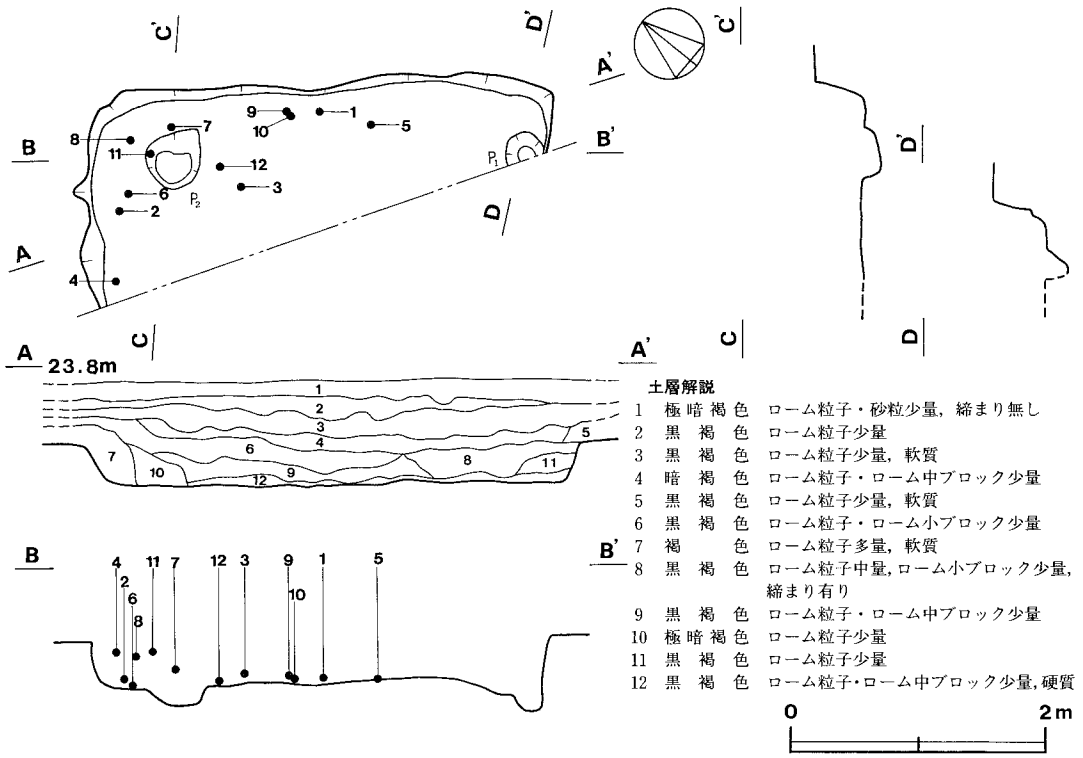


第74図　第6号住居跡出土遺物実測図(II)

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第74図 8	器　台 土師器	A[8.0] B 7.5 D[12.2] E 4.8	器受部は内彎気味に立ち上がり，中央の孔はややずれている。脚部はラッパ状に開き，裾部で緩やかに広がり，孔を有す。	外面－粗いヘラ磨き。 内面－器受部はヘラ磨き。 脚部はヘラナデ。	砂粒，スコリア 赤褐色 普通	70% P33 PL26 南部床面
9	ミニチュア土器 土師器	A 6.1 B 4.8 C 4.2	埦形。平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を上位にもつ。口唇部はつまみ上げられている。	外面－指頭によるナデ。 内面－ハケ目整形。 手捏ね。	砂粒 浅黄橙色 普通	90% P34　PL26 南部覆土下層
10	ミニチュア土器 土師器	A 7.3 B 4.8 C 5.0	埦形。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁上端部が波状を呈する。	外面－横ナデ。 内面－ヘラナデ。 輪積痕が残る。	砂粒 浅黄橙色 普通	98% P35　PL26 南部覆土上層
11	ミニチュア土器 土師器	A 8.1 B 4.1 C 4.3	鉢形。平底。体部は底部より外傾して立ち上がり中位から緩やかに内彎する。	内外面とも細かいハケ目整形。 口縁部は横ナデ。 口唇部にもハケ目整形が，施されている。手捏ね。	砂粒，礫 にぶい橙色 普通	70% P36 南部覆土中層
12	ミニチュア土器 土師器	A [8.9] B 3.5 C 3.8	鉢形。突出した平底。体部は内彎して開く。	外面－横ナデ。 内面－底部ヘラ削り。 中位～上位は横ナデ。 作りが粗く，底部の整形も雑である。 手捏ね。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	40% P37 南部覆土下層
13	ミニチュア土器 土師器	A 6.0 B 4.6	甕形。丸底で，胴部は球形を呈し，最大径を上位にもつ。口縁部は器厚を減じながら「く」の字状に外傾して開く。	内外面とも丁寧なナデ。 口縁部は横ナデ。 手捏ね。	砂粒，雲母，スコリア 浅黄橙色 普通	100% P43 PL26 東部覆土下層

第7号住居跡（第75図）

位置　調査区の中央部。C18g$_0$区を中心に確認された。**規模と平面形**　3.67×(1.65)mであり，隅丸方形を呈するものと推定される。**長軸方向**　確認できない。**壁**　壁高30～39cmで，外傾して立ち上がる。**床**　平坦で，中央部は踏み固められ特に硬い。**ピット**　2か所。径29～50cm，深さ16～25cmを測る。P$_1$・P$_2$とも主柱穴と思われる。**炉**　確認できない。**覆土**　自然堆積。



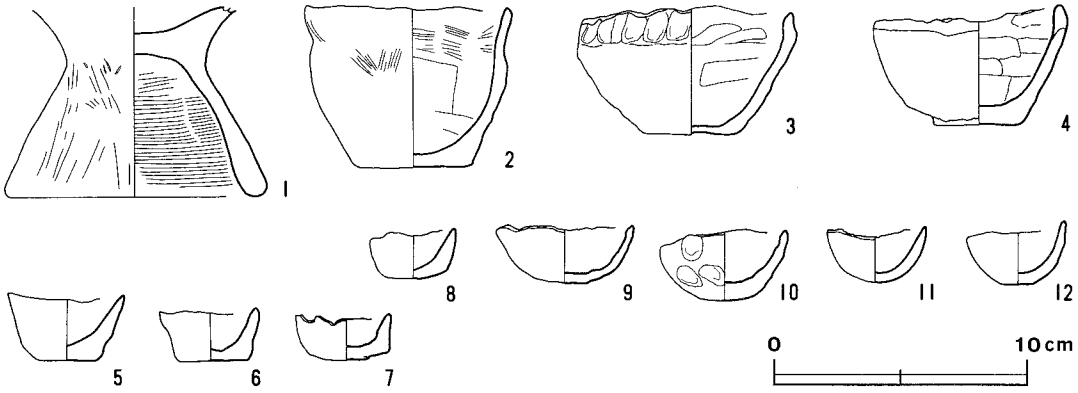
第75図　第7号住居跡実測図

遺物　完形のミニチュア土器が，11点出土している。北コーナー付近から北東壁際にかけての床面からは第76図5・8・9・10・12のミニチュア土器が5点出土し，覆土からも2・3・6・7・11の6点が出土している。その他，北東壁中央部の壁際の床面からは1の台付甕の台部が逆位で出土している。

所見　本跡は，南側が調査区域外のため全体の確認ができなかった。ミニチュア土器を，当調査区の中では1番多く出土していることから，祭祀的様相を強くもつ遺構であることが推察される。

第7号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第76図 1	台付甕 土師器	B(7.6) D 10.5 E 5.7	台部。 台部は「ハ」の字状に下方へ開き，裾部へ至る。	外面－太いハケ目整形後，横ナデ。 内面－細かいハケ目整形を横位に整然と加えている。 手捏ね。接合部が，内面とも丁寧に処理されている。	砂粒 浅黄橙色 普通	20% P55 東部床面
2	ミニチュア土器 土師器	A 8.3 B 6.5 C 4.2	甕形。平底。胴部は外傾して立ち上がり，上位に最大径をもつ。頸部は僅かにくびれる。口縁部は，外傾して立ち上がる。	外面－頸部にハケ整形目がみられるが，全体的に粗いナデ。 内面－胴部は丁寧なヘラナデ。口縁部は横位のハケ目整形。 手捏ね。	砂粒，パミス，礫，スコリア 浅黄橙色 普通	100% P44 PL27 北部覆土下層

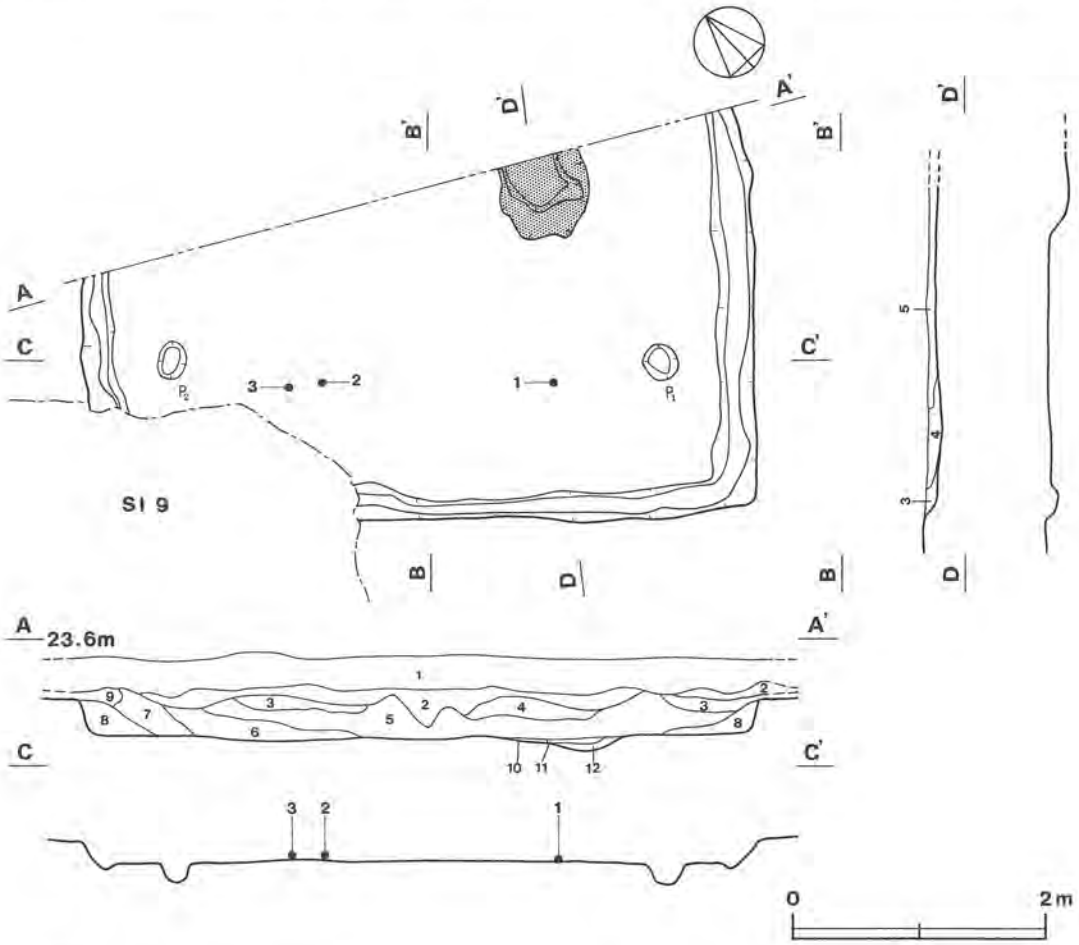


第76図　第7号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第76図 3	ミニチュア土器 土師器	A 8.3 B 5.0 C 3.7	鉢形。平底。体部はやや内彎気味に立ち上がる。口縁部は垂直に立ち上がる。	外面－粗いナデ。口縁部に指頭圧痕。 内面－胴部はヘラナデ。口縁部は指頭によるナデ。 手捏ね。内面に口縁部を貼り付けた線が残る。	砂粒，パミス，スコリア にぶい褐色 普通	98% P45 PL27 北部覆土下層
4	ミニチュア土器 土師器	A 7.5 B 4.8 C 3.5	鉢形。平底。体部は外傾して立ち上がる。 口縁部とのくびれをもたない。	外面－粗いナデ。 内面－ヘラナデ。 手捏ね。上端部近くに貼り付け痕。	砂粒，パミス 橙色 普通	100% P46 PL27 北部覆土上層
5	ミニチュア土器 土師器	A 4.7 B 2.7 C 2.2	鉢形。角に丸味があり，丸底に近い平底。 体部は外傾して立ち上がる。 口縁上端部が不揃い。	内外面とも指頭による粗いナデ。 手捏ね。	砂粒，パミス 灰白色 普通	100% P49 PL27 東部床面
6	ミニチュア土器 土師器	A 4.0 B 2.1 C 2.8	鉢形。平底。体部は外傾して立ち上がる。 口縁上端部が不揃い。	内外面とも指頭による粗いナデ。 手捏ね。	砂粒，パミス にぶい橙色 普通	100% P51 PL27 北部覆土上層
7	ミニチュア土器 土師器	A 3.8 B 1.9 C 3.2	埦形。平底であるが，一部に粘土が貼り付いている。 体部はほぼ垂直に立ち上がる。口縁上端部が不揃い。	内外面とも指頭による粗いナデ。 手捏ね。	砂粒，パミス 浅黄橙色 普通	100% P53 PL27 北部覆土中層
8	ミニチュア土器 土師器	A 3.4 B 2.0 C 2.7	埦形。やや丸味のある平底。 外面はほぼ垂直に立ち上がる。 内面は外傾して立ち上がる。	内外面とも指頭によるナデ。 手捏ね。	砂粒，パミス，スコリア 浅黄橙色 普通	100% P54 PL27 北部床面
9	ミニチュア土器 土師器	A 5.6 B 2.3	坏形。丸底。体部は内彎気味に立ち上がる。 口縁上端部が不揃い。	内外面とも指頭による粗いナデ。 手捏ね。	砂粒，パミス，スコリア 浅黄橙色 普通	100% P47 PL27 北部床面
10	ミニチュア土器 土師器	A 5.1 B 2.8	坏形。丸底で，体部は内彎気味に立ち上がる。 口縁上端部が不揃い。	内外面とも指頭による粗いナデ。 外面に指頭圧痕。 内面は丁寧に処理されている。 手捏ね。	砂粒，パミス，スコリア 浅黄橙色 普通	100% P48 PL27 北部床面
11	ミニチュア土器 土師器	A 3.9 B 2.3 C 1.6	坏形。丸底で，内彎気味に立ち上がる。 口縁上端部が不揃い。	内外面とも指頭による粗いナデ。 手捏ね。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	100% P50 PL27 北部覆土上層
12	ミニチュア土器 土師器	A 3.9 B 2.6 C 1.3	坏形。丸底で，体部は内彎気味に立ち上がる。 口縁上端部が不揃い。	内外面とも指頭による粗いナデ。 手捏ね。	砂粒，パミス，スコリア 灰黄色 普通	100% P52 PL27 北部床面

第8号住居跡（第77図）

位置　調査区の中央部。C19d₁区を中心に確認された。**重複関係**　第9号住居跡と重複しているが本跡の方が古い。**規模と平面形**　5.31×(3.16)mで，方形を呈するものと推定される。**長軸方向**　[N—48°—W]。**壁**　壁高5～19cmで，外傾して立ち上がる。**壁溝**　幅22～31cm，深さ4～7cmを測り，掘り込みは断面形がU字状を呈する浅い溝である。調査区域外の未確認部を除いて周回している。**床**　床面は，浅いが平坦で固く良好である。**ピット**　2か所。径28～30cm，深さ17～19cmを測り，その位置関係からP_1・P_2の2か所とも主柱穴と思われる。**炉**　床面中央部，やや西南寄りに設けられた地床炉である。長径(68)cm，短径62cmの不整楕円形を呈し



土層解説

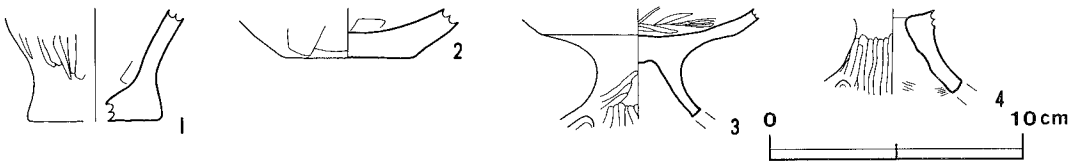
1　褐　色　ローム粒子・砂粒少量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　灰　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
5　極暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，締まり有り
6　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
7　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
8　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
9　黒　褐　色　ローム粒子少量
10　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
11　暗赤褐色　焼土小ブロック少量
12　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量

第77図　第8号住居跡実測図

ていると思われる。炉床は，床面を16cm程掘り窪めて構築され，ロームがレンガ状に赤変硬化している。**覆土**　自然堆積。

遺物　遺物量は少なく全て破片である。土師器片は51片出土しており，その中の22片(複合口縁部片２片)が赤彩されている。第78図１の甕の底部片が南部の床面から出土し，西部の覆土下層からは，２の甕底部・３の高坏の頸部片が出土している。

所見　本跡は，北部が調査区域外のため全体の確認ができなかった。

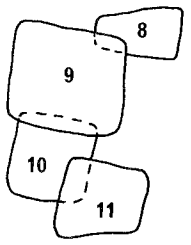


第78図　第８号住居跡出土遺物実測図

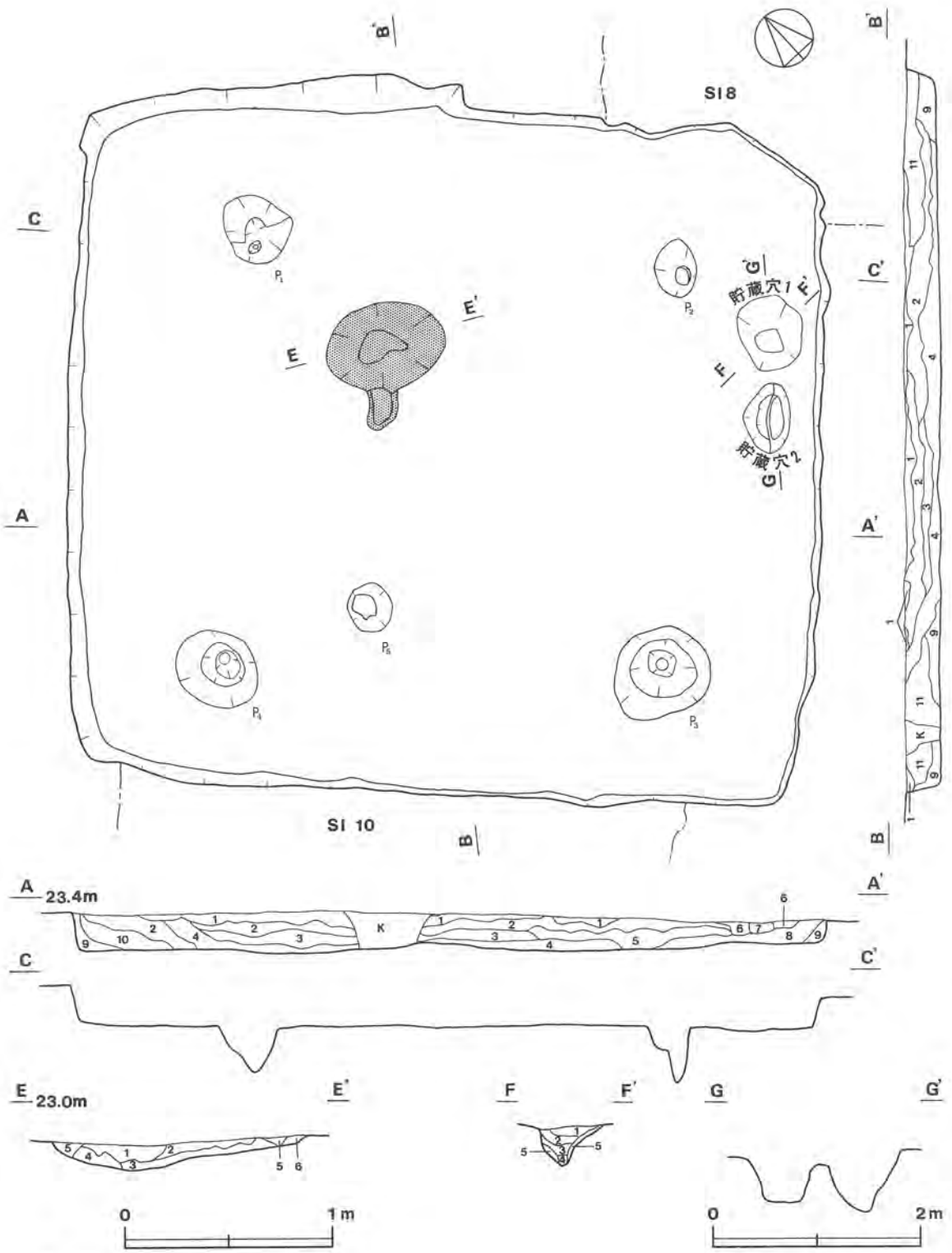
第８号住居跡出土土器観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78図 1	甕 土師器	B(4.5) C[5.2]	底部の破片。胴部は底部から外傾して立ち上がる。	外面－縦位のヘラ磨き。内面－ヘラナデ。	砂粒 明赤褐色 普通	5% P58 南部床面
2	甕 土師器	B(2.0) C[5.0]	底部の破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。	内外面ともヘラナデ。	砂粒 橙色 普通	5% P59 西部覆土下層
3	高坏 土師器	B(4.3) E(2.2)	頸部の破片。坏部は広角に開き，中位に稜を持ち角度を上げて開く。脚部はラッパ状に開く。	外面－細かいヘラ磨き。内面－坏部はヘラ磨き。脚部はハケ目整形後横ナデ。	砂粒，礫 浅黄橙色 普通	20% P56 PL26 西部覆土下層
4	器台 土師器	B(3.3) E(3.0)	頸部の破片。脚部は外反して下方へ開き，３孔の痕跡を残す。	外面－縦位の細かなヘラ磨き。内面－横位のハケ目整形。	砂粒 橙色 普通	10% P57 PL26 西部覆土上層

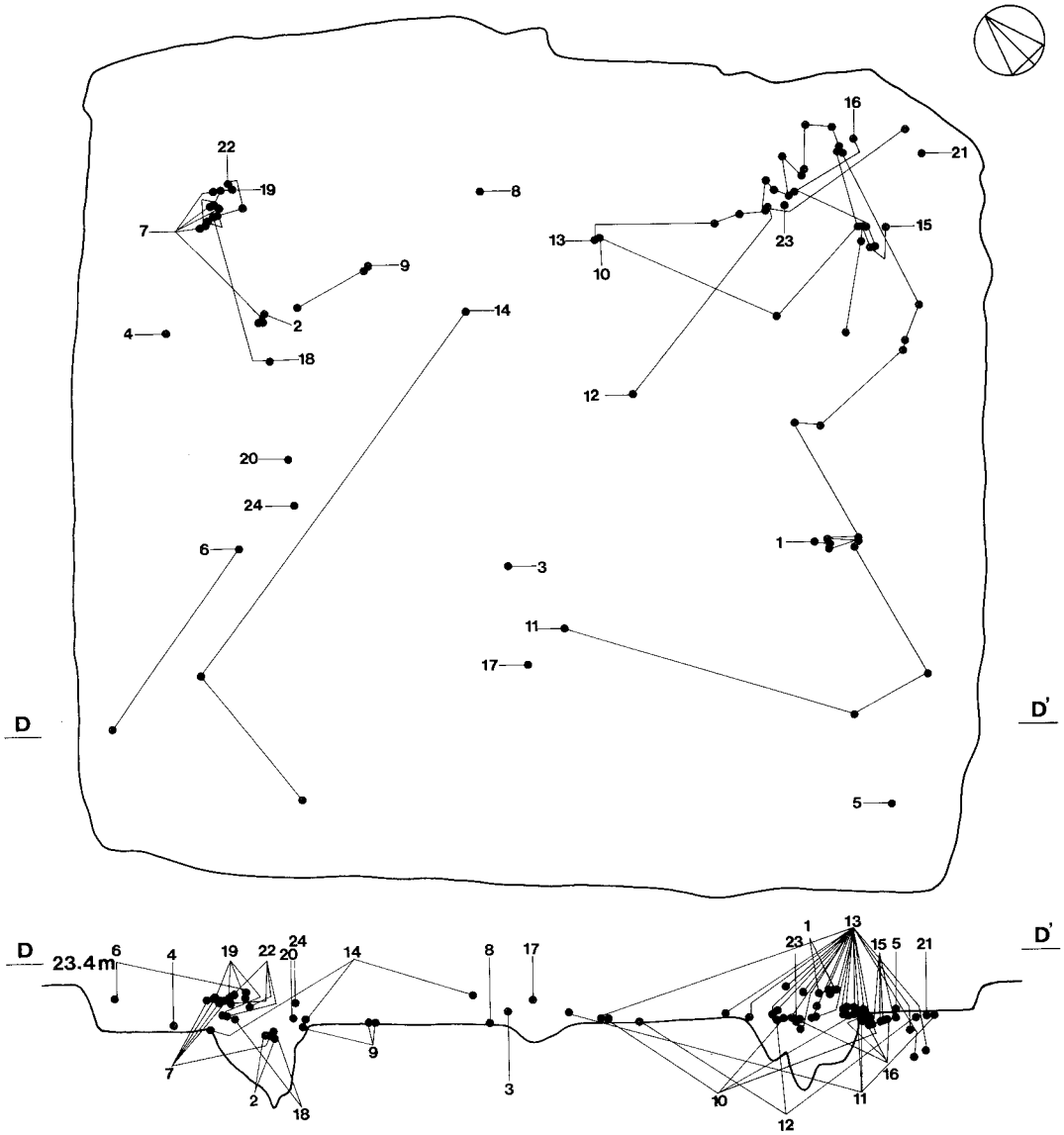
第９号住居跡（第79・80図）



位置　調査区の中央部。C19d$_0$区を中心に確認された。**重複関係**　第８・10号住居跡と重複しているが，本跡は第８号住居跡・第10号住居跡より新しい。**規模と平面形**　7.29×6.83mで，隅丸方形を呈する。**長軸方向**　N－42°－E。**壁**　壁高12～37cmで，外傾して立ち上がる。**床**　５本の柱穴に囲まれた範囲は，平坦で硬く良好な床である。南東壁の中ほどに出入口部と思われる僅かに小高い，硬い床を検出している。**ピット**　５か所。径51～98cm，深さ17～66cmを測る。P$_1$～P$_4$の４本は，位置関係や規模から主柱穴と思われP$_5$は補助柱穴と考えられる。**貯蔵穴**　２か所。南東壁中央部から東コーナー寄りに２か所設けられている。貯蔵穴１は，73×61cm，深さ48cmを測り，断面形はU字状である。貯蔵穴２は，67×46cm，深



第79図　第9号住居跡実測図



土層解説

1	黒	色	ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量，締まり有り
2	黒 褐	色	ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
3	黒 褐	色	ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
4	褐	色	ローム粒子多量，ローム中・大ブロック少量
5	暗 褐	色	ローム粒子・ローム中・大ブロック少量
6	暗 赤 褐	色	ローム粒子少量，焼土粒子多量，焼土ブロック少量
7	極暗赤褐	色	焼土粒子・焼土小・中ブロック多量
8	暗 褐	色	ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
9	褐	色	ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
10	黒 褐	色	ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
11	灰 褐	色	ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量

炉土層解説

1	暗 赤 褐	色	焼土粒子中量，軟質
2	暗 赤 褐	色	焼土粒子中量，炭化粒子少量
3	暗 赤 褐	色	焼土粒子少量，焼土中・大ブロック中量
4	赤 褐	色	焼土ブロック少量，軟質
5	黒 褐	色	焼土粒子極微量，軟質
6	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量

貯蔵穴1土層解説

1	黒 褐	色	ローム小・中ブロック少量
2	黒 褐	色	ローム小ブロック少量
3	黒 褐	色	ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子微量，軟質
4	黒 褐	色	ローム小ブロック少量，軟質
5	褐	色	ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，軟質

第80図　第9号住居跡遺物出土状況図

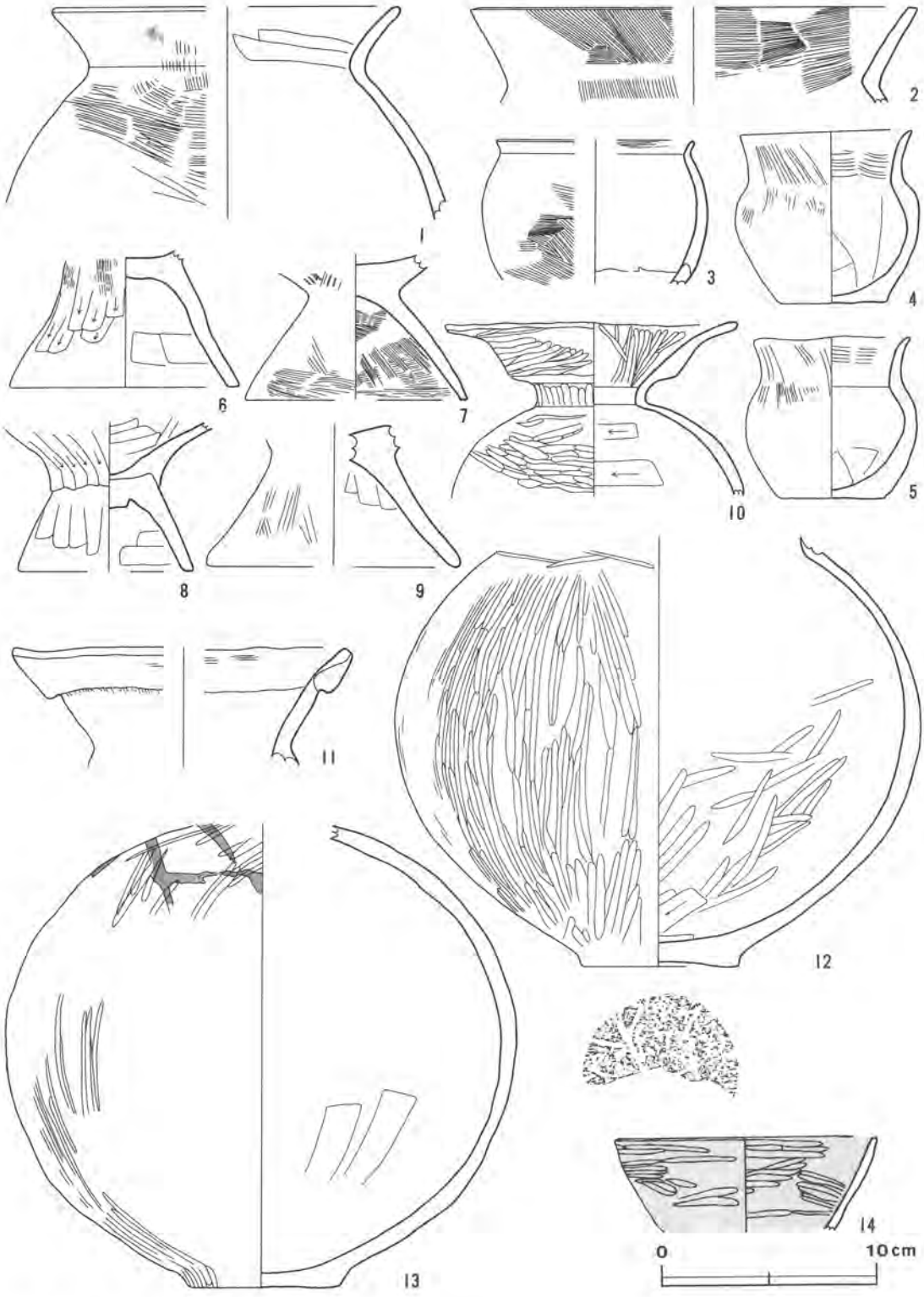
さ39cmを測り，断面形は逆台形状である。**炉**　床面中央部からやや西寄りに設けられ，規模は，長径128cm，短径115cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は，床面を15cm程掘り窪めて構築され，硬化している焼土の層は薄い。**覆土**　自然堆積。北東から南西にかけ散水管埋設のための撹乱がある。

遺物　北・東コーナー付近の覆土から，土師器片474片（内，赤彩片54片）が出土している。北部床面からは，第81図２・４の甕，６・７・９の台付甕が出土している。東部床面からは，10・12・13の壺，第82図15・16の２点の甑，21・23の器台が出土している。南部床面からは，第81図11の壺が出土している。西部床面からは，８の台付甕，14の坩が出土している。

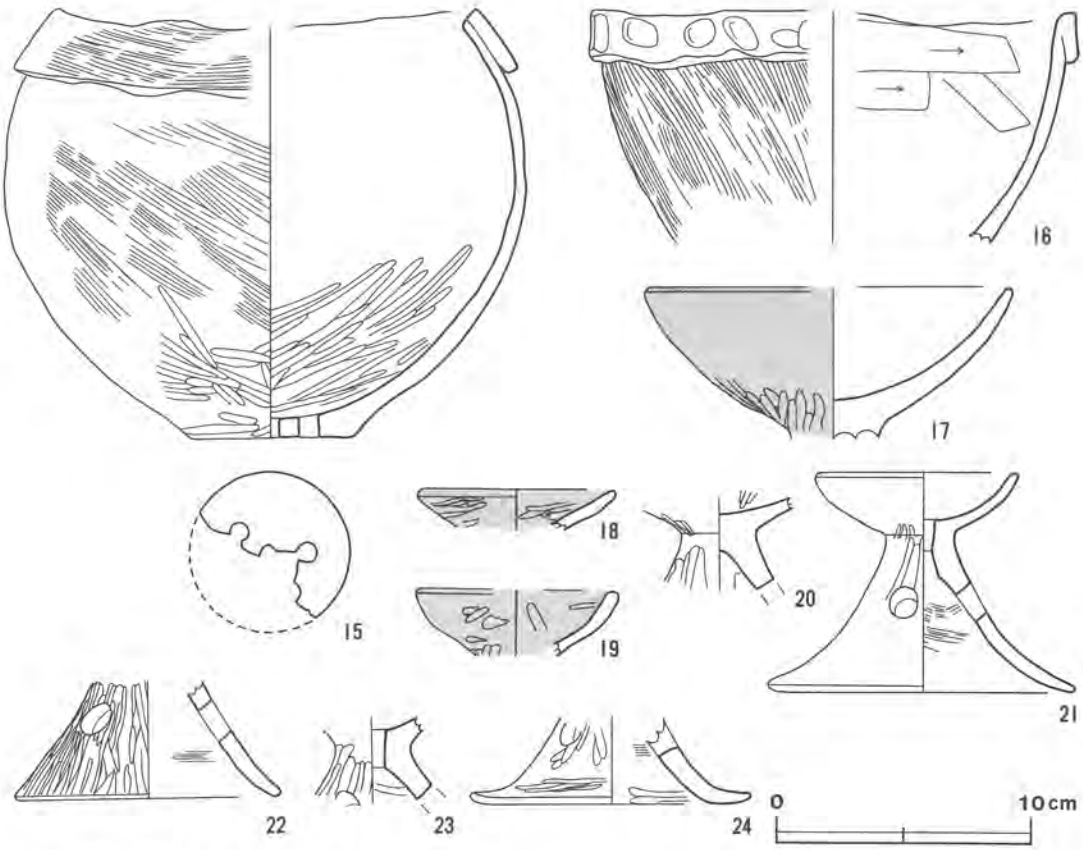
所見　本跡は，調査区の中では大形の住居である。

第９号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量（cm）	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第81図 1	甕 土師器	A［16.2］ B（10.0）	口縁部から胴部にかけての破片。口縁部は頸部より外反して立ち上がる。 胴部は球形状を呈する。	外面－胴部は器面全体をハケ目整形。口縁部は横ナデ。 内面－胴部は横ナデ。口縁部はヘラナデと横ナデ整形。	砂粒 灰褐色	15% P64 南部覆土上層
2	甕 土師器	A［21.0］ B（ 4.6）	口縁部の破片。 頸部より外反して立ち上がる。	口縁部は内外面とも斜位のハケ目整形。頸部は縦位のハケ目整形。口唇部は平坦にナデが加えられている。	砂粒，礫 橙色 普通	5% P65 北部床面
3	甕 土師器	A［ 9.4］ B（ 6.8）	胴部の破片。小形。 胴部は球形を呈し最大径を中位上部にもつ。口縁部は短く，「く」の字状に立ち上がる。	外面－斜位のハケ目整形。粗雑である。 内面－口縁部に横位のハケ目整形。胴部は丁寧なナデ。 輪積痕。	砂粒，スコリア にぶい褐色 普通	15% P83 西部覆土下層
4	甕 土師器	A　8.1 B　8.1 C　4.9	平底。小形。胴部は底部から外傾して立ち上がる。最大径を上位にもつ。口縁部は頸部から外反して立ち上がる。口径が，胴部の最大径にほぼ等しい。	外面－口縁部から，胴部上位は斜位のハケ目整形後，横ナデ。胴部下位は粗いナデ。 内面－口縁部は横位の太いハケ目整形。胴部上～中位は横ナデ。下位～底部はヘラナデ。	砂粒 浅黄橙色 普通	100% P72 PL27 北部床面
5	甕 土師器	A　7.4 B　7.6 C　4.9	平底。小形。胴部は外傾して立ち上がり，中位で内彎する。口縁部は器厚を減じながら外反して立ち上がる。	外面－斜位のハケ目整形後，粗いナデ。 内面－胴部はヘラナデ。 口縁部は横位の太いハケ目整形。	砂粒，礫 スコリア 浅黄橙色 普通	100% P60 PL27 南部床面
6	台付甕 土師器	B（ 6.4） D　10.7 E　5.1	台部の破片。 接合部から「ハ」の字状に開き，中位から裾部にかけて，外反気味に開く。	外面－縦位のハケ目整形後，縦位のヘラ削りを加えている。裾部は横ナデ。 内面－接合部底面は指頭による横位のナデ。裾部は横位のヘラナデ。胴部底面はヘラ磨き。	砂粒 にぶい橙色 普通	20% P74 炭化物付着 西部床面
7	台付甕 土師器	B（ 6.8） D［10.4］	台部の破片。 接合部から「ハ」の字状に開き，裾部へ至る。	外面－横位のナデ。裾部は細かいハケ目整形。 内面－横位と斜位のハケ目整形。	砂粒 明褐色 普通	10% P77 北部床面
8	台付甕 土師器	B（ 7.0） D［ 8.1］	台部の破片。 接合部から「ハ」の字状に開き，裾部でやや内彎する。胴下端部を，接合時に潰さず残している。胴部は，外反気味に立ち上がる。	外面－胴部下端に，丁寧なヘラ削り。台部はヘラナデされ，裾部は横ナデ。 内面－胴部，台部とも横位のヘラナデ。	砂粒，雲母，パミス 橙色 普通	10% P80 西部床面



第81図　第９号住居跡出土遺物実測図（１）



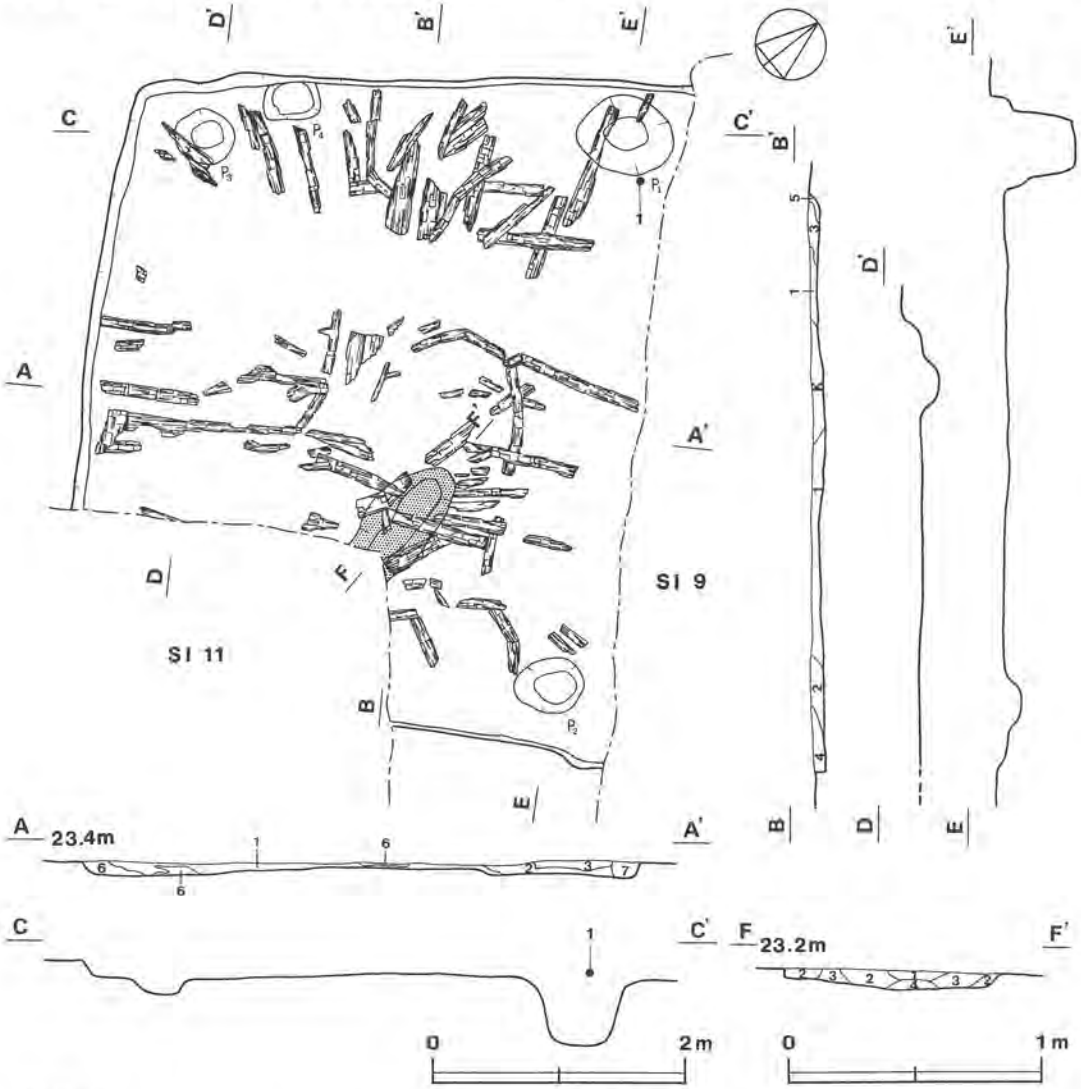
第82図　第9号住居跡出土遺物実測図(II)

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第81図 9	台付甕 土師器	B(6.7) D[11.8]	台部の破片。 ラッパ状に下方へ開く。	外面－斜位のハケ目整形後ナデ。 内面－上部はヘラナデ。他は横ナデ。	砂粒 浅黄橙色 普通	15% P94－2 北部床面
10	壺 土師器	A 13.7 B(8.2)	有段口縁壺の口縁部の破片。頸部は垂直に立ち上がり，口縁部で外傾し，さらに口縁端部で大きく外反する。胴部は球形を呈する。	外面－胴部は横位の細かいヘラ磨き。頸部の立ち上がりは丁寧な縦位のヘラ磨き。口縁部は，横位のヘラ磨き。口唇部に横位の太いハケ目整形。 内面－口縁部は縦位の丁寧なヘラ磨き。胴部は横位のヘラナデ。	砂粒，スコリア 赤色 普通	25% P66 PL27 東部床面
11	壺 土師器	A[15.9] B(5.5)	口縁部の破片。 頸部から外反して立ち上がる。口縁部は複合口縁。	全面磨耗。 外面に僅かにハケ目整形が残る。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	10% P67 PL27 南部床面
12	壺 土師器	B(20.2) C 7.1	底部から胴部にかけての破片。 胴部は球形を呈し最大径を中位にもつ。	外面－縦位の細かいヘラ磨き。 内面－下位はヘラナデ。 中～上位は横位・斜位のヘラ磨き。 底部に木葉痕有り。	砂粒，砂礫，スコリア にぶい橙色 普通	40% P62 PL28 東部床面

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第81図 13	壺 土師器	B 21.8 C 7.1	胴部縦2分の1と口縁部欠損。 突出した平底。 胴部は球形を呈する。	外面－縦位のヘラ磨き。 内面－ヘラナデ。 胴部上位に篦目が残る。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	40% P63 PL28 東部床面
14	坩 土師器	A 12.3 B(4.4)	口縁部の破片。 頸部から内彎気味に外傾して立ち上がる。薄手である。	内・外面とも横位の細かいヘラ磨きが加えられた後，赤彩されている。 外面は剝離が目立つ。	砂粒 赤褐色 普通	40% P84 西部床面
第82図 15	甑 土師器	A[16.6] B 17.0 C 6.4	口縁部から底部にかけての破片。突出した平底で，4孔以上の孔が空けられていたと思われる。胴部は底部から内彎して立ち上がり，口縁部に至る。最大径を中位上部にもつ。口縁部は複合口縁である。	外面－胴部中位から上位にかけては斜位にハケ目整形後ナデを加えている。口縁部は，横位のハケ目整形。胴部下位は縦横のヘラ磨き。 内面－下半部は斜位のヘラ磨き。上半部は横ナデ。	砂粒，雲母，パミス，スコリア にぶい橙色 普通	35% P70 PL28 東部床面
16	甑 土師器	A[19.1] B(9.2)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は内彎して立ち上がり最大径を上位にもつ。口縁部は折り返しの複合口縁である。	外面－斜位の太いハケ目整形。 口縁部は指頭圧痕が認められる。 内面－口縁部は横位のヘラ削り。胴部はナデ。	砂粒，礫 浅黄橙色 普通	30% P71 PL28 東部床面
17	高坏 土師器	A[14.7] B(6.0)	坏部の破片。 頸部から内彎して立ち上がる。	外面－坏部下端に丁寧な縦位のヘラ磨きが加えられ，その後赤彩されている。中～上位は磨耗が著しい。 内面－丁寧なナデが加えられている。	砂粒 浅黄橙色 普通	30% P86 西部覆土上層
18	高坏 土師器	A 7.8 B(1.6)	坏部の破片。 緩やかな皿状を呈する。	内外面とも横位のヘラ磨き後，赤彩されている。	砂粒，礫 赤色 普通	30% P87 北部覆土下層
19	高坏 土師器	A[8.0] B(2.7)	坏部の破片。 頸部から内彎して立ち上がる。	外面－横位のヘラ磨き。頸部は縦位のヘラ磨き。 内面－縦横のヘラ磨き。 内外面とも，赤彩されている。	砂粒 赤橙色 普通	20% P88 北部覆土中層
20	高坏 土師器	B(3.7) E(1.6)	頸部の破片。 坏部は皿状を呈する。 脚部はラッパ状に下方に開く。2孔が確認できる。	外面－縦位のヘラ磨き。 内面－脚部はヘラナデ。 坏部はヘラ磨き。	砂粒，雲母，長石，パミス にぶい赤褐色，普通	15% P90 西部下層
21	器台 土師器	A 8.1 B 8.7 D 12.2 E 5.5	脚部はラッパ状に下方へ開き，裾部で水平に近く大きく広がる。側面に3孔が空けられている。器受部は皿状を呈し，中央に単孔がある。	内外面とも磨耗が著しく，詳細は不明。 外面－脚部は縦位のヘラ磨き。 内面－脚部は横位の太いハケ目整形。 器面が平坦である。	砂粒 浅黄橙色 普通	100% P61 PL28 東部床面
22	器台 土師器	B(4.7) D 10.6	脚部。 「ハ」の字状に下方に開き，裾部でやや外反する。2孔が確認できる。	外面－丁寧な縦位のヘラ磨き。 赤彩されている。 内面－横位のハケ目整形後ナデ。 裾部は横ナデ。	砂粒，雲母，パミス 赤褐色 普通	40% P91 PL28 北部覆土中層
23	器台 土師器	B(3.3) E(1.2)	器受部。脚部欠損。 脚部は「ハ」の字状に下方に開く。器受部中央に単孔が空けられている。脚部に2孔が確認できる。	外面－縦位のヘラ磨き。 内面－脚部に横位のハケ目整形。	砂粒，雲母，スコリア にぶい橙色 普通	10% P92 東部床面
24	器台 土師器	B(3.4) D 11.2	脚部の破片。 脚部は「ハ」の字状に下方に開き，裾部はほぼ水平に開く。2孔が確認できる。	外面－粗いヘラ磨き。 内面－上部は横位のハケ目整形。 裾部は横位のヘラナデ。	砂粒，雲母， 浅黄橙色 普通	10% P93 西部覆土上層

第10号住居跡（第83図）

位置　調査区の中央部。C18es区を中心に確認された。**重複関係**　第9・11号住居跡と重複しているが，本跡は第9号住居跡，第11号住居跡よりも古い。**規模と平面形**　5.14×(4.38)mで方形を呈するものと推定される。**長軸方向**　[N−42°−W]。**壁**　壁高6～17cmで，緩やかに傾斜して立ち上がる。**床**　平坦で，硬く良好な床が検出されている。**ピット**　4か所。径44～78cm，深さ10～54



土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・炭化小ブロック少量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，粘性，締まり有り
3　黒　褐　色　焼土粒子少量，炭化粒子中量，硬質
4　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量，締まり有り
5　暗　褐　色　締まり有り，硬質
6　黒　　色　ローム中ブロック・炭化小・中ブロック少量
7　極暗褐色　粘性，締まり有り

炉土層解説

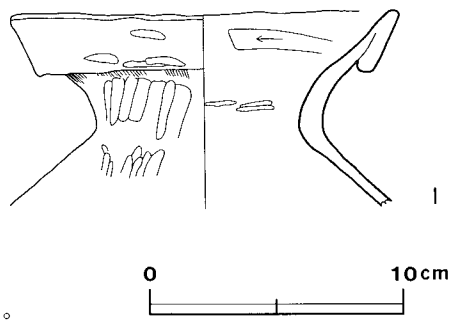
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子多量，炭化粒子・炭化小ブロック少量，軟質
2　極暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子多量，焼土小・中ブロック中量，炭化粒子少量
3　極暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子多量，焼土小・中ブロック・炭化粒子中量，炭化小ブロック少量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，軟質

第83図　第10号住居跡実測図

cmを測る。P_1～P_3が主柱穴で，P_4は補助柱穴と思われる。**炉**　床面中央部からやや南東寄りに設けられ，規模は，長径83cm，短径52cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は，床面を19cm程掘り窪めて構築され，ロームがレンガ状に赤変硬化している。**覆土**　自然堆積。北東～南西にかけては，散水管埋設のための撹乱がある。

遺物　出土遺物は少なく，第84図1の壺の複合口縁部片は，P_1付近の床面から正位で出土している。その他には，細片が94片出土した。床面中央部の炭化材は放射状に遺存し，西壁に沿っての炭化材は壁と並列の状態で出土している。P_1付近からは，「ホゾ」と「ホゾ穴」を有すると思われる炭化材が近接し，炉東側の炭化材上面には屋根材と思われる炭化物も出土している。

所見　本跡は，北東側を第9号住居跡に，南側を第11号住居跡に切られている。3軒の中では，一番古い住居跡である。また，炭化材の遺存状況より判断して焼失家屋で，土器がほとんど出土していないことから，本跡は廃絶後焼かれたとも考えられる。



第84図　第10号住居跡出土遺物実測図

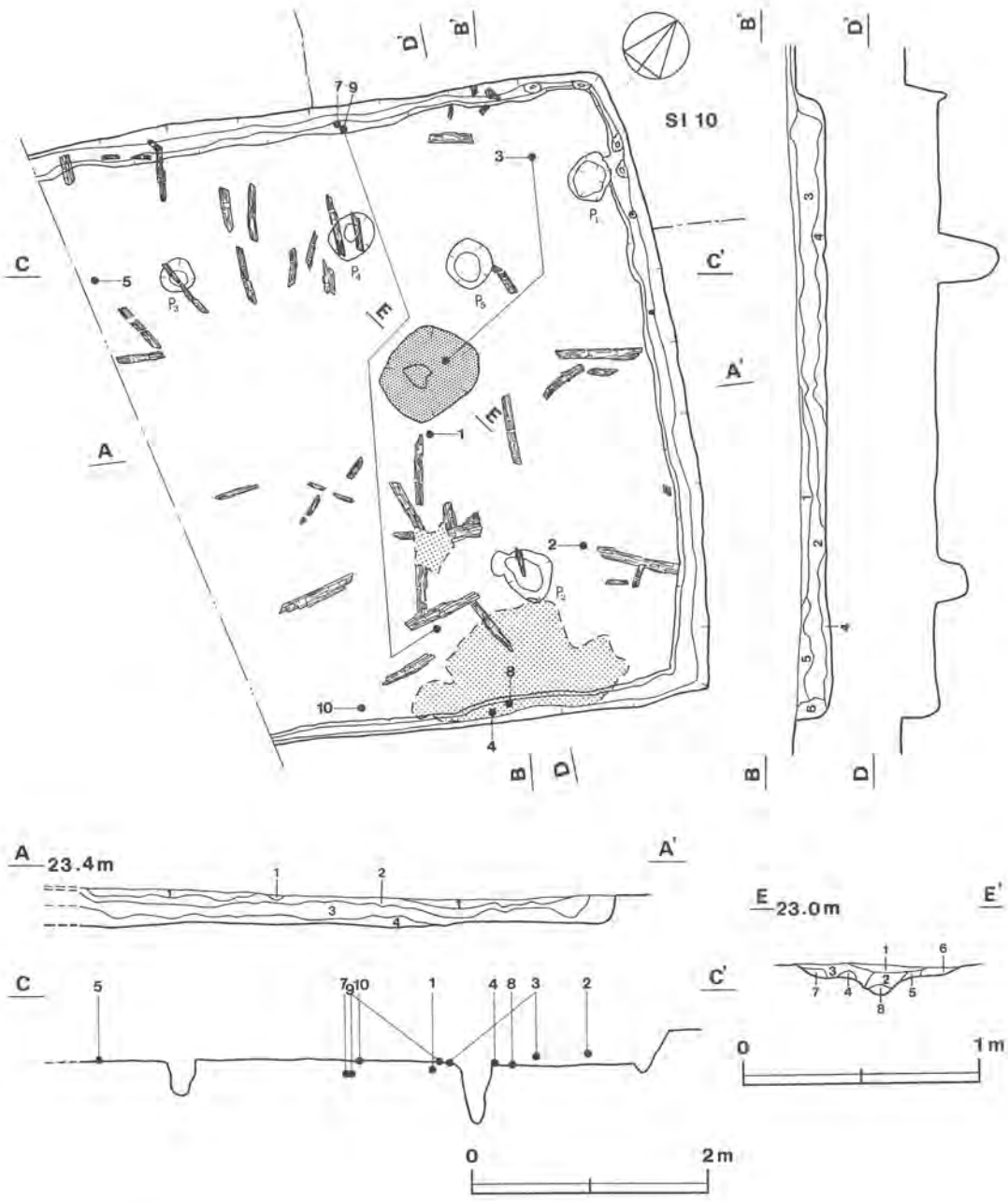
第10号住居跡出土土器観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第84図 1	壺 土師器	A 15.4 B(7.8)	口縁部。 頸部は外反気味に立ち上がる。 口縁部は折り返しの肉厚な複合口縁である。	磨耗が著しい。 外面－胴部から頸部にかけ縦位のヘラ磨き。口縁部は横位のヘラ磨き。 内面－横位のヘラナデが認められる。ヘラナデ整形後ヘラ磨きされていると思われる。	砂粒 にぶい橙色 普通	20% P95 PL26 北部床面直上

第11号住居跡（第85図）

位置　調査区の中央部。C18f9区を中心に確認された。**重複関係**　第10号住居跡と重複しているが，本跡の方が新しい。**規模と平面形**　5.39×(4.54)mで，隅丸方形を呈するものと推定される。**長軸方向**　[N－50°－W]。**壁**　壁高27～32cmで，緩やかに傾斜して立ち上がる。**壁溝**　幅13～28cm，深さ3～8cmを測る。掘り込みの断面形は，U字状を呈し周回している。**床**　平坦で，炉周辺を中心に踏み固められ堅緻である。**ピット**　5か所。径28～54cm，深さ24～50cmを測る。P_1～P_4が主柱穴である。**炉**　床面中央部のやや北東寄りに設けられ，径85cmの不整円形を呈する地床炉である。炉床は，床面を14cm程掘り窪めて構築され，ロームがレンガ状に赤変硬化している。**覆土**　自然堆積。

遺物　東部を中心に，床面全体に散在して甕・台付甕・壺・坩・高坏・器台・ミニチュア土器の破



土層解説

1 黒 褐 色 炭化材少量，軟質
2 褐 色 ローム粒子・焼土粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小・大ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，粘性・締まり有り
4 黒 褐 色 ローム粒子・ローム中・大ブロック・焼土粒子・炭化粒子中量，締まり有り，硬質
5 黒 褐 色 ローム粒子少量，軟質
6 暗 褐 色 ローム粒子少量，ローム小・中ブロック・炭化粒子中量

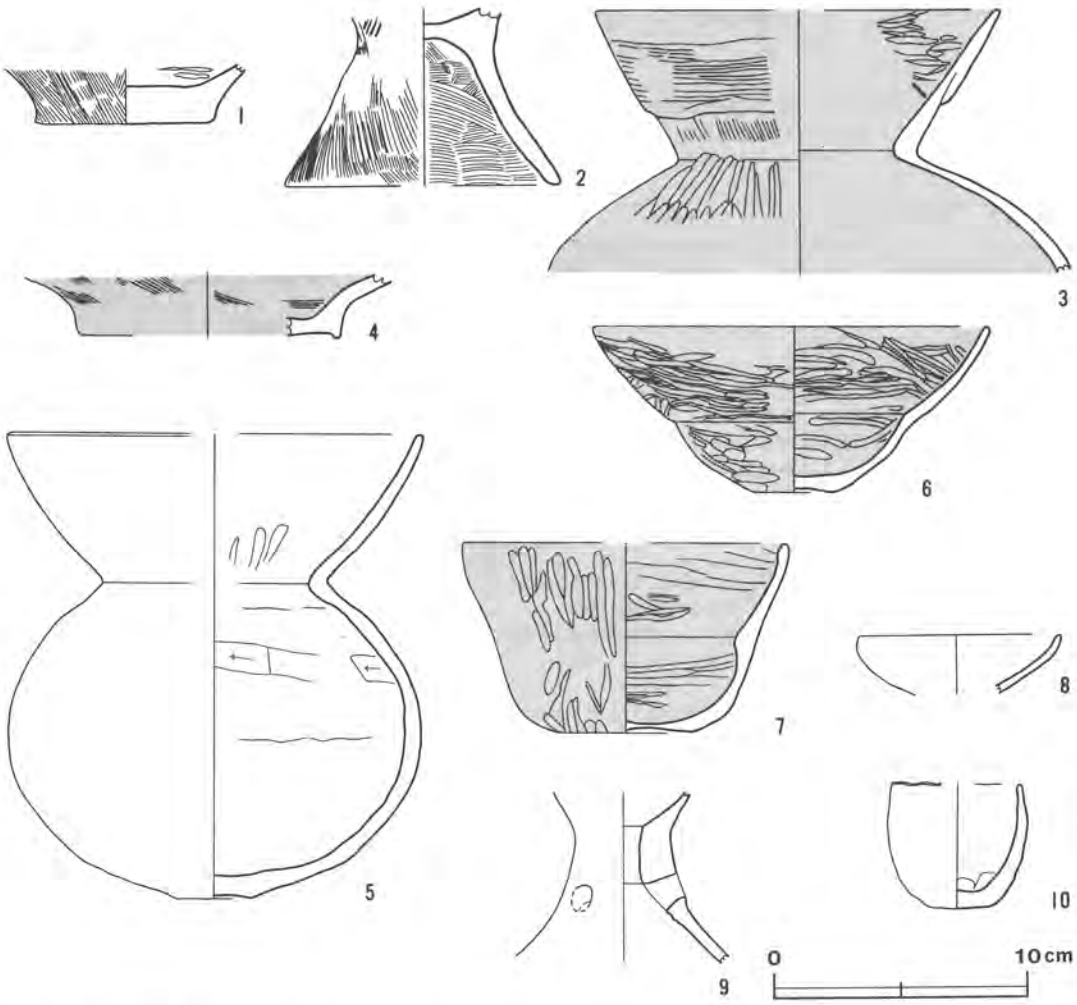
炉土層解説

1 黒 褐 色 焼土小ブロック中量
2 暗 赤 褐 色 焼土粒子少量，焼土中・大ブロック中量
3 黒 褐 色 焼土粒子中量，焼土中ブロック少量
4 極暗赤褐色 焼土粒子多量，硬質
5 暗 赤 褐 色 焼土小ブロック少量，硬質
6 極暗赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量
7 黒 褐 色 ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土大ブロック中量
8 暗 赤 褐 色 ローム大ブロック・焼土粒子中量，硬質

第85図　第11号住居跡実測図

片が出土している。第86図6の坩は，北部の覆土から横位で出土している。他は，破片であり土師器片が134片(内，赤彩42片)出土している。上屋組みに使用されたと思われる炭化材が，床面中央から壁に向って放射状に出土している。その上には，屋根材と思われる炭化物も出土している。

所見　本跡は，炭化材・焼土粒子の出土状況から焼失家屋と判断できる。



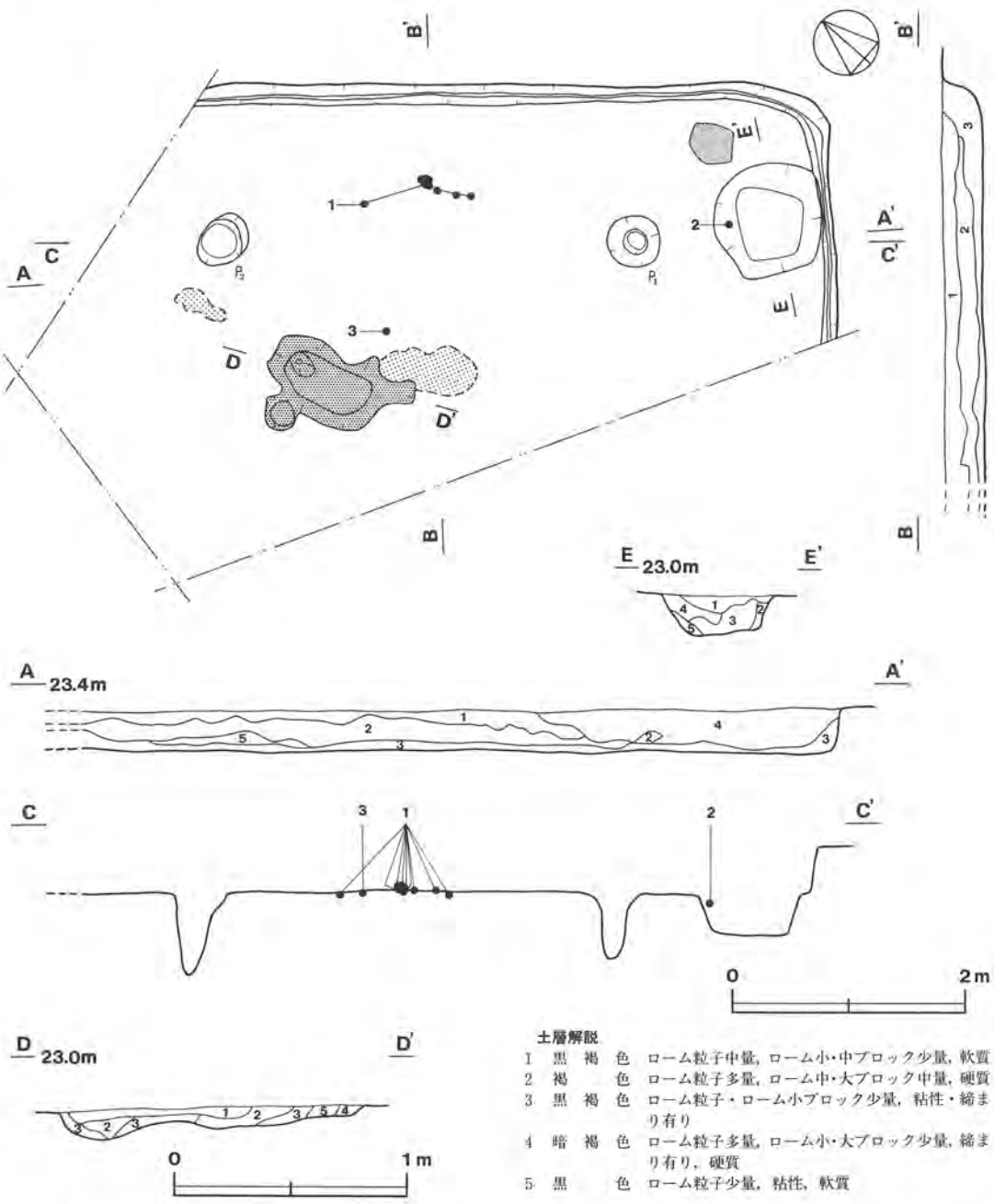
第86図　第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第86図 1	甕 土師器	B(2.4) C　6.7	底部。突出した平底。胴部は外反して立ち上がる。	外面－斜位のハケ目整形。 内面－横位のヘラ磨き。	砂粒，スコリア にぶい橙色 普通	5% P98 中央部床面

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第86図 2	台付甕 土師器	B(7.0) D[10.9]	台部の破片。接合部から「ハ」の字状に開く。	外面－斜位のハケ目整形。 内面－丁寧な横位のハケ目整形。	砂粒 橙色 普通	10% P99 PL28 東部床面
3	壺 土師器	A 16.1 B(10.5)	胴部上位から口縁部にかけての破片。 胴部は球形状を呈し,口縁部は外反して立ち上がる。口縁部は折り返しと思われる複合口縁。	外面－胴部は丁寧な縦位のヘラ磨き。口縁部は頸部をハケで押さえ,縦位の太いハケ目整形を施し,口縁部は細かい横位のハケ目整形。 内面－斜位のヘラ磨き。上端部は横ナデ。 内外面とも整形後,赤彩。	砂粒,スコリア 橙色 普通	30% P96 PL28 北部床面
4	壺 土師器	B(2.6) C[15.6]	有段口縁壺の口縁部破片。口縁部は皿状に開き外反する。外反部の下位は突出する。	外面－ハケ目整形後,ナデ。 内面－ハケ目整形後,横ナデ。 内外面とも赤彩の痕跡を残す。	砂粒,パミス 浅黄橙色 普通	5% P104 東部床面
5	坩 土師器	A[16.5] B 18.4 C 3.1	縦2分の1の破片。 平底。体部は偏平な球形を呈し,口縁部は内彎して開く。器厚が均一である。	全面,磨耗が著しい。 外面－体部は斜位の細かいハケ目整形後,ヘラ磨き。口縁部は,縦位のヘラ磨き。 内面－横位のヘラ削り後,ナデ。体部に輪積痕。口縁部は縦位の細かいハケ目整形後,ヘラ磨き。	砂粒 浅黄橙色 普通	40% P97 PL28 西部床面
6	坩 土師器	A 15.8 B 6.6 C 3.3	底部は僅かな上げ底。 胴部は外反して立ち上がり口縁部は大きく内彎する。	外面－底部から口縁部にかけて丁寧なヘラ磨き。 内面－外面と同様の丁寧なヘラ磨き。 内外面とも,しっかりした赤彩が施されている。底部は指頭の押圧による僅かな上げ底。	砂粒,礫 赤褐色 普通	100% P100 PL28 4分の1に煤付着 北部覆土
7	坩 土師器	A[13.0] B 7.5 C 5.2	底部から口縁部に至る破片。平底。底部は中央部に僅かな窪みをもつ。胴部は半球形を呈し頸部へ至る。口縁部は外傾して立ち上がり,上端部近くで内彎する。	外面－縦位のヘラ磨き。底部にもヘラ磨きが見られる。 内面－横位のヘラ磨き。口頸部には横位のハケ目整形後ヘラ磨きが加えられた痕跡。 内外面とも,整形後赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	50% P101 PL28 北部床面
8	高　坏 土師器	A 8.1 B(2.4)	坏部。脚部欠損。 頸部から皿状に外傾し,口縁部で垂直に立ち上がる。口縁端部は尖る。	外面－口縁部に横位のハケ目整形。坏部は丁寧な横ナデ。 内面－丁寧な横ナデ。	砂粒,スコリア にぶい橙色 普通	30% P103 PL28 東部床面
9	器　台 土師器	B(6.9)	脚部,器受部欠損。 脚部は「ハ」の字状に下方へ開き,3孔が確認できる。器受部は,内彎して立ち上がり中央に単孔がある。	内外面とも磨耗が著しい。 整形が確認できない。	砂粒,礫 にぶい橙色 普通	20% P102 北部床面
10	ミニチュア土器 土師器	A[5.2] B 5.0 C 2.5	埦形。胴部の3分の2欠損。平底。体部は底部から内彎して立ち上がり,中位から直立する。	内外面とも,指頭によるナデ。 内面底部に指頭圧痕を残す。 手捏ね。	砂粒 浅黄橙色 普通	60% P105 南部床面

第12号住居跡（第87図）



土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量，軟質
2	褐		色	ローム粒子多量，ローム中・大ブロック中量，硬質
3	黒	褐	色	ローム粒子・ローム小ブロック少量，粘性・締まり有り
4	暗	褐	色	ローム粒子多量，ローム小・大ブロック少量，締まり有り，硬質
5	黒		色	ローム粒子少量，粘性，軟質

炉土層解説

1	極暗赤褐色		焼土粒子多量，焼土小・中ブロック中量，炭化粒子・小礫少量
2	にぶい赤褐色		ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・焼土大ブロック多量，炭化粒子少量，硬質
3	明	褐 色	ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化粒子・炭化小ブロック少量
4	黒	色	焼土粒子・焼土小ブロック少量，炭化粒子多量，締まり無し
5	黒	褐 色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物少量，締まり無し

貯蔵穴土層解説

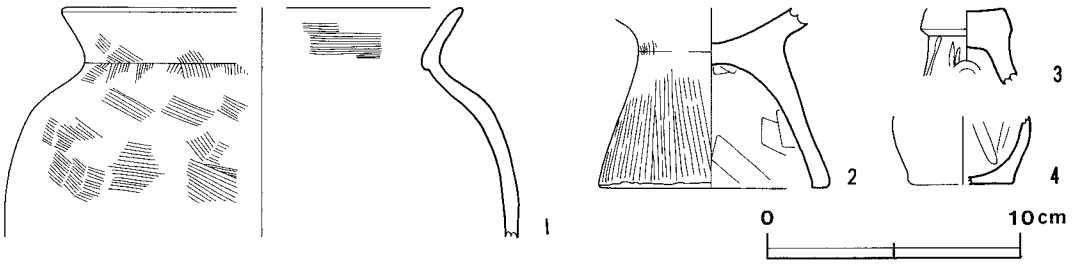
1	黒	褐 色	ローム小・中ブロック中量，軟質
2	褐	色	ローム粒子中量，軟質
3	褐	色	ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量
4	褐	色	ローム粒子少量
5	暗	褐 色	ローム粒子少量，締まり有り

第87図　第12号住居跡実測図

位置　調査区の中央部。B18d6区を中心に確認された。**規模と平面形**(6.57)×(3.61)mで，隅丸方形を呈するものと推定される。**長軸方向**　確認できない。**壁**　壁高36～39cmで，垂直に立ち上がる。**壁溝**　幅11～18cm，深さ10cmを測り，掘り込み断面形は，U字状を呈し周回している。**床**　平坦で，壁付近を除いて強く踏み固められている。**ピット**　2か所。径46～51cm，深さ55～71cmを測り，掘り込みは二段に掘られている。P_1・P_2とも主柱穴である。**貯蔵穴**　東コーナー付近に位置し，径95cmの円形を呈し深さは39cmである。断面形は逆台形状である。**炉**　床面のほぼ中央部に設けられ，平面形は不整楕円形を呈し，規模は，長径128cm，短径63cmで，床面を12cm程掘り窪めた地床炉である。**覆土**　自然堆積。

遺物　出土遺物は全て破片で，細片を多く含む。土師器片は，覆土から181片(内，赤彩11片)出土している。第88図1の甕は，北部の壁付近の床面から出土し，3の高坏は炉東側の床面から出土している。北部覆土上層からは，4のミニチュア土器も出土している。貯蔵穴の北15cm程の位置には，粘土塊(径40cm，厚さ10cm)が出土し，貯蔵穴の覆土上層からは，2の台付甕の台部が横位で出土している。

所見　本跡の半分以上を占める南西側は調査区域外のため，全体の調査はできなかった。



第88図　第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第88図 1	甕 土師器	A[16.0] B(9.1)	胴上半部，口縁部の破片。胴部は球形状を呈し，口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がる。	外面－斜位のハケ目整形が，全面に施されている。口縁部は横ナデ。 内面－胴部はナデ。口縁部は横位のハケ目整形。	砂粒 黒褐色 普通	5% P106 北部床面 外面煤付着
2	台付甕 土師器	B(7.1) D 9.1 E 4.9	台部。 頸部から「ハ」の字状に下方へ開く。	外面－斜位のハケ目整形。 内面－ヘラナデ。 接合部の処理が丁寧である。	砂粒，長石 にぶい橙色 普通	10% P107　PL28 東部貯蔵穴 覆土上層
3	高　坏 土師器	B(3.0)	脚部，坏部欠損。脚部は「ハ」の字状に下方へ開く。単孔が確認できる。	外面－磨耗が著しいが，ヘラ磨きの痕跡が有る。 内面－ナデ。 坏部の破損部分を削り円板上に加工してある。	砂粒，雲母，スコリア 浅黄橙色 普通	10% P108 PL28 中央部床面
4	ミニチュア土器 土師器	B(2.7) C[3.9]	鉢形の底部，胴下半部の破片。 平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。	外面－粗いナデ。 内面－ヘラナデ。 手捏ね。	砂粒，スコリア にぶい橙色 普通	30% P109 北部覆土上層

第13号住居跡（第89図）

位置　調査区の中央部。C18c3区を中心に確認された。**重複関係**　第67号土坑と重複しているが，本跡の方が古い。**規模と平面形**　(6.78)×(6.61)mで，隅丸方形を呈するものと推定される。**長軸方向**　確認できない。**壁**　壁高16～26cm。緩やかに傾斜して立ち上がる。**床**　平坦で，炉周辺を始めとして，中心部が硬く踏み固められている。

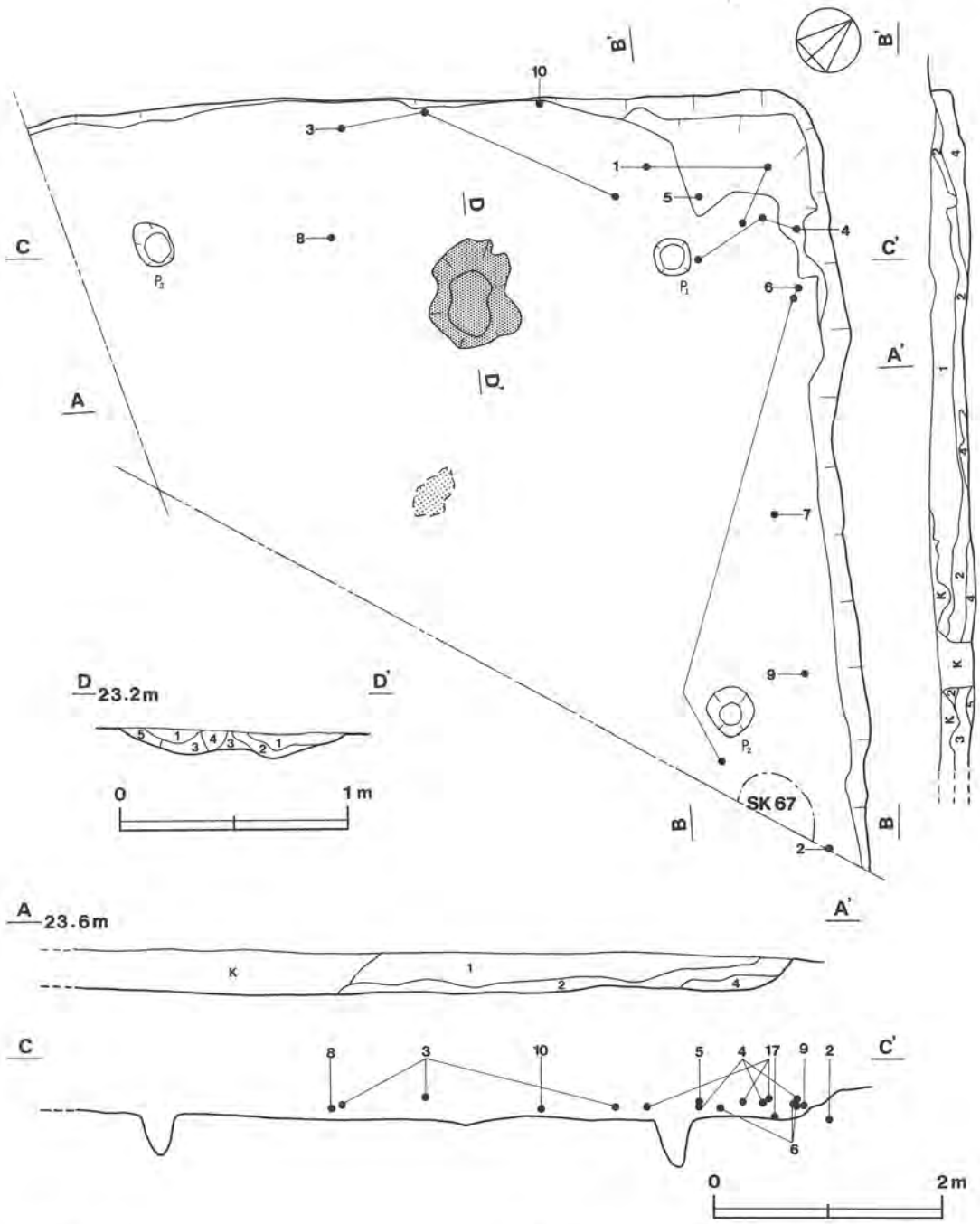
ピット　3か所。径34～44cm，深さ32～72cmを測る。P1～P3は主柱穴と思われる。**炉**　床面中央部の南東壁寄りに設けられ，規模は，長径96cm，短径58cmで不整楕円形を呈する地床炉である。炉床は，床面を8cm程掘り窪めて構築されている。炉床には，焼土の遺存が少ない。**覆土**　自然堆積。北東部が撹乱されている。

遺物　北コーナーから北西壁にかけてと，東部周辺の床面や床直上の覆土から多量の破片が出土している。土師器片は962片(内，赤彩28片)出土している。第90図3の甕は，東部の床面直上から斜位で出土し，近くの床面直上からは7の坩が，覆土下層から9の高坏が出土している。10の高坏は北部の床面から逆位で出土している。

所見　本跡は，当遺跡の中では大形の住居跡の一つである。しかし，本跡の南側が調査区域外であるため全体の調査ができなかった。

第13号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第90図 1	甕 土師器	A[19.7] B(8.4)	口縁部から胴部にかけての破片。胴部は球形を呈し口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がり，上端部で外反する。	外面－胴部は斜位のハケ目整形。 口縁部は丁寧な横ナデ。 内面－胴部はナデ。口縁部は横位のハケ目整形。	砂粒，パミス 橙色 普通	10% P111 北部覆土中層
2	甕 土師器	A 11.2 B 9.1 C 4.6	底部は僅かに窪みをもつ。小形。胴部は偏平な球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から内彎気味に開き，口径が胴部径より広い。	外面－胴下半部にヘラ磨きが，認められる。 口縁部は横ナデ。 内面－丁寧なナデ。 内外面とも磨耗が著しい。	砂粒，パミス 浅黄橙色 普通	100% P119 PL29 東部床面直上
3	台付甕 土師器	A[18.6] B(4.8)	口縁部の破片。 口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がり，上端部で外反する。	外面－胴部は斜位のハケ目整形。口縁部は横位のハケ目整形後，横ナデ。 内面－口縁部は横位のハケ目整形。 全体に磨耗が著しい。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	10% P112 西部覆土中層
4	台付甕 土師器	B(8.4)	台部，胴下半部の破片。 台部は「ハ」の字状に開く。胴部は外傾して立ち上がる。	外面－縦位のハケ目整形。 内面－ヘラナデ。 全体に磨耗が著しい。	砂粒，礫 灰白色 普通	10% P117 北部覆土中層
5	壺 土師器	A[15.7] B(7.2)	口縁部の破片。 口縁部は頸部から外傾して立ち上がる。頸部に粘土紐が，貼り付けられている。	外面－縦位のヘラ磨き。 内面－磨耗のため不明。	砂粒，パミス 浅黄橙色 普通	10% P116 北部覆土中層



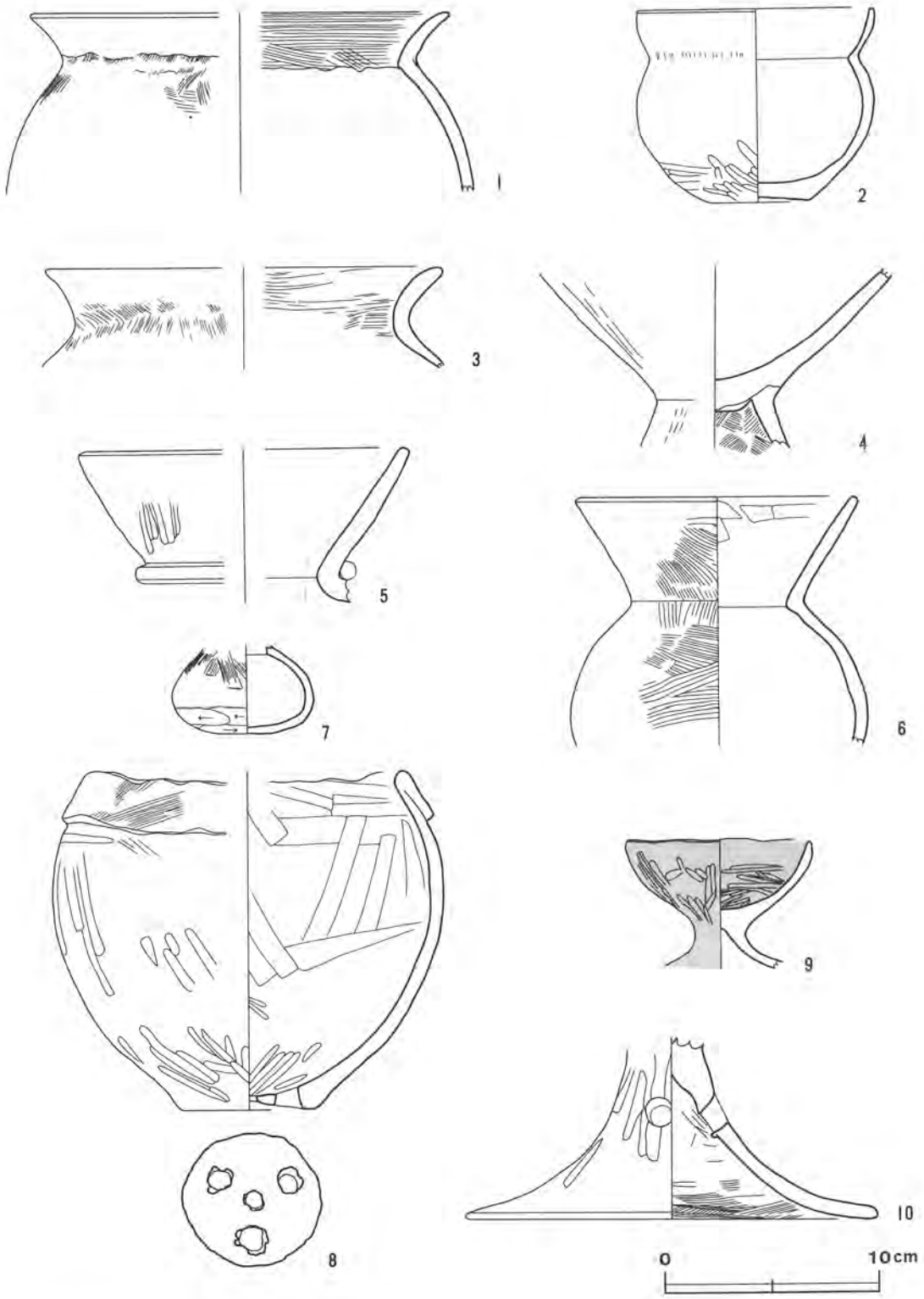
土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子・ローム小ブロック少量
2	褐	灰	色	ローム粒子少量，ローム小ブロック中量
3	褐		色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
4	黒	褐	色	ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，締まり有り
5	褐		色	ローム粒子多量

炉土層解説表

1	暗	赤	褐色	焼土粒子・焼土小・中ブロック多量，硬質
2	褐		色	ローム粒子多量，焼土粒子中量，焼土中ブロック少量，軟質
3	暗	赤	褐色	焼土粒子・焼土大ブロック多量，硬質
4	黒		色	焼土粒子中量，焼土小・中ブロック少量，硬質
5	にぶい	赤	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子多量，軟質

第89図　第13号住居跡実測図

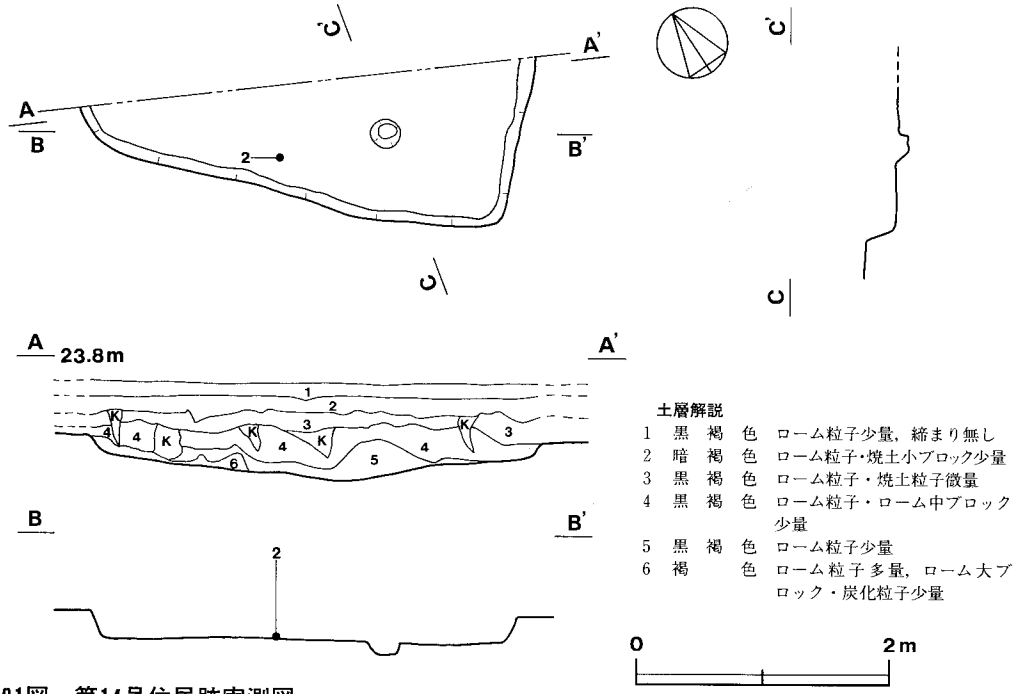


第90図　第13号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第90図 6	坩 土師器	A[13.4] B(11.6)	胴部から口縁部にかけての破片。 胴部は球形を呈し，口縁部は大きく外傾する。	外面－全面ハケ目整形。 口縁端部は横ナデ。 内面－胴部はナデ。 口縁部は横位のヘラナデ。	砂粒，パミス 灰白色 普通	30% P121 北部覆土中層
7	坩 土師器	B(4.2) C 2.6	胴部。口縁部欠損。 平底。胴部は最大径を下位にもつ偏平な球形を呈する。	外面－上半部はハケ目整形。 下半部は粗いヘラ削り。 内面－指頭によるナデ。	砂粒，パミス にぶい黄橙色 普通	50% P122 PL29 東部床面直上
8	甑 土師器	A[15.0] B 15.9 C 6.3	底部は4孔式。 胴部は外傾して立ち上がり，上位から内彎する。口縁部は折り返しの複合口縁である。	外面－胴部，口縁部とも斜位のハケ目整形後，粗いヘラ，指頭によるナデ。 内面－胴部上位は粗いヘラナデ。 下位は一部にヘラ磨きがみられる。	砂粒，礫 スコリア 浅黄橙色 普通	60% P120 PL29 西部覆土下層
9	高坏 土師器	A 8.8 B(6.0) E(1.9)	坏部。脚部欠損。 坏部は円柱状の頸部から内彎して立ち上がる。	外面－縦位の粗いヘラ磨き。 内面－横位のヘラ磨き。 内外面とも整形後赤彩。	砂粒，パミス 赤色 普通	70% P123 東部覆土下層
10	高坏 土師器	B(8.5) D 19.4 E 6.8	脚部。坏部欠損。 脚部はラッパ状に下方へ開き，裾部はほぼ水平に大きく開く。側面に3孔が空けられている。	外面－縦位の丁寧なヘラ磨き。 内面－横位のハケ目整形。	砂粒，雲母，パミス，長石 浅黄橙色 良好	40% P124 PL29 北部床面

第14号住居跡（第91図）

位置　調査区の中央部。B18j4区を中心に確認された。**規模と平面形**　3.48×(1.31)mで，方形を呈するものと推定される。**長軸方向**　確認できない。**壁**　壁高20～22cmで，外傾して立ち上がる。**床**　平坦で踏み固められ硬い。**ピット**　1か所。径36cm，深さ10cmを測る。底部は，凸凹して硬

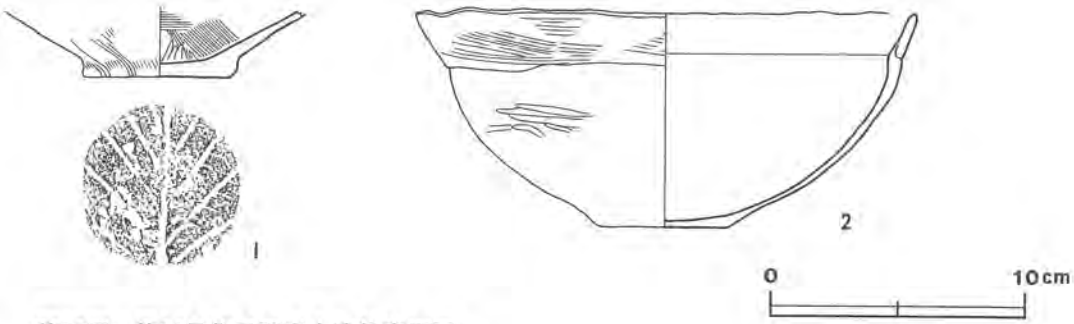


第91図　第14号住居跡実測図

く主柱穴と考えられる。**炉**　確認できない。**覆土**　自然堆積。

遺物　出土遺物が少なく，第92図２の鉢が南壁中央付近の床面から潰れた状態で出土している。覆土からは，１の甕を始め土師器片58片(内，赤彩６片)が出土している。

所見　本跡は，北東部のほとんどが，調査区域外のため，全体の調査ができなかった。



第92図　第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第92図 1	甕 土師器	B(2.8) C 5.8	底部。突出した平底。胴部は大きく外傾して立ち上がる。	外面－胴部は斜位のハケ目整形後，粗いナデ。 底部に鮮明な木葉痕。 内面－全面明瞭なハケ目整形。	砂粒，パミス 灰褐色 普通	10% P126 覆土
2	鉢 土師器	A[20.0] B 8.5 C 5.2	突出した平底。体部は内彎して立ち上がり，最大径を上端部にもつ。口縁部は外傾して立ち上がり，上位でやや内彎する複合口縁。	外面－ハケ目整形後ヘラ磨き。 底部はヘラ削り。 内面－横位のハケ目整形後横ナデ。	砂粒，パミス 浅黄橙色 普通	60% P128 PL29 南部床面

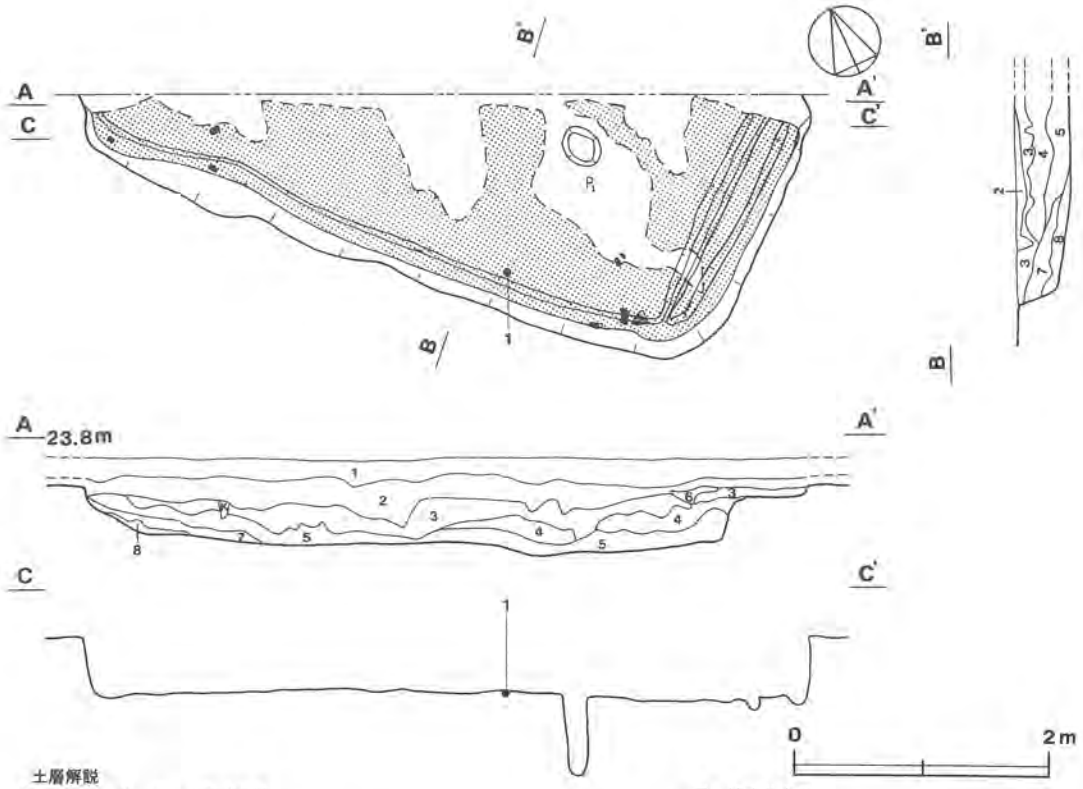
第15号住居跡（第93図）

位置　調査区の中央部。B18f9区を中心に確認された。**規模と平面形**　5.47×(2.30)mで，隅丸方形と推定される。**長軸方向**　確認できない。**壁**　壁高26～36cmで，垂直に立ち上がる。

壁溝　幅10～22cm，深さ8～9cmを測り，堀り込み断面形はU字状を呈し周回している。南東壁際では二条になっている。**床**　平坦で，壁付近を除いてきわめて硬い。**ピット**　１か所。径36cm，深さ46cmを測る。位置・規模から主柱穴と思われる。**炉**　確認できない。**覆土**　自然堆積。

遺物　出土遺物は，土師器片86片が散在して出土している。第94図１の甕口縁部片は南部の壁際の床面直上に遺存する焼土の中から出土している。床面全体には，焼土が５～25cmの厚さで出土し，南東コーナーの焼土の下位からは炭化材が出土している。

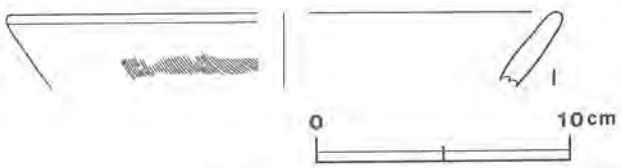
所見　本跡は，焼土の遺存状態から判断して焼失家屋と考えられる。北部のほとんどは，調査区域外のため全体の確認ができなかった。



土層解説

1 灰 褐 色 ローム粒子中量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量
3 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
4 暗 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
5 黒 褐 色 ローム粒子多量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，締まり有り
6 黒 褐 色 ローム粒子少量，締まり無し
7 黒 褐 色 ローム粒子少量
8 褐 色 ローム粒子少量，ローム大ブロック多量，締まり有り

第93図　第15号住居跡実測図



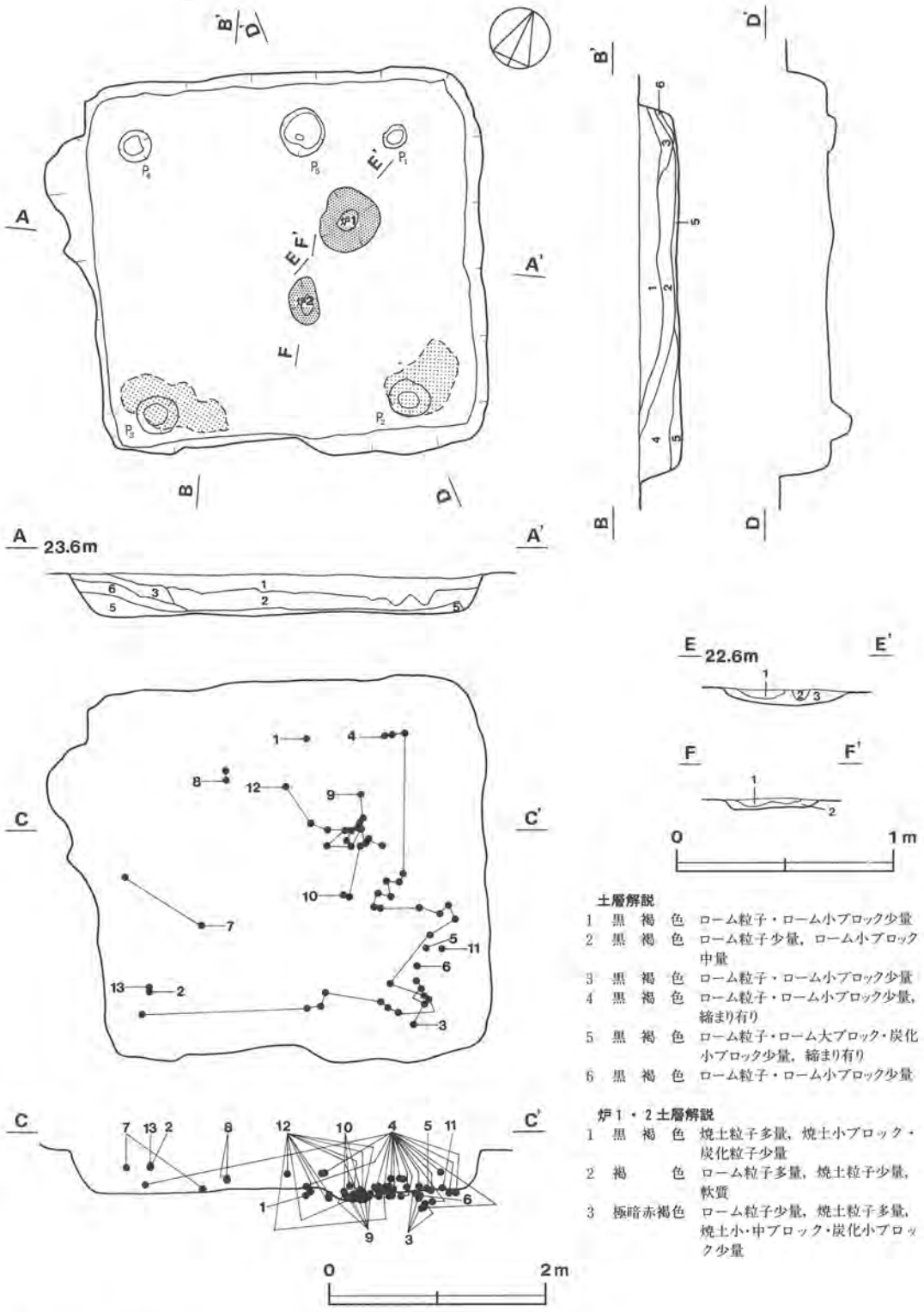
第94図　第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第94図 1	甕 土師器	A〔22.0〕 B〈 2.9〉	口縁部の破片。外傾して開くと推定される。上端は僅かな波状を呈する。	外面－口唇部から口縁部にかけて横位のハケ目整形。頸部に縦位のハケ目整形。 内面－横位のハケ目整形。	砂粒 褐灰色 普通	3% P130 南部覆土下層

第16号住居跡（第95図）

位置　調査区の中央部。B17h8区を中心に確認された。**重複関係**　第35号住居跡と重複しているが，本跡の方が新しい。**規模と平面形**　3.54×3.51mで，隅丸方形を呈する。**長軸方向**　N－67°－E。**壁**　壁高26～37cmで，外傾して立ち上がる。**床**　堅緻な床が，中央部を頂点に，緩やかな



土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック中量
3 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
4 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量，締まり有り
5 黒 褐 色 ローム粒子・ローム大ブロック・炭化小ブロック少量，締まり有り
6 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

炉1・2土層解説

1 黒 褐 色 焼土粒子多量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
2 褐 色 ローム粒子多量，焼土粒子少量，軟質
3 極暗赤褐色 ローム粒子少量，焼土粒子多量，焼土小・中ブロック・炭化小ブロック少量

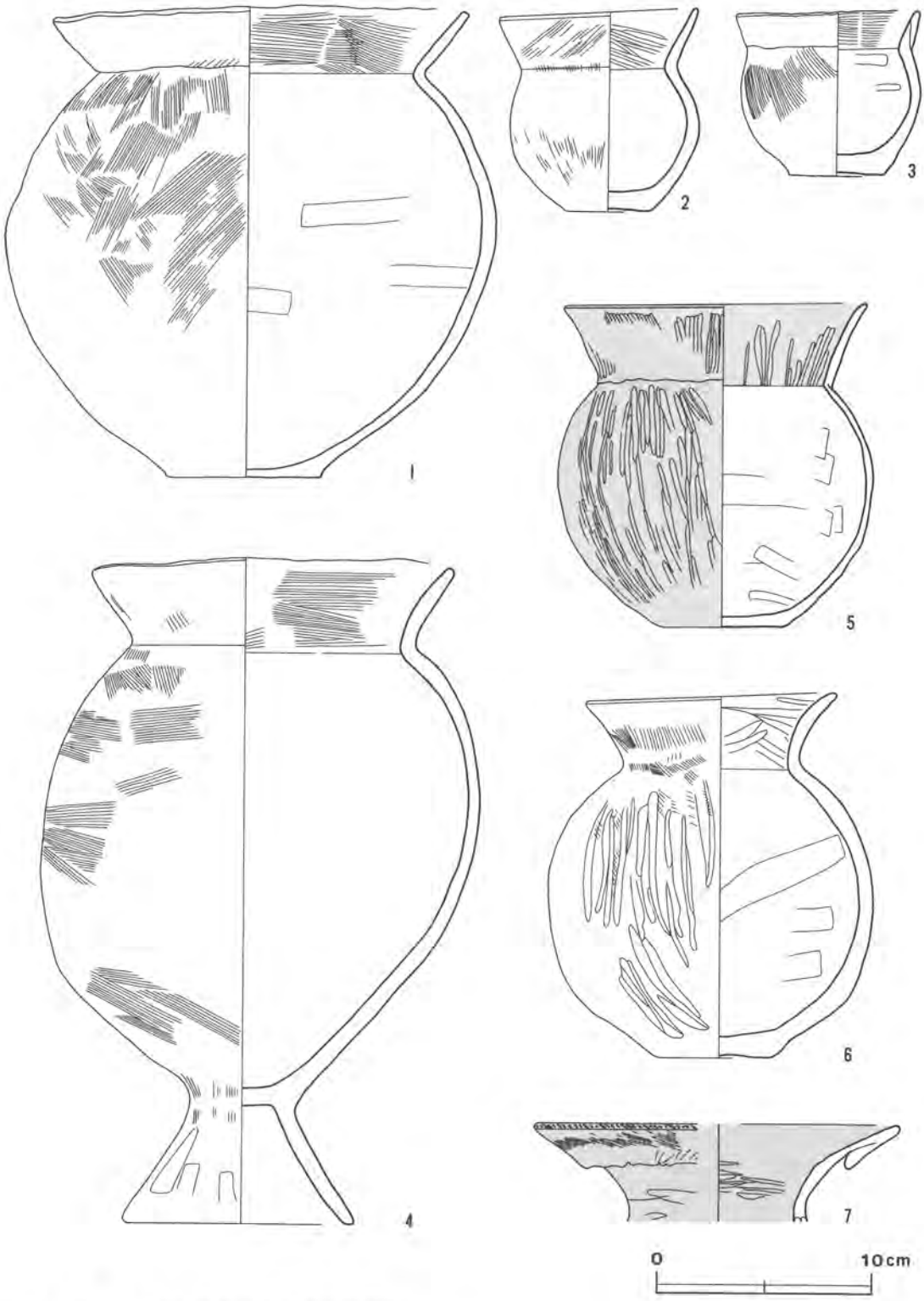
第95図　第16号住居跡実測・遺物出土状況図

高原状をなしている。**ピット**　5か所。径10～47cm，深さ10～20cmを測る。P_1～P_4は主柱穴で，底部が硬く固められている。P_5は性格不明である。**炉**　2か所。炉1は，床面中央部北側に検出され，長径56cm，短径50cmの不整楕円形を呈し深さ11cmを測る地床炉である。炉2は，床面中央部に検出され，長径42cm，短径27cmの楕円形を呈し，深さ11cmを測る地床炉である。二基の炉とも，炉床には硬化した焼土の遺存は少ない。**覆土**　自然堆積。各層に焼土・炭化粒子を含む。**遺物**　北東壁付近や，南コーナー付近を中心に完形の土師器が多く出土し，土師器片は167片(内，赤彩76片)が出土している。東コーナー付近の床面からは，第96図5・6の壺，第97図11の把手付甑がひとまとまりで出土している。5の壺は赤彩されている。北西壁中央近くには，第96図1の甕が潰れた状態で，その東側には第97図12の大形の高坏が同じように潰れた状態で出土している。また，第96図4の台付甕の破片が床面全体に散在して出土している。赤彩された完形に近い土器は，前述した壺を始め，第96図7の壺，第97図9・10の坩，12の高坏である。北コーナー部付近の床面からは炭化材が出土している。

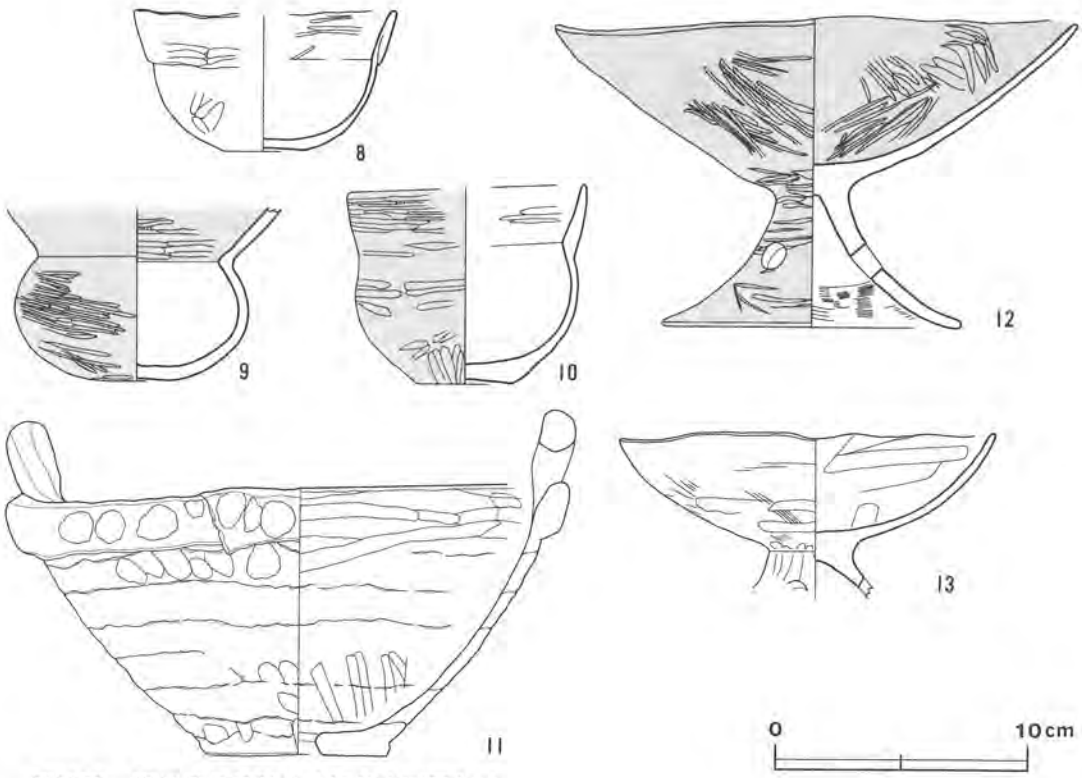
所見　本跡は，焼土や炭化材が出土しており，焼失家屋と判断できる。完形に近い遺物が，床面から出土している状況から判断して，使用している期間中に火災に遭遇したものと考えられる。

第16号住居跡出土土器観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第96図 1	甕 土師器	A 19.3 B 22.0 C 7.2	突出した平底。胴部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に開く。	外面－胴部下位はナデ。上位はハケ目整形。いずれも粗い整形。口縁部は横ナデ。 内面－胴部はヘラナデ。口縁部は太い横位のハケ目整形。	砂粒 浅黄橙色 普通	85% P131 PL30 北部床面
2	甕 土師器	A 9.3 B 9.6 C 4.0	小形の甕。平底。胴部は外傾して立ち上がり，最大径を中位にもつ。口縁部は，頸部から緩やかに「く」の字状に立ち上がる。	外面－縦位のハケ目整形後，ナデ。口縁部には斜位のヘラナデ。 内面－胴部は指頭によるナデ。口縁部は横位のハケ目整形。	砂粒 淡橙色 普通	98% P134 PL30 南部床面
3	甕 土師器	A 8.7 B 7.8 C 4.5	小形の甕。底部は突出し，中央に僅かに窪みをもつ。胴部は球形を呈する。口縁部は外傾して立ち上がり，折り返しの複合口縁。胴部径より口径の方が広い。	外面－斜位のハケ目整形と指頭によるナデ。整形が粗い。 内面－胴部はヘラナデ。口縁部は横位のハケ目整形。	砂粒，パミス 淡橙色 普通	100% P135 PL30 東部床面
4	台付甕 土師器	A 16.9 B 31.3 D 10.6 E 5.5	台部は「ハ」の字状に下方に開き，裾部へ至る。胴部は外傾して立ち上がり，最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に立ち上がり，中位でやや外反する。	外面－台部は縦位のハケ目整形後，ナデとヘラナデ。胴部はハケ目整形。口縁部は縦位のハケ目整形後丁寧な横ナデ。 内面－台部は横位のハケ目整形で奥は指頭によるナデ。胴部は丁寧なナデ。口縁部は横位のハケ目整形。	砂粒，礫 浅黄橙色 普通	80% P132 PL30 東部床面



第96図　第16号住居跡出土遺物実測図(Ⅰ)



第97図　第16号住居跡出土遺物実測図(II)

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第96図 5	壺 土師器	A 14.1 B 15.2 C 5.6	平底。胴部は内彎して立ち上がり，球形を呈する。頸部にしまりがなく，口縁部は外傾して立ち上がる。口縁端部でやや外反し，口径は胴部径とほぼ等しい。口縁部は貼り付けられている。	外面－縦位の細かいヘラ磨き。 内面－胴部は丁寧なヘラナデ。口縁部は丁寧な縦位のヘラ磨き。 胴部内面を除き赤彩。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	95% P133 PL30 東部床面
6	壺 土師器	A 11.7 B 17.1 C 5.4	突出した平底。胴部は縦長の球形を呈する。口縁部は大きく外反する。全体的に器厚が厚い。	外面－胴部はハケ目整形後，粗いヘラ磨き。口縁部は縦位のハケ目整形。上端部は横ナデ。 内面－胴部はヘラナデ。口縁部はハケ目整形後，粗いヘラ磨きが部分的に見られる。	砂粒，パミス 橙色 普通	100% P136 PL30 東部床面
7	壺 土師器	A[17.0] B(4.6)	口縁部の破片。 口縁部は，器厚を減しながら外反する。複合口縁。	外面－頸部は，斜位のハケ目。下位にヘラナデ。口縁，口唇部に単節のＬＲの縄文を施している。 内面－横位の丁寧なヘラ磨き。 内外面とも赤彩。	砂粒 浅黄橙色 良好	10% P137 南部床面
第97図 8	坩 土師器	A[10.3] B 5.6 C 3.2	平底。胴部は塊状を呈し，最大径を頸部にもつ。口縁部は複合口縁で，外傾して立ち上がる。薄手。	外面－胴部はヘラ磨き。口縁部は横位のヘラ磨き。 内面－胴部はナデ。口縁部は横位のヘラ磨き。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	55% P139 PL30 西部床面
9	坩 土師器	B(6.8) C 2.7	胴部。口縁部欠損。平底。胴部は，水平に近くまで外傾して立ち上がり，中位に最大径をもつ球形を呈する。口縁部は外傾して立ち上がる。	外面－横位の細かいヘラ磨き。 内面－胴部は丁寧な横ナデ。口縁部は横位のヘラ磨き。 胴部内面を除き赤彩。	砂粒 赤色 普通	65% P140 北部床面

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第97図 10	坩 土師器	A[9.5] B 7.9 C 3.8	胴部から口縁部にかけての破片。平底。胴部は外傾して立ち上がり，最大径を上位にもつ。口縁部は内彎して立ち上がる。	外面－細かいヘラ磨き。 底部を除き赤彩。 内面－胴部は丁寧なナデ。 口縁部は横位のヘラ磨き。	砂粒 赤色 普通	50% P141 PL30 東部床面
11	甑 土師器	A 22.4 B 13.8 C 7.1	突出した平底。中央に外側から焼成前に単孔が空けられている。胴部は，内彎しながら開き，最大径を口縁端部にもつ。折り返しの複合口縁で，内側には一対の冂状の把手が貼り付けられている。	外面－指頭によるナデ。口縁部等に指頭圧痕が残る。 輪積痕が明瞭に残る。 内面－外面に比べて，丁寧なヘラナデ。	砂粒，パミス 黄橙色 不良	100% P138 PL30 東部床面
12	高　坏 土師器	A 20.6 B 12.2 D[11.8] E 5.5	脚部はラッパ状に下方に開き，裾部へ至る。側面に3孔がある。坏部は，大きく外傾して立ち上がる。	外面－脚部は丁寧な横位のヘラ磨き。坏底部は，細かい横位のヘラ磨き。上位は，斜位のヘラ磨き。 内面－脚部は横位のハケ目整形。坏部は斜位のヘラ磨き。 脚部内面を除き赤彩。	砂粒 赤色 良好	70% P144 PL30 北部床面
13	高　坏 土師器	A 15.0 B(6.6)	坏部，脚部下半部欠損。脚部は「ハ」の字状に下方へ開く。坏部は，緩やかに内彎して立ち上がる。 3孔が確認できる。	外面－脚部は縦位のヘラナデ。 坏部はハケ目整形後，粗いヘラナデ。 内面－坏部はヘラナデ。	砂粒 淡橙色 普通	55% P145 PL30 南部覆土中層

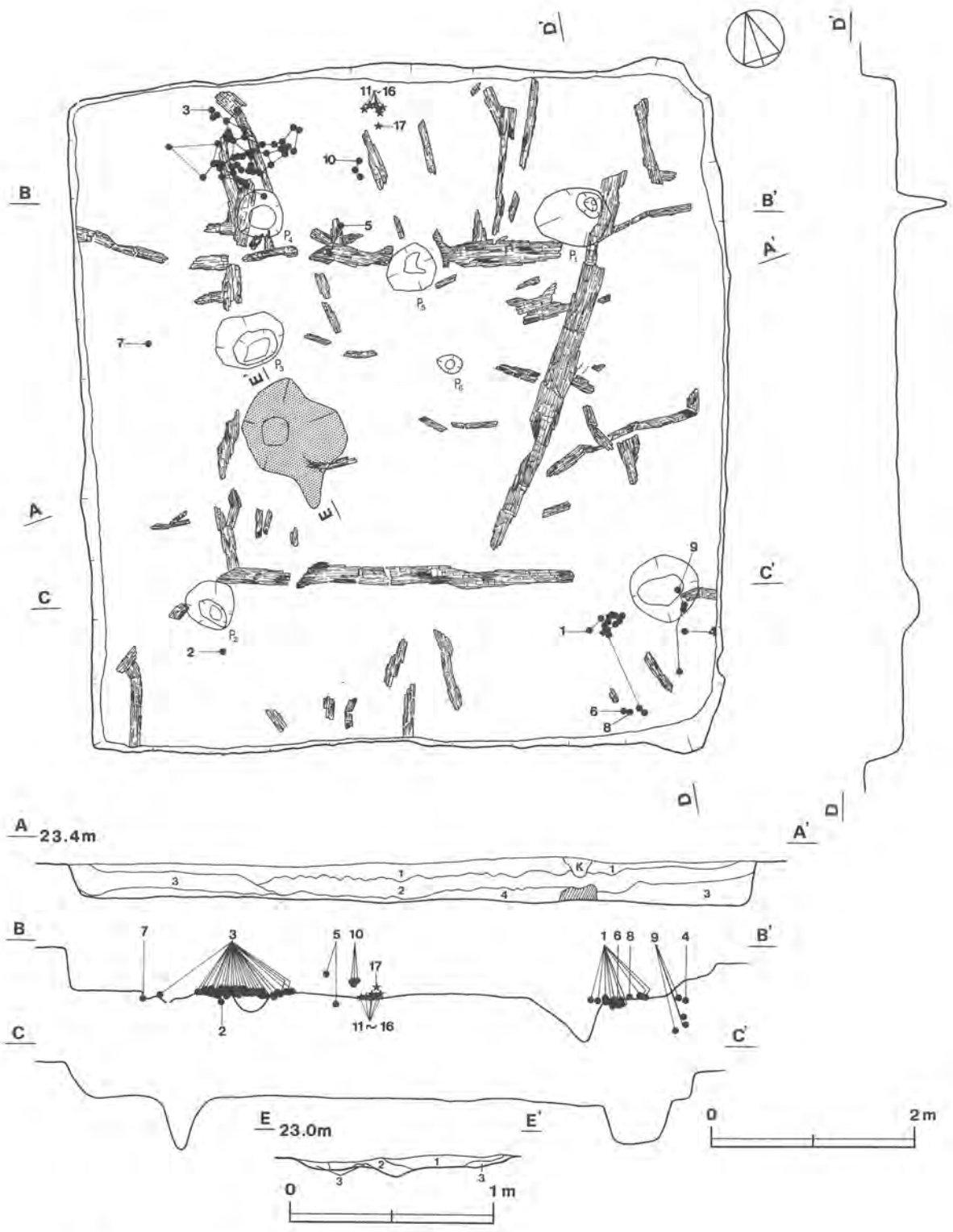
第17号住居跡（第98図）

位置　調査区の中央部。B17h$_2$区を中心に確認された。**規模と平面形**　6.69×6.39mで，隅丸方形を呈する。**長軸方向**　N－17°－E。**壁**　壁高32～42cmで，垂直に立ち上がる。**床**　緩やかな起伏はあるが，全体的にはほぼ平坦である。中央部を中心に，踏み固められ硬い床である。

ピット　6か所。径52～77cm，深さ18～52cmを測る。P$_1$～P$_4$が形状や規模，方形に配置されていること等から主柱穴と思われる。P$_5$は，補助柱穴と思われる。P$_6$は性格不明である。**炉**　床面中央部の西壁寄りに設けられ，長径128cm，短径97cmの不整楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面を10cm程掘り窪めて構築されている。**覆土**　自然堆積。

遺物　北部のP$_4$周辺と南コーナーのP$_1$付近を中心に，多量の土師器片が出土している。壁と平行する形で床面に桁の炭化材が方形状に遺存し，その上面には各桁に直交するように垂木の炭化材が遺存している。北部の床面からは，第99図3の頸部に穿孔をもつ大形の壺が潰れた状態で出土し，西壁近くからは第100図7の大形の高坏が横位で出土している。炭化材の上位からは，5の棒状浮文の付いた壺の口縁部片が出土している。北壁中央付近の床面からは，11～17の球状土錘が7点まとまって出土している。南西コーナー付近の床面からは，第99図2の台付甕が逆位で，南東コーナー付近からは，第100図8の赤彩された高坏が横位で出土している。赤彩された完形に近い土器は，甕・台付甕・壺・坩・高坏・器台が出土している。

所見　本跡は，土師器片が104片(内，赤彩26片)出土している。炭化材が床面全体から出土して



第98図　第17号住居跡実測図

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量
4　黒　褐　色　ローム中ブロック・炭化中ブロック少量

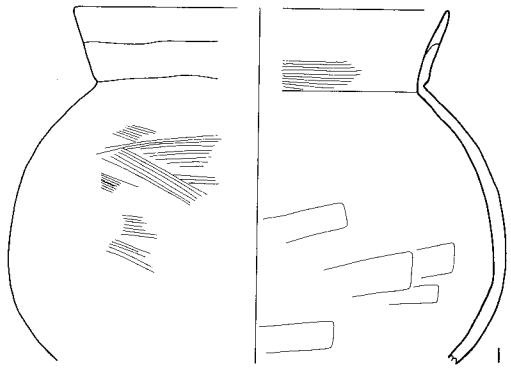
炉土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子多量，焼土小・中ブロック少量，炭化粒子多量
2　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子中量，焼土小・中ブロック少量，炭化粒子・炭化小・中ブロック多量
3　明　褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック多量，焼土粒子・焼土中ブロック少量

おり，焼失家屋と判断できる。炭化材の遺存状況からは上屋構造を推察できる住居跡である。また，完形や完形に近い遺物が床面から出土していることから使用期間中に火災に遭遇したものと考えられる。

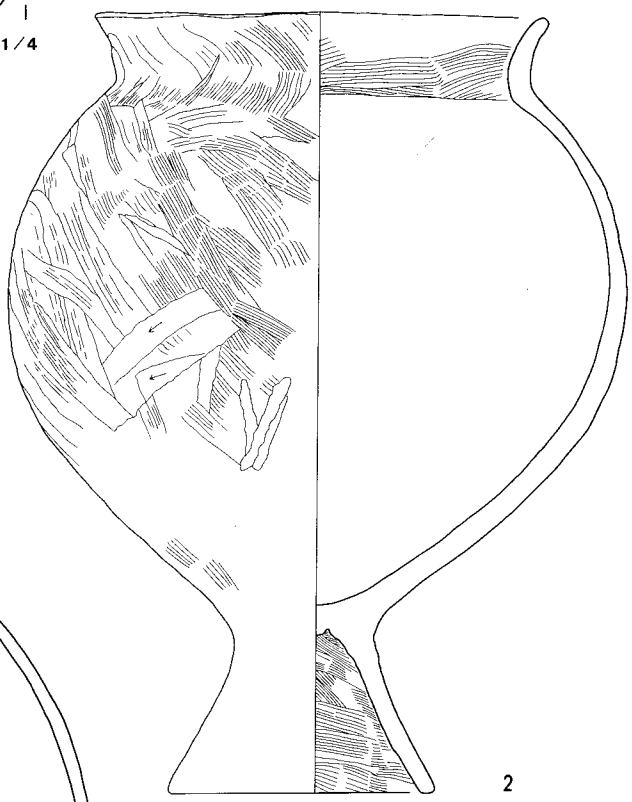
第17号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第99図 1	甕 土師器	A[19.8] B(18.6)	胴部から口縁部にかけての破片。胴部は球形を呈し口縁部はゆるく外傾して立ち上がる。	内外面とも磨耗が著しい。 外面－胴部はハケ目整形。口縁部はナデ。 内面－胴部はヘラナデ。口縁部は横位のハケ目整形後横ナデ。輪積痕。	砂粒，パミス 浅黄橙色 不良	30% P150 PL31 南部床面
2	台付甕 土師器	A 18.0 B 31.0 D[10.3] E 6.3	台部は「ハ」の字状に下方に開き，裾部へ至る。胴部は接合部から外傾して立ち上がり，最大径を中位にもつ球形を呈する。口縁部は垂直に近く立ち上がり，上端部で外反して開く。	外面－全面斜位のハケ目整形。上端部は横ナデ。 内面－台部は全面に横位のハケ目整形。胴部は横位のヘラナデ。口縁部は，横位のハケ目整形。	砂粒，パミス 浅黄橙色 普通	90% P149 PL31 底部に炭化物付着 西部床面
3	壺 土師器	A 23.2 B 38.6 C 7.8	突出した平底。胴部は外傾して立ち上がり，最大径を下位にもつ長胴形を呈する。口縁部は頸部から「く」の字状に開く。口縁部下位に長方形状の孔が穿たれている。	外面－胴下半部は斜位のヘラ削り。上半部はヘラ削りと斜位のハケ目整形。口縁部は斜位のヘラナデとナデ。 内面－胴部はヘラナデ。口縁部は丁寧な横ナデ。	砂粒，パミス 灰褐色 普通	90% P148 PL31 北部床面
第100図 4	壺 土師器	B(16.4) C 6.7	口縁部は頸部から欠損。突出した平底。 胴部は球形を呈する。	外面－縦位の細かいヘラ磨き。頸部にハケ目整形。 赤彩されている。 内面－ヘラナデ。胴部上位に，櫛歯状の削り痕がある。	砂粒，雲母 スコリア 赤色 良好	80% P151 PL31 南部床面
5	壺 土師器	A[15.3] B(5.4)	口縁部の破片。口縁部は複合口縁で，器厚を減じながら外反して立ち上がる。口縁外面に棒状浮文を貼り付けている。	外面－頸部上位は縦位の明瞭なハケ目整形。その下は丁寧にナデられている。複合部は横位のハケ目整形。 内面－頸部は細かい横位のヘラ磨き。口縁部は縦位のヘラ磨き。 内外面とも赤彩。	砂粒，パミス にぶい橙色 普通	5% P153 PL31 北部覆土中層
6	坩 土師器	A 12.4 B 17.4 C 5.3	底面は僅かに上底気味。胴部は皿状に立ち上がり，最大径を下位にもつ偏平な球形を呈する。口縁部は器厚を減じながら外傾して立ち上がり，上位でやや内彎する。	外面－胴部は縦位のヘラ磨き。口縁部は縦位のハケ目整形。上端部に横ナデ。 内面－底部にヘラナデ。口縁部は丁寧な横ナデ。	砂粒，パミス，スコリア 明褐灰色 普通	90% P152 PL31 南部床面
7	高　坏 土師器	A 21.1 B 14.5 D 12.4 E 6.3	脚部はラッパ状に下方へ開き，裾部へ至る。脚部上位に3孔，下位に3孔が縦に並んで空けられている。坏部は内彎気味に大きく開き，口縁部へ至る。坏下半部の外側に稜をもつ。	外面－坏部から脚部にかけて縦位の丁寧なヘラ磨き。口縁部は横ナデ。 内面－脚部は丁寧な横位のハケ目整形。坏部は磨耗しているが丁寧なヘラ磨き。 脚部内面を除き赤彩。	砂粒 赤褐色 良好	98% P154 PL31 北部床面

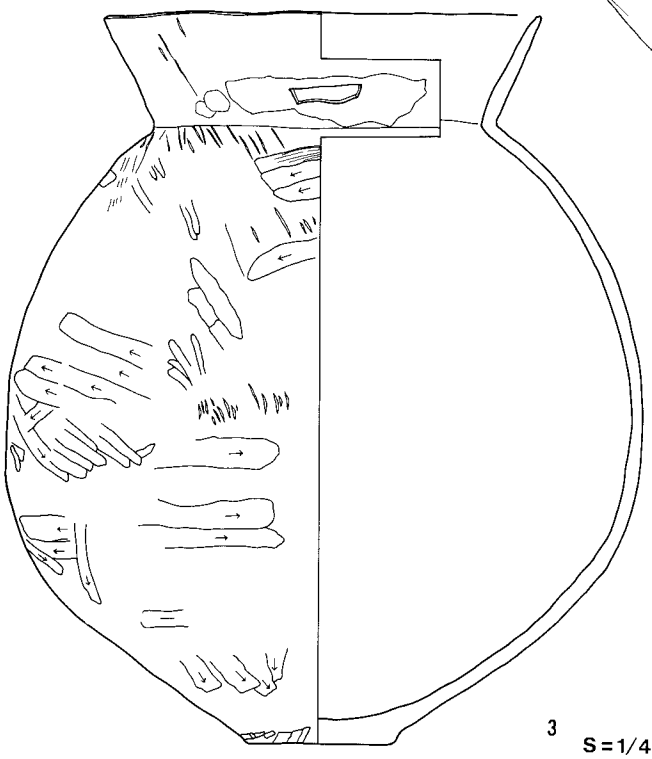


1

S=1/4



2

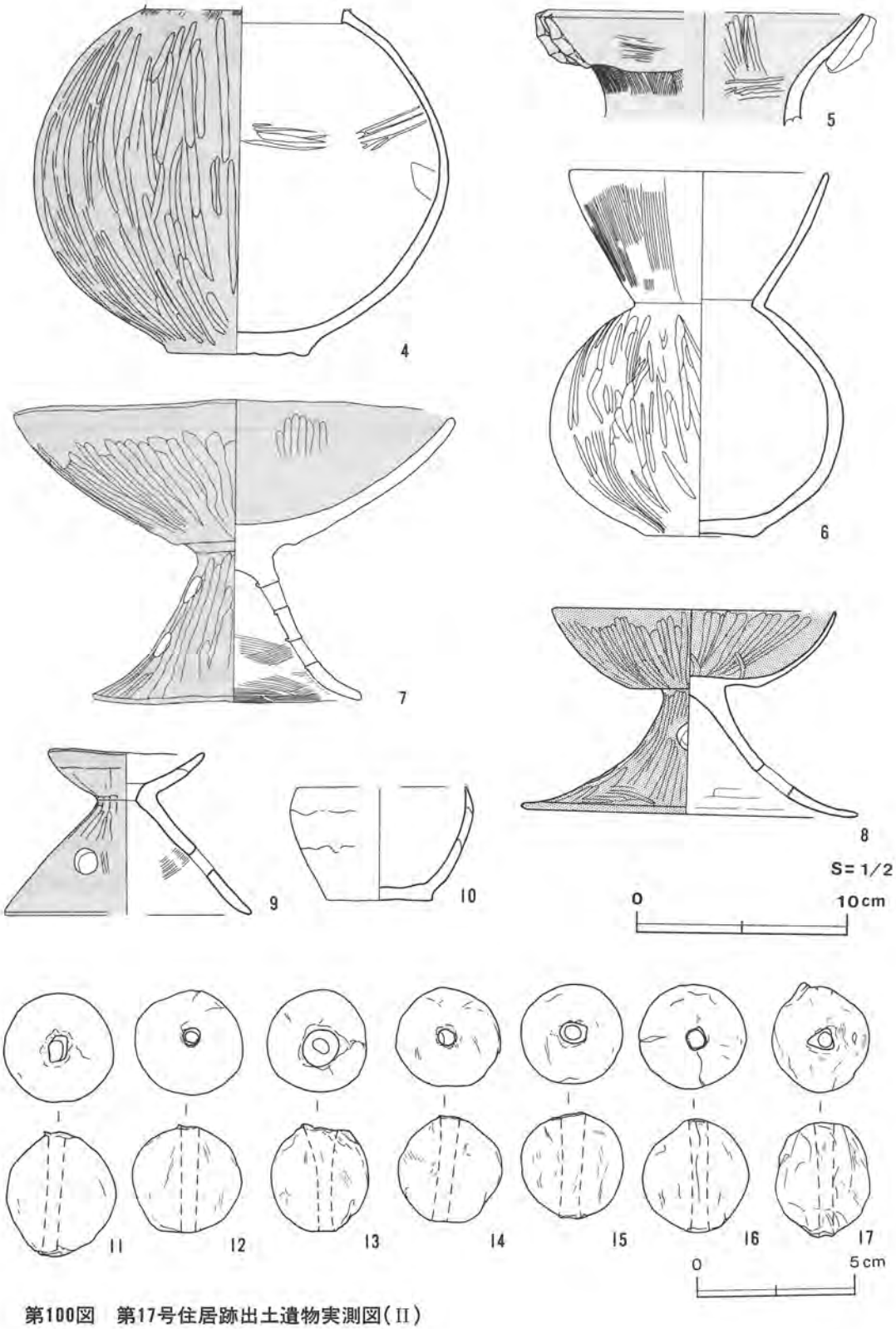


3

S=1/4

0 10cm

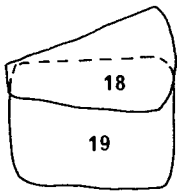
第99図　第17住居跡出土遺物実測図(Ⅰ)



第100図　第17号住居跡出土遺物実測図(II)

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第100図 8	高　坏 土師器	A 9.1 B 6.6 D 10.7 E 3.8	脚部はラッパ状に下方に開き，裾部で水平に近く大きく広がる。孔は，水平の位置に二対空けられている。坏部は頸部から水平に開いた後，内彎して立ち上がる。器厚が薄く硬い。	脚部内面を除き細かなヘラ磨きで，その上にしっかりした赤彩を施している。 脚部内面は丁寧なヘラナデ。	砂粒，パミス 暗赤褐色 普通	90% P155 PL31 南部床面
9	器　台 土師器	A 7.5 B 7.9 D[11.8] E 5.4	脚部の一部欠損。脚部はやや内彎気味に下方へ開き，裾部近くで外反して裾部へ至る。3孔が確認できる。上半部は皿状に緩やかに開く。器受部中央に単孔がある。	内外面とも磨耗が著しい。 外面－縦位のヘラ磨き。赤彩されている。 内面－脚部は横位のハケ目整形。横ナデ。 上位に輪積痕。	砂粒，長石，スコリア にぶい橙色 普通	70% P156 PL31 南部貯蔵穴 覆土
10	ミニチュア土器 土師器	A[8.1] B 5.5 C 5.1	埦形。底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり，上位でやや内彎する。	磨耗が著しい。 内外面とも指頭によるナデ。 輪積痕が認められる。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	40% P158 北部床面

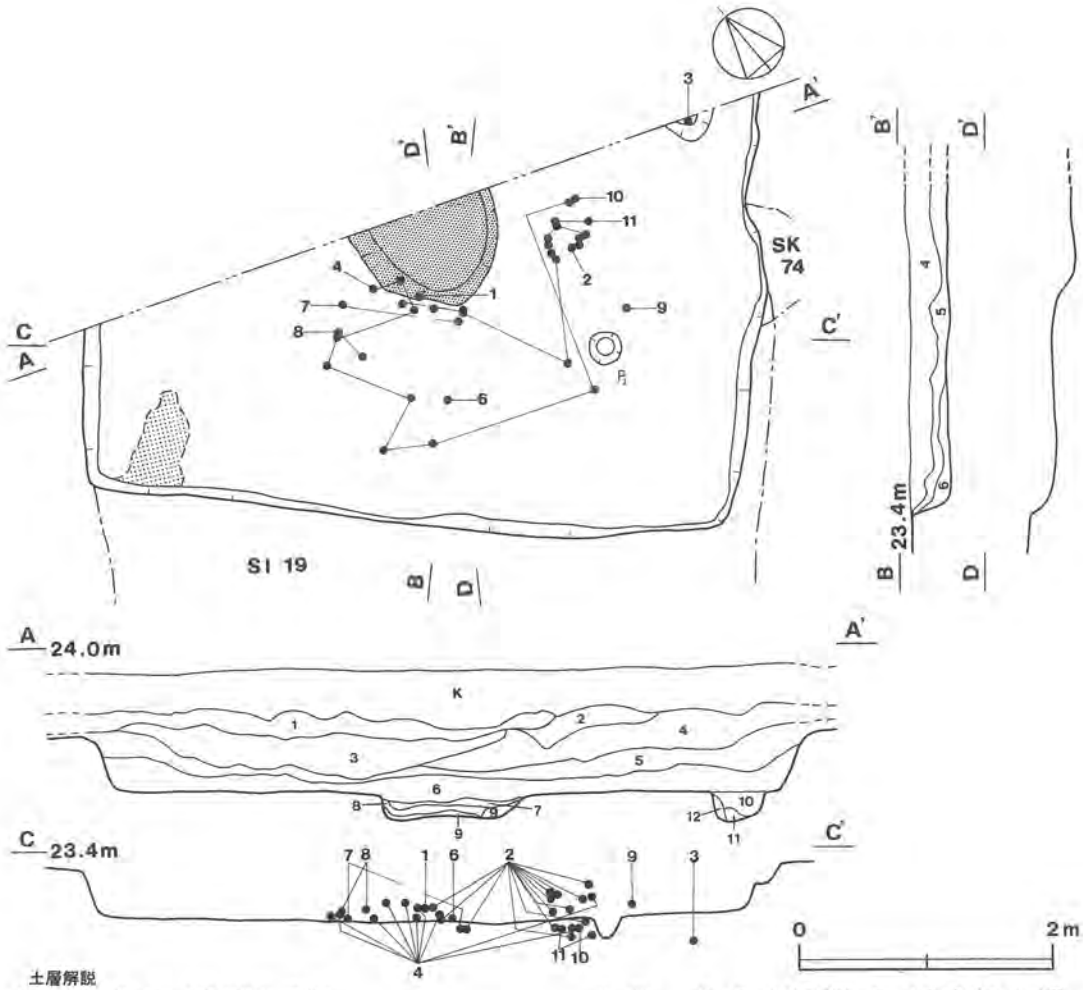
第18号住居跡（第101図）



位置　調査区の中央部。B17e1区を中心に確認された。**重複関係**　第19号住居跡と第74号土坑と重複しているが，本跡は両遺構より新しい。**規模と平面形**　5.44×(3.45)mで，方形を呈するものと推定される。**長軸方向**　[N－45°－W]。**壁**　壁高18～36cmで外傾して立ち上がる。**床**　炉周辺が幾分高くなっているものの，他は平坦で硬く踏み固められている。**ピット**　1か所。径27cm，深さ20cmを測る。対応するピットが確認されていないことから，補助柱穴と思われる。**貯蔵穴**　南東壁近くの東コーナー寄りに位置し，2分の1程が調査区域外にある。規模は，長径45cm，短径31cmの楕円形を呈するものと思われ，深さは20cmで断面形は逆台形を呈している。**炉**　床面中央部に検出され，調査区域外に北部がかかっている。現況では，(112)×(74)cmを測り，平面形は，楕円形を呈するものと思われる。床面を17cm程掘り窪めた地床炉である。**覆土**　人為的堆積がみられ，その上に自然堆積が認められる。

遺物　炉周辺を中心に，多量の土師器が出土している。土師器片は，120片(内，赤彩4片)出土している。炉の東側の覆土中層からは第103図10・11の器台が，炉の南側の覆土中層からは，潰れた状態の第102図2の台付甕が出土している。P1の北東部の覆土下層からは，第103図9の高坏が横位で出土している。貯蔵穴の覆土からは，第102図3の小形の壺が斜位で出土している。

所見　本跡は，西コーナーに焼土が出土しているので，焼失家屋と考えられる。



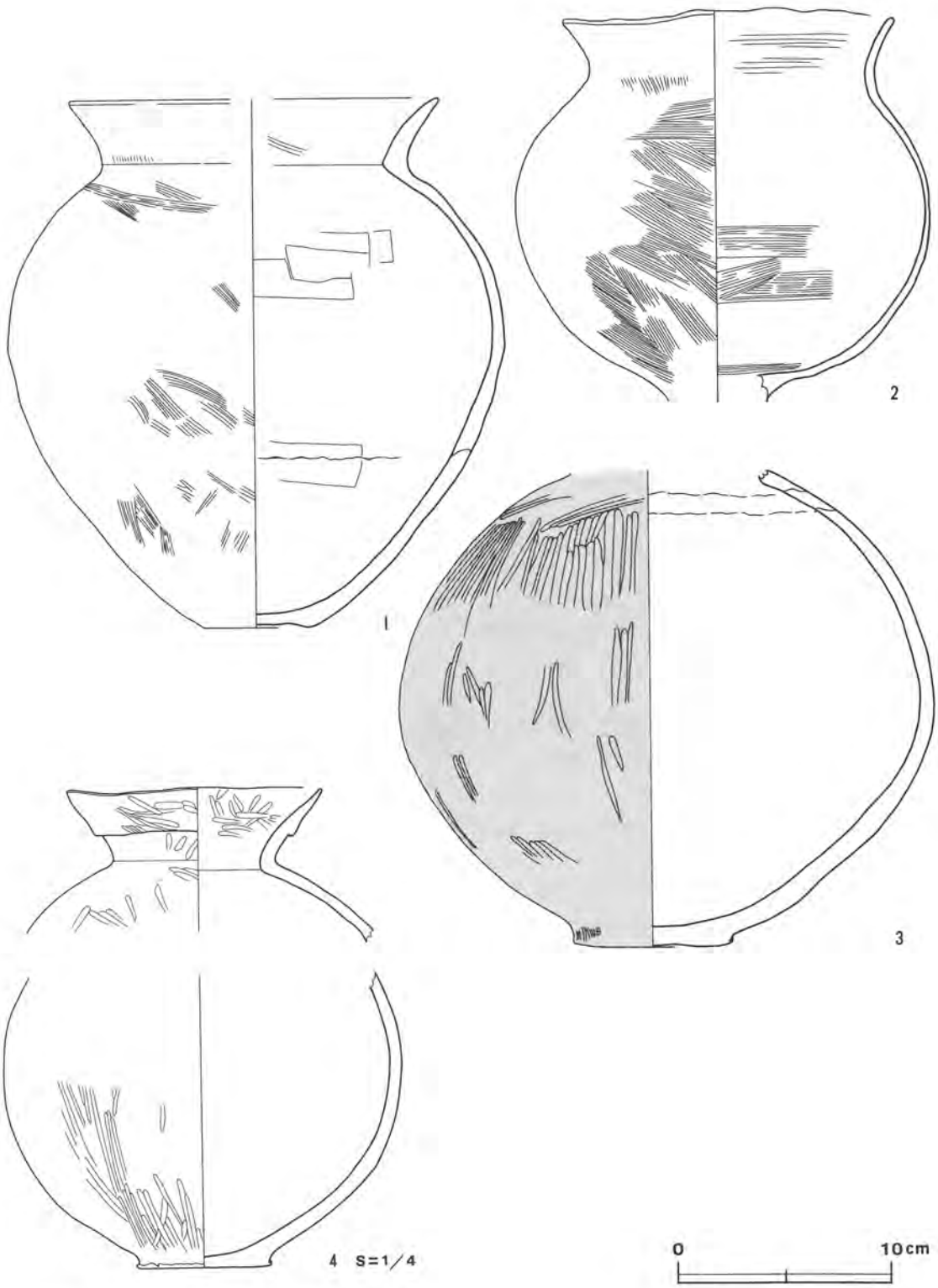
土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量，耕作土
2 黒 褐 色 ローム粒子少量
3 黒 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，締まり有り
4 黒 褐 色 ローム粒子多量，締まり有り
5 黒 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，締まり有り
6 暗 褐 色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，締まり有り
7 褐 色 ローム粒子多量，ローム小・中ブロック少量
8 褐 色 ローム粒子多量
9 明 褐 色 ローム粒子多量，締まり有り
10 極暗褐色 ローム中ブロック少量
11 極暗褐色 ローム粒子微量，軟質
12 暗 褐 色 ローム小ブロック微量

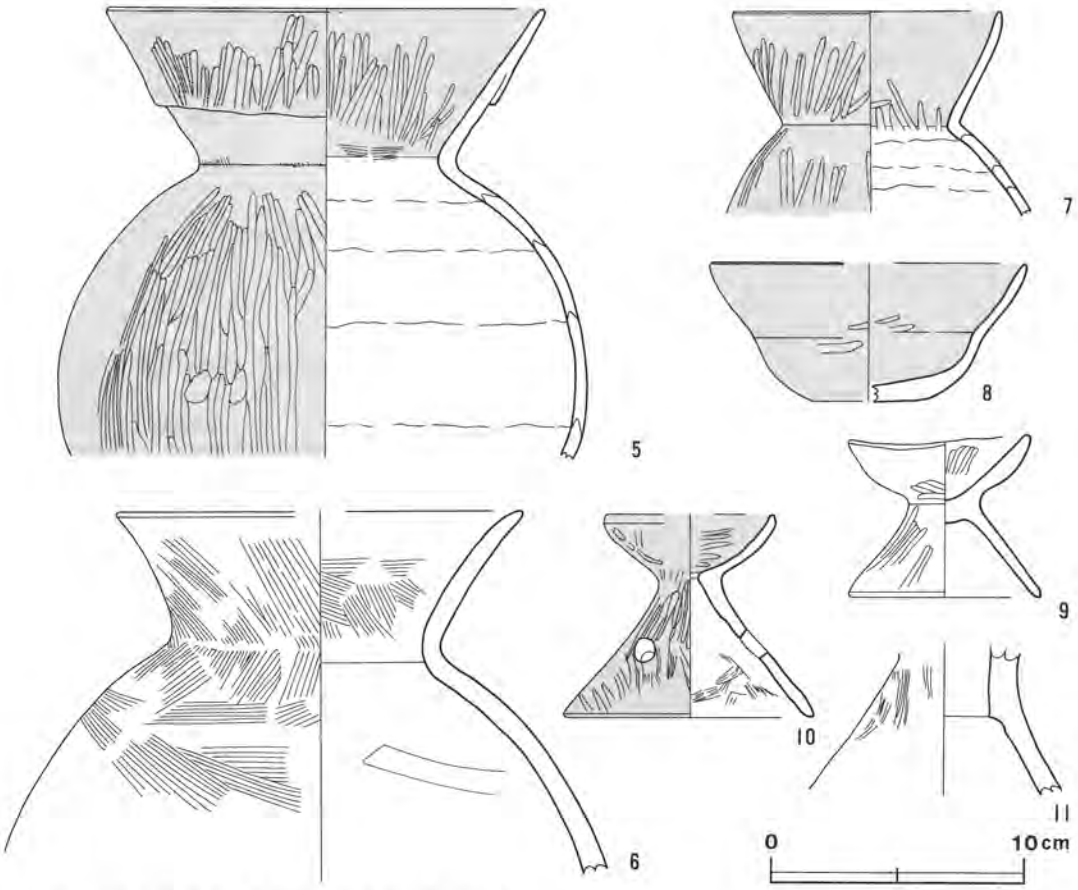
第101図　第18号住居跡実測図

第18号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第102図 1	甕 土師器	A[17.3] B 25.0 C 5.0	縦2分の1が欠損。底部は小さく，僅かに上げ底。胴下半部がすぼまり無花果状を呈する。口縁部は，器厚を減じながら外反する。	外面－胴部はハケ目整形後，粗いナデ。口縁部はハケ目整形後，横ナデ。 内面－胴部はヘラナデ。口縁部はハケ目整形後横ナデ。輪積痕。	砂粒，雲母，長石，スコリア にぶい橙色 普通	55% P165 PL29 中央部床面直上
2	台付甕 土師器	A 15.0 B(18.1)	台部欠損。 胴部は球形を呈し，口縁部は外傾して立ち上がり，中位で外反する。	外面－胴部は粗いハケ目整形。口縁部はナデ。 内面－胴部から口縁部にかけてハケ目整形。	砂粒，パミス にぶい橙色 不良	50% P166 PL29 中央部覆土中層



第102図　第18号住居跡出土遺物実測図(Ⅰ)



第103図　第18号住居跡出土遺物実測図(II)

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第102図 3	壺 土師器	B(22.5) C　7.4	小形の壺。口縁部欠損。 突出した平底。 胴部は球形を呈する。	外面－縦位の丁寧なヘラ磨き。 下半部は磨耗しているが，赤彩されている。 内面－剝離が著しい。ヘラナデの痕跡が認められる。 口縁部近くに輪積痕。	砂粒 赤色 普通	80% P164 PL29 東部床面
4	壺 土師器	A 15.9 B(28.3) C　8.0	突出した平底。胴部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は複合口縁で，外傾して開く。	外面－縦位の粗いヘラ磨き。 口縁部は粗いヘラ磨き。 内面－胴部はヘラナデとナデ。 口縁部は丁寧なナデ。	砂粒，スコリア 普通	60% P167 西部覆土中層
第103図 5	壺 土師器	A 17.4 B(17.8)	胴部下半部欠損。胴部は球形を呈し，口縁部は複合口縁で，外傾して開く。	外面－胴部，複合口縁とも縦位のヘラ磨き。 内面－胴部はナデ。口縁部は縦位のヘラ磨き。輪積痕 胴部内面を除き赤彩されている。	砂粒，パミス 明赤褐色 普通	60% P168 PL29 中央部覆土中層
6	壺 土師器	A[16.1] B(14.4)	口縁部から胴部上端にかけての破片。胴部は球形を呈していたと思われる。口縁部は外傾して立ち上がり，上位でやや外反する。	外面－胴部から口縁部全面にハケ目整形。 口縁上端部に横ナデ。 内面－胴部はヘラナデとナデ。口縁部はハケ目整形。	砂粒，パミスにぶい橙色 普通	30% P169 中央部覆土下層

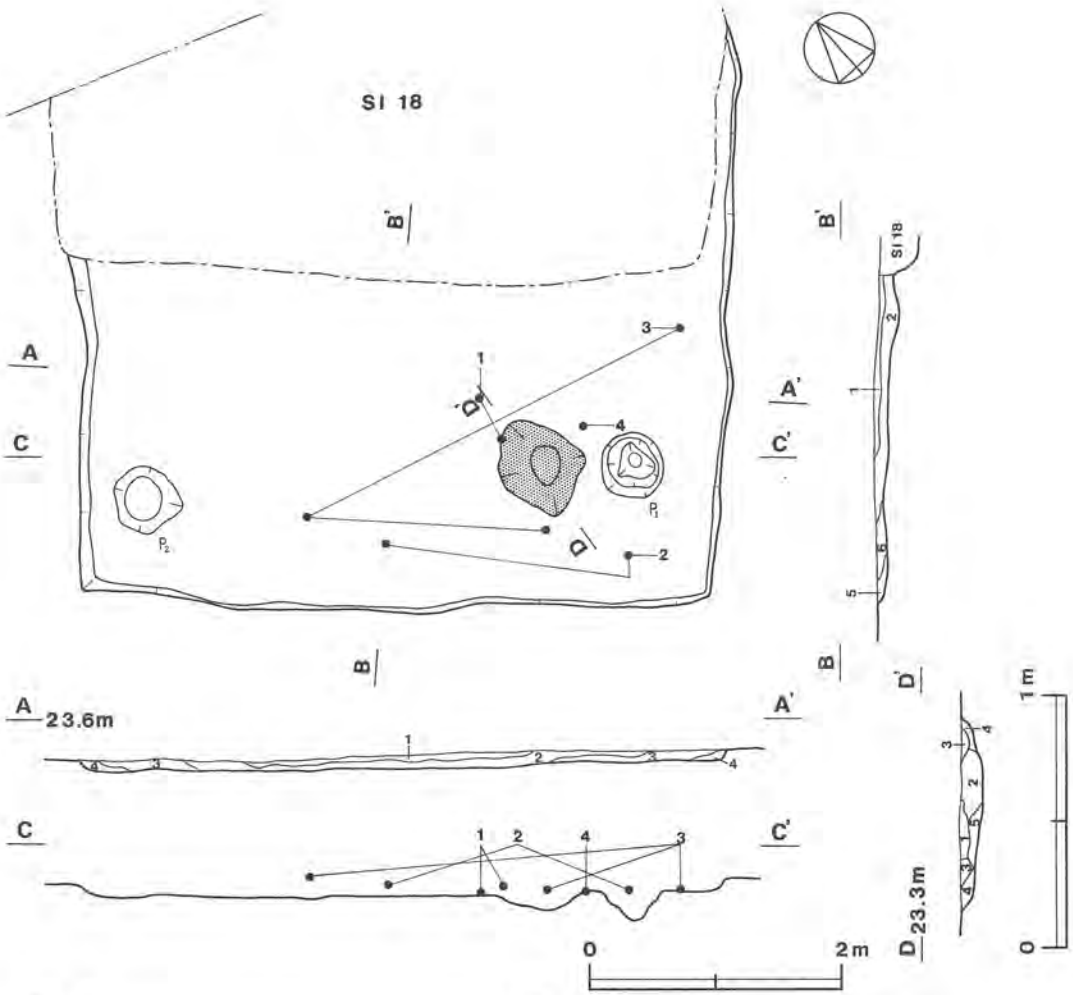
図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第103図 7	壺 土師器	A 10.6 B(8.0)	口縁部と胴上端部の破片。胴部は球形を呈していたと思われる。口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がり，中位からやや内彎する。	外面－縦位のヘラ磨き。 内面－胴部はナデ。口縁部はヘラ磨き。胴部に輪積痕。 胴部内面を除き赤彩。	砂粒 浅黄橙色 普通	30% P170 中央部床面
8	坩 土師器	A[12.4] B 5.5 C[4.6]	胴部から口縁部にかけての破片。平底。胴部は皿状に立ち上がり，上端部に最大径をもつ。口縁部は頸部から外傾して立ち上がり，胴部径を大きく越える。	内外面とも磨耗が著しい。 内外面とも横位のヘラ磨きが見られる。 内外面とも赤彩。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	40% P171 中央部床面
9	高　坏 土師器	A· 7.3 B 6.5 D 7.7 E 3.1	脚部は「ハ」の字状に下方へ開き，裾部へ至る。 坏部は外傾して立ち上がる。	外面－脚部は縦位のハケ目整形後，ヘラ磨き。坏部は横位のハケ目整形後，ヘラ磨き。 内面－脚部はナデ。坏部は横位のハケ目整形後，ヘラ磨き。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	90% P172 PL29 南部覆土下層
10	器　台 土師器	A[6.5] B 8.2 D 9.8 E 5.7	坏部の3分の2が欠損。脚部は「ハ」の字状に下方へ開き，裾部へ至る。側面に3孔がある。坏部は皿状に開き，口縁部で垂直に立ち上がり稜をもつ。口唇部は尖る。底面中央に単孔がある。	外面－脚部，坏部ともに縦位のハケ目整形後ヘラ磨き。 内面－脚部はハケ目整形。坏部はヘラ磨き。 脚部内面を除き赤彩。	砂粒，礫 赤褐色 普通	80% P173 PL29 東部覆土中層
11	器　台 土師器	B(5.9)	脚部。脚部はラッパ状に下方へ開く。 坏部底部の孔は，中心よりズレた位置にある。	外面－縦位のハケ目整形後，ナデ。 内面－ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	30% P174 東部覆土中層

第19号住居跡（第104図）

位置　調査区の中央部。B17f1区を中心に確認された。**重複関係**　第18号住居跡と重複しているが，本跡の方が古い。**規模と平面形**　5.13×5.03mで，方形を呈する。**長軸方向**　N－51°－W。**壁**　壁高6～7cmと浅く，上部が堙滅している。壁は，外傾して立ち上がるが，南壁は緩やかに傾斜して立ち上がる。**床**　平坦で，全体に硬く良好である。**ピット**　2か所。径52～54cm，深さ22～41cmを測り主柱穴と思われる。**炉**　南コーナー近くに設けられ，長径81cm，短径62cmの不整楕円形を呈する地床炉である。炉床は，床面を15cm程皿状に掘り窪められ，赤褐色の焼土が遺存している。**覆土**　自然堆積。褐色・黒褐色を中心とする土層で軟らかい。

遺物　炉周辺を中心に，土師器片が散在して出土している。土師器片は，64片(内，赤彩11片)出土している。第105図1の甕は，炉周辺から散在して出土している。2の甕は，南壁際の床面直上から出土している。3の甕の胴下半部は，西部の床面から出土している。4の台付甕の台部は，炉の東側の床面から出土している。出土遺物の中で，中形の壺類の口縁部が多いことが特徴的である。

所見　本跡は，北側の2分の1を第18号住居跡に切られており，調査することができなかった。



土層解説

1 褐　色　ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量
2 黒 褐 色　ローム粒子・ローム小・中ブロック少量
3 黒 褐 色　ローム小・大ブロック・炭化粒子少量
4 黒 褐 色　焼土粒子・炭化粒子微量，軟質
5 灰 褐 色　ローム粒子少量
6 黒 褐 色　焼土ブロック・炭化小ブロック微量

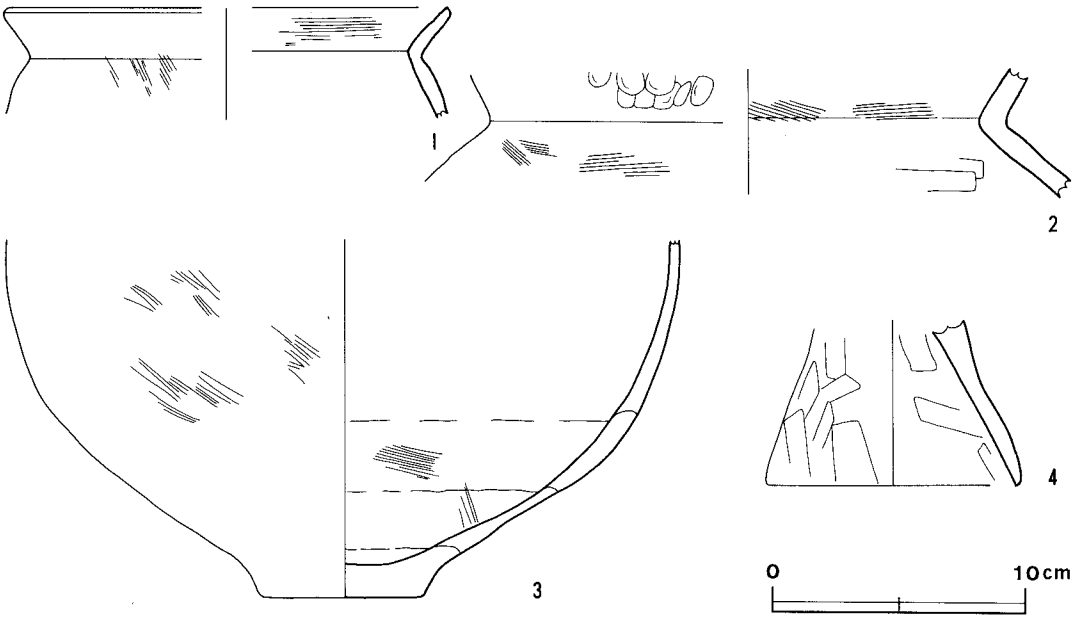
炉土層解説

1 にぶい赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量
2 赤 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量
3 暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・炭化小ブロック少量
4 褐　色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，締まり有り
5 赤 褐 色　ローム粒子少量，ローム中ブロック中量，焼土粒子・焼土小・中ブロック多量，硬質

第104図　第19号住居跡実測図

第19号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第105図 1	甕 土師器	A[17.8] B(4.4)	胴部から口縁部にかけての破片。 口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がる。	外面－磨耗が著しいが，胴部は斜位のハケ目整形後ナデ。口縁部は横ナデ。 内面－胴部はナデ。口縁部は横位のハケ目整形。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	5% P178 南部床面

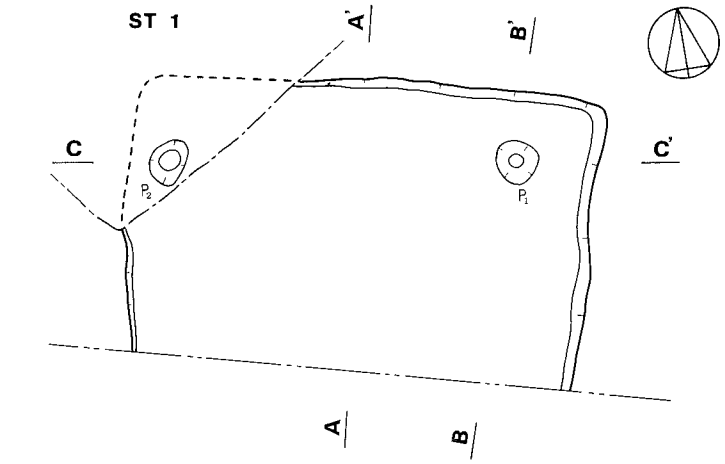


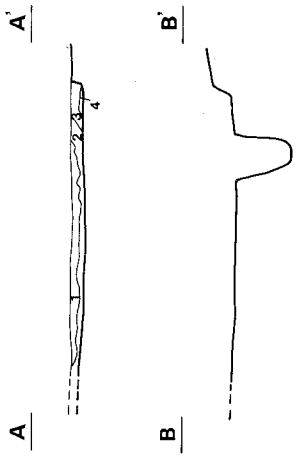
第105図　第19号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第105図 2	甕 土師器	B(5.1)	口縁部の破片。 口縁部は頸部から「く」の字状に立ち上がる。器厚は厚めで，一定している。	外面－胴部はハケ目整形。口縁部はナデ。口縁部に指頭圧痕。 内面－胴部はヘラナデ。口縁部はハケ目整形。	砂粒 淡橙色 普通	5% P176 南部床面直上
3	甕 土師器	B(14.2) C　6.3	胴下半部の破片。 突出した平底。胴部は外傾して立ち上がり，中位からわずかに膨らむ。	磨耗，剝離が著しい。 外面－斜位のハケ目整形。 内面－底部はハケ目整形。他はナデ。輪積痕が残る。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	30% P175 西部床面
4	台付甕 土師器	B(6.6) D 10.0	台部。台部は，「ハ」の字状に下方へ開き，中位でやや膨らみ裾部へ至る。	内外面ともヘラナデ。	砂粒，パミスにぶい黄橙色	10% P179 南部床面

第21号住居跡（第106図）

位置　調査区の中央部。B15b$_2$区を中心に確認された。**重複関係**　第1号竪穴遺構と重複しているが，本跡の方が新しい。**規模と平面形**　3.75×(2.30)mで，方形を呈するものと思われる。**長軸方向**　[N－16°－E]。**壁**　壁高15～18cmで，緩やかに傾斜して立ち上がる。**床**　平坦で，若干軟らかい。**ピット**　2か所。径34～41cm，深さ44～48cmを測る。P$_1$～P$_2$ともその位置関係より主柱穴と思われる。**炉**　確認できない。**覆土**　自然堆積。**遺物**　覆土上層から，土師器の第107図1の甕底部の破片を含む8片が出土している。**所見**　本跡は，北西コーナー部を第22号住居跡によって切られ，南側は調査区域外である。

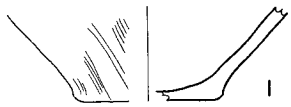


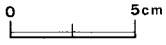


土層解説

1 黒　　色　ローム小ブロック少量
2 褐　　色　ローム小ブロック少量，締まり有り，硬質
3 黒 褐　色　炭化粒子微量，軟質
4 褐　　色　ローム小ブロック・粘土中ブロック少量，粘性・締まり有り

第106図　第21号住居跡実測図





第107図　第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土土器観察表

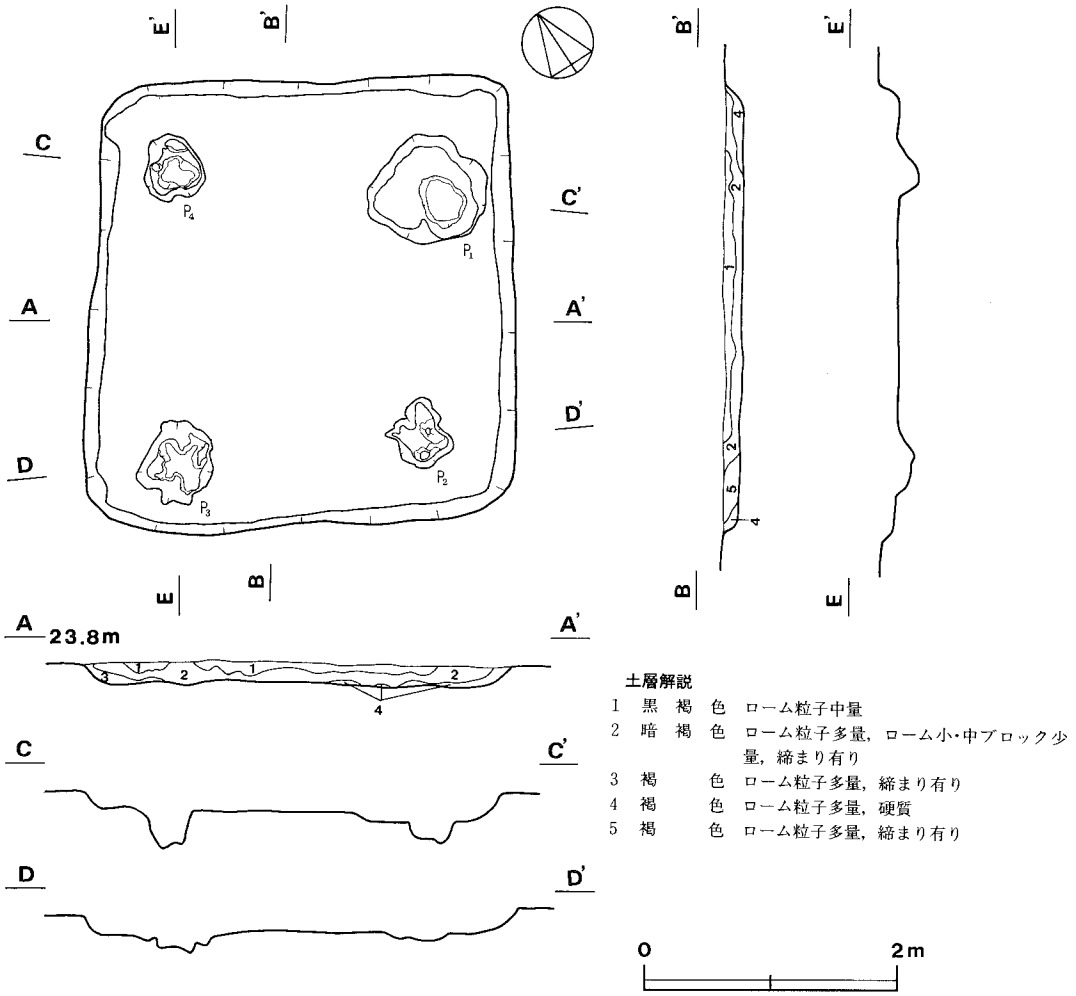
図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第107図 1	甕 土師器	B(3.7) C[5.5]	底部から胴部にかけての破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。	内外面とも磨耗が著しい。 外面－縦位のハケ目整形。 内面－ナデ。	砂粒 にぶい黄橙 色 普通	5% P180 北東部覆土

第23号住居跡（第108図）

位置　調査区の中央部。A14i9区を中心に確認された。**規模と平面形**　3.50×3.36mで，隅丸方形を呈する。**長軸方向**　N－30°－E。　**壁**　壁高14～16cmで，外傾して立ち上がる。**床**　中央部がやや高く，硬い床である。**ピット**　4か所。P1～P4は径52～99cm，深さ10～28cmで，四隅から検出されたピットである。配置から考えて主柱穴と思われ，P1・P4は二段の掘り方をしている。**覆土**　自然堆積。各層とも締まりが有る。

遺物　出土遺物は，極めて少なく，東部の床面から甕の破片が2片出土している。その他，第109図1の高坏片を含め，覆土からは土師器片が8片出土している。

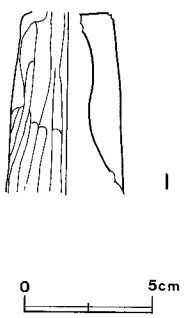
所見　本跡は，小形で炉をもたないものの，床面は硬く主柱穴の配置が四隅にあり，住居としての基本的形状を備えている。



第108図 ,第23号住居跡実測図

第23号住居跡出土土器観察表

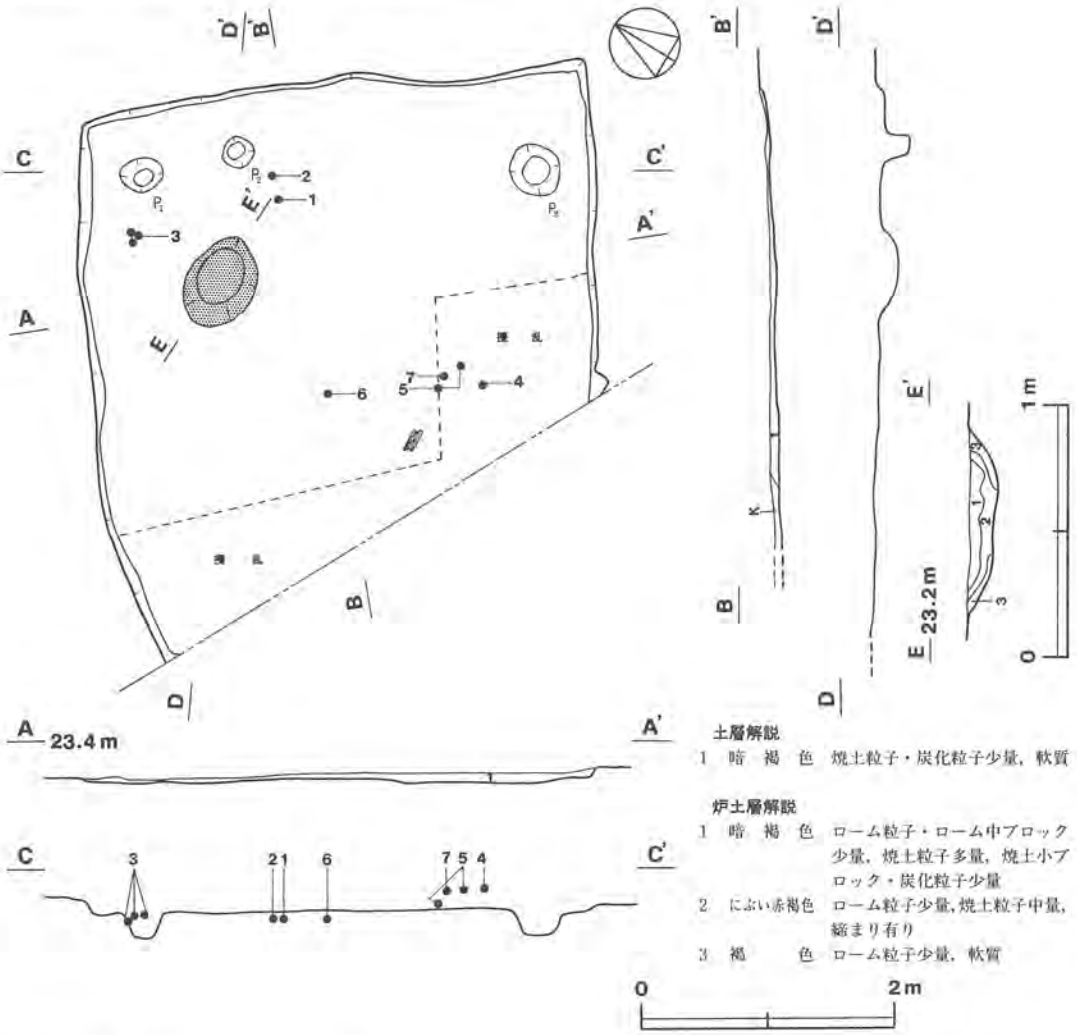
図版番号	器 種	法量(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第109図 1	高 坏 土 師 器	D(7.2)	脚部の破片。円筒状に近く，裾部に近くなるにつれ若干開く。脚部内の空洞は，一方に片寄る。	外面－縦位のヘラ磨き。内面－丁寧なナデ。	砂粒 赤褐色 良好	10% P185 北部覆土



第109図 第23号住居跡
出土遺物実測図

第37号住居跡（第110図）

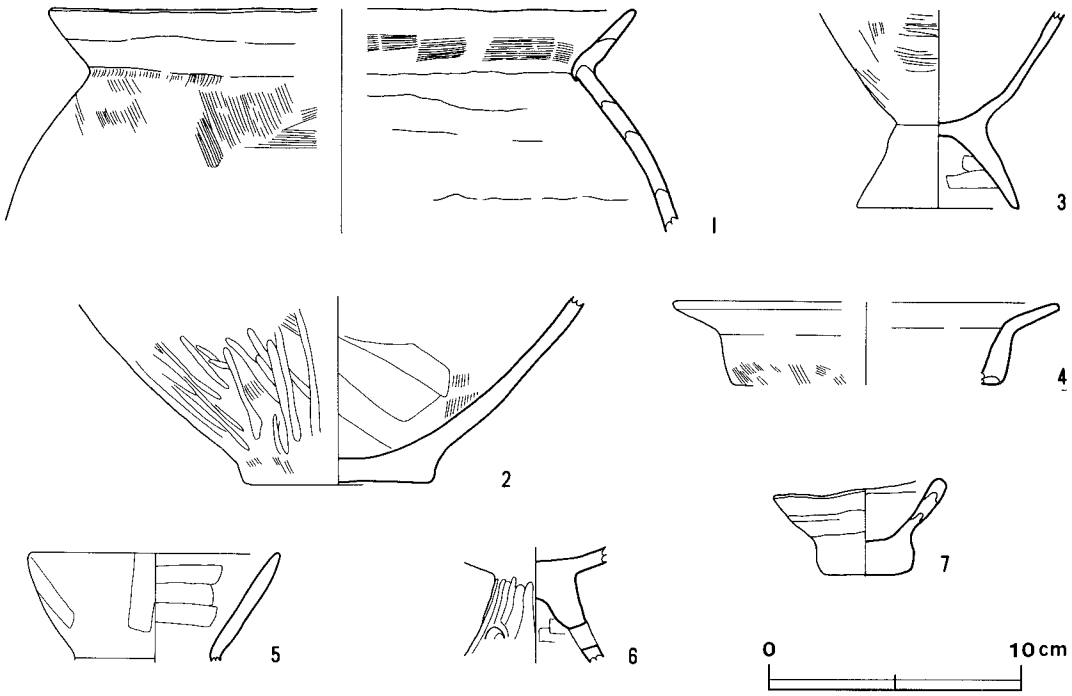
位置　調査区の中央部東端。C19j6区を中心に確認された。**規模と平面形**　4.32×(4.12)mで，方形を呈するものと推定される。**長軸方向**　[N－41°－W]。**壁**　壁高6～12cmで，緩やかに傾斜して立ち上がる。南側は，調査区域外と撹乱が入り不明である。**床**　平坦で，床面中央部は硬く踏み固められているが，壁際は軟らかである。南東壁中央部付近は，出入口部と思われ，僅かに小高く踏み固められている。**ピット**　3か所。コーナー部に位置し，径26～45cm，深さ20～21cmを測る。位置，規模から考えて，P1・P3が主柱穴でP2は補助柱穴と思われる。**炉**　床面中央部の西寄りに設けられ，長径75cm，短径54cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は，床面を16cm程皿状に掘り窪めて構築されている。炉床への硬化した焼土の遺存は少ない。**覆土**　自然堆積。軟質の黒褐色土だけである。



第110図　第37号住居跡実測図

遺物　床面，床面直上から土師器片が，84片(内，赤彩９片)散在して出土している。北部の床面からは，第111図１・２の甕の破片が隣接して，３の台付甕の台部が逆位で出土している。南部の床面直上には，７のミニチュア土器が正位で出土している。

所見　本跡は，南側が調査区域外で，撹乱を受けていたため全体の調査ができなかった。



第111図　第37号住居跡出土遺物実測図

第37号住居跡出土土器観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第111図 1	甕 土師器	A[23.4] B(8.9)	胴部から口縁部の破片。胴部は中位から内彎して立ち上がる。口縁部は頸部から「く」の字状に外傾する。	外面－胴部は斜位のハケ目整形。口縁部は横ナデ。 内面－胴部はナデ。口縁部はハケ目整形。 内外面に輪積痕が残る。	砂粒，パミス，スコリア にぶい橙色 普通	5% P227 PL35 北部床面
2	甕 土師器	B(7.5) C 7.6	底部から胴部にかけての破片。突出した平底。胴部は外傾して立ち上がる。	外面－ハケ目整形後，縦位のヘラ磨き。 内面－丁寧なヘラナデ。	砂粒 淡橙色 普通	15% P228 北部床面
3	台付甕 土師器	B(7.9) D 6.5	台部と胴の一部。小形である。脚部は「ハ」の字状に下方へ開き，裾部へ至る。胴部は外傾して立ち上がる。	外面－台部はナデ。胴部はハケ目整形。粗い整形。 内面－台部はヘラナデ。胴部はナデ。	砂粒，スコリア にぶい橙色 不良	20% P232 PL35 北部床面
4	壺 土師器	A[15.4] B(3.3)	口縁部の破片。口縁部は頸部がほぼ垂直に立ち上がり，その後外反する。	内外面ともハケ目整形後，丁寧な横ナデ。	砂粒，雲母，パミス 赤色 良好	5% P233 南部床面直上
5	坩 土師器	A 10.1 B(4.3)	胴部欠損。口縁部はやや内彎気味に立ち上がる。	内外面とも丁寧なヘラナデ。	砂粒，雲母 橙色 普通	30% P231 PL35 南部床面直上

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第111図 6	高　坏 土師器	B(4.6) E(2.5)	脚部の破片。脚部はラッパ状に下方へ開く。側面に3孔の存在が確認できる。	外面－縦位のヘラ磨き。 内面－ヘラナデ。	砂粒，パミス 橙色 普通	10% P234 中央部床面
7	ミニチュア土器 土師器	A　6.9 B　3.8 C　3.5	鉢形で突出した平底。体部は外傾して立ち上がる。	内外面とも指頭によるナデ。上端部は横ナデ。 輪積痕が残る。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	100% P235 PL35 南部床面直上

第39号住居跡（第112図）

位置　調査区の東部。C19j9区を中心に確認された。**重複関係**　第52号住居跡・第97号土坑と重複しているが，本跡の方が新しい。**規模と平面形**　6.54×6.42mで，方形を呈する。

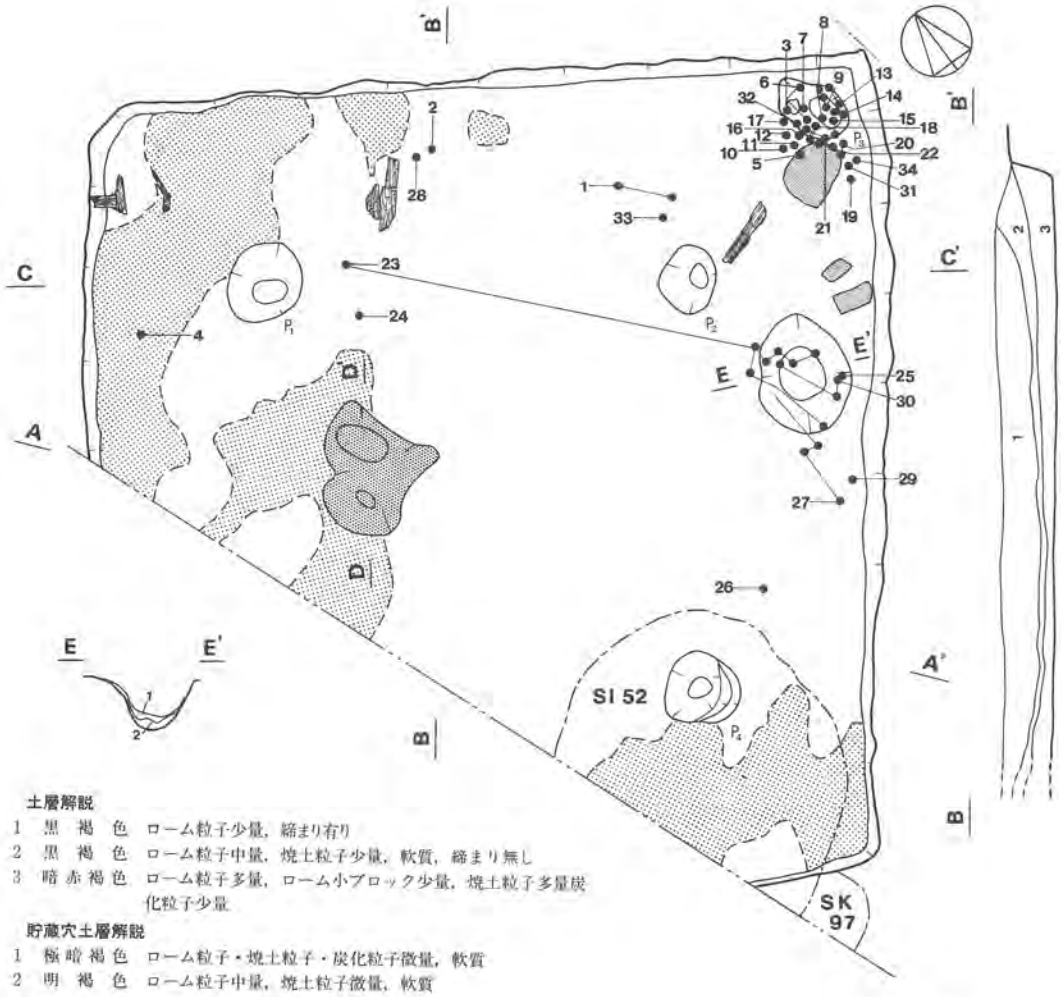
長軸方向　N－50°－E。**壁**　壁高は35～54cmで，外傾して立ち上がる。**床**　平坦で，炉付近のP1・P2・P4に囲まれた床面が特に硬い。**ピット**　4か所。P1・P2・P4は，径54～69cm，深さ60～76cmを測り，良好なピットで主柱穴と思われる。P3は，径60cm，深さ23cmと他に比べ浅く，屋内施設に伴うピットと思われる。P4の掘り方は二段に掘られている。**貯蔵穴**　南東壁中央部の東コーナー寄りの壁際に設けられ，長径96cm，短径71cmの楕円形状を呈している。床面を41cm程掘り下げ，断面形は逆台形状を呈する。**炉**　床面中央部の北西寄りに設けられ，長径112cm，短径83cmの不整楕円形を呈する地床炉である。**覆土**　自然堆積。上層は黒褐色土に覆われ，下層は暗赤褐色土で焼土粒子を多量に含んでいる。

遺物　土師器片1,004片(内，赤彩片1片)が東コーナーに幾重にも重なって出土している。第113図3の甕，第113～116図5～22までの17点の壺，第118図31・34の器台が，東コーナーの床面から出土している。北・南コーナー部の床面には焼土塊が遺存している。また，貯蔵穴の周囲からは，第117図23の壺，25の坩，28の高坏が出土し，覆土下層からも27・30の高坏が出土している。北部床面からは，第113図2の甕と第117図24の壺・29の高坏・第113図4の壺が北西壁際床面から出土している。東コーナーと貯蔵穴の間等からは，50×36cmの粘土塊が出土している。

所見　本跡は，炭化材の出土状況から考えて焼失家屋である。完形に近く接合できた壺を21点，ほぼ同一場所から出土していることが特徴的である。

第39号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第113図 1	甕 土師器	A　13.2 B　21.5 C　6.2	突出した平底。胴部はやや長胴気味で，上位で角度を変え頸部へ至る。口縁部は「く」の字状に立ち上がり，上位でやや外反する。	外面－胴部はハケ目整形後，粗いヘラ磨き。口縁部はナデ。 内面－胴部はヘラナデ。口縁部はヘラ磨き。上端部は横ナデ。	砂粒 淡橙色 普通	50% P247 PL32 東部床面

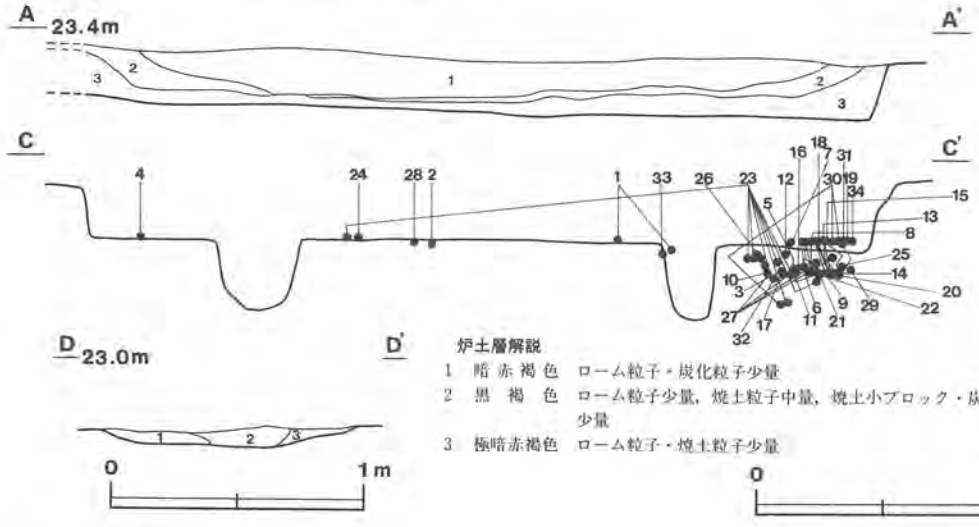


土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量，締まり有り
2 黒 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，軟質，締まり無し
3 暗 赤 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子多量炭化粒子少量

貯蔵穴土層解説

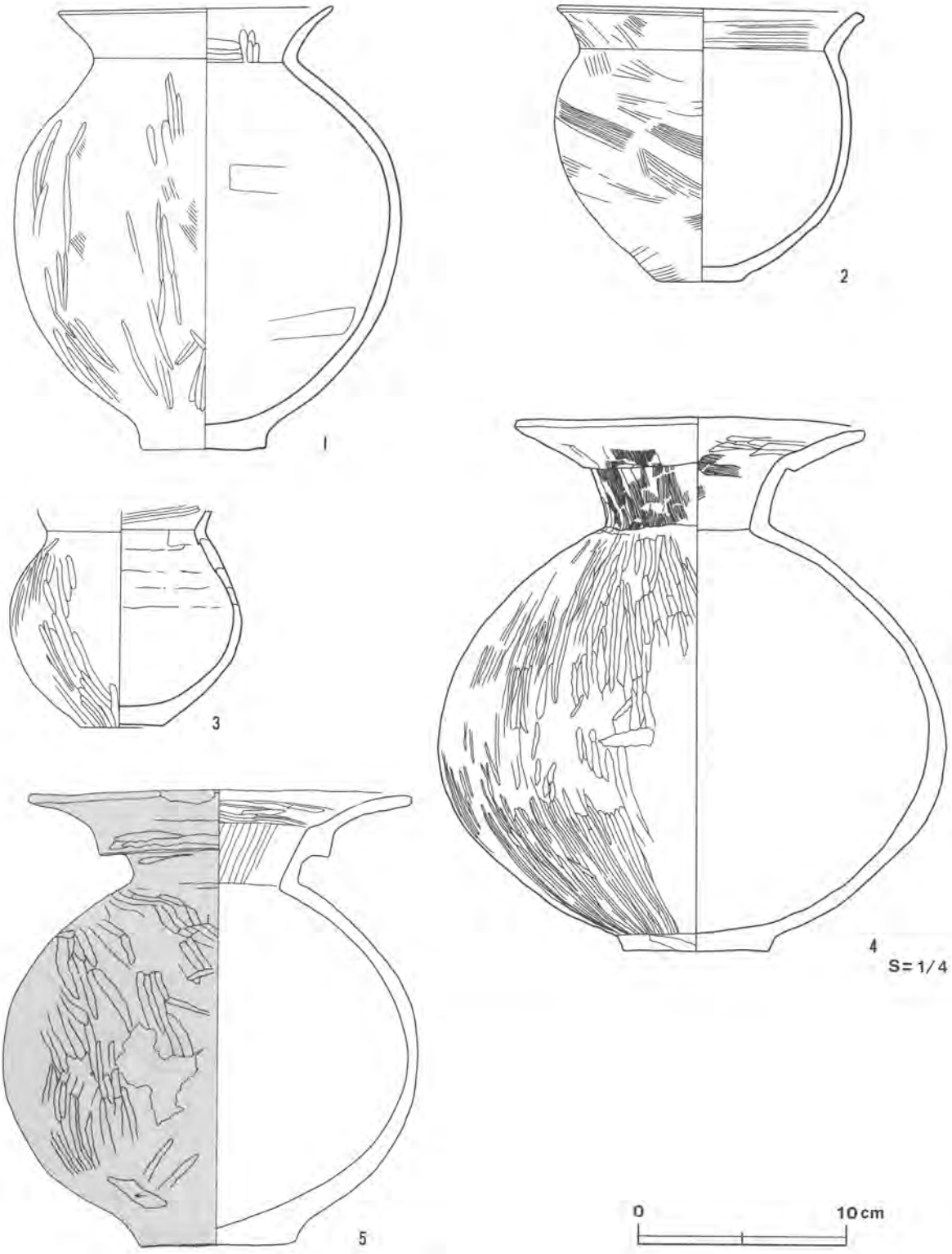
1 極 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量，軟質
2 明 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子微量，軟質



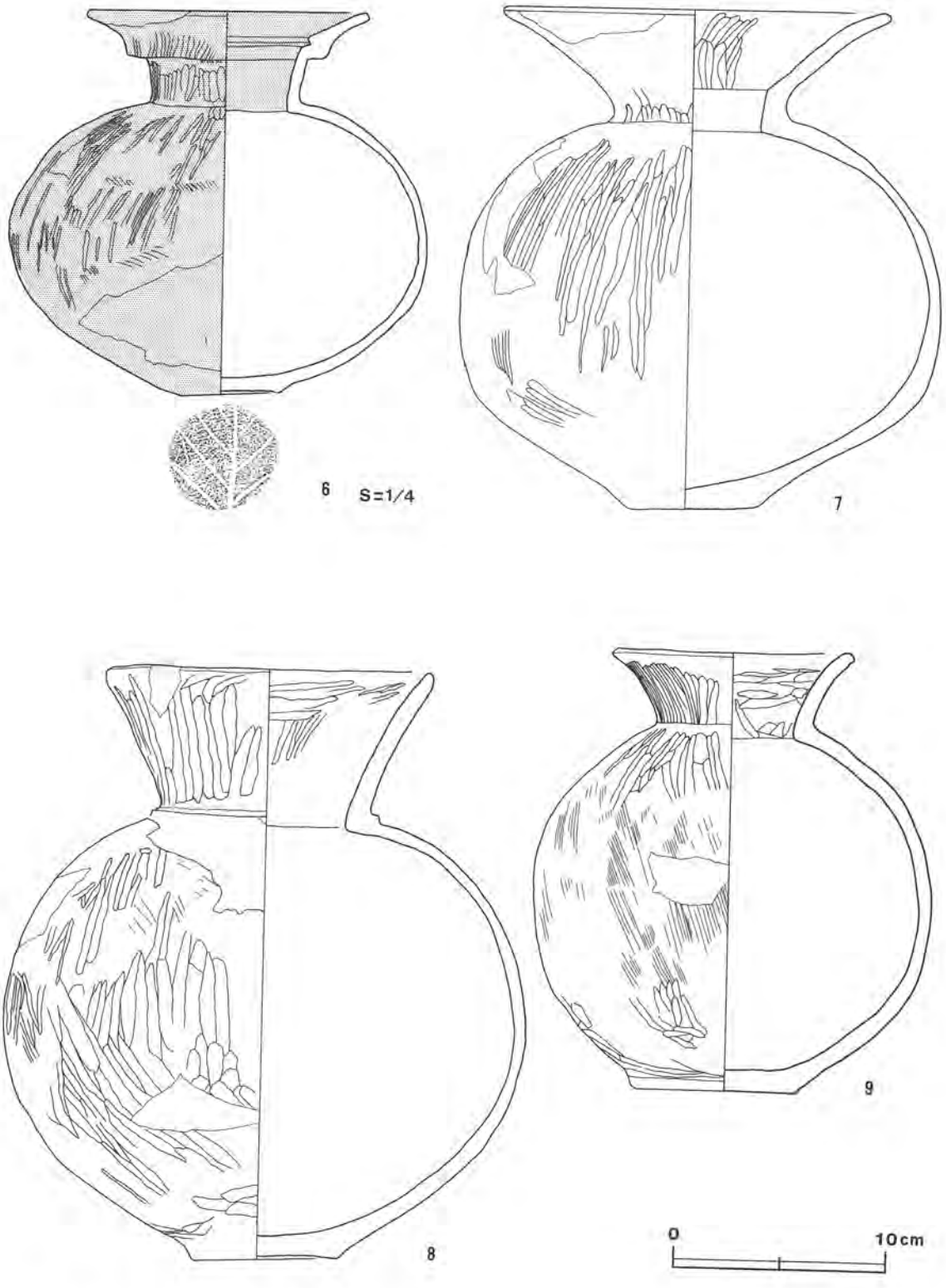
炉土層解説

1 暗 赤 褐 色 ローム粒子・炭化粒子少量
2 黒 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量
3 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

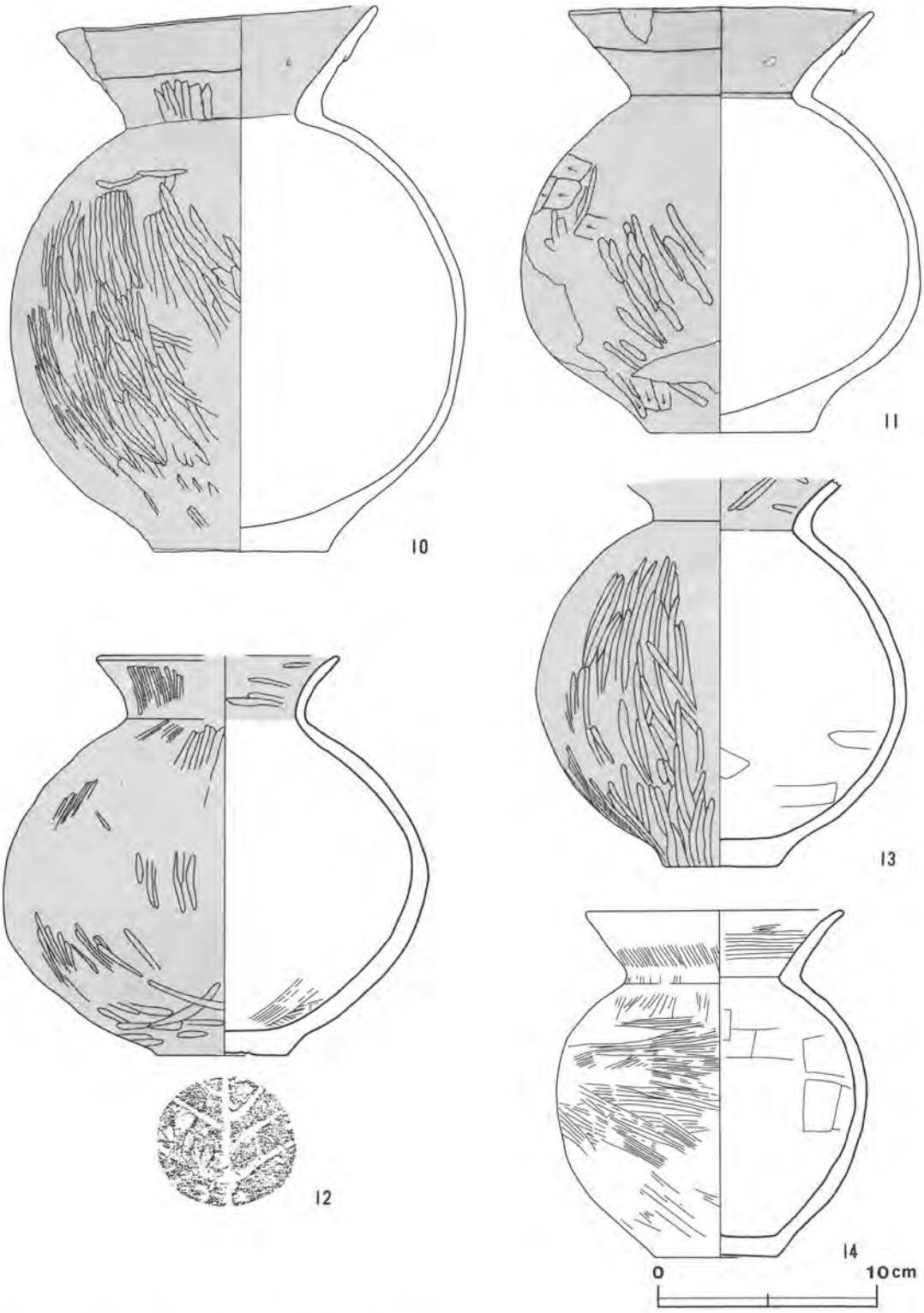
第112図 第39号住居跡実測図



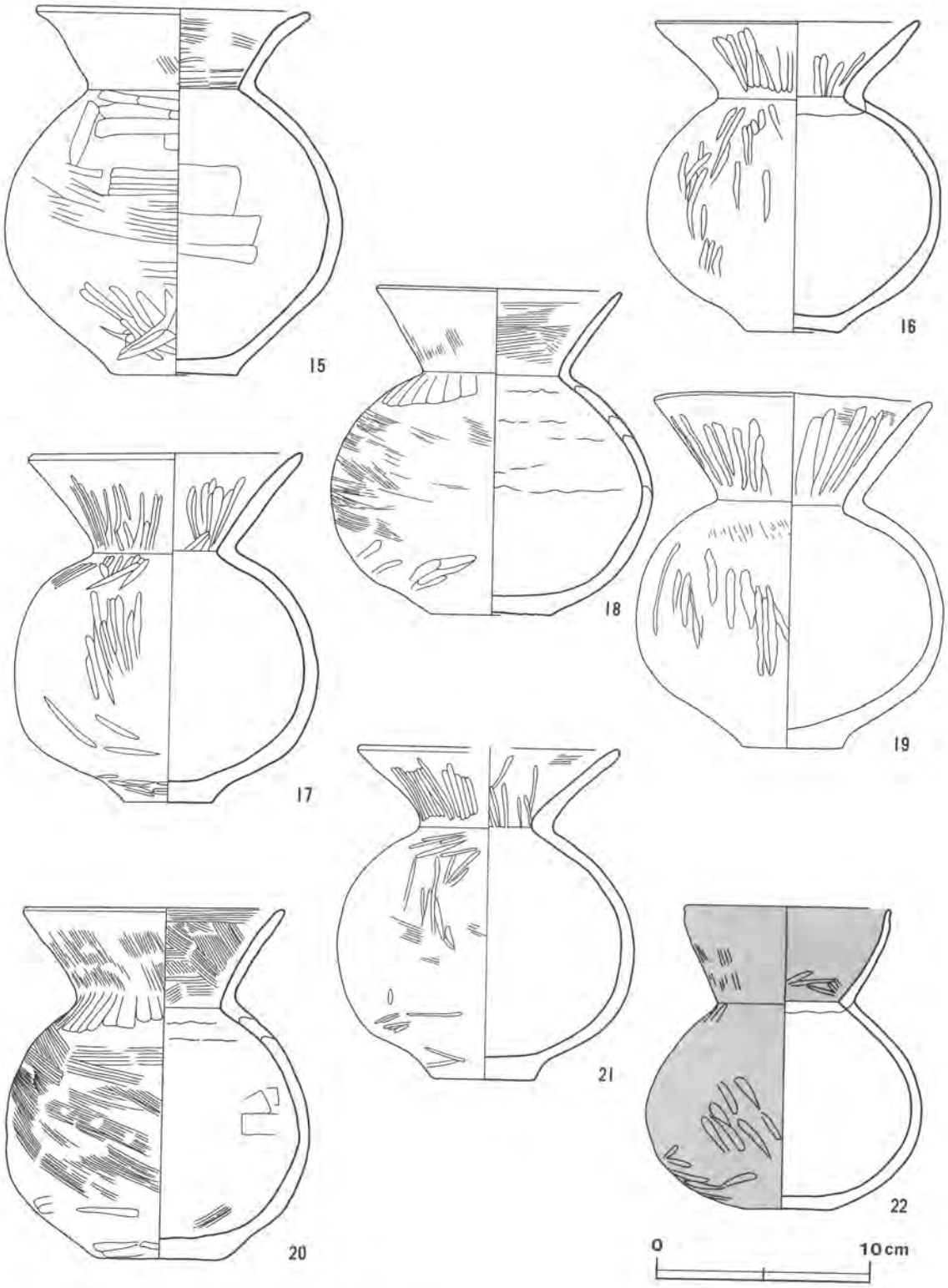
第113図　第39号住居跡出土遺物実測図(Ⅰ)



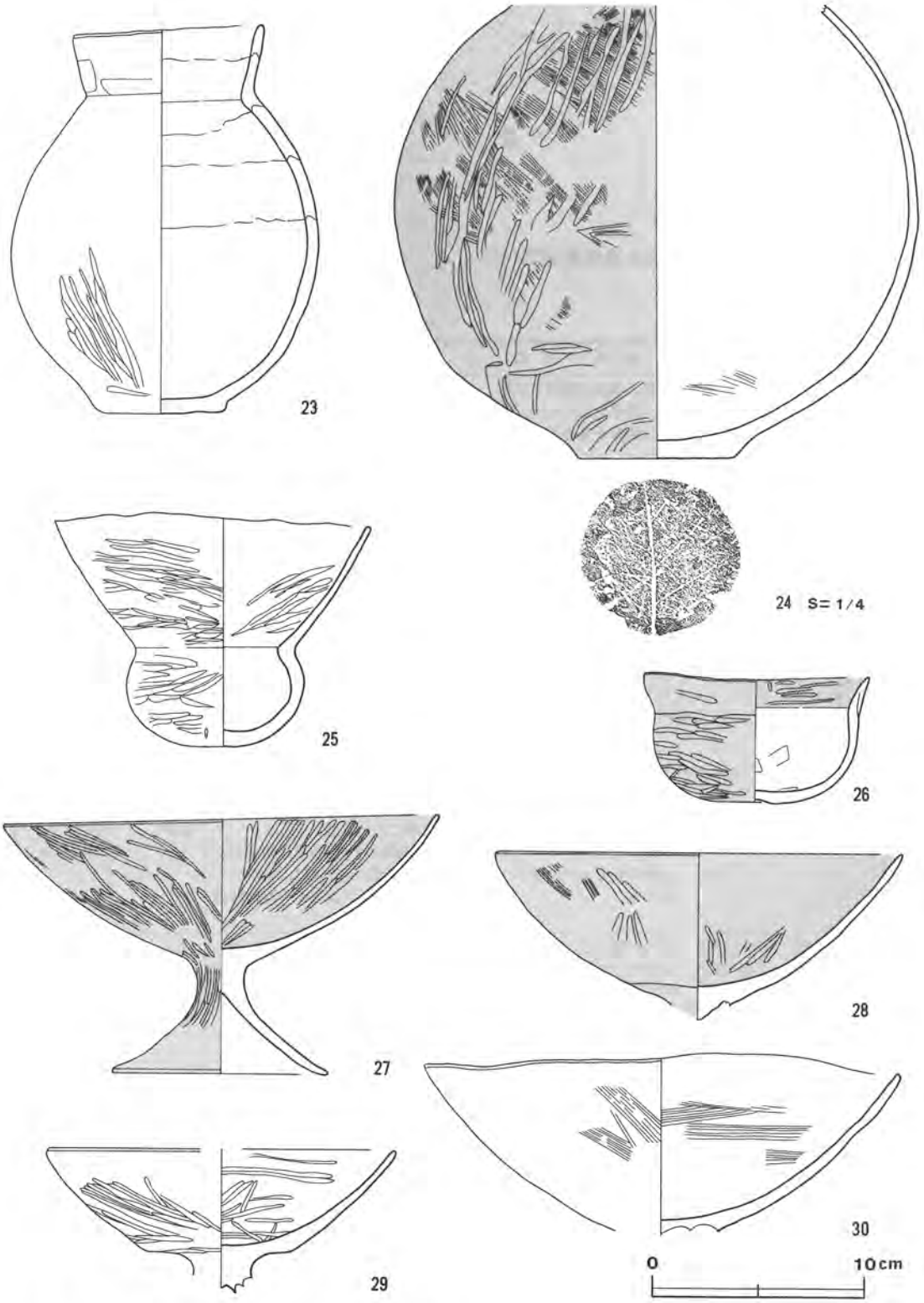
第114図　第39号住居跡出土遺物実測図(Ⅱ)



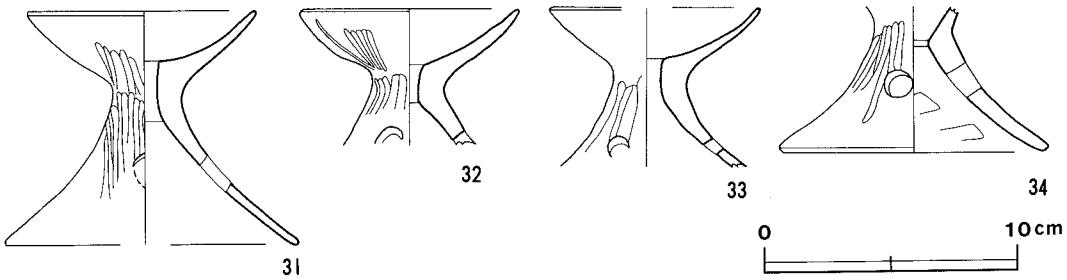
第115図　第39号住居跡出土遺物実測図(Ⅲ)



第116図　第39号住居跡出土遺物実測図(Ⅳ)



第117図　第39号住居跡出土遺物実測図(Ⅴ)



第118図　第39図住居跡出土遺物実測図(Ⅵ)

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第113図 2	甕 土師器	A 14.9 B 13.4 C 3.9	平底。胴部は球形を呈し，最大径を上位にもつ。口縁部は頸部から外反して開く。	外面－胴部は粗いハケ目整形。口縁部は斜位のハケ目整形後ナデ。 内面－胴部はナデ。口縁部は横位のハケ目整形。	砂粒，スコリア 赤橙色 普通	60% P259 PL32 内外面煤付着 北部床面
3	甕 土師器	B(10.5) C 4.0	小形の甕。口縁上端部は欠損。平底。胴部は無花果状を呈する。口縁部は，頸部から垂直に近く立ち上がる。	外面－胴部は縦位のヘラ磨き。口縁部はナデ。 内面－胴部はヘラナデ。口縁部は横位のヘラ磨き。輪積痕。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	85% P261 PL32 東部床面
4	壺 土師器	A 22.7 B 34.5 C 9.3	突出した平底。胴部は最大径を中位にもち，偏平な球形を呈する。頸部はほぼ垂直に立ち上がり，口縁部は水平に近く皿状に開く複合口縁である。	外面－縦位の丁寧なヘラ磨き。頸部から口縁部にかけては，縦位の細かいハケ目整形。上端部は横ナデ。 内面－胴部は丁寧なナデ。頸部は横位のハケ目整形。口縁部は横位のハケ目整形。部分的に，その上をヘラナデ。	砂粒，パミス 浅黄橙色 良好	90% P237 PL32 北部床面
5	壺 土師器	A 18.6 B 22.2 C 7.1	有段口縁の壺。突出した平底。胴部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。頸部は垂直に立ち上がる。口縁部は頸部から水平に開き，外反する。	外面－胴部は斜位のヘラ磨き。頸部から口縁部にかけては，横位のヘラ磨き。 内面－胴部はハケ目整形。頸部から口縁部にかけては，細かいヘラ磨き。口縁部から胴部外面は，赤彩されている。	砂粒，パミス 明赤褐色 良好	95% P238 PL32 東部床面
第114図 6	壺 土師器	A 18.2 B 24.3 C 6.0	有段口縁の壺。平底。胴部は偏平な球形を呈し，最大径を中位にもつ。頸部は垂直に立ち上がる。口縁部は頸部から水平に開き，外反する。	外面－胴部から頸部にかけて縦位のヘラ磨き。口縁部は縦位のハケ目整形後横ナデ。底部に木葉痕。 内面－胴部はナデ。頸部・口縁部は剝離が著しい。頸部は横位のヘラ磨き。口縁部はヘラ磨きと横ナデ。 口縁部から，胴部にかけ赤彩されている。	砂粒，スコリア 赤褐色 普通	70% P240 PL32 東部床面
7	壺 土師器	A 18.5 B 23.9 C 5.5	突出した平底。 胴部は偏平な球形を呈し，最大径を下位にもつ。頸部は垂直に立ち上がり，口縁部は皿状に大きく開く。	外面－胴部から頸部にかけて縦位のヘラ磨き。口縁上端部は横ナデ。 内面－胴部下位はハケ目整形。中位に掻き取った痕跡が横位の太い櫛歯状に残る。口縁部は縦位の丁寧なヘラ磨き。	砂粒，スコリア 浅黄橙色	90% P239 PL33 東部床面

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第114図 8	壺 土師器	A 15.6 B 28.3 C 6.8	突出した平底。胴部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は外傾して開き，上端部でやや外反する。	外面－胴部から口縁部にかけ，斜位のハケ目整形後，丁寧なヘラ磨き。 内面－丁寧なナデ。	砂粒，パミスにぶい黄橙色 良好	80% P241 PL33 東部床面
9	壺 土師器	A 11.5 B 21.1 C 7.6	突出した平底。胴部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は外傾して立ち上がり，上位で外反して開く。	外面－胴部は斜位のハケ目整形後，丁寧な縦位のヘラ磨き。下半部にヘラ削りも見られる。口縁部は縦位の細かいヘラ磨き。上端部は横ナデ。 内面－横ナデ。口縁部は横位のヘラ磨き。	砂粒，パミスにぶい橙色 普通	95% P242 PL33 全面煤付着 東部床面
第115図 10	壺 土師器	A 14.9 B 25.3 C 8.0	突出した平底。胴部は外傾して立ち上がり，最大径を中位にもち球形を呈する。口縁部は複合口縁で，外傾して開く。	外面－頸部から胴部にかけて縦位のハケ目整形。口縁部は，磨耗が著しいが横位のハケ目整形後ヘラ磨き。 内面－底部は太いハケ目整形。胴部ヘラナデ。口縁部は横位のハケ目整形後，ヘラ磨き。 胴部内面を除き赤彩。	砂粒，パミス 赤色 普通	90% P243 PL33 東部床面
11	壺 土師器	A 14.1 B 19.7 C 7.4	突出した平底。胴部は外反して立ち上がり，最大径を下位にもつ偏平な球形を呈する。 口縁部は外傾して開き，折り返しの複合口縁である。	外面－磨耗が著しいがヘラナデ整形後，ヘラ磨きが加えられたと思われる。 内面－ハケ目整形，横ナデ。 口縁部，胴部外面に赤彩。	砂粒，パミス 明赤褐色 普通	90% P244 PL33 東部床面
12	壺 土師器	A[11.3] B 18.5 C 6.0	口縁部のほとんど，胴部の一部欠損。 突出した平底。胴部は偏平な球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は器厚を減じながら外反して開く。	外面－胴部はハケ目整形後ヘラ磨き。口縁部は縦位のヘラ磨き。 内面－胴部はハケ目整形。口縁部は横位のヘラ磨き。胴部内面を除き赤彩。 底部に木葉痕。	砂粒，礫 赤褐色 普通	80% P245 PL32 東部床面
13	壺 土師器	B(18.0) C 5.3	胴部の一部と口縁上半部欠損。突出した平底。胴部は球形を呈し，最大径を中位のやや下部にもつ。口縁部はほぼ垂直に立ち上がり，中位で外反して開く。	外面－胴部はヘラ磨き。口縁部はナデ。 内面－胴部はヘラナデ。口縁部はヘラ磨き。 胴部内面を除き赤彩。内面に輪積痕。	砂粒，パミスにぶい橙色 普通	80% P246 PL33 東部床面
14	壺 土師器	A 12.0 B 16.1 C 5.6	突出した平底。胴部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は外傾して立ち上がり，中位から僅かに外反して開く。	外面－胴部はハケ目整形。 内面－胴部は丁寧なヘラナデ。口縁部は横位の粗いハケ目整形。	砂粒 浅黄橙色 普通	90% P248 PL33 東部床面
15	壺 土師器	A 13.0 B 17.3 C 5.9	平底。胴部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は外傾して立ち上がり，中位から外反して開く。	外面－胴部はハケ目整形後，下半部は粗いヘラ磨き。上半部はヘラナデ。口縁部は縦位のハケ目整形後，上半部を横ナデ。 内面－胴部は底部からハケ目整形，他はヘラナデ。口縁部は横位の粗いハケ目整形。	砂粒，パミスにぶい橙色 普通	90% P249 PL33 東部床面
第116図 16	壺 土師器	A 12.5 B 15.0 C 4.5	突出した平底。胴部は球形を呈する。口縁部は外傾して大きく開く。	外面－胴部はハケ目整形後，ヘラ磨き。口縁部は縦位の丁寧なヘラ磨き。 内面－ナデ。底部にハケ目整形。	砂粒 浅黄橙色 普通	90% P250 PL34 東部床面

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第116図 17	壺 土師器	A 13.0 B 16.7 C 4.2	突出した小さい平底。 胴部は球形を呈する。 口縁部は外傾して大きく開く。	外面－胴部はハケ目整形後，ヘラ磨き。 口縁部は縦位の丁寧なヘラ磨き。 内面－胴部はナデ。口縁部は縦位の丁寧なヘラ磨き。	砂粒 にぶい橙色 普通	90% P251 PL34 東部床面
18	壺 土師器	A 11.7 B 15.6 C 5.8	平底。胴部はやや偏平な球形を呈する。 口縁部は外傾して開く。	外面－胴部はハケ目整形とヘラナデ。口縁部はハケ目整形。上端部は横ナデ。 内面－胴部はヘラナデ。口縁部は横位の粗いハケ目整形。内面に輪積痕。	砂粒，パミス 浅黄橙色 普通	95% P252 PL34 東部床面
19	壺 土師器	A 13.2 B 16.9 C 4.7	突出した平底。胴部は偏平な球形を呈し，最大径を下位にもつ。口縁部は大きく外反して開く。	外面－胴部は斜位のハケ目整形後，ヘラ磨き。中位にヘラナデ。下半部は磨耗。口縁部は，縦位の丁寧なヘラ磨き。上端部は横ナデ。 内面－底部はハケ目整形。胴部はナデ。口縁部は横位のハケ目整形後，縦位のヘラ磨き。	砂粒，スコリア 橙色 普通	90% P253 PL34 東部床面
20	壺 土師器	A 12.4 B 16.8 C 6.0	平底。胴部は球形を呈する。 口縁部は外傾して開く。	外面－胴部はハケ目整形とヘラナデ。口縁部はハケ目整形で，上端部は横ナデ。 内面－胴部はヘラナデ。 底部にハケ目整形。口縁部は斜位のハケ目整形。輪積痕。	砂粒，パミス にぶい褐色 普通	85% P254 PL34 東部床面
21	壺 土師器	A[12.5] B 15.9 C 4.8	突出した平底。胴部は球形を呈する。口縁部は外反して大きく開く。	外面－胴部はハケ目整形後，ヘラ磨き。口縁部は縦位の丁寧なヘラ磨き。 内面－胴部はナデ。口縁部はハケ目整形後，丁寧なヘラ磨き。	砂粒，パミス，スコリア 浅黄橙色 普通	85% P255 PL34 東部床面
22	壺 土師器	A[9.8] B 14.5 C 4.6	平底。胴部は偏平な球形を呈し，最大径を下位にもつ。口縁部はやや内彎して開く。	外面－胴部はヘラ磨き。口縁部は縦位のハケ目整形後，ヘラ磨き。 内面－胴部はナデ。口縁部はヘラ磨き。 磨耗が著しい。赤彩の痕跡あり。	砂粒，パミス，雲母 にぶい橙色 普通	60% P256 PL34 東部床面
第117図 23	壺 土師器	A 9.1 B 18.5 C 5.6	突出した平底。胴部は長胴形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部はほぼ垂直に近く開く。	外面－胴部はハケ目整形後，ヘラ磨き。口縁部は縦位のヘラナデ。 内面－胴部はナデ。口縁部は横ナデ。 磨耗が著しい。胴部，口縁部に輪積痕。	砂粒，パミス 浅黄橙色 不良	60% P257 PL34 東部床面
24	壺 土師器	B(28.6) C 9.5	大形の壺の底部から胴部にかけての破片。突出した平底。胴部は球形を呈する。	外面－斜位の粗いハケ目整形後，粗いヘラ磨き。下半部ほど磨きが密である。赤彩されている。 内面－全面が，ほとんど剝離している。底部に，ハケ目整形が一部残る。 底部に木葉痕。	砂粒，パミス にぶい橙色 普通	60% P258 PL34 北部床面
25	坩 土師器	A 15.0 B 10.7 C 2.9	平底。胴部は偏平な球形を呈する。口縁部は内彎気味に大きく開く。器厚が全体に薄い。	外面－胴から口縁部にかけ，横位の細かいヘラ磨き。 内面－胴部は丁寧なナデ。口縁部はヘラ磨き。	砂粒，パミス 浅黄橙色 普通	80% P267 PL34 東部床面

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第117図 26	坩 土師器	A 10.7 B 6.1	丸底で，中央部に指で押した程の窪みあり。胴部は埦状を呈し，最大径を上位にもつ。口縁部はやや内彎気味に外傾して開く複合口縁。	外面－胴から口縁部にかけ，横位のヘラ磨き。 内面－胴部はヘラナデ。口縁部はヘラ磨き。 胴部内面を除き赤彩。	砂粒，パミス 明赤褐色 普通	80% P268 PL34 南部覆土下層
27	高　坏 土師器	A 20.6 B 12.4 D 10.1 E 3.9	頸部は細く，ラッパ状に下方へ開き裾部へ至る。坏部は大きく内彎して開く。器厚は全体に薄手である。	外面－脚部は縦位の丁寧なヘラ磨き。坏部もヘラ磨き。 内面－脚部はナデ。坏部は縦位の丁寧なヘラ磨き。 赤彩されている。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	95% P269 PL34 南部覆土下層
28	高　坏 土師器	A 19.4 B(7.3)	脚部，口縁部の3分の1を欠損。 坏部は内彎して大きく開く。下位に僅かな稜をもつ。接合部は細身である。坏底部が，ソケット状に残る。器厚は全体に薄手である。	内外面とも磨耗が著しい。 外面－ハケ目整形後，ヘラ磨き。 内面－ヘラ磨き。 赤彩されている。	砂粒，パミス にぶい橙色 普通	40% P271 北部床面
29	高　坏 土師器	A[16.6] B(6.8)	坏部の破片。下位に稜をもち，器厚を減じながら内彎して立ち上がる。	内外面とも丁寧なヘラ磨き。 上端部は横ナデ。	砂粒 橙色 良好	30% P272 南部覆土下層
30	高　坏 土師器	A 22.6 B(8.7)	脚部欠損。坏部は大きく内彎して開く。頸部は細身である。器厚は全体に薄手である。	内外面とも磨耗が激しいが，ハケ目整形後，ヘラ磨きの痕跡がある。	砂粒，パミス，スコリア 橙色 普通	45% P270 東部床面
第118図 31	器　台 土師器	A 9.1 B 9.4 D[11.6] E 4.9	脚部の3分の2を欠損。脚部はラッパ状に下方へ開き，3孔が空けられている。器受部は外傾して立ち上がり，上位でやや内彎する。器受部の中央に，単孔がある。	外面－縦位のヘラ磨き。 内面－脚部はナデ。 器受部はハケ目整形後ナデ。	砂粒，パミス 橙色 普通	60% P273 PL34 東部床面
32	器　台 土師器	A 8.8 B(5.6) E(1.7)	裾部欠損。脚部はラッパ状に下方開き，3孔が空けられている。器受部は外傾して立ち上がり，中央部に単孔がある。	全体に磨耗が著しい。 外面－縦位のヘラ磨き。 内面－脚部はナデ。器受部は磨耗のため不明。	砂粒，パミス にぶい橙色 普通	70% P274 PL34 東部床面
33	器　台 土師器	A[8.4] B(6.3) E(2.5)	裾部，器受部の二分の一を欠損。脚部はラッパ状に下方へ開き，3孔が空けられている。器受部は外傾して立ち上がり，中央部に単孔がある。	外面－脚部は縦位のヘラナデ。器受部はハケ目整形後ナデ。 内面－脚部はナデ。器受部もナデ。	砂粒，パミス 橙色 普通	60% P275 PL34 東部床面
34	器　台 土師器	B(5.8) D 10.7 E 4.2	脚部。ラッパ状に下方へ開き，裾部へ至る。側面に3孔が空けられている。	外面－縦位のヘラ磨き。 内面－横位のヘラナデ。	砂粒，パミス 橙色 普通	40% P276 PL34 東部床面

第40号住居跡（第119図）

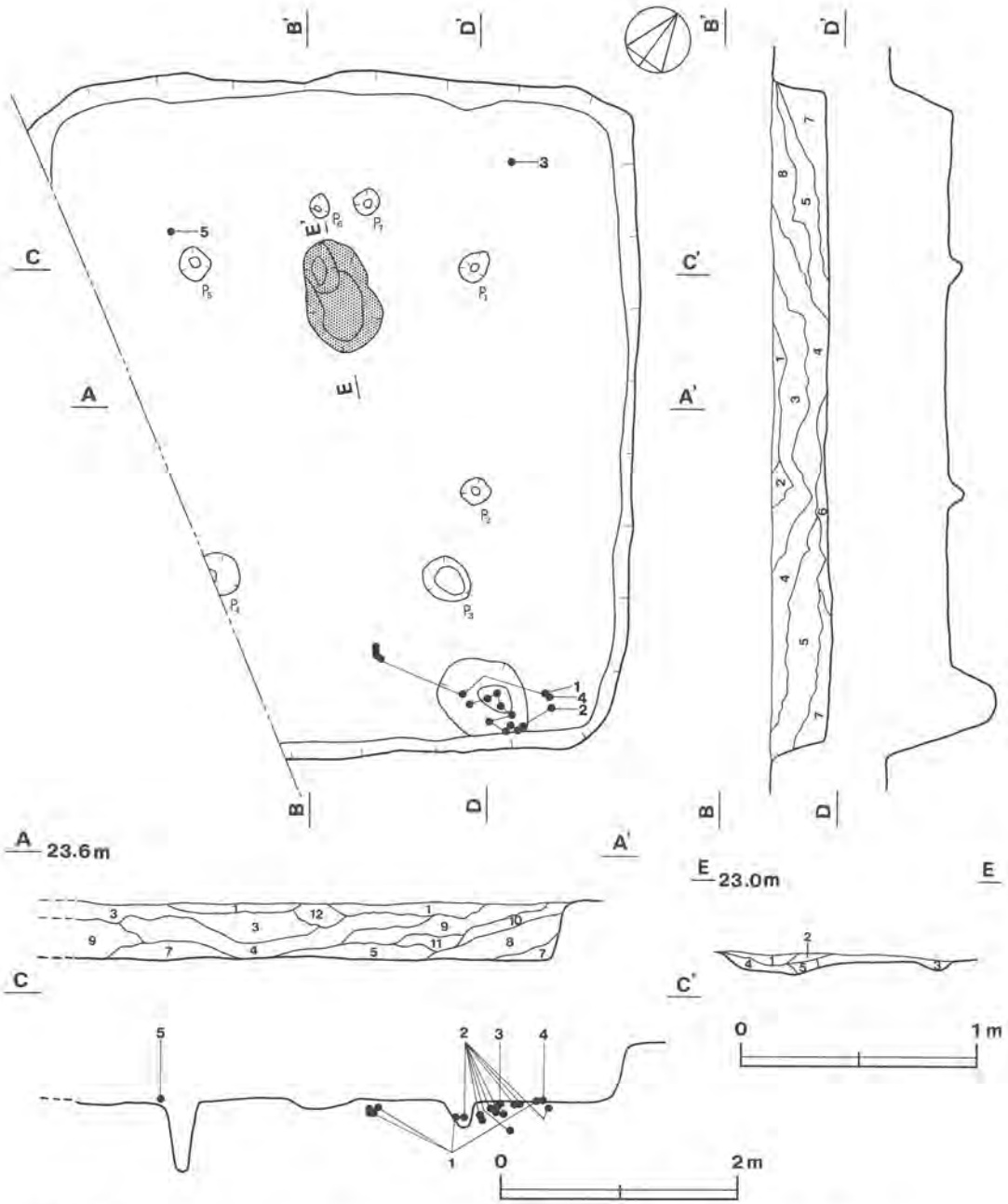
位置　調査区の東部。D19b9区を中心に確認された。**規模と平面形**　5.83×(5.12)mで，隅丸長方形を呈する。**長軸方向**　[N—36°—W]。**壁**　壁高48～54cmで，北東壁は垂直に，他は，外傾して立ち上がる。**床**　ほぼ，平坦である。炉周辺から貯蔵穴のある南東壁にかけては特に堅緻である。**ピット**　7か所。P_1～P_5は，径25～34cm，深さ16～61cmを測り，主柱穴と思われる。P_6・P_7は，径22～24cmで，深さ11～12cmと浅く，屋内施設に伴うピットと思われる。**貯蔵穴**　東コーナー付近の南東壁に付設され，長径82cm，短径65cmの楕円形を呈し，深さ42cm程掘り込まれている。断面形は，逆台形状を呈している。**炉**　床面中央部のやや北寄りに設けられ，長径97cm，短径57cmを測る楕円形を呈している。炉床は床面を8cm程掘り窪めて構築されている。焼土の遺存は少ない。**覆土**　自然堆積。全体的に軟質である。

遺物　貯蔵穴周辺から，集中して出土している。土師器片は，142片(内，赤彩9片)出土している。第120図1の壺，4の器台が東部床面から出土し，2の甑が貯蔵穴覆土から出土している。P_5付近の床面からは5のミニチュア土器が出土し，北部の覆土中からも6・7のミニチュア土器が出土している。北コーナー付近の床面からは，3の6孔をもつ高坏の脚部が横位で出土している。

所見　本跡は，南西壁と南コーナーが調査区域外になっている。

第40号住居跡出土土器観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第120図 1	壺 土師器	A[10.7] B 17.8 C 4.0	突出した平底。胴部は外傾して立ち上がり，中位から上位にかけて大きく内彎して頸部へ至る。口縁部は外傾して立ち上がり上端部で，僅かに内彎する。	外面－胴下半部は剥離が著しい。胴・口縁部とも縦位のヘラ磨き。 内面－胴部はヘラナデ。口縁部は丁寧な縦位のヘラ磨き。	砂粒，パミスにぶい褐色普通	90% P288 PL35 東部床面
2	甑 土師器	A 17.1 B 19.1 C 6.6	胴部の3分の2が欠損。平底で中央に単孔を有する。胴部は長胴形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は外傾して開く。口唇部は厚味があり，平坦である。	外面－胴部は斜位のハケ目整形を重ねている。口縁部は横位のハケ目整形。口唇部はナデで角をつくる。 内面－胴部は丁寧なヘラナデ。口縁部はナデ。	砂粒，パミス浅黄橙色普通	70% P289 PL35 東部貯蔵穴覆土
3	高坏 土師器	B(6.8) D 11.2 E 4.8	坏部欠損。脚部はラッパ状に下方へ開き，裾部へ至る。上位・下位に各3孔がある。	外面－縦位の丁寧なヘラ磨き。赤彩の痕跡あり。 内面－横位の丁寧なヘラ磨き。	砂粒，パミスにぶい橙色普通	50% P292 PL35 北部床面
4	器台 土師器	B(7.0) D [9.7] E 4.5	脚部の破片。脚部はラッパ状に下方へ開き，裾部へ至る。上位に3孔がある。	外面－縦位の丁寧なヘラ磨き。 内面－ハケ目整形。器受部にヘラ磨き。	砂粒，雲母橙色良好	30% P293 東部床面
5	ミニチュア土器 土師器	A 8.7 B 3.4 C 5.2	鉢形で，平底の中央に凸部があり不安定である。体部は外傾して開く。	外面－粗いヘラナデ。底部に赤彩の痕跡。 内面－指頭によるナデ整形後，口縁部も含め一部ヘラナデ。輪積痕が明瞭に残る	砂粒，パミス，スコリアにぶい橙色普通	98% P290 PL35 西部床面



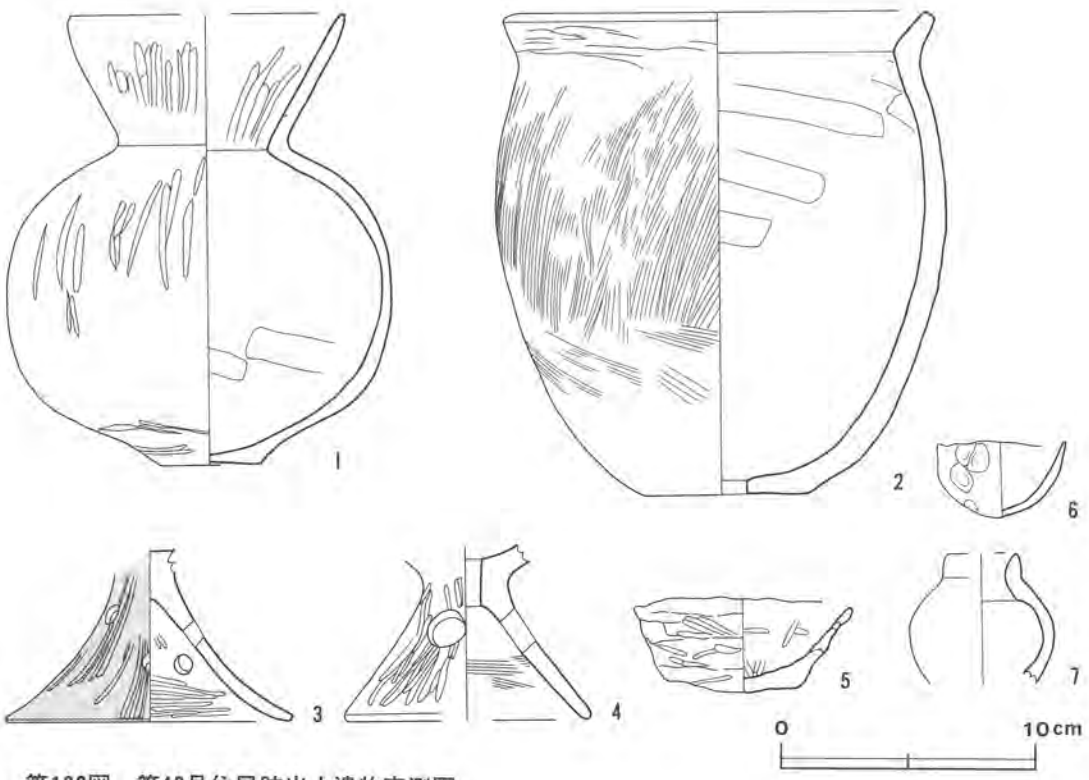
土層解説

1	黒	褐	色	ローム小ブロック少量，軟質
2	褐		色	ローム粒子少量
3	暗	褐	色	ローム粒子・ローム中ブロック少量，締まり有り
4	褐		色	ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量
5	褐		色	ローム粒子・ローム小・中ブロック中量，締まり有り
6	極暗褐		色	炭化粒子・炭化中ブロック中量，軟質
7	黒	褐	色	ローム小・中ブロック少量，締まり有り
8	黒	褐	色	ローム粒子・ローム小・中・大ブロック・少量，軟質
9	暗	褐	色	ローム粒子・ローム小・中ブロック少量，軟質
10	褐		色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，軟質
11	灰	褐	色	ローム小ブロック少量，軟質
12	明	褐	色	ローム粒子多量，ローム中・大ブロック少量，締まり無し

炉土層解説

1	暗	褐	色	焼土粒子少量，締まり無し
2	褐		色	ローム粒子少量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
3	褐		色	ローム粒子・焼土粒子中量
4	褐		色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，軟質
5	暗赤褐		色	ローム粒子・焼土粒子少量，焼土大ブロック少量

第119図　第40号住居跡実測図

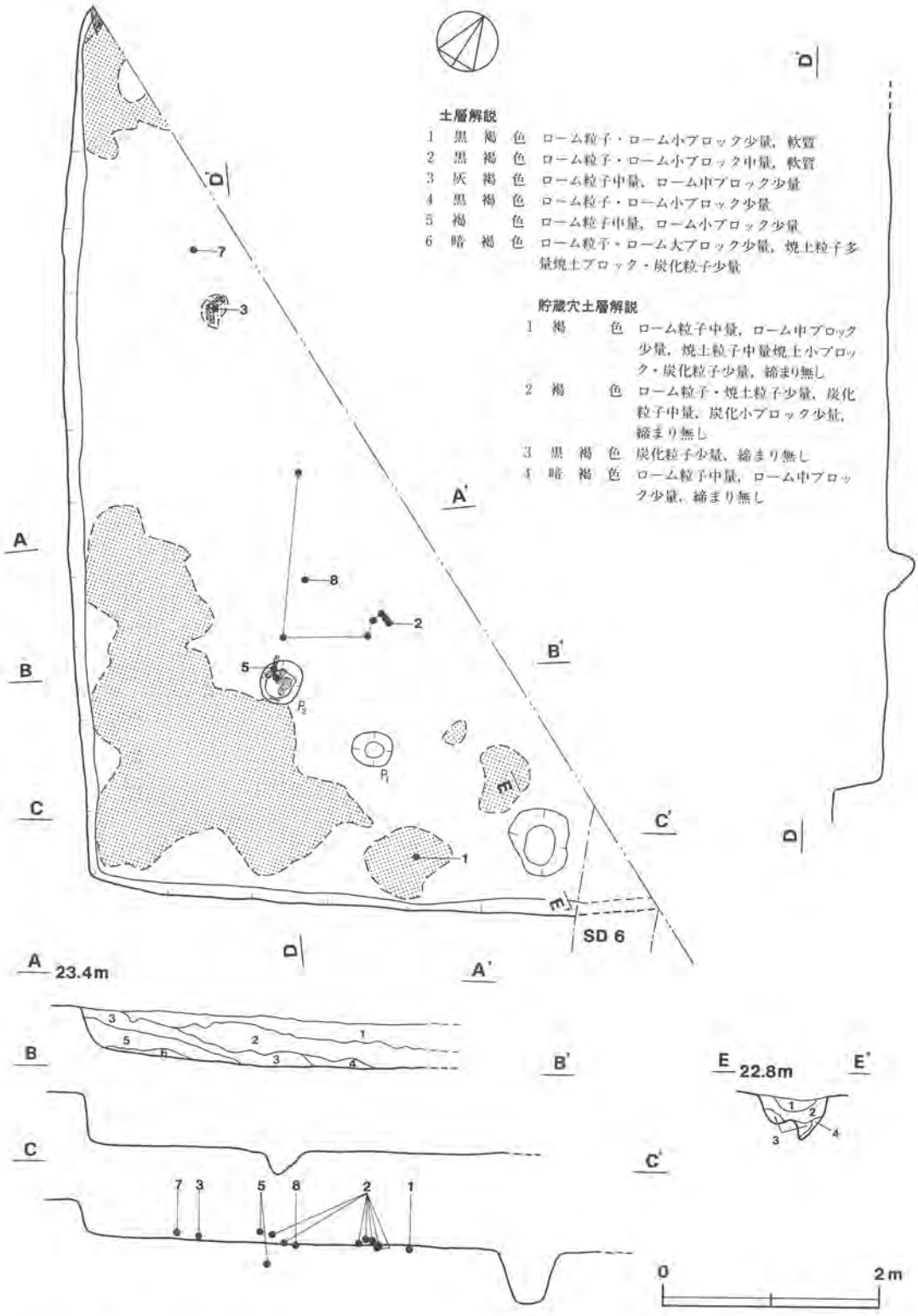


第120図　第40号住居跡出土遺物実測図

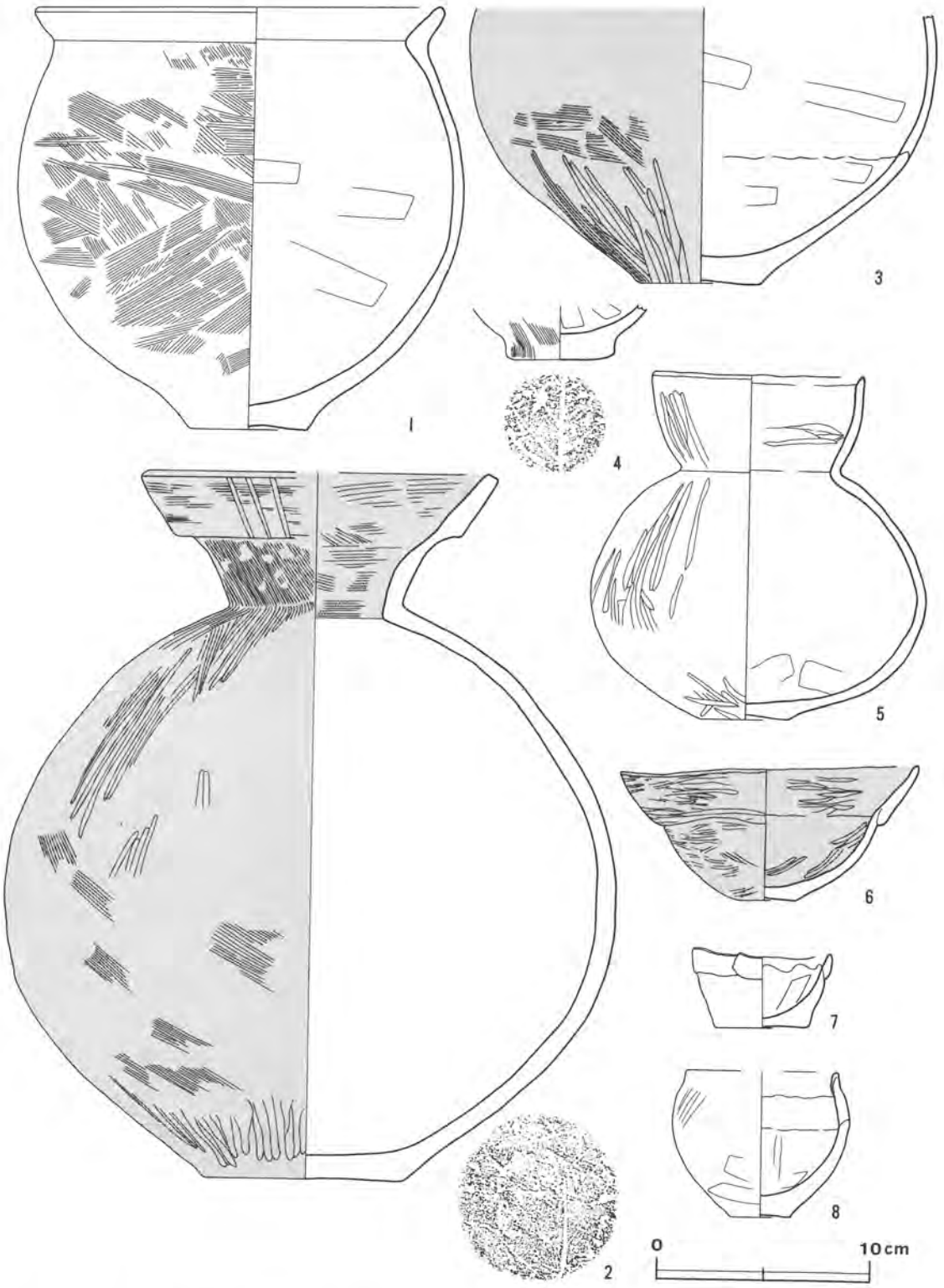
図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第120図 6	ミニチュア土器 土師器	A　5.1 B　3.0	坏形で丸底。指頭圧痕が外面に残る。 口縁部を指頭により押えている。	内外面とも指頭によるナデ。 手捏ね。	砂粒，パミスにぶい橙色 普通	90% P291 PL35 北部覆土上層
7	ミニチュア土器 土師器	A[2.8] B(5.2)	壺形の胴部から口縁部にかけての破片。胴部は球形を呈する。口縁部は押えられ，口唇部が尖る。	内外面とも指頭によるナデ。 手捏ね。	砂粒 橙色 普通	20% P294 北部覆土下層

第41号住居跡（第121図）

位置　調査区の東部。C19j₁区を中心に確認された。**重複関係**　第6号溝と重複しているが，本跡の方が古い。**規模と平面形**　8.17×(4.45)mで，方形を呈するものと推定される。**長軸方向**　[N－35°－W]。**壁**　壁高28～46cmで，垂直に立ち上がり良好な壁面である。**床**　南西壁際は，やや軟らかであるが，他は平坦で硬い。**ピット**　2か所。P_1は，径38cm，深さ23cm，P_2は，径42cm，深さ25cmである。本跡の規模からみると，細い主柱穴であるが，P_2の中には柱材と思われる炭化材が立位で遺存している。P_1は，その規模と位置等から考えて出入口施設に伴うものと思われる。**貯蔵穴**　南東壁の東コーナー寄りに設けられ，長径63cm，短径52cmの不整楕円形を呈している。深さは，床面を50cm程掘り下げて造られており，断面形は，東側がやや深い逆台



第121図　第41号住居跡実測図



第122図　第41号住居跡出土遺物実測図

形状を呈している。**炉**　確認できない。**覆土**　自然堆積。各層に焼土粒子を含み，南・西コーナー部の床面には，焼土が厚く遺存している。

遺物　土師器片が，全体に散在して325片(内，赤彩55片)出土している。南部の貯蔵穴近くの床面からは，第122図1の甕，P_2の上面からは5の壺が出土している。中央部の床面には，2の複合口縁の赤彩された壺の破片が一括して出土している。西部の床面直上からは，3の壺，7のミニチュア土器が逆位で出土している。8のミニチュア土器は，中央部床面から正位で出土している。第159図26の磨石は，西部覆土下層から出土している。

所見　本跡は，北部が調査区域外で調査できなかったが，焼土の遺存状況から焼失家屋と考えられる。

第41号住居跡出土土器観察表

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第122図 1	甕 土師器	A 19.3 B 20.2 C 5.5	突出した平底。胴部は球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部は頸部から「く」の字状に開く。	外面－胴部から口縁部にかけて，ハケ目整形を重ねている。上端部は横ナデ。 内面－胴部はヘラナデ。口縁部は横位のハケ目整形。	砂粒，礫，パミス 褐色 普通	55% P299 PL35 外面に炭化物付着，南部床面
2	壺 土師器	A[16.8] B 33.6 C 9.4	底部から口縁部までの破片。突出した平底。胴部は球形を呈し，下半部に最大径をもつ。口縁部は複合口縁で，外傾して立ち上がり水平に開いた後，再び外傾して開く。口唇部は水平に整えられている。	外面－胴部は斜位のハケ目整形後，丁寧な縦位のヘラ磨き。口縁部は，頸部に明瞭な斜位のハケ目整形。上位は剝離が著しく不明瞭であるが，2か所に3本の縦位の沈線が認められ，間は横位のハケ目整形。 内面－胴部は剝離が著しく不明。口縁部は明瞭な横位のハケ目整形。 胴部内面を除き赤彩。底部に木葉痕。	砂粒，スコリア 赤褐色 普通	40% P300 PL35 南部床面
3	壺 土師器	B(12.9) C 5.6	胴下半部の破片。平底。胴部は外傾して立ち上がり中位から膨らみをもつ。	外面－下位は細かいヘラ磨き。中位は横位のハケ目整形その上を僅かにヘラ磨き。赤彩されている。 内面－底部にハケ目整形。ほとんどがヘラナデ。輪積痕。	砂粒，パミス 浅黄橙色 普通	20% P303 西部床面直上
4	壺 土師器	B(2.6) C 5.2	底部。突出した平底。胴部は，内彎気味に立ち上がる。	外面－粗いハケ目整形。 内面－ヘラナデ。 底部に木葉痕。	砂粒，スコリア にぶい褐色 普通	10% P308 南部覆土上層
5	壺 土師器	A 10.0 B 16.4 C 4.2	僅かに上げ底。胴部は球形を呈し，最大径を下位にもつ。口縁部はほぼ垂直に近く立ち上がり，僅かに内彎する。内面の上端部に僅かな稜をもつ。	外面－胴部から口縁部にかけ，縦位のヘラ磨き。 内面－胴部はヘラナデ。 口縁部は横位のヘラ磨き。	砂粒，長石 にぶい橙色 普通	90% P301 PL35 中央部床面
6	坩 土師器	A 14.1 B 6.6 C 2.8	若干上げ底の小さな底部。胴部は内彎して立ち上がる。口縁部は外面への貼り付けで，内彎して大きく開く。	内外面とも細かいヘラ磨き整形後，赤彩されている。	砂粒，パミス 暗赤色 普通	60% P318 PL35 西部覆土下層

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第122図 7	ミニチュア土器 土師器	A 6.7 B 3.9 C 4.4	鉢形で平底。胴部は外傾して立ち上がる。口縁部は貼り付けの複合口縁である。	外面－胴部は丁寧なナデ。 口縁部に指頭圧痕が残る。 内面－ヘラナデ。 手捏ね。	砂粒，スコリア にぶい橙色 普通	100% P317 PL35 西部床面直上
8	ミニチュア土器 土師器	A [7.1] B 6.9 C 2.8	甕形で底部から口縁部までの破片。平底。胴部は外傾して立ち上がり，最大径を上位にもつ。口縁部は，上端部がやや外反した後，内側に折り返している。	外面－ハケ目整形後，上位はナデ。 下位はヘラナデ。口縁部は横ナデ。 内面－ヘラナデ。輪積痕。	砂粒，スコリア にぶい褐色 普通	50% P313 PL35 中央部床面

第42号住居跡（第123図）

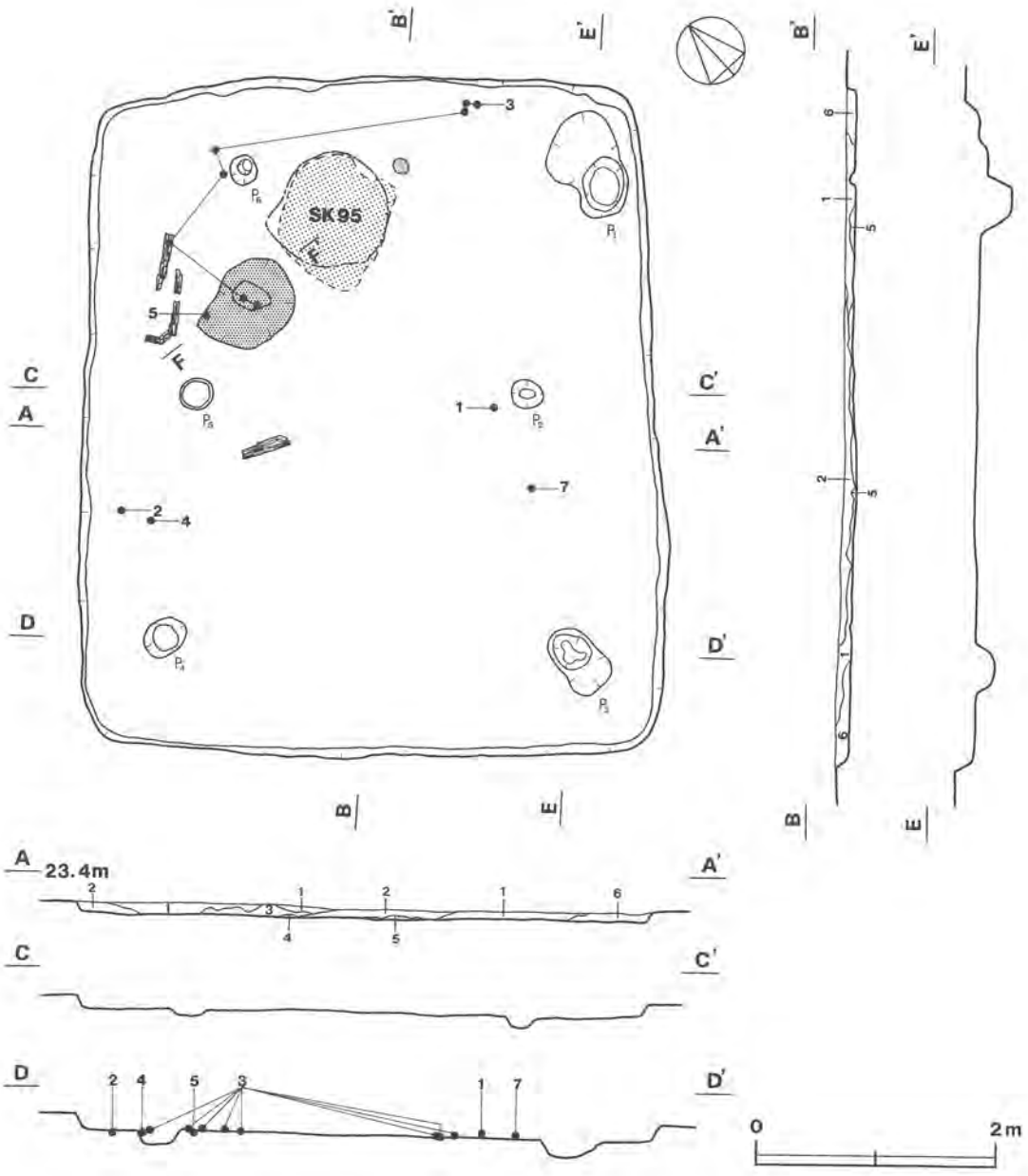
位置　調査区の東部。D20c$_2$区を中心に確認された。**重複関係**　第95号土坑と重複しているが，本跡の方が新しい。**規模と平面形**　5.70×4.72mで，隅丸長方形を呈する。**長軸方向**　N－41°－E。**壁**　壁高10～13cmと低く，外傾して立ち上がる。**床**　床面中央部は，硬く平坦であるが，北コーナー付近は軟らかである。第95号土坑上面には，焼土が広がっており，その土層断面には炉からの炭化物や焼土が投棄されている様子が確認される。**ピット**　6か所。位置から考えると，P$_1$・P$_3$・P$_4$・P$_6$が主柱穴と考えられる。しかし，規模は径24～46cm，深さ14～26cmと小規模である。P$_2$・P$_5$についても径27～30cm，深さ5～10cmであり，補助柱穴と思われる。**炉**　床面の北コーナー近くに設けられ，長径85cm，短径65cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は，床面を12cm程皿状に掘り窪めて構築され，焼土の遺存は少ない。**覆土**　自然堆積。覆土は薄く，床面直上は，締まりが有る。

遺物　北コーナー周辺を中心に，土師器片が72片(内，赤彩12片)散在して出土している。北西壁の南コーナー寄りからは，第124図2の壺，4の坩が並んで各々斜位と正位で出土し，2点とも赤彩されている。北部の床面からは，3の壺の破片が散在して，床面直上からは5の高坏が炉の周囲に逆位で出土している。南部の床面からは，7のミニチュア土器が正位で，中央部床面直上からは1の台付甕の台部が横位で，そして，南コーナー付近からは，第40図27の磨石が出土している。

所見　炉の東側から検出されている炭化材と焼土は，検出範囲が100×80cm程の限られた範囲であることから，家屋の焼失によるものではなく，炉からかき出されたものと考えられる。

第42号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第124図 1	台付甕 土師器	B(7.5) D[8.9]	台部の破片。台部は「ハ」の字状に下方へ開き，裾部へ至る。胴部は外傾して立ち上がる。	外面－台部はハケ目整形。 胴部はハケ目整形後，粗いナデ。 内面－台部はヘラナデとナデ。胴部はハケ目整形。	砂粒，パミス 浅黄橙色 普通	10% P324 PL35 中央部床面直上



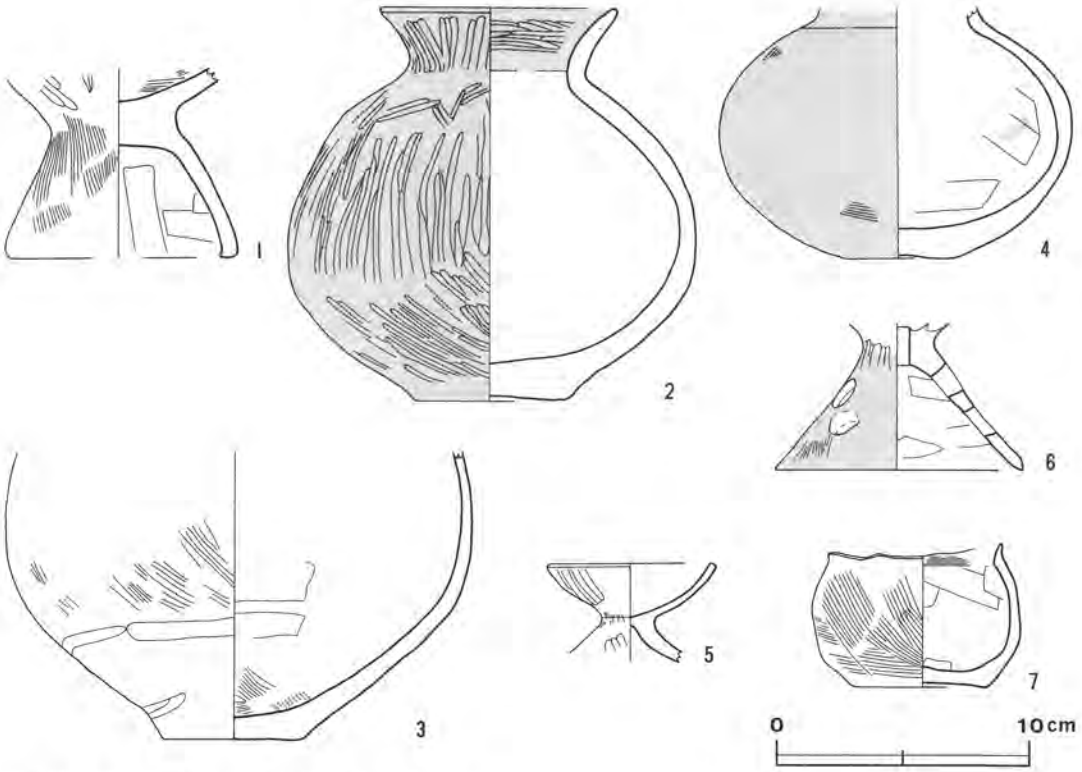
土層解説

1 暗 褐 色 焼土粒子少量，締まり有り
2 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小・大ブロック少量，粘性有り
3 暗 褐 色 炭化粒子中量，軟質
4 極暗褐色 炭化材多量
5 褐 色 ローム中・大ブロック中量，締まり有り
6 黒 褐 色 ローム粒子・ローム大ブロック中量，硬質，締まり有り

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土小ブロック多量
2 にぶい赤褐色 焼土小ブロック少量，軟質
3 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量，締まり有り

第123図　第42号住居跡実測図



第124図　第42号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第124図 2	壺 土師器	A 9.4 B 15.6 C 6.0	胴・口縁部の一部欠損。突出した平底で，中心部に円形の窪みをもつ。胴部は球形を呈し，最大径を下位にもつ。口縁部は「く」の字状を呈し，上位で外反する。器厚は厚い。	外面－胴部，口縁部とも全面がヘラ磨き。 内面－胴部はナデ。口縁部は横位のヘラ磨き。 胴部内面を除き赤彩されている。	砂粒，パミス 赤色 良好	90% P319 PL35 西部床面
3	壺 土師器	B(11.4) C 5.6	胴上半部欠損。突出した平底。胴部は外傾して立ち上がり，中位から内彎する。	外面－ハケ目整形後，粗いヘラ磨きが加えられている。 内面－ハケ目整形後，ヘラナデ。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	40% P321 PL36 北部床面
4	坩 土師器	B(9.9) C 4.2	口縁部欠損。平底。胴部は偏平な球形を呈し，最大径を中位にもつ。	外面－ハケ目整形後，ヘラ磨きされていたと思われる。赤彩されている。 内面－ヘラナデ。 内外面ともに磨耗が著しい。	砂粒，スコリア 橙色 普通	80% P320 PL36 西部床面
5	高坏 土師器	A 6.7 B(4.0)	脚部欠損。小形。坏部は皿状を呈する。	外面－脚部上位は縦位のヘラ磨き。坏部も丁寧な縦位のヘラ磨き。接合部をハケ目整形。 内面－坏部は丁寧なナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	60% P327 PL36 北部床面直上
6	器台 土師器	B(5.8) D 9.9 E 4.1	脚部。ラッパ状に下方へ開き裾部へ至る。側面に6孔が不規則に空けられている。	外面－ハケ目整形後，ヘラ磨き。赤彩されていた痕跡が確認できる。 内面－ヘラナデ。 内外面ともに磨耗が著しい。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	40% P329 北部覆土上層

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第124図 7	ミニチュア土器 土師器	A 7.0 B 5.8 C 5.2	壺形。底面は僅かに上げ底気味。胴部は偏平な球形を呈し，最大径を中位にもつ。短頸で，口縁部は外反気味に立ち上がり，口唇部が尖る。	外面－胴部は斜位のハケ目整形。 口縁部は指頭で押えられている。 内面－胴部はヘラナデ。 口縁部は横位のハケ目整形。	砂粒 浅黄橙色 普通	95% P326 PL36 南部床面

第43号住居跡（第125図）

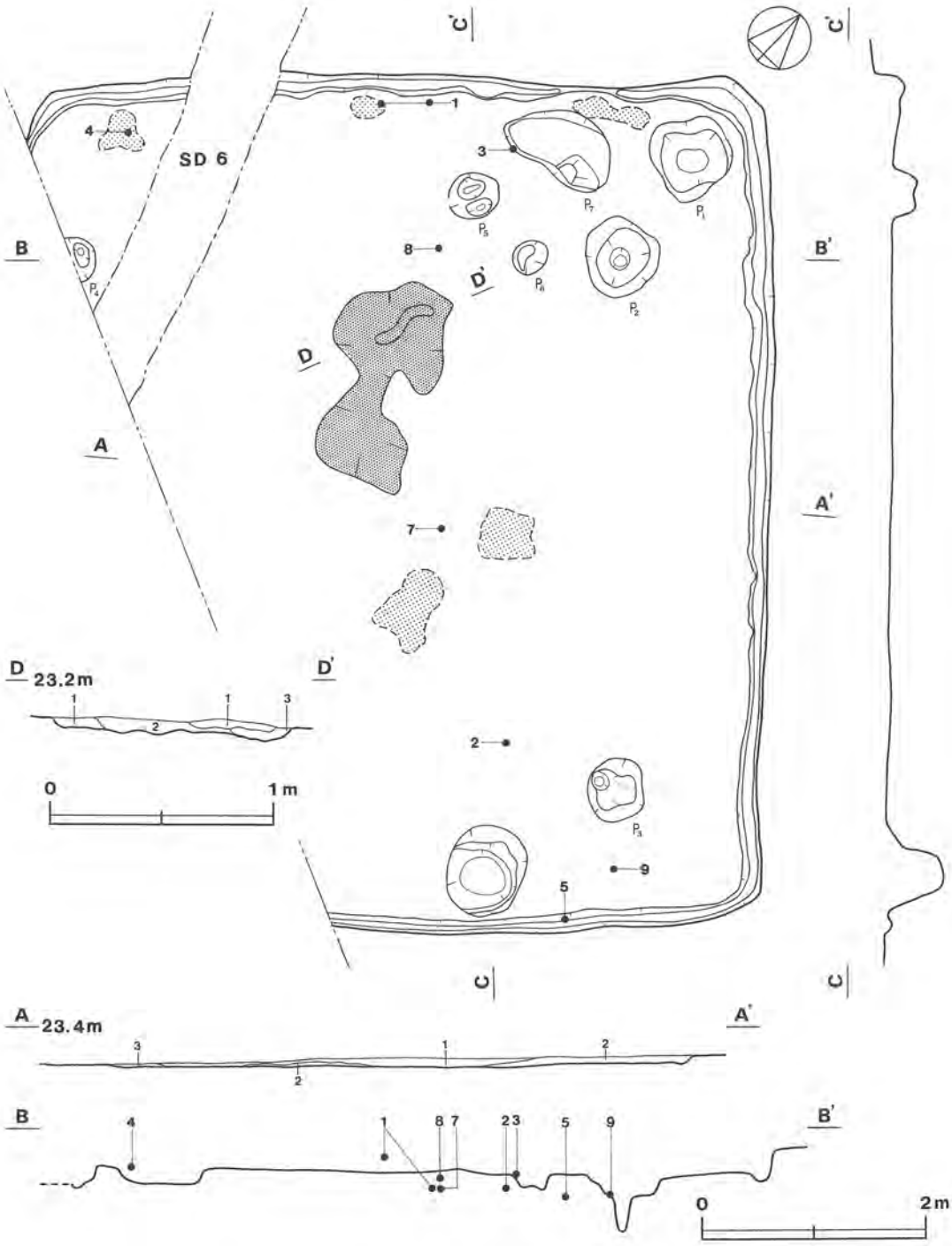
位置　調査区の東部。D20d5区を中心に確認された。**重複関係**　第6号溝と重複しているが，本跡の方が古い。**規模と平面形**　7.71×6.64mで，隅丸方形を呈する。**長軸方向**　N－41°－W。**壁**　壁高4～23cmで，東壁は崩壊しており，4cm程しか残っていない。**壁溝**　幅12～21cm，深さ4～6cmを測り，断面形はU字状を呈し，壁際を周回している。**床**　西側が高く，東へ向かって僅かに傾斜している。炉周辺は硬い。**ピット**　7か所。P_2・P_3・P_4は，径41～74cm，深さ15～51cmを測り，その配置等から主柱穴と思われる。P_2は二段に掘り込まれている。P_6は，径34cm，深さ14cmで補助柱穴と思われる。P_1・P_7については，その形状が不定形で，性格は不明である。**貯蔵穴**　南壁中央部の南東コーナー寄りに設けられ，長径82cm，短径68cmを測る不整円形を呈している。断面形は逆台形で，床面を54cm程掘り込んでいる。**炉**　中央部に設けられた，地床炉である。長径183cm，短径104cmを測り，不定形を呈している。床面を6cm程掘り窪めて構築され，西側の炉壁に焼土が遺存している。**覆土**　自然堆積。

遺物　土師器片が，北西壁際を中心に181片(内，赤彩89片)出土しており，赤彩された破片が多いことが特徴である。北西壁中央部付近の床面からは，第126図1の大形の台付甕の下半部や3の赤彩された坩が正位で，西コーナーの床面からは，4の坩の破片が一括で出土している。東部床面からは，2の壺が横位で，5の高坏が逆位で，9の高坏が正位で出土している。北部の覆土下層からは，3の坩と一対になる10の赤彩された器台が出土している。

所見　本跡の南側は，調査区域外で調査できなかった。赤彩された遺物や高坏等が多く出土しており，祭祀と深い結びつきがある遺構と思われる。

第43号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第126図 1	台付甕 土師器	B(15.6) D[14.8] E 5.2	胴上半部，台部の3分の2欠損。 台部は外反気味に開き裾部へ至る。胴部は内彎気味に立ち上がる。	外面－台部はハケ目整形後ナデ。 胴部は全面にハケ目整形を重ねる。 内面－台部，胴部ともヘラナデ。	砂粒，パミスにぶい橙色 普通	40% P330　PL36 底部内面に炭化物付着 北部床面
2	壺 土師器	A[7.8] B(8.8)	小形の壺。胴部から口縁部にかけての破片。 胴部は球形を呈する。口縁部は外傾して立ち上がる。	外面－胴部はハケ目整形後ナデ。 口縁部は横ナデ。 内面－胴部はヘラナデ。 口縁部は丁寧な横ナデ。	砂粒，礫，パミスにぶい橙色 普通	50% P332 東部床面



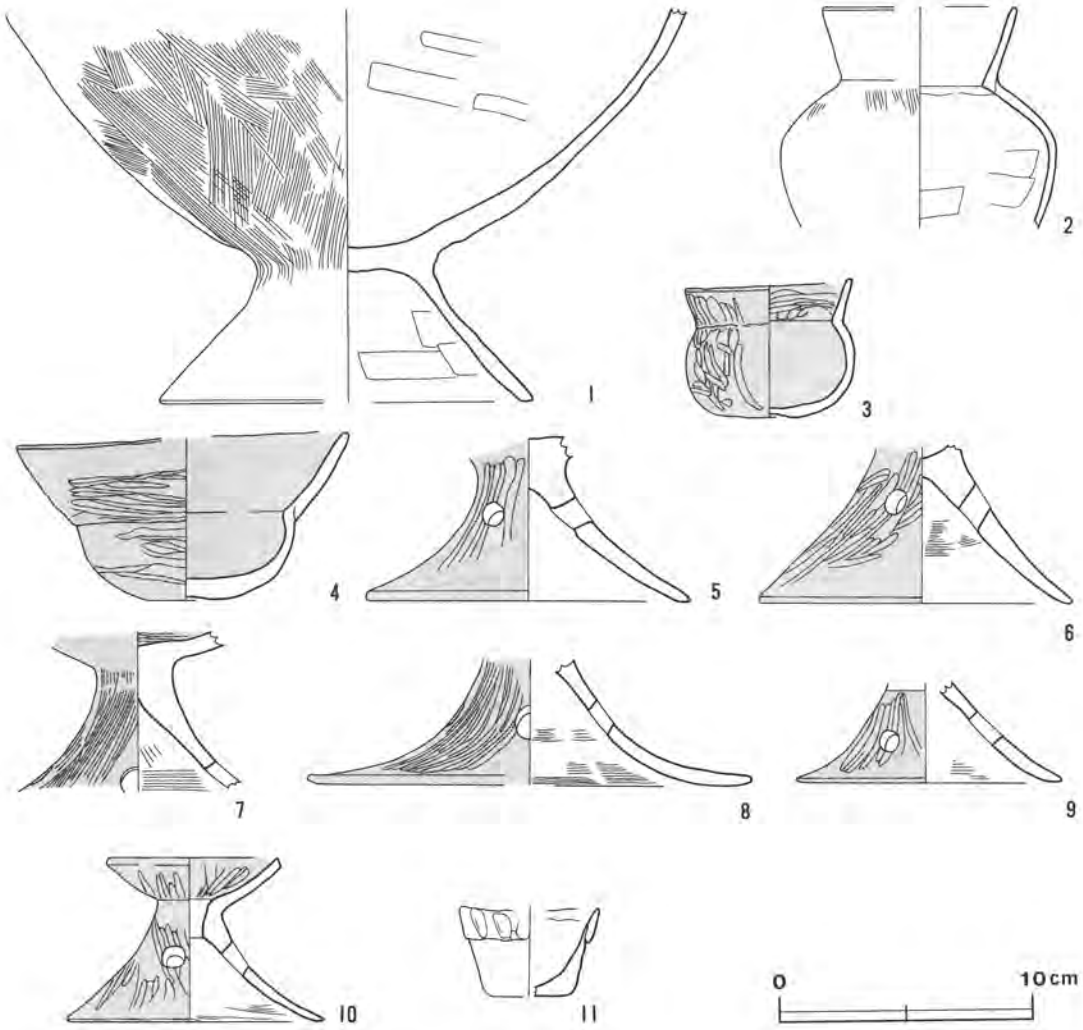
土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子少量，締まり有り
2 黒 褐 色 ローム粒子中量，軟質
3 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，締まり有り

炉土層解説

1 赤 褐 色 焼土粒子・炭化粒子少量，粘性有り
2 暗赤褐色 焼土塊
3 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

第125図　第43号住居跡実測図



第126図　第43号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第126図 3	坩 土師器	A 6.7 B 5.5 C 1.6	小形の坩。丸底で，底部中央に指頭程の窪みがある。胴部は偏平な球形を呈し，最大径を中位にもつ。口縁部はほぼ垂直に立ち上がり，上端部でやや外反する口唇部を平坦に押えている。	外面－ヘラ磨き。 内面－胴部はナデ。 口縁部は横位の細かいヘラ磨き。 内外面とも赤彩。	砂粒，パミス 赤色 普通	100% P331 PL36 北部床面
4	坩 土師器	A[13.2] B 6.7 C 3.0	口縁部の3分の1を欠損。平底。胴部は内彎して立ち上がり，最大径を上位にもつ。口縁部はわずかに内彎して大きく開く。	外面－横位のヘラ磨き。 内面－丁寧なナデ。 内外面とも赤彩。	砂粒 赤橙色 普通	80% P333 PL36 西部床面
5	高坏 土師器	B(6.5) D 12.8 E 4.5	坏部欠損。 脚部はラッパ状に下方へ開き，裾部で大きく広がる。3孔が空けられている。	外面－ハケ目整形後，縦位のヘラ磨き。 赤彩されている。 内面－磨耗が著しく不明。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	50% P337 PL36 東部床面

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第126図 6	高　坏 土師器	B(6.3) D 12.4 E 5.0	脚部の破片。 ラッパ状に下方へ開き，裾部へ至る。側面に3孔が空けられている。	外面－ハケ目整形後，ヘラ磨き。 赤彩の痕跡を残す。 内面－ハケ目整形。	砂粒 浅黄橙色 良好	40% P338 北部覆土下層
7	高　坏 土師器	B(6.4) E(3.6)	脚部の破片。 脚部はラッパ状に下方へ開く。3孔が確認できる。坏部は皿状を呈する。	外面－脚部は丁寧な縦位のハケ目整形。坏底部はヘラ磨き。 内面－脚部はハケ目整形。坏部はヘラ磨き。 脚部内面を除き赤彩。	砂粒，パミス 赤色 普通	50% P339 中央部床面
8	高　坏 土師器	E(5.2) D[17.6]	脚部の破片。 ラッパ状に下方へ開き，中位から裾部へかけ水平に近く大きく広がる。側面に4孔が空けられている。	外面－縦位の丁寧なヘラ磨き。 赤彩されている。 内面－横位の丁寧なハケ目整形。	砂粒，スコリア 赤褐色 普通	30% P341 北部床面直上
9	高　坏 土師器	E(4.0) D 10.6	脚部。ラッパ状に下方へ開き，裾部へ至る。側面に3孔が空けられている。	外面－縦位のヘラ磨き。赤彩されている。 内面－ハケ目整形後ナデ。	砂粒 赤色 普通	50% P342 東部床面
10	器　台 土師器	A 6.9 B 6.6 D 10.2 E 3.3	脚部の一部欠損。脚部はラッパ状に開き裾部へ至る。2孔が確認できる。坏部は皿状に立ち上がり，上端は外側に傾斜し，平坦である。中央に単孔がある。	外面－脚，坏部ともヘラ磨き。 内面－脚部はハケ目整形後ナデ。 坏部は縦位のヘラ磨き。 脚部内面を除き赤彩されている。	砂粒 赤色 普通	80% P340 PL36 北部覆土下層
11	ミニチュア土器 土師器	A[5.6] B 3.5 C[3.0]	鉢形。底部から口縁部にかけての破片。複合口縁をもつ。平底。体部は外傾して立ち上がる。	内外面とも指頭によるナデ。指頭圧痕が残る。	砂粒，パミス 淡橙色 普通	25% P343 北部覆土下層

第44号住居跡（第127図）

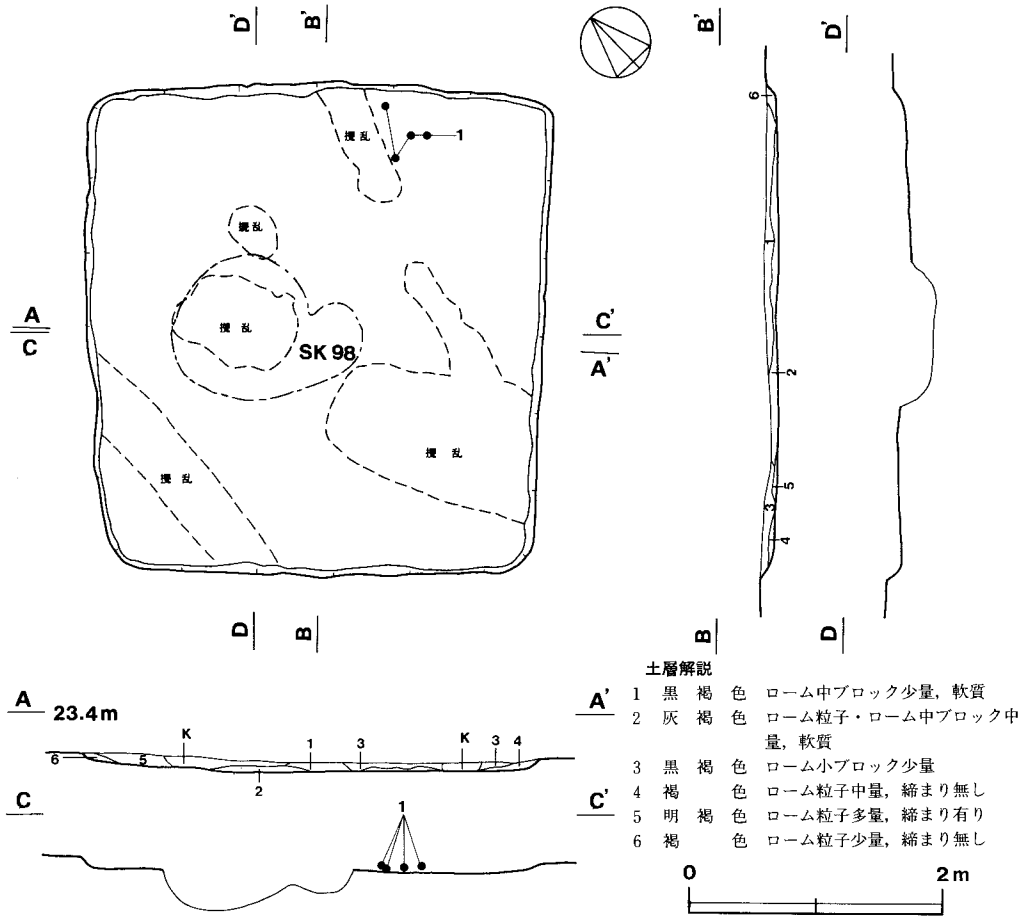
位置　調査区の東部。D20f8区を中心に確認された。**重複関係**　第98号土坑と重複しているが，本跡の方が古い。**規模と平面形**　3.92×3.63mで，方形を呈する。**長軸方向**　N－46°－E。**壁**　壁高4～12cmと低く，緩やかに外傾して立ち上がる。**床**　遺存状態が悪く，残っている中央部も軟らかである。**炉**　床面の中央部に検出され，長径95cm，短径67cmで楕円形を呈し，炉の北側には，長径46cm，短径34cmの範囲に焼土が遺存している。炉床の掘り込みは，されていない。**覆土**　自然堆積。各層とも締まりがない。

遺物　主に，各壁際に土師器の細片が55片(内，赤彩27片)散在して出土している。東コーナー付近の床面からは，接合された第128図1の高坏の脚部が出土している。

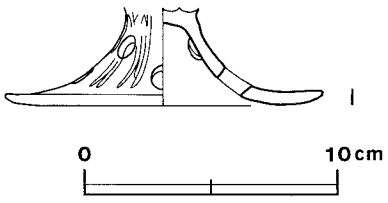
所見　壁は，ほとんどが崩壊し，床面にも撹乱が入り遺存状態が悪い。

第44号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第128図 1	高　坏 土師器	B(3.8) D 12.6 E 3.2	脚部。器高が低く，ラッパ状に下方へ開き中位から裾部にかけ水平に近く広がる。中位に4孔，上位に4孔が，それぞれ対称の位置に空けられている。	外面－縦位のヘラ磨き。 内面－ハケ目整形後ナデ。 内外面とも磨耗が著しい。	砂粒 浅黄橙色 普通	45% P345 東部床面



第127図　第44号住居跡実測図

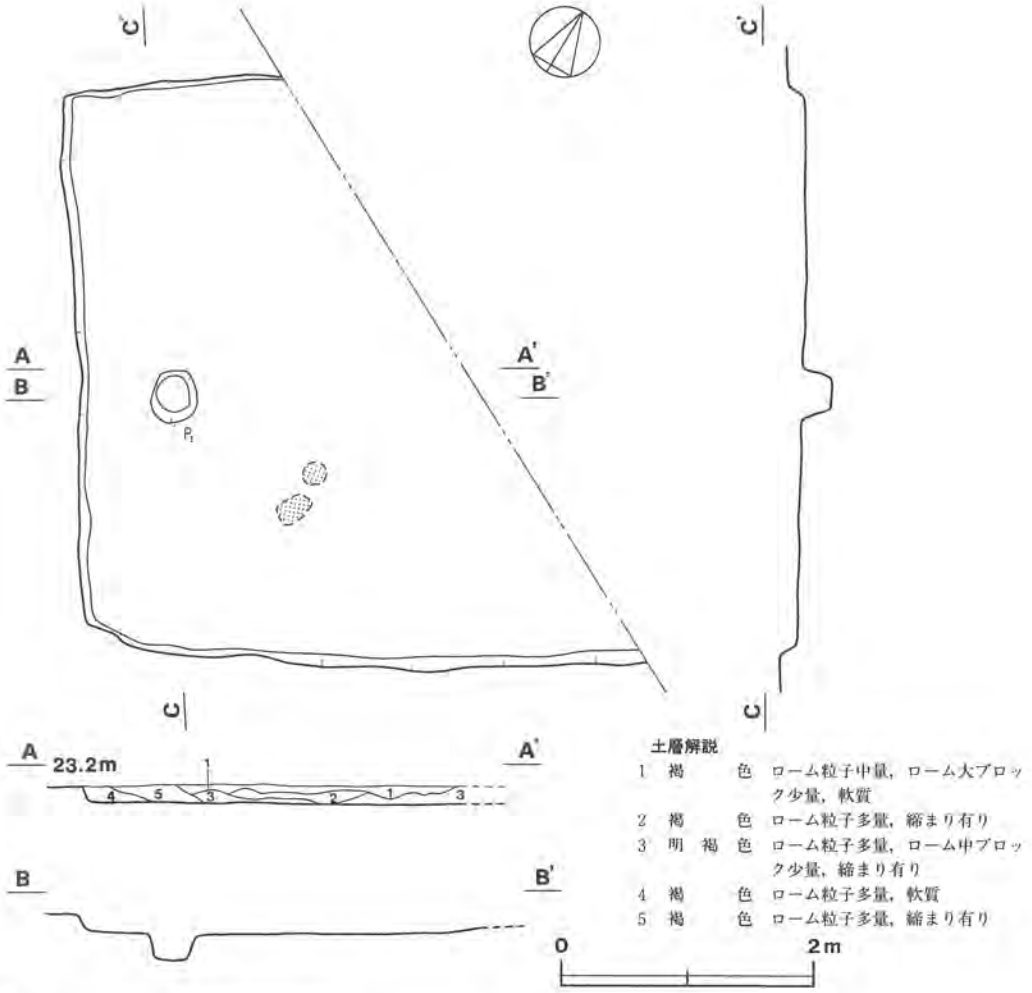


第128図　第44号住居跡出土遺物実測図

第45号住居跡（第129図）

位置　調査区の東部。D21h3区を中心に確認された。**規模と平面形**　4.65×(4.33)mの方形を呈すると推定される。**長軸方向**　[N—31°—W]。　**壁**　壁高12～13cmで，緩やかな傾斜で立ち上がる。**床**　平坦で，全体的に明褐色のソフトローム土で軟らかである。**ピット**　1か所。径46cm，深さ22cmを測る。北東壁のほぼ中央部に検出され，主柱穴と思われる。**覆土**　自然堆積。締まりは有るが，床面と同じ明褐色のソフトローム土が下層に混在している。**遺物**　覆土から，土師器片が3片出土しただけである。

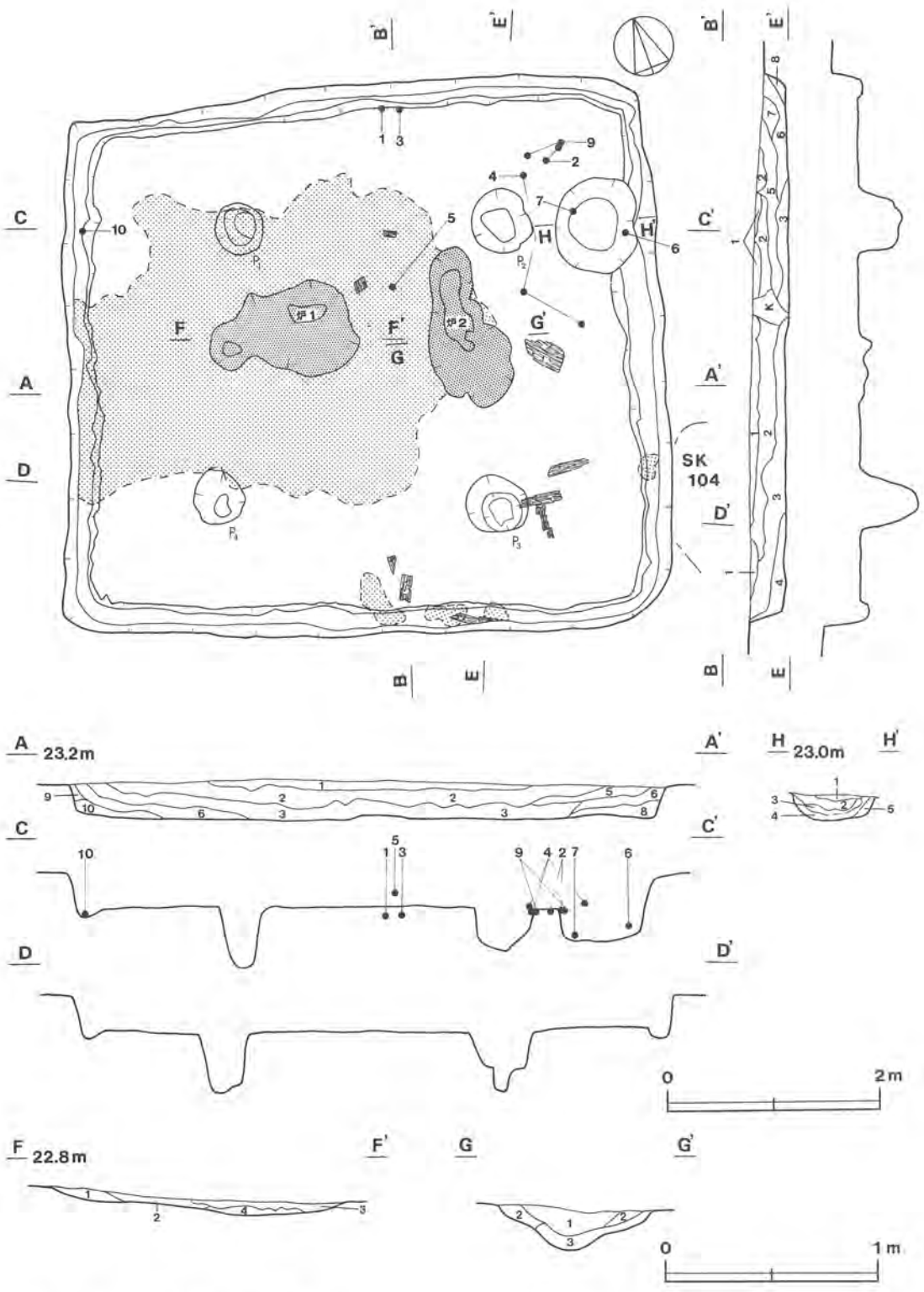
所見　本跡は，南側が調査区域外で住居跡の全体を調査することができなかった。



第129図　第45号住居跡実測図

第46号住居跡（第130図）

位置　調査区の東部。D21g4区を中心に確認された。**重複関係**　第104号土坑と重複しているが，本跡の方が新しい。**規模と平面形**　5.62×5.21mで，隅丸方形を呈する。**長軸方向**　N－75°－W。**壁**　壁高24～43cmで，外傾して立ち上がる。**壁溝**　幅24～43cm，深さ7～13cmを測り，壁に沿って全周する。断面形はU字状を呈する。**床**　炉周辺を中心に，硬くて良好な床が検出されている。炉周辺が僅かに高い。**ピット**　4か所。P_1～P_4は，径48～61cm，深さ42～58cmを測り，形状・位置から考えて，P_1・P_2・P_3・P_4とも主柱穴と思われる。**貯蔵穴**　東コーナー付近の壁下に付設され，長径93cm，短径78cmを測り平面形は不整円形を呈する。床面を33cm程掘り下げ，断面形は逆台形状を呈する。**炉**　2か所。炉1は，床面中央部に設けられ，長径135cm，短径86cmの不定形を呈し，炉床は12cm程皿状に掘り窪められている。覆土中の焼土粒子も多



第130図　第46号住居跡実測図

土層解説

1 黒　　色　ローム粒子微量，締まり有り
2 黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，締まり有り
3 黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，締まり有り
4 極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子中量，炭化大ブロック少量
5 黒 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量
6 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量
7 極暗褐色　焼土粒子微量
8 褐　　色　ローム粒子中量，軟質
9 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量
10 暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子多量

炉1土層解説

1 暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土中ブロック少量，締まり有り
2 極暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子中量，焼土中ブロック・炭化粒子少量
3 黒 褐 色　焼土粒子・焼土小ブロック中量，焼土中ブロック・炭化粒子・炭化小ブロック・礫少量
4 暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・焼土小ブロック中量，炭化粒子少量

炉2土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子少量，炭化小ブロック中量
2 褐　　色　ローム粒子多量，軟質
3 明 褐 色　ローム粒子多量，締まり有り

貯蔵穴土層解説

1 極暗褐色　焼土粒子・炭化粒子中量，締まり無し
2 褐　　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
3 暗 褐 色　ローム粒子少量，締まり有り
4 にぶい橙色　ローム粒子多量，ローム大ブロック少量，締まり有り
5 褐　　色　ローム粒子中量

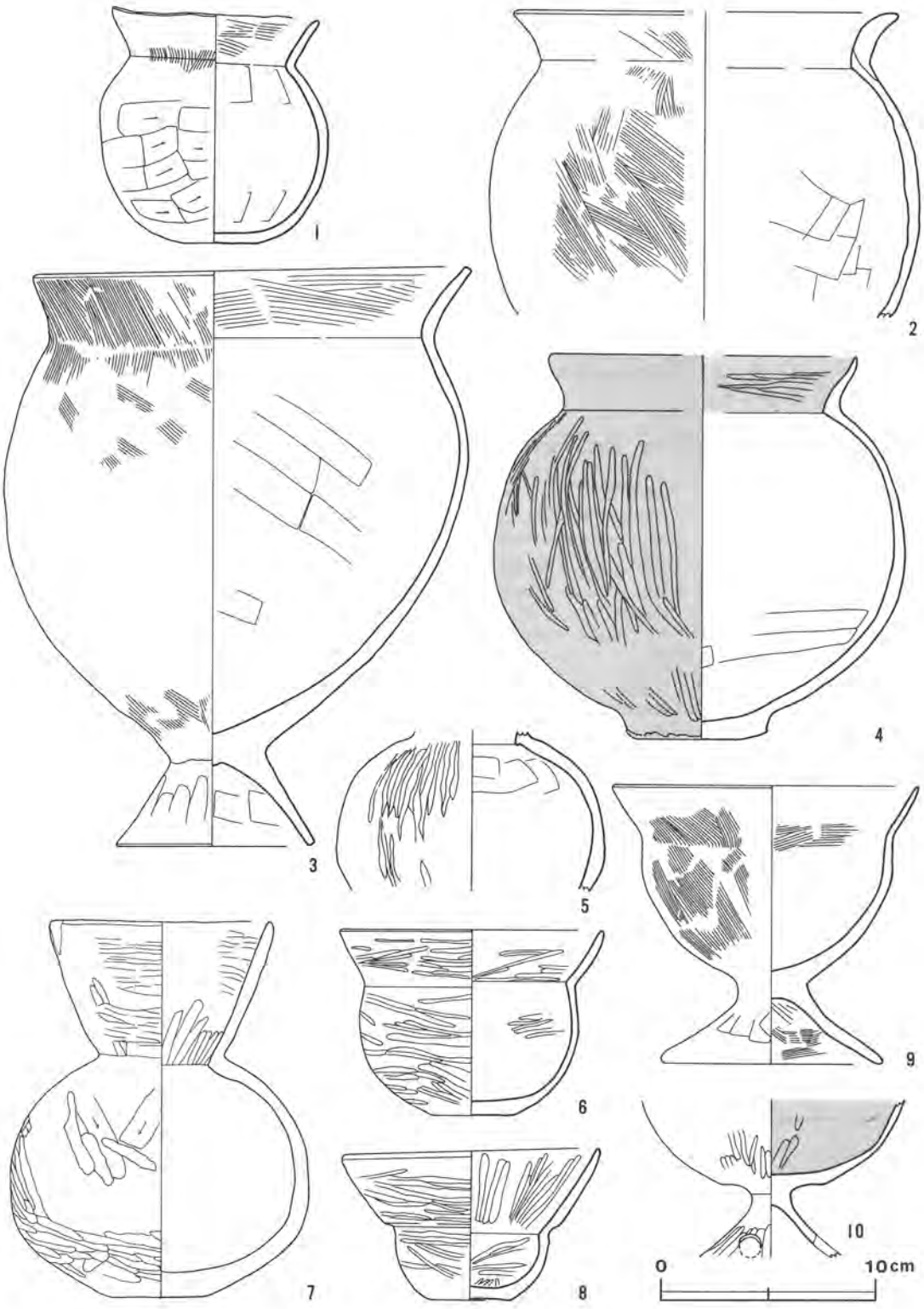
く，炉床にはロームが赤変硬化して遺存している。炉2は，床面の中央部東寄りに設けられ，長径154cm，短径73cm，深さ22cmを測り不定形を呈する。覆土から炭化粒子を多く検出するものの，焼土は少ない。**覆土**　自然堆積。黒褐色土・暗褐色土が中心で，炭化粒子・焼土粒子を多く含む。

遺物　東コーナーの貯蔵穴付近に集中して出土している。土師器片は，238片(内，赤彩58片)出土している。北壁中央部付近からは，壁に寄りかかるように第131図3の台付甕と1の小形甕が並んで出土し，貯蔵穴付近の床面からは7の坩が横位で出土し，北東部の床面直上からは，4の赤彩された壺と9の高坏が出土している。貯蔵穴の覆土からは，6の赤彩された坩が横位で出土している。

所見　本跡は，焼土粒子の広がり，焼土・炭化材の遺存の様子から焼失家屋と思われる。焼失時期については，完形に近い遺物が比較的多いことや，床面直上から出土していること等から，住居を使用している時に火災に遭遇したことが想定される。

第46号住居跡出土土器観察表

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第131図 1	甕 土師器	A 9.4 B 11.2 C 3.9	小形。底部は小さな平坦部をもつが，胴部との境界は不明瞭。胴部は球形を呈する。口縁部は頸部から「く」の字状に開く。	外面－底部から胴部下位にかけナデ。胴部中位は粗いヘラ削り。頸部に縦位のハケ目整形。口縁部は，横ナデ。 内面－胴部は横位のヘラ削り。口縁部は横位のハケ目整形。	砂粒，パミス にぶい橙色 普通	100% P346 PL36 北部床面
2	甕 土師器	A[18.1] B(14.3)	胴部から口縁部にかけての破片。 胴部は球形を呈する。口縁部は外反して開く。	外面－胴部はハケ目整形。口縁部はハケ目整形後横ナデ。 内面－胴部はヘラ削り。口縁部は横ナデ。	砂粒，パミス にぶい橙色 普通	40% P349 外面煤付着 北東部床面 直上



第131図　第46号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第131図 3	台付甕 土師器	A 20.5 B 27.2 C 9.0	台部は「ハ」の字状に下方へ開き，裾部へ至る。胴部が歪む。外傾して立ち上がり最大径を上位にもつ。口縁部は外傾して開く。口唇部は平坦に押えられている。	外面－台部は縦位のヘラナデ。胴部はハケ目整形後，粗いナデ。口縁部は斜位のハケ目整形。 内面－台，胴部はヘラナデ。口縁部は太いハケ目整形。	砂粒，スコリア にぶい橙色 普通	90% P350 PL36 外面煤付着 北部床面
4	壺 土師器	A[14.3] B 17.9 C 6.5	胴部，口縁部の一部を欠損。小さく不安定な突出した平底。胴部は球形を呈する。頸部に締まりがない。口縁部は外傾して立ち上がり，内面に凹線を巡らし，端部は内彎気味に開く。	外面－胴部は縦位のヘラ磨き。口縁部は横ナデ。 内面－胴部は丁寧なヘラナデ。口縁部は横位のヘラ磨き。上位は横ナデ。 胴部内面を除き赤彩。	砂粒 赤色 普通	60% P348 PL36 北東部床面 直上
5	壺 土師器	B(7.4)	胴部の破片。 胴部は球形を呈し，最大径は下半部にあったと思われる。	外面－縦位のヘラ磨き。 内面－丁寧なヘラナデ。	砂粒 にぶい橙色 良好	20% P355 中央部覆土 中層
6	坩 土師器	A 12.4 B 8.7 C 4.0	平底。胴部は外傾して立ち上がり，中位からわずかに内彎する。 口縁部は内彎気味に大きく開く。全体に薄手である。	外面－胴部から口縁部にかけ，粗い横位のヘラ磨き。 内面－胴部から口縁部にかけ，横位のヘラ磨き。上端部は横ナデ。胴部は剝離が目立つ。	砂粒，パミス 赤色 普通	95% P347 PL36 北東部貯蔵穴覆土
7	坩 土師器	A 10.5 B 17.6 C 4.4	平底。胴部は偏平な球形を呈し，最大径を下位にもつ。口縁部は外傾して立ち上がり，上端部でやや内彎して開く。	外面－胴部はヘラ磨き。口縁部はハケ目整形後，ヘラ磨き。 内面－胴部は底部をヘラナデ。他はナデ。 口縁部は縦位のヘラ磨き。	砂粒，パミス 浅黄橙色 良好	95% P358 PL36 北東部床面
8	坩 土師器	A 12.1 B 7.2 C 3.8	口縁部の一部欠損。平底。胴部は内彎して立ち上がり頸部へ至る。口縁部は内彎気味に大きく開く。	外面－胴部から口縁部にかけて横位のハケ目整形後，ヘラ磨き。 内面－胴部はヘラ磨き。 口縁部も縦位の丁寧なヘラ磨き。	砂粒，パミス スコリア にぶい橙色 良好	70% P353 PL36 南東部覆土 下層
9	高坏 土師器	A 14.3 B 13.0 D 10.3 E 3.0	脚部は，ラッパ状に開き裾部へ至る。坏部は鉢状を呈し，最大径を上位にもつ。口縁部は外傾して大きく開く。器厚は薄手。	外面－脚部は縦位のハケ目整形後ナデ。接合部に縦位のハケ目整形。胴から口縁部にかけ斜位の細かいハケ目整形。上端部は横ナデ。 内面－脚部はハケ目整形。胴部は剝離が著しく不明。口縁部は横位のハケ目整形後，横ナデ。	砂粒，スコリア にぶい赤褐色 普通	80% P352 PL36 底部に煤付着 北東部床面 直上
10	高坏 土師器	B(7.4)	脚部と胴部の破片。 脚部はラッパ状に下方へ開く。3孔が確認できる。坏部は，横に開いた後内彎して立ち上がる。坏下半部の外側に稜をもつ。	外面－脚部，坏部とも縦位のヘラ磨き。 内面－脚部はナデ。坏部はヘラ磨き。坏部内面に赤彩の痕跡。	砂粒 灰褐色 良好	30% P354 北西部覆土 下層

2　土坑

この項では，当遺跡から検出されている土坑の内，古墳時代前期に比定できる2基の土坑について解説する。

第93号土坑（第132図）

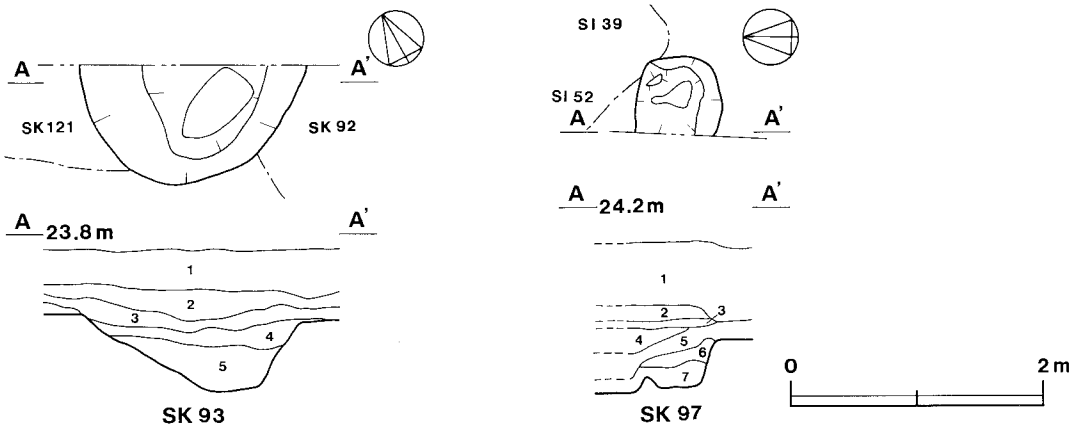
位置　調査区の中央部。C19f4区を中心に確認された。**重複関係**　東部で第92号土坑，西部で第121号土坑と重複するが，両遺構よりも本跡の方が新しい。**規模と形状**　長径1.78m，短径0.93mを測り，平面形は不整円形を呈する。椀状を呈し，深さは0.72mを測る。**長径方向**　N－60°－W。**壁**　中位に段をもち，緩やかな傾斜で立ち上がる。**底面**　平坦である。**覆土**　自然堆積。黒色土・黒褐色土で軟質である。

遺物　中央部の覆土から土師器片が11片出土している。第133図1の台付甕の破片と2の器台の破片は，東壁際の覆土下層から出土している。

所見　本跡は，出土遺物の特徴から判断して，古墳時代前期に比定される土坑と考えられる。

第97号土坑（第132図）

位置　調査区の東部。C19a8区を中心に確認された。**重複関係**　第39・52号住居跡と重複しているが，本跡は両遺構よりも新しい。**規模と形状**　長径(0.68)m，短径(0.61)mを測り，平面形は，不整楕円形を呈するものと推定される。断面形はU字状で，深さは0.8mを測る。**長径方向**



土層解説

1　黒　色　ローム粒子少量
2　黒　褐　色　ローム粒子・ローム中ブロック少量，粘性
3　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック少量，粘性，締まり有り
4　褐　色　ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量，締まり有り，硬質
5　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，軟質

土層解説

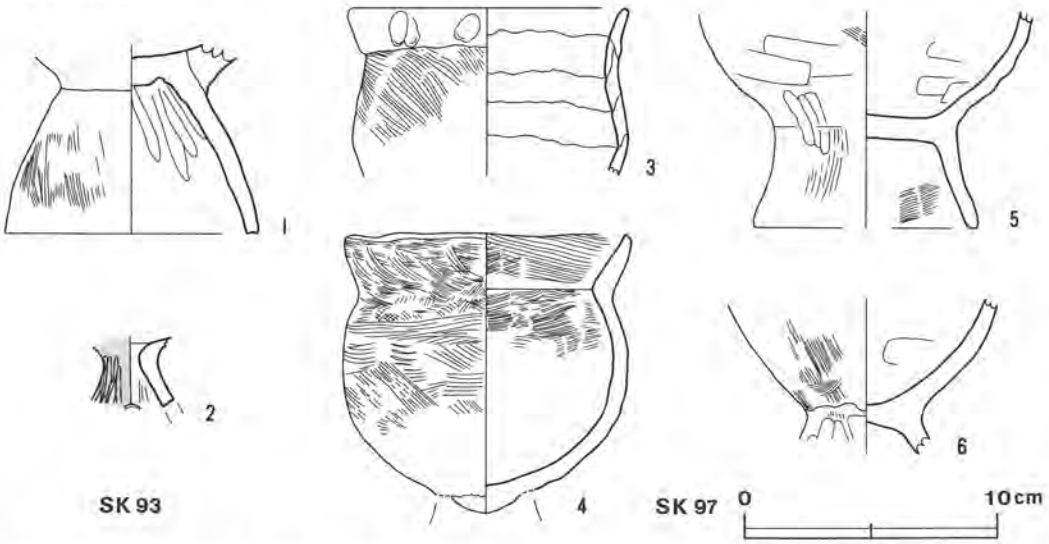
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，軟質
2　明　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，締まり有り
4　明　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック中量，締まり有り
5　橙　色　ローム粒子多量，軟質

第132図　第93・97号土坑実測図(古墳)

N－0°。**壁**　緩やかに外傾して立ち上がる。**底面**　凹凸があり硬い。**覆土**　自然堆積。締まりの有る褐色土・黒褐色土である。

遺物　北東壁付近の覆土から土師器片11片が一括して出土している。第133図３は，小形甕の口縁部から胴部にかけての破片である。４～６は，３個体分の小形台付甕の破片であり，一括して出土している。

所見　小規模の土坑であるが，小形甕，小形の台付甕が３個体出土していることから，祭祀との結び付きが推察される。本跡は，出土遺物の特徴から判断して古墳時代前期に比定される土坑と考えられる。



第133図　第93・97号土坑出土遺物実測図

第93・97号土坑出土土器観察表（１・２ SK93，３～６ SK97）

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第133図 1	台付甕 土師器	B　7.5 D 10.1 E　6.2	台部。接合部から「ハ」の字状に開き，裾部でやや内彎する。脚底部に一条の沈線が周回する。	外面－縦位の細かいハケ目整形。 内面－縦位のヘラナデと横ナデで，丁寧に整形。	砂粒 橙色 普通	10% P17 覆土下層
2	器台 土師器	B(2.9)	坏部・脚部ともに欠損。頸部の破片。 脚部は外反気味に下向する。	外面－頸部は，縦位の丁寧なヘラ磨き。赤彩されている。 内面－脚部は縦位のハケ目整形。	砂粒 明赤褐色 普通	5% P18 覆土下層
3	甕 土師器	A 11.2 B(6.6)	小形の甕。胴下半部欠損。胴部は若干の膨らみをもち頸部へ至る。口縁部はほぼ垂直に開く。口縁部外面に指頭圧痕。	外面－胴部は丁寧な斜位のハケ目整形。口縁部はナデ。 内面－胴部はナデ。 口縁部はハケ目整形後ナデ。輪積痕。	砂粒，パミス 浅黄橙色 普通	20% P385 PL36 中央部底面
4	台付甕 土師器	A 11.5 B(11.1)	小形台付甕。台部欠損。接合部は丸味を帯びて突出する。胴部は無花果状を呈する。口縁部は外傾して立ち上がり，上位で僅かに内彎する。	外面－胴部は粗いハケ目整形を重ねている。口縁部は細かいハケ目整形を重ねている。 内面－胴部はハケ目整形後ナデ。口縁部は横位の明瞭なハケ目整形。	砂粒，パミス 灰褐色 普通	50% P384 PL36 中央部底面

図版番号	器　種	法量(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備　考
第133図 5	台付甕 土師器	B(8.6) D[8.9]	小形台付甕の胴部から台部にかけての破片。台部は「ハ」の字状に下方へ開き，下位でやや膨らみをもって裾部へ至る。胴部は内彎して開く。底部が平坦。	外面－台部は縦位のハケ目整形後ナデ。胴部は粗いヘラナデとハケ目整形。 内面－台部は横位の明瞭なハケ目整形。胴部はヘラナデ。	砂粒，スコリア 浅黄橙色 普通	10% P387 中央部底面
6	台付甕 土師器	B(6.1)	小形台付甕。胴下半部から台部にかけての破片。台部は「ハ」の字状に下方へ開く。胴部は内彎して開く。台部に胴部を覆せている。	外面－台部は粗いヘラナデ。胴部は粗いナデ整形後，細かいハケ目整形。 内面－台部はヘラナデ。胴部は丁寧なヘラナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	20% P386 煤付着 中央部底面

第4節　その他の遺構と遺物

1　竪穴遺構

当調査区から検出された竪穴遺構は，4軒である。調査の段階では，それぞれの竪穴住居跡として調査したが，整理の段階で遺構の形態・状況・遺物出土状況等を検討した結果，竪穴遺構としたものである。

第1号竪穴遺構（第134図）

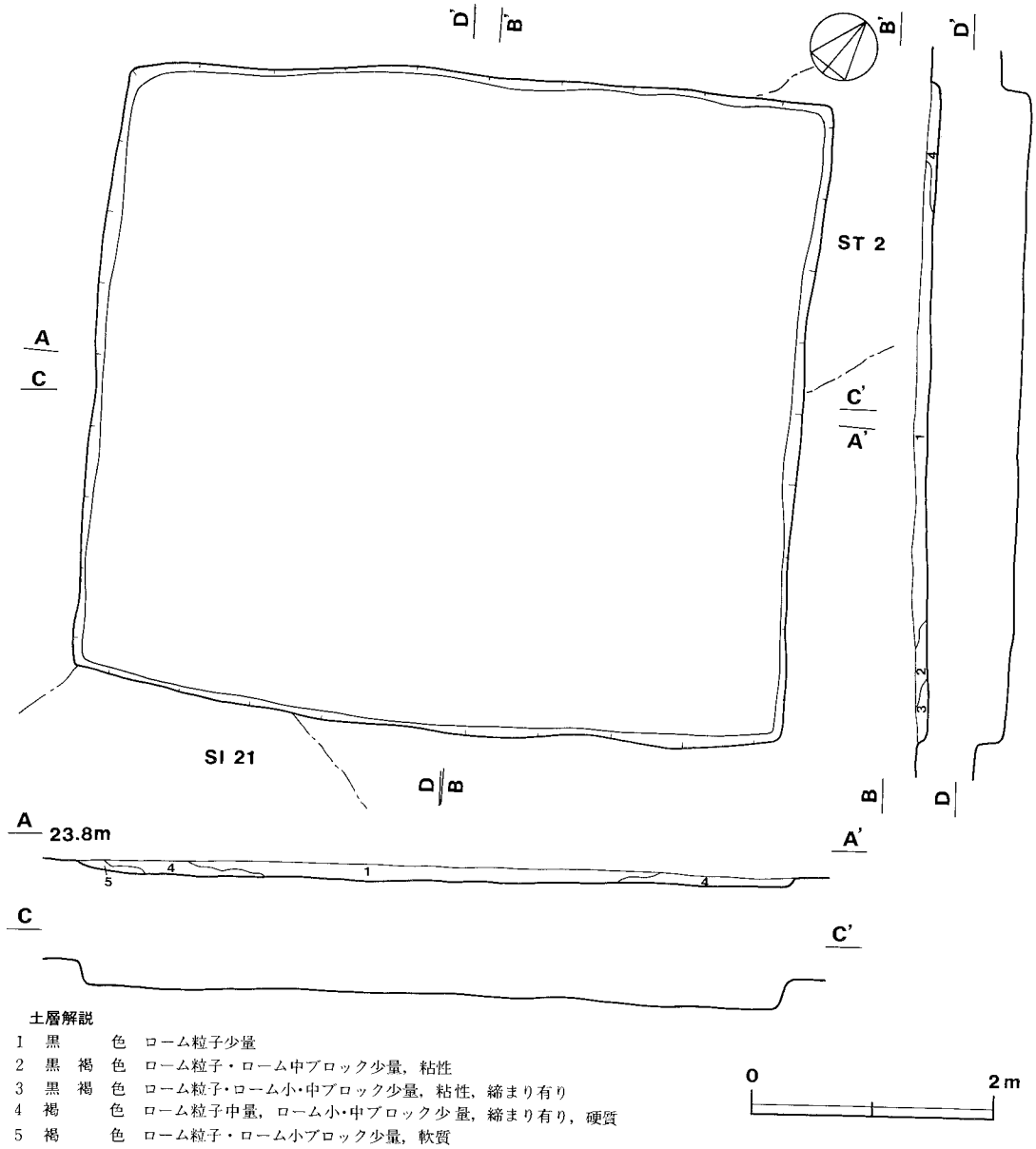
位置　調査区の中央部。C15a$_1$区を中心に確認された。**重複関係**　第21号住居跡・第2号竪穴遺構と重複しているが，本跡は両遺構よりも新しい。**規模と平面形**　5.92×5.48mで方形を呈する。**長軸方向**　N－54°－E。**壁**　壁高20～26cmで，外傾して立ち上がる。**床**　平坦で軟らかい。**覆土**　自然堆積。

遺物　全て覆土中からで，下層からは甕口縁部片が出土している。上層からは，縄文時代の加曽利EIII式土器の破片が多く出土している。

所見　本跡は，ピット・炉もなく，床面も軟らかく住居と考えられないことから竪穴遺構として扱った。覆土下層出土の土師器片や，遺構の形態等から古墳時代前期に比定されるものと考えられる。

第2号竪穴遺構（第135図）

位置　調査区の中央部。A14j$_2$区を中心に確認された。**重複関係**　第1号竪穴遺構と重複しているが本跡の方が古い。**規模と平面形**　3.39×2.48mの不整楕円形を呈する。**長径方向**　N－31°－E。**壁**　壁高46～57cmと深く，外傾して立ち上がる。**床**　北・東部が高く，南・西部へ傾斜している。**ピット**　2か所。P$_1$が，径76cm，深さ52cm，P$_2$が，径32cm，深さ42cmを測る。**覆**



土層解説

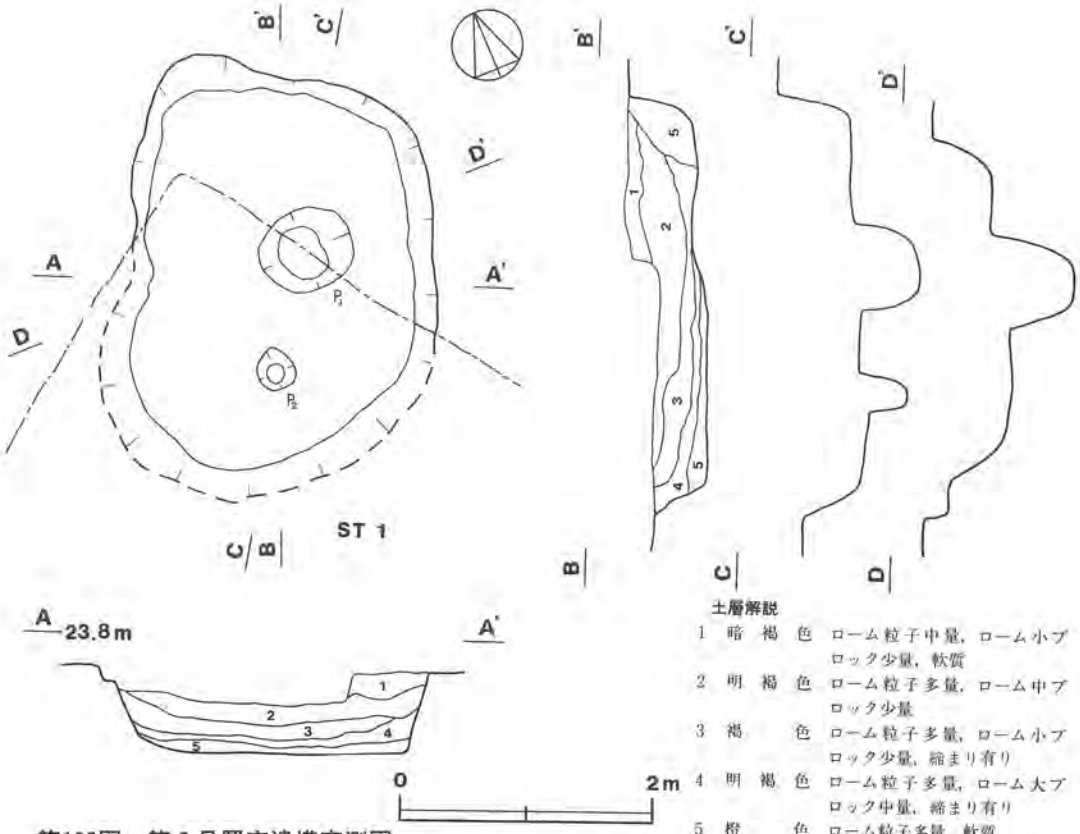
1 黒　　色　ローム粒子少量
2 黒 褐 色　ローム粒子・ローム中ブロック少量，粘性
3 黒 褐 色　ローム粒子・ローム小・中ブロック少量，粘性，締まり有り
4 褐　　色　ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量，締まり有り，硬質
5 褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，軟質

第134図　第1号竪穴遺構実測図

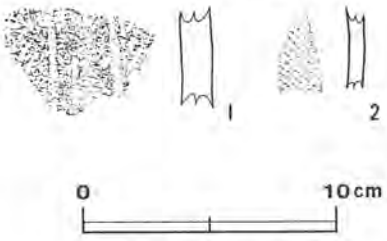
土　自然堆積。中層は締まりが有る。

遺物　覆土の中層・上層から，第136図1・2の加曽利EIII式の深鉢形土器の胴部片等が23片と，土師器片8片(高坏脚部，甕底部等)が出土している。

所見　本跡は，遺構の形状，床面の状態等から住居跡とは捉え難く竪穴遺構とした。時期については，遺物や遺構の形状等から縄文時代中期の竪穴遺構と考えられる。



第135図　第２号竪穴遺構実測図



第136図　第２号竪穴遺構出土遺物拓影図

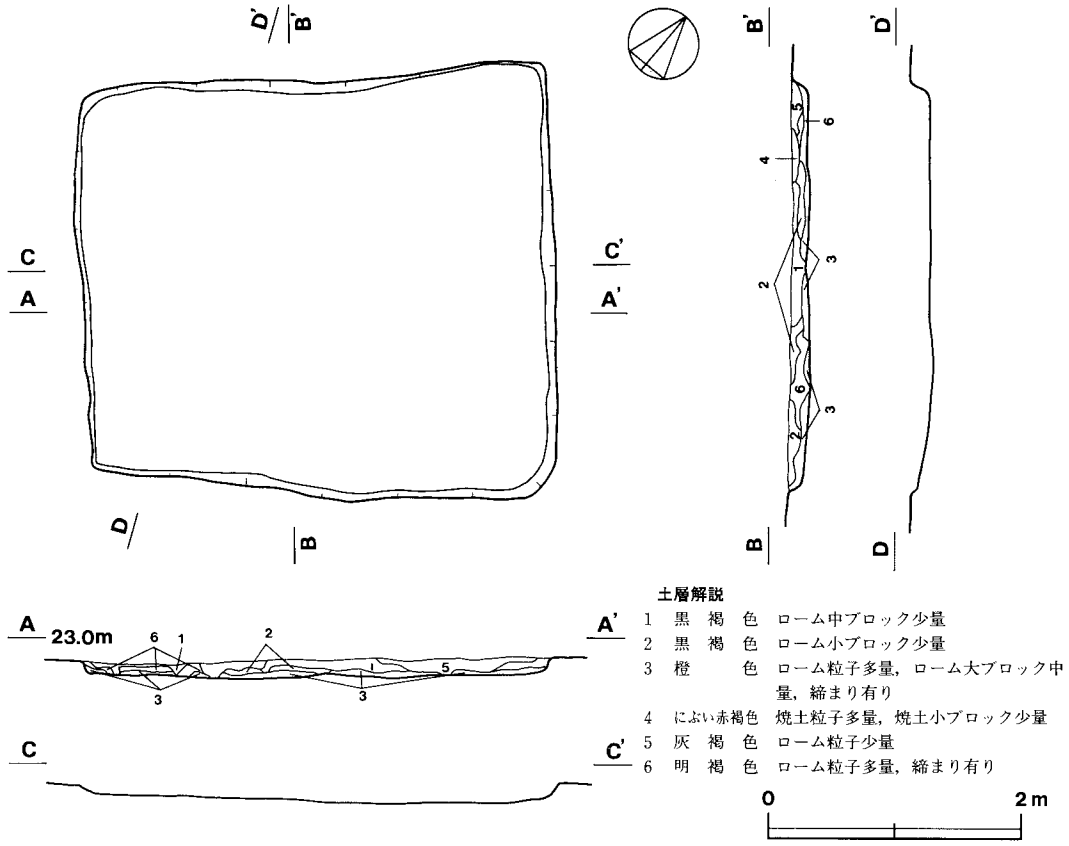
第136図は，第２号竪穴遺構から出土した縄文式土器片の拓影図である。１・２とも，胴部片である。１は，磨消帯を垂下させ，区画内に単節RLが縦位回転で充填されている。胎土は，砂粒・石英粒を多く含む。２は，細かい単節LRが横位回転されている。

第３号竪穴遺構（第137図）

位置　調査区の東部。D21j$_0$区を中心に確認された。**規模と平面形**　3.75×3.34mで，隅丸方形を呈する。**長軸方向**　N－51°－E。**壁**　壁高は4～15cmを測り，緩やかな傾斜で立ち上がる。**床**　南が僅かに高いが，平坦でやや軟らかである。**覆土**　ブロック状の明褐色土が混入し，ロームブロックを含むこと等から人為堆積と思われる。

遺物　覆土から，縄文式土器片５片と土師器片１片が出土している。

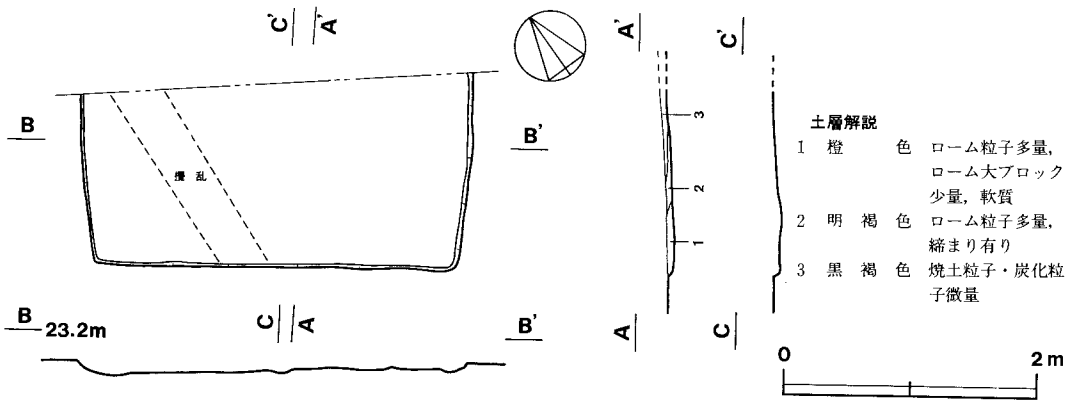
所見　本跡は，床面の軟らかさを始め，ピット・炉ももたない。このことから住居跡とは判断し難く竪穴遺構とした。覆土も浅く遺物も少ないことから，時期については不明である。



第137図　第 3 号竪穴遺構実測図

第 4 号竪穴遺構（第138図）

位置　調査区の東部。D20d₀区を中心に確認された。**規模と平面形**　3.12×(1.48)mで，方形を呈すると推定される。**長軸方向**　確認できない。**壁**　壁高6～10cmと浅く，壁は緩やかな傾斜で立ち上がる。**床**　東部がやや高いが，平坦で硬い床面である。北西から南東にかけては撹乱され



第138図　第 4 号竪穴遺構実測図

ている。**覆土**　自然堆積。

遺物　遺物は出土していない。

所見　本跡は，北側が調査区域外である。小規模でピットや炉も無く，遺物も出土していないことから，住居跡とは判断し難く竪穴遺構とした。時期については不明である。

2　土坑(第139～151図)

当調査区からは，総数120基の土坑が検出されている。その内，第6・7号土坑については，調査段階で第36号住居跡になり，整理の段階では第4号住居跡が，第121号土坑に改められ，総数119基の土坑になる。

それぞれの土坑は，その形状・規模・覆土及び遺物の出土状況に差異がある。出土遺物から年代が特定できた土坑については前述したが，この項では，その他の土坑について解説を一覧表の中にまとめ，形状については実測図として掲載する。

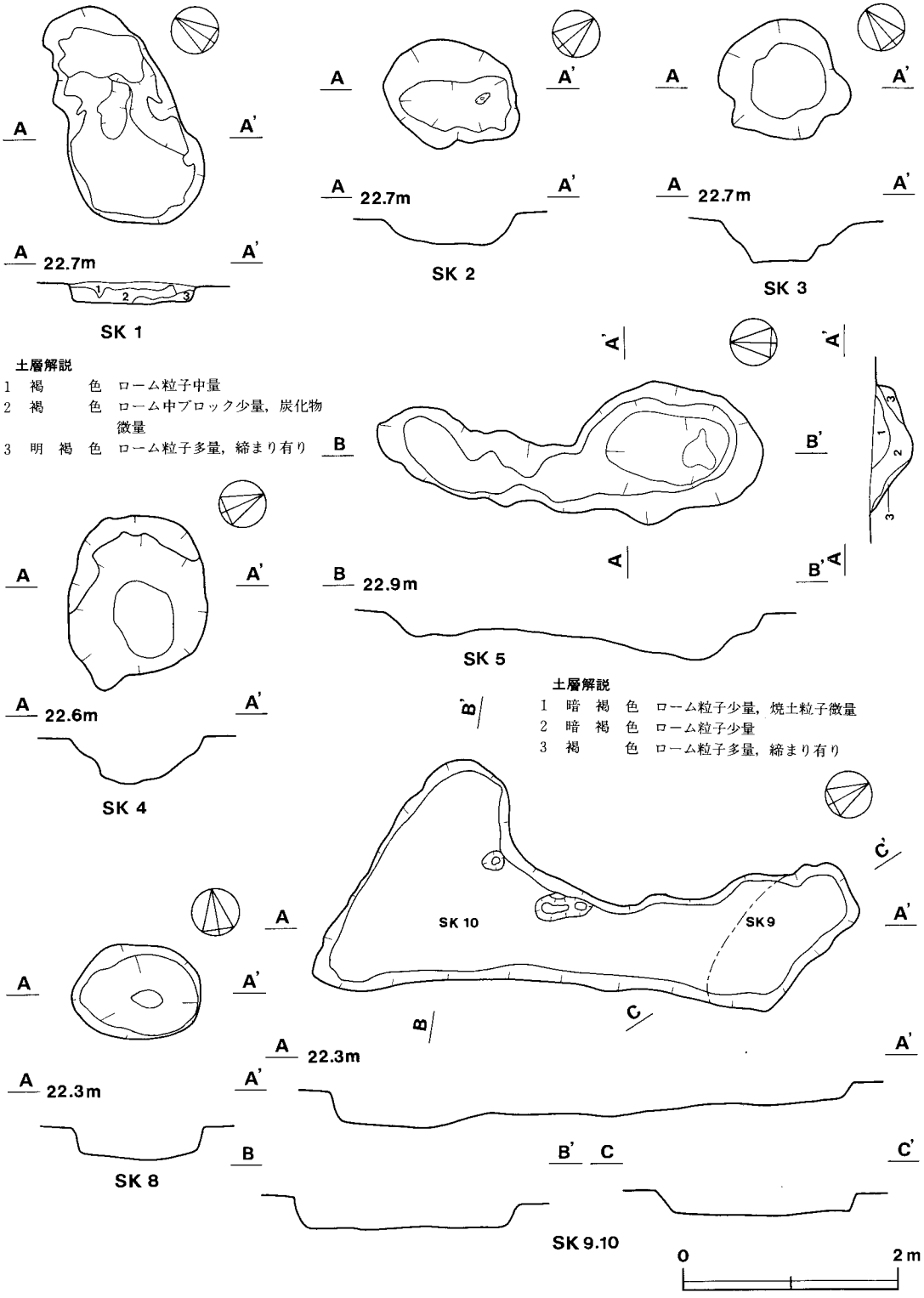
表2　土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)			壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
				長径	短径	深さ						
1	C 2a$_5$	N-34°-E	楕円形	2.17	1.06	0.16	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片60片		第139図
2	C 2b$_5$	N-62°-E	楕円形	1.29	1.01	0.27	緩斜	平坦	自然	土師器片1片		〃
3	C 2b$_6$	N-36°-W	不整円形	1.24	1.11	0.37	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片9片		〃
4	C 2b$_7$	N-45°-E	楕円形	1.69	1.26	0.42	緩斜	皿状	自然			〃
5	C 2a$_5$	N-0°	不定形	3.57	1.32	0.43	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片3片		〃
8	A12g$_0$	N-75°-W	楕円形	1.18	0.88	0.31	垂直	平坦	自然			〃
9	A12g$_0$	N-23°-W	不整楕円形	1.68	(0.76)	0.19	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片3片	SK10が新	〃
10	A12g$_9$	N-55°-W	不定形	(3.32)	2.45	0.29	緩斜	平坦	自然		SK9が旧	〃
11	A13g$_1$	N-35°-W	不整楕円形	1.05	1.01	0.34	垂直	平坦	自然	縄文式土器片1片		第140図
12	A13f$_1$	N-43°-E	楕円形	0.87	0.68	0.21	外傾	平坦	自然			〃
13	A13e$_3$	N-11°-E	隅丸長方形	1.88	0.99	0.13	外傾	平坦	自然	縄文式土器片2片		〃
14	A13g$_3$	N-82°-E	楕円形	0.81	0.70	0.31	緩斜	皿状	自然			〃
15	A13h$_3$		円形	0.62	0.61	0.13	外傾	平坦	自然			〃
16	A13h$_4$		円形	0.57	0.52	0.53	外傾	平坦	自然			〃
17	A13f$_4$	N-65°-W	楕円形	1.20	0.98	0.52	垂直	段状	自然	縄文式土器片11片		〃
18	A13g$_5$	N-35°-W	楕円形	1.25	1.15	0.47	垂直	平坦	人為			〃
19	A13e$_5$	N-72°-W	不定形	1.13	(0.74)	0.14	外傾	平坦	自然		SD3が新	〃
20	A13e$_6$		円形	1.25	1.15	0.30	外傾	平坦	人為	縄文式土器片9片		〃

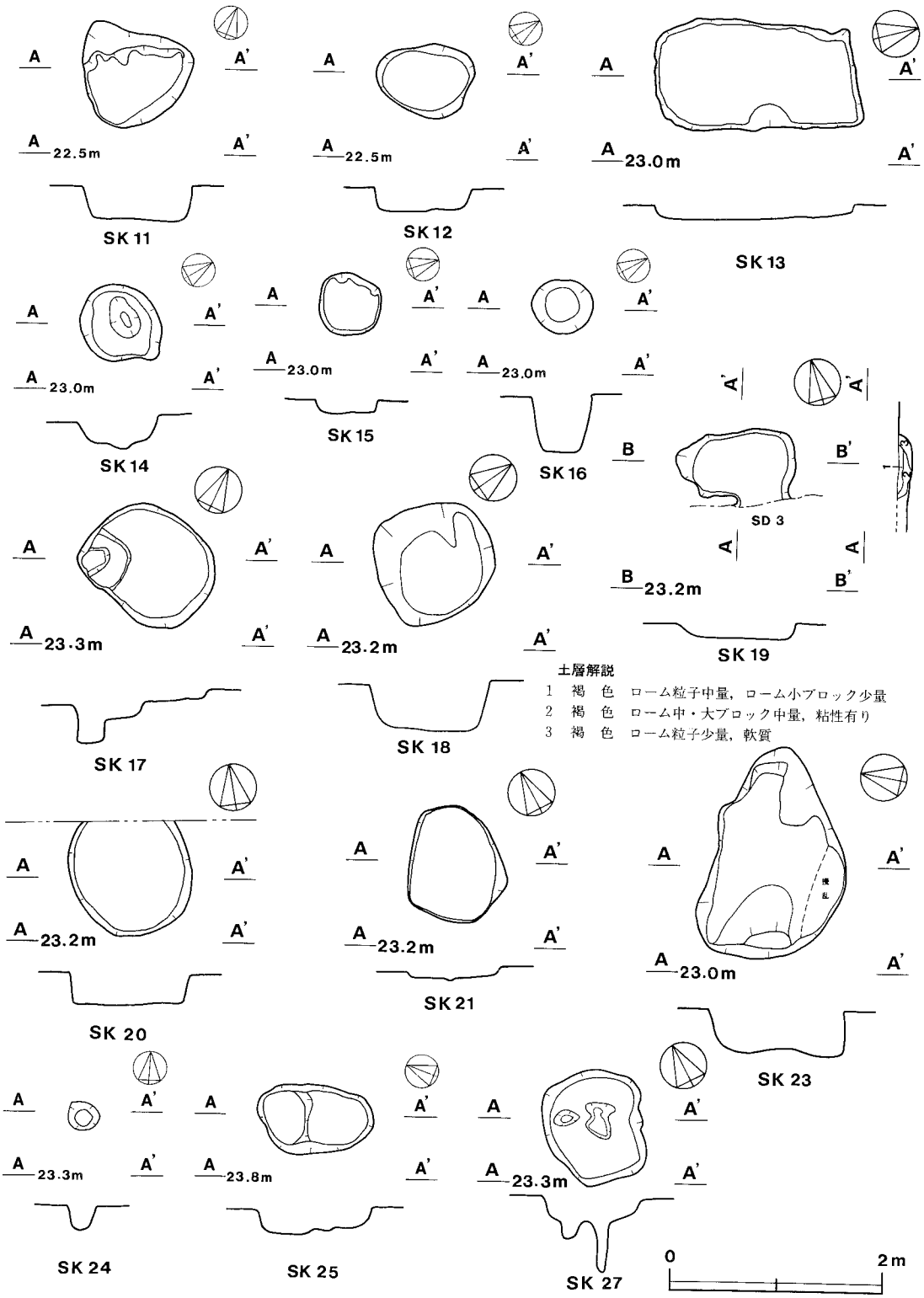
土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m) 長径	短径	深さ	壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
21	A13f5	N-0°	楕円形	1.14	0.94	0.10	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片2片		第140図
22	A13g6	N-70°-E	楕円形	1.57	1.48	0.27	外傾	平坦	自然	縄文式土器片3片，古銭2点，墓壙		第151図
23	A13h5	N-85°-E	楕円形	2.02	1.27	0.44	外傾	平坦	自然	縄文式土器片3片		第140図
24	A13i7		円形	0.30	0.29	0.21	外傾	平坦	自然			〃
25	A13i7	N-17°-W	楕円形	1.10	0.66	0.25	外傾	ゆるい起伏	自然			〃
26	A13h8	N-76°-E	不整円形	1.32	1.20	0.82	外傾	平坦	人為	縄文式土器片126片，石棒・打製石斧1点	SD4が新，縄文	第47図
27	A13g9	N-2°-W	不整楕円形	1.06	0.90	0.71	外傾	凹凸	人為	縄文式土器片6片		第140図
28	A14i7	N-6°-E	楕円形	2.09	1.85	0.11	緩斜	平坦	自然			第141図
29	A14j7	N-68°-W	楕円形	0.94	(0.76)	0.06	外傾	平坦	自然		SK30が旧	〃
30	A14j7	N-64°-W	不定形	(1.53)	(1.04)	0.09	外傾	平坦	自然		SK29・31が新	〃
31	A14j7	N-56°-W	楕円形	1.18	0.82	0.11	外傾	平坦	自然		SK30が旧	〃
32	A14j9	N-40°-E	不整長方形	1.77	1.00	0.11	外傾	平坦	自然			〃
33	B14a9	N-21°-E	楕円形	3.04	(2.52)	0.26	外傾	平坦	自然	縄文式土器片7片	SK39が新，SI25が旧	〃
34	A15i2	N-29°-E	楕円形	2.93	2.29	0.22	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片19片		〃
35	B15b4	N-6°-W	隅丸長方形	2.21	1.11	0.23	緩斜	平坦	人為			〃
36	B15b5	N-74°-E	楕円形	1.74	1.35	0.18	緩斜	平坦	自然		SI28が旧	〃
37	B15c5	N-75°-W	楕円形	1.51	1.19	0.62	緩斜	段状	自然	縄文式土器片1片	SI28が旧	第142図
38	B15a5	N-67°-W	楕円形	1.22	0.73	0.14	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片9片		〃
39	B14a9	N-63°-W	楕円形	(0.78)	0.70	0.12	緩斜	平坦	自然		SK33が旧	第141図
40	B15a6	N-87°-E	楕円形	1.23	0.96	0.14	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片6片		第142図
41	B15c8	N-24°-E	不整楕円形	2.86	2.45	1.05	外傾	段状	自然	縄文式土器片7片	SD6が新	〃
42	B15a9		円形	2.41	2.28	0.43	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片36片	SI30が旧	〃
43	B15c9	N-13°-E	楕円形	1.82	1.25	0.22	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片16片	SD6が新	〃
44	B15c0		円形	1.76	1.76	0.81	外傾	凹凸	人為	縄文式土器片26片		第143図
45	B16c1	N-40°-E	不整楕円形	(1.45)	1.64	0.28	緩斜	皿状	自然	縄文式土器片10片	SK46が新	〃
46	B16c1	N-56°-W	楕円形	1.16	(0.92)	0.24	緩斜	平坦	自然		SK45が旧	〃
47	B15d9	N-67°-W	[楕円形]	(2.71)	(1.06)	0.91	外傾	皿状	人為	縄文式土器1点，縄文式土器片239片，把手1点，磨石1点	縄文	第47図
48	B15d0	N-63°-W	不整楕円形	1.57	1.24	0.41	外傾	平坦	自然	縄文式土器片15片		第143図
49	B16c1	N-52°-W	楕円形	1.65	1.32	0.14	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片4片		〃
50	B15b0		円形	0.74	0.68	0.44	外傾	平坦	自然	縄文式土器片11片		〃
51	B16b1	N-50°-E	不整円形	1.20	1.03	0.42	外傾	平坦	人為	縄文式土器片1片		〃
52	B16b2	N-90°	不整楕円形	0.93	0.78	0.55	垂直	平坦	人為	縄文式土器片6片		第144図
53	B16c3	N-3°-E	隅丸方形	1.58	1.58	0.27	緩斜	平坦	人為			〃
54	B16c4	N-9°-E	隅丸長方形	2.42	1.84	0.12	緩斜	平坦	人為			〃

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)			壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
				長径	短径	深さ						
55	B16e$_3$	N-32°-E	楕円形	2.63	2.20	0.07	緩斜	平坦	人為		SK66が新	第144図
56	B16e$_3$	N-90°	隅丸長方形	2.30	1.50	0.73	垂直	平坦	人為			〃
57	B16e$_7$		円形	2.52	2.47	0.31	外傾	平坦	人為		SK58が新	〃
58	B16e$_7$	N-46°-W	不定形	1.39	1.35	0.31	緩斜	平坦	人為		SK57が旧	〃
59	B17f$_2$		不整円形	1.04	1.00	1.13	垂直	平坦	自然	縄文式土器1点，縄文式土器片67片，土製円板1点	縄文	第47図
60	B17i$_9$		円形	3.23	3.01	0.30	外傾	平坦	自然	縄文式土器片12片		第145図
61	A13h$_6$	N-75°-W	楕円形	2.00	1.67	0.37	外傾	平坦	自然	縄文式土器片7片		〃
62	A14h$_3$	N-77°-W	隅丸長方形	1.24	0.70	0.55	垂直	凹凸	人為	縄文式土器片13片，鉄滓1点，人骨	SD4が旧，墓壙	第151図
63	A14g$_3$	N-90°	不定形	2.21	0.93	0.14	外傾	凹凸	自然			第145図
64	B16f$_7$		円形	1.29	1.28	0.32	外傾	皿状	人為			〃
65	B16g$_7$	N-6°-W	長方形	1.44	0.74	0.29	外傾	平坦	不明			〃
66	B16b$_3$	N-8°-W	隅丸長方形	1.72	1.31	0.65	外傾	凹凸	自然		SK55が旧	第144図
67	C18c$_4$	N-76°-E	不整楕円形	0.75	(0.35)	0.36	外傾	平坦	自然		SI13が旧	第145図
68	B17j$_0$	N-6°-W	不整円形	1.87	1.61	0.14	外傾	平坦	人為	縄文式土器片8片		〃
69	B17i$_0$	N-14°-E	楕円形	2.43	1.87	0.27	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片11片		第146図
70	C18a$_1$	N-69°-W	楕円形	1.53	1.14	0.22	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片5片		〃
71	B17a$_0$	N-58°-W	楕円形	1.68	1.40	0.25	外傾	平坦	人為	縄文式土器片13片		〃
72	C18b$_1$	N-56°-E	隅丸長方形	3.04	2.16	0.18	緩斜	平坦	自然		SK73が新	〃
73	C18b$_1$	不明	不定形	1.11	0.65	不明	不明	不明	自然		SK72が旧	〃
74	B17e$_2$	N-73°-W	楕円形	1.17	1.04	0.72	垂直	平坦	自然	縄文式土器片40片	SI18が新縄文	第48図
75	B17i$_5$	N-29°-E	楕円形	3.12	2.80	0.30	緩斜	平坦	人為	縄文式土器片17片，把手1点	SK76が新	第146図
76	B17i$_5$	N-64°-W	楕円形	0.99	0.62	0.21	外傾	平坦	自然		SK75が旧	〃
77	B17i$_6$	N-2°-E	半円	(2.05)	1.40	0.29	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片21片，把手1点	SK78が新	第147図
78	B17i$_6$	N-18°-W	不定形	3.50	1.80	0.26	外傾	平坦	自然	縄文式土器片35片	SK77が旧	〃
79	B17j$_8$		円形	3.06	2.99	0.19	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片45片	SK80・82が新，SK81が旧	〃
80	B17j$_8$	N-2°-E	楕円形	1.06	0.79	0.31	緩斜	平坦	自然		SK81・79が旧	〃
81	B17j$_8$	N-14°-W	不整長方形	3.96	2.10	0.39	外傾	平坦	自然	縄文式土器片3片	SI35が旧，SK79・80が新	〃
82	B17j$_9$	N-32°-W	楕円形	0.80	0.77	0.46	外傾	平坦	不明		SK79が旧	第148図
83	A14j$_8$	N-18°-E	楕円形	0.83	0.66	0.29	緩斜	皿状	自然		SI25が旧	〃
84	B14a$_8$	N-52°-W	楕円形	0.61	0.42	0.49	段状	皿状	自然		SI25が旧	〃
85	B15c$_0$	N-79°-W	楕円形	1.23	1.01	0.42	外傾	平坦	人為	縄文式土器片50片	SI27が新	〃
86	B16b$_2$	N-68°-W	[楕円形]	0.61	(0.30)	0.69	垂直	平坦	自然	縄文式土器片25片	SI34が旧	〃
87	C19h$_3$	N-90°	楕円形	0.56	0.50	0.19	外傾	皿状	自然			〃
88	C19h$_3$	N-33°-E	不整楕円形	1.01	(0.95)	0.24	外傾	平坦	自然	縄文式土器片13片	SK89が新	〃

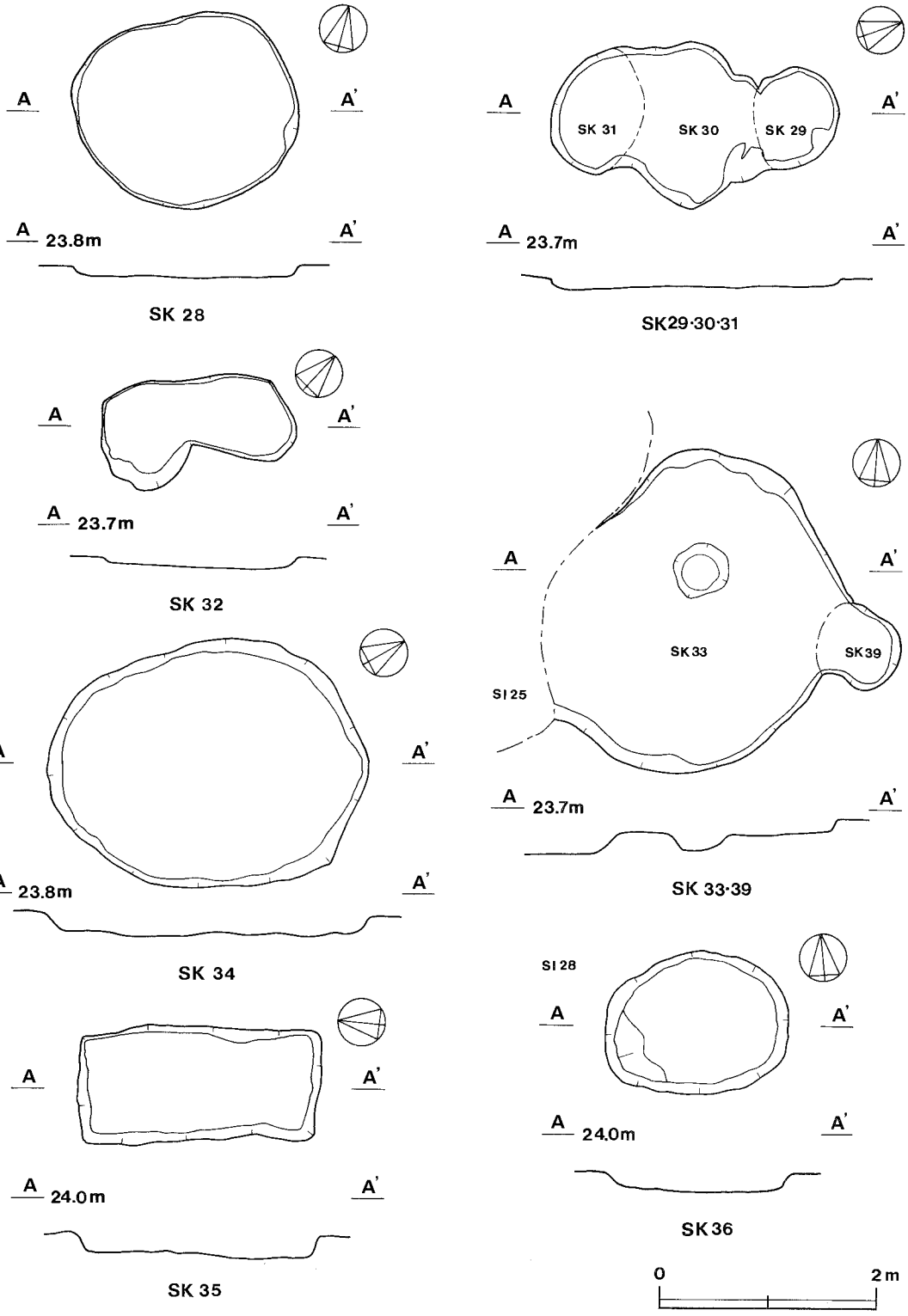
土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模 (m)			壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	図版番号
				長径	短径	深さ						
89	C19h$_3$	N-62°-W	不整楕円形	1.29	1.23	0.38	外傾	凹凸	人為	縄文式土器片6片	SK88が旧	第148図
90	C19i$_3$	N-34°-W	隅丸長方形	1.86	0.70	0.13	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片14片		〃
91	C19i$_6$	N-74°-E	楕円形	1.77	1.02	0.40	外傾	皿状	自然	縄文式土器片28片		〃
92	C19f$_5$	N-66°-W	不整長方形	3.70	1.67	1.43	垂直	平坦	自然	縄文式土器片137片	SK93が新	第149図
93	C19f$_4$		不整円形	1.78	0.93	0.72	緩斜	平坦	自然	土師器片11片	SK92・121が旧，古墳	第132図
94	C20j$_1$		円形	0.99	0.96	0.30	緩斜	凹凸	自然	縄文式土器片5片		第149図
95	D20b$_2$	N-65°-W	楕円形	1.02	0.92	0.26	緩斜	皿状	自然	縄文式土器片22片	SI42が新	〃
96	D20a$_2$	N-62°-W	楕円形	1.65	1.26	0.69	外傾	凹凸	人為	縄文式土器片3片		〃
97	C19a$_8$	N-0°	不整楕円形	(0.68)	(0.47)	0.80	外傾	凹凸	自然	土師器4点，土師器片7片	SI52が旧，古墳	第132図
98	D20e$_8$	N-47°-W	不定形	1.50	1.16	0.43	緩斜	凹凸	人為	縄文式土器片5片	SI44が旧	第149図
99	D20c$_4$	N-75°-W	楕円形	1.08	0.97	0.18	外傾	凹凸	自然	縄文式土器片15片，石錐1点		〃
100	D20e$_0$	N-59°-W	楕円形	1.67	1.10	0.23	外傾	皿状	自然	縄文式土器片5片		〃
101	D20f$_0$	N-40°-E	楕円形	1.36	1.25	1.0	垂直	平坦	自然	縄文式土器片43片		第151図
102	D20e$_0$	N-32°-W	楕円形	1.28	1.07	0.88	垂直	平坦	自然	縄文式土器片13片		〃
103	E21b$_9$		円形	1.48	1.42	0.66	外傾	平坦	自然	縄文式土器片34片，土製円板1点		〃
104	D21h$_5$	N-28°-E	楕円形	1.56	(1.36)	0.61	垂直	平坦	自然	縄文式土器片12片	SI46が新	〃
105	D21h$_5$	N-32°-E	楕円形	1.08	0.88	1.05	垂直	平坦	自然	縄文式土器片4片		〃
106	D21h$_6$	N-79°-E	楕円形	1.13	1.04	0.29	外傾	平坦	自然			〃
107	D21g$_6$	N-12°-E	楕円形	0.82	0.73	0.40	外傾	平坦	自然			〃
108	D21h$_6$	N-96°-E	楕円形	0.77	0.60	0.18	緩斜	平坦	自然			〃
109	D21h$_7$		円形	0.81	0.79	0.90	垂直	平坦	自然			〃
110	D21i$_7$		円形	0.73	0.66	0.97	外傾	皿状	自然	縄文式土器片1片		〃
111	E21a$_0$		円形	1.13	1.08	0.65	垂直	平坦	自然	縄文式土器片59片，凹石2点		第151図
112	D22j$_1$		円形	0.61	0.59	0.18	外傾	平坦	自然			〃
113	D22j$_1$		円形	0.47	0.47	0.21	外傾	平坦	自然			〃
114	E22d$_2$	N-25°-W	楕円形	0.91	0.78	0.12	緩斜	平坦	自然			〃
115	E22e$_5$	N-6°-E	楕円形	0.85	0.63	0.20	緩斜	平坦	自然			〃
116	D21j$_6$	N-87°-W	楕円形	1.45	0.86	0.11	緩斜	皿状	自然			〃
117	D20d$_8$	N-57°-W	不整楕円形	1.97	1.29	0.88	外傾	平坦	自然	縄文式土器片48片		〃
118	D20d$_9$	N-63°-E	楕円形	1.30	1.08	0.80	外傾	平坦	人為	縄文式土器片13片		〃
119	E21b$_9$	不明	不明	1.38	(0.69)	0.66	垂直	平坦	自然	縄文式土器片1片	SI50が旧	〃
120	C19g$_3$	N-43°-E	楕円形	1.91	1.50	0.74	垂直	平坦	自然	縄文式土器1点，縄文式土器片226片，磨石1点	SI33が旧，SD5が新，縄文	第48図
121	C19e$_4$	N-61°-W	不明	(1.16)	(0.78)	0.32	外傾	平坦	自然	縄文式土器1点，縄文式土器片123片	SK93が新，縄文	〃



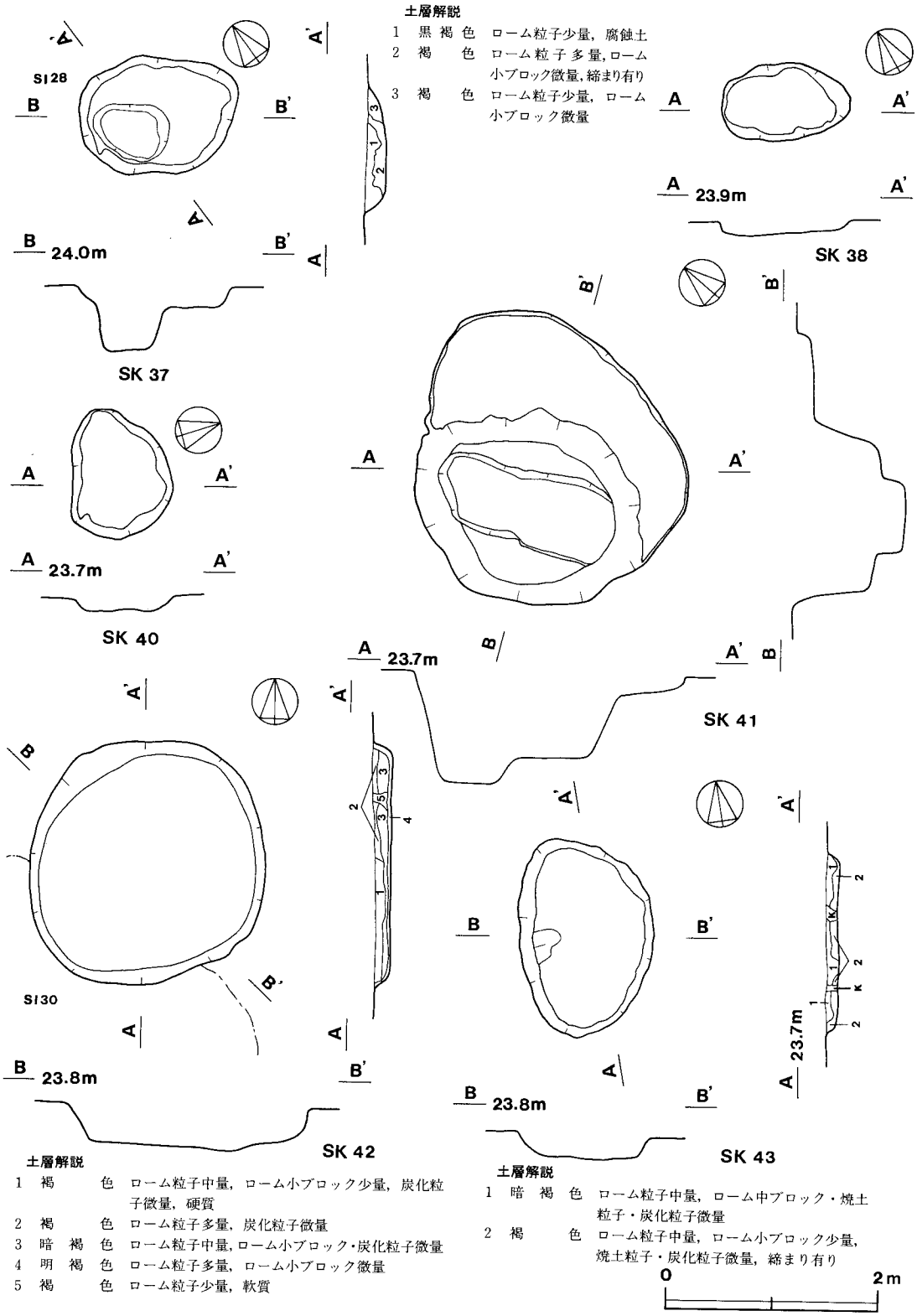
第139図　土坑実測図(Ⅰ)



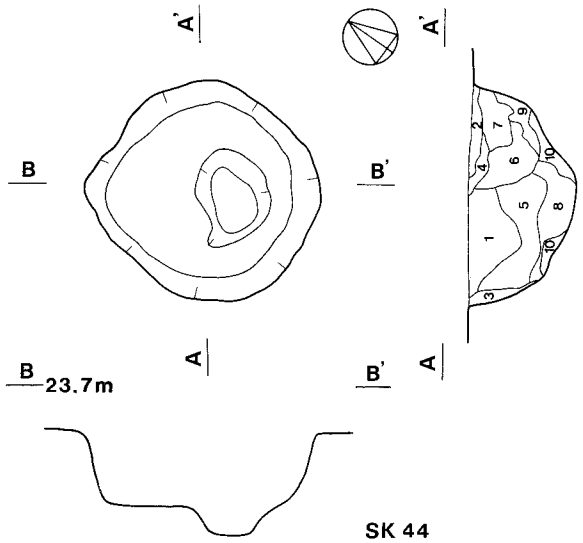
第140図　土坑実測図(II)



第141図　土坑実測図(Ⅲ)



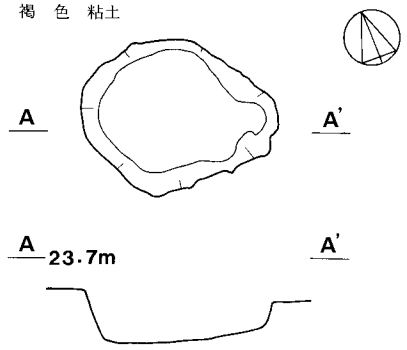
第142図　土坑実測図(Ⅳ)



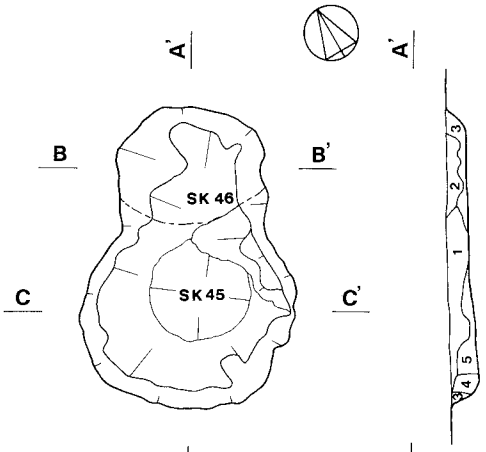
SK 44

土層解説

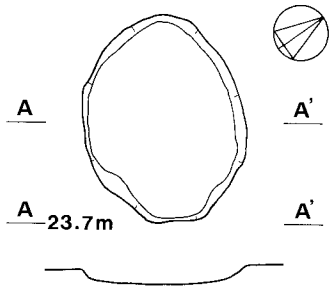
1 暗 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子・ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子多量，ローム大ブロック微量，軟質
4 褐 色 ローム粒子多量，ローム中ブロック微量
5 暗 褐 色 ローム粒子多量，ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量，締まり有り
6 褐 色 ローム粒子多量，締まり有り
7 褐 色 ローム粒子多量，ローム大ブロック少量，締まり無し
8 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，締まり有り
9 褐 色 ローム粒子多量
10 明 褐 色 粘土



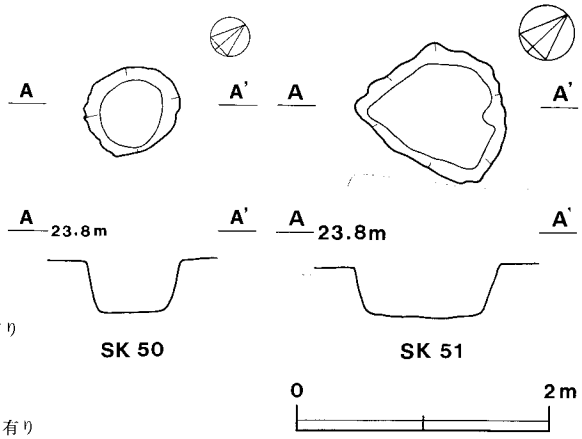
SK 48



SK 45・46



SK 49



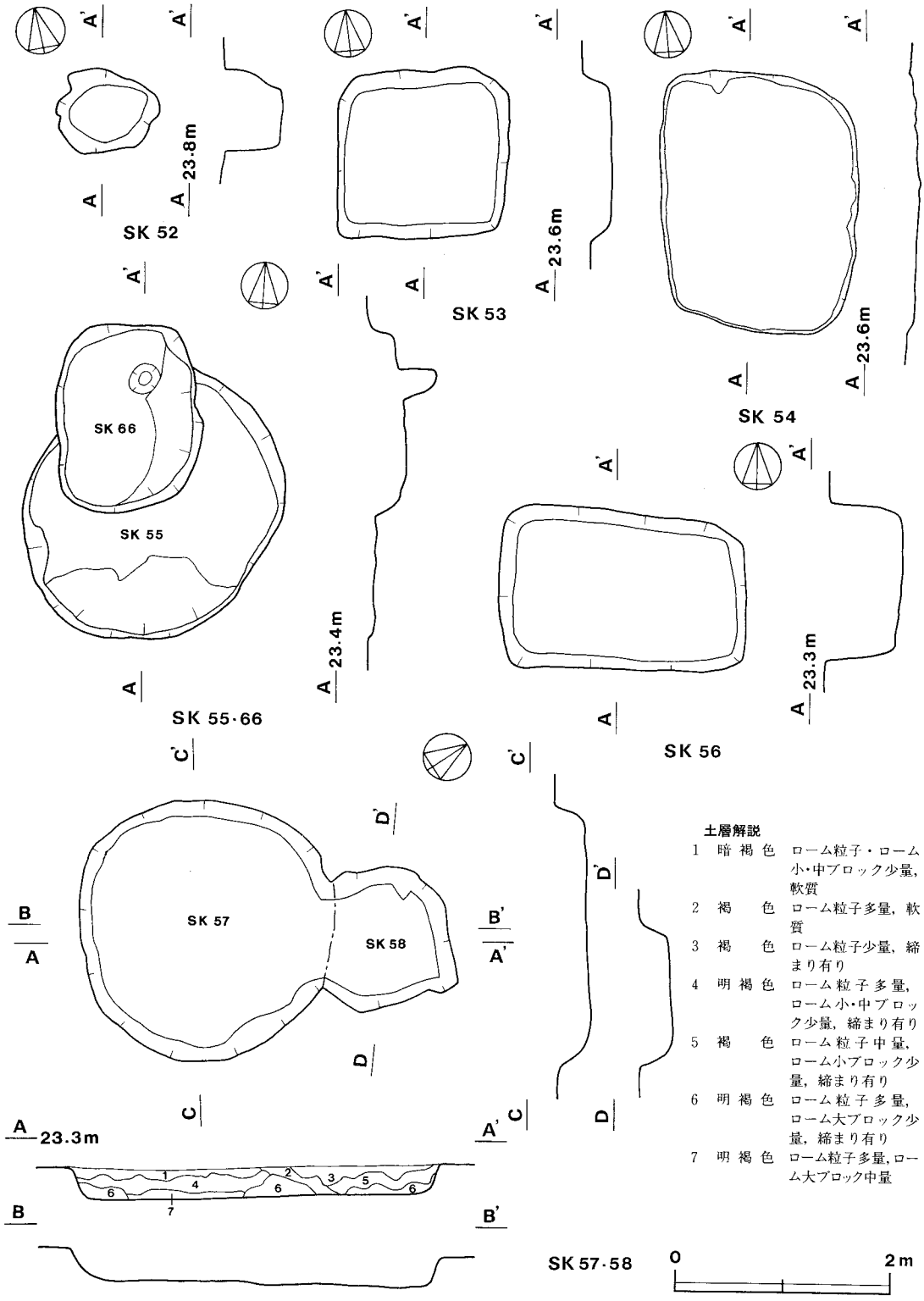
SK 50　　SK 51

土層解説

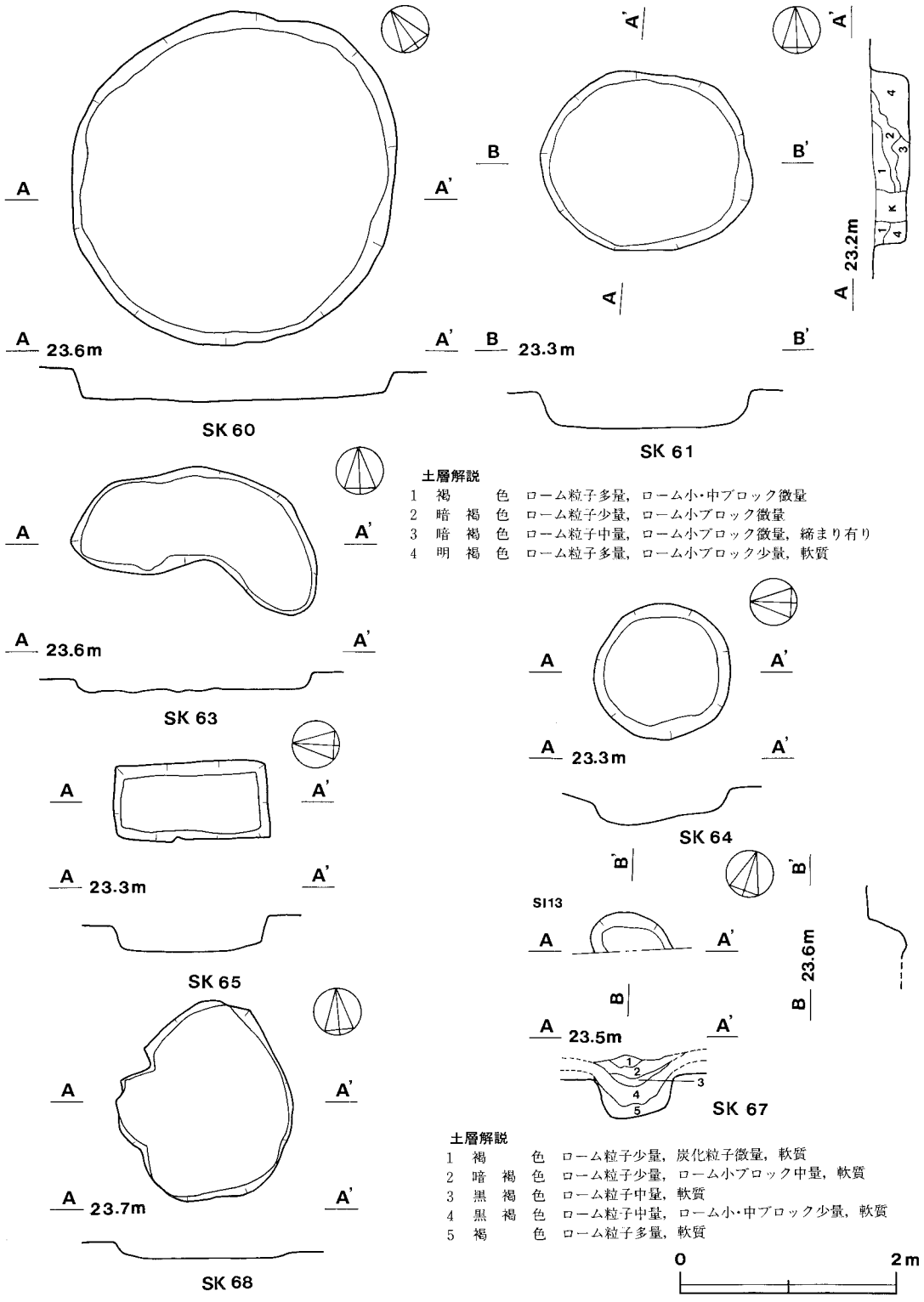
1 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量，締まり有り
2 暗 褐 色 ローム粒子中量，締まり有り
3 明 褐 色 ローム粒子多量，締まり有り
4 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
5 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，締まり有り

0　2m

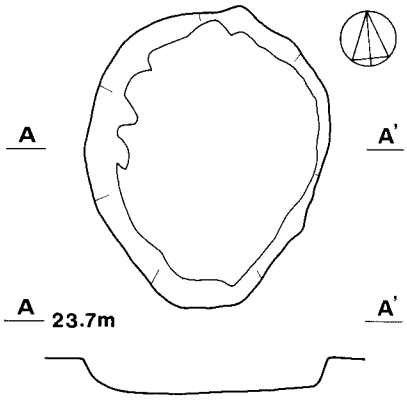
第143図　土坑実測図(Ⅴ)



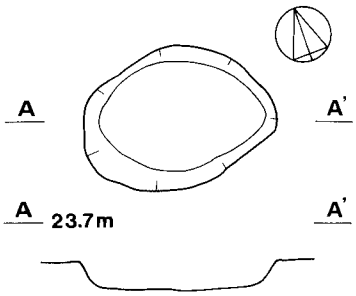
第144図　土坑実測図(Ⅵ)



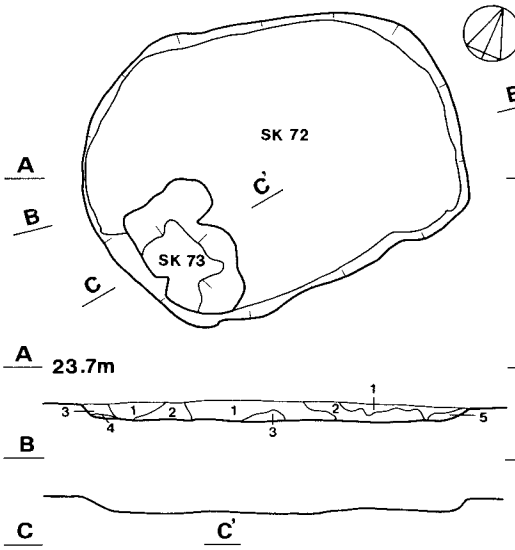
第145図　土坑実測図(Ⅶ)



SK 69



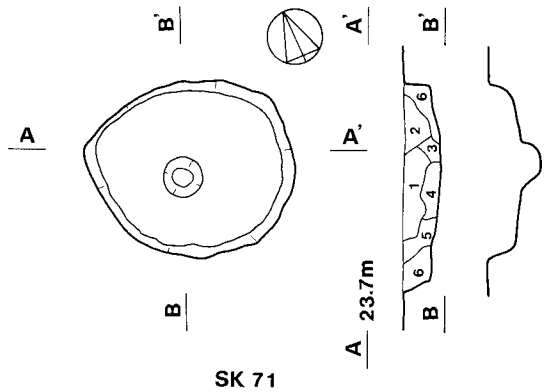
SK 70



SK 72·73

土層解説

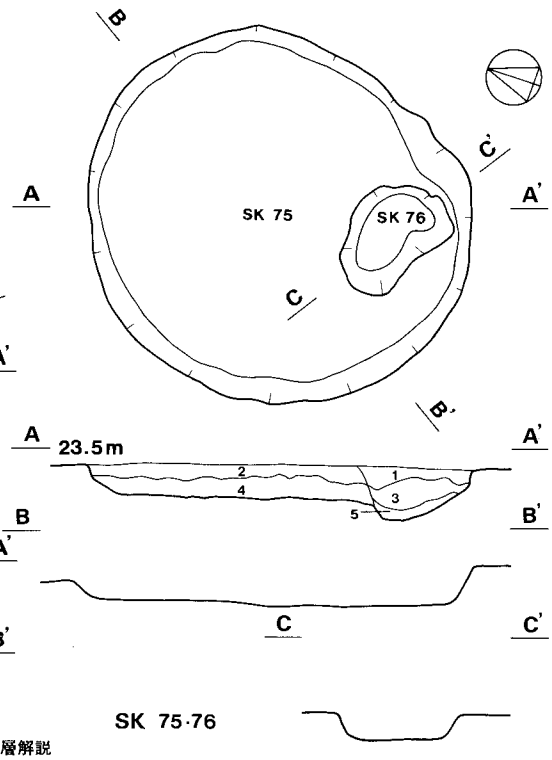
1 暗 褐 色 焼土粒子微量
2 褐 色 ローム粒子少量
3 褐 色 ローム小ブロック・炭化粒子少量
4 褐 色 炭化粒子極微量，粘性あり，硬質
5 暗 褐 色 炭化粒子極微量，締まり有り



SK 71

土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子微量，ローム小ブロック少量，軟質
2 褐 色 ローム小ブロック少量，締まり有り，硬質
3 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子微量，締まり有り，硬質
4 褐 色 ローム粒子中量，ローム大ブロック少量，軟質
5 褐 色 ローム粒子多量，軟質
6 褐 色 ローム粒子少量，ローム大ブロック微量，硬質



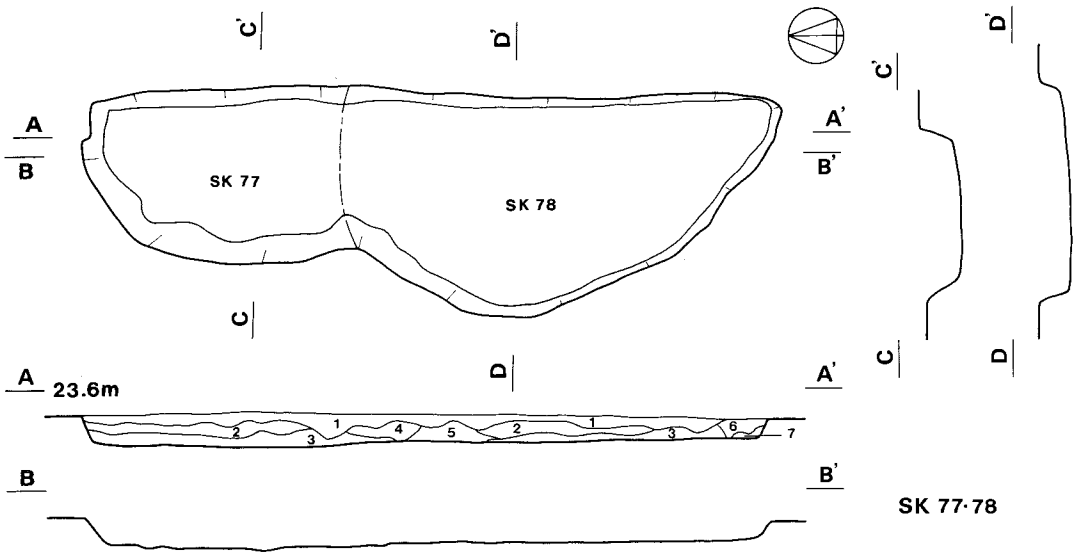
SK 75·76

土層解説

1 褐 色 ローム粒子中量
2 褐 色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
3 明 褐 色 ローム粒子多量，ローム小・中ブロック少量，締まり有り
4 明 褐 色 ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子微量
5 褐 色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，締まり有り

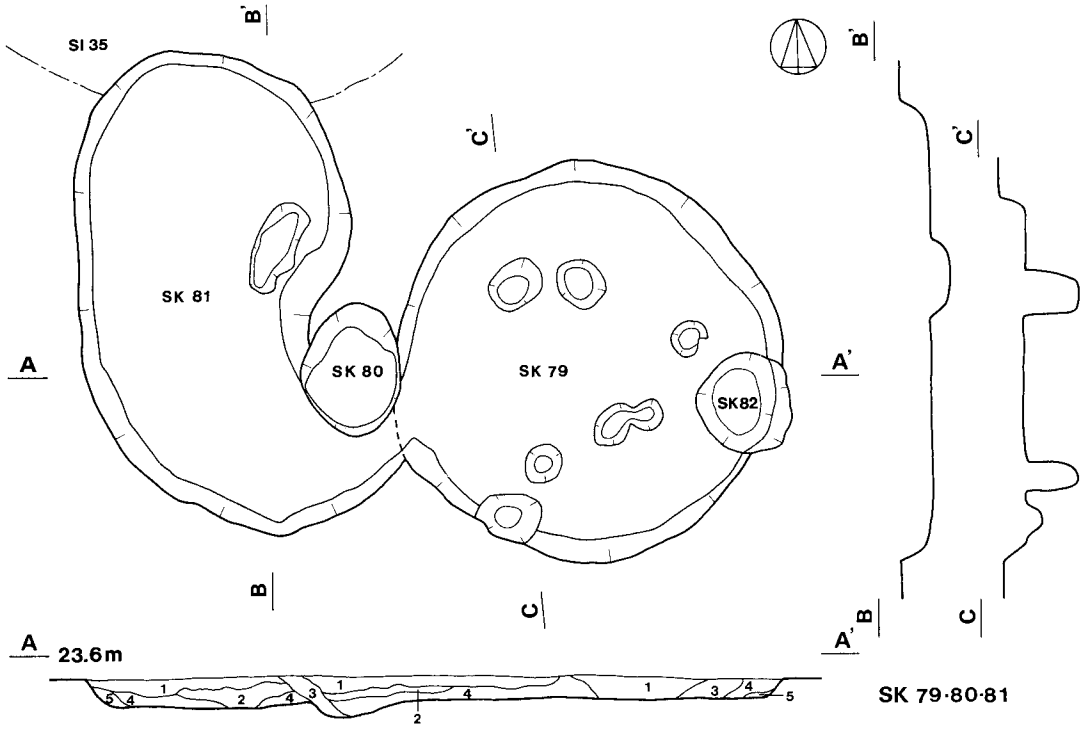
0 2m

第146図 土坑実測図(Ⅷ)



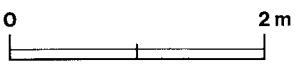
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，締まり有り
2 褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック微量，締まり有り
3 褐色 ローム粒子多量，ローム中・大ブロック少量，締まり有り
4 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
5 明褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック微量，締まり有り
6 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，軟質
7 褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック微量，軟質

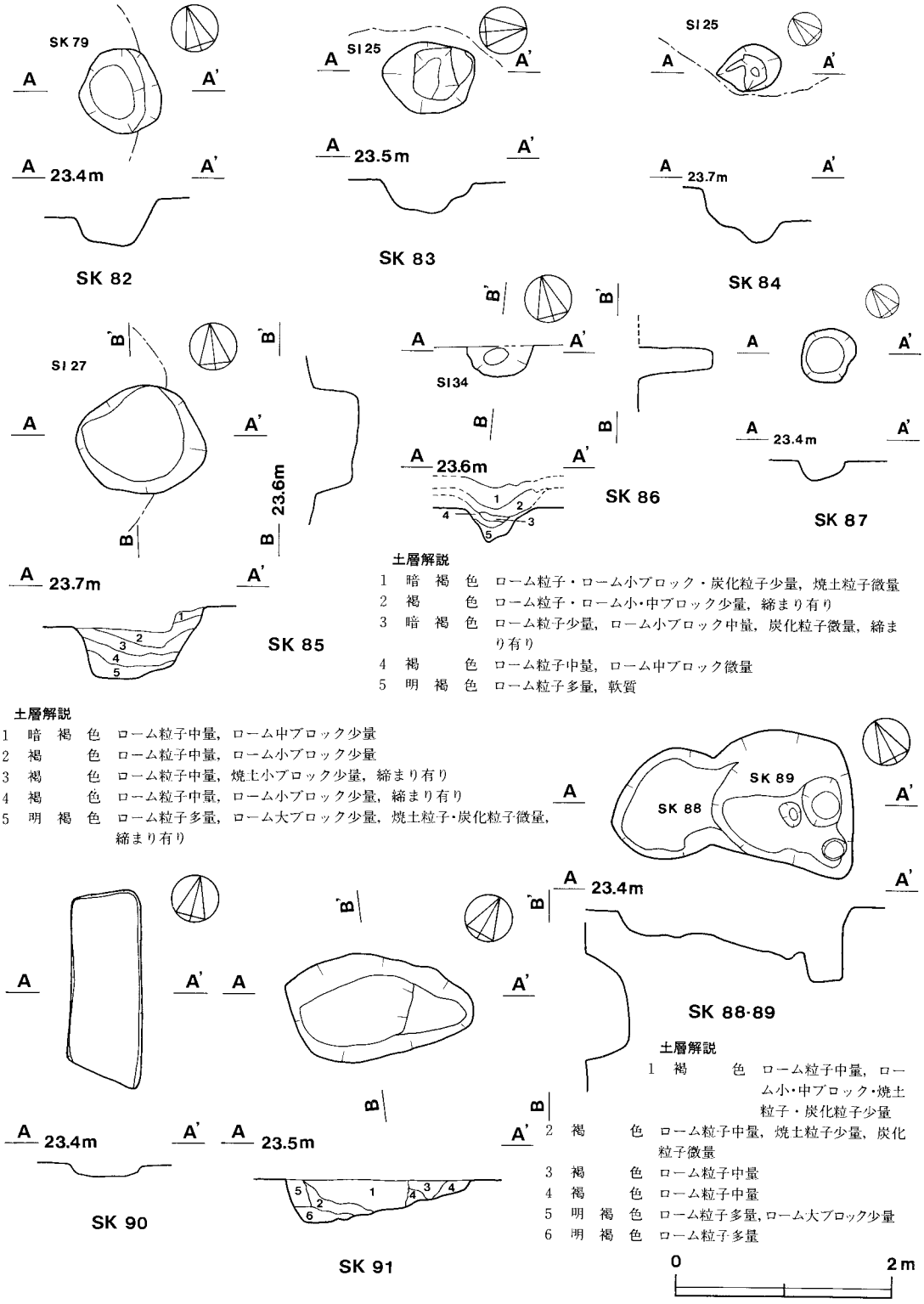


土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量
2 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
3 褐色 ローム粒子中量，締まり有り
4 明褐色 ローム粒子多量，ローム大ブロック少量，締まり有り
5 褐色 ローム粒子多量，締まり有り
6 褐色 ローム粒子少量，軟質



第147図　土坑実測図(Ⅸ)



土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2 褐 色 ローム粒子・ローム小・中ブロック少量，締まり有り
3 暗 褐 色 ローム粒子少量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量，締まり有り
4 褐 色 ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
5 明 褐 色 ローム粒子多量，軟質

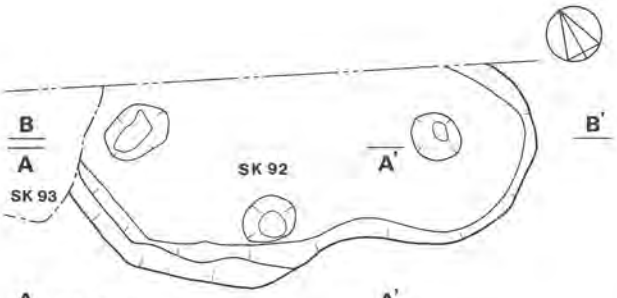
土層解説

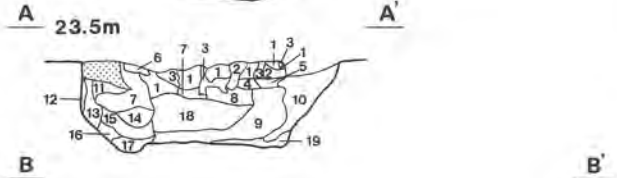
1 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
2 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3 褐 色 ローム粒子中量，焼土小ブロック少量，締まり有り
4 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，締まり有り
5 明 褐 色 ローム粒子多量，ローム大ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量，締まり有り

土層解説

1 褐 色 ローム粒子中量，ローム小・中ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 褐 色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
3 褐 色 ローム粒子中量
4 褐 色 ローム粒子中量
5 明 褐 色 ローム粒子多量，ローム大ブロック少量
6 明 褐 色 ローム粒子多量

第148図　土坑実測図(X)

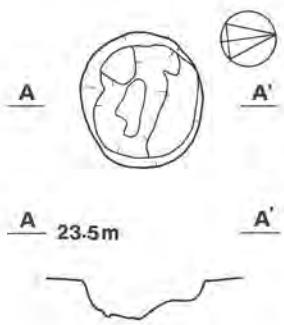




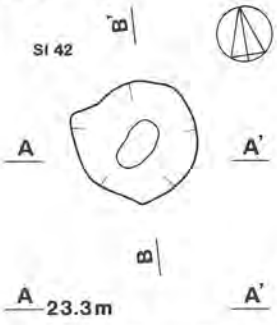
SK 92

土層解説

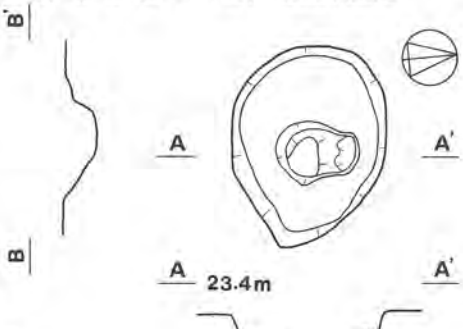
1 赤 褐 色 焼土ブロック
2 赤 褐 色 焼土粒子・焼土小・中ブロック中量
3 赤 褐 色 焼土粒子中量，軟質
4 暗赤褐色 ローム中ブロック・焼土粒子・焼土中ブロック中量
5 にぶい赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
6 暗赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量，軟質
7 暗赤褐色 焼土粒子中量，締まり有り
8 暗 褐 色 焼土粒子極微量，硬質
9 暗 褐 色 焼土粒子微量，部分的に締まり有り
10 暗 褐 色 焼土粒子微量，締まり有り
11 赤 褐 色 ローム粒子少量，焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
12 黒 褐 色 焼土粒子少量，締まり無し
13 明 褐 色 ローム粒子多量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
14 暗赤褐色 ローム粒子微量，焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子少量
15 にぶい赤褐色 ローム粒子微量，焼土粒子中量，焼土小・中ブロック少量
16 赤 褐 色 ローム粒子微量，炭化粒子多量
17 暗赤褐色 ローム粒子微量，焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子多量
18 褐 色 ローム小・中ブロック少量，締まり有り
19 暗 褐 色 ローム粒子・焼土粒子極微量



SK 94



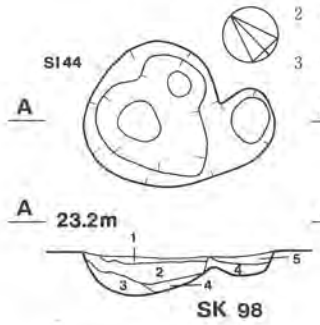
SK 95



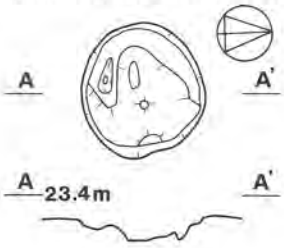
SK 96

土層解説

1 極暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，締まり有り，硬質
2 にぶい赤褐色 ローム中ブロック中量，焼土粒子・焼土小ブロック少量，締まり有り
3 暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック微量，硬質

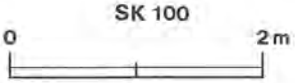


SK 98



SK 99

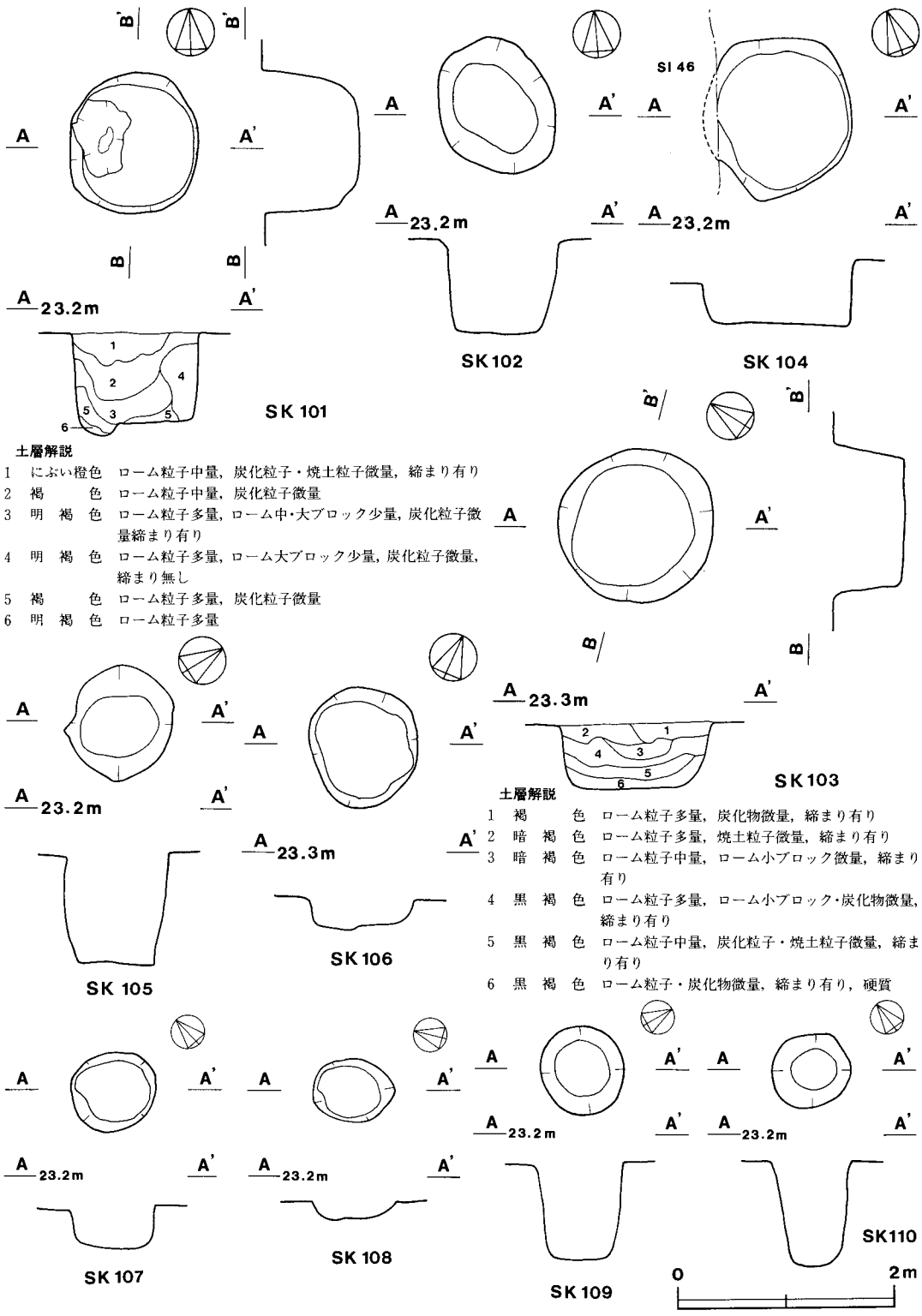
SK 100



土層解説

1 褐 色 ローム粒子多量，炭化粒子・焼土粒子少量，締まり有り
2 明 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量，締まり有り
3 明 褐 色 ローム粒子多量，ローム大ブロック中量
4 明 褐 色 ローム粒子多量，焼土粒子微量，軟質
5 暗 褐 色 ローム粒子少量，炭化粒子微量，軟質

第149図　土坑実測図(XI)



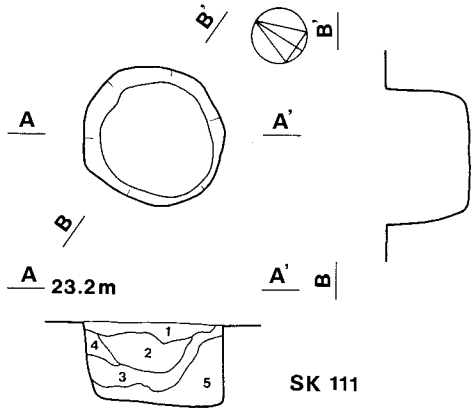
土層解説

1 にぶい橙色 ローム粒子中量，炭化粒子・焼土粒子微量，締まり有り
2 褐　　色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
3 明 褐 色 ローム粒子多量，ローム中・大ブロック少量，炭化粒子微量締まり有り
4 明 褐 色 ローム粒子多量，ローム大ブロック少量，炭化粒子微量，締まり無し
5 褐　　色 ローム粒子多量，炭化粒子微量
6 明 褐 色 ローム粒子多量

土層解説

1 褐　　色 ローム粒子多量，炭化物微量，締まり有り
2 暗 褐 色 ローム粒子多量，焼土粒子微量，締まり有り
3 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，締まり有り
4 黒 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化物微量，締まり有り
5 黒 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子・焼土粒子微量，締まり有り
6 黒 褐 色 ローム粒子・炭化物微量，締まり有り，硬質

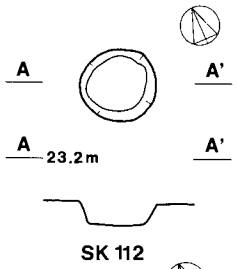
第150図　土坑実測図(XII)



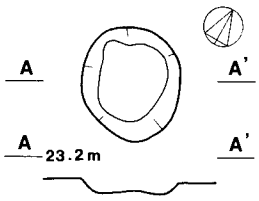
SK 111

土層解説

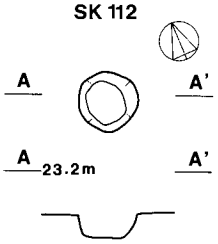
1 暗 褐 色 ローム粒子微量，ローム小ブロック少量，炭化粒子中量，炭化小ブロック少量，締まり有り
2 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・炭化粒子・炭化小ブロック少量，締まり有り
3 褐 色 ローム粒子・ローム小・中ブロック・炭化粒子少量，締まり有り
4 褐 色 ローム粒子中量，炭化粒子少量，締まり有り
5 褐 色 ローム粒子中量，ローム大ブロック少量



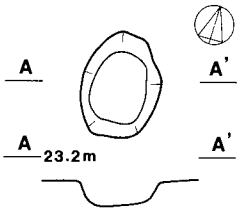
SK 112



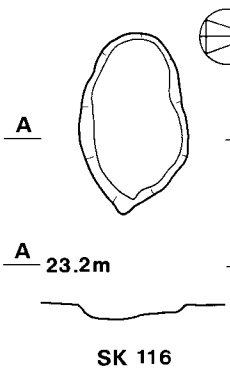
SK 114



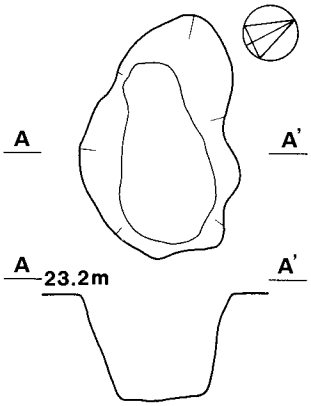
SK 113



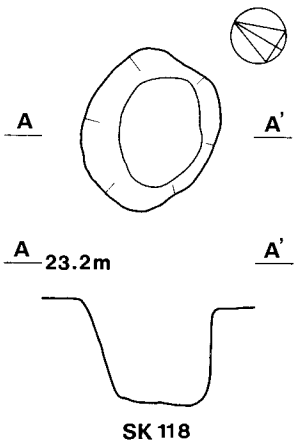
SK 115



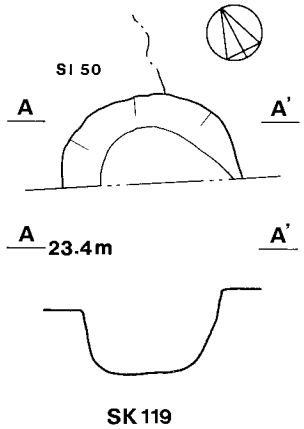
SK 116



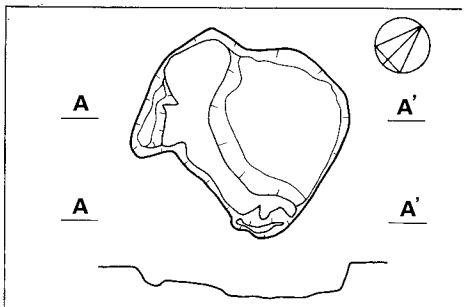
SK 117



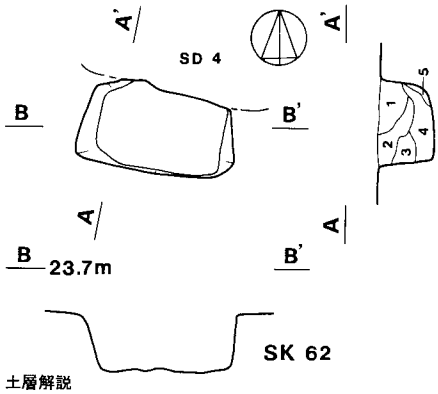
SK 118



SK 119



SK 22



SK 62

土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム小・中ブロック少量
2 褐 色 ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
3 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，締まり無し
4 褐 色 ローム粒子多量，ローム小・中ブロック少量，軟質
5 褐 色 ローム粒子多量，ローム小・中ブロック少量，軟質

墓 壙

0 2m

第151図 土坑実測図(XIII)

3　溝

当遺跡からは，総数10条の溝が検出されている。第１～４号溝については，その形状と周囲の地割りの様子から推察すると，区画溝の性格をもつものと思われるが，詳細は不明である。第７号溝については，後述し，それぞれの溝の解説は一覧表の中に掲載する。

表３　溝一覧表

溝番号	位置	主軸方向	断面	規模（m）				壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長さ	上幅	下幅	深さ					
1	B2, C2	N-29°-E	皿状	38.80	0.34～1.74	0.12～1.48	0.20～0.35	外傾	凹凸	自然	縄文式土器片17片 土師器片1片	SD2との新旧関係は不明 第152図
2	C2	N-58°-W	皿状	5.46	0.24～0.43	0.23～0.38	0.07～0.10	外傾	凹凸	自然	縄文式土器片112片 土師器片32片	第152図
3	A13	N-72°-W	皿状	13.08	0.62～1.00	0.46～0.90	0.15～0.20	外傾	凹凸	自然	縄文式土器片22片 土師器片4片	SK19が旧 第153図
4	A13 A14	N-79°-W	逆台形	49.83	0.40～1.38	0.24～1.26	0.08～0.19	外傾	凹凸	自然	無	SK26が旧・SK62が新 第153図
5	C19	N-76°-E	逆台形	20.00	0.58～0.84	0.18～0.64	0.29～0.35	外傾	平坦	自然	縄文式土器片10片 土師器片4片	SI3・5・SK120が旧 第154図
6	D20	N-18°-W	逆台形	21.68	0.56～0.95	0.34～0.56	0.20～0.38	外傾	平坦	自然	縄文式土器片135片 土師器片23片	SK41・43が旧 第154図
7	E22	N-15°-W	V字状	20.50	1.40～2.00	0.10～0.14	0.70～0.88	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片57片 土師器片21片	SD9・10が新 第155図
8	E22	N-65°-W	皿状	(5.74)	(0.84)～(1.06)	(0.58)～(1.18)	0.12～0.28	緩斜	平坦	自然	無	第156図
9	E22	N-77°-E	皿状	(12.78)	0.36～1.08	0.08～0.44	0.05～0.09	緩斜	平坦	自然	縄文式土器片1片	SD7が旧 第156図
10	E22	N-89°-W	皿状	(12.80)	0.68～1.80	0.08～1.28	0.18～0.75	緩斜	平坦	自然	無	SD7が旧 第156図

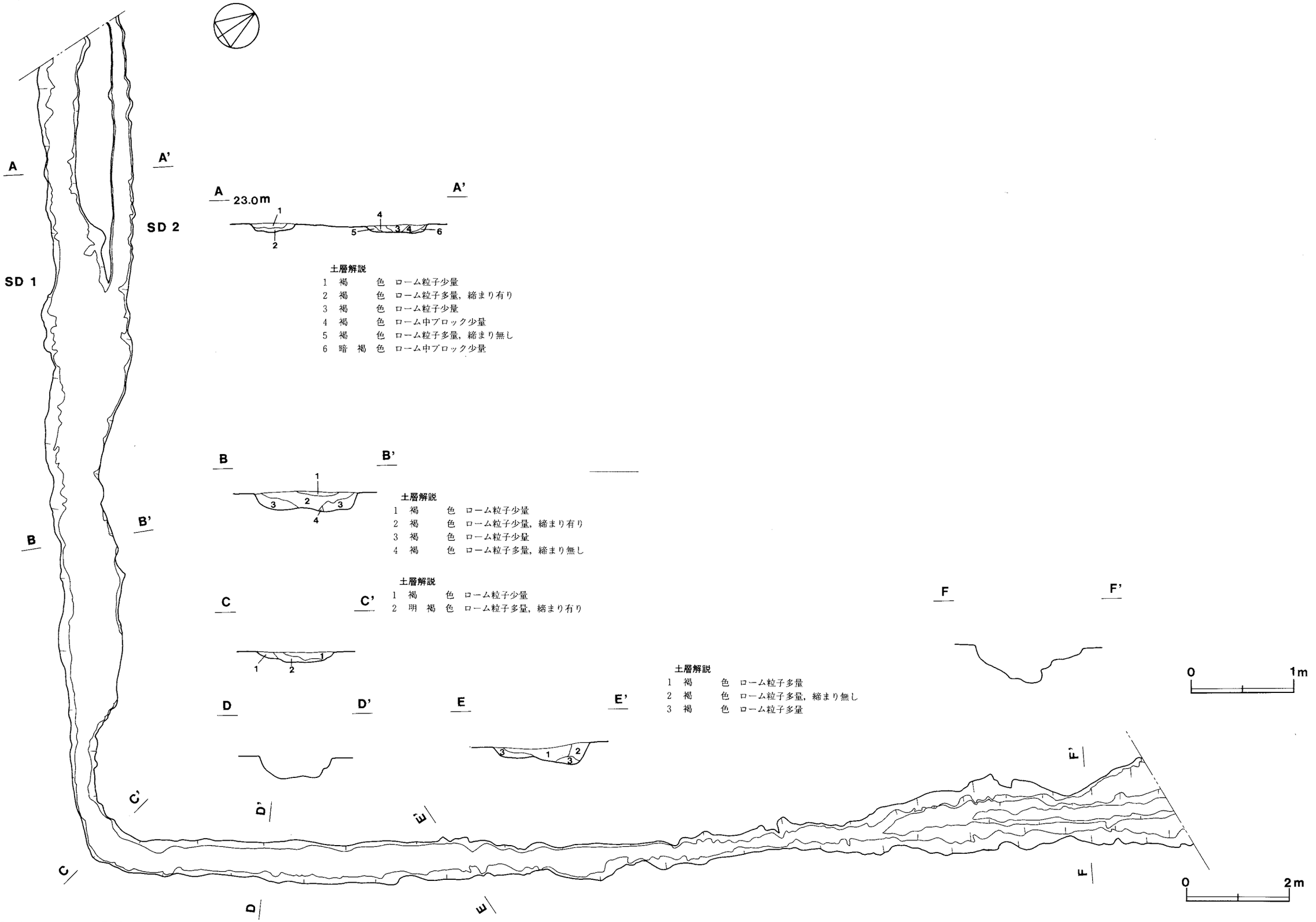
第７号溝（第155図）

位置　調査区の西部。E22区に確認された。**重複関係**　第９・10号溝と重複するが，本跡の方が古い。**規模と形状**　上幅1.40～2.00m，下幅0.10～0.14m，深さ0.70～0.88m，全長(21.24)mを測り，断面形はV字状を呈する。**主軸方向**　N－15°－E。北西～南東に直線状に延びる。

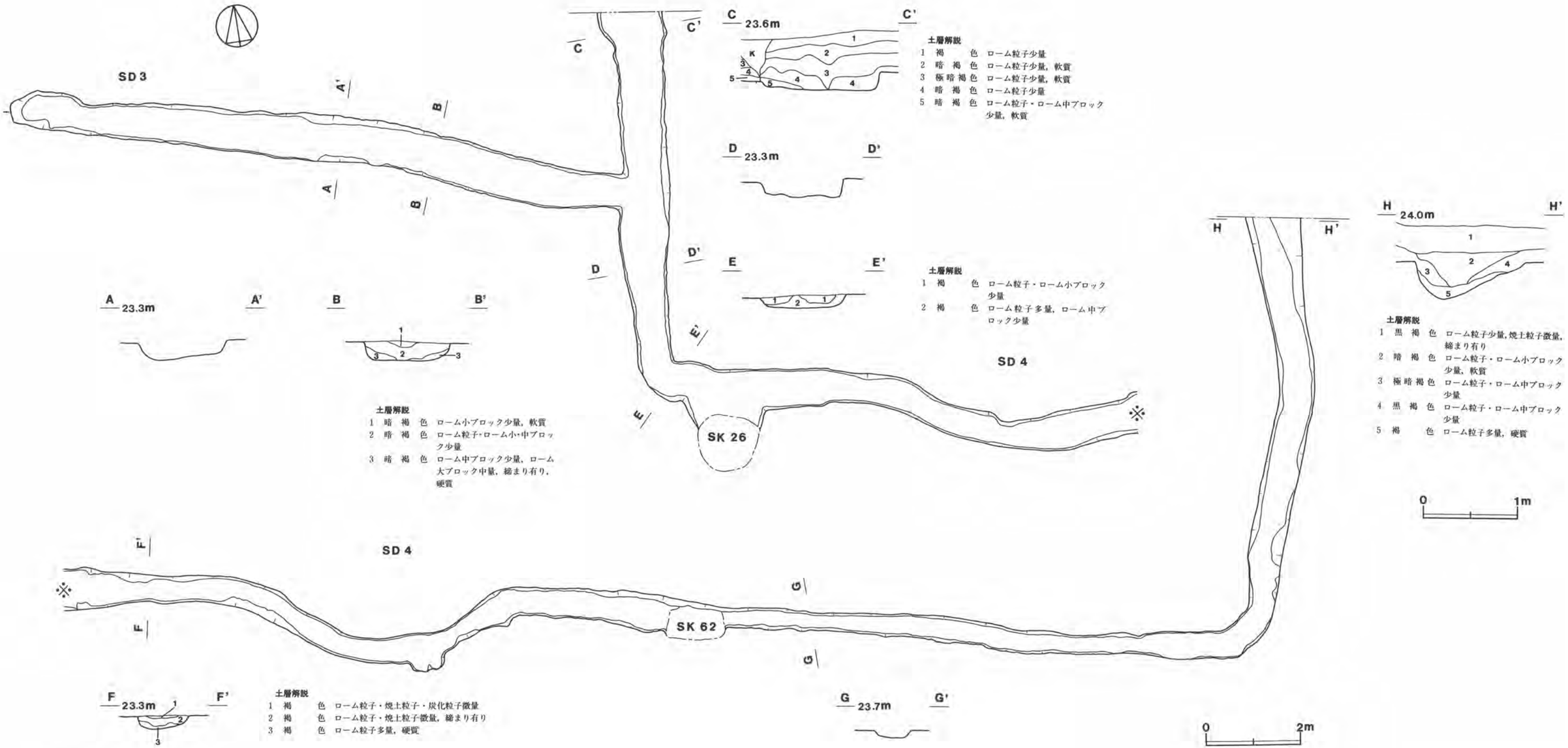
高低　北西端部は，標高22.12m，中央部22.11m，南東端部22.11mで水平である。**覆土**　自然堆積。黒色土・暗褐色土で締まりが有る。

遺物　縄文式土器57点，土師器21点(内，赤彩４点)が覆土から出土している。

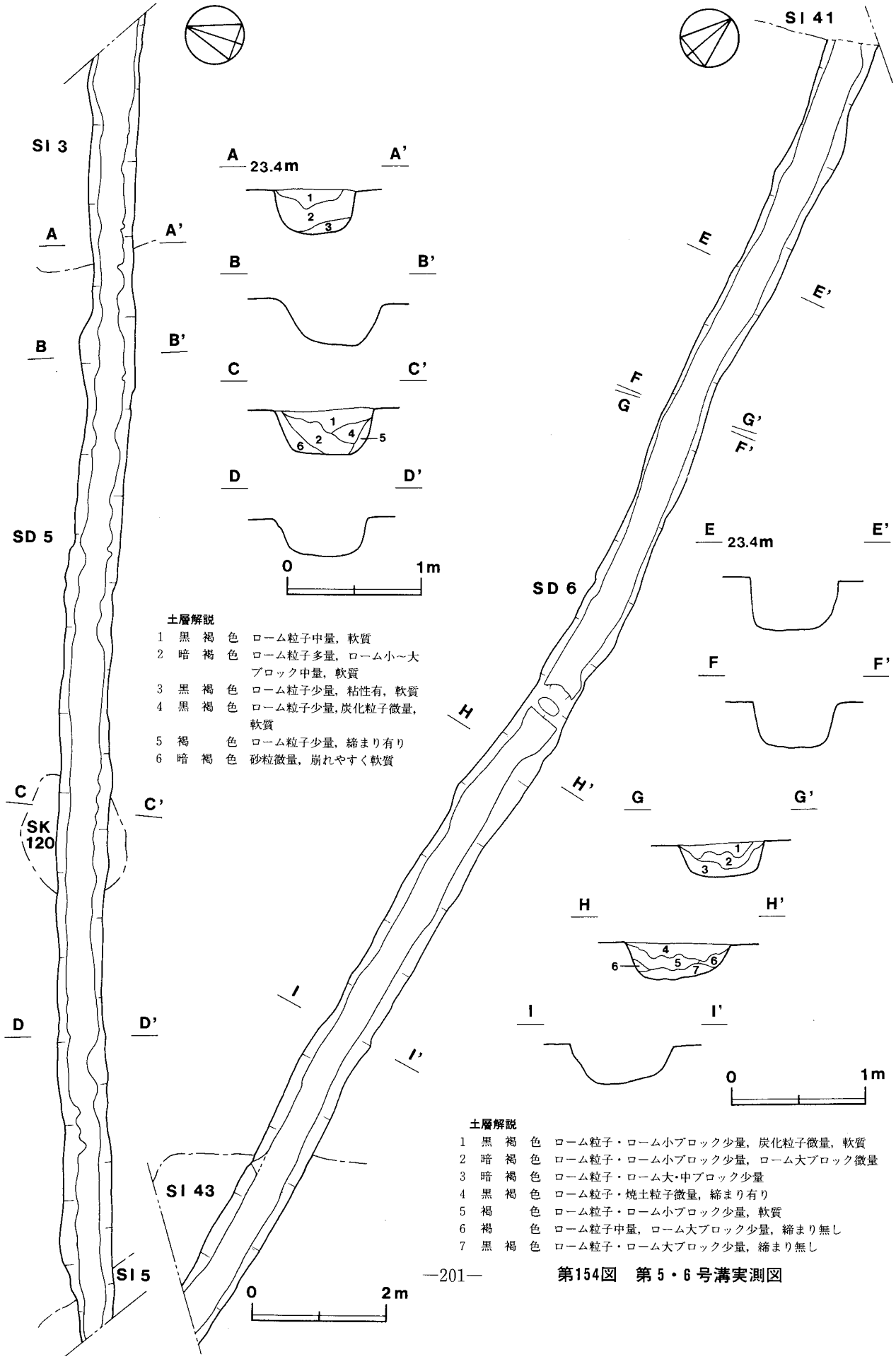
所見　本跡は，壁面もしっかりしており，当遺跡内においては大形の溝である。調査区域を横切っており，一部の調査であったため時期・性格等を特定することはできなかった。



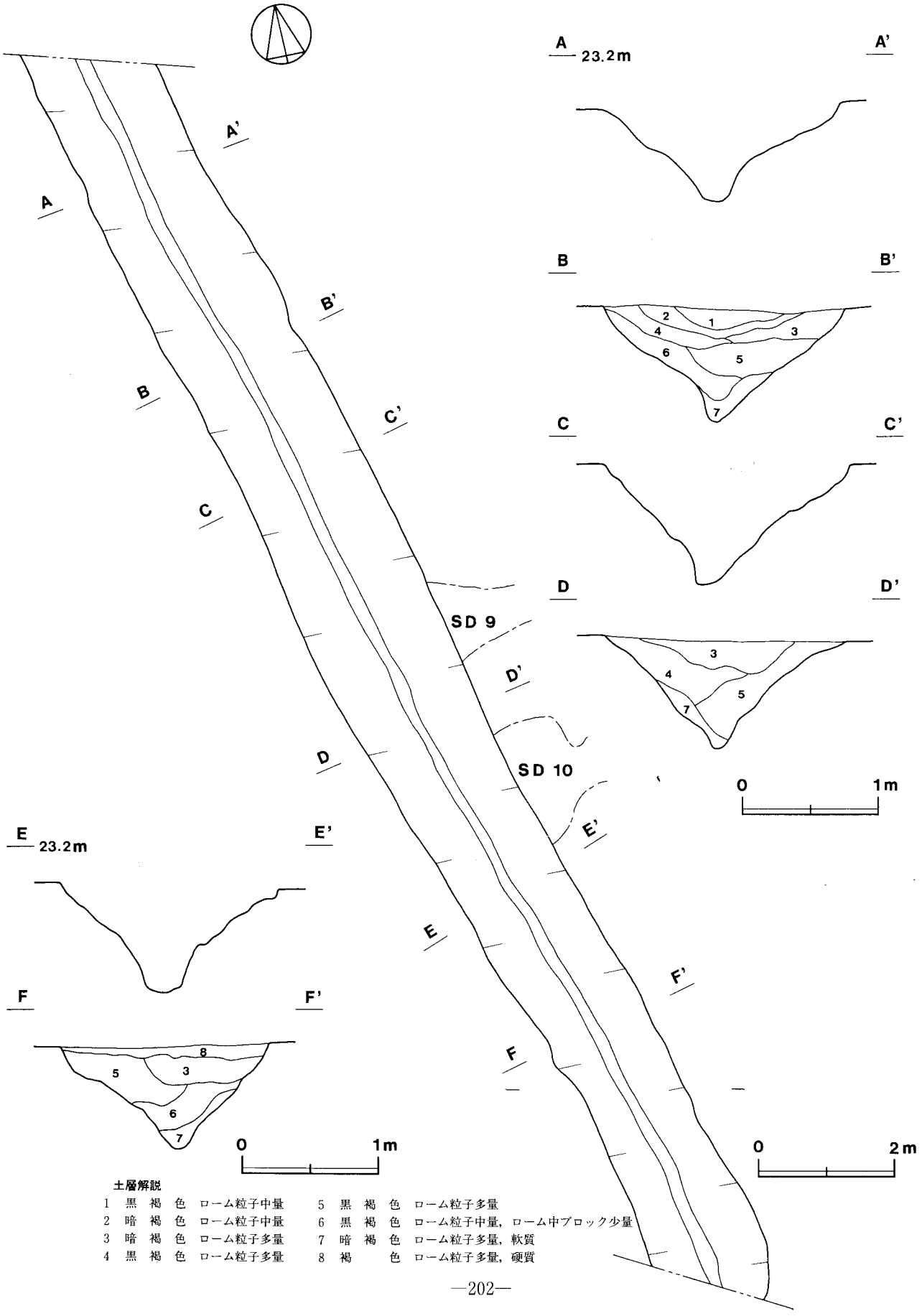
第152図　第1・2号溝実測図



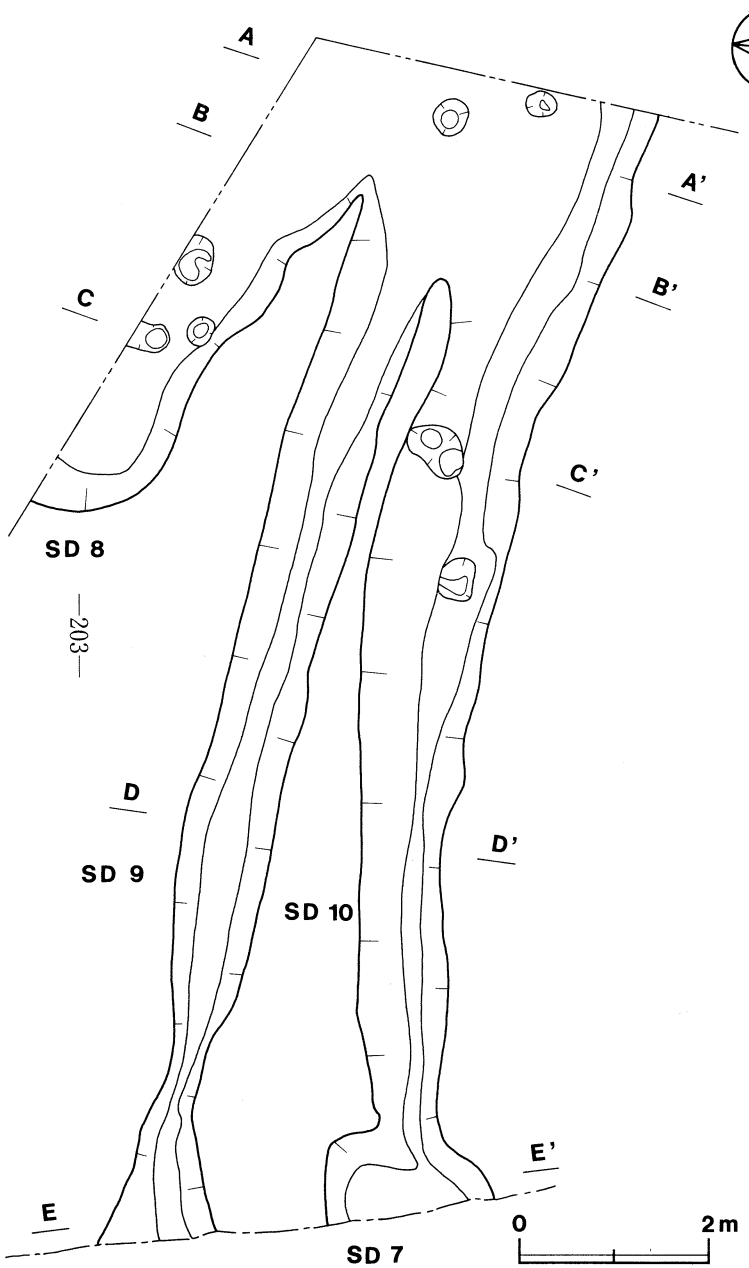
第153図　第3・4号溝実測図

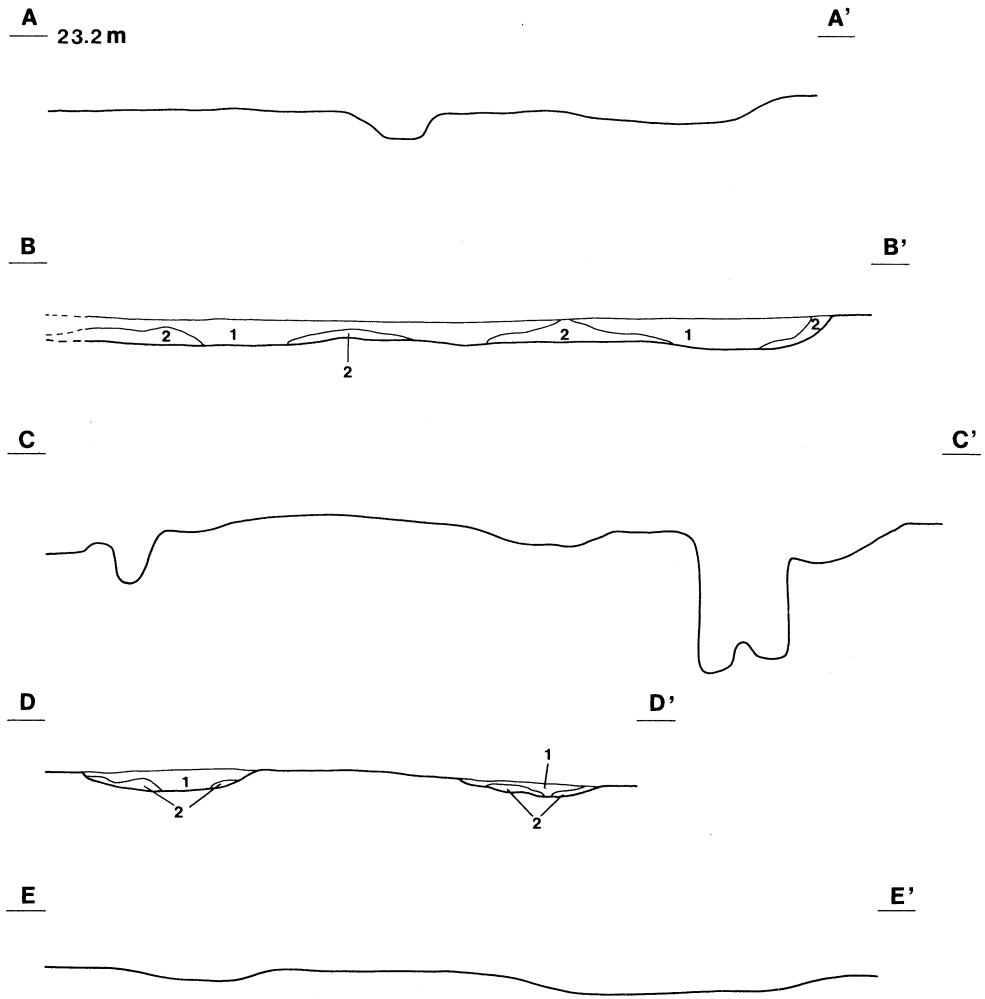


第154図　第5・6号溝実測図



第155図　第7号溝実測図





土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小・中ブロック少量，軟質

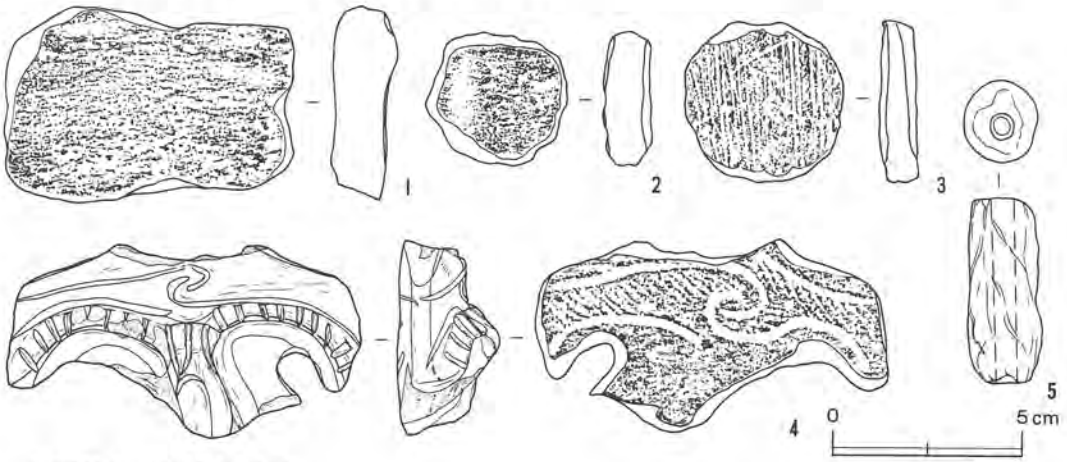
2　明　褐　色　ローム中～大ブロック中量，粘性有り

0　1m

第156図　第8・9・10号溝実測図

4　土製品・石器(第157～160図)

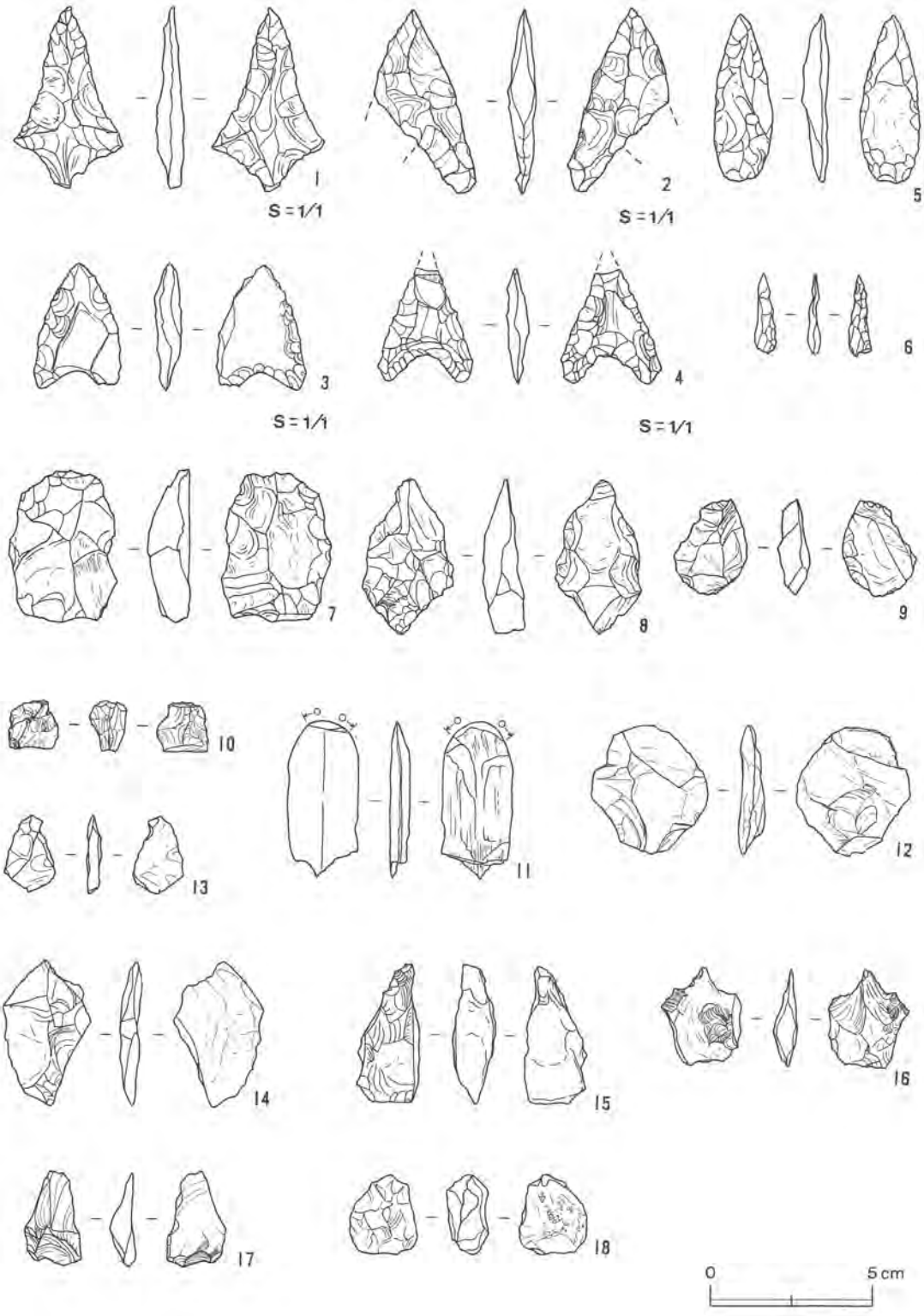
本項では，当調査区から出土した土製品・石器について，それぞれの法量及び特徴等を一覧表にまとめ，形状については実測図として掲載する。



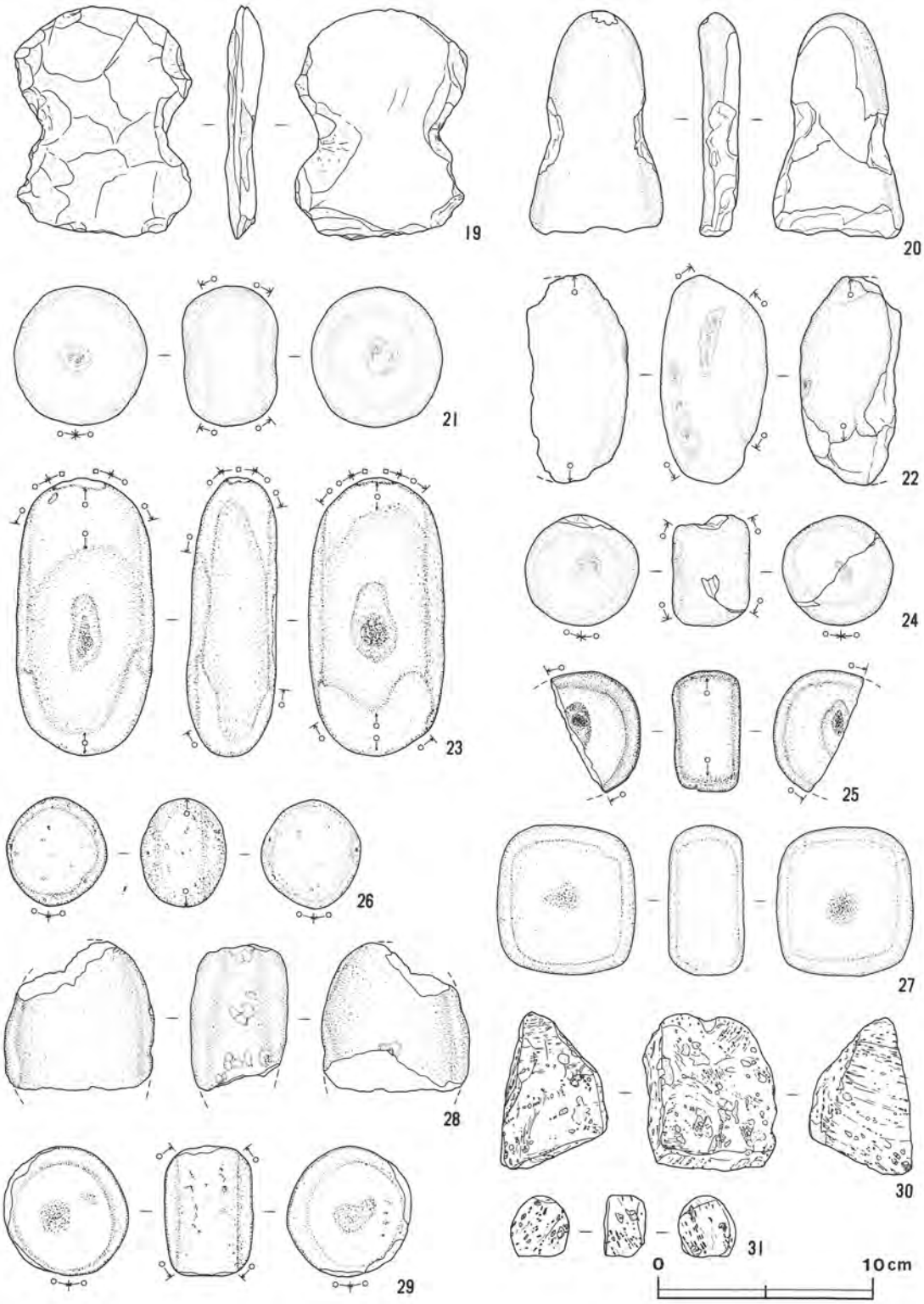
第157図　土製品実測図

表4　土製品一覧表

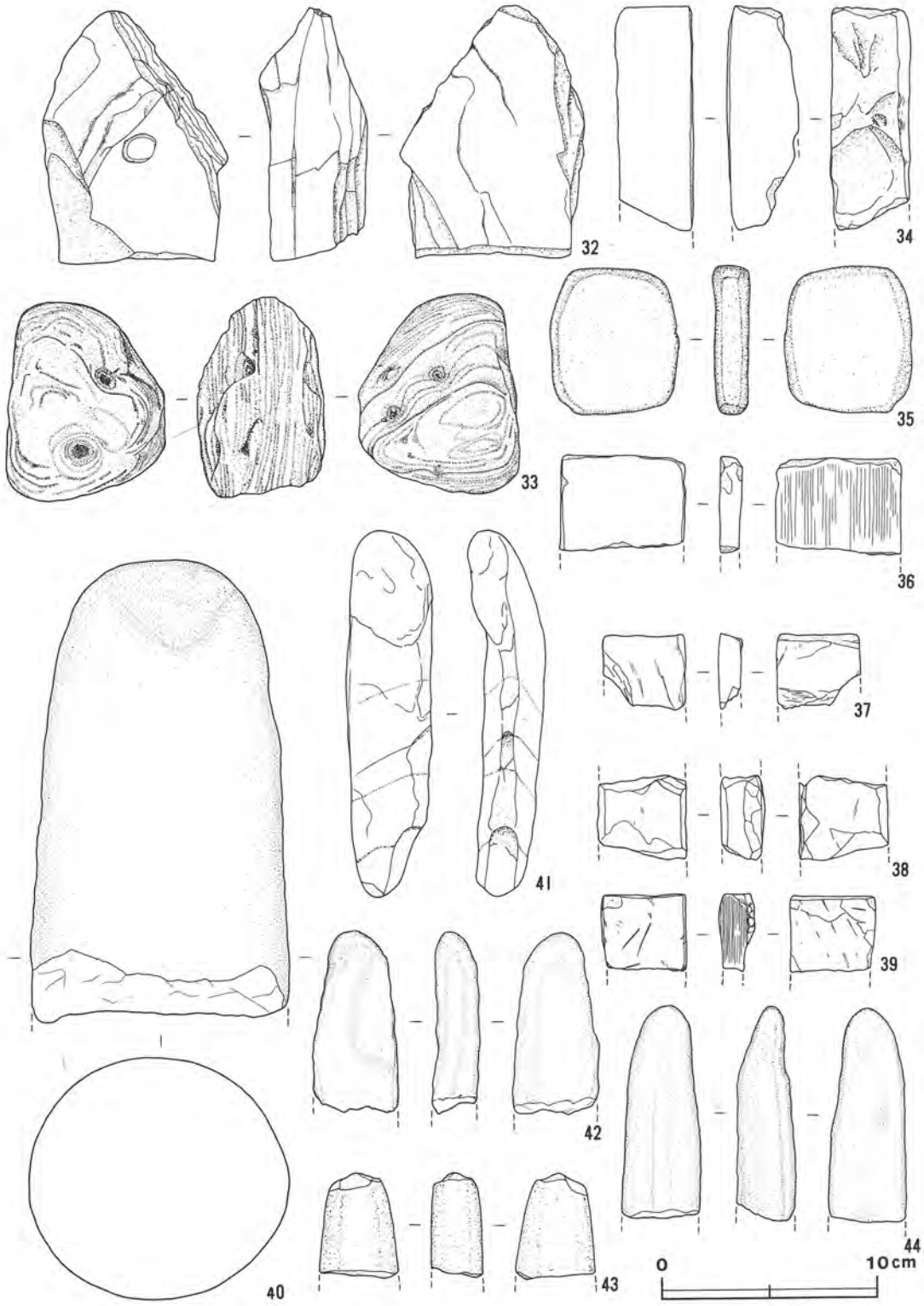
図版番号	器種	法量 最大長(cm)	最大幅(cm)	孔径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	出土地点	台帳番号	備考
第131図11	球状土錘	4.0	3.5	0.9		41.4	SI17 北部床面	DP1	100% PL37
〃 12	球状土錘	3.4	3.4	0.6		36.2	SI17 北部床面	〃 2	100% PL37
〃 13	球状土錘	3.5	3.2	0.7		32.0	SI17 北部床面	〃 3	100% PL37
〃 14	球状土錘	3.4	3.3	0.7		32.2	SI17 北部床面	〃 4	100% PL37
〃 15	球状土錘	3.3	3.2	0.9		32.3	SI17 北部床面	〃 5	100% PL37
〃 16	球状土錘	3.6	3.4	0.8		35.4	SI17 北部床面	〃 6	100% PL37
〃 17	球状土錘	3.7	3.8	0.6		34.2	SI17 北部床面	〃 7	100% PL37
第10図13	有孔円板	6.6	(3.8)		1.3	(32.0)	SI26 北西部覆土上層	〃 8	50% PL37
〃 14	土製円板	4.6	4.6		1.2	24.0	SI26 北東部覆土上層	〃 9	100% PL37
〃 15	土製円板	3.9	3.9		1.3	18.0	SI26 中央部覆土上層	〃 10	100% PL37
〃 16	土製円板	4.0	3.9		1.2	16.8	SI26 中央部覆土上層	〃 11	100% PL37
〃 17	土製円板	3.7	3.8		1.4	18.7	SI26 北東部覆土上層	〃 12	100% PL37
〃 18	土製円板	(4.9)	(2.6)		(1.0)	(8.5)	SI26 北西部覆土上層	〃 13	40%
第12図13	土製円板	3.5	3.2		1.1	11.1	SI27 中央部覆土下層	〃 14	100% PL37
第157図1	土器片錘	7.7	5.2		1.5	59.9	SI40 東部覆土上層	〃 16	100% PL37
〃 2	土製円板	3.8	3.7		1.3	15.3	SI46 南東部床面	〃 17	100% PL37
第40図12	土製円板	3.4	3.4		1.3	13.8	SI47 中央部覆土下層	〃 18	100% PL37
第52図8	土製円板	5.3	5.1		1.5	40.7	SK59 床面	〃 19	100% PL37
第157図3	土製円板	4.3	4.2		1.0	17.2	表採	〃 20	100% PL37
〃 4	土偶片	(5.2)	(9.5)		(2.8)	(84.4)	トレンチ	〃 21	20% PL37
〃 5	管状土錘	4.9	1.9		0.7	21.5	トレンチ	〃 22	100% PL37



第158図　石器実測図(1)



第159図　石器実測図(II)



第160図　石器実測図(Ⅲ)

表5　石器一覧表

図版番号	器種	法量				石質	出土地点	台帳番号	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)				
第158図1	石鏃	2.7	1.7	0.5	1.3	チャート	SI9 南東部覆土上層	Q 1	PL39
第28図18	石鏃	(1.8)	2.2	0.6	(2.0)	チャート	SI33 覆土	〃 2	PL39
第158図2	石鏃	2.9	(1.5)	0.5	1.2	チャート	SI39 東部覆土中層	〃 3	PL39
〃 3	石鏃	2.0	1.4	0.5	0.8	チャート	表採	〃 4	PL39
〃 4	石鏃	(1.7)	1.5	0.4	0.7	チャート	表採	〃 5	PL39
〃 5	尖頭器	5.2	1.8	0.9	6.9	流紋岩	トレンチ	〃47	PL39
〃 7	削器	4.6	3.3	1.3	19.9	ホルンフェルス	表採	〃56	PL39
〃 9	石匙	2.9	2.3	1.1	4.5	チャート	表採	〃58	PL39
〃 10	石匙	1.7	1.5	1.7	2.2	黒曜石	表採	〃59	
第28図19	石匙	3.3	3.2	1.1	7.5	チャート	SI33 中央部炉内	〃17	PL39
第158図6	石錐	2.5	0.7	0.5	0.6	チャート	SK99 覆土	〃32	PL39
〃 12	剝片	4.0	3.5	0.8	8.7	流紋岩	SI17 南西部覆土上層	〃12	使用痕　PL39
第40図13	剝片	2.8	2.1	0.5	2.5	碧玉(チャート)	SI47 南東部覆土上層	〃26	使用痕　PL39
第158図13	剝片	2.4	1.5	0.5	1.4	メノウ	SD7　覆土	〃35	PL39
〃 14	剝片	4.4	2.7	0.6	5.0	メノウ	トレンチ	〃39	使用痕　PL39
〃 15	石核	4.2	1.9	1.3	10.4	チャート	SI 9 南東部覆土上層	〃 8	PL39
〃 16	石核	3.0	2.5	0.8	3.2	頁岩	SI11 南東部覆土下層	〃 9	PL39
〃 17	石核	2.9	1.7	0.8	2.6	黒曜石	SI43 東部床面	〃24	
〃 18	石核	2.4	2.0	1.3	7.6	メノウ	トレンチ	〃40	PL39
〃 8	石核	4.8	2.8	1.3	12.1	チャート	表採	〃57	PL39
〃 11	鑿形石斧	4.8	2.2	0.6	7.6	頁岩	SI 9 南東部覆土下層	〃 7	石剣片を二次加工　PL40
第33図18	磨製石斧	(3.0)	3.2	1.7	(17.0)	輝緑岩	SI35 北東部覆土上層	〃19	PL40
第42図12	磨製石斧	9.7	5.1	2.7	220.6	輝緑岩	SI50 北部床面	〃28	PL40
第50図8	打製石斧	(5.8)	7.4	2.1	(119.9)	安山岩	SK26 南東部覆土上層	〃29	PL40
第159図19	打製石斧	10.9	8.2	1.8	157.8	安山岩	表採	〃54	PL40
〃 20	打製石斧	(10.5)	6.1	2.0	(156.0)	砂岩	表採	〃53	PL40
〃 21	磨石	6.6	6.2	4.5	268.3	安山岩	SI 1 西部覆土下層	〃 6	PL40
〃 22	磨石	9.8	(4.8)	5.0	(265.8)	安山岩	SI13 西部覆土下層	〃10	
〃 23	磨石	13.0	6.3	4.2	465.7	安山岩	SI17 南西部床面	〃11	PL40
〃 24	磨石	(5.2)	5.3	3.7	(168.8)	花崗岩	SI18 東部床面	〃13	PL40
第25図16	磨石	9.0	8.2	6.1	536.0	安山岩	SI32 中央部炉内	〃15	
第33図17	磨石	6.4	6.0	3.8	202.8	安山岩	SI35 北東部覆土上層	〃18	PL40
第159図25	磨石	(5.6)	4.1	3.2	(92.5)	安山岩	SI37 東部覆土上層	〃20	
〃 26	磨石	5.1	4.7	3.9	73.7	安山岩	SI41 西部覆土下層	〃22	PL40
〃 27	磨石	7.0	6.3	3.6	292.8	安山岩	SI42 南部床面	〃23	PL40
第40図14	磨石	(7.1)	(4.9)	4.5	(169.9)	安山岩	SI47 中央部覆土下層	〃27	
第51図6	磨石	(9.3)	9.2	4.9	(495.9)	安山岩	SK47 北東部覆土下層	〃31	PL40
第54図9	磨石	(6.4)	5.7	2.8	(144.0)	安山岩	SK120 覆土	〃34	

図版番号	器種	法量				石質	出土地点	台帳番号	備考
		最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)				
第159図28	磨石	(6.9)	7.0	4.6	(338.5)	安山岩	トレンチ	Q43	
〃 29	磨石	6.0	5.9	4.2	221.2	安山岩	表採	〃55	PL40
第20図20	石皿	13.9	(8.6)	4.0	(870.8)	花崗岩	SI33 中央部覆土上層	〃16	PL38
第160図32	石皿	(11.7)	8.7	5.0	(564.7)	ホルンフェルス	表採	〃52	PL38
第20図15	凹石	21.4	12.8	5.2	1444.9	片麻岩	SI30 北部床面	〃14	土器片囲い炉の一部。PL38
第160図33	凹石	9.3	7.5	5.9	550.0	片麻岩	SK111 床面	〃33	PL38
第50図9	石棒	(7.6)	7.6	6.7	(347.2)	緑泥片岩	SK26 南西部覆土下層	〃30	PL38
第160図41	石棒	17.0	4.1	3.6	284.0	流紋岩	トレンチ	〃38	PL38
〃 42	石棒	(8.5)	4.1	2.3	(101.8)	流紋岩	トレンチ	〃42	PL38
〃 43	石棒	(4.9)	(3.7)	(2.4)	(65.9)	砂岩	トレンチ	〃48	
〃 44	石棒	(10.0)	3.7	2.8	(129.6)	安山岩	トレンチ	〃49	PL38
〃 40	石棒	(21.6)	12.2	11.4	(4290.0)	安山岩	表採	〃51	PL38
〃 34	砥石	(10.4)	3.7	3.3	(170.6)	砂岩	トレンチ	〃37	
〃 35	砥石	6.8	6.1	1.8	114.7	砂岩	トレンチ	〃36	
〃 36	砥石	(4.5)	5.8	1.1	(53.3)	凝灰岩質の流紋岩	トレンチ	〃44	
〃 37	砥石	(3.4)	3.9	1.2	(21.1)	凝灰岩質の流紋岩	トレンチ	〃45	
〃 38	砥石	(4.0)	4.2	2.1	(30.8)	凝灰岩質の流紋岩	トレンチ	〃46	
〃 39	砥石	(3.6)	4.0	1.7	(29.6)	凝灰岩質の流紋岩	トレンチ	〃50	
第159図30	軽石	7.3	4.9	6.3	31.6	軽石	SI39 北部覆土下層	〃21	
〃 31	軽石	2.8	2.7	2.0	3.1	軽石	SI46 北西部覆土上層	〃25	

第5章　考　察

第1節　縄文時代について

当調査区から検出された縄文時代の遺構は，竪穴住居跡18軒，竪穴遺構1基，土坑6基，屋外炉1基である。時期的には，縄文時代中期の加曽利EIII式期に入る遺構が中心であるが，竪穴住居跡の中に加曽利EIV式期に比定される住居跡が1軒含まれている。遺物は，縄文式土器では加曽利EIII式のキャリパー形の深鉢形土器を中心に，鉢形土器・器台形土器が出土している。土製品は，土器片錘・土製円板・有孔円板・土偶片が出土しているが，全体的に数は少ない。石器も数は少なく，石鏃・石斧・石匙・磨石・石棒等が出土している。本節においては，竪穴住居跡と縄文式土器について整理し，当遺跡の特色の一端について記述する。

1　竪穴住居跡

縄文時代の住居跡は，調査区の中央部東寄りに8軒が，中央部西寄りに3軒が検出され，東部からは7軒が検出されている。出土した土器から2つの時期に分けて，平面形状・規模・炉・柱穴についてその特徴を述べる。

（1）　加曽利EIII式期

該期の住居跡は，17軒で，調査区中央部東寄りに多く検出されている。

平面形は，円形が6軒(第27・29・31・34・38・51号)と一番多く，ついで楕円形(第25・26・28・52号)，不整円形(第32・33・36・50号)がそれぞれ4軒，不整楕円形(第30・35号)が2軒検出されている。他に，柱穴・炉床だけが確認されただけで，形状を捉えられないものが1軒(第20号)検出されている。

規模は，面積で分類すると10㎡未満が3軒(第33・34・52号)，10㎡以上～15㎡未満が10軒(第25・26・27・28・29・30・32・36・38・51号)，15㎡以上が4軒(第31・35・47・50号)である。

炉は，地床炉で，第30号住居跡からは土器片囲い炉，第34・38・50号住居跡からは，土器埋設炉が検出されている。炉をもたない住居跡は，3軒(第25・28・31号)であるが，他に，調査区域外にかかり，全体の調査ができなかった住居跡が1軒あった。炉の設置位置については，ほとんどが住居跡のほぼ中央部であり，第30号住居跡の土器片囲い炉は，北壁寄りに設置されており，当遺跡内においては異色である。第38号住居跡の土器埋設炉は，石こそ使用されていないものの大木式期の複式炉の形態に似ており，近くの第33号住居跡から出土している大木9a式に比定される深鉢形土器と考え合わせた時，大木文化との交流を窺うことができる。

柱穴は，方形状に配列される住居跡と壁に沿って円形又は楕円形に配列される住居跡に分けら

れる。前者のタイプとしては，第28・30・31・34・38号住居跡がある。後者は，第26・27・29・32・33・35・36・50・51号住居跡である。

（２） 加曽利ＥⅣ式期

該期の住居跡は第47号住居跡のみで，当調査区の東端の第50・51号住居跡に近接して検出されている。平面形は円形を呈し，直径4.56mの規模をもつ住居跡である。遺存状態が良好で，深目の壁周溝と壁周溝内に打たれていたと思われる柱穴が明瞭に確認されている。炉は，床面中央に設置され，柱穴は，壁に沿って10か所が検出されている。本住居跡は，加曽利ＥⅢ式期の第26・27・29・32・33・36・50・51号住居跡の柱穴の配列に，共通点を見出すことができる。

２　縄文式土器

当調査区からは，縄文時代前期から後期にわたる土器片が出土し，それらは，前期の黒浜式，中期の大木9a式・加曽利Ｅ式，後期の称名寺式・堀之内式・加曽利Ｂ式・安行式の土器片である。その中で，遺構に伴うものは加曽利ＥⅢ・ＥⅣ式であり，この項では，その２期の土器について器形，文様の特徴について述べる。

（１） 加曽利ＥⅢ式土器

加曽利ＥⅢ式期の，主な深鉢形土器の特徴を整理すると以下の４通りになる。

Ⅰ種は，この時期で古手の文様を有する土器として，連弧文をもつ土器が出土している。器形は，胴部が緩くくびれ，口縁部に向かって内彎しながら開く形状をもつ深鉢形土器である。地文には，撚糸文，櫛歯状工具による条線文が施されている（第28図12・13，第42図１）。

Ⅱ種は，キャリパー形を呈する深鉢形土器で，口縁部は平縁と波状縁の両者がある。文様帯は，口縁部文様帯と胴部文様帯が明瞭に区画され，口縁部文様帯を隆線と沈線による渦巻文と楕円文で区画し，胴部文様帯には沈線による直線的磨消帯を垂下させている（第８図５・６・７，第32図１・２・４，第27図２）。これは，南三島遺跡６・７区（下）の分類による第Ⅰ類a種に属すると思われる土器で，当調査区出土の土器では，この種のものが顕著である。

Ⅲ種は，両側にナゾリを加えた隆線による大柄な渦巻文を主とする曲線的文様が，器全体に施されている胴部隆帯文を有する土器である。口縁部は欠損しており不明であるが，第33号住居跡出土の土器（第27図１）は，胴部中位に緩いくびれを有し，胴下半部に膨らみをもつ器形である。底部は，大きめである（第９図10・11・12，第27図１）。

Ⅳ種は，Ⅲ種と同時期と思われる土器で，胴部にくびれをもち，口縁部に向かって内彎しながら開く器形をもつ土器である。口縁部文様帯が省略され，沈線によるＵ字状文，Ｖ字状文，逆Ｕ字状文，逆Ｖ字状文の連結した文様が器面全体に施されている。沈線による区画内は，磨消されている（第30図１，第49図１・２）。この土器は，南三島遺跡６・７区（下）の分類の第Ⅲ類Ｃ種と

共通すると思われる。

他の器種としては，鉢形土器が第32・33・52号住居跡から出土している。第32号住居跡から出土している土器は，肩部にはりをもち，口縁部は幅が広く外傾して開く器形で，口縁部は無文帯で，肩部には両側にナゾリを加えた隆線による横位の楕円文・渦巻文が施されている。区画内と胴部には，縄文が施されている(第24図５)。他に，胴下半部に櫛歯状工具による縦位の条線文が施された底部から胴部にかけての破片が出土している(第24図６，第46図４・５)。

器台形土器は，第26号住居跡から１点出土している。器受部から胴部にかけての破片で，全体にヘラ状工具による丁寧なナデが施されている。脚柱部中位に，円形，楕円形の孔が６孔空けられていたことが推察される(第８図４)。形状的には，赤松遺跡の第34・36号住居跡出土のものと類似している。

（２） 加曽利ＥⅣ式土器

加曽利ＥⅣ式期の土器は，器形的にはキャリパー形を呈する深鉢形土器である。口縁部は狭く，微隆線により区画されている。胴部は，文様帯がせりあがり，微隆線で区画された大柄な縦位の曲線的文様が施されている(第39図１)。他に，胴部全体に縄文が施されている土器も出土している(第39図４・５)。

第２節　古墳時代について

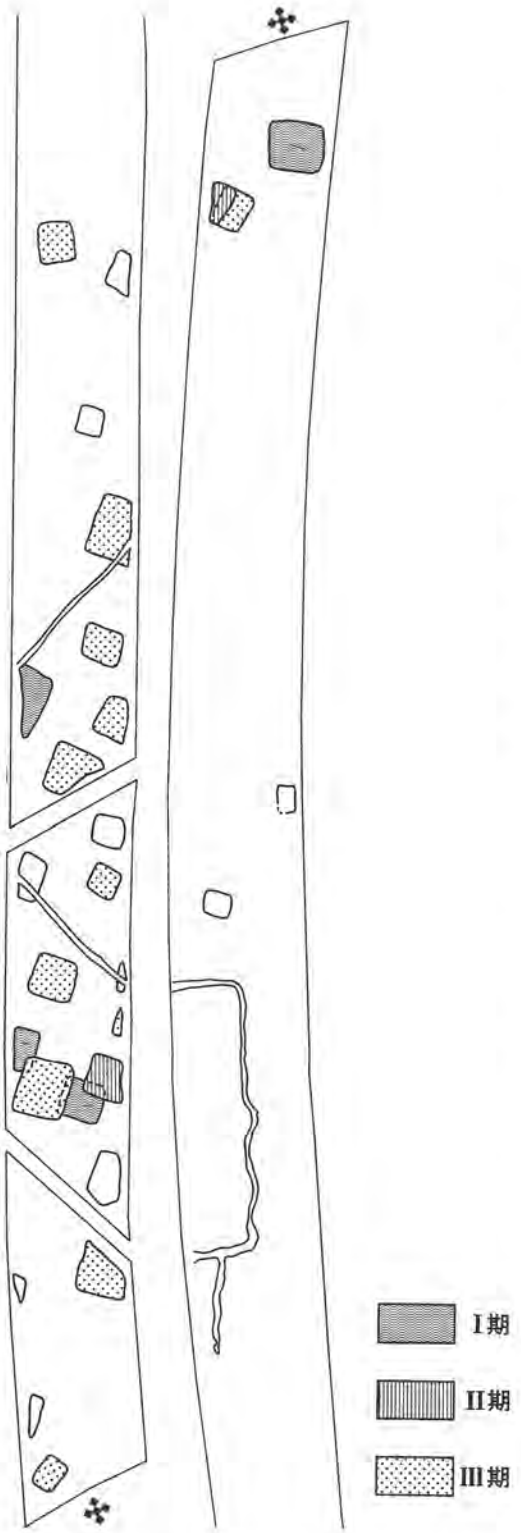
当調査区から検出された古墳時代の遺構は，竪穴住居跡28軒，竪穴遺構１基，土坑２基である。いずれも，出土した土器の特徴から古墳時代前期に比定される遺構である。

ここでは，各遺構から出土した土器を器種ごとにその特徴を列記し，住居跡の重複関係を参考にしながら時期についても若干触れておきたい。

１　竪穴住居跡

古墳時代の住居跡について，その特徴や新旧関係について整理する。

当調査区からは，28軒の住居跡が検出されている。道路幅の調査ということで，15軒が調査区外にかかり，住居跡の全体を調査することができなかった。これらの住居跡は，形状的にみると方形を呈するものが12軒(第１・８・10・14・18・19・21・37・39・41・44・45号)，隅丸方形を呈するものが15軒(第３・５・６・７・９・11・12・13・15・16・17・23・40・43・46号)，隅丸長方形を呈するものが１軒(第42号)である。規模的には，一辺の長さが３m以上～４m未満が８軒(第１・５・７・14・16・21・23・44号)，４m以上～５m未満が２軒(第37・45号)，５m以上～６m未満が11軒(第３・６・８・10・11・15・18・19・40・42・46号)，６m以上が７軒(第９



第161図　古墳時代住居跡分布図

・12・13・17・39・41・43号)である。６ｍを越える大形の住居跡は７軒であるが，その内，隅丸方形を呈するものが５軒(第９・12・13・17・43号)であり，約７割を占めている。炉は，地床炉で，ほとんどの住居跡に設置されているが，３ｍ以上～４ｍ未満の住居跡の中には炉をもたないものが３軒(第１・21・44号)存在している(表８)。

これらの住居跡の新旧関係については，遺構の重複関係からみると，重複している所は，第８・９・10・11号住居跡と第18・19号住居跡の２か所に検出されている。まず，調査区の中央部東端の第８・９・10・11号住居跡では，第８・９号住居跡と第９・10号住居跡と第10・11号住居跡が互いに重複しており，前者３軒の中では第９号住居跡が新しい。第10・11号住居跡の重複関係では，第11号住居跡が新しい。第８・10号住居跡の比較では，ともに出土遺物も少なく，時期関係を捉えることが難しい。第９号住居跡と第11号住居跡では，出土遺物の関係から，もう１か所の第18・19号住居跡の重複により新旧を推察することができる。第18号住居跡と，第11号住居跡の出土遺物(壺)の形状に類似点が見いだせる。第９号住居跡と第19号住居跡(台付甕の台部の整形，壺の下半部)にも類似点がある。この関係からみて，第９号住居跡と19号住居跡，第11号住居跡と18号住居跡が同時期と思われ，第19号住居跡より第18号住居跡が新しいことから，第９号住居跡と第11号住居跡の関係では，第11号住居跡の方が新しいと言える。以上のことから，住居跡の時間差を整理

すると3期に分けることができる。Ⅰ期は，第8号住居跡と古手の遺物を出土している第10号住居跡を中心とする時期，Ⅱ期は，第9・19号住居跡を中心とする時期，Ⅲ期は，第11・18号住居跡の時期である。

次に，前記の重複関係を基にして，各時期の遺構と出土遺物の点で類似点が多い遺構について検討する(第161図)。

Ⅰ期に属する住居跡は，第8・10・17・41号住居跡の4軒である。第8・10号住居跡は，出土遺物が少なく，遺物で他の遺構と比較検討することは困難であるが，土器分類の壺Bの(Ⅰ)，高坏A等の古手の様相を呈する遺物を伴う遺構として，第17・41号住居跡がある。第17・41号住居跡をこの時期に入れ，4軒の住居跡が当調査区の中では古手の遺構と思われる。

Ⅱ期に属する住居跡は，第1・6・7・9・13・16・19・39・40・42・43・46号住居跡の12軒である。第1・9・13・16号住居跡からは，特徴をもつ甑が出土している。その中で，第9・13・16号住居跡からは，さらに甑に共伴する遺物として同形式の甕，同形式に近い甕，小形甕が出土している。このことを合わせ考えて，甑に強い共通性をもつ第1・13・16号住居跡をこの時期に加えることができると思う。他に，第9・16・19号住居跡出土の台付甕の台部と整形に共通性をもつ第46号住居跡も同時期と思われる。第39号住居跡からは，多量の遺物が出土している。この住居跡の出土遺物と，2種以上の器種に共通する形状をもつ遺物を出土している住居跡として，第9・16・19・40・43・46号住居跡が掲げられる。その第40・43号住居跡も，この時期に加えることができると思われる。ミニチュア土器を，多量に出土している第6・7号住居跡もミニチュア土器の共伴関係等から考えて含めることができると考えられる。壺D(Ⅰ)が第16・39号住居跡，坩A(Ⅰ)が第13・46号住居跡，高坏F(Ⅱ)が第13号住居跡出土のものと，共通性をもつ第42号住居跡もこの時期であると考えられる。

Ⅲ期については，第11・18号住居跡の2軒である。この2軒からは，前述の通り，薄手で幅広の口縁部(複合口縁)を有するB(Ⅲ)の壺を共通して出土している。他に，整形の特徴としてもヘラ磨きが施され，赤彩されている点も共通している。

その他に，時期の決め手となる遺物が少なく，分類に入れなかった住居跡として第3・5・12・14・15・21・23・37・44・45号住居跡の10軒がある。

以上，重複関係をもとに遺物の形状比較により，住居跡の時間差について推察した。その結果，当遺跡は，古墳時代前期にあって，様々な生活環境の変化に適応しながら数回にわたり集落が形成され，推移していったことが窺える。

2　土師器

当調査区から出土している土師器は，甕，台付甕，壺，坩，鉢，甑，高坏，器台，ミニチュア土器である。それぞれの器種については，形態的特徴をもとに分け，必要なものは更に細分する。

（1）　**甕**　口縁部・胴部の形態差を中心に分ける（第162図）。

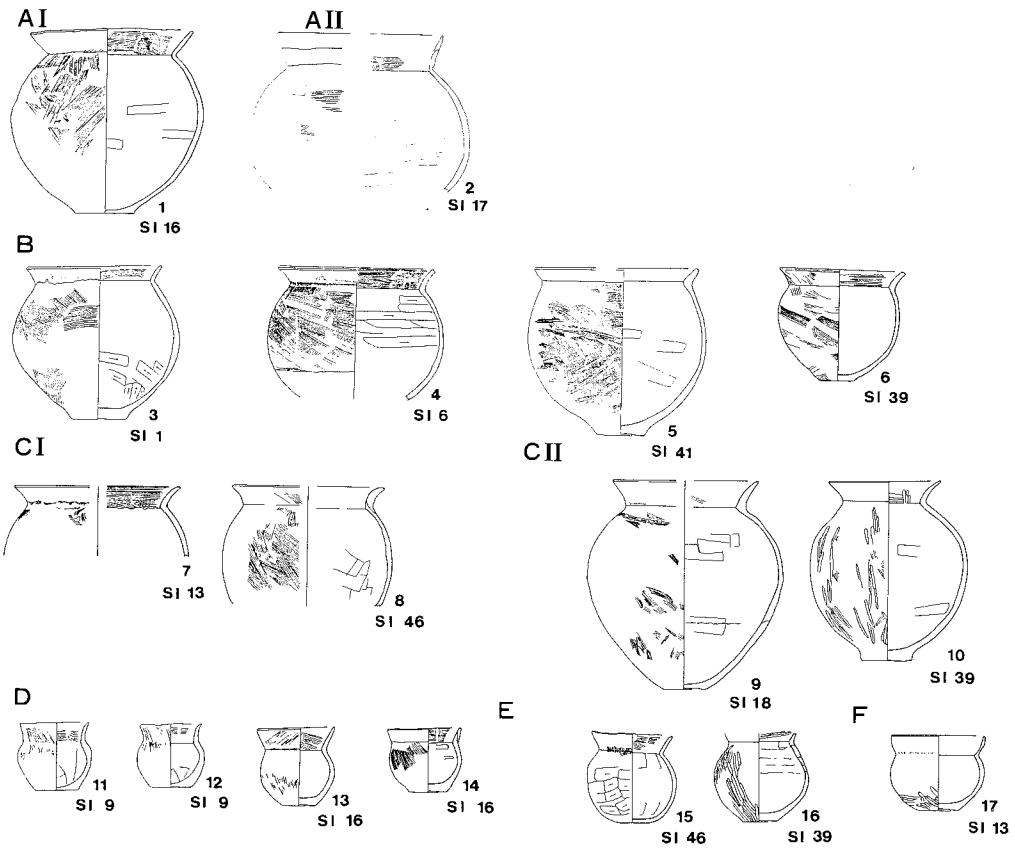
A　幅広の口縁部をもつものである。胴部は，最大径を中位にもち球形を呈する。当調査区の中では古手の様相を呈する。口縁部の形態差により2つの特徴がみられる。

（I）　口縁部は，頸部から「く」の字状に開き頸部に締まりが有る。肩部のはりが弱く，突出した平底の甕である。（1）

（II）　口縁部は垂直に近く開き，輪積痕を残す。肩部がはり胴部は球形を呈する。（2）

B　幅の狭い口縁部で外傾して開く。肩部のはりは弱く，胴部は最大径を中位にもつ球形を呈する。底部は突出した平底である。外面の整形はハケ目で，内面はヘラナデ・ヘラ削りがみられる。（3・4・5・6）

C　単口縁で，器厚を減じながら外反し端部が尖る。長胴化の傾向をもち，新しい様相を呈する。胴部の形態差により3つの特徴がみられる。



第162図　甕の分類

（I） 肩部のはりは弱いが，最大径を胴部の中位から上位にもつ。（7・8）

（II） 長胴で，胴下半部はすぼまる。底部は小さく僅かな上げ底である。9は，ハケ目整形が施されている。10は，ヘラ磨きが施されている。（9・10）

D 口縁部は，器厚を減じながら垂直に近く開く。口径が10cm以上の小形甕で，最大径を胴部上位にもつ。（11・12・13・14）

E 口縁部は外傾して開く。胴部は，最大径を中位にもつ球形を呈する。（15・16）

F 口縁部は内彎して開く。胴部は，偏平球を呈し底部に僅かな窪みを有する。（17）

（2） **台付甕** 口縁部・胴部の形態差を中心に分ける（第163図）。

A 口縁部が，頸部から「く」の字状に開く単口縁の台付甕である。口縁部・胴部の形態，整形により2つの特徴がみられる。

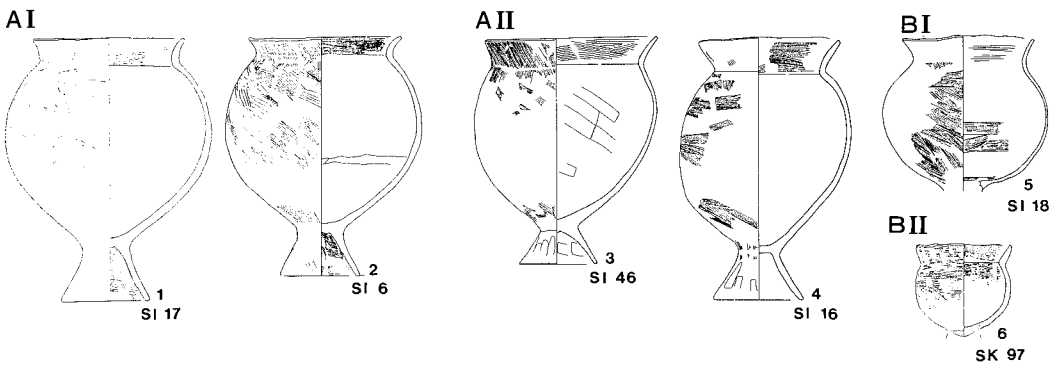
（I） 口縁部は，幅が狭く外反して開く。胴部は，最大径を中位にもつ球形を呈し，下半部に締まりをもつ。整形は，ハケ目整形が主で脚部内面にも施している。（1・2）

（II） 口縁部は，幅が広く外反して開く。胴部は，長胴気味である。整形は，ハケ目整形が主であるが，脚部内面にはヘラナデが認められる。（3・4）

B 口縁部が，頸部から「く」の字状に開く単口縁の台付甕であが，胴部は最大径を中位にもつ球形を呈する。口縁部の形態・法量差により2つの特徴がみられる。

（I） 口縁部は，緩やかに外反して開き内面に稜をもたない。口径が15.6cmの中形の台付甕である。（5）

（II） 口縁部はほぼ垂直に近く開き，口径が11.5cmの小形台付甕である。（6）



第163図 台付甕の分類

（3） **壺** 口縁部の形態差により分ける（第164図）。

A 有段口縁壺，及び有段口縁状の口縁部を有する壺である。外来系土器の影響を大きく受けていると思われるものである。当調査区出土の壺の中では，古手の様相を呈する。口縁部の形態から2つの特徴がみられる。

（Ⅰ） 有段口縁の壺である。外面の整形は，いずれもヘラ磨きが施され赤彩されている。1は，頸部がほぼ垂直に立ち上がり，内面に平坦面と稜を有する。胴部は，偏平な球形を呈する。2は，頸部が外反気味に立ち上がり，内面に稜を有するものの平坦面は認められない。胴部は，球形を呈する。3は，頸部がほぼ直立に立ち上がり，内面には平坦面，稜ともに有しない。胴部は球形を呈し，1・2に比べ小形である。(1・2・3)

（II） 大形の壺で，頸部は直立に近く立ち上がり，口縁部は大きく外反して開く。口縁部は折り返されており，形状が有段口縁壺によく似ていることからAに入れた。整形は，頸部から口縁部にかけてハケ目整形，胴部はヘラ磨きが施されている。(4)

B 複合口縁壺である。頸部・口縁部の形態差により4つの特徴がみられる。

（Ⅰ） 頸部は外反して立ち上がり，複合部に手法は異なるものの施文が認められる。当調査区出土の壺の中では古手の様相を呈する。また，いずれも赤彩されている。5は，複合部に三条一組の縦位の短沈線が，対称の位置に二対施されている。6は，二条の棒状浮文を貼り付けている。7は，口縁端部・口唇部に細かな縄文が施されている。(5・6・7)

（II） 頸部は外反して立ち上がり，複合部は厚手である。古手の様相を呈する。(8)

（III） 頸部は，外反して立ち上がる。IIよりも複合部は退化して薄い。Ⅰ，IIより新しいものと思われる。(9・10)

（IV） 頸部は，外傾して立ち上がり幅広の複合部を有する。複合部は退化して薄い。(11・12・13・14)

C 口縁部が，直線的に開く単口縁の壺である。口縁部・胴部の形態差により3つの特徴がみられる。

（Ⅰ） 口縁部は外傾して開き，胴部最大径を中位にもつ。底部は，突出した平底である。15は，頸部に段を有し，16は突帯を巡らせている。II，IIIに比べ古手の様相を呈する。(15・16)

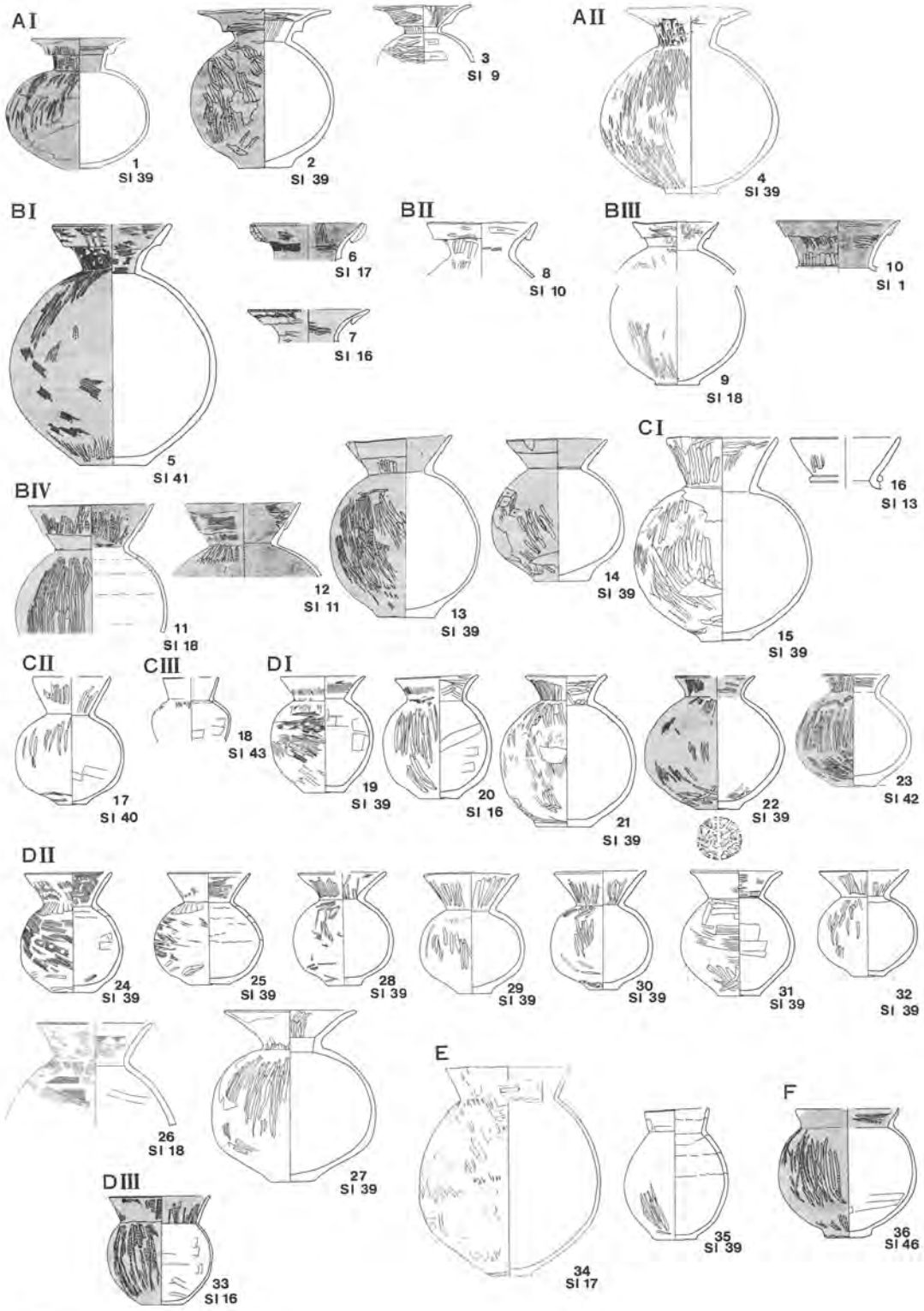
（II） 口縁部は外傾して開き，胴部は偏平な球形を呈する。整形はヘラ磨きである。(17)

（III） 口縁部はほぼ垂直に開く。最大径を胴部上位にもつ。(18)

D 口縁部が外反して開く単口縁の壺である。口縁部の形態により3つの特徴がみられる。

（Ⅰ） 口縁部は比較的短く外反して開き，底部は突出した平底である。19～21は，最大径を胴部中位にもつ球形の胴部である。22・23は，頸部に締まりが有り，最大径を胴部下位にもつ。(19・20・21・22・23)

（II） 口縁部は，長く，大きく外反して開く。24～26は，外反は弱く平底である。27は，頸部が垂直に立ち上がる。28～32は，胴部が偏平な球形を呈し，底部は突出した平底である。また，整形も外面にヘラ磨きが，内面はナデが施されている。(24・25・26・27・28・


AI
1
SI 39
2
SI 39
3
SI 9
AII
4
SI 39
BI
5
SI 41
6
SI 17
7
SI 16
BII
8
SI 10
BIII
9
SI 18
10
SI 1
BIV
11
SI 18
12
SI 11
13
SI 39
CI
14
SI 39
15
SI 39
16
SI 13
CII
17
SI 40
CIII
18
SI 43
DI
19
SI 39
20
SI 16
21
SI 39
22
SI 39
23
SI 42
DII
24
SI 39
25
SI 39
28
SI 39
29
SI 39
30
SI 39
31
SI 39
32
SI 39
26
SI 18
27
SI 39
DIII
33
SI 16
E
34
SI 17
35
SI 39
F
36
SI 46

第164図　壺の分類

29・30・31・32)

(III) 口縁部は，ほぼ垂直に近く外反して開く。頸部に締まりが無く，胴部は球形を呈する平底の壺である。外面はヘラ磨きを施し，赤彩されている。内面は，丁寧なヘラナデが施されている。(33)

E 口縁部は直立に近く開き，胴部は長胴で粗製である。34は，大形で，口縁部をヘラナデ，胴部はハケ目とヘラ削りで整形している。当調査区では，異色の土器である。35の底部には，ヘラ磨きがみられる。(34・35)

F 口縁部は，外傾して立ち上がる。口縁端部に，凹線を巡らし端部が若干内彎する。胴部は球形を呈し，底部は突出した平底である。外面はヘラ磨きを施し赤彩されている。内面は，ヘラナデである。(36)

(4) **坩** 口縁部・胴部の形態差により分ける(第165図)。

A 大形坩といわれるものである。口縁部の形態差により3つの特徴がみられる。

(I) 頸部に締まりをもち，口縁部は外傾して開く。古手の様相を呈する。口縁部にハケ目整形，胴部にヘラ磨きが施されている。3は，全面にハケ目整形を施している。(1・2・3・4)

(II) 口縁部は内彎して開く。胴部は，偏平な球形を呈し，底部は小さく不安定な平底である。(5)

(III) 口縁部は，垂直に近く立ち上がり内彎して開く。頸部に締まりをもち，胴部最大径を下位にもつ。古手の様相を呈する。(6・7)

B 胴部最大径を，中位から頸部にもち，口径が胴部最大径を大きく上まわる。口縁部・胴部の形態差により3つの特徴がみられる。

(I) 底部は小さく凹底である。胴部は，緩やかに内彎して立ち上がる。全面にヘラ磨きが施され赤彩されている。(8・9)

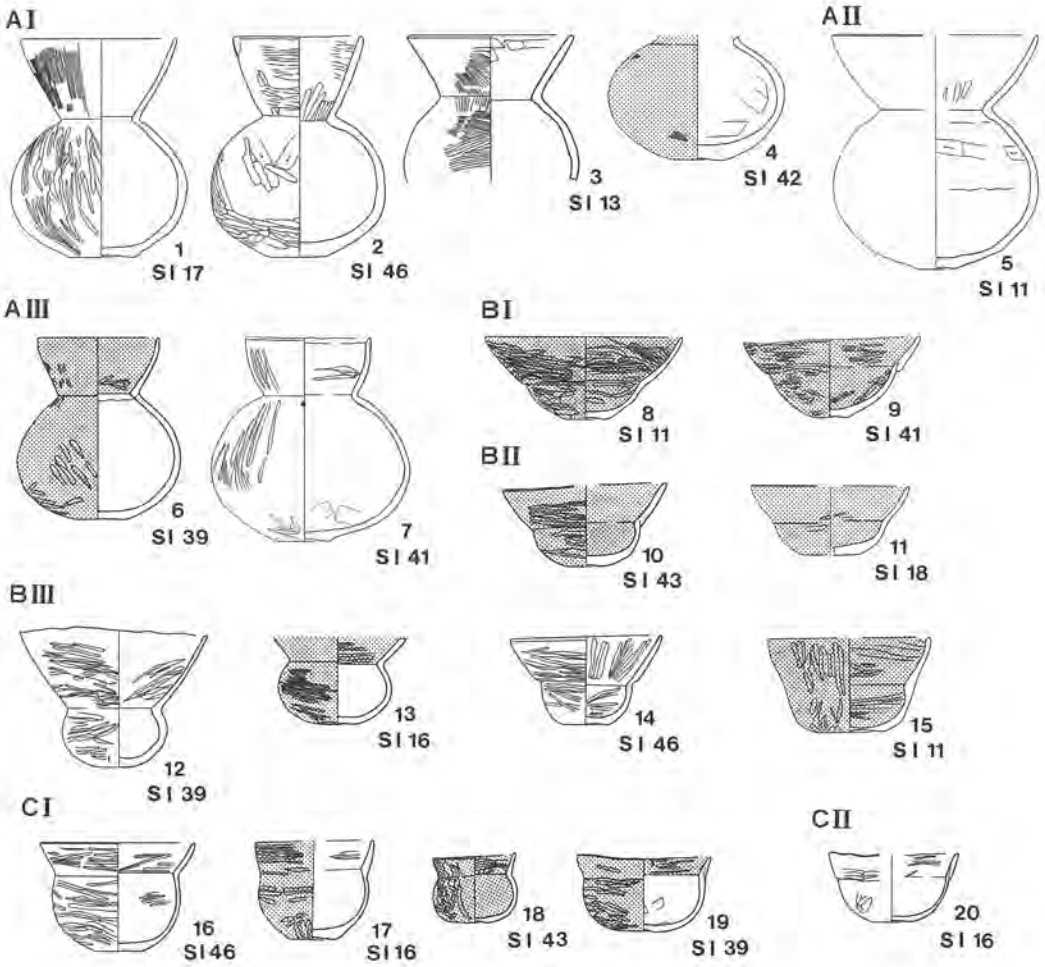
(II) 平底で，胴部は埦状に立ち上がる。全面にヘラ磨きが施され赤彩されている。(10・11)

(III) 平底で，胴部は偏平球を呈する。口縁部は，胴部器高，口径を大きく上まわる。(12・13・14)

C 胴部は埦状を呈し，口縁部は他に比較して狭く内彎気味に開く。口縁部の形態差により2つの特徴がみられる。

(I) 単口縁で，丁寧なヘラ磨きが施され，16を除き赤彩されている。18・19は丸底で，中央部に指頭で押えたような窪みを有する。(15・16・17・18・19)

(II) 口縁部は，折り返しの複合口縁である。器厚が薄く，外面はヘラ削り後ヘラ磨きが施されている。(20)

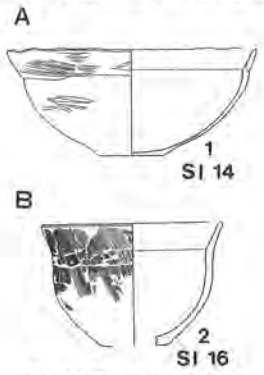


第165図　坩の分類

（5）**鉢**　2個体出土しているが，両個体とも口縁部は内彎気味に開く。口縁部，体部の形態差により分ける（第166図）。

A　口縁部は，折り返し状の複合口縁で，頸部内面に稜を有する。体部は，偏平な半球状を呈する。整形は，ハケ目整形後，ヘラ磨きを施している。(1)

B　口縁部は，頸部より外傾して開く。体部は，底部より内彎気味に立ち上がり，中位から垂直に頸部へ至る。整形は，ハケ目整形が中心である。(2)



第166図　鉢の分類

（6）**甑**　6点出土しており，形態差で3つの特徴がみられる（第167図）。

A　鉢形で，口縁部は粘土帯を折り返した複合口縁である。底部に単孔が空けられている。口縁部・体部の形態差により2つの

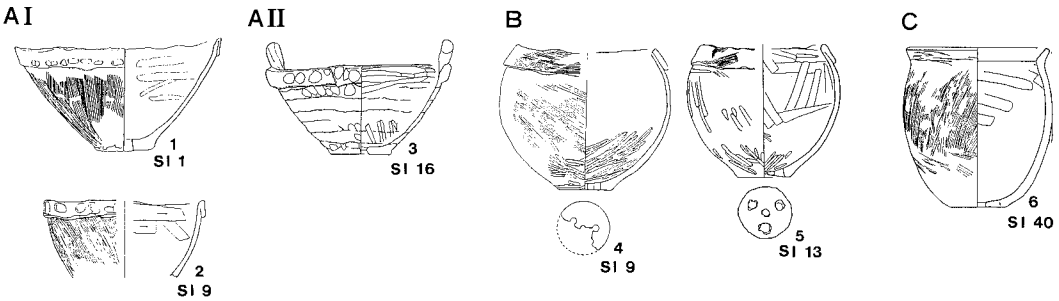
特徴がみられる。

（Ⅰ） 器高が高く，複合部に指頭圧痕を残すものの，体部はハケ目整形である。内面は，丁寧なヘラナデが施されている。（1・2）

（Ⅱ） 口縁部に，一対の把手が貼付され内外面に輪積痕を明瞭に残す。整形は外面は随所に指頭圧痕を残し，内面はヘラ削り・ヘラナデが施されている。祭祀的様相が強い。（3）

B 体部は球形を呈し，口縁部は粘土帯を折り返した複合口縁である。底部に複数孔が空けられ，4は底部に4孔以上の孔が推察できる。整形は，ハケ目整形の上にナデを加え，底部に粗いヘラ磨きが施されている。5は底部に4孔が有り，整形は，4と同じである。（4・5）

C 長胴形で，最大径を胴部中位にもつ。口縁部は短く，外傾して開く。器厚が厚く，口唇部も厚みがあり平坦にナデられている。ハケ目整形で外面を整え，内面は丁寧なナデが施されている。底部に，単孔が空けられている。（6）



第167図 甑の分類

（7） **高坏** 坏部・脚部の形態差により分ける（第168図）。

A 坏部下端に，頸部のナゾリによる稜を有する。当調査区にあって，古手の様相を呈する。胎土，焼成の差異により3つの特徴がみられる。

（Ⅰ） 大形で，胎土に砂粒が多く，器厚も厚目である。1は，口径21.1cm，器高14.5cmを測り大形である。脚部に縦2列の孔を3組有す。（1・2）

（Ⅱ） 胎土に砂粒が少なく，焼き締まりが有り軽量である。特に，4は，頸部に締まりが有り作りが良好である。（3・4）

（Ⅱ） 薄手で焼き締まりが有る。整形も細かいヘラ磨きを施し，赤彩している優品である。脚部には，対称の位置に段を変え2対の孔が空けられている。胎土は，共伴する第100図4の壺と同じで，当遺跡の他の土器とは異なる。（5）

B 大形で頸部に締まりをもち，脚部は反りをもちながら裾部へ至る。6・7は，口径が20.6cm，器高が12.4cm，12.2cmと大形である。8は，脚部に6孔が有り，内面に細かいヘ

ラ磨きが施されている。(6・7・8)

C　Bに比較して，緩やかな反りをもつ脚部である。(9・10)

D　裾部が，大きく水平に近く広がる脚部をもつ。器高により2つの特徴がみられる。

(I)　脚部が，A～Cと同じ割合の器高をもつ。脚部に3孔が空けられている。13の裾部径は，19.4cmと大形である。(11・12)

(II)　脚部高が，低いものである。13の裾部径は，推定で17.6cmあり大形で，4孔が空けられている。14は，一番偏平で8孔が空けられている。(13・14・15)

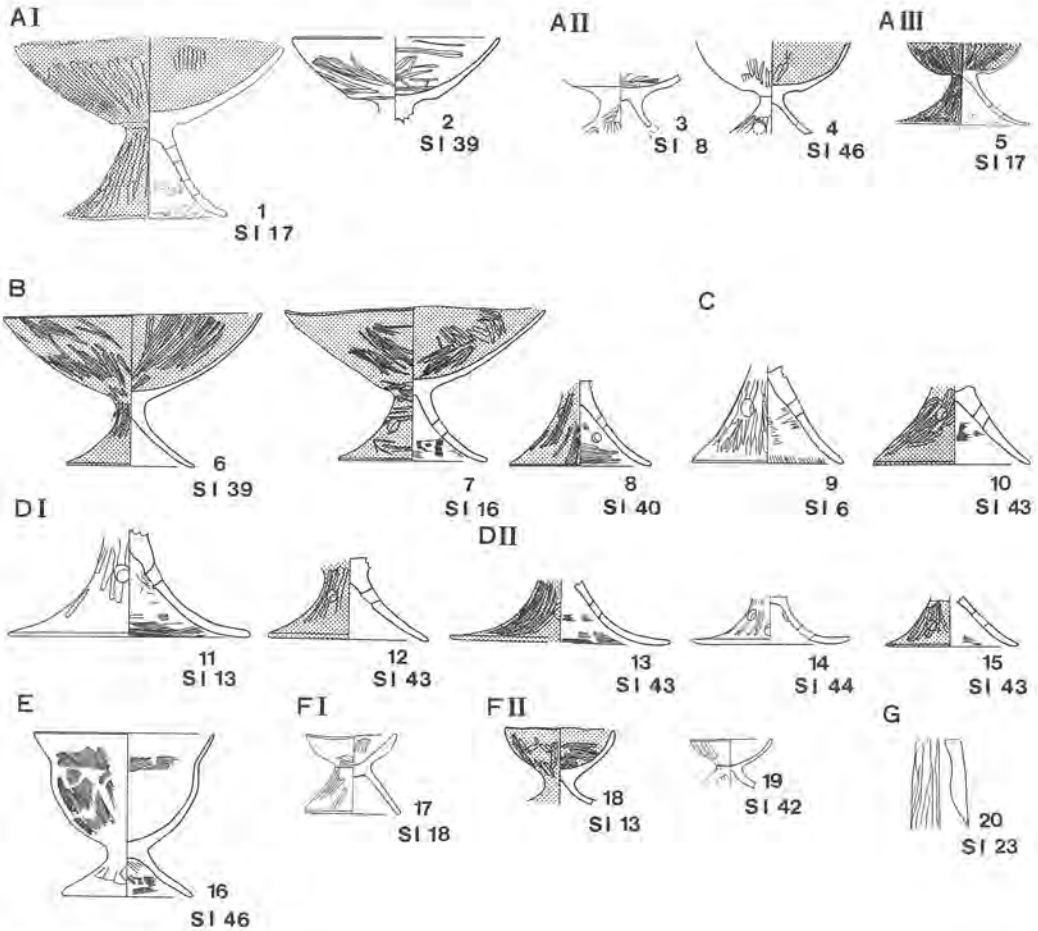
E　坏部は，鉢状を呈し薄手である。脚部は，偏平でラッパ状に開く。(16)

F　深い坏部をもつ。脚部の形態により2つの特徴がみられる。

(I)　脚部に孔が無い。整形は，細かいヘラ磨きが施されている。(17)

(II)　脚部は低く，大きく開いて裾部へ至る。(18・19)

G　円柱状を呈する脚部をもつ。ヘラ磨きが施され，焼成も良好である。(20)



第168図　高坏の分類

（8） **器台**　器受部・脚部の形態差により分ける（第169図）。

A　脚部が，緩やかに反りをもって裾部へ至るものである。器受部に稜をもつものと，もたないもので2つの特徴がみられる。

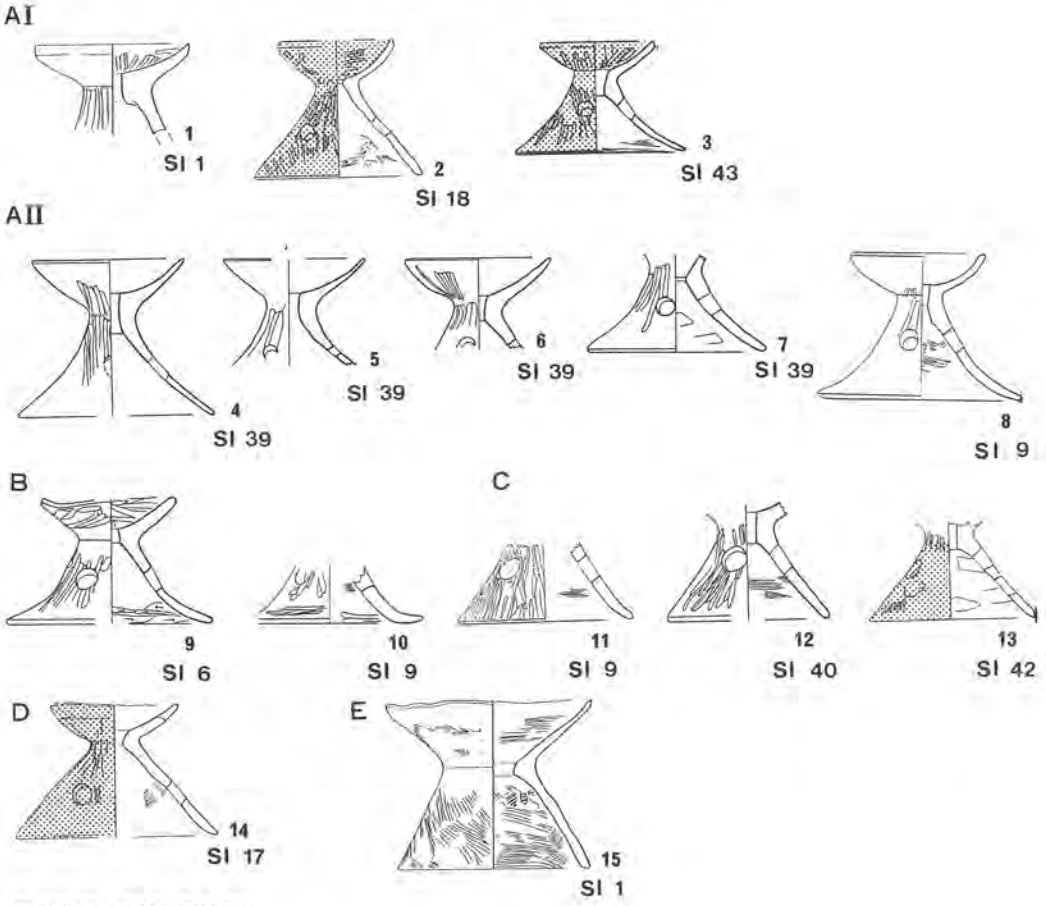
（I）　器受部上端部に，稜をもつものである。1・2は，端部が垂直に立ち上がる。1は，器受部が広く，作りも器厚が厚くしっかりしている。2は，頸部の締まりが強く，脚部も長いことから古手の様相を呈する。3は，器受部が浅目である。（1・2・3）

（II）　器受部上端部に，稜をもたないものである。Iに比較して，脚部の反りが大きい。また，頸部に締まりが有る。（4・5・6・7・8）

B　器受部が浅く，脚部が裾部で水平に近い反りをもつものであり，器厚が厚く，整形に粗さがある。（9・10）

C　脚部が，直線的に下方へ開く，11・12は，丁寧なヘラ磨きが施され，3孔が空けられている。13は，規則性の無い孔が6孔空けられている。（11・12・13）

D　器受部が浅く，脚部が内彎気味に開く。整形に粗さがある。（14）



第169図　器台の分類

E　器受部の口径が12.2cm，裾部径が11.4cmと，口径の方が広い形態をもつ。整形技法は，台付甕と同様で，ハケ目整形とナデが施されている。(15)

(9)　**ミニチュア土器**　形態を中心に分ける(第170図)。

A　甕形を呈する土器である。成形差により2つの特徴がみられる。

(I)　精製土器である。口縁部は外傾して開く。胴部は球形を呈し，底部は丸底である。整形は，丁寧なナデが施されている。(1)

(II)　粗製土器である。2は，手捏ねで口径が胴部最大径より長く，胴下半部に締まりをもつ平底である。3は，つまみ上げられた狭い口縁部で，胴部は偏平球を呈する。外面は，粗いハケ目整形で，内面はヘラナデが施されている。成形は輪積みと思われる。(2・3)

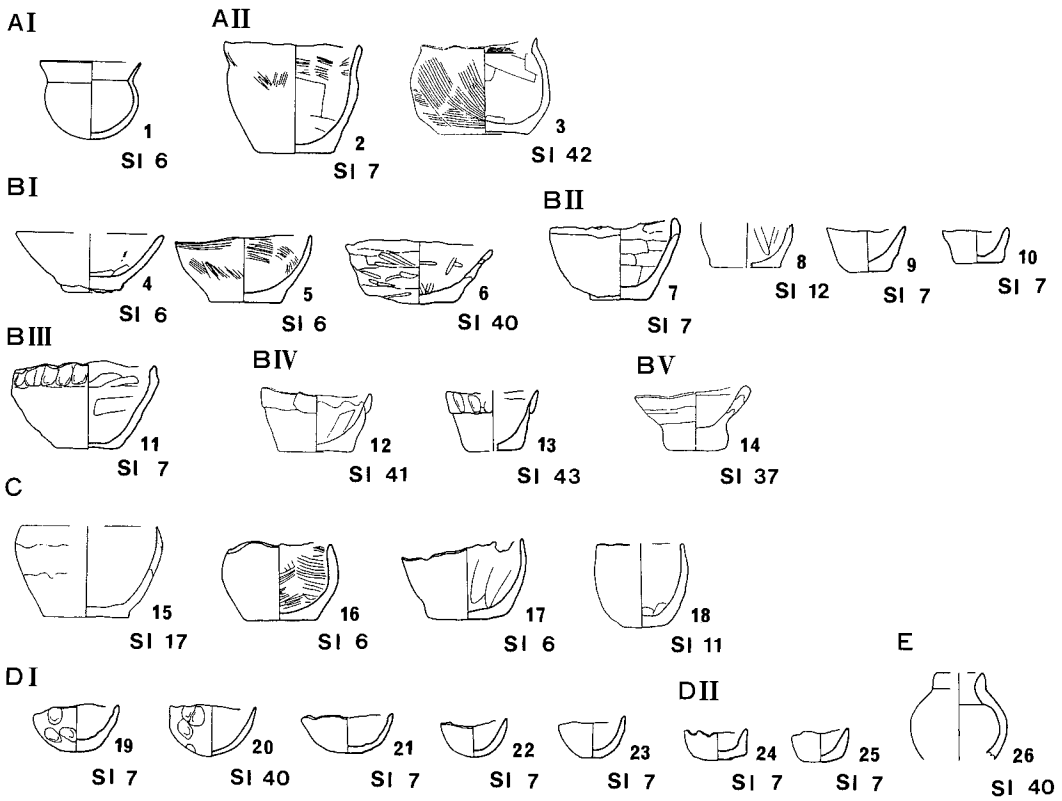
B　鉢形を呈する土器である。形態，成形により5つの特徴がみられる。

(I)　大き目の平底をもち，体部は内彎気味に開く。4・5は手捏ね，6は輪積みである。

(II)　体部は外傾して開く。成形は手捏ねである。(7・8・9・10)

(III)　体部は，やや内彎気味に立ち上がり，口縁部は垂直に立ち上がる。(11)

(IV)　指頭圧痕の残る貼り付けの複合口縁である。ナデ・ヘラナデによる比較的丁寧な整形



第170図　ミニチュア土器の分類

が施されている。(12・13)

(V)　輪積み成形で，底部を厚く突出させている。(14)

C　埦形を呈する土器である。15・17は，輪積み成形であるが，他は手捏ねである。整形は，ナデ・ヘラナデが主で，16の内面に粗いハケ目整形もみられる。(15・16・17・18)

D　小形で坏形を呈する土器である。全て，手捏ねである。底部の形態により2つの特徴がみられる。

(I)　丸底を呈するものである。19・20には，指頭圧痕が残る。(19・20・21・22・23)

(II)　平底を呈するものである。(24・25)

E　壺形を呈する土器である。手捏ねで，口縁部を垂直に立たせている。(26)

表6　住居跡別出土土師器分類

時期		I期				II期												III期	
器種	住居跡分類	8	10	17	41	1	6	7	9	13	16	19	39	40	42	43	46	11	18
甕	A I										○								
	II			○															
	B				○	○	○						○						
	C I									○							○		
	II												○						○
	D								○		○								
	E												○				○		
	F									○									
台付甕	A I			○			○												
	II										○								
	B I																		○
	II	SK87出土																	
壺	A I								○				○						
	II												○						
	B I			○	○						○								
	II		○																
	III					○			○									○	○
	IV												○						
	C I									○			○						
	II													○					
	III														○				
	D I										○		○		○				
	II												○						○
	III										○								
	E			○									○						
	F																○		
坩	A I			○						○					○		○		
	II																	○	
	III				○								○						
	B I				○													○	
	II															○			○
	III										○		○				○	○	
	C I										○		○			○	○		
	II										○								

時期		I期				II期														III期	
器種	住居跡分類	8	10	17	41	1	6	7	9	13	16	19	39	40	42	43	46	11	18		
鉢	A	SI14出土																			
	B						○														
甑	A I					○			○												
	II										○										
	B																				
	C																				
高坏	A I				○																
	II	○																			
	III				○																
	B																				
	C						○														
	D I																				
	II																				
	E																				
	F I																				
	II																				
	G	SI23出土																			
器台	A I						○														
	II																				
	B							○													
	C																				
	D																				
	E						○														
ミニチュア土器	A I							○													
	II																				
	B I							○													
	II																				
	III																				
	IV																				
	V	SI37出土																			
	C						○														
	D I																				
	II																				
	E																				

主な参考文献(順不同)

(1) 茨城県勝田市教育委員会 「三反田蜆塚貝塚発掘調査報告書」 1983年

(2) 茨城県日立市教育委員会 「久慈 吹上」 1981年

(3) 茨城県教育財団 「松葉遺跡」 竜ケ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書1 1979年

(4) 茨城県教育財団 「沖餅遺跡」 竜ケ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書3 1980年

(5) 茨城県教育財団 「志筑遺跡外」常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 1980年

(6) 茨城県教育財団 「大羽谷津遺跡外」竜ケ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書5 1981年

(7) 茨城県教育財団 「平台遺跡」 竜ケ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書8 1983年

(8) 茨城県教育財団 「小田林遺跡外」 一般国道4号線改築工事地内埋蔵文化財調査報告書2 (結城地区) 1989年

(9) 向原遺跡調査会 土浦市教育委員会 「向原遺跡」 茨城県土浦市向原遺跡発掘調査報告書 1987年

(10) 栃木県教育委員会 栃木県文化振興事業団 「花の木町遺跡」栃木県子ども総合科学館(仮称)建設に伴う発掘調査報告 1987年

(11) 杉原荘介 大塚初重 「土師器土器集成本編1」 東京堂出版 1975年

(12) 小出義治 「古墳時代土器の研究」 古墳時代土器研究会 1984年

(13) 八王子市門田遺跡調査会 「神谷原Ⅲ」 東京都八王子市門田遺跡群の調査 1982年

(14) 愛知県埋蔵文化財センター 「廻間遺跡」 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第10集 1990年

(15) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 「坂戸市 広面遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第89集 1990年

(16) 大宮市博物館 「大宮市立博物館研究紀要」第2号 1990年

(17) 茨城県教育財団 「赤松遺跡」 竜ケ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書4 1980年

(18) 茨城県教育財団 「大谷津B遺跡」 水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1 1983年

(19) 茨城県教育財団 「大谷津A遺跡」 水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3 1985年

(20) 茨城県教育財団 「小場遺跡」 常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書9 1986年

(21) 茨城県教育財団 「南三島遺跡6・7区」 竜ケ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書11 1985年

(22) 茨城県教育財団 「南三島遺跡3・4区(Ⅰ)」 竜ケ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告

書16　1987年

(23)　茨城県教育財団　「南三島遺跡３・４区(II)」　竜ケ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書18　1989年

(24)　小林達雄　「縄文土器大観２　中期」　小学館　1988年

(25)　郡山市教育委員会　「郡山市文化財　研究紀要」　第５号　1990年

(26)　茨城県史編さん委員会原始古代史部会　「茨城県史料 考古資料編 古墳時代」　1979年

(27)　愛知考古学談話会　「欠山式土器とその前後」　研究・報告編　1987年

表７　縄文時代住居跡一覧表

住居跡番号	位置	長径方向	平面形	規模		床面	ピット数	炉	貯蔵穴	出土遺物	備考
				長軸(m)×短軸(m)	壁高(cm)						
20	A13i6	不明	不明	不明	不明	平坦	2	有(1)		無	
25	B14a8	N-9°-E	楕円形	4.35 × 3.47	24～32	平坦	5	有(1)		縄文式土器1点,縄文式土器片18片	SK33,83,84が新
26	A15j5	N-13°-W	楕円形	4.56 × 4.10	33～42	平坦	6	有(1)		縄文式土器5点,縄文式土器片864片,有孔円板1点,土製円板5点	
27	B15c9		円形	3.84 × 3.34	14～18	平坦	5	有(1)		縄文式土器2点,縄文式土器片196片,土製円板1点	SK85が旧
28	B15c5	N-7°-W	楕円形	3.96 × 3.41	15～20	凹凸	6		有(1)	縄文式土器片1片	
29	B16e5		円形	3.82 × 3.70	12～16	平坦	6	有(1)		縄文式土器片32片	
30	B15b8	N-84°-E	不整楕円形	4.10 × 3.38	18～33	平坦	5	有(1)		縄文式土器6点,縄文式土器片179片,凹石1点	土器片囲い炉,SK42が新
31	B16e9		円形	4.56 × 4.31	16～26	平坦	6			縄文式土器3点,縄文式土器片468片	
32	B16g0	N-12°-W	不整円形	3.84 × 3.69	22～27	平坦	6	有(2)		縄文式土器6点,縄文式土器片503片,磨石1点	
33	C19g3	N-47°-E	不整円形	3.77 × 3.34	26～32	平坦	5	有(1)		縄文式土器6点,縄文式土器片883片,石錐,石皿,石匙各1点	SI6,SK120が新
34	B16b3	N-67°-W	[楕円形]	3.35 ×(1.48)	11～21	平坦	4	有(1)		縄文式土器２点,縄文式土器片73片	土器埋設炉,SK86が新
35	B17i8	N-16°-E	[不整楕円形]	[5.28]×(4.28)	25～40	平坦	6	有(1)		縄文式土器6点,縄文式土器片758片,磨製石斧,磨石各1点	SI16,SK81が新
36	A12e9	N-53°-W	不整円形	3.87 × 3.82	16～21	平坦	4	有(1)		縄文式土器1点,縄文式土器片123片	
38	C19i0	N-57°-W	[楕円形]	4.06 ×(3.13)	12～26	平坦	8	有(1)		縄文式土器1点,縄文式土器片139片	土器埋設炉
47	D21i9		[円形]	4.56 ×(4.23)	46～50	平坦	10	有(2)	有(1)	縄文式土器4点,縄文式土器片1266片,土製円板,磨石,剝片各1点	
50	E21b8	N-64°-W	[不整円形]	5.70 ×(3.04)	6～21	平坦	5	有(1)		縄文式土器1点,縄文式土器片64片,磨製石斧1点	土器埋設炉SK119が新
51	E22d1		[円形]	4.06 ×(3.44)	11～23	平坦	6	有(1)		縄文式土器1点,縄文式土器片89片	
52	C19j8	不明	[楕円形]	[2.45]×(1.65)	22～31	平坦	2	不明	不明	縄文式土器5点,縄文式土器片379片	SI39,SK97が新

表 8　古墳時代住居跡一覧表

住居跡番号	位置	長軸方向	平面形	規模		床面	ピット数	炉	貯蔵穴	出土遺物	備考
				長軸(m)×短軸(m)	壁高(cm)						
1	C19i$_5$	N-54°-E	隅丸方形	3.85 × 3.79	32～45	平坦	5		有(1)	土師器10点, 土師器片59片, 磨石1点	
3	C19g$_6$	[N-35°-W]	[隅丸方形]	5.33 ×(4.24)	16～19	平坦	3	不明	不明	土師器2点, 土師器片23片	SD5が新
5	C19g$_1$	[N-53°-W]	[隅丸方形]	3.63 ×(0.82)	11～18	平坦	1	不明	不明	土師器片18片	SD5が新
6	C19f$_2$	N-44°-E	隅丸方形	5.94 × 5.51	11～17	平坦	無	有(2)		土師器13点, 土師器片350片	SI33が旧
7	C18g$_0$	確認できず	[隅丸方形]	3.67 ×(1.65)	30～39	平坦	2	不明	不明	土師器12点, 土師器片53片	
8	C19d$_1$	[N-48°-W]	[方　形]	5.31 ×(3.16)	5～19	平坦	2	有(1)	不明	土師器4点, 土師器片51片	SI9が新
9	C19d$_0$	N-42°-E	隅丸方形	7.29 × 6.83	12～37	平坦	5	有(1)	有(2)	土師器24点, 土師器片474片, 石鏃1点, 磨石1点, 整形石斧1点	SI8, 10が旧
10	C18e$_8$	[N-42°-W]	[方　形]	5.14 ×(4.38)	6 ～17	平坦	4	有(1)	不明	土師器1点, 土師器片94片	SI9, 11が新
11	C18f$_9$	[N-50°-W]	[隅丸方形]	5.39 ×(4.54)	27～32	平坦	5	有(1)		土師器10点, 土師器片134片	SI10が旧
12	B18d$_6$	確認できず	[隅丸方形]	(6.57)×(3.61)	36～39	平坦	2	有(1)	有(1)	土師器4点, 土師器片181片	
13	C18c$_3$	確認できず	[隅丸方形]	(6.78)×(6.61)	16～26	平坦	3	有(1)	不明	土師器10点, 土師器片962片, 磨石1点	SK67が新
14	B18j$_4$	確認できず	[方　形]	3.48 ×(1.31)	20～22	平坦	1	不明	不明	土師器2点, 土師器片58片	
15	B18f$_9$	確認できず	[隅丸方形]	5.47 ×(2.30)	26～36	平坦	1	不明	不明	土師器片86片	
16	B17h$_8$	N-67°-E	隅丸方形	3.54 × 3.51	26～37	平坦	5	有(2)		土師器13点, 土師器片167片	SI35が旧
17	B17h$_2$	N-17°-E	隅丸方形	6.69 × 6.39	32～42	平坦	6	有(1)	有(1)	土師器10点, 土師器片104片, 球状土錘7点, 磨石1点, 剝片1点	
18	B17e$_1$	[N-45°-W]	[方　形]	5.44 ×(3.45)	18～36	平坦	1	有(1)	有(1)	土師器11点, 土師器片120片, 磨石1点	SI19, SK74が旧
19	B17f$_1$	N-51°-W	方　形	5.13 × 5.03	6 ～ 7	平坦	2	有(1)		土師器片64片	SI18が新
21	B15b$_2$	[N-16°-E]	[方　形]	3.75 ×(2.30)	15～18	平坦	2	不明	不明	土師器1点, 土師器片7片	ST1が旧
23	A14i$_9$	N-30°-E	隅丸方形	3.50 × 3.36	14～16	平坦	4			土師器2点, 土師器片8片	
37	C19j$_6$	[N-41°-W]	[方　形]	4.32 ×(4.12)	6 ～12	平坦	3	有(1)		土師器7点, 土師器片84片	
39	C19j$_9$	N-50°-E	方　形	6.54 × 6.42	35～54	平坦	4	有(1)	有(1)	土師器34点, 土師器片1004片, 土偶片1点, 石鏃1点, 軽石1点	SI52, SK97が旧
40	D19b$_9$	[N-36°-W]	[隅丸長方形]	5.83 ×(5.12)	48～54	平坦	7	有(1)	有(1)	土師器7点, 土師器片142片	
41	C19j$_1$	[N-35°-W]	[方　形]	8.17 ×(4.45)	28～46	平坦	2	不明	有(1)	土師器20点, 土師器片325片, 磨石1点	
42	D20c$_2$	N-41°-E	隅丸長方形	5.70 × 4.72	10～13	平坦	6	有(1)		土師器11点, 土師器片72片, 磨石1点	SK95が旧
43	D20d$_5$	N-41°-W	隅丸方形	7.71 × 6.64	4 ～23	平坦	7	有(1)	有(1)	土師器15点, 土師器片181片	SD6が新
44	D20f$_8$	N-46°-E	方　形	3.92 × 3.63	4 ～12	平坦	無			土師器1点, 土師器片55片	SK98が新
45	D21h$_3$	[N-31°-W]	[方　形]	4.65 ×(4.33)	12～13	平坦	1	不明	不明	土師器片3片	
46	D21g$_4$	N-75°-W	隅丸方形	5.62 × 5.21	24～43	平坦	4	有(2)	有(1)	土師器13点, 土師器片238片, 軽石1点, 土製円板1点	SK104が旧

結　語

一般県道土浦岩井線道路改良工事に伴う，つくば市豊里地内に所在する神谷森遺跡の発掘調査は，平成元年４月～12月の９か月にわたって行われた。調査の結果，縄文時代，古墳時代の遺構・遺物を検出し，多くの貴重な資料を得ることができた。

神谷森遺跡は，これまで縄文時代中期の遺跡として知られていたが，今回の調査によって同時期の竪穴住居跡18軒（加曽利ＥⅢ式期17軒，ＥⅣ式期１軒），土坑６基，屋外炉１基が検出され，縄文時代の中期に人々の生活がこの地に営まれていたことが実証された。これらの遺構のうち，特に，壁柱穴が明確に残る加曽利ＥⅣ式期の住居跡や，加曽利ＥⅢ式期の土器片囲い炉をもつ住居跡１軒，土器埋設炉をもつ住居跡３軒は，当時の竪穴住居の構造等をよく留めている。また，出土遺物からは，第33号住居跡から大木9a式土器が出土しており，東北地方との文化交流についても窺い知ることができる。

古墳時代の遺構は，住居跡28軒，土坑２基が検出されており，住居跡は，隅丸方形を呈するものが中心で，遺物の時期と考え合わせ古墳時代前期のものと比定される。それらの住居跡の中には，12軒の焼失家屋が検出され，そのうちの２軒の炭化材出土状況からは，当時の屋組みの様相を推し量ることができる。遺物は，古墳時代前期（五領期）に比定される甕・台付甕・壺・坩・鉢・甑・高坏・器台・ミニチュア土器である。器種も多く，その中には，有段口縁をもつ外来系と思われる壺等も含まれ，古墳時代前期における各地との文化交流の様相を窺い知ることができる。各住居跡からの出土土器は，器種や形態に，大きな差異が認められないことから，当調査区から検出された住居跡は短期間のものと思われる。その他，第39号住居跡からは，21個体の完形に近い壺が出土しており，一般の住居跡とは異なる何らかの機能を有した遺構であったことが推察される。遺物の構成としては，赤彩されたものやミニチュア土器を多く出土していることから，祭祀と深く結び付いた生活が営まれていたことが推察される。

神谷森遺跡の調査と整理を担当し，多くの資料をより客観的に報告できるよう努めて編集した。今後，この地域の調査が行われ，つくば市の歴史が詳細に解明されることを期待し，この報告書が，ささやかな一助となれば幸いである。

最後に，発掘調査から報告書作成に至るまで，つくば市教育委員会をはじめ，関係各位から多くの御指導，御協力をいただき，文末ながら深く感謝の意を表する次第である。

写 真 図 版

第39号住居跡出土壺

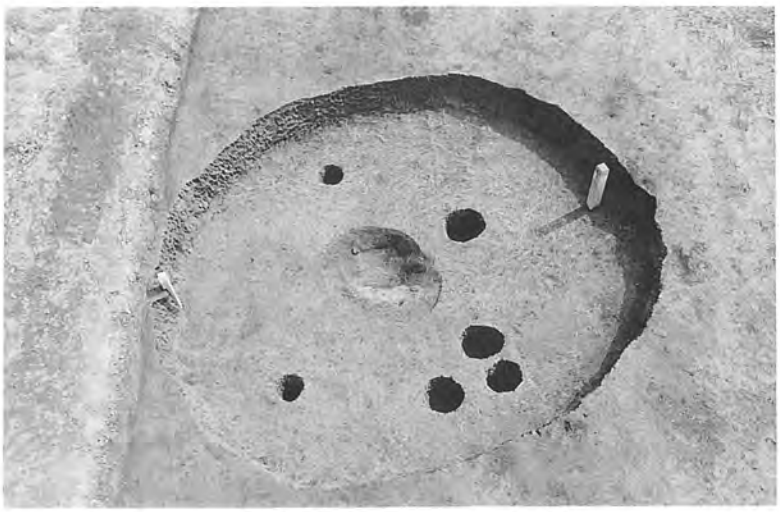
調査前全景（中央部）

遺構確認状況（中央部・西から東を望む）

遺構確認状況（中央部・東から西を望む）

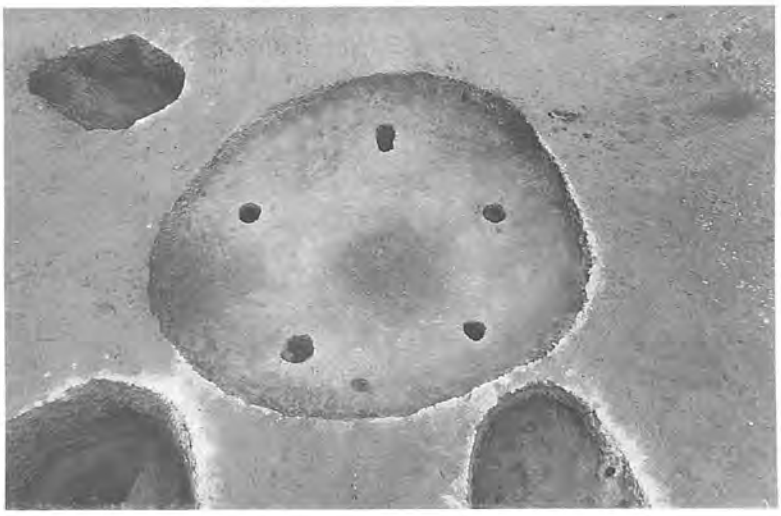
遺構確認状況（東部・西から東を望む）

遺構確認状況
（東部・東から西を望む）

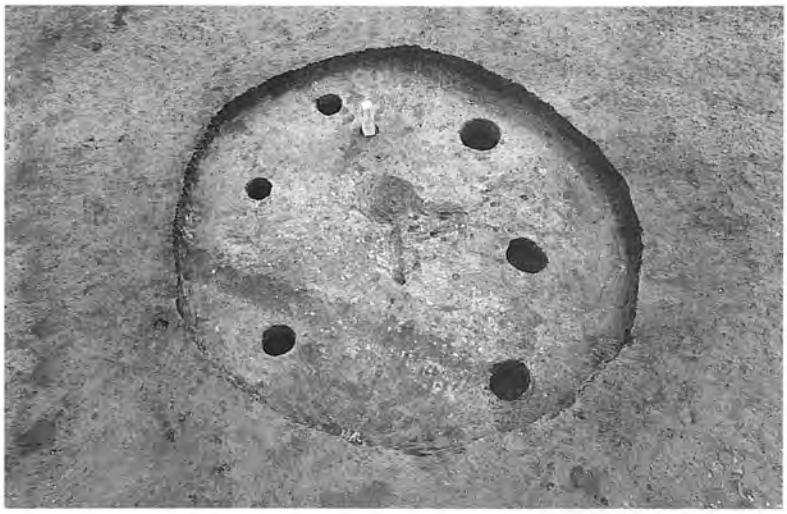


第26号住居跡

第26号住居跡
遺物出土状況



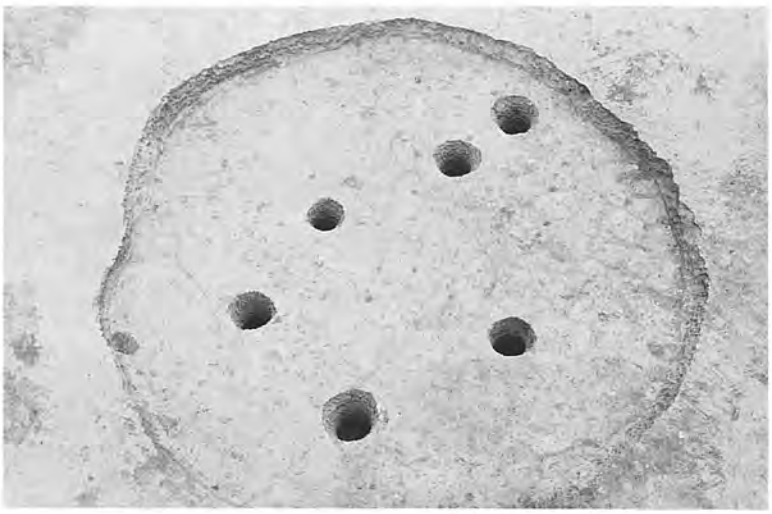
第27号住居跡



第29号住居跡

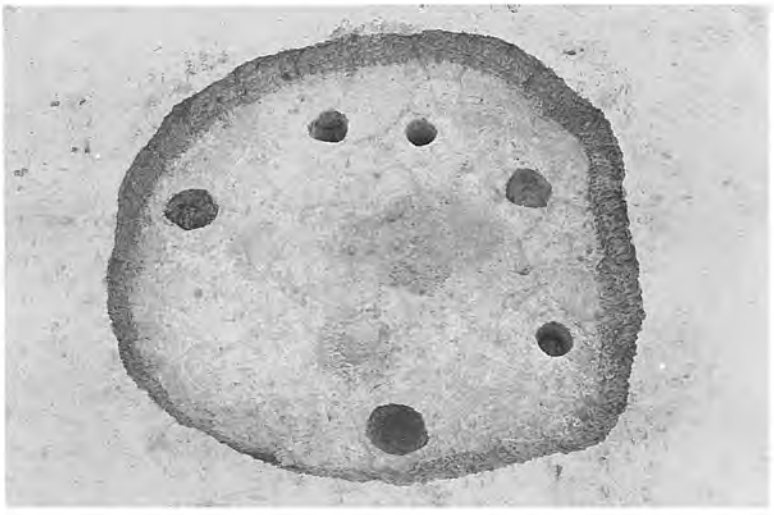
第30号住居跡

第30号住居跡
土器片囲い炉

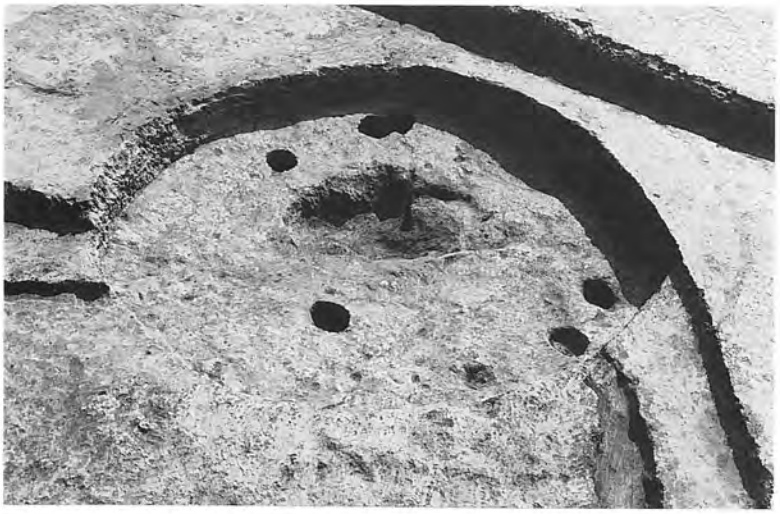


第31号住居跡

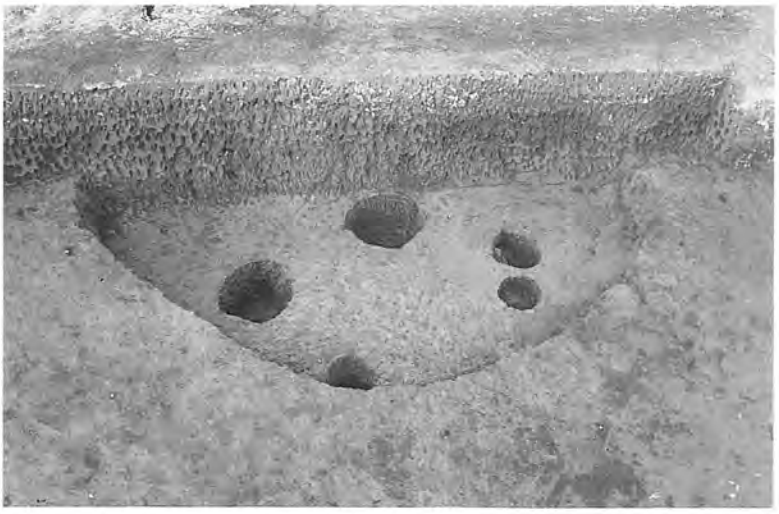
第31号住居跡
遺物出土状況



第32号住居跡

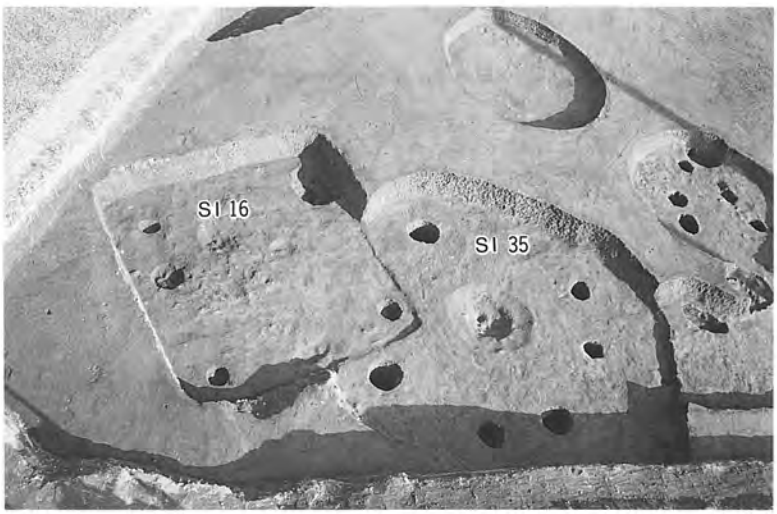


第33号住居跡

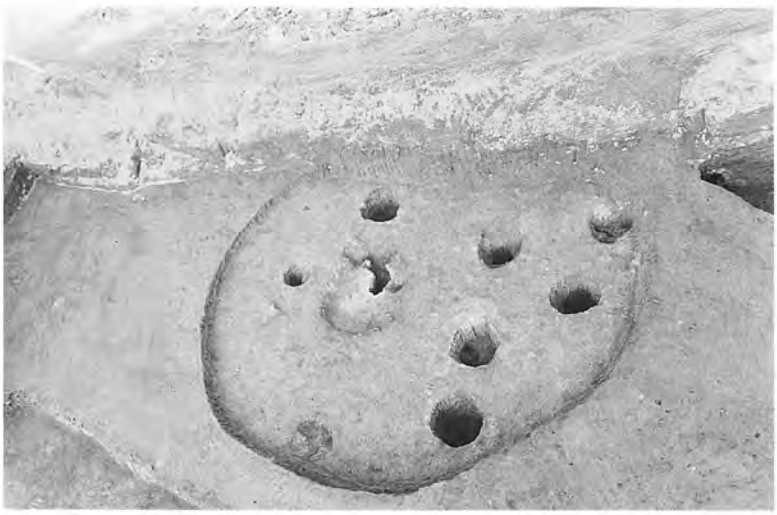


第34号住居跡

第34号住居跡
土器埋設炉

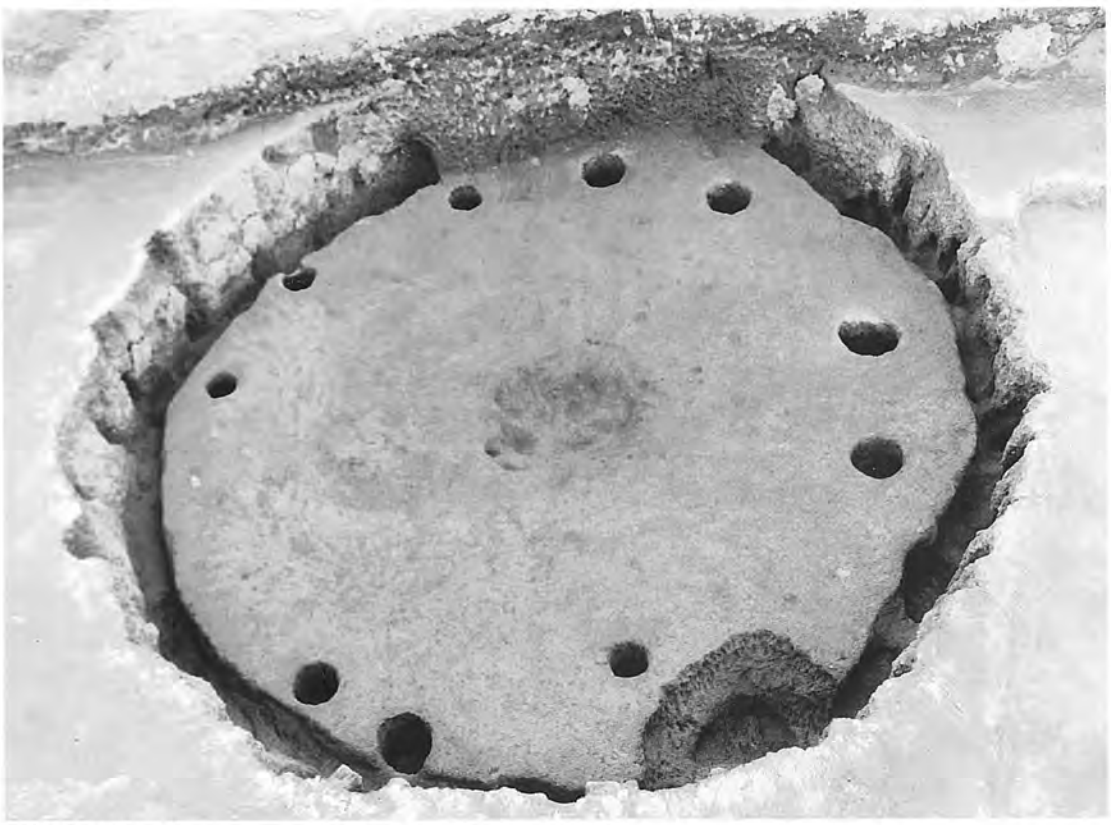


第35号住居跡



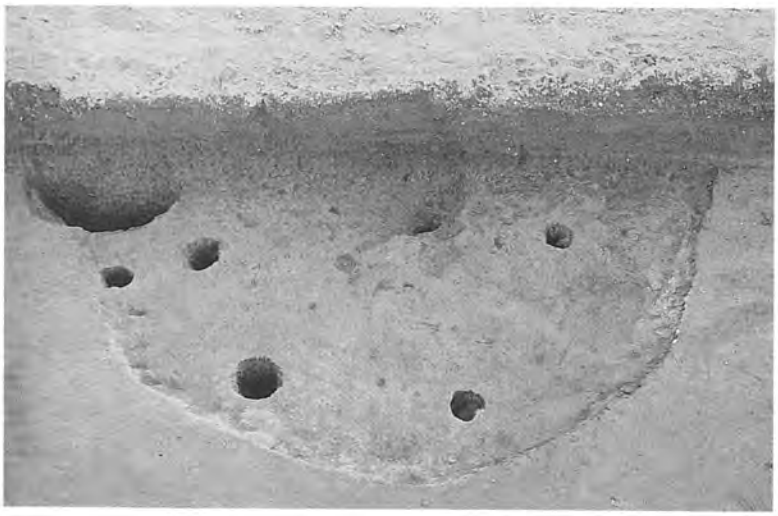
第38号住居跡

第38号住居跡
土器埋設炉



第47号住居跡

第47号住居跡
遺物出土状況



第50号住居跡

第50号住居跡
土器埋設炉

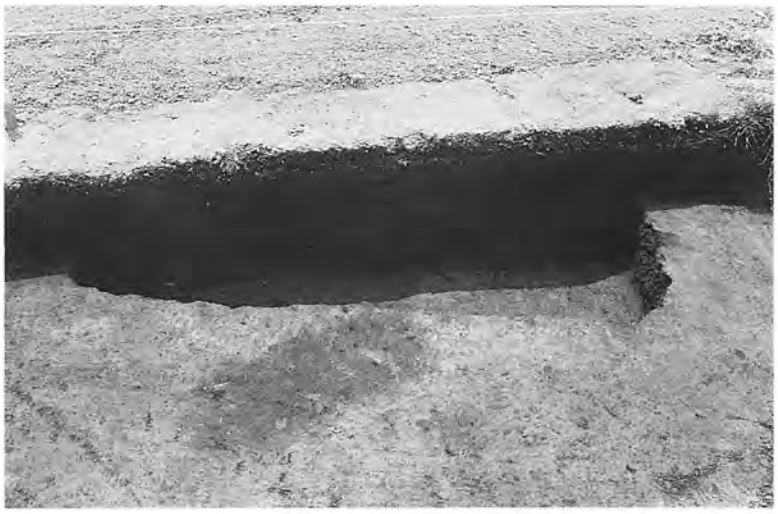
第52号住居跡

第１号住居跡

第１号住居跡
遺物出土状況

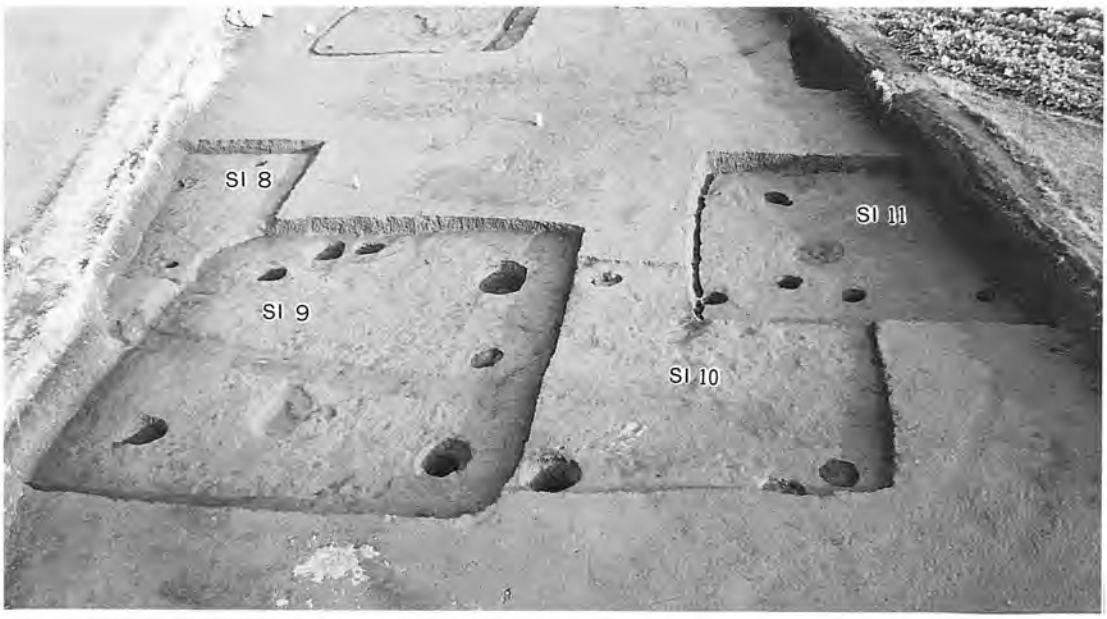
第６号住居跡

第６号住居跡
遺物出土状況



第７号住居跡

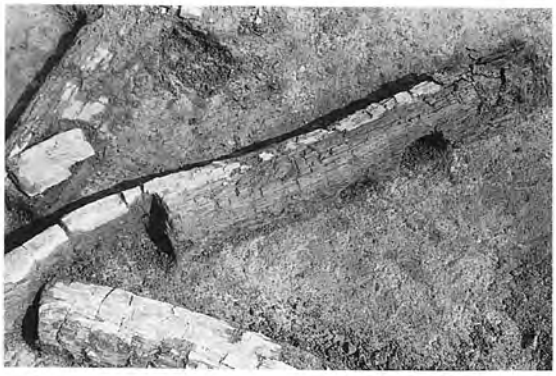
第７号住居跡
遺物出土状況



第８・９・10・11号住居跡

第10号住居跡　遺物出土状況

第11号住居跡　遺物出土状況

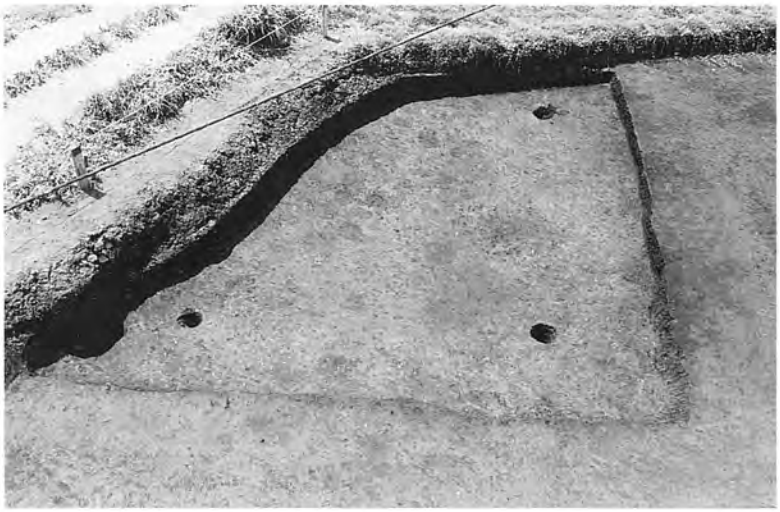


第10号住居跡　炭化材出土状況

第11号住居跡　炭化材出土状況

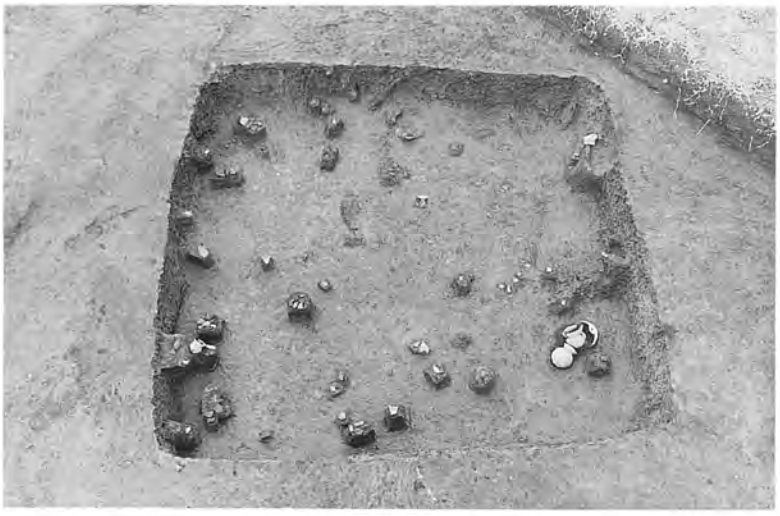
第９号住居跡
遺物出土状況

第12号住居跡



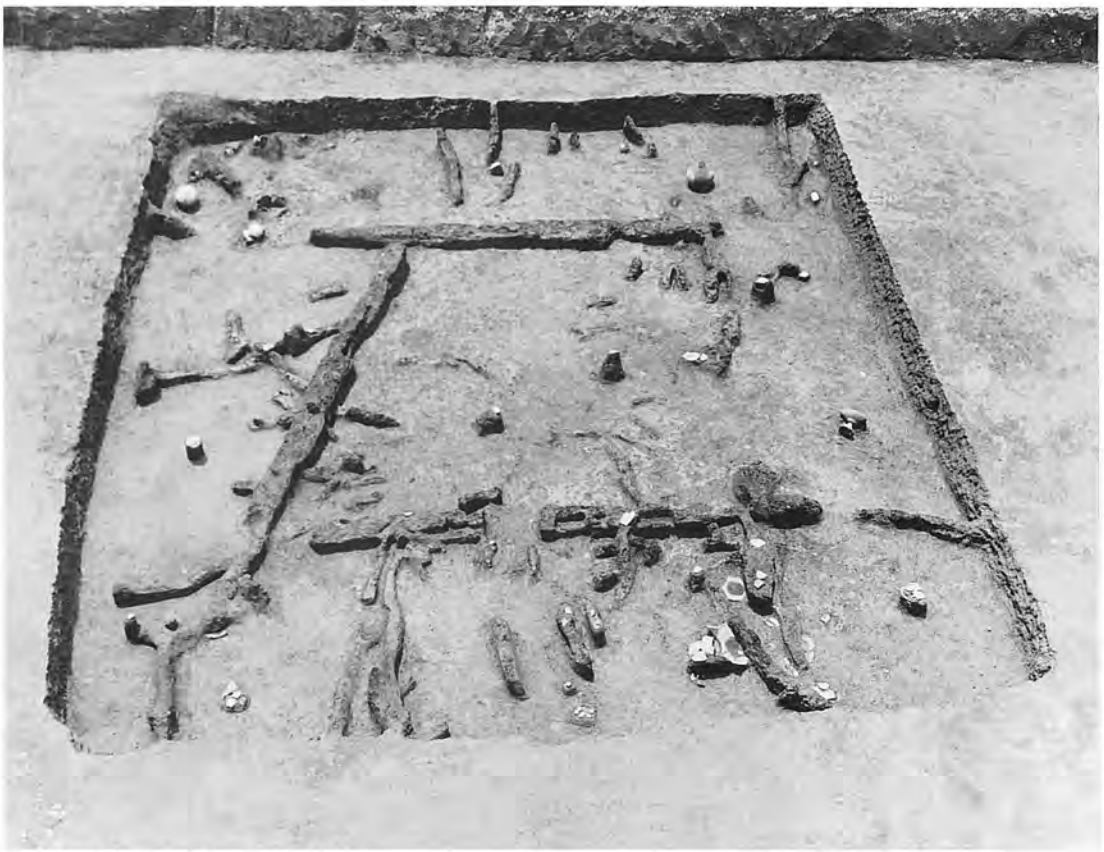
第13号住居跡

第16号住居跡



第16号住居跡
遺物出土状況

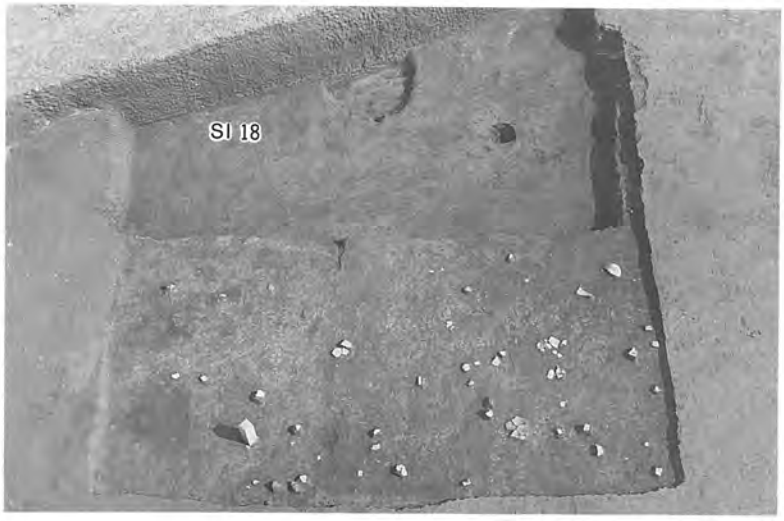
第16号住居跡
壺・甑出土状況



第17号住居跡　遺物出土状況

第17号住居跡
遺物出土状況

第18号住居跡
遺物出土状況



第19号住居跡
遺物出土状況

第37号住居跡

第39号住居跡

第39号住居跡
遺物出土状況

第39号住居跡
北コーナー部
遺物出土状況

第41号住居跡
遺物出土状況

第46号住居跡

第46号住居跡
遺物出土状況

第１号土坑

第35号土坑

第３号土坑

第44号土坑

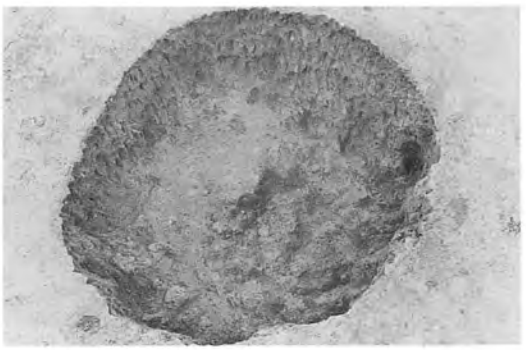
第26号土坑　遺物出土状況

第47号土坑　遺物出土状況

第28号土坑

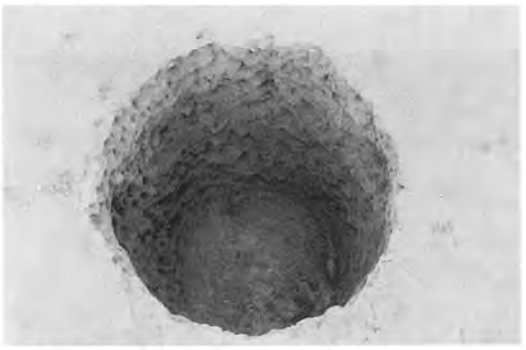
第59号土坑

第62号土坑



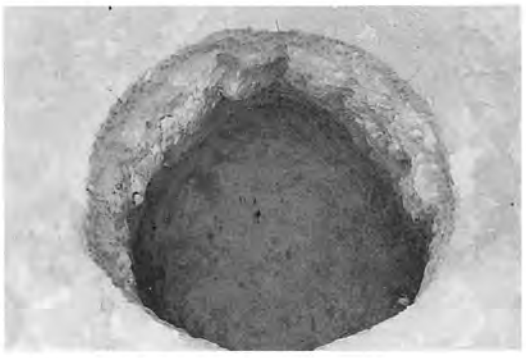
第106号土坑

第66号土坑



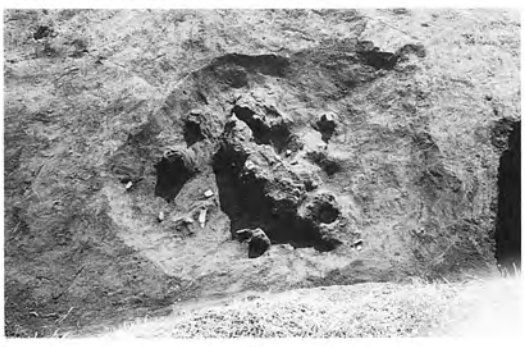
第109号土坑

第97号土坑



第111号土坑

第102号土坑



屋外炉　遺物出土状況

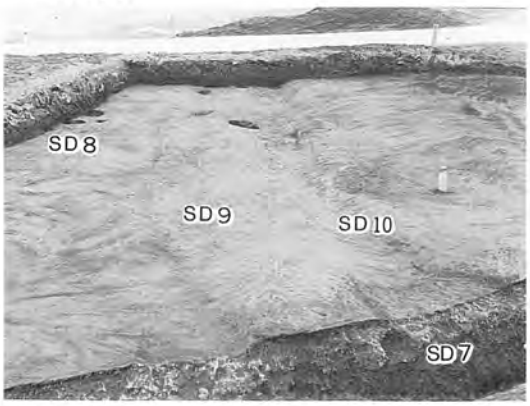
第1・2号溝

第3・4号溝

第5号溝

第6号溝

第7号溝



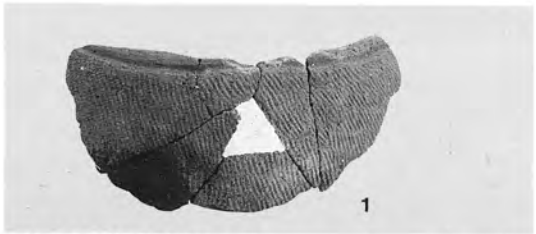
第7・8・9・10号溝

調査後全景（中央部・東から西を望む）

調査後全景
（中央部・西から東を望む）

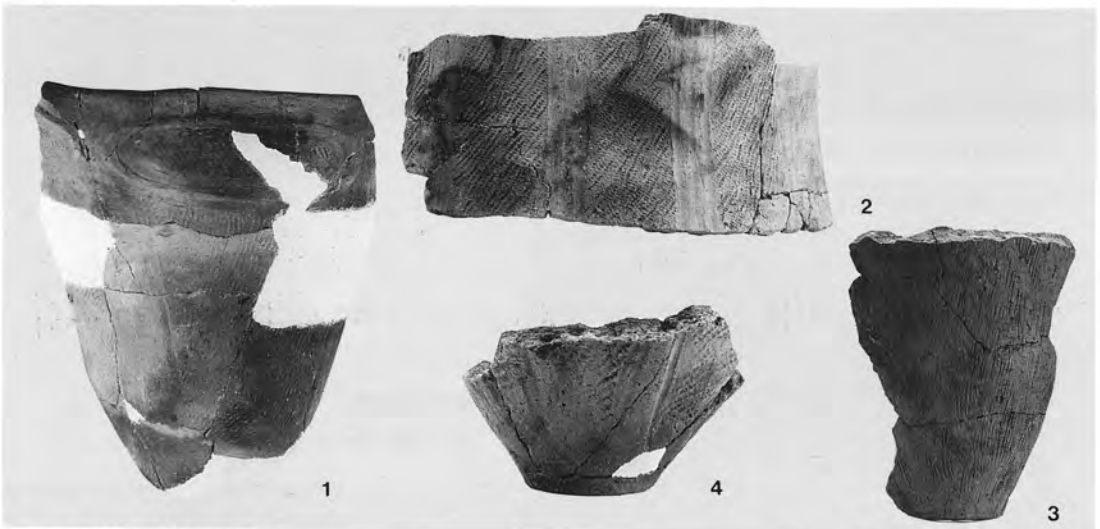
調査後全景
（東部・東端部から西を望む）

第25号住居跡出土土器　S＝1/4

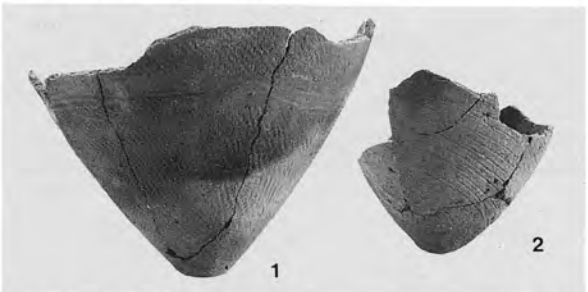


第27号住居跡出土土器　S＝1/6

第26号住居跡出土土器　S＝1/4

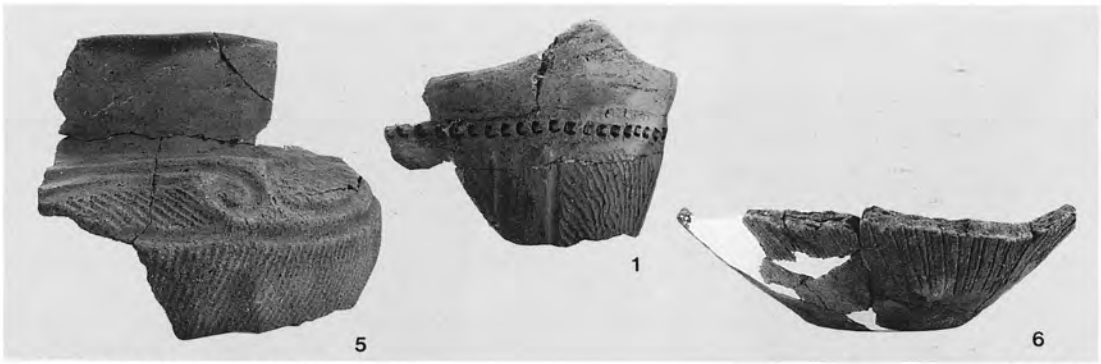


第30号住居跡出土土器　S＝1/4, S＝1/8 1, S＝1/6 2･4

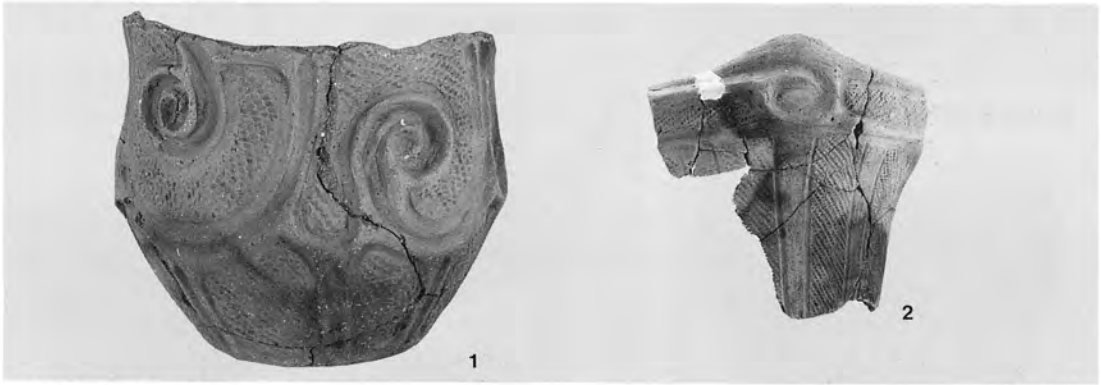


第31号住居跡出土土器　S＝1/4

第32号住居跡出土土器　S＝1/4



第32号住居跡出土土器　　S＝1/4



第33号住居跡出土土器　　S＝1/4

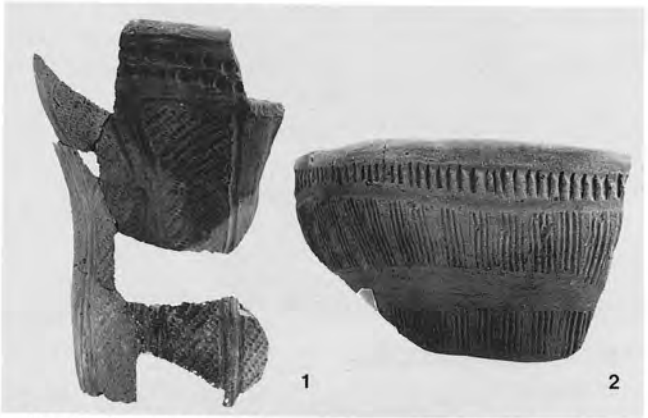
第34号住居跡出土土器　　S＝1/6

第35号住居跡出土土器　　S＝1/4

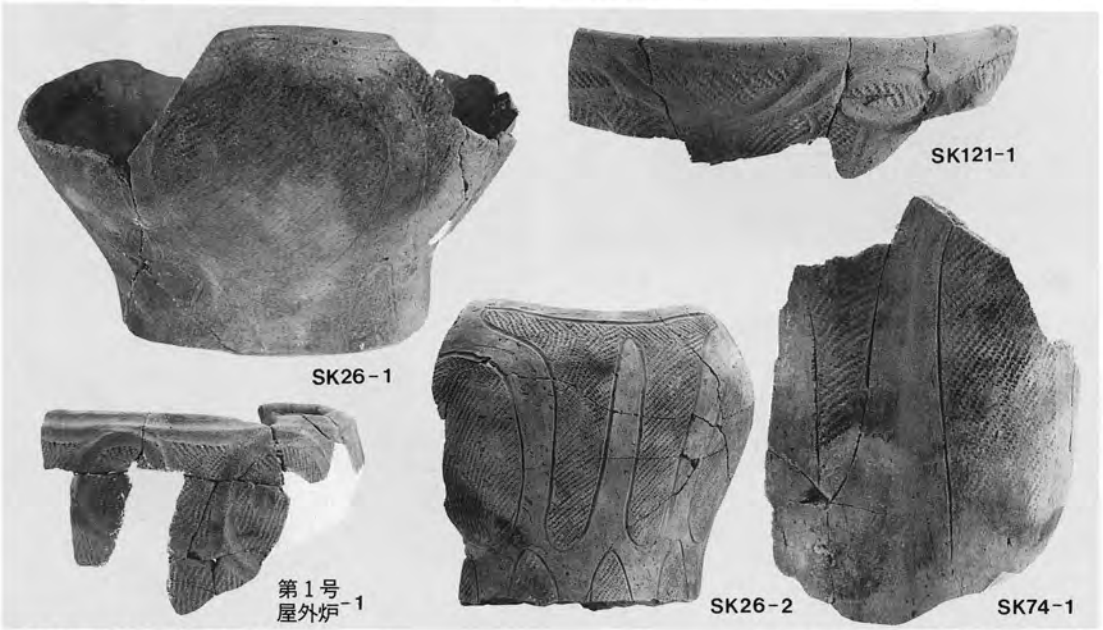
第38号住居跡出土土器　S＝1/4

第50号住居跡出土土器　S＝1/4

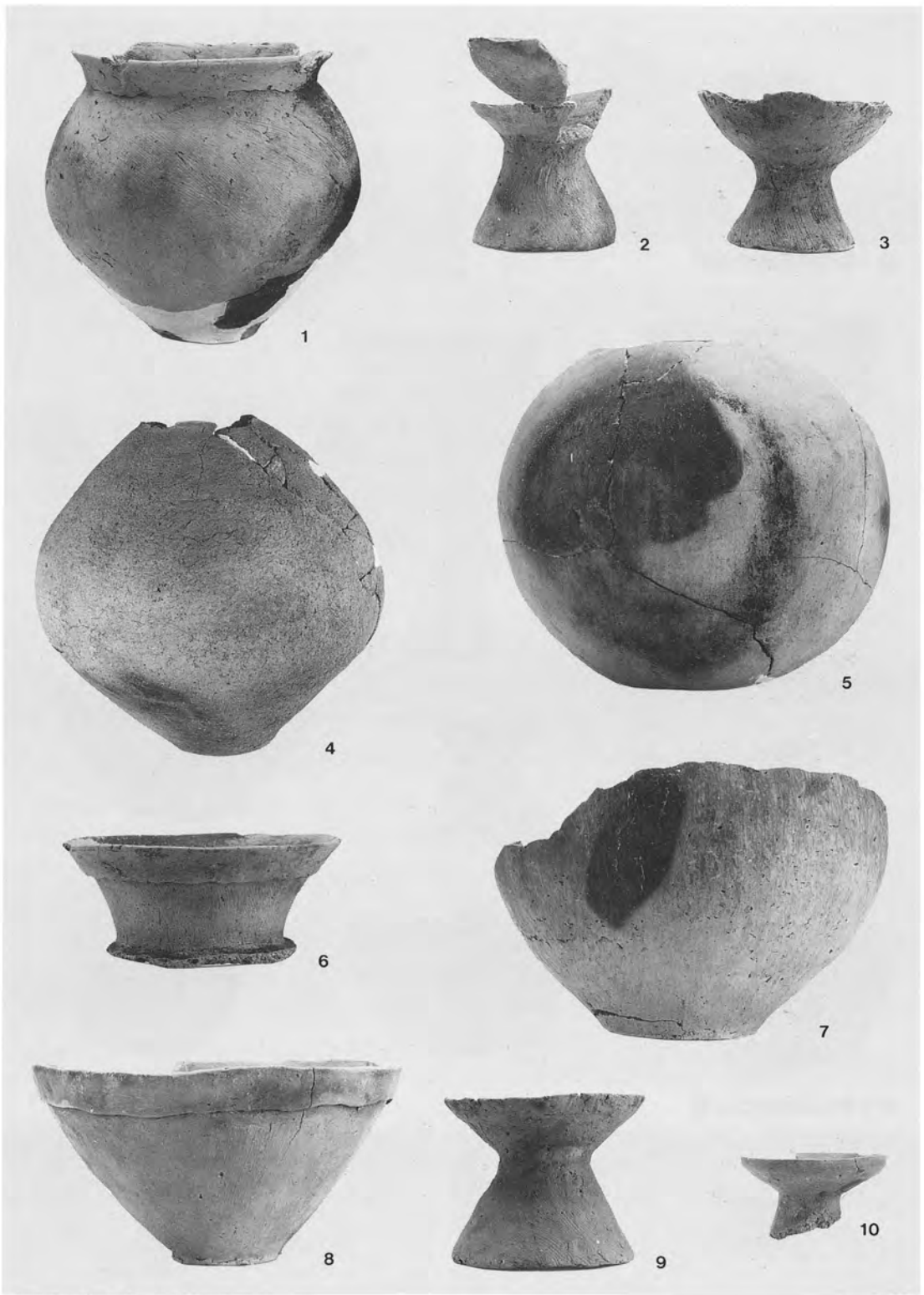
第47号住居跡出土土器　S＝1/4



第52号住居跡出土土器　S＝1/6 1，S＝1/4 2

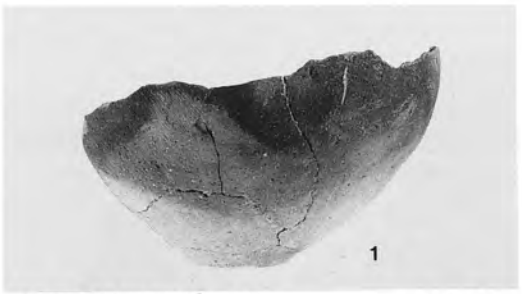


土坑・屋外炉出土土器　S＝1/4，S＝1/6　26-2・屋外炉-1

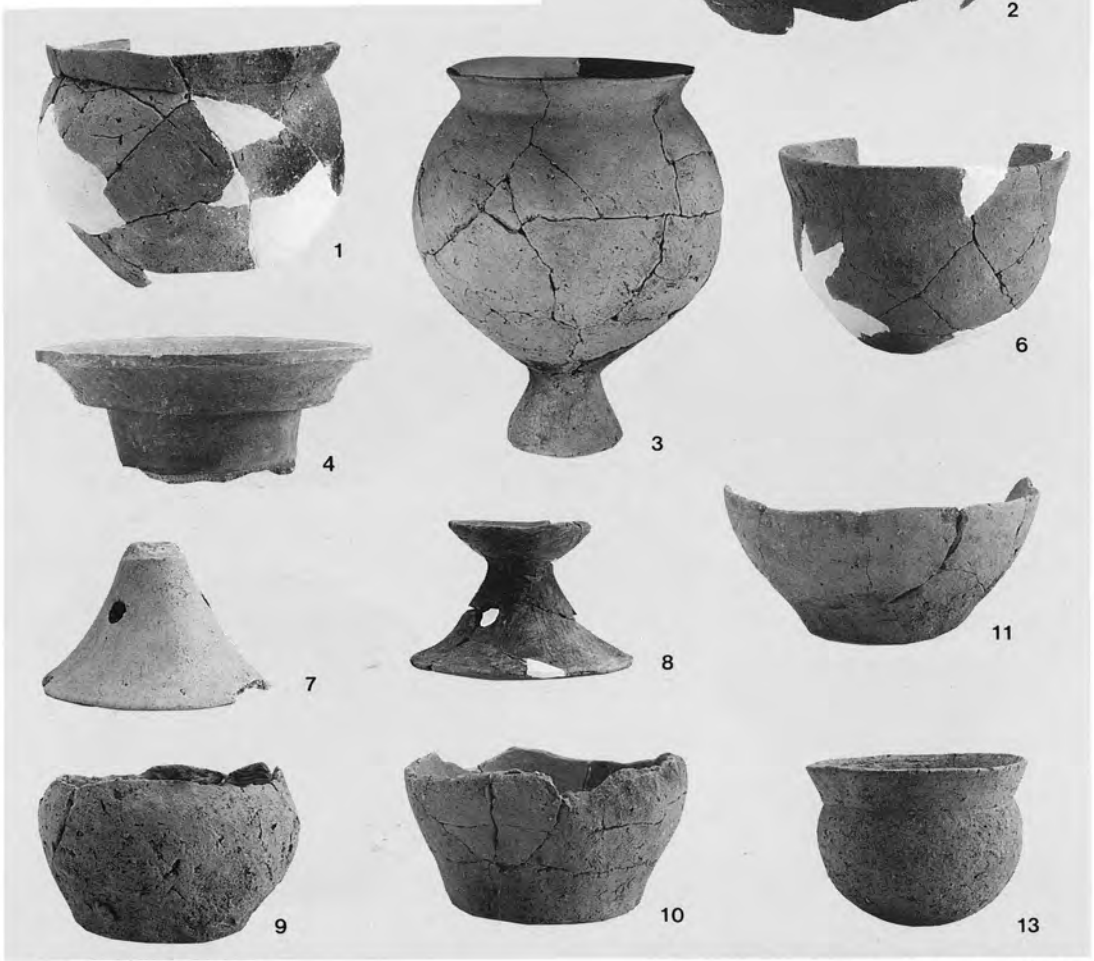


第1号住居跡出土土器

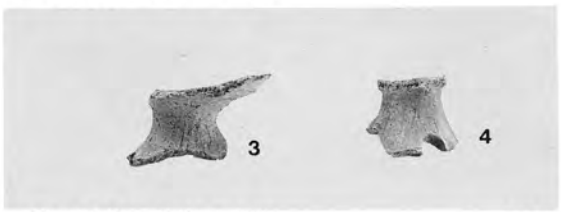
S=1/4



第３号住居跡出土土器　　S＝1/4

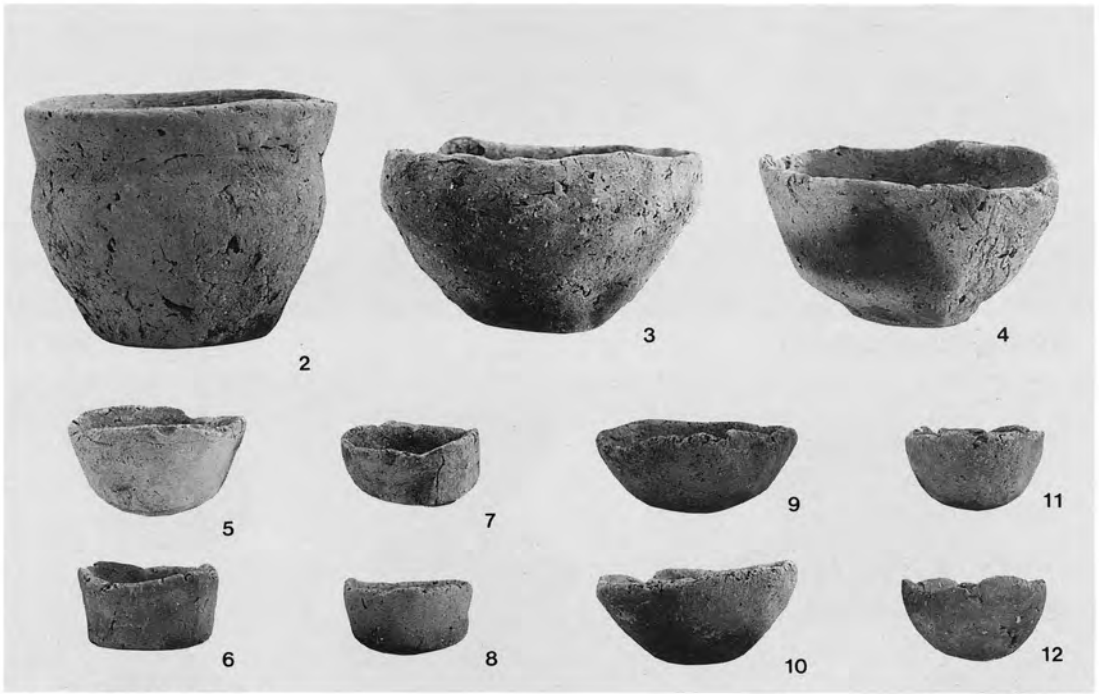


第６号住居跡出土土器　　S＝1/4，S＝1/2　9・10・11・13，S＝1/6　3



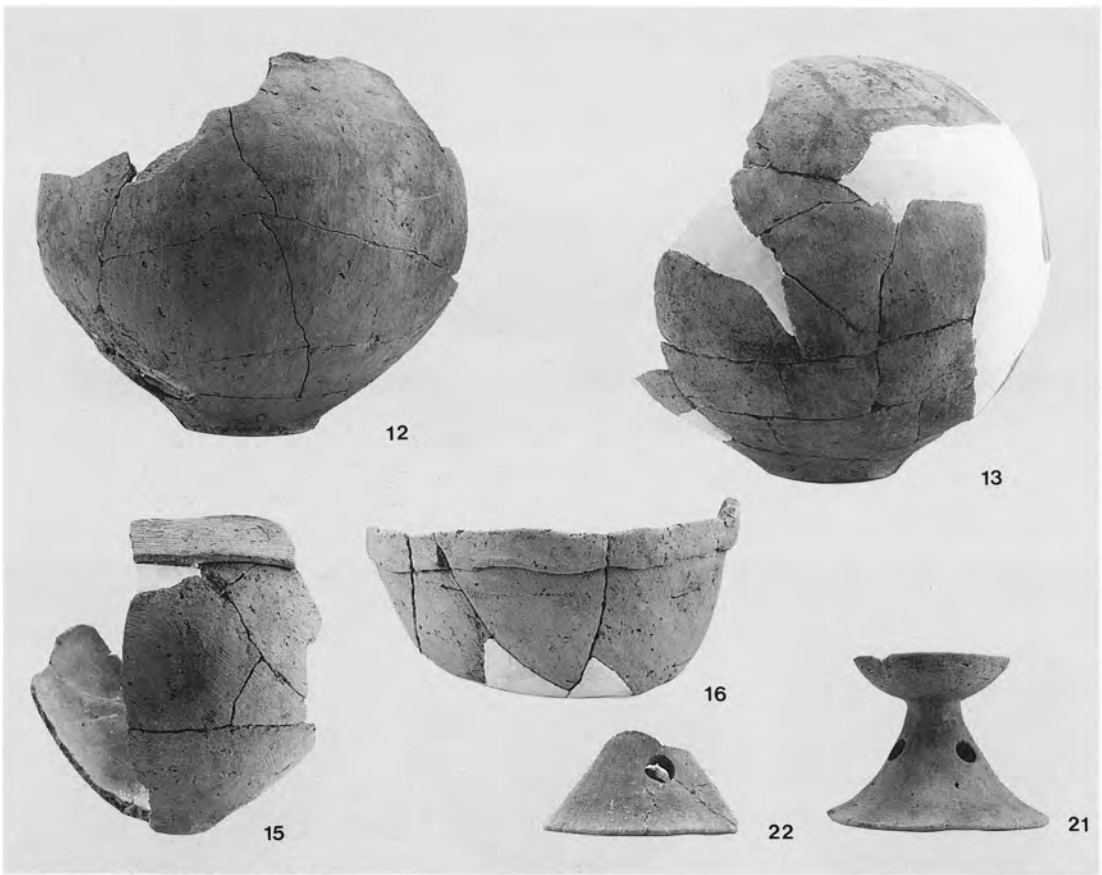
第８号住居跡出土土器　　S＝1/4

第10号住居跡出土土器　　S＝1/4

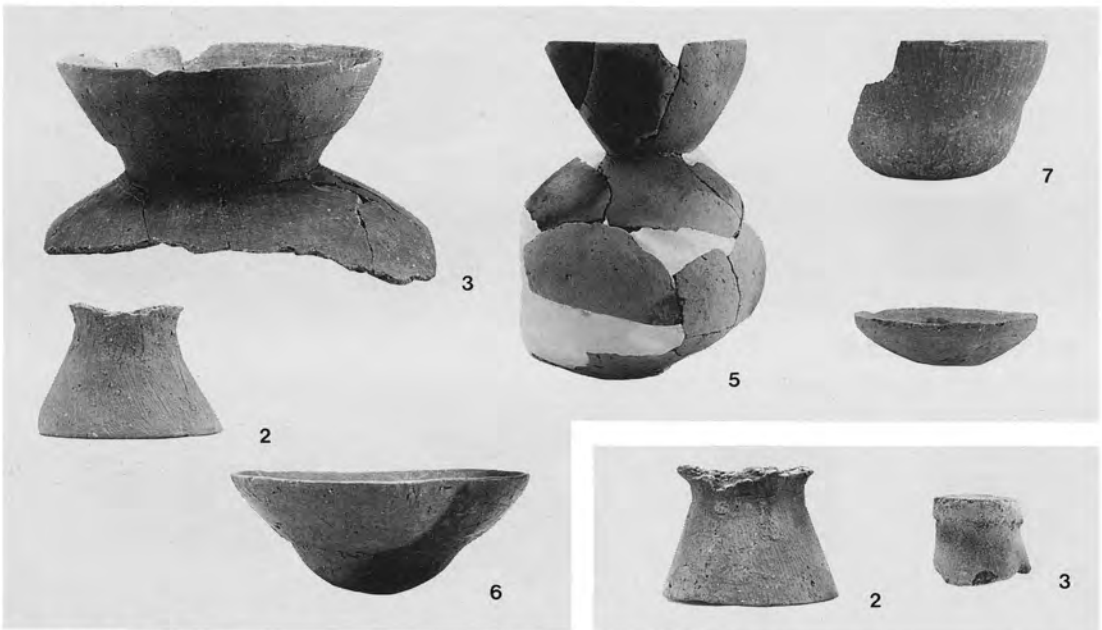


第７号住居跡出土土器　　S＝1/2

第９号住居跡出土土器（Ⅰ）　　S＝1/4



第９号住居跡出土土器(II)　　S＝1/4



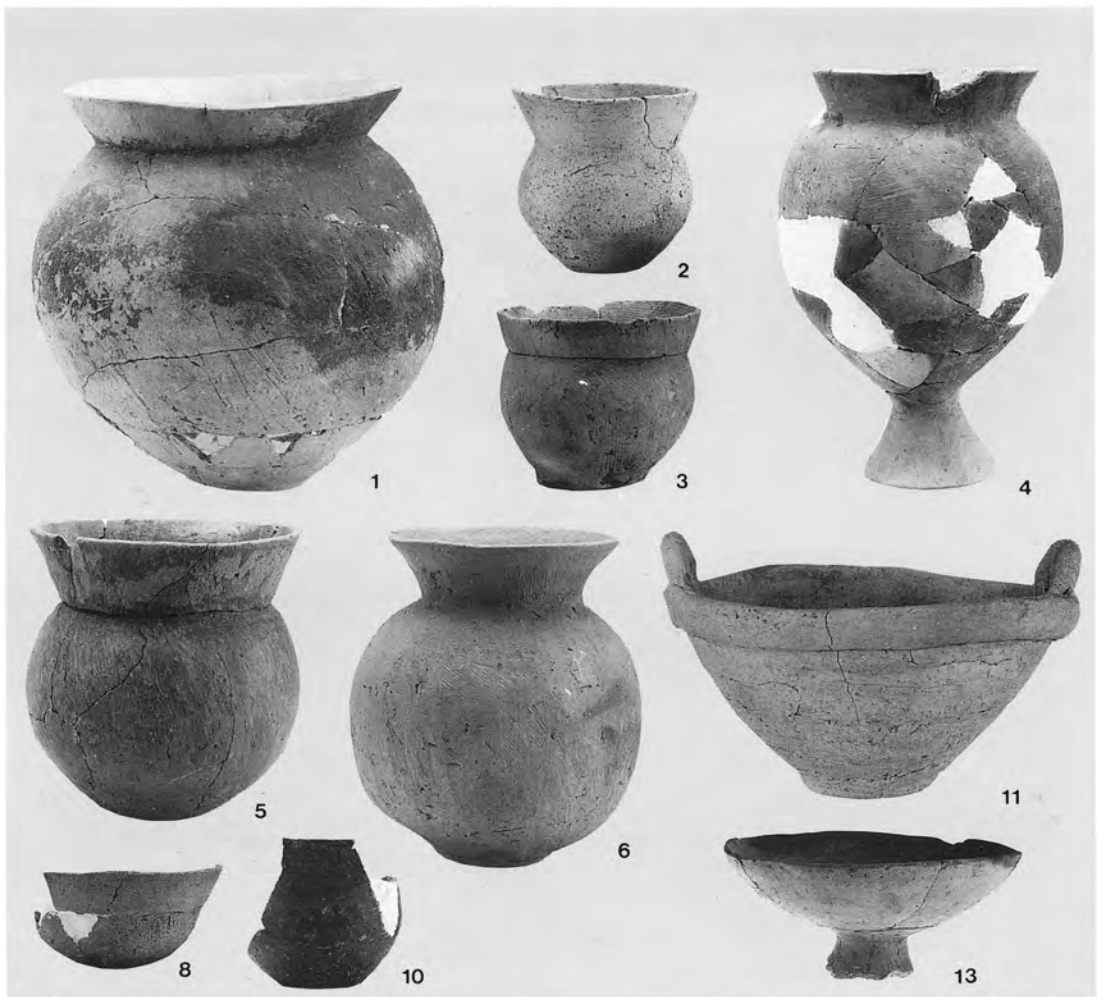
第11号住居跡出土土器　　S＝1/4

第12号住居跡出土土器　　S＝1/4

第13号住居跡出土土器　S=1/4

第14号住居跡出土土器　S=1/4

第18号住居跡出土土器　S=1/4, S=1/6 1, S=1/2 9



第16号住居跡出土土器

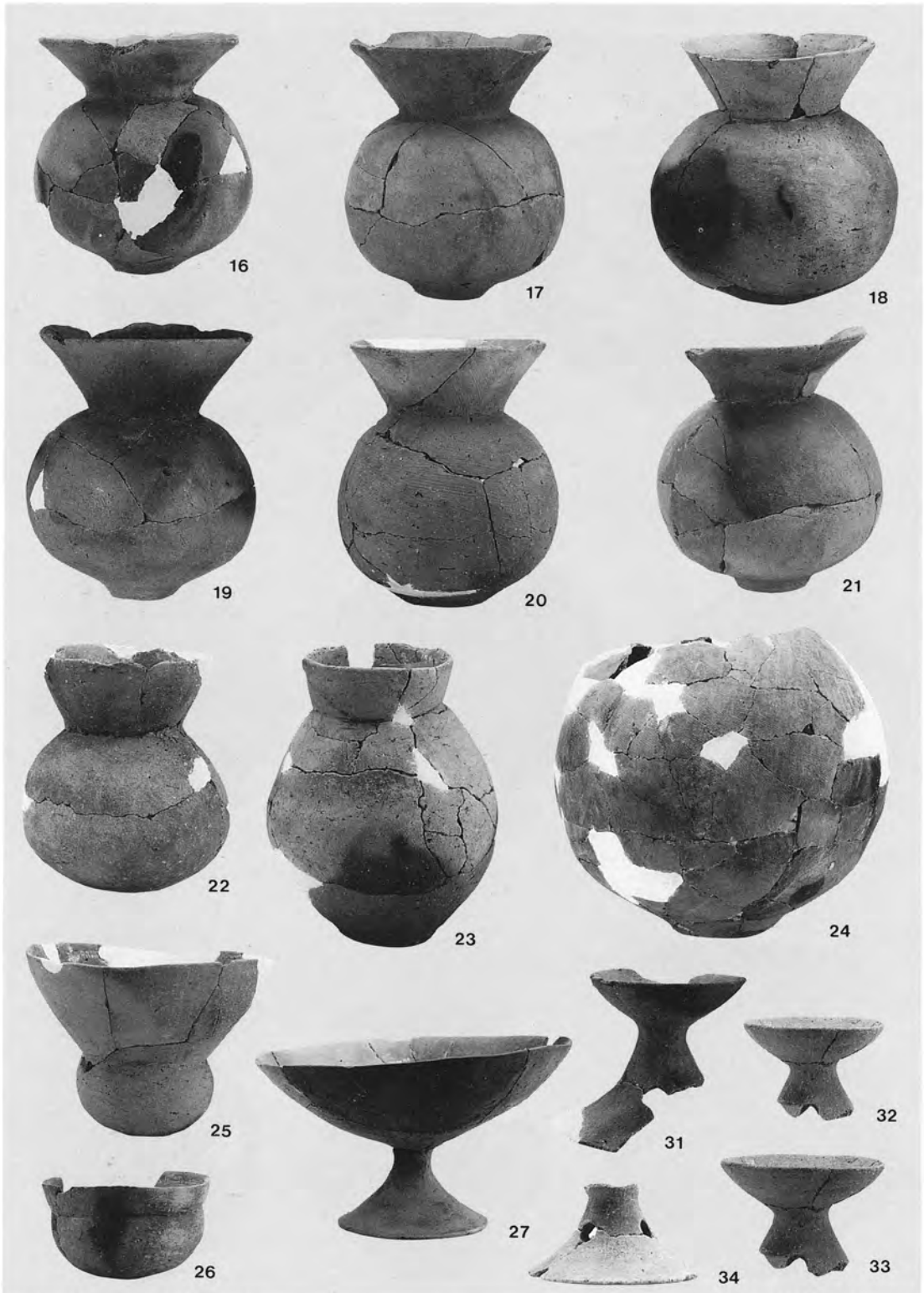
S=1/4, S=1/6 4

第17号住居跡出土土器

S=1/4, S=1/8 3, S=1/2 8

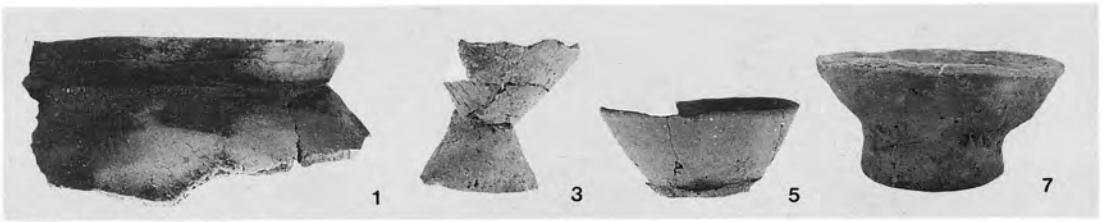
第39号住居跡出土土器（Ⅰ）　S＝1/4，S＝1/6 4

第39号住居跡出土土器(II)　　S=1/4, S=1/6 8



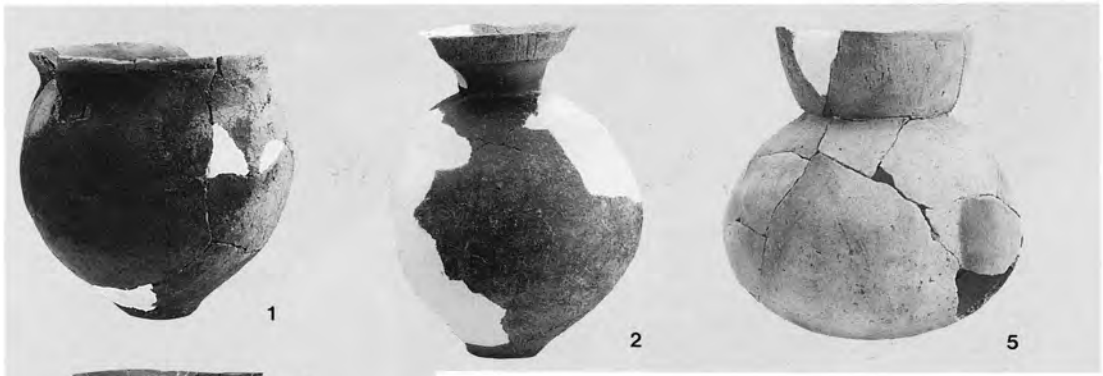
第39号住居跡出土土器(III)

S=1/4, S=1/6 24



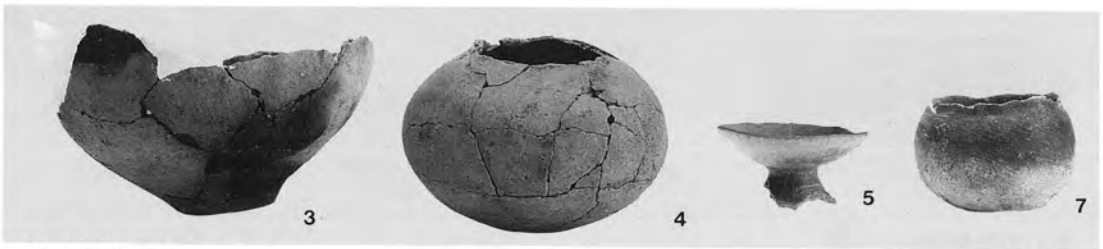
第37号住居跡出土土器　　S＝1/4, S＝1/2 7

第40号住居跡出土土器　　S＝1/4, S＝1/2 5･6



第41号住居跡出土土器
S＝1/4, S＝1/6 1, S＝1/8 2

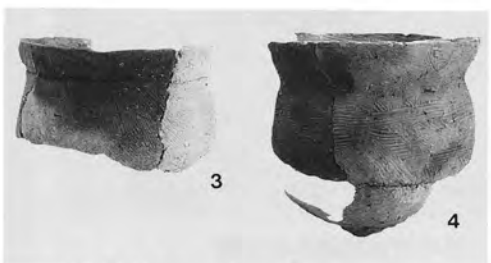
第42号住居跡出土土器(Ⅰ)　　S＝1/4



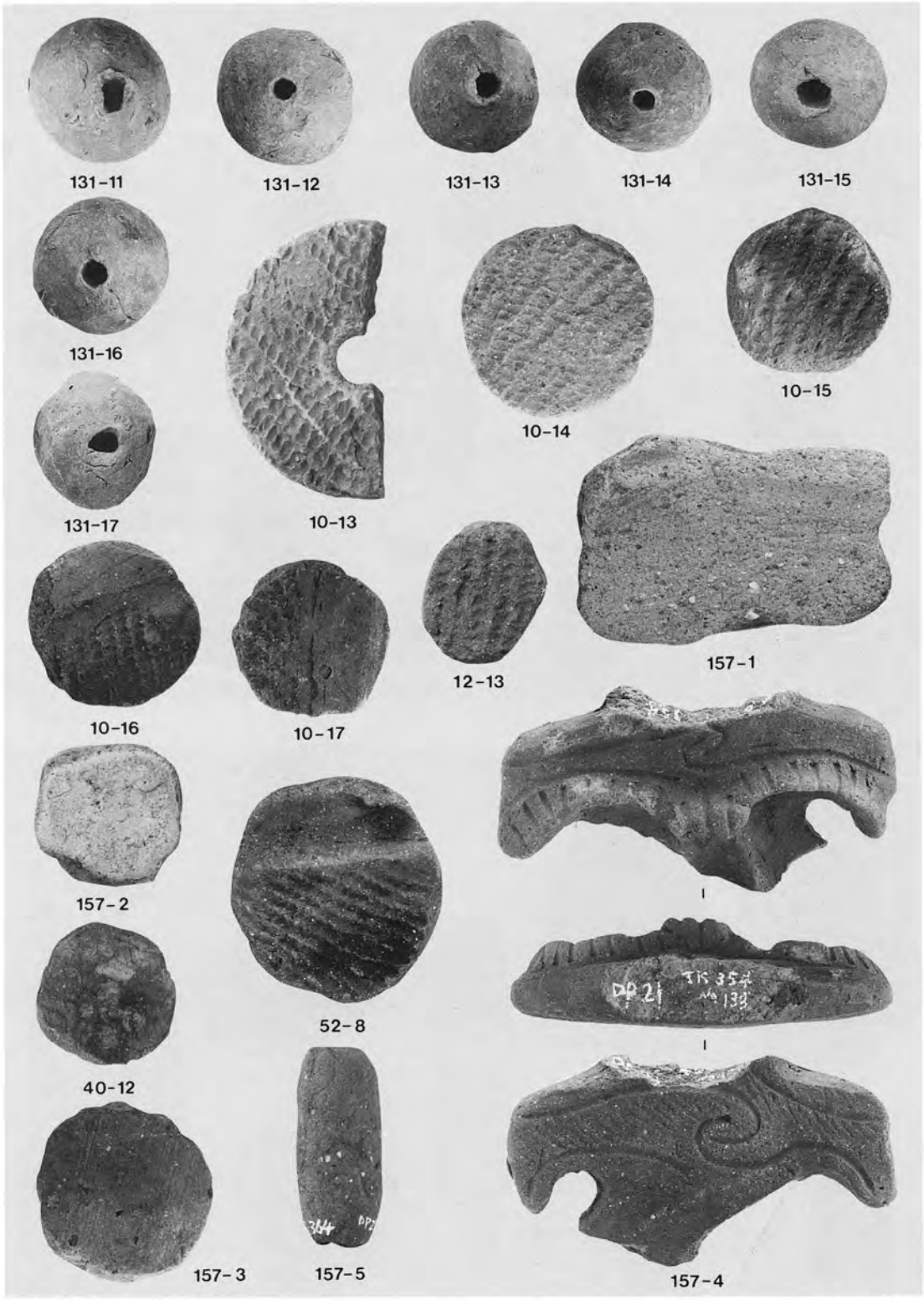
第42号住居跡出土土器(II)　　S=1/4

第43号住居跡出土土器　　S=1/4

第46号住居跡出土土器　　S=1/4, S=1/6 3



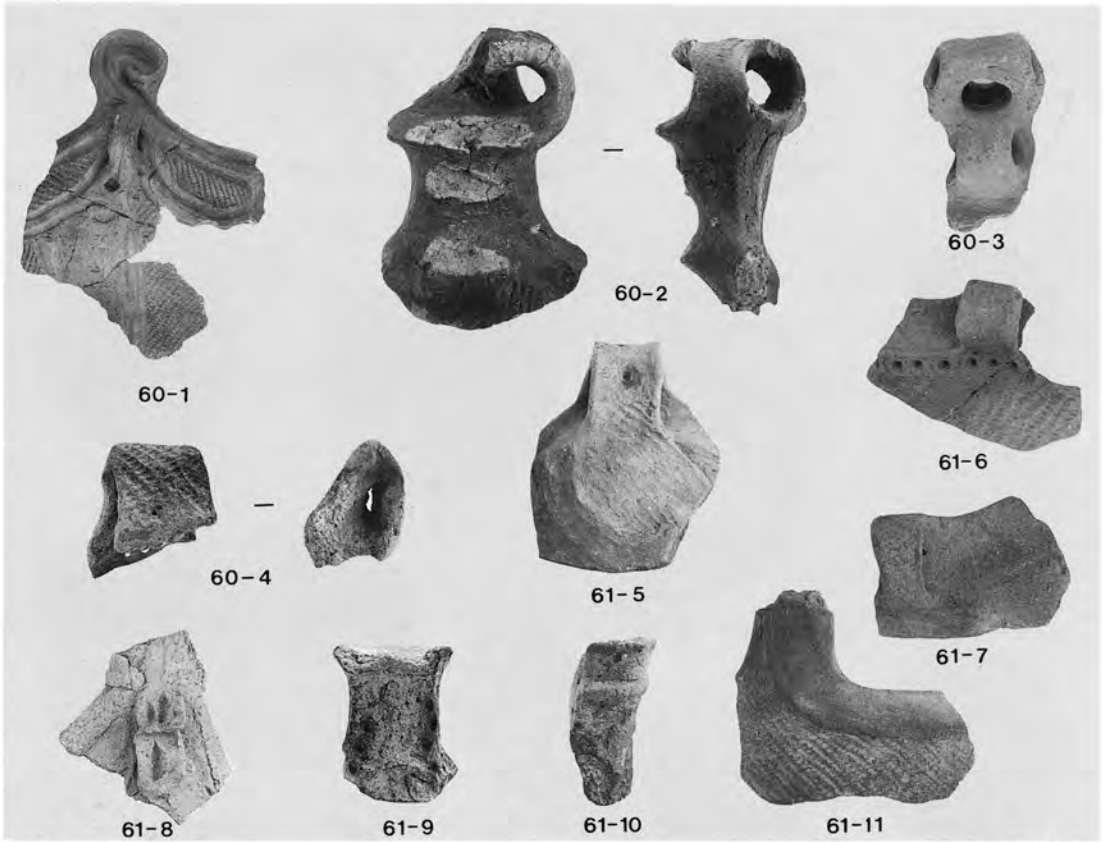
第97号土坑出土土器　　S=1/4


131-11
131-12
131-13
131-14
131-15
131-16
131-17
10-13
10-14
10-15
12-13
157-1
10-16
10-17
157-2
52-8
40-12
157-3
157-5
157-4

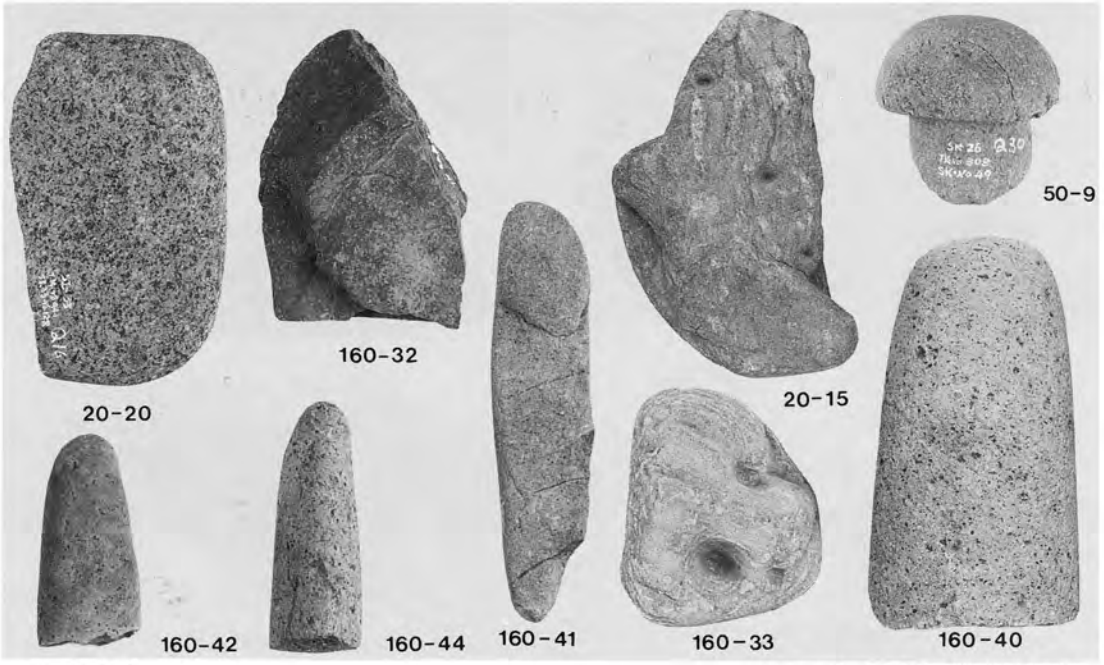
土製品

S=1/1.5

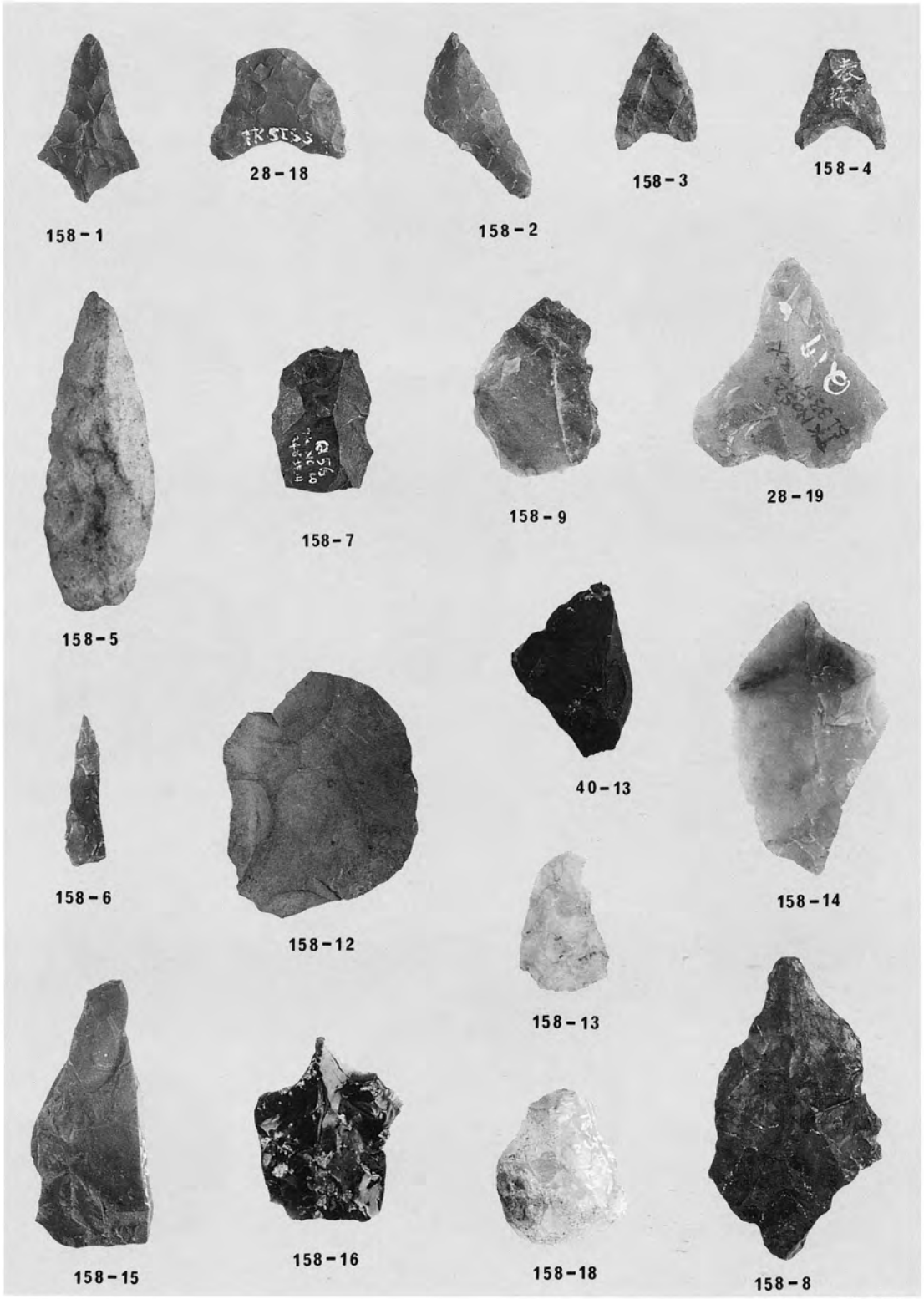
PL 38



把　手　　S=1/3

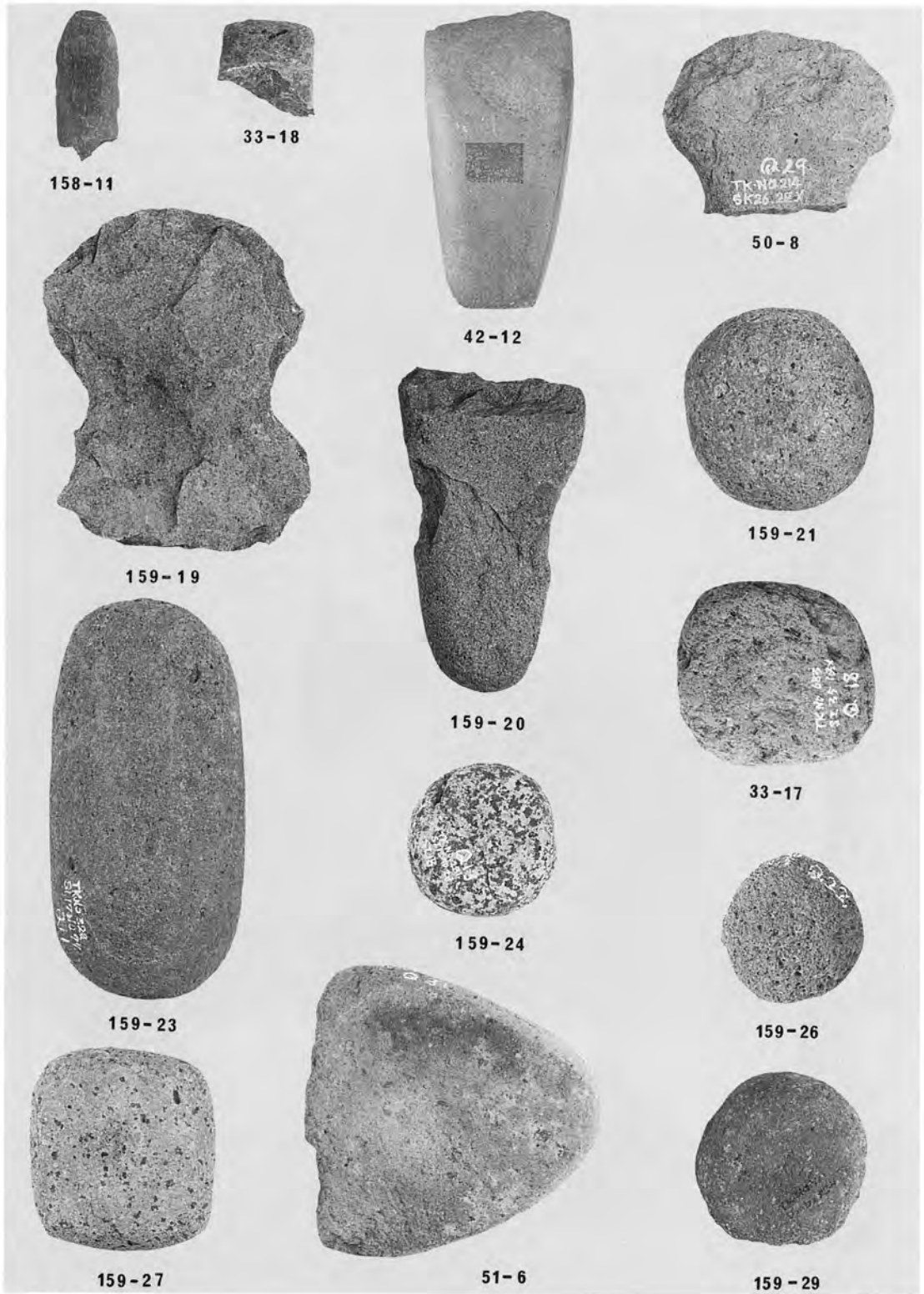


石 器(I)　　S=1/3, S=1/4　20-15・160-40


158-1
28-18
158-2
158-3
158-4
158-5
158-7
158-9
28-19
158-6
158-12
40-13
158-14
158-13
158-15
158-16
158-18
158-8

石 器(II)

S=1/1


158-11
33-18
42-12
50-8
159-19
159-21
159-20
33-17
159-24
159-23
159-26
159-27
51-6
159-29

石 器(III)

S=1/2

茨城県教育財団文化財調査報告第66号

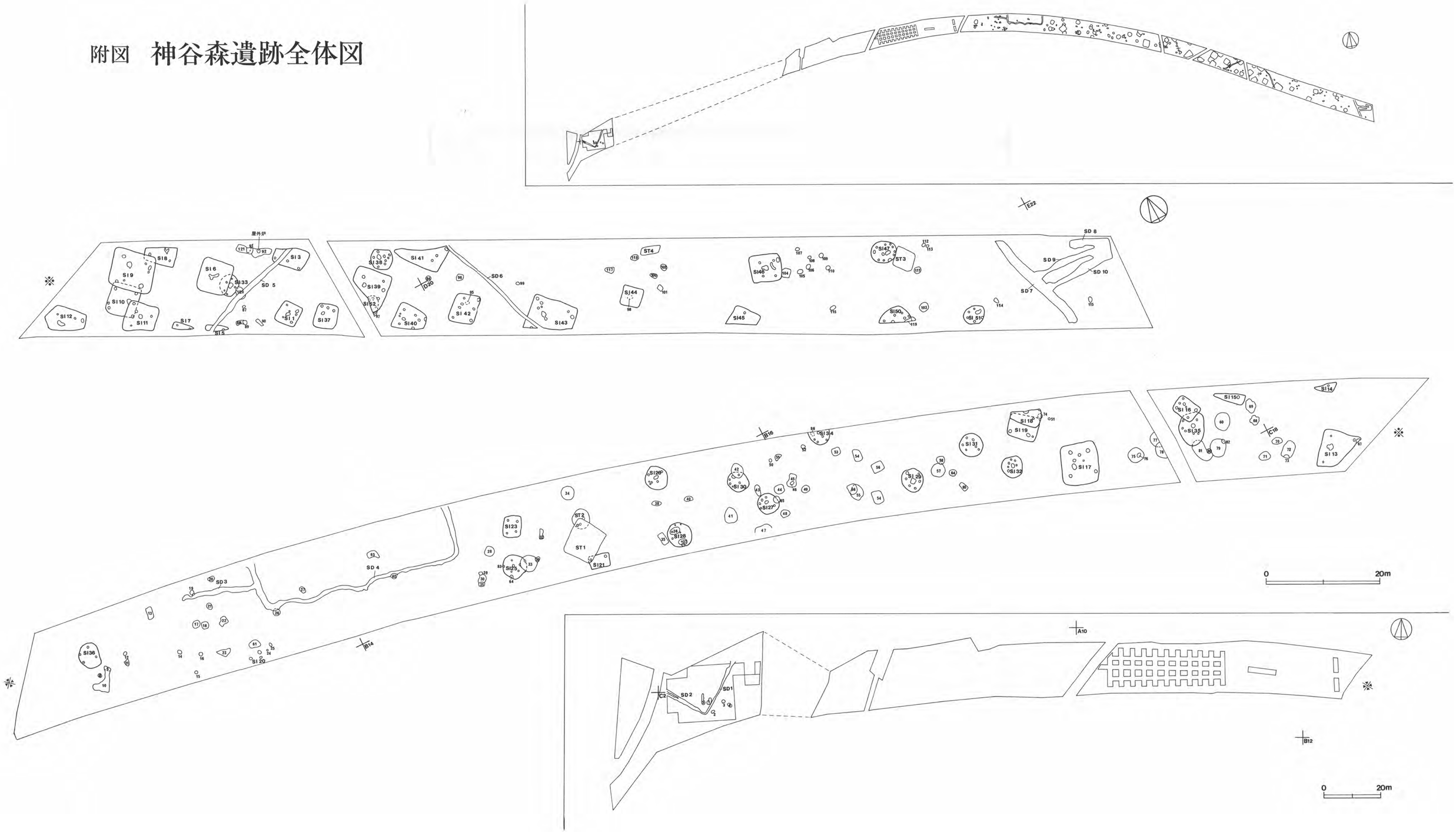
一般県道土浦岩井線道路改良工
事地内埋蔵文化財調査報告書

神谷森遺跡

平成3年3月25日印刷
平成3年3月31日発行

発行　財団法人　茨城県教育財団
水戸市南町3丁目4番57号
TEL. 0292—25—6587
印刷　冨士オフセット印刷㈱
水戸市根本町3丁目1534-2
TEL. 0292—31—4241

附図　神谷森遺跡全体図



屋外炉
SI 1
SI 3
SI 5
SI 6
SI 7
SI 8
SI 9
SI 10
SI 11
SI 12
SI 13
SI 14
SI 15
SI 16
SI 17
SI 18
SI 19
SI 20
SI 21
SI 23
SI 25
SI 26
SI 27
SI 28
SI 29
SI 30
SI 31
SI 32
SI 33
SI 34
SI 35
SI 36
SI 37
SI 38
SI 39
SI 40
SI 41
SI 42
SI 43
SI 44
SI 45
SI 46
SI 47
SI 50
SI 51
SI 52
SD 1
SD 2
SD 3
SD 4
SD 5
SD 6
SD 7
SD 8
SD 9
SD 10
ST 1
ST 2
ST 3
ST 4
D20
B14
B16
C18
E22
A10
B12
C2
0
20m